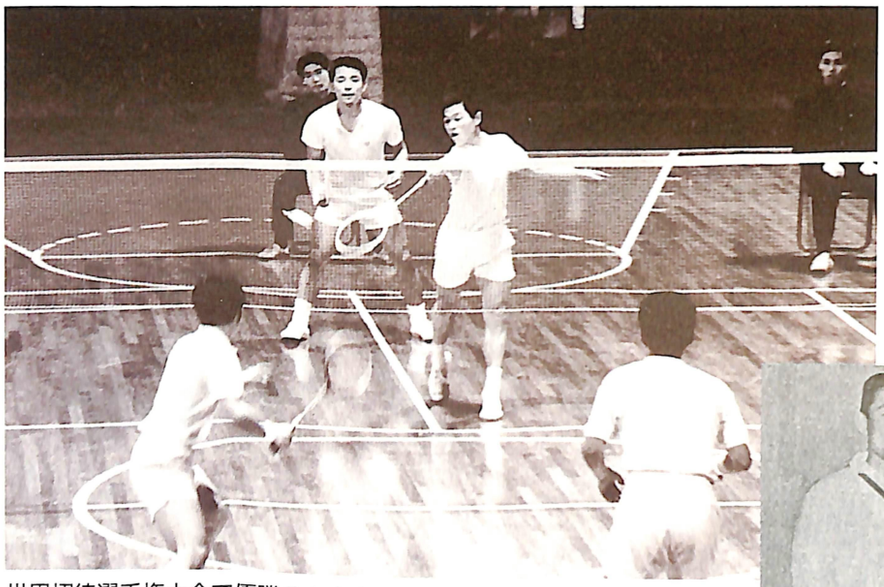
50年誌

愛知県バドミントン協会

50年誌



国際大会の活躍と開催の歴史



世界招待選手権大会で優勝の小宮（左）・坂垣組（昭和39年度）



小宮好雄（左）・坂垣善憲選手



第16回トマス杯・第13回ユーバー杯の開催
（平成2年度）



日中バドミントン交流の草分けとなった
第1回大会の開会式（昭和48年度）



県初の国際大会となった日韓親善名古屋大会（昭和38年度）



IBF国際審判員として活躍の
山田順一郎氏（平成4年度取得）

国内大会の活躍と開催の歴史





創立50周年事業として開催した平成9年度全日本総合選手権大会

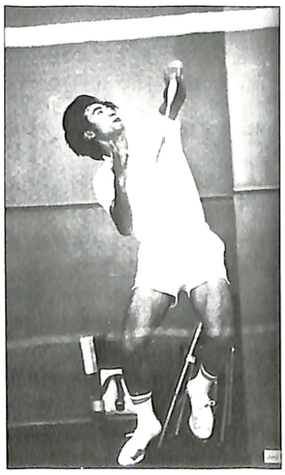
選手宣誓の滝田智選手



平成4年度全日本総合選手権大会混合複優勝・全日本混合選手権大会準優勝の古賀勝志・藤本暢子組



第13回全日本実業団選手権大会から7連覇達成のトヨタ自動車工業〈男子〉
（写真は第13回　昭和38年度）



第21回全日本実業団選手権大会（昭和46年度）からシングルス4連覇の本間順次選手



第1回全日本実業団選手権大会から3連覇達成のトヨタ自動車工業〈女子〉
（写真は、第3回昭和28年度）

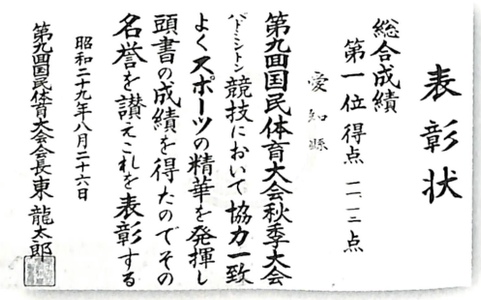
国民体育大会の活躍と開催の歴史



第49回わかしゃち国体を観戦される清子内親王殿下（平成６年度大府市）



第６回広島国体総合優勝の選手団
（昭和26年度）



表彰状

総合成績
第一位 得点 二二点
愛知県

第九回国民体育大会秋季大会
バドミントン競技において協力一致
よくスポーツの精華を発揮し
頭書の成績を得たのでその
名誉を讃えこれを表彰する

昭和二十九年八月二十六日
第九回国民体育大会会長東龍太郎

第９回北海道国体で２度目の総合優勝の
表彰状（昭和29年度）



国体正式種目に採択された第５回
愛知国体の大会プログラム
（昭和25年度）



第18回山口国体から５連覇達成の一般男子
（写真は第19回新潟国体出場メンバー　昭和39年度）

普及と広報活動の歴史



華やかに開催された第12回全国家庭婦人競技大会（平成６年度）



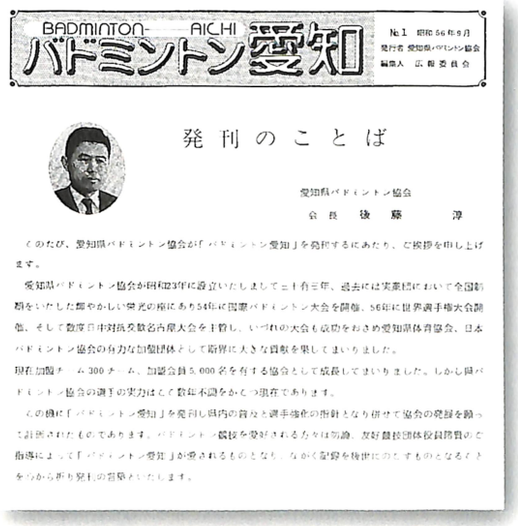
県協会初めての広報誌
「はきゅう」（昭和24年度）



全国中学校大会開催記念の第１回愛知ジュニア大会
大府オープン（平成９年度）



インターネットで発信したバドミントン愛知ホームページ
（平成９年度より）



昭和56年９月創刊。現在9,000部発行の
広報誌「バドミントン愛知」

目　次

口　絵

目　次 ——6

あいさつ　愛知県バドミントン協会会長　後藤　淳 ——8
祝　辞　財団法人日本バドミントン協会会長　桜内　義雄 ——9
財団法人愛知県体育協会会長・愛知県知事　鈴木　礼治 ——10
愛知県教育長　伊藤　廉 ——11

あいさつ　愛知県実業団バドミントン連盟会長　速水　正昭 ——12
愛知県社会人バドミントン連盟会長　青山　敏郎 ——12
愛知県教職員バドミントン連盟会長　田中　章喜 ——13
愛知県家庭婦人バドミントン連盟会長　細野　節子 ——13
愛知学生バドミントン連盟会長　野口　勇 ——14
愛知県高等学校体育連盟バドミントン部会長　村上　脩一 ——14
愛知県中小学校体育連盟バドミントン部部長　後藤　勉 ——15
愛知県小学生バドミントン連盟理事長　鈴木　正一 ——15

協会史　創立まで～平成10年度 ——17

専門委員会史　総務、競技関係活動の経過 ——81
広報活動の経過 ——84
審判員養成活動の経過 ——94
普及・指導活動の経過 ——97
選手強化活動の経過 ——103

加盟団体史　愛知県実業団バドミントン連盟 ——109
愛知県社会人バドミントン連盟 ——114
愛知県教職員バドミントン連盟 ——119
愛知県家庭婦人バドミントン連盟 ——122
愛知学生バドミントン連盟 ——129
愛知県高等学校体育連盟バドミントン部 ——131
愛知県中小学校体育連盟バドミントン部 ——135
愛知県小学生バドミントン連盟 ——139

思い出集　寄稿者一覧表・34名 ——143

資　料　編

歴代役員

愛知県バドミントン協会 ——195
愛知県実業団バドミントン連盟 ——199
愛知県社会人バドミントン連盟 ——201
愛知県教職員バドミントン連盟 ——203
愛知県家庭婦人バドミントン連盟 ——204
愛知学生バドミントン連盟 ——206
愛知県高等学校体育連盟バドミントン部 ——206
愛知県中小学校体育連盟バドミントン部 ——207
愛知県小学生バドミントン連盟 ——207

総務関係

表彰者名簿 ——208
登録人員の推移 ——209
協会登録料改訂経過 ——210
専門委員会設立経過 ——210

大会の経過

東海地区以上の大会開催の経過 ——211
県大会開催の経過 ——212
県大会参加人員推移 ——213
参加料改訂経過 ——213

大会成績

国際大会出場者 ——214
全国大会３位以上入賞者 ——214
国民体育大会４位以上入賞種別 ——217
西日本、中部日本大会３位以上入賞者 ——218
東海地区大会優勝者 ——224
国民体育大会東海地区予選会順位 ——234
協会主催大会優勝者 ——235

規定集 ——271

50年誌賛助会員芳名録 ——281

あとがき ——284

あいさつ



愛知県バドミントン協会
会長　後藤　淳

愛知県バドミントン協会は、戦後まもない昭和23年に名古屋市で先駆的な有志により設立されて以来、バドミントンを何よりも愛する人々の献身的な努力と情熱により、県下全般に浸透し、現在の隆盛を見るにいたりました。今日、バドミントンは子供から大人まで大衆スポーツとして、また競技スポーツとして多くの人々に愛され、発展を続けております。この礎を築いてこられた諸先輩の業績に対しまして、深く敬意を表するとともにご指導、ご協力をいただいた（財）日本バドミントン協会、愛知県教育委員会、（財）愛知県体育協会をはじめとする多くの関係者の方々に厚く感謝申し上げる次第であります。

現在、当協会は８加盟団体と市町村のバドミントン連盟などの協力を得て、会員数８千名を超える全国でも屈指の協会組織に成長し、国際試合や全国大会も数多く主管開催するようになりました。そして、平成６年には「わかしゃち国体」を開催するに至りました。

「バドミントン王国、愛知」と言われて久しい今、国体開催を機に新風を起こすべく努力をしておりますが、県民のバドミントンに寄せる期待も大きく、その使命を十分に自覚し身の引き締まる思いをいたしております。

創立50周年を迎えるにあたり、協会関係者一同、心を新たにして競技力の向上と、指導、普及に努め、そして日本バドミントン界の発展に邁進していく所存であります。

何卒、各位の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

祝　辞



(財)日本バドミントン協会
会長　桜内 義雄

愛知県バドミントン協会が、創立50周年を迎え、数々の記念行事とその一環として50年誌の刊行をみるに至りましたことを、ここに心からお慶び申しあげます。

愛知県バドミントン協会におかれては、未だ戦後の混迷期にあった昭和23年に創立され、以来、役員各位と会員が一体となって幾多の困難と障害を克服し、今日の確固たる基盤を築かれて、今や会員数が８千名をこえ、全国的にも有数の協会に成長されましたことは、まことに喜ばしい限りであります。

創立から今日まで営々として、バドミントンの普及発展に情熱を傾け、限りない尽力をされました役員各位に深く敬意を表するものであります。

愛知県においては、国際大会の開催について多大なるご尽力を頂き、特に第１回日中対抗戦は故後藤鉀二前会長のご熱意で開催に至り、以降も第９回ユーバー杯の開催等数多く開催されました。また、主要な国内大会も数多く開催され、近くは昨年の全日本総合選手権大会においてもお世話いただき厚くお礼申し上げます。

申すまでもなく、(財)日本バドミントン協会の発展は、都道府県バドミントン協会の充実がその礎となっており、その意味からも、愛知県バドミントン協会の今日までの輝かしい50年の歴史は、まことに意義深く、(財)日本バドミントン協会としても感謝にたえません。

この50周年を一つの節目として、今後さらに底辺の拡大、組織の充実などに努められ、学校スポーツから一般スポーツに至るまで、バドミントンが幅広く愛知の地に強固な根を張り、愛知県バドミントン協会が日本のバドミントン界のリーダー的存在として、益々発展されますことを衷心より祈念してお祝の言葉といたします。

祝　辞



㈶愛知県体育協会会長
愛知県知事
鈴木 礼治

昭和23年に愛知県バドミントン協会が創立され、ここに50年という節目を迎えられましたことは誠に意義深いことであると同時に心よりお喜び申し上げます。

貴協会は創立の翌年、昭和24年に当協会に加盟され、以来本県のスポーツの振興と競技力の向上に一方ならぬご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。またその間、多数の日本を代表する選手を育成され、「スポーツ愛知」の名を世に知らしめるために果たした役割は多大なものがあります。

さらに平成６年に開催されました「わかしゃち国体」では優勝こそ惜しくも逸されましたが強化、運営面における愛知県バドミントン協会の団結力と組織力に深く感銘いたしております。

バドミントンは、老若男女が気軽に楽しめることから幅広く県民から愛好されているスポーツである反面、競技スポーツとしては見かけ以上の高度な技術とスタミナを必要とする一面を兼ね備えているスポーツであります。このことからバドミントンというスポーツは県民総スポーツの意識を推進していく上で最もふさわしいスポーツ種目であると確信いたしております。

どうか、「わかしゃち国体」で県民に示していただきました団結力と組織力を遺憾なく発揮されバドミントン界の発展と本県のスポーツの振興にご尽力賜わりますようお願い申し上げます。

おわりに愛知県バドミントン協会の益々の発展を祈念いたしまして祝辞といたします。

祝　辞



愛知県教育長
伊藤　廉

愛知県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことに対しまずもって心からお喜び申し上げます。

創立50年といえば、まさに戦後の動乱期の真っ只中であり、そのような背景の中で、日本に伝わって間もないバドミントン競技の普及には、他の在来のスポーツとくらべて関係者の皆様の並々ならぬまさに言葉では言い尽せないご苦労があったものと推察されます。

しかし、創立当時から今日に至るまで、優れた見識と情熱を持った多くの役員の方々によって今日の愛知県バドミントン協会をきずきあげられましたことは、関係各位のご努力の賜物だと思い深甚の念を表すものであります。

高齢社会到来の中、健全な肉体と精神を養う一つの手段として、スポーツの振興が大いに叫ばれている時、バドミントン競技は誰でも気軽にそしてどんなところでも楽しめるスポーツとして、また、ユーバー杯等にも見られるように競技性の高いスポーツとして、近年注目を浴びるようになってきました。

今後もバドミントン競技を通して、県民の皆様にスポーツの機会を提供していただき健康で明るい地域社会づくりに尽力賜りますようお願い申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

■あいさつ



愛知県実業団
バドミントン連盟
会長　**速水 正昭**

愛知県バドミントン協会が設立され、ここに創立50周年を迎えられましたことは、誠に意義深い事であり、心からお祝い申し上げます。と同時に今日までの数々の実績、そして協会関係者の皆様のご労苦とご努力、まだ日ごろの弛まざる活動に対して深甚な敬意を表します。

思えば貴協会発足当時は社会情勢は混沌とし、食料もままならない時代でありました。しかし、人々は生きる希望を失うことなく、より健康でありたいとスポーツ・レクレーション活動に参加することを強く求めておりました。

青空に向かって羽を打ち合うバドミントンもそのような時の要請に適合するかのように一大ブームを巻き起こしました。市民は気軽に参加出来る大会や行事の開催を求めておりました。このような背景の下、市民の要望に応えるべくいち早く貴協会は設立され、以来今日に至るまでさまざまな活動を続けて来られたのでありまして、その輝かしい歴史に改めて敬意、感謝と祝意を申し述べる次第であります。

当実業団連盟も貴協会傘下の一員として発足以来凡そ40年、その一翼を担い、発展と競技力向上等に及ばずながら努力を傾注してまいりました。今後もバドミントン愛知の牽引車として、困難な時代ではありますが諸先輩に劣らぬよう更に努力を重ねて行く所存であります。

貴協会の更なるご発展を衷心より祈念申し上げ、記念誌発行のお祝いとさせていただきます。



愛知県社会人
バドミントン連盟
会長　**青山 敏郎**

創立50周年に際し一言お祝い申し上げます。

半世紀の間新興スポーツであらためて苦悩の多い経過であったと思われます。

昭和25年に愛知国体が開催され、平成６年に二巡目の愛知国体があり、一巡目当時とは規模も格段の差がありました。それは月日の流れと人的還流の結果として発展を意味していると思います。つまり一巡目と、二巡目との合間が愛知県協会の歴史でもあります。一ケ35円の陸鳥球から始まり、指導者もなく見ておぼえる時代でもありました。時の流れは技術はもとより、内容も大きく変わり現在では日本協会における登録人員最多の団体となり、経済的には日本協会を支える柱の一本となりました。それも加盟団体の社会人連盟を含む８団体を擁する多大なる愛好者が集うスポーツ団体であるからです。数多い会員を有するがために運営には思慮と分別を含む長期展望が無ければなりません。幸い県協会には上原理事長を筆頭に多くの有能なる人材が昼夜を問わず各々部署を尽して頂いて居る結果と拝察する今日であります。

今後増々、発展増大されるには先人の業績をふまえて、大同団結の心で役員の皆様が努力され、又総意のもとで運営され、これを期に脱皮し一段と成長されますことを心より祈念致しお祝いの言葉とさせていただきます。

あいさつ

愛知県教職員
バドミントン連盟
会長　田中 章喜



この度、愛知県バドミントン協会が創立50周年という大きな節目を迎えられますことは、誠に意義深く心よりお祝い申し上げます。

愛知県教職員バドミントン連盟は、昭和54年12月に設立されましたが、設立当時から県内の他組織の中で最も規模の小さい組織でありました。そのような我々に対して県協会からの惜しみない御支援と御指導は大いに励みとなりました。お蔭様で現在では登録人員77名、役員21名を擁し、県内の教職員を取りまとめ、把握できる組織に成長いたしました。

今後も県内の教職員のバドミントン愛好者の拡大と競技力の向上に努力をし続けて行く所存であります。何卒よろしく御指導をお願いいたします。

おわりに愛知県バドミントン協会の益々の御発展と御活躍を祈念し、併せて当連盟に対する変わらぬ御力添えをお願い申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

愛知県家庭婦人
バドミントン連盟
会長　細野 節子



愛知県バドミントン協会創立50周年おめでとうございます。ちょうどこの時期に私は協会の役員をしておりまして、記念誌の発行を機に過去を振り返ってみることになりました。

創立当時から役員の方々には、バドミントンをプレーする一方、献身的に普及に努めてこられ、今の協会の礎を築かれたことに深く敬意を表し、今後益々の発展を願っております。

昭和54年、バドミントン愛好者が増え県協会の組織の見直しがされ、他連盟とともに家庭婦人連盟も発足し協会の傘下となりました。さて、助言をいただきながら自主運営を始めたものの、ただ選手として大会に出場していた頃には気が付かなかったことも多く、今までご苦労をおかけしていたことを痛感いたしました。

発足後も家庭婦人がスポーツに親しむことは好ましいという時代となり、お蔭様で順調に発展を続けておりますが、現在の当連盟は登録人員1800名、「団体戦」は284チーム参加、その他にも個人戦、地域別大会、愛知オープン大会、東海大会（持ち回り）といろいろな種類の大会が企画され、会員の方々に喜んでいただいております。とくに平成6年には第12回全日本家庭婦人競技大会を愛知県で開催し、「都道府県対抗の部」では準優勝に輝き、地元開催も大いに盛り上がりました。また、国体や県協会が愛知で開催する全国級の大会にも、家庭婦人から役員、審判等に多数の人材を派遣し協会の発展に寄与しております。

スコートも若々しくラケットを持って跳ね回る家庭婦人の姿を50年前に想像できたでしょうか。ママさんに乾杯。

■あいさつ



愛知学生
バドミントン連盟
会長　**野口　勇**

愛知学生バドミントン連盟は、愛知県バドミントン協会の下部組織として、昭和27年に諸先輩のご努力で逸速く設立されて以来、歳月の経つのは早いもので今年で46年になります。設立以来、平成10年現在の愛知学生バドミントン連盟への加盟大学数は、31大学（男子25大学、女子24大学）と着実に増加・発展してまいりました。愛知学生連盟が構成する各連盟の役員は、加盟31大学より毎年、愛知学生、中部学生、東海学生の２連盟１支部の各委員長、副委員長、常任委員を選出し、各県の学生連盟と連携し、東海学生選手権、中部学生選手権さらに全日本学生選手権、西日本学生選手権、全日本東西対抗競技の各大会を開催しています。只、残念なことは連盟・支部の委員長以下の役員任期が一年であることから、役員が毎年交代する変動の激しい連盟であります。しかし、役員の諸君は短い一年の任期を精一杯頑張り、学生連盟の伝統と運営をみんなで支えて今日に至っています。また、愛知県バドミントン協会主催の各種大会並びに競技運営にも積極的に参加し、未熟ながら若い力を随所で発揮し、協力してまいりました。今後も、愛知学生バドミントン連盟は、体位・体力・競技力の向上をめざし、期待される学生連盟として活躍する所存であります。

おわりに、愛知県バドミントン協会の益々のご発展と共に愛知学生バドミントン連盟により一層のご支援をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。



愛知県高等学校体育連盟
バドミントン部
会長　**村上 脩一**

このたび、愛知県バドミントン協会が創立50周年を迎えられ、記念事業の一環として記念誌を発刊されますことに、心よりお祝いを申し上げます。

貴協会は、昭和23年、戦後の混乱の中、近代スポーツのバドミントンを普及させたいとの思いから創立を決意され、本県の体育・スポーツの振興、また実践を通じて、県下の高校生の健全育成に多大な貢献をされました。そのご努力に深く敬意を覚える次第です。

また、国体での優勝をはじめ、これまで幾多の名選手、名指導者を輩出され、トマス杯・ユーバー杯の世界大会、数々の全国大会等の大きな事業の運営にも成功をおさめられ、輝かしい伝統・歴史と全国の先駆的立場を確立されました。

この記念すべき創立50周年を契機に、さらにスポーツを通じて、自立と共生のできる若者が育っていくと確信します。

おわりに「創立50周年記念誌」の編纂にご尽力されました関係各位のご苦労に心よりお礼を申し上げ、愛知県バドミントン協会の一層のご発展を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

■あいさつ

愛知県中小学校体育連盟
バドミントン部
部長　後藤　勉



愛知県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

昭和62年に第17回全国中学校選抜バドミントン大会が春日井市で、さらに平成８年には第26回全国中学校バドミントン大会が大府市で開催されました。これら全国大会は、バドミントン競技の発展とスポーツ活動の振興を狙いとすると同時に、教育活動の一環としても行われたものでありました。そして、出場選手と共に選手以外の多くの中学生の支援と奉仕活動によって成功した大会でもありました。

この成果は、今日も伝統としてしっかり受け継がれ、毎年行われる県内大会でもすばらしい盛り上がりを見せており、それら大会の中から多くの選手が育ち、すぐれた指導者を輩出してきました。また、会場では学校間の交流をはじめ、練習試合等による地域の枠を越えたあたたかいつながりや指導者同士の熱意あふれる情報交換等が行われ、バドミントン部の広がりのあるすばらしい活動を知ることができました。更に、選手の活動の会場を見守り応援している保護者や地域の方々の姿には本当に感動しました。

このように当連盟の活動は、各地区の指導者を始め県協会役員の方々、地域の方々、競技を志す中学生の活躍により支えられております。

今後は、この県協会50周年を契機に当連盟への更なるご支援をお願いするとともに、学校教育を通して体力向上・スポーツ技術の発展をはかるとともに、児童・生徒の健康で心豊かな人間形成を目指し邁進する覚悟でございます。

おわりに県協会の益々の御発展と御活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

愛知県小学生
バドミントン連盟
理事長　鈴木 正一



愛知県バドミントン協会が創立50周年を迎えられ、この機会に協会50周年誌を発刊されますことは、誠に意義深く心よりお祝い申し上げます。

終戦間もない混乱の中で、しかも物資不足で満足な施設も道具もなく、十分な食料のない時代に、我国では歴史の浅い競技の協会設立には並々ならぬご苦労があったであろうと思うと、その熱意とご努力に心から敬服するのみであります。

創立50年の現在は、先人のたゆまぬ努力と勤勉さによって、科学技術は進歩し当時では考えもおよばなかっためざましい経済発展を成し遂げました。しかし、物質的には豊かになった反面精神的な荒廃や社会・家庭の教育力の低下を招き、その歪みが児童生徒に大きな影響を与え、非行の増加と低年令化などに至り現代社会は大きな不安とジレンマに陥って病んでいます。

このような時代の中で愛知県小学生バドミントン連盟は２年前に発足しました。時代と社会的背景は違っていますが現在の小学生連盟が50年前の協会が置かれた立場に似ているように思えます。

「温故知新」古い言葉かも知れませんが、終戦間もない暗い時代に新しい時代のスポーツ「バドミントン競技」によって、将来に向かって突き進む人々に勇気と希望を与えようと努力し、また、今日の協会に成らしめた先人の諸業を学ぶべく協会50年誌をひもとき、小学生連盟の道標として目的達成に努めたいと思っております。

愛知県バドミントン協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

協会史

創立まで

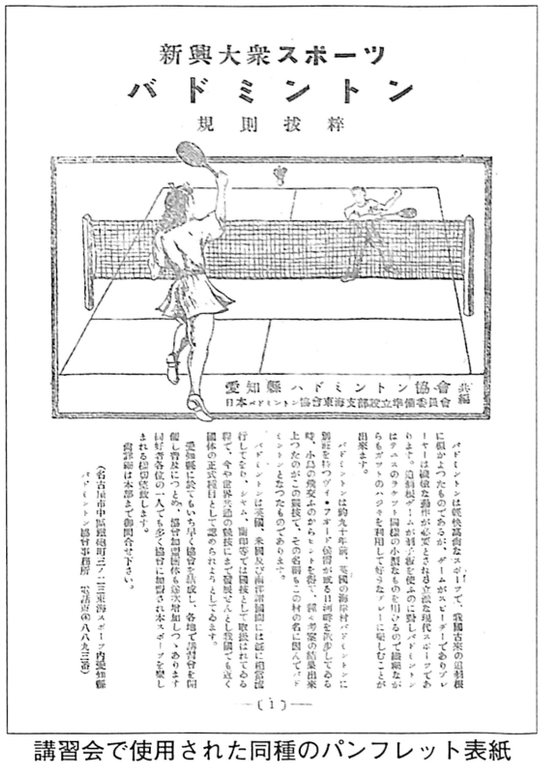
・愛知のバドミントンの芽生え

東海スポーツ用品（株）取締役社長瀬尾実氏は終戦後の青年層の指導に心を砕き、また、仕事の上からも、ぜひ近代スポーツのバドミントンを普及させたいと22年８月に上京し、設立１年目を迎えようとしていた日本協会に講師の派遣を依頼した。これを受けた日本協会は９月21日選手数名と来名し、中区新栄町の市立第一高等女学校（現中央高校）において愛知県で初めての実技講習会を開いた。この講習会には水谷国広氏を始め、長谷川参三氏ら社会人数名と中川中学校（現松蔭高校）の生徒14、５名が参加した。10月５日に碧海郡刈谷町（現刈谷市）の亀城小学校で愛知県・愛知県体育協会指定碧海郡刈谷町レクリエーション大会の一環として模範演技が披露され、翌６日には丹羽郡犬山町（現犬山市）の大日本紡績の体育館で実技講習会が開催された。その後２週間ほど県内各地で模範演技や講習会が開催されたようである。



協会設立に尽力した人たち

この講習会で使用されたパンフレットは愛知県体育協会、日本バドミントン協会東海支部設立準備委員会共編の「新興大衆スポーツバドミントン規則抜粋」と銘うたれたものであった。この表紙にはバドミントンの楽しみ方と歴史を簡単に紹介し、「愛知県においては本競技をレクリエーション運動の種目として一般の人を対象に普及奨励を図るとともに社会体育及び学徒の課外運動として奨励し健全な発展を切望します」と結んである。残りの３ページには規則の抜粋が掲載されている。



講習会で使用された同種のパンフレット表紙

・水谷国広氏の普及活動

東南アジアから帰国した水谷国広氏が、当時中村小学校の教員であった長谷川参三氏を訪ねて小学校の講堂の使用を依頼し、先生方と週２・３回の練習を始めた。そこへ街の人や中川中学校の生徒が加わってきたのが愛知のバドミントンの始まりとなったと、日本スポーツ新聞社発行のバドミントン・マンスリー11号（37年４月発行）に対談のかたちで掲載されている。

水谷氏は映画配給会社にいた関係でセレベス島やバリ島へ派遣されたが、そこは大変バドミントンが盛んで、教えてもらいながら毎日のように楽しんだということである。

・トヨタ自動車工業の創部

22年の秋に社内バドミントン大会が開催されたが、この大会をきっかけとして23年酒巻和男氏、保田久子氏が中心になって創部された。

当時は本社の組立工場の片隅で完成車を手で押してコートのスペースを確保し、ネットを張って練習に励んだ。

■昭和22年度

・協会の設立

22年の秋に東海スポーツ用品（株）瀬尾社長の努力により、県内各地で講習会が開催されてきた。そして、23年２月11日に名古屋市鉄砲町（現中区栄二丁目）にあった東海スポーツ用品（株）の２階で「愛知県バドミントン協会設立総会」が開催され、規約、役員が承認されて、ここに協会が発足した。

規約は22条からなり、縦書きガリ版印刷されている。条文の一部を抜粋すると、

一条　本会は日本バドミントン協会愛知県支部にして愛知県バドミントン協会と称する

三条　本会は県内バドミントン団体の中軸となって健全な普及発展を計る

六条　本会は第三条の目的を達成するために左の事業を行なう

１．競技の指導

２．県選手権大会等の他各種競技大会の開催

３．その他普及に関する一切の事業

となっており、その他は現在の規約とほぼ同様である。ガリ版刷りのたった一枚の紙片だが、戦後の混乱期の中で協会結成に向けるひたむきさが感じとれる一枚である。

設立に参画したのは、次の10団体である。

中村クラブ、中川中学校、名古屋経済専門学校（現名古屋大学）、名古屋外語専門学校（現南山大学）、日本陶器、刈谷豊田工場、丸和クラブ、東海スポーツ、大同毛織、岡谷鋼機

役員は次のとおりであった。

会　長　青井節郎（国立療養所梅森所長）

副会長　清水謙一（豊田刈谷南工場人事部長）

理事長　水谷国広（繊維加工業）

常務理事　八木菊郎（名古屋経済専門学校教授）

理　事　長谷川参三（名古屋市中村小学校教官）

中村芳博（名古屋経済専門学校学生）

神谷歌二（名古屋タイムズ社社会部長）

下谷秀雄（中日新聞社体育記者）

立松　進（中川中学生徒）

幹　事

山内三秋（名古屋市中村小学校教官）

中野年弘（中川中学生徒）

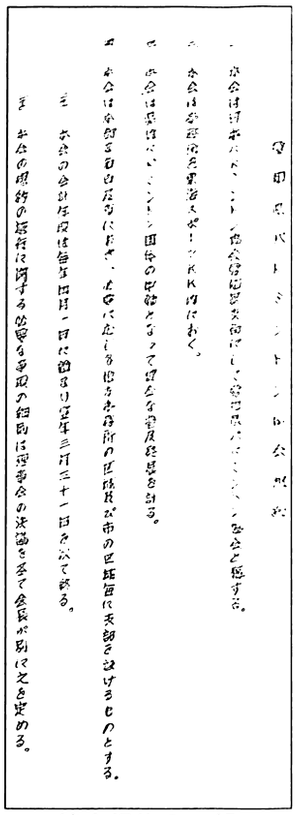
奥田弘典（　同　）

金森幸子（名古屋市中村小学校教官）

水野啓造（東海スポーツ用品（株））

水野弘（名古屋経済専門学校学生）

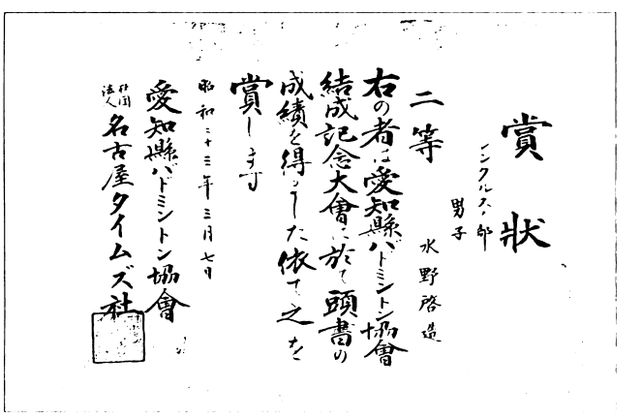
協会設立と同時に日本協会に加盟登録し、３月に開催された総会で全国７番目の協会として承認された。



協会規約の一部

・創立記念大会の開催

３月７日に県協会結成記念大会を20数名の参加を得て中村小学校講堂で開催した。これが県協会が主催した第１回の大会であるが、この時、名古屋タイムズ社の積極的な後援があった。


賞状

シングルス の部

男子

二等　水野啓造

右の者は愛知縣バドミントン協會結成記念大會に於て頭書の成績を得たる依て之を賞します

昭和二十三年三月七日

愛知縣バドミントン協會

名古屋タイムズ社

協会結成記念大会の賞状

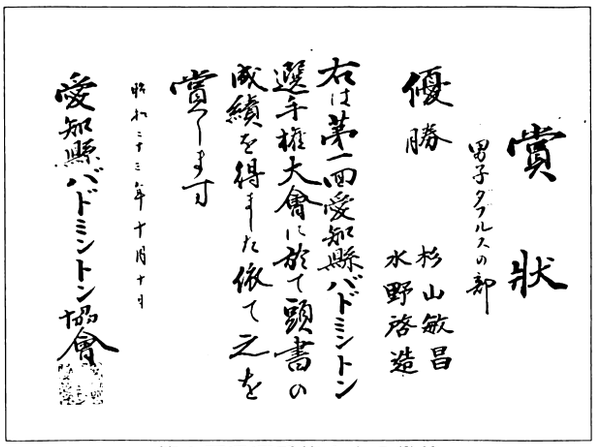
■昭和23年度

・協会主催大会始まる

発足１年目の活動は十分把握できないが、名古屋タイムズ社の積極的な後援を受け、県内大会を次のように開催した。

４月11日　第１回全日本選手権大会愛知予選
８月１日　第１回愛知県新人大会
10月10日　第１回愛知県選手権大会

いずれの大会も記録は残されていないが、保管されている賞状から、新人大会は中村小学校で行われ、男子複で富田・森組が優勝したことが、また、選手権大会では男子複で杉山・水野組が優勝したことを知ることができる。


賞状
優勝　男子ダブルスの部
杉山敏昌
水野啓造
右は第一回愛知県バドミントン選手権大会に於て頭書の成績を得ましたる依て之を賞します
昭和二十三年十月十日
愛知県バドミントン協会

第１回県選手権大会の賞状

この他に第２回協会結成記念大会、憲法施行記念学生総合大会の開催記録がある。

・第１回全日本選手権大会に参加、好成績

わが国初の全国大会として５月８・９日東京都第二女子師範（現東京学芸大追分分校）講堂で開かれた。協会発足わずか数か月の本県から予選を通過した次の男子８名、女子２名計11名の選手が参加した。

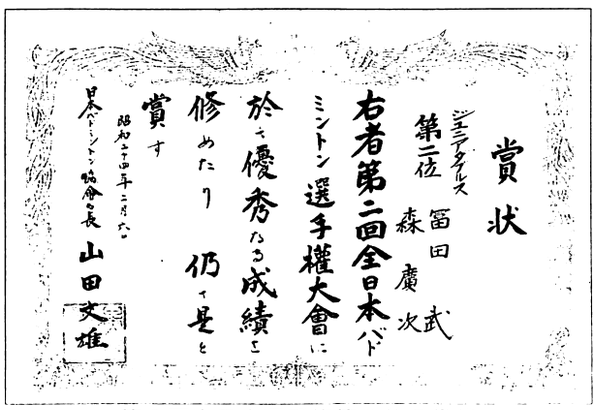
男子単　水谷国広、長谷川参三、水野啓造、富田喜光、山内三秋
男子複　水谷国広・長谷川参三組、水野啓造・山内三秋組、富田善光・岡本豊組、浅岡政男・米津定夫組
女子複　金森幸子・川口博子組
混合複　浅岡政男・川口博子組、米津定夫・金森幸子組。

この大会で、女子複の金森・川口組が準決勝で神奈川の中村・川俣組に惜くも敗れ、３位決定戦で東京の荒井・新開組を降して３位となった。この時、本部では愛知が負けるものとして賞状を書いてしまい、あわてて書き直したというエピソードが残っている。その他では、男子単の富田喜光選手が３回戦、男子複で長谷川・水谷組が２回戦に進出した。

また、この帰路甲府に立ち寄り、山梨県勢と親善試合を行い、９月には山梨県勢が来名して交流試合を行った。これが糸口となり９月23、24日に甲府市で第１回中部日本選手県大会が開催され、第３回以降中部各県の持ち回りとなった。

・第２回全日本選手権大会でも好成績

同年度の２月５、６日に横浜市で開催され、ジュニアの部に松蔭高校から４名の選手（富田、森、川瀬、駒田）が参加した。結果は富田武・森廣次組が決勝戦で札幌の石田・村上組に善戦したが惜しくも２位になった。このとき松陰高校では選手の派遣のため、生徒会決議により全生徒が１人20円、合計15,000円のカンパをしたというエピソードが残っている。


賞状
ジュニアダブルス
第二位　富田武　森廣次
右者第二回全日本バドミントン選手権大會に於て優秀なる成績を修めたり仍て茲に賞す
昭和二十四年二月六日
日本バドミントン協會長　山田文雄

第２回全日本選手権第２位の賞状

その他に女子単で保田久子選手（トヨタ自動車工業）が、３位に入賞した。

昭和24年度

・県内活動の充実

この年愛知県体育協会に加盟し、６月に県体協加盟記念大会を開催するとともに名実ともに愛知県の競技団体として活動を開始した。

主催大会としては前年度始めたものに加え、6月に第4回国体オープン大会予選会を行った。この大会は次の第５回大会からバドミントンが正式種目になることと、その開催地が愛知県ときまっていたこと等から多数の選手が参加した。



第４回国体オープン大会県予選会の役員と出場者

また、第１回県高等学校選手権大会、ミックス大会も開催した他、強化のため立教大学との対抗戦、岐阜・三重との対抗戦、社会人・学生との対抗戦等数多くの行事を実施した。その成果として５月に名古屋で開催した第１回東海選手権大会では男女単複４種目の決勝はいずれも愛知県同士の対戦となった。

11月に市制60周年を記念して甲府市で開催された第２回中部日本選手権大会でも女子単複で優勝、男子単２位、複３位と好成績を上げ、長谷川理事長等約30名が名古屋駅に出迎え、喜びの凱歌をあげたことが記録に残っている。

・第４回国体、個人オープンで好成績

10月30日から東京で開催された第４回国体は日本協会が日本体育協会に加盟して新しいことから、得点種目ではなく、個人戦のオープン大会として20都道府県から200余名が参加し行われた。

本県からは予選を勝ち抜いた男女とも単４名、複２組が出場し、男子単は川瀬選手が４回戦で、複は森・川瀬組、長谷川・富田組とも３回戦で敗れたが、女子は単で吉沢選手が２位、複で吉沢・後藤組が３位と好成績を収めた。



第４回国体オープン大会の選手団

・協会広報紙「はきゅう」の発行

発足２年目となって活動も軌道に乗り、大会も数多く開催するとともに、県外大会へも積極的に参加し、愛知の力と名を広く知らしめた年でもあった。そして年度の締めくくりとして３月に「はきゅう」が発行された。

編集者の長谷川参三氏は、愛知県で初めての講習会の受講者になって以来の愛好者で、その後、選手として全日本選手権、中部日本選手権等でも活躍した名プレーヤーでもあったが、そのうえに協会設立を熱心に推進し、設立後は理事から理事長に就任され会場の確保、大会開催の準備、運営等役員の中心となって活躍し、まさに協会の基礎を築き上げた人と言っても過言ではない。（氏は58年12月11日に逝去された）

「はきゅう」はガリ版２色刷りで、表紙を含め20ページの立派な冊子で、もちろんすべて手作りで製作者の苦労がしのばれる。記事は巻頭の会長のことばに始まり、大会記録、チーム紹介、回想等バラエティーに富んだものであった。次号は国体終了後と結ばれていたが、残念ながら創刊号が残っているだけで、２号以降が発行されたかは不明である。

（「はきゅう」の表紙は本誌口絵を、記事の抜粋は次ページを参照）

昭和25年3月発行「はきゅう」創刊号の抜粋

目次

巻頭の言葉……会長　吉井節郎
第二回中部日本バドミントン選手権大会記……理事長　長谷川参三
オールジャパンバドミントン選手権大会記……理事長　長谷川参三
第三回中部日本バドミントン選手権大会記……理事長　長谷川参三
南方のバドミントン……理事　水谷白石
一九四九年大会の記録……協会
ラバーソールについて……協会
スポーツ雑感……協会
第四回国体より……協会
第四回国体に参加して……理事　杉山敏昌
A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q・R・S・T・U・V・W・X・Y・Z……協会

巻頭の言葉

会長　吉井節郎

戦後　各地の同好者を結集して日本バドミントン協会が誕生し、本県に於ても昭和二十三年二月十一日、協会の結成を見るに至りました。自来　各種大会、講習会を開催し、本県バドミントン普及のため努力を払ってまいりました。即ち六回の県体協への加盟を承認され、全国大会も第一回秩父、第二回横浜で開催され、第四回国体には二十数都道府県の参加を見、ようやくバドミントン競技に対する一般社会人の認識も深まってまいりました。四月十四日より金沢市で開催されます第三回全日本バドミントン選手権大会に引続き、我県は併設の世代選手権大会を開催することになりました。

この良い機会に協会として我県選手の技術向上をはかりますとともにこの線を通じ　会員各位の親睦を図かり、ますますバドミントンの健全明朗なスポーツとしての発展に努力いたしたいと存じます。

第二回中部日本バドミントン選手権大会記

甲府市制六十周年記念第二回中部日本バドミントン選手権大会は山梨県並に甲府市体育協会及び山梨県バドミントン協会主催の下に去る昭和の十一月五六日両日に渡り立つ春草の雄姿を仰ぐ甲府市貢川小学校に於て挙行された。此の日本西国国体の予選をもかねて開催せられた今回の選手八〇名は伍し優勝旗より出場した東日本バドミントン部の選手の激斗は勿論、遠く中部日本選手権たる大優勝杯二個をかく併ンる白屋県民に出迎えた長谷川理事長挨拶の三十名と共に喜びの凱歌をあげえた。

生活とスポーツ

戦後いちはやく立ちあがったものの一つにスポーツがある。あの敗戦直後の混乱の中にも、スポーツは、ありみを投けていた。理屈づからうえは、競技やつまいものは、スポーツがこころにとどまることになる。事実そのあるのに、スポーツはスクリーンと共に進歩発展をとげ、吾々の生活の中へとけ込んできた。

第四回国体に参加して

十月三十日、天皇　皇后両陛下を御迎えしての開会式に始まる第四回国体は秋空一きわ高く澄み渡る最良の日本ナイルキニック・スタジアムを中心に神奈川　千葉、山梨の四都県下にくり広げられた。

加盟団体だより

中村バドミントンクラブ　あらゆる困難を克服して、昨年十月に結成されたが、当時は会員の殆んどが学生であり、練習場所の問題に悩まされ、思うように練習が出来ず、会員相互の親睦を計ることも出来ない状態であった。

然し、会員一同の熱意は、この困難を克服して、昨年十二月には、会員数も二十名を越すまでに発展した。

現在は、毎週土曜日の夜、中村小学校講堂を練習場として、使用できるようになったので、会員一同は、益々練習に熱を加えている。

へんしゅう後記

原稿あつめ・ガリバン・印刷――と、えらそうに一手に引受けてみたものの、だんだん日がおくれ、気をもみながら、ひや汗をかきながらやっと、できあがったものの、御らんの通り、おそまつなもの。

体育協会会長　浅井竹五郎氏より、おいそがしい中を、お祝いとゆき届いた原稿をいただいたことは協会として、この上もない幸である。

其れを始めとして本誌のため、記事原稿をよせられた、酒匂　水谷　杉山の三氏ならびに各団体代表者の方に、心からお礼申上げます。

次号は国体終了後に発刊いたしたいと思います。原稿の各方面にわたる原稿をお待ちします。

金沢のオールジャパンも近づいてまいりましたし、さくらのほころびるのも間近かであります。いよいよスポーツ人の楽しみる時期がやってまいりました。

みなさん！　はりきって練習にはげんで下さい。

（三月三十日　長谷川記）

昭和25年度

・第５回国体、２種別に準優勝

バドミントン競技は、本県で10月26～30日に開催した第５回大会から正式種目として実施されることになった。名誉ある最初の開催県となった協会では多彩な行事をこなしながら青井会長、長谷川理事長を中心に会場となる小学校の教職員の方々の協力を得ながら準備に奔走した。会場はメイン会場の栄小学校で一般男子、東桜小学校で一般女子、白鳥小学校で高校男子を行うようにしたが、いずれも講堂のため２コートしかとれず、３日間かけて準決勝、３位決定戦まで行い、決勝戦は４日目にメイン会場で行った。３会場に別れたため、線審を松蔭、瑞陵、名古屋西の生徒が担当する等、県協会の総力をあげての大会運営であった。

大会には全国都道府県から一般男子32、一般女子、高校男子各34チームが参加する盛大なものだった。



正式種目として実施された第5回愛知国体

戦績は次のとおり

一般男子は準決勝で強豪神奈川県と対戦したが接戦の末敗れ、３位決定戦で北海道と当たり健闘むなしく、敗退した。

一般女子は準決勝で北海道を破り決勝戦に進出し神奈川県と対戦したが惜しくも１－２で敗れ準優勝となった。

高校男子では初戦から１ゲームも落とすことなく勝ち進み、準決勝で神奈川県を破り北海道と優勝を争った。各試合とも健闘したが力尽き一般女子同様、準優勝となった。

総合優勝こそ逃したが、準優勝２種別、４位１種別と地元開催の大会ですばらしい成績を収めることができた。

・第３回全日本選手権で準優勝

３月に金沢市で開催され、ジュニア複で野口勇・川瀬治美組が見事準優勝した。また、同じくジュニア単で野口勇選手が3位に入賞した。

・第１回全日本高校ベスト８

１月13、14日に横浜市で第１回全日本高等学校選手権大会が男子42校、女子30校、総勢364名が参加して開催された。本県から出場した男子の松蔭高は準々決勝で、女子の名古屋西高は残念ながら２回戦で敗退した。

・第３回中部日本、男子単複で優勝

11月３、４日に多治見市で第３回中部日本選手権大会が愛知、三重、静岡、山梨、長野、新潟、石川、福井、富山、岐阜の10県から選手152名が参加して開催された。本県からは男子15名、女子９名が参加し、男子単複で１、２位を独占した。

昭和26年度

・第６回国体、総合優勝を達成

国体バドミントン競技正式種目として初めての開催地の栄誉を得ながら、総合優勝できなかった前年の雪辱を期して、10月27日～31日まで広島県広島大学東雲分校で開催されたこの大会に臨んだ。

結果は一般女子、高校男子が優勝、一般男子が３位という輝かしい成績を得て堂々総合優勝を獲得した。



第６回国体総合優勝、喜びの選手団

各種別の選手と戦績は次のとおり

〔一般男子〕

藤井光男、渡辺成雄、蟹和男の陣容で長野県と対戦し３－０と初戦を飾り、順調な滑り出しで３回戦の岩手県も３－０で降した。４回戦の石川県にはやや苦戦を強いられたが２－１で勝った。準決勝は第１シードの東京都との対戦となったが、壁は厚く、０－３で敗れた。３位決定戦は前年苦杯を喫した神奈川県と対戦し、その屈辱をバネに奮闘し２－１として３位を獲得した。

〔一般女子〕

堀江綾子、保田久子、伊与田照子の前年と同じメンバーで国体２位の実績をもって臨んだ。

初戦は富山県を、３回戦では岐阜県を、準々決勝で福島県を３－０で敗り順調に勝ち進んだ。準決勝で東京を破った北海道との対戦となり、奮起して２－１で勝ち決勝進出を決めた。決勝の相手は前年の決勝戦で苦杯を喫した神奈川県を破った石川県との対戦となったが３－０で勝ち、初優勝に輝いた。

〔高校男子〕

服部興治、野口勇、立松健市と前年とはメンバーが変わっての出場となった。２回戦からの出場となったが、初戦の新潟県を３－０で破り、３回戦で富山県、準々決勝で神奈川県を２－１で倒し、準決勝で岐阜県と対戦して勝ち、決勝へ進出した。決勝戦は、大阪、東京を破って進出してきた石川県との対戦となったが２－１で勝ち、女子に続いて初優勝した。

・第４回全日本選手権３種目で準優勝

４月６～８日に第４回全日本選手権大会が東京都で開催され、本県から男子15名、女子６名が参加した。成績は女子シニア単で堀江綾子選手が、女子シニア複で保田・伊与田組が、男子複（30歳以上）で酒巻・小池組がいずれも神奈川県勢に敗れたものの堂々準優勝を獲得した。

・第１回全日本実業団で女子優勝

27年２月に東京都国民体育館で男子24、女子13チームが参加して開催された。愛知県からはトヨタ自動車工業が男女に出場した。

大会では男子は、ナルトスポーツ、トヨタ自動車工業、日産自動車、十條製紙がシードされていた。決勝戦はトヨタ自動車工業対十條製紙（富山）との対戦となったが、惜しくもトヨタは十條の軍門に降った。女子はトヨタ自動車工業、ニューキョート、日本コロンビア、ナルトスポーツがシードされる組合せであった。優勝戦はトヨタ自動車工業がニューキョートを降して、記念すべき第１回大会のチャンピオンとなった。

昭和27年度

・第７回国体一般女子で３位

10月19日～23日福島・宮城・山形の東北３県で開催され、バドミントンは仙台市の東北大学で行われた。この大会では一般女子が３位、一般男子、高校男子が５位に入賞した。

・第５回全日本選手権大会３種目に優勝

奈良県天理市で開かれた全日本選手権で本県から出場した一般女子複の堀江綾子・保田久子組、成年複の小池鉱市・貝本暁組および少年単で瑞陵高校出身の服部興治選手が優勝した。このように３種目優勝という快挙を成し遂げたが、愛知県勢が全日本で優勝したのは初めてのことであった。また、混合複で堀江綾子・野口勇組が２位に入賞した。

・第２回全日本実業団女子トヨタ２連勝

28年２月14、15日、横浜市で開催された第２回大会にトヨタ自動車工業女子チームは、監督に酒巻和男、選手に前回優勝の保田、伊与田、新進の山内、藤井のチームで挑んだ。順調に勝ち進み、決勝戦は前年３位だった神奈川県の日本コロンビアと対戦した。

第１単は保田３－11、11－12荒川で日本コロンビア、第２単は伊与田11－０、11－１奥谷でトヨタとともに１つずつを取り、勝敗は実力者同志の複の対戦にもちこまれたが、トヨタ自動車工業の保田・伊与田組が15－２、15－10で取り、チーム成績２対１でトヨタ自動車工業の２年連続優勝となった。



優勝のトヨタ自動車工業女子チーム

・第４回東海選手権で優勝

11月15、16日に開催されたこの大会には各県とも高校生が多数参加した。当時の中日新聞に次のような記事が残されている。

「参加人員130名中、高校生が64名、十数校にわたったことは、バドミントン普及の上にも本大会に清新の気をみなぎらせる上にも喜ばしいことであり、全般的に技術の向上は認めるが、地方の高校では適切な指導者がいないため素質のある選手が埋れている感があるのは惜しい」

決勝戦での県勢の活躍は次のとおりである。

男子単	大竹（川島紡）	２－０	野口（新三菱）
男子複	野口・石川（名ク）	２－１	大竹・松岡（川島紡）
女子複	長谷川・波田野（済美高）	２－０	大竹・大室（瑞陵高）

川島紡の大竹選手は第５回国体で野口選手と愛知県代表としてともに戦った仲間であったが、26年に岐阜県に移り、第９回国体では優勝を競い合う宿敵となった。

■昭和28年度

・第８回国体

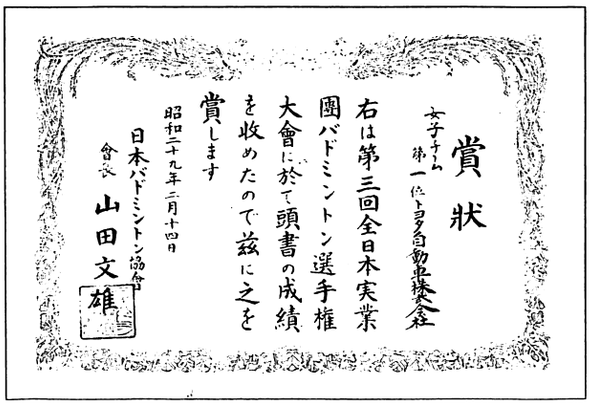
10月22日～26日　香川県で開催され本県から一般男女、高校男女の４種別に出場し、一般男女、高校男子がベスト８に入った。本年度から高校女子の種目が加わった。

・全日本選手権壮年複で優勝

新潟市で開催された第6回大会で水谷国広選手が三重県の伊村勇選手と組んで壮年複へ出場し見事優勝した。愛知県では前年の3種目に次いで4番目の全日本選手権優勝者となった。

・全日本実業団で女子トヨタ３連勝

第３回大会は２月13、14日に長崎市で開催された。３連覇をめざす女子のトヨタ自動車工業は順調に勝ち進み、決勝戦は前回同様神奈川県の日本コロンビアとの対戦になった。日本コロンビアの荒川選手は一層実力をつけ、全日本選手権の女子単で優勝し、また、複でも同僚の小林選手と組んで優勝していた。決勝戦は複から始まり、トヨタ自動車工業の保田・伊与田組が日本一の荒川・小林組に挑戦、よく奮闘し、ファイナルに持ち込み２対１でチャンピオンチームを破った。次の第１単の保田は荒川に敗れたが、第２単の伊与田が小林に勝ってチーム成績を２－１として見事３連覇をなしとげた。


賞状

女子チーム
第一位トヨタ自動車株式会社

右は第三回全日本実業
團バドミントン選手権
大會に於て頭書の成績
を收めたので茲に之を
賞します

昭和二十九年二月十四日

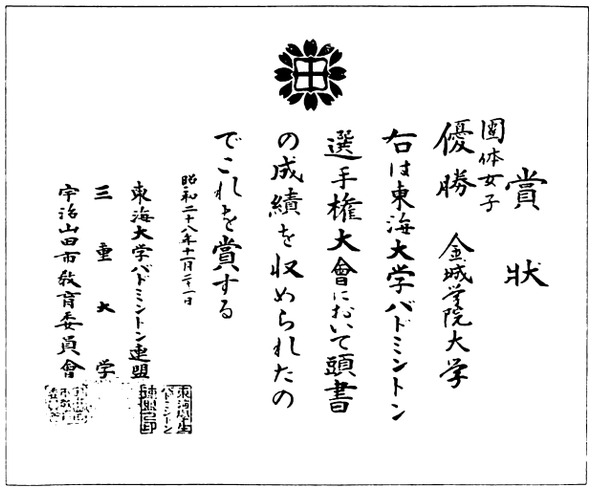
日本バドミントン協會
會長　山田文雄

第３回全日本実業団優勝の賞状

・金城学院大学、東海大学・学生を制覇

第１回東海大学・第２回東海学生選手権大会が11月21日から３日間三重県宇治山田市（現伊勢市）で開催された。１日目は個人戦複が行われた。女子複の準決勝では金城学院大同士の三浦・小粥組と小林・成瀬組の対戦となったが、三浦・小粥組が勝ち決勝に進出した。決勝戦では初代チャンピオンの三重大、鈴木・辻本組と対戦し、大熱戦を繰り広げた末、17－15、18－15でせり勝ち優勝した。また、小粥選手は２日目の女子単でも優勝した。

３日目は大学対抗戦が実施された。女子では金城学院大が準決勝で三重大Ｂを降し、決勝戦で三重大Ａと対戦した。複は小粥・広瀬組と鈴木・辻本組で争われ小粥・広瀬組が２－０で、第１単は小粥選手が辻本選手に２－０でそれぞれ勝ち、東海大学の初代チャンピオンとなった。


賞状

団体女子
優勝　金城学院大学

右は東海大学バドミントン
選手権大會において頭書
の成績を收められたの
でこれを賞する

昭和二十八年十月二十日

東海大学バドミントン連盟
三重大学
宇治山田市教育委員會

東海大学選手権団体優勝の賞状

男子は南山大が準決勝で岐阜大に０－３で敗れた。

・第１回県学生選手権大会を開催した。

昭和29年度

・第９回国体で２度目の総合優勝

８月22～25日に北海道で行われ、愛知県勢は各種別とも圧倒的な強さで勝ち進み、高校男子が優勝、一般男子が準優勝、一般女子と高校女子が３位といずれも入賞し、第6回大会に次いで2度目の総合優勝を果した。

決勝戦の様子を日本協会報（ＮＢＡ）1954年10月、№８号から抜粋すると次のようなすばらしい状況が知られる。

〔一般男子決勝〕

優勝はトーマス杯代表選手と合宿練習に参加した大竹を中心とする岐阜県と、同じ東海ブロック出場の愛知県で争った。そして残るべくして残ったもの同士の決勝戦にふさわしい美技の続出の立派な試合が展開されたのである。

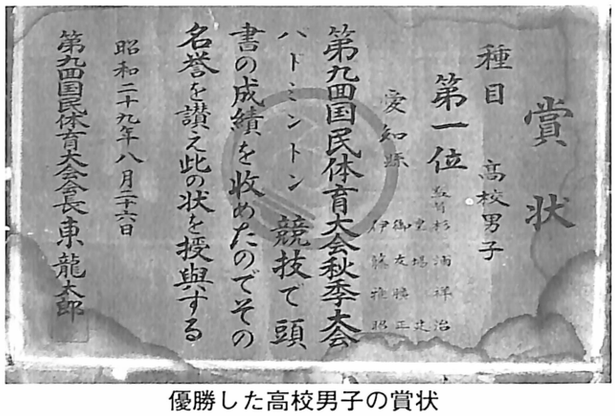
複では岐阜県は玉越を単に残し、大竹・松岡が組み、愛知県はベストメンバー野口・服部が組んで対戦し、大会随一の好プレーとなった。結果は９－15、15－６、17－18で岐阜県に勝ちを譲ったが、第３ゲームでは13点オールのセッティングから17オールと満場手に汗握る一戦となった。熱戦数分、愛知服部ネット際に落とされた球をよく返し、勝利を握ったかにみえたが惜しくもタッチザネット。満場一瞬歓声をあげたが、実に貴重なポイントを失った。その後岐阜県に１点取られ敗れた。続く第１単、大竹対野口は第１ゲーム野口よく食い下がったが、18－17で惜敗、第２ゲームは先に全力を出し切った感のあった野口は15－９と押し切られてしまった。しかし、愛知の善戦は賞賛に値する。

〔高校男子決勝〕

愛知、石川両県が決勝で相まみえたのは予想通りのことと思われる。

愛知瑞陵高の豊場、松蔭高の御友に対し、石川は江尻の不出場で島屋、西村の対戦は試合前には全く予想のつかぬものだった。

複は接戦の末、15－10、17－15で石川が取ったが、続く単では体力を消耗し尽くした感のある石川は、島屋が14－15、５－15で豊場に、西村は13－18、15－17で御友に敗れ、愛知の軍門に降った。この決勝戦は力闘であったこと、今国体の最終を飾る好試合の１つであった点が嬉しかった。


賞状
種目　高校男子
第一位
愛知縣
第九回国民体育大会秋季大会
バドミントン競技で頭書の成績を収めたのでその名誉を讃え此の状を授與する
昭和二十九年八月二十日
第九回国民体育大会会長　東龍太郎

優勝した高校男子の賞状

・全日本選手権等でも好成績

・第７回全日本選手権大会の混合複で堀江・野口組が２位に入賞した。

・３月20・21日に名古屋市において第４回全日本実業団選手権大会を開催した。この大会においてトヨタ自動車工業の男子は３年振りの準優勝を果した。

・８月７、８日金山体育館で開催した第７回中部日本選手権大会では、男子複で服部・野口組が玉越・大竹組に国体の雪辱を果して優勝した。他、女子単で堀江選手、女子複で保田・伊与田組、成年単で小池選手、成年複で小池・中井組、混合複で保田・岩月組と６種目で優勝を飾った。保田・伊与田組、保田・岩月組は２年連続優勝であった。また、男子単の野口選手も準優勝であった。

昭和30年度

・第10回国体、３種別出場

10月30日～11月3日に横浜市で開催され３種別に出場したが、メンバーも変わり、前回のような成績はあげることができなかった。

・全日本実業団、トヨタ男女ともに３位

３月10、11日に富山県高岡市で開催された第５回大会においてトヨタ自動車工業が男女とも３位に入賞した。

３位決定戦の成績は次のとおりである。

男子団体　対三菱造船（長崎）

複１	岩川・上羽	２－０	前田・末永
複２	多賀・荒川	０－２	高野・江戸
単１	上　羽	２－１	江　戸
単２	多　賀	２－０	中　村

女子団体　対十条伏木（富山）

複	大沢・高木	２－０	山口・川口
単１	大　沢	２－１	山　口

・中部日本選手権、４種目に優勝

８月20、21日に三重県伊勢市で開催され、７種目中４種目に優勝し、全種目に入賞を果たした。各種目の成績は次のとおりである。

男子単　　３位決定戦

野　口		２－０	品　川　　（富山）

男子複　　決勝戦

野口・渡辺		０－２	荒木・品川（富山）

３位決定戦

上羽・岩月		２－０	釣谷・佐野（富山）

女子単　　決勝戦

大　沢		２－０	堀　江　　（富山）

女子複　　３位決定戦

大沢・高木		２－０	野沢・渡辺（静岡）

壮年単　　決勝戦

小　池		２－０	伊　村　　（三重）

壮年複　　決勝戦

小池・水谷		２－１	伊村・入交（三重）

混合複　　決勝戦

大沢・岩月		２－０	高木・上羽（愛知）



中部日本選手権大会の出場者

・東海選手権、９種目に優勝

１月29、30日に岐阜市で開催され、愛知県勢は11種目中９種目に優勝し、内５種目は愛知同士の対戦だった。また、６種目で２位になった。

・県学生選手権大会、年2回開催のリーグ戦

・県体育協会体育功労者表彰

小池鉱市氏

昭和31年度

・第11回国体一般男子惜しくも３回戦敗退

11月18～24日に神戸市で開催され、一般男女に次のメンバーが参加した。

一般男子　渡辺成雄、山城智徳、多賀純一

一般女子　高木芳枝、大沢節子、花井洋子

男子は３回戦で東京都に２対１で惜しくも敗れた。



第11回兵庫国体の選手団

・全日本実業団で女子トヨタ準優勝

３月９、10日香川県高松市で開催された第６回全日本実業団選手権大会において、東海地区大会で男女ともに優勝したトヨタ自動車工業はよくがんばり、女子は決勝戦で国体等で活躍した権田、光本を擁する岡山市役所に２対１で敗れたものの２位を獲得した。男子は岡山市役所に１－３で敗れ準決勝進出はならなかった。

・東海選手権では６種目に優勝

11月24、25日に名古屋市で開催し、11種目中６種目に優勝して前回に続いて輝かしい成績を上げた。なお、青年男子単の野口勇選手、青年男子複の野口勇・渡辺成雄組はともに昨年に続いての優勝であった。

・第１回東海実業団で男女とも優勝

８月19日、三重県度会郡明野町の明野高校体育館で開催された。準決勝以上に進んだチームは、男子は岐阜市役所、東亜紡績、横浜ゴム、トヨタ自動車工業であった。

女子は東亜紡績、呉羽紡績、岐阜県庁、トヨタ自動車工業であった。

トヨタ自動車工業は男女とも勝ち進み、決勝で男子は三重県の東亜紡績に３－０と、女子は同じく三重県の呉羽紡績に２－０と圧勝し、アベック優勝を果たした。

優勝チームのメンバーは次のとおり

男子　深津豊、山城智徳、荒川司郎、谷沢経次、多賀純一、木全憲司、中田稔

女子　高木芳枝、大沢節子、花井洋子



男女ともに優勝したトヨタ自動車工業チーム

・第１回県学生新人大会を開催

昭和32年度

・全日本選手権で善戦

第10回全日本選手権大会が５月５日、横浜市で開催され、次の３種目に入賞を果たした。

女子複　　第４位　大沢節子・花井洋子組
（トヨタ自動車工業）

成年男子単　第３位　山城智徳
（トヨタ自動車工業）

成年男子複　第３位　深津豊・山城智徳組
（トヨタ自動車工業）

・全日本実業団で女子ベスト４

８月24・25日に岐阜市で第７回大会が開催され、女子でトヨタ自動車工業が４位に入賞した。

出場選手と成績は次のとおり

女子団体　水谷初恵、大竹さえ子、蔵本文子

（三位決定戦）

日本コロンビア　２－１　トヨタ自動車工業
（神奈川）　　（愛知）

・国体に３種別出場

第12回大会は10月26～30日に富士市で開催され、次の３種別に出場した。

一般男子　多賀純一、野口勇、稲熊貞夫

高校男子　山田善康、稲熊文隆、長谷川陽一

一般女子　大沢節子、花井洋子、綱取鈴代



大会会場で県旗を掲げる一般男子チーム

・東海実業団、男女２連覇

第２回大会を豊田市で開催し、地元のトヨタ自動車工業が男女ともに２連覇を果たした。

出場選手は次のとおり

男子　深津豊、山城智徳、荒川司郎、
谷沢経次、多賀純一、木全憲司

女子　大沢節子、花井洋子、丸山公子、
永谷初恵



男女2連覇を果たしたトヨタ自動車工業チーム

昭和33年度

・日本協会より支部表彰を受賞

日本協会では、本年度から表彰制度を発足させた。本県はその第１回支部表彰を13支部とともに受賞した。

・全日本実業団と全日本社会人が併催

第８回全日本実業団選手権大会が、７月23日から札幌市で開催された。この大会から全日本社会人選手権大会が併催されることになった。

実業団選手権男子団体はトヨタ自動車工業が準々決勝で岡山市役所に１－３で敗れ、女子団体でもトヨタ自動車工業が準々決勝で日魯漁業に０－２で敗退した。

併催された社会人大会にはトヨタ自動車工業から多数出場したが、女子複の丸山・大沢組がベスト８になったのが最高であった。

・国体に２種別出場

第13回大会は10月19日から富山県高岡市で開催され次の選手が出場した。

一般男子　山城智徳、野口勇、渡辺成雄

一般女子　大沢節子、丸山公子、永谷初恵



第13回富山国体の選手団

・全日本成壮年競技会で活躍

この大会は全日本選手権と併設されて31年から始められた。（35年に終了）

第３回大会は８月31日に東京都で開催され、成年男子単で山城智徳選手（トヨタ自動車工業）が準優勝、成年男子複で深津豊・山城智徳組（トヨタ自動車工業）が３位となった。

・東海実業団、男女３連覇

第３回大会は２月８日に男子７チーム、女子２チームが参加し、岐阜市加納高校講堂で行われ、男女ともトヨタ自動車工業が３連覇を果たした。

男子決勝

トヨタ自動車工業３－１岐阜県庁（岐阜）

女子決勝

トヨタ自動車工業３－１若林紡績（岐阜）



トヨタ自動車工業（手前）対岐阜県庁の対戦風景

昭和34年度

・第14回秋季国体参加自粛

小笠原諸島近海で中心気圧896mb、最大風速75mの超大型になった台風15号（後に伊勢湾台風と命名）は、９月24日午前に北緯30度線を越えてから進路を北北東に変え紀伊半島を目指して進んできた。午後６時頃潮岬の西側に上陸し、午後９時頃には名古屋市付近に最も接近した。その頃の伊勢湾は満潮時で台風の接近で海面は一層上昇、おりからの南東からの暴風に乗って高潮となって沿岸部を襲い堰場・堤防の決壊5,978、全壊流失家屋39,615、死者4,977という甚大な被害をもたらした。



床上浸水となった南区大江町付近

こうした事態において県体育協会では間近に迫った国体への参加の是非について10月７日に競技団体連絡会議を開催し討議した。そして「県下が災害救助法適用下にある現状を鑑み、それぞれの持ち場で救助・復興作業を継続し、良識あるスポーツ人として行動する」ことになり、全競技団体が同一歩調をとり全面自粛し、開会式へ４名の代表を送るのみとなった。

県協会は、8月に国体予選会、選手選考会をへて選手を決定していたが、県体育協会の決定に従い派遣を自粛した。10月25日から東京都で開催された第14回国体のプログラムに記載された一般男子の渡辺成雄、野口勇、渡辺清の三選手はまさに幻の国体選手となった。

・全日本大学・学生大会の開催を返上

第９回全日本大学・第10回全日本学生選手権大会は11月30日から名古屋市金山体育館での開催をめざし主管の県協会、中部学生連盟は、大会要項の発送を終えたところでの台風襲来であった。体育館をはじめ諸施設の被害が甚大で開催返上を余儀なくされ、関東学生連盟に東京での開催を急遽引き受けていただいた。２年後の36年に名古屋市で同大会を開催でき、中部学生連盟会長、同委員長が挨拶の中で感謝の意を表している。

・台風後の大会開催

翌年の２月、第１回県実業団選手権大会と第12回県選手権大会を開催したが、これが台風後の初競技会となった。

・全日本実業団でベスト４

第９回大会は８月に香川県善通寺市第一高校体育館で男子43チーム、女子12チームが参加して開催された。本県からはトヨタ自動車工業男女、と新三菱重工の男子が参加した。

男子団体は新三菱重工が１回戦で和歌山市役所に２－３で敗れ、トヨタ自動車工業が準々決勝で岡山市役所に１－３で敗退した。

女子団体では準決勝で香川の森岡経理事務所に０－２とされ、３位決定戦で日本コロンビアと対戦したが０－２で敗れ４位に甘んじた。

個人戦では、女子単で丸山、大竹、女子複で水谷・丸山組がベスト８に入った。

・東海選手権各種目で上位入賞

第11回大会が岐阜市で開催され３種目に優勝し、３種目に準優勝した。

・県体育協会体育功労者表彰

青井節郎氏

昭和35年度

・新会長に重富克美氏就任

初代会長青井節郎氏の後を29年から受けた多武良哲三氏が35年３月で退任、新たに就任された。なお、同時に後藤鉀二氏が名誉会長に就任され、また理事長に長谷川参三氏の後を受けて、渡辺成雄氏が就任した。

・県協会の規約改正

協会創立の23年２月11日に制定された協会規約が改正され、35年４月１日から施行された。

主な改正点は、第２条に「県内バドミントン愛好者団体及び、愛知学連、高体連をもって組織する。」と学連、高体連を明記したこと、会費が団体会費であったものが団体加盟金と個人登録料になったこと、専門委員会の設置（第14条）と任務（第15条）、さらに評議員会の位置付けを明確にするなど、協会組織の拡大と充実を伺わせるものがある。

また、規約全体の文言や表現が明確になり、現在の協会規約の原形ができたといいえる。

・全日本実業団を開催

第10回を迎えた全日本実業団選手権大会兼第３回全日本社会人選手権大会を１月14～17日金山体育館で開催した。この試合には男子38団体238名、女子は16団体54名が参加し、開催地の本県からは男子５団体32名、女子２団体６名が参加した。



大会会場の金山体育館での本部席風景

本県でこの大会を開催するのは30年の第４回大会以来２度目であったが、重富会長の歓迎のことばに「大会準備のため、災害後の悪条件と戦いながら……」とあるように伊勢湾台風の後遺症が残る状況にあった。準備は総務、宿舎、財政、競技の４委員会からなる実行委員会に協会役員が全員参画して進められ、当日の線審には名古屋市内５つの高校の部員の協力で開催した。

なお、戦績は女子複で蔵本文子・水谷初恵組が４位に入賞した以外は勝ち上がることができなかった。

・第１回県三部対抗大会を開催

９月４日、名古屋商科大学において社会人、大学、高校による対抗戦を開催した。これは29年の第９回国体以降県勢の成績が低迷しており、その打開策の１つとして行われたと思われる。試合方法は男子４複７単、女子３複６単のリーグ戦であった。

大会結果は次のとおり

一般男子	７勝３敗１分け	高校男子
一般男子	２勝７敗２分け	学生男子
学生男子	６勝３敗２分け	高校男子
一般女子	３勝６敗	高校女子
一般女子	４勝２敗３分け	学生女子
学生女子	１勝６敗２分け	高校女子

・日本協会表彰

功労賞・長谷川参三氏

技能賞・水谷国広氏

・県体育協会体育功労者表彰

野口勇氏、渡辺成雄氏、伊藤鑛一氏

参考（当時の実施事業、使用会場等が判る35年度行事予定表　次ページ参照）

昭和35年度行事予定表

昭和三十五年度　行事予定表　　愛知県バドミントン協会
名古屋市　〃

期日		行事内容	開催地その他
4月	17	公認審判員講習会	名古屋市
	24	第二回県実業団選手権大会	〃
5月	8	○第十一回五大都市体育大会名古屋市予選会	〃
	22	第十四回県高等学校総合体育大会バドミントン競技	〃
	中旬	△県大学・学生選手権大会	〃
6月	12	昭和三十五年度春季県新人大会	〃
	10		
	26	全日本高等学校選手権大会県予選会	〃
7月	8		
	10	○第十一回五大都市体育大会	神戸市
	24	第十五回国民体育大会バドミントン競技県予選会（高　校）	名古屋市
	31	〃　（一般男女・教員男）	〃
	中旬	△第三回東日本大学・学生選手権大会	仙台市
	下旬	△東海学生選手権大会	名古屋市
8月	上旬	全日本高等学校選手権大会	久留米市
	21	○市民スポーツ祭バドミントン（一般男は団対抗、一般女・学生・高校は選	名古屋市
	27	〃　手権の形式で行う。）	〃
	28	〃	〃
9月	4	社会人・学生・高校三部対抗バドミントン大会	名古屋市
	11	第十五回国民体育大会バドミントン競技東海予選会（一般女子・教員男子）	〃
	中旬	東海高等学校総合体育大会バドミントン競技・団体東海予選会	静岡県
	18	昭和三十五年度秋季新人大会	名古屋市
	23	〃　（2日間の予定）	〃
	25	〃	〃
10月	2	第十五回県民体育大会バドミントン競技	〃
	23	第十五回国民体育大会　〃	菊池市
	27		
11月	中旬	△中部大学・学生選手権大会	長野市
	下旬	△全日本大学・学生選手権大会	大阪市
12月	上旬	△県大学選手権並びに新人選手権大会	名古屋市
1月	3	新年打初めバドミントン大会	名古屋市
	11		
	17	◎第十回全日本実業団バドミントン選手権大会	名古屋市
2月	5	○第五回名古屋市民選手権大会	〃
	12	〃	〃
3月	下旬	第十三回県選手権大会	〃　（二日の予定）

○印は市　△印は学連関係行事　◎　県協会主管の全国大会
全日本選手権大会・中部日本選手権大会・東海選手権大会・東海実業団選手権大会の期日・開催地未定
国体並びに五大市大会の選手強化は別途計画する。
本年度より新人大会は春・秋の二回行う。

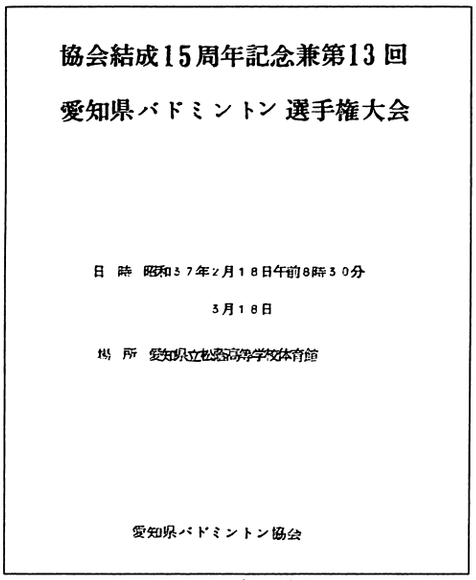
■昭和36年度

・協会創立15周年記念大会を開催

第13回県選手権大会を協会結成15周年記念大会として、２月18日・３月18日の２日間にわたって県立松蔭高校体育館で開催した。大会には、男子単に97名、同じく複に41組、女子単に40名、同複に31組の延べ281名の選手が参加して行われた。記念大会の栄えある優勝者は次のとおり。

男子単　稲熊（愛知大学）
男子複　野村（鈴木鎌三商店)･稲熊(愛知大学)
女子単　河合（名古屋女子学院高校）
女子複　中野・長谷川組（松蔭高校）

なお、全員に参加賞が贈られた。


協会結成15周年記念兼第13回
愛知県バドミントン選手権大会

日時　昭和37年2月18日午前8時30分
3月18日

場所　愛知県立松蔭高等学校体育館

愛知県バドミントン協会

記念大会プログラム

・全日本大学・学生選手権を開催

11月13～19日、金山体育館および中部電力健保会館において第11回全日本大学・第12回全日本学生選手権大会を開催した。

この大会で中部学生連盟会長松田龍一氏のあいさつに“一昨年のこと本大会は名古屋で開かれることになり、その準備は着々と進められていましたところ突如として襲いきたった伊勢湾台風のため名古屋地方の被害はおびただしく、このため大会の開催は不可能となりました……”とあるように、準備をし直して臨んだ大会であった。

総務委員長に長谷川副会長、競技委員長に渡辺理事長、審判長に野口理事が、また、審判補助員には名古屋市内の４高校に協力をお願いするなど協会の総力をあげての開催であった。

・講習会を各地で開催

各市町村で講習会が開催されるようになった。

７月30日	名古屋市レクリエーション	講習会 金山体育館
９月10日	江南市体育協会	江南市
１月14日	小牧市体育協会	小牧中学校
１月26日	中川区	鉄工会館
２月21・23日	中川区	鉄工会館
３月２日	中川区	鉄工会館
３月３日	尾西市	第一中学校

・中部日本選手権で活躍

４月29・30日、富山県高岡市で伊勢湾台風等の影響により２回中止されていた第14回大会が開催された。

本県では成年男子単で荒川選手、同複で荒川・谷沢組が優勝、青年女子複で蔵本・林組、混合複で蔵本・多賀組が準優勝した。

・県体育協会体育功労者表彰

酒巻和男氏、深津豊氏、服部興治氏

・多武良哲三前会長逝去

29年から35年まで会長としてご尽力された氏が逝去され、３月22日愛知工業大学で葬儀が行われた。

■昭和37年度

・小宮選手、愛知へ

神奈川県出身、関東学院六浦高在学中に全国高校選手権で単複を制覇し、立教大学在学中には全日本学生選手権で単複優勝、全日本総合でも２連覇するなど、名実ともに日本のエースプレーヤがトヨタ自動車工業に入社し、４月から愛知県で活躍することになった。

・小宮選手、国際大会で活躍

インドネシアのジャカルタで開催された第４回アジア競技大会に男女各３名の選手団のメンバーとして参加し、単は３回戦まで勝ち進んだが、団体は２回戦で地元インドネシアに１－４で敗れた。また、日本協会から強化の一環として全英、全米選手権大会へ派遣された。

３月18日単身で羽田を発って英国のウエンブレー会場の全英選手権大会に臨み、優勝候補筆頭のデンマークチャンピオンであるポーチ選手を破って一躍ベスト８に入った。また全米選手権大会では世界の強豪とわたり合ってベスト４に入るなど日本バドミントン史上初の偉業をなしとげた。

・第17回国体一般男子、３位入賞

10月22日から岡山県倉敷市清陵高校体育館で開催され、本県からは一般男子のみの参加となった。

試合は準々決勝で第４シードの石川県と対戦し２－０と降し、準決勝で東京都との対戦となったが１－２で惜敗した。３位決定戦では、山形県と対戦し２－０で勝ち３位を確保した。

・全日本実業団、男女とも入賞

熊本市で開催された第11回大会でトヨタ自動車工業は決勝で電々東京と対戦し、１－３で敗れ男子チームとしての初優勝はならなかった。

なお、この大会では女子のトヨタ自動車工業も健闘し、４位に入賞した。

・第５回全日本社会人、２種目に優勝

全日本実業団に併催された大会の単で小宮好雄選手が優勝し、また、混合複でも蔵本文子選手と組んで優勝した。



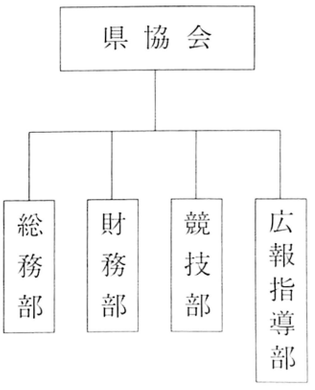
混合複初優勝で喜びの蔵本・小宮選手

・蔵本選手、日印親善競技会に出場

10月10日京都市においてユーバー杯インド代表選手を招いて西日本代表選手との親善競技会が開催され、蔵本文子選手（トヨタ自動車工業）は代表７人の１人に選ばれ出場した。試合は４複１単で行われ、４－１でインドが圧勝した。

・専門委員会の組織

35年度に規約が全文改正され専門委員会を設けることが明記され、組織が本年度総会報告書に右のように図示された。



・日本協会表彰

功労賞　水谷国広氏、都筑金助氏

・県体育協会体育功労者表彰

都筑金助氏、山城智徳氏

昭和38年度

・会長に後藤鉾二氏就任


後藤新会長

創立当時からすべての面で指導をいただき、また35年からは名誉会長としてバックアップしていただいたが、本年度より会長に就任、一層の発展を期することになった。

・国際交流資金積立金制度始まる

トヨタ自動車工業の小宮選手が日本代表チームのメンバーとして、アジア競技大会へ出場するなど、海外へ派遣される選手への支援と派遣費に充てることを目的として、協会主催大会に出場する選手１名当たり10円を拠出し積み立てることになった。

・小宮・板垣選手、トマス杯で活躍

小宮選手に続き立教大１年後輩の板垣選手がトヨタ自動車工業に入社し、本県で活躍することとなった。そして、ともに第６回トマス杯アメリカ地区予選会の日本代表５選手の中に選ばれ、日本チームの優勝に貢献した。

・国体一般男子が初優勝

第18回大会は10月28日から山口県下関市で開催され、本県からは一般男女が出場した。

男子は茨城、埼玉、北海道、富山をストレートで降し、決勝戦は東京と対戦し接戦の末２－１で勝ち、初優勝を飾って５連覇への足掛かりをつくった。

女子は２回戦で優勝チームの秋田と対戦し、１－２で姿を消した。

・全日本実業団トヨタ男子初優勝

第13回大会は６月５日から新潟県三条市で開催された。本年度から全日本社会人選手権大会が分離開催となり、新たに個人種目が設けられることになった。男子団体は国際級の小宮、板垣選手を抱えるトヨタ自動車工業が圧倒的な強さで初優勝を飾った。

個人戦へは本県から単12、複６が出場した。中でも小宮選手の活躍は目ざましく、男子単・複・混合複の３種目で優勝を遂げ、３冠を達成した。また、30歳複で谷沢・荒川組が優勝、男子単の板垣選手、30歳単の荒川選手が準優勝。30歳単の多賀選手、混合複の林・板垣組が３位に入賞した。

・日韓親善、全愛知選抜が勝利

９月20日名鉄体育館において韓国選手団を迎え、全愛知選抜選手団との交歓競技大会を本県初の国際大会として開催した。

一般男女、高校男女に分かれて熱戦が展開されたが、全愛知が圧倒的な強さを発揮して13対２で勝利をおさめた。

全愛知選抜選手団

男子選抜（社会人）小宮好雄、板垣善憲、稲熊文隆
（大学生）加藤賢雄、松久秀二
女子選抜・橘妙子、林信子、中野好子、土井三枝子
高校男子・小倉良夫、棚橋正春、清水善勝
高校女子・渡辺幸子、丹羽さよ子、永井たけ子

成績

男子選抜	愛知	５－１	韓国
女子選抜	愛知	２－１	韓国
高校男子	愛知	３－０	韓国
高校女子	愛知	３－０	韓国

・日本協会表彰

技能賞　小宮好雄氏

・県体育協会体育功労者表彰

山本英夫氏、渡辺清氏、永田尭澄氏

昭和39年度

・世界招待男子個人選手権大会で優勝

トマス杯終了後の５月25日から４日間東京都台東体育館において開催された。ダブルス決勝は日本の小宮・板垣組とマラヤのウン・ブーン、ビータン・エーカン組となったが、ビータン・エーカンがダブルス決勝の前に行なったシングルス決勝で肉ばなれをおこしたため、小宮・板垣組の優勝となった。

〔板垣善憲選手の談〕

「最後があのように（マラヤの棄権）なったので気が抜けた感じだ。しかし、世界的な選手の中で勝てたことは嬉しい。この様なチャンスはそうこないですからね。」

・小宮、板垣選手トマス杯で活躍

前年度から始まった第６回世界選手権トマス杯予選は、本県の小宮・板垣両選手等の日本代表の活躍でアメリカ地区予選を制し、５月14日から東京体育館で開催されたインターゾーンへ、タイ、マニラ、デンマークとともにチャレンジャーを目指して臨んだが、惜しくもタイに敗れチャレンジャーになれなかった。

日　本　　３－６　　タ　イ

・専門委員会組織を変更

財務部を総務部に統合し、広報指導部を指導部と名称変更して競技部と合わせた３部門委員会で進められるようになった。（43年度までは部の名称で進められた。）

・国体、一般男子２連勝

第19回大会は10月６～11日に新潟県三条市で開催され、一般男子は小宮好雄,板垣善憲,岩后隆昭の陣容で大会に臨んだ。初戦の愛媛には２－１とやや苦戦を強いられたが、以降熊本・京都・石川には２－０として順当に勝ち進み、下馬評通り東京との決勝戦になった。

複　　小宮・板垣　２－０　永井・堺

単　　板　垣　　２－０　　宮　永

とし、２連勝を達成した。

・全日本実業団、男子団体２連覇

第14回大会は１月15～19日、松山市において開催された。

本県から男子はトヨタ自動車工業、三菱電機名古屋、名古屋市役所、豊田自動織機、女子ではトヨタ自動車工業、名古屋鉄道が参加した。トヨタ自動車工業は前回に続き大活躍をし、団体で男子は２連勝、女子は準優勝を飾った。また、個人戦でも小宮選手が２年連続の三冠王となり、団体を含め四冠を達成した。



男子複優勝で表彰を受ける小宮、(後方)坂垣組

各決勝戦の成績は次のとおり

男子団体	トヨタ自動車	３－１	電々東京
女子団体	トヨタ自動車	１－３	琴平電鉄
男子単	小　宮	２－１	板　垣
男子複	小宮・板垣	２－０	岡崎・遠藤
混合複	小宮・林	２－０	板垣・粂田
30歳以上単	荒　川	０－２	前　田
30歳以上複	荒川・谷沢	１－２	福井・河崎

・後藤鉀二会長、藍授褒章受賞

教育、体育の功労者として後藤鉀二会長が藍授褒章を受賞された。会長は県体育協会副会長、名古屋市体育協会会長等、スポーツ界の功労者であり、全国の受賞者の中でも最年少であったことからも、その偉大さを物語るものである。

昭和40年度

・協会史編纂委員会設置

協会20周年記念事業の１つとして、協会史編纂、記録の保存、ＰＲ等を目的として委員会の設置が39年度総会で決まり、40年度に入って理事長を委員長に８名の委員が選出された。

記念誌は41年度総会でも準備中との報告がされたが、発刊には至らなかった。

・第１回県社会人選手権大会を開催

社会人選手の増加にともない、また、全国大会においても、34年度から社会人大会が行われていることに合わせ、本年度より新設した。

大会は５種目で行われ、各種目の優勝者と参加数は次のとおり

男子一般単　岩后（トヨタ自動車工業）　70人
男子一般複　杉政・小林組（トヨタ自動車工業）32組
女子一般単　粂田（トヨタ自動車工業）　12人
女子一般複　武田・大塚組（トヨタ自動車工業）８組
男子成年複（30歳以上）
伊藤・皆川組（名古屋市役所）４組

・第１回高校強化合宿

３月27日から３日間、指導委員会の主催により県体育館第２競技場で男子８名、女子11名の選手により実施された。

昼間は基本を中心に実技、夜間は競技規則の解説とトマス杯の記録映画の鑑賞が行われた。なお、41年度から使用される水鳥球への慣れを含め、消耗度の調査を行った。

・国体、一般男子３連覇

第20回大会が10月25～28日岐阜市で開催され、一般男子は３年連続優勝を達成した。

・全日本総合、３種目で準優勝

秋田市で開催された大会で、男子単で板垣、男子複で小宮・板垣組、混合複で板垣・粂田組（以上トヨタ自動車工業）が準優勝を果たした。

・全日本実業団男子団体３連勝

第15回大会は６月18～22日に北九州市で開催された。トヨタ自動車工業は、男子団体で３年連続優勝を、女子団体では２年連続準優勝を達成した。板垣選手は男子単で電々東京の沢田選手を、同複では小宮選手と組んで甲府市役所の岡崎・遠藤組を、混合複では粂田選手と組んで同じトヨタの小宮・土井組を破って前年度の小宮選手に続いて個人三冠王、団体と合わせ四冠王を達成した。

男子団体戦　決勝
トヨタ自動車工業　３－２　電々東京（東京）
女子団体戦　決勝
琴平電鉄（香川）３－１　トヨタ自動車工業



3連覇達成のトヨタ自動車工業男子チーム

・中部日本選手権大会、県勢同士での決勝

第18回大会を９月22・23日に愛知県体育館で275名の選手が参加して開催した。

この大会では少女複で加藤・各務組（高蔵女商）、青年男子単で小宮（トヨタ自動車工業）、青年男子複で長谷川・杉政組（トヨタ自動車工業）が優勝したほか２種目に準優勝、４種目で３位に入賞した。

また、この年の総会で滋賀県の加盟が決定し11県となった。

昭和41年度

・板垣・安沢選手、トマス杯日本代表へ

トヨタ自動車工業の板垣善憲、安沢武司の両選手が、第７回世界選手権トマス杯日本代表選手に選ばれた。

日本代表団は、ニュージーランドで開催されたオーストラリアゾーンに出場し、インターゾーンへの出場を決めた。

・国体一般男子４連覇

10月24日から大分県日田市で開催された第21回大会に本県からは４連覇のかかる一般男子と高校男子が参加した。高校男子は福岡を破り、２回戦で新潟との戦いとなったが０－２で敗退した。一般男子は、栃木、福岡、新潟、大分を破り決勝戦で山梨と対戦した。熱戦の末２－１で山梨を破り４連覇を達成したが、１－１の後に安沢選手が15－10、18－17で勝った頑張りが大きかった。

・全日本総合混合複優勝

11月16日から東京都で開催された大会へ男子単２、複３、女子単２、複２、混合複３が出場した。混合複では、小宮・上野組、板垣・粂田組が順当に勝ち進み決勝戦で対戦し、小宮・上野組が優勝、板垣・粂田組が２位となった。男子複で小宮・板垣組が準決勝で東京の秋山・小島組に敗れ３位決定戦に回り、池田・森組を降して３位となった。（いずれもトヨタ自動車工業）

・秋月一孝副会長退任

・全日本社会人大会混合複２連勝

５月３～５日、長崎市長崎国際体育館で第９回大会が開催され本県から男女22名の選手が参加した。大会の結果は次のとおり。

男子単２位　安沢武司　３位　板垣善憲
男子複３位　板垣・安沢組
混合複優勝　板垣・粂田組
（いずれもトヨタ自動車工業）

・全日本実業団トヨタ自動車工業男子４連覇

第16回大会が６月25～29日に大阪市で開催された。男子団体戦へは本県から５チームが出場し、豊田自動織機は善戦したが３回戦で敗れた。トヨタ自動車工業は決勝戦で38年以来の電々東京との対戦となったが３－１で降し、４連覇を達成した。女子団体戦へは３チームが出場したが、名古屋鉄道が準々決勝で敗れた。トヨタ自動車工業は準決勝で電々東京に敗れた。３位決定戦で東邦レースに敗れ４位となった。

個人戦の結果は次のとおり

男子単優勝　板垣善憲
男子複優勝　板垣・安沢組
40歳複優勝　山城・深津組
混合複優勝　小宮・上野組

他に男子単、同複で２位、40歳単、混合複で３位に入賞した（いずれもトヨタ自動車工業）



優勝決定の瞬間、安沢選手（向う側）のドロップショット決まる

・日本協会表彰

技能賞　トヨタ自動車工業男子チーム
小宮好雄氏、板垣善憲氏
小宮選手は個人として３回目の受賞

昭和42年度

・県中学校大会始まる。

指導委員会では中学生の大会を実現するため早くからアンケートによる調査や普及活動に取り組み、前年度に第１回大会の計画をたてたものの残念ながら実施できなかった。

今年度に入り再度働きかけた結果、努力も実り、８月３日、名古屋電気工業高校喬徳館ジムにおいて、参加は６校であったが第１回愛知県中学校大会を開催することができた。

大会の結果は次のとおり

男子団体戦優勝　東海中学校
２位　半田中学校
女子団体戦優勝　淑徳中学校
２位　半田中学校
３位　千代田中学校

なお、終了後オープン戦として個人戦を行なった。

・各地の講習会・教室開催が盛んになる

昨年度から始まった名古屋市レクリェーションスポーツセンター講習会の他に中川区、中村区、碧南市などから講師派遣依頼が20回あり、いずれも地区別に指導委員を派遣した。

・国体一般男子堂々５連覇

22回大会は埼玉県越谷市で10月23日から開催され、本県からは５連覇にむけて一般男子が参加した。試合は２回戦からで山形、群馬、石川を降し、準決勝では２－０で東京を退け、決勝は神奈川との対決となり、熱戦の末２－１で勝ち５連覇達成の輝かしい成果をあげた。

・全日本総合、混合で優勝

横浜市で開催された大会において板垣善憲・太田節子組（トヨタ自動車工業）が優勝した。また、伊村隆・山際トモ子組（名古屋鉄道）も３位に入賞した。

・第10回全日本社会人、３種目に優勝

釜石市で開催された大会において、男子単で板垣善憲、男子複で小宮好雄・板垣善憲組、混合複で板垣善憲・太田節子組（以上トヨタ自動車工業）が優勝した。また、男子複、混合複でも準優勝を果たした。

・全日本実業団男子団体５連覇

第17回大会は６月24～28日に福井県勝山市で開催され、本県からは男子５チーム、女子３チームが参加した。トヨタ自動車工業は決勝戦でヨネヤマラケットとの対戦となり、やや苦戦を強いられたものの３－２で５連勝を達成した。

女子はトヨタ自動車工業が３位決定戦で電々東京に敗れ４位となった。

個人戦では小宮・上野組が混合複で、深津・山城組が成年男子40歳以上複でそれぞれ優勝したほか、3種目に準優勝、2種目に3位となった。



男子団体戦で活躍する板垣選手（向う側）

・県体育協会体育功労者表彰

田中章喜氏、加藤三郎氏、立松健市氏
鈴木勇氏

昭和43年度

・全日本学生、市邨学園短大ベスト8

第19回大会を11月4日から6日間、愛知県体育館で第17回東西対抗戦と併せて開催した。

この大会の本県での開催は2回目であるが前回は34年の第10回大会に計画され、伊勢湾台風によって準備のすべてが水泡に帰し、関東学生連盟のご厚意によって東京での開催となった。そして、復興なった36年に第12回大会を開催した経緯があった。

本県からは男子団体に愛知教育大学、名古屋商科大学、女子団体に市邨学園短期大学、名古屋女子大学が出場した。個人戦には男子が8校から単14名、複8組が、女子は5校から単11名、複7組が出場した。

男子団体では、名古屋商科大が初戦で立命館大を破り2回戦で第2シードの法政大と対戦したが0－3で敗退した。

女子団体では、市邨学園短期大が初戦で京都女子大を3－2で破ったが、3回戦で優勝候補の日本女子体育大に0－3で敗退し、ベスト8となった。

個人戦では男子単で名商大の河田、愛知大の牛田、女子単で名女大の石原が、女子複で椙山大の大竹·八島組がそれぞれ3回戦まで進んだ。



大会プログラム

・国体一般男子6連覇ならず

第23回大会が10月2日から4日間福井県勝山市で開催された。本県からは一般男子のみの出場であった。

試合は2回戦からで初戦は奈良を3－0、3回戦栃木を2－0で降し、準決勝は山梨との対戦となったが、善戦及ばず0－2で敗退、6連覇の偉業はならなかった。

・全日本実業団、男子6連覇

第18回大会は6月22～26日長崎県諫早市で開催された。

本県から男子4チーム、女子2チームが団体戦に参加し、男子はトヨタ自動車工業が電々東京を3－0で降し6連勝を果たした。女子はトヨタ自動車工業、名古屋鉄道ともに準々決勝で敗退し、ベスト8に終わった。

しかし、個人戦では男子複の小宮・板垣組、女子複の上野・太田組、混合複の小宮・上野組の3種目で堂々優勝を果した。混合複の小宮・上野組の優勝は3年連続であった。

・「お母さんの健康教室」にバドミントン

朝日新聞社が「お母さんの健康教室」を6月11日、愛知県体育館で、名古屋大学医学部高木健太郎教授の「お母さんの健康と病気」と題する講話とフォークダンス、美容体操、バドミントンを組み合わせた講座を開いた。

・日本協会表彰

技能賞　トヨタ自動車工業チーム
　　小宮好雄氏・上野明美氏

トヨタ自動車工業チームの受賞は2回目であり、小宮氏の受賞は4回目で団体受賞と合わせ7回目の受賞。

・県体育協会体育功労者表彰

後藤守氏、上原信彦氏

昭和44年度

・普及委員会を設置

43年度の総会において44年度の目標として

・バドミントンスポーツ少年団の結成

・バドミントン教室の開催

の２つが新たに決定した。

この目標達成のため、普及・育成を担当する普及委員会が設置され、初代委員長に後藤守氏（名古屋鉄道）が就任した。

・女性バドミントン教室始まる

バドミントンの愛好者の拡大を図るため、中日新聞社等の後援を受けて「女性教室」が９月から愛知県体育館で始まり、普及委員会が担当することになった。

教室は１か月４回単位で定員30名として毎月開催し、延べ304名が受講した。受講者にアンケートをとったところ継続実施の要望が強く、次年度も開催していくことになった。



県体バドミントン教室の練習風景

・全日本社会人２種目優勝

第12回大会が鹿児島市で５月３日から開催された。成績は次のとおり

女子複優勝　上野明美・太田節子組

混合複優勝　安沢武司・金子美和子組

（いずれもトヨタ自動車工業）

・全日本実業団、男子７連覇、個人４種目優勝

第19回大会は岩手県釜石市で６月28日から５日間にわたり開催された。男子団体では６連覇を果たしてきたトヨタ自動車工業が、決勝で強豪電々東京に３－１で勝ち堂々７連覇の偉業を成し遂げた。

女子団体戦ではトヨタ自動車工業が準々決勝で三菱重工業京都を、準決勝で第１シードの電々東京を破り決勝に進出した。一方豊田自動織機は初戦で名門日本コロンビア神奈川を破って勢いづき、沖電気東京、三菱電機神戸、準決勝で百十四銀行香川と次々と破って決勝進出を果たした。決勝は愛知県勢同士の対戦となったがトヨタ自動車工業が29年の第３回大会以来の優勝を勝ち取り、豊田自動織機が準優勝となった。個人戦では、男子複で長谷川・安沢組、女子単で太田節子選手、同複で上野・太田組、混合複で安沢・上野組（いずれもトヨタ自動車工業）が優勝したほか、２種目で準優勝、３種目で３位を獲得した。

・加盟金を改訂

先の総会で次のように改訂が決定し、本年度から適用されることになった。

団体加盟金　１年　１団体2,000円→ 3,000円

学連負担金　１年　2,000円→10,000円

（学連は１団体とみなす）

高校通信連絡費　１年　１校700円→ 1,500円

・日本協会表彰

技能賞　トヨタ自動車工業チーム

・県体育協会体育功労者表彰

各務通則氏、油井秀男氏

参考（総会資料にとじ込まれるようになった行事予定表　次ページ参照）

昭和44年度行事予定表

昭和４４年度行事予定表

愛知県バドミントン協会

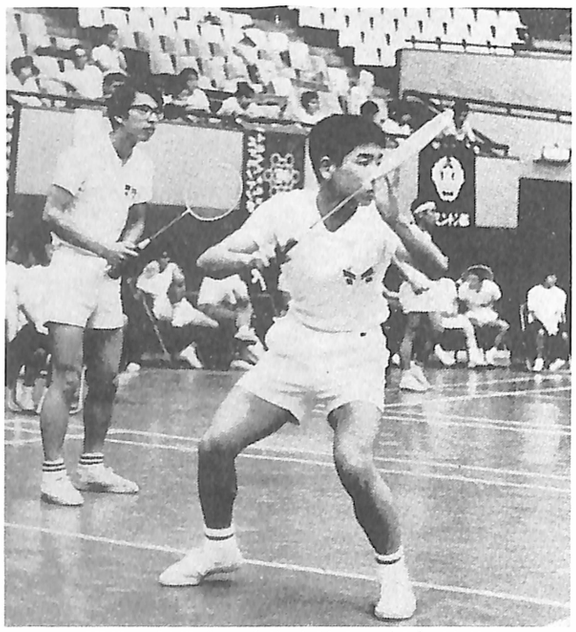
月　日	大会名	場所	主催（管）
4月　20　29　5月4･5日	第３４回中日楯争奪春季県新人大会	２０日　稲徳館ジム ２９日　金山体育館 5月4･5日県体育館第2競技場	県協会
5月　3～5日	第１２回全日本社会人選手権大会	鹿児島市	日本協会
11　18日	第２０回全国高等学校選手権大会　県予選会（個人戦）	稲徳館ジム	県協会・県高体連
２０～２４日	第２９回愛知学生・大学選手権大会	金山体育館	愛知学連
２５日	第５回県社会人選手権大会	富士製鉄体育館	県協会
6月　1・８日	第２３回県高等学校総合体育大会（団体）兼第２０回全国高等学校県予選会（団体）兼 第１６回東海地区高等学校体育大会予選会（団体）	県体育館第２競技場	県協会・県高体連
中旬	中産文バドミントン大会	東海銀行体育館	中産文連
８～１４日	第５回世界女子選手権大会（ユーバー杯）	東京体育館	日本協会
２８～２９日	第１６回東海地区高等学校体育大会	三重県宇治山田商工高校	東海高体連
２７～7月２日	第１９回全日本実業団選手権大会	岩手県釜石市	日本協会・日本実業団連盟
7月　1～６日	第１６回東海学生・第１７回東海大学選手権大会	金山体育館	東海協会・東海学生連盟
１１～１３日	第２０回五大都市体育大会	大阪市	五大都市
３０日	第３回県中学校大会	県体育館第２競技場	県協会
8月　1～7日	第２０回全国高等学校選手権大会	群馬県桐生市	日本協会・全国高体連
上旬	第８回全日本教職員選手権大会	埼玉県内	日本協会・日本教職員連盟
上旬	第９回西日本学生選手権大会	山口県内	中四国学連
９日	第２４回国民体育大会県予選会（高校の部）	稲徳館ジム	県協会・県高体連
１０日	第２４回国民体育大会県予選会（一般の部）	稲徳館ジム	県協会
３０日	第１１回市民スポーツ祭（高校の部）	稲徳館ジム	市協会
３１日	第１１回市民スポーツ祭（区対抗・選手権の部）	稲徳館ジム	市協会
9月　7・14・15日	第３５回中日楯争奪秋季県新人大会	稲徳館ジム	県協会
6・7日	第２４回国民体育大会東海地区予選会（一般女子・教員男子・高校男・女）	岐阜県民体育館	東海協会・岐阜県協会
１４・１５日	昭和４４年度東海総合選手権大会	静岡県富士市	東海協会・静岡県協会
２８日	第４回京都府対愛知県対抗競技会（国体選手）	県体育館第２競技場	県協会
10月　１０日	第１４回東海実業団選手権大会	稲徳館ジム	県協会・東海協会
２６～３１日	第２４回国民体育大会	長崎県諫早市	日本協会
下旬	中産文バドミントン大会	名鉄体育館	中産文連
11月　９日	第２４回県民体育大会・昭和４４年度県高等学校新人大会(団体)	稲徳館ジム	県協会・県高体連
１６日	昭和４４年度県高等学校新人体会（個人戦）	稲徳館ジム	県高体連
１５・１６日	第２２回中部日本選手権大会	三重県伊勢市	中部連盟・三重県協会
２０～２４日	第１７回中部学生・第１８回中部大学選手権大会	長崎県松本市	中部連盟・中部学生連盟
中旬	第２０回全日本大学・学生選手権大会兼第１８回全日本東西対抗競技会	東京都	日本協会・日本学生連盟
３０日	名古屋市千種区民バドミントン大会	稲徳館ジム	市協会・千種区
12月　上旬	昭和４４年度全日本総合選手権大会	東京都	日本協会
９～１４日	第３０回愛知大学・学生選手権大会	金山体育館	愛知学生連盟
1月　１１・１５日	第１４回名古屋市民選手権大会	金山体育館	市協会
１８・２５日	昭和４４年度県高校学年別大会	金山体育館	県高体連
2月　１１・１５日	第２１回県総合選手権大会	金山体育館	県協会
22日3月1・8日	第１１回県実業団選手権大会（リーグ戦）	金山体育館	県協会
3月　２２日	昭和４４年度総会	スポーツ会館	県協会

昭和45年度

・全国高校総体でベスト８

第21回大会を７月27日から７日間にわたって愛知県体育館で開催した。この大会を本県で開催するのは初めてであり、前年度には県協会理事長を部長とするインターハイバドミントン部会を設け、審判講習会の実施等の準備を進めてきた。

この大会の学校対抗戦には男子は名古屋電気工業高と東海高が、女子は名古屋女子商業高と高蔵女子商業高が出場し、名電工がベスト８に入賞した。また、個人戦でも加藤保利（名電工）がベスト８に入賞した。



３回戦で対戦中の東海高校山田（左）・清谷組

・女性教室チーム、県実業団リーグへ参加

44年９月から愛知県体育館で始められた「女性バドミントン教室」は回を重ねるごとに好評となり定員30名に対し、多い月は70名と苦情も出るほどであった。本年からは受講者でクラブ組織を編成し、毎月２回、別に練習を行った。そして、県実業団選手権大会の最下部リーグの３部に３チームが参加した。

・谷口寛選手、アジア大会代表に

タイのバンコックで開催された第６回大会の日本代表選手４人に選ばれた。試合は予選Ｂ組で３－０で香港に圧勝したが、準決勝でインドネシアに０－３で敗れた。

・全日本社会人、混合複で準優勝

第13回大会は５月３日から千葉市で開催され、前回混合複優勝の安沢武司・金子美和子組（トヨタ自動車工業）は決勝で堺栄一・天野博江組に惜しくも敗れ準優勝となった。

・全日本実業団、２種目で優勝

第20回大会は２月１日から高松市で開催され、本県から団体戦には男子６チーム、女子２チームが参加した。男子は名古屋鉄道が準々決勝で敗れたが、８連覇をねらうトヨタ自動車工業は順調に勝ち進んだ。決勝ではヨネヤマラケットと対戦したが、奮闘空しく２－３で敗れ８連覇の夢はついえた。女子は豊田自動織機が準々決勝で地元琴平電鉄に負け、トヨタ自動車工業は準決勝で、これも地元百十四銀行に惜しくも２－３で敗れ３位となった。

個人戦では、女子単で大橋美知子選手（豊田自動織機）が混合複で竹中・安沢組（トヨタ自動車工業）が優勝し、40歳以上複で準優勝、男子複で３位に入賞した。

・日本協会表彰

功労賞　渡辺成雄氏

・県体育協会体育功労者表彰

鈴木勇氏

■昭和46年度

・常務理事制の実施

45年度の総会において、「組織が拡大し会務は錯綜している。今後も加盟団体の増加が予想され、本会の目的達成にも支障をきたすので役員組織の整備が必要である。新たに常務理事制を新設し、会務全般に万全を期したい。」との提案が承認され、本年度から実施された。これにより役員の構成は理事長と常務理事11名、理事26名となった。

・審判委員会を新設

昨年度本県で開催した全国高校総体をきっかけに、円滑な大会運営を図るために審判員の養成に取り組んだ。担当の指導委員会では高体連と協力し、講習会等を開催して成果をあげることができたが、より力を入れていくため専門委員会として新設された。初代委員長には高体連の田中章喜氏が就任した。

・スポーツ指導員養成講習会を開催

文部省が提起、日本体育協会が主管し、県体育協会が実施した10種目の１つとして開催された。11月21日から３日間、江南市民体育館で県協会役員４名が指導にあたり、10名を養成した。この講習会はこれ以降10年間県内各地で開催された。

・後藤鉀二会長急逝

47年１月22日後藤鉀二会長が急逝された。

後藤鉀二会長と県協会とは設立当初から関係が深く、２代目、３代目の会長就任にもご尽力頂き、39年度からは会長に就任いただいた。そして、長年のバドミントン発展への活動が認められ本年度日本協会功労賞を受賞された。

協会では、１月30日緊急常務理事会を開催し、会長逝去による当面の協会運営、会長葬儀、後任会長の人選等について協議した。

後任会長については、副会長、理事長、総務委員長の三人委員会に付託し、葬儀については葬儀委員会を設置し、関係団体と協議しながら進めることになった。また、協会運営は年度変わりまで長谷川副会長が代行し対応することを決定した。

・国体一般男子４位に入賞

第26回大会が和歌山県で開催され、一般男子が参加したが、３位決定戦で岐阜県に敗れ、４位となった。

・全日本総合、本間選手男子単３位

東京都で12月７日から開催され、本間順次選手（トヨタ自動車工業）が準決勝で第１シードの小島選手と15－9、７－15、13－15の１－２で惜しくも敗れ３位となった。

・全日本社会人、本間選手単複ともに準優勝

７月23日から山梨県で開催された第14回大会で、次のような成績をおさめた。

男子複２位　本間順次・松島保組

男子単２位　本間順次選手

（いずれもトヨタ自動車工業）

・全日本実業団トヨタ男子８度目の優勝

鹿児島市で７月４日から開催された第21回大会には男女８チームが参加し、トヨタ自動車工業は昨年８連覇を止められた屈辱をバネに電々東京を３－１で破り、８度目の優勝を果たした。

女子団体ではトヨタ自動車工業が準決勝で電々東京に敗れ３位となった。

個人戦では、トヨタ自動車工業の本間順次選手が男子単で、名鉄の後藤守・井沢宏組が40歳以上複で優勝し、男子複で名鉄の伊村隆・樋口春組が３位となった。

・日本協会表彰

功労賞　後藤鉀二氏

国体10回以上表彰　野口勇氏

昭和47年度

・後藤淳会長就任

後藤鉀二会長の逝去にともない、後任会長について付託されていた三人委員会では、故会長の遺志を引き継いでご指導いただける適任者として、愛知工業大学学長後藤淳氏に就任をお願し快諾を得ることができた。



後藤淳新会長

・第２回全国中学生大会を開催

８月18日から３日間、愛知県体育館で32都道府県から男女66チームが参加して開催した。本県から男子は東海中、成岩中、女子は高蔵中、亀崎中の４校が出場した。

この大会は前年に東京で第１回が開かれたばかりであり、また、当時の県中小体連にはまだバドミントン部はなかった。そのため県協会は理事長を長とし、全役員による実行委員会を設け、線審を高校生部員に依頼するなど総力をあげて準備、運営にあたった。

・本間順次選手トマス杯で活躍

10月７・８日、東京都で第９回大会のアジアゾーン（東地区）決勝大会が日本とマレーシアの対戦で行われた。本間選手（トヨタ自動車工業）は、単で１敗したものの複で今泉選手（高岡市役所）と組み２勝するなどの活躍をしたが、日本は４―５（単２―３、複２―２）で惜敗し、インターゾーン出場の夢を果たせなかった。

・全日本総合、男子単準優勝

12月13日から３日間東京都で開催され、混合複を除く男女単、複に出場した。

男子単では本間選手が準決勝で昨年の優勝者梅野尾選手を降し、決勝へ進んだが、神奈川の小島選手に９―15、11―15で敗れ準優勝となった。

・国体、一般女子準優勝

10月23日から鹿児島市で第27回大会が開催された。本県からは一般男女が出場し、女子は決勝に進出、準優勝を果たした。なお、男子も４位に入賞した。

一般男子
本間順次
樋口隆
午島秀雄

一般女子
橋本香代・池田静江・富居康子



決勝戦で活躍する橋本（右）池田組

・全日本社会人、男子単複で３位入賞

第14回大会が四日市市で５月３日から開催された。本県から男女38名が参加し、男子単で本間順次選手、男子複で本間・松島保組（トヨタ自動車工業）がともに３位に入賞した。

・全日本実業団、男子単優勝

第22回大会が９月12日から千葉県茂原市で開催され、男子６、女子３チームが参加した。

団体の男子では昨年の覇者トヨタ自動車工業が、準決勝で河崎ラケットに２―３で敗れ、２連覇はならなかった。女子では、豊田自動織機が準々決勝で電々東京に惜しくも２―３で敗れた。

個人戦では、男子単で本間順次選手が昨年に続き２連勝した。また、混合複で豊田自動織機の武田・辻田組が３位に入賞した。

・県体育協会体育功労者表彰

渡辺成雄氏・野口勇氏・伊藤鑛一氏
中野正紀氏

昭和48年度

・広報委員会を新設

本年度開催の第１回日中名古屋大会での報道機関への対応と、愛好者への広報活動を行なうため新設された。初代委員長に大場直美氏が就任し、10名の陣容で活動を開始した。

・副理事長制の実施

理事長の職務が多様化してきたことから副理事長制が提案承認され、常務理事の互選により、野口勇、伊藤鑛一両氏が選任された。なお、副会長に吉岡紹直氏（愛知学生連盟会長）が就任した。

・県スポーツ会館女性教室始まる

５月から県スポーツ会館主催による「家庭婦人の楽しいスポーツ教室」が開設され、４種目のなかにバドミントンの部が設けられた。指導を普及委員会が担当し、継続されることになった。初年度の受講生は年間170名であった。

・日中競技大会始まる

第１回大会は９月２日東京大会を皮切りに、男女が分かれて全国10都市で開催された。

この大会の開催は、46年７月に日本卓球協会会長でもあった故後藤鉀二前会長が「アジア・アフリカ卓球友好招待試合」の準備会議に出席された折に、中華全国体育総会副主席の趙正洪氏にバドミントン競技の交流について打診したところ、趙副主席が中国バドミントン協会の会長を務めており、「卓球方式であれば問題はない」と話されたことが発端となった。これを受けて日本協会内に「日中交流部会」が設置され、48年１月、日本協会は北京で「会談紀要」の調印を行い、今回の競技大会が実現した。

県協会は、日中大会の名古屋市招致を働きかけ、９月13日に開催が決り、直ちに実行委員会を設置し、会場設営、観客動員、競技進行、審判団の編成、選手輸送・宿泊、広報等に万全を期し準備にあたった。

名古屋大会では開催地代表の池田静江（トヨタ自動車工業）富居康子（豊田自動織機）組の複から始まり男子の試合には、トヨタ自動車工業の本間順次、谷口寛両選手が出場して５試合が行われたが、１―４で中国が力の差を見せつけた。この大会は愛知県として初めて東海テレビから全国放映された。



開催地代表の池田（左）・富居組

日本協会は、今大会の答礼と親善のために11月13日から２週間の予定で訪中選手団を派遣、本間、谷口両選手が参加した。

・国体、一般男子３位

10月15日から千葉県茂原市で開催された第28回大会で一般男子は３位に入賞した。

・沖縄特別国体では優勝

５月３日から３日間、沖縄の本土復帰を記念した「沖縄特別国体」が石垣市で開催された。

この大会は一般男女の２種別に地元を含め各８県の参加で行われ、本県からは男子が出場し見事優勝を果たした。

選手　本間順次、松島保、松島信之

・日本協会表彰

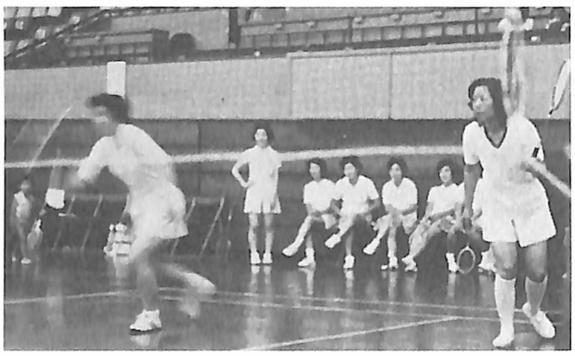
功労賞　伊藤鑛一氏

昭和49年度

・県家庭婦人大会始まる

44年から始まった「女性バドミントン教室」は年々盛んになり、これ以外にも県スポーツ会館、犬山、豊田を始め各地に教室や同好会ができ、48年にはこれらの教室や同好会が参加した交歓試合がおこなわれた。そして本年、県協会・中日新聞社主催による第１回県家庭婦人大会(団体戦)を、８月25日県体育館で18チームの参加を得て開催した。

大会は参加チームを春・夏・秋・冬組の４ブロックに分け、各組ごとにリーグ戦を行い、優勝を決める方式がとられた。また、個人賞が設けられ各組から１名が表彰された。



ベンチからの声援で頑張る選手



試合を終えて晴れの表彰

・国体、一般男子３位入賞

第29回大会が茨城県石岡市で10月21日から開催された。一般男子は準決勝で東京に敗れたが、３位決定戦で富山を破り３位になった。

一般男子　本間順次、谷口寛、松島保

・全日本総合、男子複準優勝

12月11日から東京都で開催され、本県から男女単３、複１、混合複１が出場した。

男子単では本間選手は順当に勝ち進んだが準決勝で銭谷選手に競い負け３位となった。

男子複では本間・谷口組が決勝で池田・栂野尾組に７―15、９―15で敗れ準優勝となった。

・全日本社会人50歳男子単優勝

青森県浪岡市で開催された第17回大会において、50歳男子単で中村高久氏（豊田自動織機）が初優勝を飾った。この大会が全日本実業団から分離してから本県選手が優勝したのは初めてであった。

男子単では、谷口寛選手（トヨタ自動車工業）がベスト４まで進んだが、準決勝で今泉勉選手（高岡市役所）に敗れた。

・全日本実業団、本間選手男子単４連勝

三重県松阪市で６月25日から第24回大会が開催され、個人戦で本間順次選手（トヨタ自動車工業）が栂野尾選手を破り４連勝を飾った。

また、男子複で本間・谷口組（トヨタ自動車工業）が昨年準決勝で負けた高岡市役所の河村・今泉組を２―０で破り、昨年の雪辱を果たすとともに優勝を手にした。

・全日本教職員で初入賞

８月８日から熊本市で開催された第13回大会の男子団体で３位に入賞した。本県にとってこの大会での入賞は初めてであった。

昭和50年度

・日中大会を開催

第４回日中競技大会は11月下旬に京都、神戸、名古屋、北九州、東京の５会場で開催され、県協会は３戦目の名古屋大会を11月23日、愛知県体育館で主管した。日中大会は48年に続き２度目であり、準備も順調に進めることができた。

日本代表チームは男女各６名の選手で編成されたが、この中に本県の谷口寛、本間順次選手（トヨタ自動車工業）が選ばれた。

試合は男子単１、２、女子複１、女子単、男子複１、２、女子複２の順で７試合が13時から始まったが、熱戦の連続で終了したのは19時少し前であった。結果は４―３で中国の勝利となったが、男子複２には谷口・本間組が出場し、惜しくも１―２で敗れた。



スコアを取り応援する中国選手団ベンチ

・本間選手、トマス杯へ

第10回トマス杯６人の代表選手の中に本間順次選手（トヨタ自動車工業）が選ばれた。本間選手は中央大在学中の第８回大会、トヨタ自動車へ入社翌年の第９回大会にも代表に選ばれている。日本は東京で行われたアジアゾーン東地区大会第１回戦で香港に９―０で圧勝した。

・国体、成年男子一般で４位

10月27日から三重県松阪市で開催された第30回大会には、成年男子一般、同教員、成年女子、少年男子の４種別が出場し、成年男子一般は５年連続の準決勝進出であったが４位となった。

・全日本総合男子複で３位

12月10日から東京で開催され、本間順次・谷口寛組（トヨタ自動車工業）が３位に入賞した。

・全日本社会人50歳男子単２連覇

９月27日から長野県中野市で開催された第18回大会において、中村高久選手（豊田自動織機）は決勝で地元長野の片瀬選手を接戦の末２－１で破り、堂々２連覇を達成した。



接戦を制し２連覇を果たした中村高久選手

・全日本実業団では男子単準優勝

７月５日から富山県高岡市で開催された第25回大会において、男子団体ではトヨタ自動車工業が３位、男子単では本間順次選手が準優勝、同複でも本間順次・谷口寛組が準優勝を果たした。

昭和51年度

・規約を一部改正

前年度総会において会員登録料の改訂を日本協会の改訂に合わせて決定したが、従来、規約に記載していた登録料を新たに「愛知県バドミントン協会登録規定」として細部事項を含め制定し実施した。

規約については48年度の総会において次の趣旨で規約改正小委員会の設置が決定していた。

「35年４月に改正された本会規約について、その後の社会情勢の変化、並びに県内に各支部の設立が相次いで結成されつつある現在、また、輻湊する会務の充実を図るため、現行の規約を改正する必要がある」

このように全文の改正をめざしたので、答申を得るまでには時間がかかると判断し、関係条文のみを改訂することを付記し提案された。

この審議は組織の変更を中心とした改正案を54年度の総会に提案するまで続いた。

・県クラブ対抗始まる

クラブチームはこれまで県実業団選手権大会リーグ戦に参加してきたが、クラブチーム数の増加も実力も向上してきたことから、本年度より実業団リーグ戦から分離して、県クラブチーム対抗選手権大会リーグ戦として始まった。第１回大会には男子24チームが４部に、女子10チームが２部に分かれ、5月3日から6月20日までの間の日曜日、延べ7日間熱戦が繰り広げられた。

１部の優勝チームは男子が豊田バド同好会、女子は名北クラブであった。

・県中学生個人戦始まる

11月23日、愛知県体育館で第１回の個人戦を開催した。中学生の大会は団体戦が始まって今年で10年になるが、その間熱心な普及活動が行われて今回の運びとなった。この大会には男子単23人、同複19組、女子単39人、同複39組の参加があった。

・県選抜対抗戦始まる

「県下のバドミントンの底辺拡大は急速に進んでいるが、一方これに並行した頂点の引き上げ、すなわち競技力のレベルアップが重要である。この課題への取り組みとして実業団・クラブ・大学・高校各層の選抜チームによる指導をかねた交流大会を行う」ことを主旨とした第１回県選抜対抗戦を７月25日刈谷市体育館で開催した。試合には男子は各２チームずつの８チーム、女子は実業団２チーム、高校４チームの計６チームが参加し、男女とも複２、単３の団体戦を２グループに分けてのリーグ戦方式で実施した。結果はいずれも地力に勝る実業団チームが勝った。実技指導もあり、主旨にそった有意義な大会であった。

・本間選手、トマス杯で活躍

前年度、第10回トマス杯アジアゾーン東地区大会を勝ち抜き、東京で開催された韓国との決勝大会に臨み、９―０で完勝し、インターゾーンアジア地区代表の座をかけて同西地区代表のマレーシアと対戦することになった。マレーシアのクアラルンプールで行われた決勝大会では３―６で敗れたが、昨年日本代表になってからの本間選手の活躍は大なるものがあった。

・全日本総合、谷口選手３位入賞

12月８日から東京都で開催され、男子単で谷口寛選手（トヨタ自動車工業）が３位に入賞した。



堂々3位入賞の谷口選手

■昭和52年度

・創立30周年記念事業の実施

前年度の総会において「10周年、20周年は企画したが実現できなかった。30周年は実行委員会を設け実施していく」ことが決定された。4月に入り理事長を委員長とする9名の実行委員会が編成され、3つの事業の準備に入った。

・県総合選手権大会の開催

創立年度の23年に第1回が開催された伝統ある大会である。当初から創立記念日の前後に開催してきたので今回の29回大会も創立日当日の2月11日と翌12日に記念大会として愛知県体育館で開催した。

・記念祝賀会

2月11日、県総合選手権大会終了後の17時30分から中国大飯店新館で開催した。日頃協力いただいている4業者に感謝状を贈ったあと、なごやかに懇親を深めた。

・30周年誌の発行

広報委員会が担当し、資料の整理等を進めたが発行には至らなかった。

・公認指導員、審判員の特別昇級

日本協会の30周年記念事業として実施され、本県では指導員は1級35名、2級1名が特別昇級したほか、新規の申請を含め1級40名、2級4名、3級59名が公認された。審判員は1級36名、2級5名の特別昇級が公認された。また別に次年度に開催される全日本学生選手権大会等のため、審判講習会に力を入れ、68名が3級を取得した。

・県中学新人大会始まる

前年度から個人戦が実施されるようになったが、さらに本年度から1、2年生を対象とした新人大会が設けられた。

第1回大会は11月13、20日の2日間、東海中学校で行われ、男子単46人、同複に21組、女子単に77人、同複に55組が出場した。

・全日本総合、谷口選手3位入賞

12月14日から東京都で開催され、谷口寛選手（トヨタ自動車工業）が出場した。順当に勝ち進んだが準決勝で電々東京の土田選手に敗れ3位となった。

・全日本社会人、50歳単で準優勝

20回大会は9月15日から栃木県真岡市で開催され、男子50歳以上単に出場した山城智徳選手（トヨタ自動車工業）は決勝へ進出し、東京の斉藤選手と対戦したが敗れ、惜しくも準優勝となった。

・全日本実業団、40歳複で準優勝

27回大会は6月17日から団体戦は大阪、個人戦は京都と分かれて開催され、本県からは男子8チーム、女子5チームが参加した。団体戦は準々決勝でトヨタ自動車工業男子が電々東京に敗れたのを始めいずれも上位進出ならなかったが、個人戦の男子40歳以上複で伊藤雅昭・鬼頭弘明組（電々東海）が準優勝した。



準優勝表彰を受ける伊藤・鬼頭（右端）組

昭和53年度

・創立30周年記念行事の実施

30周年に当たる前年度２月に記念事業として、県総合選手権、記念祝賀会を実施したが、１つの区切りとして組織の確立と発展を進めるため、国際大会、日中大会、全日本学生選手権、全国中学生大会を開催していくことになった。（53年度予定表　次ページ参照）

なお、日中大会は中国側の事情により延期された。

・ワールドカップ'79愛知大会

１月24日、刈谷市体育館の開館10周年を記念して開催した。この大会は、日本協会が世界６カ国から招待した24名の選手に日本代表選手を加え、全国7会場で実施した権威あるものである。

愛知大会では単が男女各３試合、複が男女各１試合行われ、単にはトヨタ自動車工業の谷口選手が出場した。



ワールドカップ'79の大会風景

・第29回全日本学生選手権大会

10月16～22日に愛知県体育館で開催した。

本県では36年度、43年度に次ぐ開催であったが、審判員の養成も進み、円滑に運営することができた。

・第８回全国中学生大会

８月18日から３日間、愛知県体育館で開催した。本県では47年度の第２回大会から６年目の開催であったが、中小体連への加入に至っていなかったので県協会の主管で進められた。

しかし、この間、中学生の登録数は600名を超えるまでになり、大会の準備、運営への指導者の参画が６年前の前回に比べ大幅に進んだ。

・県内大会の開催要領の変更

・県選抜対抗戦

51年度に交流を目的として始められたが、レベルアップには競い合うことが大切であるとの考えで、本年度より県総合選手権大会団体戦と変え、県のランキング試合として優勝杯を設け開催することになった。

・国体予選一般の部

この大会は県社会人大会と兼ねて開催していたが、国体へは登録の有無に関係なく出場できるという主旨から、本年度より分離した大会となった。

・実業団選手権大会リーグ戦

女子の試合方法は、１複２単であったが、全日本実業団への選考基準に合わせていくため本年度より２複３単になった。これにより一時的に女子の参加数が減少した。

・全国大会、30、40、50歳で好成績

・第21回全日本社会人選手権大会

滋賀県大津市で開催され、本県から男女48名が参加した。

30歳以上男子単で伊藤雅昭選手（電々東海）、50歳以上男子単で、中村高久選手（豊田自動織機）、50歳以上男子複で中村高久（豊田自動織機）・山城智徳（トヨタ自動車工業）組がいずれも３位に入賞した。

・第28回全日本実業団選手権大会

東京都で６月13～18日に開催された。

個人戦の40歳以上男子複で伊藤雅昭・鬼頭弘明組が準優勝を果たしたほか、同単でも伊藤雅昭選手が３位に入賞した。

・婦人指導者講習会開催

名古屋市体育館で、名古屋市各区、市町村から56名の参加を得て「初心者を指導するには」のテーマで講習会を開催した。この講習会は指導者の養成のため58年まで継続された。

昭和53年度行事予定表

昭 和 53 年 度 行 事 予 定 表

愛知県バドミントン協会

月	県協会（含、学連、高体連）		日本、中部、東海関係		県内支部関係、その他	
	大会名	期日・場所	大会名	期日・場所	大会名	期日・場所
4			第9回女子チャンピオンズトーナメント兼ユーバー杯選手団壮行会	4/ 東京	第7回岡崎市市民大会 犬山市春季市民大会 刈谷市長杯大会	4/2 岡崎市体 4/2 犬山市体 4/16 刈谷市体
5	第47回東海大学リーグ戦兼第26回愛知学生選手権大会 第52回中日婦争春季県新人大会 第3回県中学生大会（個人戦） 第27回県実業団選手権大会（前期リーグ戦） 第5回クラブ対抗選手権大会（前期リーグ戦）	5/1, 2, 4 県体Ⅰ,Ⅱ 5/8, 9, 10, 11 名市体 5/3, 5 県体Ⅰ,Ⅱ 5/3 刈谷市体 5/5, 7 東海中体 5/13, 28 県体Ⅰ,Ⅱ （28日Ⅰのみ） 5/27, 28 名市体 5/21, 6/18 知多市体 6/25 刈谷市体			第29回全国高等学校選手権大会県予選会兼第25回東海高校総合体育大会県予選会兼第24回県高等学校総合体育大会 尾張支部予選会 名北支部予選会 名南支部予選会 三河支部予選会 第29回五大都市体育大会名古屋市予選会	 4/29, 30, 5/5, 7 古知野高 4/16, 5/21 名市体 4/23, 5/7, 14 県スポ 4/30 喬徳館 4/16 知多市体 5/5, 7 知多高 4/23 刈谷市体 4/29, 30 時習館高 4/29, 30 豊橋西部体 5/20 名市体
6	県審判講習会 第29回全国高等学校選手権大会県予選会兼第25回東海高等学校総合体育大会予選会兼第24回県高等学校総合体育大会（団体戦、個人戦） 第11回県中学校大会（団体戦）	6/4 県スポ 6/4, 11 刈谷市体 6/18 時習館高 6/18 東海中体	第28回全日本実業団選手権大会 第25回東海高等学校総合体育大会 第26回東海学生選手権大会 第6回日中競技大会	6/13～18 東京 6/24, 25 愛知 時習館高 6/23, 24, 25, 三重鈴鹿 6/27～7/11 各地	東海市市民大会 一宮市市民大会 犬山市家族大会 第4回豊田市新人大会 第3回春日井市家庭婦人大会 大府市会長杯大会	6/4 新日鉄体 6/4 一宮市体 6/11 犬山市体 6/11 豊田市体 6/25 勤労会館 6/
7	県指導講習会 第5回県家庭婦人大会 第33回国民体育大会県予選会（成年の部男子・女子、教員男子）兼第14回県社会人選手権大会	7/21, 22 知多市体 7/23 県体Ⅰ 7/29 名市体 7/30 繊機体 8/6 刈谷市体	第6回日中競技名古屋大会 第18回西日本学生選手権大会	7/2 愛知名市体 未定	県民大会西尾張大会犬山市予選会 第3回春日井市選手権大会 第7回岡崎市社会人大会（前期リーグ） 第29回五大都市体育大会 大府市親子大会	7/2 犬山市体 7/9, 16 勤労会館 7/16, 30 岡崎市体 7/21～23 京都 7/
8	第33回国民体育大会県予選会（少年の部男子・女子）	8/17, 18 県体Ⅰ,Ⅱ	第29回全国高等学校選手権大会 第17回全日本教職員選手権大会 第8回全国中学生大会 第2回全日本高等専門学校選手権大会 第21回全日本社会人選手権大会	8/3～8 福島 会津若松 8/10～14 宮城仙台 8/18～20 愛知県体Ⅰ 8/ 宮城仙台 8/26～29 滋賀大津	第20回名古屋市民スポーツ祭 家庭婦人の部 高校の部 区対抗の部	 8/23 喬徳館 8/26 喬徳館 8/27 喬徳館
9	第27回県青年体育大会 第53回中日婦争春秋季県新人大会 昭和53年度県総合選手権大会（団体戦）	9/3 県スポ 9/3, 15 刈谷市体 9/15, 24 知多市体 9/10 刈谷市体	第33回国民体育大会東海地区予選会 全日本男子オールスターダブルス78 第8回アジア競技大会選手選考会 昭和53年度東海総合選手権大会	9/3 三重松坂 9/10 東京 9/15～17 東京 9/23, 24 愛知名市体	犬山市秋季市民大会 第33回県民体育大会 西尾張大会 東尾張大会 西三河大会 東三河大会 1部 2部 第8回岡崎市選手権大会	9/3 犬山市体 9/10 稲沢 9/10 東海 9/10 安城 9/10 新城 9/10 田原 9/24 岡崎市体
10			第23回東海実業団選手権大会 第33回国民体育大会 第29回全日本大学学生選手権大会	10/8 愛知繊機体 10/15～20 長野岩尻 10/16～22 愛知県体Ⅰ	昭和53年度県高等学校新人大会 尾張支部予選会 名北支部予選会 名南支部予選会 三河支部予選会 第3回名古屋市家庭婦人大会 オール知多大会 刈谷市民大会	 9/17, 23, 24, 10/1 古知野高 10/1, 8 喬徳館 10/8, 11/5 県スポ 9/23, 24 知多高 11/12 知多市体 9/17, 23, 24 時習館高 9/17, 23, 24 豊橋西部体 10/23 県体Ⅰ 10/1 知多市体 10/下旬 繊機体
11	第2回県中学生新人大会 昭和52年度県高等学校新人大会	11/12, 19 東海中体 11/19, 23 知多市体 11/19, 23 時習館高	第26回中部学生第27回中部大学選手権大会 第31回中部日本選手権大会 昭和53年度全日本総合選手権大会（個人戦）	11/6～11 岐阜岐阜 11/18, 19 石川金沢 11/14～19 東京	東海医歯薬大学大会 一宮市民大会 昭和53年度春日井市民大会 第8回岡崎市民社会人大会（後期リーグ） 犬山市IBA杯争奪戦 大府市新人大会	11/19～21 県体Ⅰ,Ⅱ 11/5 一宮市体 11/26, 12/3 勤労会館 11/16, 26 岡崎市体 11/19 村田機械体 11/
12	第28回県実業団選手権大会（後期リーグ戦） 第6回県クラブ対抗選手権大会（後期リーグ戦） 第48回東海大学リーグ戦兼第23回愛知学生新人選手権大会	12/9, 10 名市体 12/10 刈谷市体 12/17 繊機体 3/4 新日鉄体 3/10, 11 県体Ⅰ,Ⅱ 12/4～8 名市体 12/11～13 県体Ⅰ,Ⅱ			名古屋市家庭婦人指導講習会 第23回名古屋市市民選手権大会 東海市市民大会 第5回豊田市市民大会	12/2 名市体 12/3, 24 名市体 12/3 新日鉄体 12/10 豊田市体
1	昭和53年度県高等学校学年別大会	1/7, 15 2/12 名市体 1/7 知多市体 1/7 刈谷体 1/7, 14, 15 時習館高 1/14 豊橋西部体	国際大会 第7回全国高等学校選抜優勝大会 東海地区予選会	1/中旬～下旬 各地 1/14 愛知刈谷 1/		
2	昭和53年度第30回県総合選手権大会（個人戦）	2/10～12 名市体	昭和53年度全日本総合選手権大会・（団体戦）	2/17, 18 東京	第1回豊田市選手権大会 犬山市混合ダブルス大会 大府市市長杯大会	2/11 豊田市体 2/11 犬山市体 2/
3	昭和53年度評議員会	3/25 県スポ（予定）	第7回全国高等学校選抜優勝大会	3/下旬	刈谷市総合選手権大会	3/11 刈谷市体

昭和54年度

・連盟組織の確立

48年度の総会において「規約改正小委員会」の設置が決定され、今後の発展をめざした組織体制づくりについて関係者で検討を重ねてきた。すでに実業団、教職員、学生、高校は全国組織に加盟して活動をしていた。また、社会人、家庭婦人、中学校も実質的にそれぞれの団体として大会を開催する等、基礎固めが進められてきた。10月以降に家庭婦人、実業団、社会人、教職員の4団体の県連盟が設立され、学生、高校、中学校を含めた7連盟が団体として県協会に加盟した。すなわち、個人の集合体が組織的に活動する連盟の集合体に変わることになった。これにともない全規約の改訂が年度末の総会に提案、承認され、新組織での活動が進められることとなった。

これにより、愛好者が当時の4,000人台から9,000人台に飛躍する体制が確立できた。なお、小委員会は市町村協会（連盟）についての調整を引き続き進めていくことになった。

・県オープン大会を開催

11月23日、サンバタ杯争奪第1回県オープン競技大会を愛知県体育館で開催した。

53年に幻となった名古屋オリンピック誘致が決定され、バドミントン競技も正式種目に採用されるかもと期待の時でもあった。

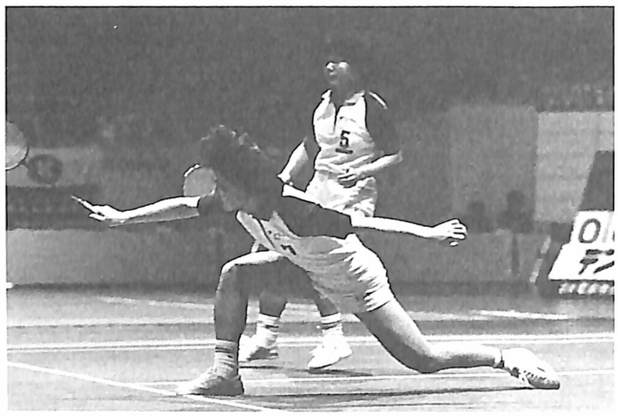
次代を担う選手の育成（将来的には日本代表選手を本県から）することと選手強化事業の一環として成果を見極めることで、参加資格も25歳以下とし、男女とも単のみを実施した。

この大会には男子73名、女子66名が参加、優勝は男子が名城大の近藤選手、女子が日本電装の片山選手であった。

この大会は59年まで6回開催した。

・日本リーグ始まる

第1回日本リーグが12月8日から1月13日までの間、東京を始め5都市で開催された。本県からは日本電装女子が参加した。成績は下位にとどまったが、コートに入るときの選手の礼儀正しさが目を引き、大会役員からも「日本電装を見習え」という声が上がっていた。



第1回日本リーグで対戦中の日本電装、加塩（左）水谷組

・全日本実業団　伊藤・鬼頭組3年連続入賞

第29回大会が6月22～27日まで岡山県で開催された。団体戦ではトヨタ自動車工業男子が準々決勝へ進んだが、昨年2位のヨネックスに敗退した。個人戦では、電々東海の伊藤雅昭・鬼頭弘明組が40歳以上男子複で3位となり3年連続の入賞を果たした。

・全日本教職員、平松・平岩組3位入賞

第18回大会が北九州市で開催された。30歳男子複で平松孝孔・平岩友憲組が3位に入賞した。

昭和55年度

・選手強化委員会を設置

54年度総会において設置が承認され、初代委員長を野口勇副理事長が担当した。

最初の事業として、ジュニアを対象とした強化合宿を県体育協会の指導を得て12月24～27日、３泊４日で刈谷市体育館、豊田自動織機体育館で実施した。この合宿には中学生27名、高校生28名の計55名が参加した。

ねらいは、中高生の有望選手のレベルにあった指導をすることにより、将来本県の中心選手、全国レベルに対抗できる選手を育てることであった。

・日中競技大会復活

第６回名古屋大会を４月26日、愛知県体育館で開催した。この大会は48年、50年の２回開催してきているが、52年、そして53年の創立30周年記念大会と位置づけて計画してきたときは、中国側の事情で中止になっていた。

これに対し、後藤会長が中国バドミントン協会会長へ中止に対する遺憾の意と、日中大会継続への態度表明を記した親書を送るなど、再開に向けて努力され復活できた。

この大会は、故後藤鉀二前会長が先鞭をつけられ始められたものである。

名古屋大会の放映は、中部日本放送（ＣＢＣ）が企画し、中国国営放送の宗世雄アナウンサーの実況で衛星中継により中国へ送られた。日本から中継されるのは初めてで、コマーシャルもそのまま流された。

・日本リーグ愛知大会を開催

本県では初開催となる第２回大会を12月21日、刈谷市体育館で、全日本学生対北海道（男子）とサントリー対日本電装（女子）の対戦で行った。日本電装は地元での大会であり頑張ったが、善戦空しく勝点に結び付かなかった。

・国体、女子３位、男子４位入賞

第35回大会は10月13日から栃木県真岡市で開催され、成年男女、少年女子の３種別に参加した。成年女子は準決勝で東京に敗れたが、３位決定戦で千葉に勝ち３位となった。成年男子は準決勝で石川に、３位決定戦で神奈川に敗れ、４位となった。

なお、本年度より東海４県で国民体育大会第１回東海大会、いわゆる「ミニ国体」が始まったが、東海ブロックの予選会もこれまで競技団体別に行っていたものを、この大会から兼大会として統一されて実施することとなった。

また、この大会から教員男子が廃止され、成年男子に教員が１名加わるよう変更された。

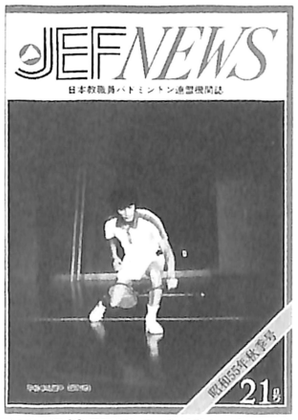
・全日本実業団、40歳単で３位

第30回大会は６月13～18日愛媛県新居浜市で開催され、個人戦40歳以上男子単で伊藤雅昭選手（電々東海）が28回大会以来２度目の３位入賞を果たした。

・全日本教職員、男子30歳単で優勝、複で３位

８月７日から金沢市で開かれた第19回大会で、平松孝孔選手が30歳男子単で初優勝した。

30歳男子複で平松孝孔・飯村順一組が３位に入賞した。



日本教職員連盟機関紙の表紙になった平松選手

・県体育協会体育功労者表彰

吉岡紹直氏、長谷川参三氏、渡辺成雄氏

昭和56年度

・広報誌「バドミントン愛知」発刊

委員会設置以来待望久しい第１号が９月に発行された。広報誌はＢ５版４ページであったが盛り沢山な内容であった。この年には２号まで発行され、以後、年４回の発行を続けている。現在は情報量も多くなり、８ページに増版されている。

発刊の背景は次の後藤会長の「発刊のことば」に表れている。

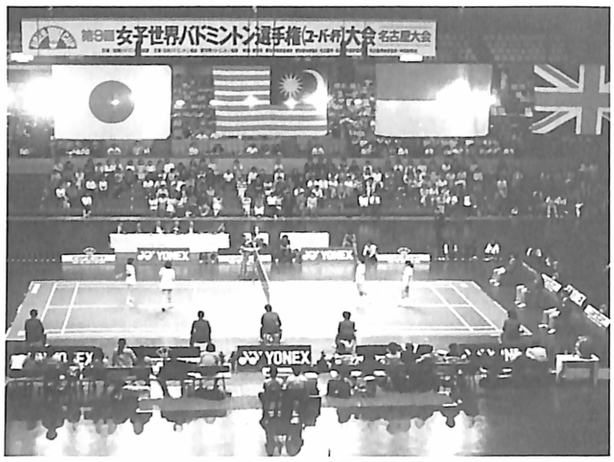
> 現在加盟団体300、会員5,000名を有する協会として成長してまいりました。しかし県バドミントン協会の選手の実力はここ数年不調をかこつ現在であります。
>
> この機に「バドミントン愛知」を発刊し県内の普及と選手強化の指針となり併せて協会の発展を願って計画されたものであります。バドミントン競技を愛好される方々は勿論、友好競技団体役員諸賢のご指導によって「バドミントン愛知」が愛されるものとなり、ながく記録を後世にのこすものとなることを心から祈り発刊の言葉といたします。

・ユーバー杯を開催

第９回女子世界選手権大会名古屋大会を５月26・27日愛知県体育館で開催した。名古屋大会はヨーロッパ地域勝者のイギリスとオーストラレーシア勝者のインドネシアとの対戦で、１日目は２単２複、２日目は３単２複で行われた。試合は５―４でインドネシアが勝ち、東京での決勝戦に進んだ。

県協会ではこれまで数々の国際大会、全国大会を経験してきたが、世界選手権大会は初めてで、これまで以上に会場関係、審判関係、さらにドーピング検査もあり細心の注意を払って準備に努めた。結果、成功裡に開催できた。これに対し、日本協会から感謝状が授与された。

なお、この大会は日本がインドネシアを降し２回連続、５度目のチャンピオンになった。



ユーバー杯の試合風景

・全日本実業団を開催

ユーバー杯の疲れもまだ取りきれない９月10日から６日間にわたり、愛知県体育館、名古屋市体育館、知多市体育館、一宮市産業体育館の３市４会場40コートを使って第31回大会を開催した。この準備のため実行委員会を設けたが、規模も大きく、また、会場も離れているため、実業団連盟関係者は泊りがけで準備を進めた。

本県の成績は30歳以上男子複で三菱重工名古屋の松波・沢田組、40歳以上男子複で伊藤・鬼頭組が３位に入賞した。伊藤・鬼頭組はこの種目４度目の入賞となった。

なお、個人戦はこの大会で最後となり、次回からは団体戦のみとなった。

・日本リーグ愛知大会を開催

11月29日、刈谷市体育館で第３回大会を開催した。試合は、電々東京対高岡市役所（男子）と日本電装対全日体大（女子）を行い、日本電装は昨年に続いて地元での試合となり、全日体大を３―０で破った。男子の試合は電々東京が３―０で高岡市役所を降した。

・県体育協会体育功労者表彰

青山敏郎氏、伊藤鑛一氏
鈴木勇氏、田中章喜氏

昭和57年度

・国際大会、全国大会を開催

近年は国際大会、全国大会を毎年のように開催してきているが、本年度も６月に日韓大会、７月に日中大会、９月に日本リーグを開催した。

・第１回日韓競技大会

６月12日、露橋スポーツセンターで日韓の男女ナショナルチームにより行った。この大会は日本協会が打ち出した隔年訪問による日韓定期戦の第１回大会であった。試合は２複３単で行なわれ男女とも３―２で日本が勝利した。



両国選手が整列した第1回日韓競技会開会式風景

・第８回日中大会

７月18日、露橋スポーツセンターで開催した。今回は日中国交正常化10周年記念としての大会でもあった。試合は、男子は１―２で中国が、女子は２―１で日本が勝利した。会場がナゴヤ球場の隣であったことから、試合終了後、中国選手団は中日対ヤクルト戦を観戦した。

・第４回日本リーグ刈谷大会

９月26日、刈谷市体育館で男子が電々東京対全日体大、女子が日本電装対サントリーの試合を行った。日本電装は地元で３年続けての試合であったが惜しくも敗れた。男子は電々東京が勝利した。

・審判員養成活動を充実

来年度、豊橋市で開催する第34回高校総体に向けて次のように強化充実をはかった。

・１級２名、２級14名が検定に合格

・鹿児島での全国高校総体、富士宮市での東海高校総体に各４名を派遣し、視察および研修を実施。

・２月20日・３月13日の２回、豊橋市内の高校１、２年生350名を集め、線審・スコアラーの養成指導を実施

前回全国高校総体を本県で開催した45年でも高体連を中心とした活発な審判員養成活動が引金となって審判委員会が誕生したが、今回も大きな役割を果たすことになった。

また、50年代に入ってから毎年のように行われた国際大会、全国大会も次のように審判員を拡大させた。

	１級	２級	３級	計
53年	42名	20名	155名	213名
57年	41名	33名	487名	561名

・全国中学校選抜大会、女子複で３位入賞

第12回大会が８月25～27日に新潟市体育館で開催され、淑徳中学校は女子団体ではベスト８であったが、女子複で六郷由香・伊藤千恵組が３位に入賞した。全中での入賞はこれが初めてであった。そして、12月東京で開催された第１回全日本ジュニアの女子複は全国から16組が選ばれ、内４組が中学生でその１組として出場した。

・県中小体連バドミントン部発足

全国中学生大会が、全国中学校選抜競技大会と名称が変更されるとともに中学校大会の主催が日本協会・全国中学校体育連盟主催となった。この事から県中小体連にバドミントン部が設置され、初代部長に春日井市勝川小学校長若山祐次氏、副部長に東海中学校伊沢忠男氏が就任、部員３名で発足した。

・県体育協会体育功労者表彰

油井秀男氏、土原信彦氏

昭和58年度

・新理事長に伊藤鑛一氏就任

57年度総会で役員改選が行われ、35年以来22年間にわたり理事長をつとめた渡辺成雄氏が副会長に就任し、後任に伊藤鑛一氏が新理事長となった。同時に田中章喜、油井秀男の両氏が副理事長に就任し、新体制がスタートした。



伊藤新理事長

県協会は54年に組織を改正してから急速に拡大を続けており、また、大規模事業に毎年取り組んでいるが、伊藤新理事長の長年の日本協会理事の経験を生かし、日本有数の協会への発展を期した。

・全国高校総体を開催

８月２～７日、第34回大会を豊橋市体育館はじめ市内の２つの高校を含む４会場で開催した。この大会は45年以来２度目であったが、今回も実業団、社会人、家庭婦人、学生の各連盟が審判員への協力をし、円滑に実施した。

県勢では女子団体で淑徳高校がベスト８に、男子個人複で東海高校の本多・多和田組がベスト16に進出した。

なお、この年はこの他に全日本学生東西対抗、中部日本選手権、東海実業団、東海中学校と東海以上の５大会を開催した忙しい年であった。中部日本では成年男女の複、少年女子の複に優勝し、15種目中11種目が３位以上に入賞した。

また、東海中学校大会でも６種目中４種目に優勝し、成果のある年でもあった。

・県小学生大会始まる

44年度にバドミントンスポーツ少年団の組織化を１つの目標にして普及委員会が生まれたが、なかなか成果につながらなかった。しかし、もう１つの目標である家庭婦人への普及、そして指導委員会による各地の教室、講習会への講師の派遣がお母さん、お父さんの輪を広め、ラケットを振る小学生もふえてきた。

日本協会でも財団法人化にともないバドミントンを全国に普及させるため、県あるいは地域の小学生大会入賞者に賞状とメダルの贈呈を58年度から実施することを決定した。

これを機に９月18日、名鉄熱田の森文化センターの竣工記念事業の１つとして第１回県小学生大会を開催した。この大会には男子単12名、女子単95名、計107名が参加した。種目は男女単のみであったが、第５回大会から女子複が設けられ、学年別に男女単複が行われるようになったのは63年度の第６回大会以降となった。



第１回県小学生大会開会式

・国体一般男子で４位入賞

10月15～19日、第38回大会が群馬県桐生市で開催された。本県からは一般男子、少年男女の３種別が出場し、一般男子が３位決定戦で静岡県に敗れ４位となった。

・全日本実業団で男子３位入賞

６月22～26日、北海道札幌市で開催され、県勢では男子のトヨタ自動車が３位に入賞し、女子ではトヨタ自動車、日本電装がベスト８になった。

昭和59年度

・日中大会を開催

第10回大会は９月23日から10月１日まで、国内５会場で開催された。本県では５回目の日中大会であり、９月26日に名古屋大会として露橋スポーツセンターで開催した。試合は男女各２複３単で行われ、中国は若手主体であったが、ナショナルチーム入り直前のホープだけにパワー、ラケットさばきとも優れ、トップクラスで臨んだ日本チームに男子４―１、女子３―２、男女で７―３と圧勝した。

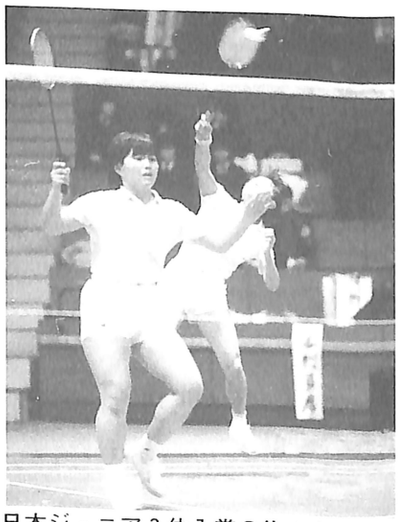
・全日本学生を開催

10月22日から６日間、愛知県体育館と露橋スポーツセンターの２会場22コートを使って第35回大会を開催した。本県では36年に初めて開催してから４回目であったが、今回は学生主体で準備、運営が進められた。

・全日本ジュニアで３位入賞

12月22～24日、東京都で第３回大会が開催され、女子複で佐々木道子・六郷由香組（淑徳高）が３位に入賞した。

この大会での本県の入賞者は初めてであり、また、宿屋美佐子・伊藤千恵組（淑徳高）、男子複の岡田政朗・稲垣滋訓組（東海高）もベスト８入りを果たした。



全日本ジュニア３位入賞の佐々木、六郷組

・国体、成年男子４位入賞

10月13～16日、奈良県田原本町において第39回大会が開催された。本県からは成年男女、少年女子の３種別が出場した。成年男子は３位決定戦で地元奈良県に敗れ惜しくも４位となった。

・全日本実業団では男子団体３位入賞

６月13～17日、大阪市で第34回大会が開催された。男子はトヨタ自動車が準決勝で電々東京に敗れ惜しくも３位となった。また、女子では日本電装、トヨタ自動車がともに５位となった。

・日本リーグに３チーム参戦

11月３～25日の期間に行われた第６回日本リーグに、本県から男子にトヨタ自動車、女子には日本電装、トヨタ自動車の３チームが出場した。

結果は次のとおり

男子	トヨタ自動車	３勝２敗	４位
女子	日本電装	２勝３敗	４位
	トヨタ自動車	０勝５敗	６位

・日本協会表彰

功労賞　後藤淳氏

昭和60年度

・愛好者7,000人台を突破

早くから事業目標に「会員登録の増強に積極的に協力しよう」を第１に掲げ、44年度には普及委員会、48年度には広報委員会を設け取り組んできた。そして、55年度に組織を連盟単位に編成したときから急速に拡大した。ちなみに54年度はやっと4,000人を超えたところであったが、58年度に5,000人台になり、60年度には7,105人となった。

特に高校生、中学生、家庭婦人を合わせて5,044人と普及活動の成果が現れている。

・全日本総合を開催

12月17～22日、愛知県体育館において第39回大会を開催した。この大会は日本最高権威の大会であり、43年度の第22回大会から東京開催が定着していたものであり、多くの国際大会、全国大会を経験してきた当県としても慎重に準備を進めた。

本県からは男子はトヨタ自動車の５選手、女子は日本電装の６選手が出場し、女子単で宮本美津子選手が、同複で宮本・大野組が５位に入賞した。



男子シングルス決勝の試合風景

・日本リーグ刈谷大会を開催

11月10日、第７回大会を刈谷市体育館で開催した。男子はトヨタ自動車と高岡市役所、女子は日本電装と日本楽器の対戦であったが、いずれも地元チームが勝った。また、両チームは総合成績でもともに４位となった。

・東海日韓ジュニアを開催

８月12日、露橋スポーツセンターにおいて、第２回東海地区選抜日韓ジュニア交歓大会を開催した。この大会は本県が音頭を取り、東海４県の男女各２名によるチーム編成で、日韓で交互に開催するよう昨年の韓国訪問から始められたものである。なお、この大会はその後も継続されたが、８年度に韓国側の事情で中断した。しかし、９年度から無事再開された。

・国体、男女総合３位、女子総合２位

10月21～24日、鳥取県大栄町で開催された第40回大会に本県は全４種別に出場した。成年男子は３位決定戦で地元鳥取県に勝ち３位となった。また、成年女子、少年女子はともに３位決定戦で敗れたものの４位と健闘した。この結果、男女総合３位、女子総合２位と久し振りの好成績となった。

・全国大会で好成績

・第28回全日本社会人
　男子単　準優勝　坂本宏志
　　５位　　古賀勝志
　女子複　５位　　大野・宮本組
・第35回全日本実業団
　男子　準優勝　トヨタ自動車
　女子　５位　　トヨタ自動車、日本電装
・第24回全日本教職員
　30歳以上男子単　３位　杉浦順一
・第３回全日本家庭婦人
　都道府県対抗　３位
・第４回全日本ジュニア
　男子単５位　田村勝久

・県体育協会体育功労者表彰

鈴木勇氏

昭和61年度

・国体長期展望策出される

８年後に本県で開催される第49回国民体育大会に対し、県体育協会から長期展望策が出された。

（１）競技力向上ジュニア強化対策
（２）スポーツ指導者養成
（３）初級・中級審判員養成
（４）選手強化普及事業

特に成長期の選手強化に重点が置かれ、県協会も対応を進めることになった。

・国体、成年女子４位

第41回大会が山梨県勝沼町で10月13～16日に開催され、県勢は全種別出場を果たした。成績は成年女子４位、成年男子・少年男子５位と各種別とも健闘した。

また、男女総合成績は７位だった。

・全日本実業団、男子準優勝

６月13～17日、京都市で第36回大会が開催された。県勢では、男子でトヨタ自動車が惜しくも準優勝となり、豊田工機は５位となった。また、女子ではトヨタ自動車と日本電装が５位となった。

・全日本教職員、30歳男子単準優勝

８月12日から広島市で開催された第25回大会の30歳男子単で、前回３位に入賞した杉浦順一選手が準優勝を果たした。



準優勝の杉浦順一選手

・日本リーグ豊田大会を開催

11月16日に豊田市体育館において、日本リーグ豊田大会を開催した。

男子では地元のトヨタ自動車がＮＴＴ関西に勝利したが、日本電装は三協アルミに惜しくも敗れる結果となった。

最終結果では、トヨタ自動車が４位、日本電装が６位となった。



トヨタ自動車チーム



日本電装チーム

昭和62年度

・協会創立40周年記念祝賀会を開催

３月20日、62年度総会終了後の３時から名鉄ニューグランドホテルにおいて祝賀会を開催した。後藤会長のあいさつに始まり、桜内義雄日本協会会長から祝辞をいただいた後、感謝状の贈呈を行った。続いて上原正士日本協会監事の発声で乾杯、懇親に入った。会は日本協会、都道府県からの代表者、東海地区協会役員、県・市町村体育関係者、報道関係者ならびに県協会功労者、県代表選手を招き、県協会役員も加え250名を超える盛大なものとなった。

広報委員会では40周年を記念し、記念特集号を発行した。（次ページ参照）

また、この年から新副会長に野口勇、青山敏郎両氏、新副理事長に上原信彦、山田順一郎両氏が就任し、新たな発展をめざすことになった。

・49国体強化への取り組み

県体協の基本方針に準拠し、国体選手の強化対策資金として固定的な財源を確保するため、また、バドミントンがオリンピックに採用される平成４年のバルセロナ大会に向けて、日本協会で行う基金づくりと合わせて個人登録料を次のとおり改訂した。

一般および学生	1,000円	→	1,500円
高校生	500円	→	800円
中学生	200円	→	300円

・全日本実業団を開催、上位入賞

６月３～７日、愛知県体育館、露橋スポーツセンター、枇杷島スポーツセンターの３会場において、第37回大会を全国から180チーム、2,000名に及ぶ選手を迎え盛大に開催した。成績は、男子はトヨタ自動車が３位、豊田工機が５位に入賞し、女子では日本電装が５位に入賞した。

・全国中学校大会を開催

８月21～23日、春日井市体育館において第17回大会を開催した。この大会は47年度、53年度に次いで３回目の本県開催であるが県中小体連に加入して初めての開催となった。したがって準備運営も中小体連、それも春日井市が中心で進められた。また「主役は中学生」が強調され、プログラムの表紙、プラカードづくり、当日の放送、受付等市内中学生が行った。成績は大府西中が男子団体、男子個人、女子複の３種目でベスト８に入った。

・国体、成年女子で準優勝

10月26～29日、第42回大会が沖縄県糸満市で開催され、本県からは成年男女、少年女子の３種別が参加した。

成年女子は決勝で富山県に１―２で惜しくも敗れ準優勝となった。少年女子は残念ながら初回戦で敗れたが、成年男子が４位となり、男女総合成績４位、女子総合成績３位を獲得した。



男女総合４位入賞の選手団

・日本協会創立40周年記念表彰

名誉理事　渡辺成雄氏

名誉会員　小宮好雄氏

「バドミントン愛知」創立40周年記念特集号

BADMINTON AICHI バドミントン愛知 No. 24 昭和63年3月
発行者 愛知県バドミントン協会
編集人 広報委員会

創立40周年記念座談会!!

出席者　渡辺成雄氏（県協会副会長）、青山敏郎氏（県協会副会長）、伊藤鉱一氏（県協会理事長）
山田順一郎氏（県協会副理事長）　　司会・飯村順一（広報委員長）



二月二十八日（日）
於　鶴舞スポーツセンター

―　今年で県バドミントン協会が40周年を迎えました。そこで、今日は、渡辺、青山各副会長、伊藤理事長、山田副理事長をお迎えして「40年間を語る」と題して、苦労話等をいろいろ伺いたいと思います。

―　40年前と言いますと、まだバドミントンもあまり普及していない昭和23年に協会が設立したと聞いておりますが…。

伊藤　協会が設立されたのは、昭和23年2月11日、場所は中区栄二丁目、当時の鉄砲町だった。東海スポーツ用品の2階で設立総会を開催したと記憶している。

山田　総会発足当時は何人ぐらいだったのですか。

青山　役員は5、6人ぐらいと聞いているが、実際のところはっきりわからない。

―　その当時の競技人口はどのくらいでしたか。

渡辺　南山大、トヨタ自動車、三菱重工などの一般を含めて30人程度だったろうね。

―　会員が30名程度の協会の組織はどうなっていたのですか。

伊藤　初代会長は青井節郎さん、理事長が長谷川泰三さん、補佐役として水谷国広さん、都築さん達で運営していたらしい。

―　バドミントンをどのように普及させたのですか。

渡辺　水谷さん都築さんが南方でバドミントンを覚え、帰国してから広めたことと、設立以前に、当時の東海スポーツの社長（鵜飼氏）が、戦後のスポーツの荒廃を立て直そうと、日本協会の初代理事長だった宮沢氏を講師に迎え、菊里高校で講習会が開催されたのが最初だと聞いている。

山田　そうすると、それが愛知県での第1回バドミントン教室ですね。

―　そんな背景の中で、昭和25年に愛知県で第5回国民体育大会が開催されたわけですね。

伊藤　バドミントンが正式種目となって、初めての国体が開かれることになり、県職員、長谷川さんがいた中村小の職員が準備に奔走していたようだ。

―　国体をやれるような会場はあったのですか。

青山　当時の会場は、大きな公共施設もないため、栄小学校をメインに東桜小、白鳥小の3会場で開催された。

渡辺　大会は一般男子、一般女子、高校男子の3種目で行われ、豊田のバドミントンの草分け的存在となる酒巻和男（トヨタ自動車）が監督をしていた一般男子は2位と記憶している。

伊藤　一般女子は優勝、高校男子は現副会長の渡辺さん、野口さんらの活躍でこれも2位と記憶している。ただ総合優勝というシステムは次の広島大会から行なわれたから、この時はなかったわけだ。

―　国体での総合優勝は広島大会と、29年の北海道大会で輝かしい成績を残していますね。

渡辺　第6回国民体育大会の時に4人編成から3人編成変わったと思うけど、一般男子が3位で、一般女子、高校男子が優勝している。

青山　北海道大会も高校男子は優勝している。

―　ほとんど愛知県生え抜きの選手が多かった訳ですか。

伊藤　一人だけ違ったけど、他は愛知県で育った選手ばかりだった。全日本実業団大会も、女子団体で第1回から3連勝しているし、男子も2位になっている。

山田　小宮さん・飯加さんは、ずっと後になって県外から入ってきた選手として活躍していたのですね。

青山　そう、全日本級の選手は……。

―　実業団と言えば、愛知県も昭和54年に各連盟も設立されましたね。

伊藤　連盟ができる前は、協会が主催して大会が開催されていて、社会人も一緒にやっていた。54年に実業団、社会人、教職員、学生、家庭婦人の各連盟が下部組織として作られた。

渡辺　実業団は最初トーナメント方式でやっていた時代もあって、第6回大会からリーグ戦に変わったと思う。

伊藤　リーグ戦方式によって益々参加者も増え、細分化して協会の強化も図られたと言える。

山田　昭和54年は愛知県協会の大きな転期とも言えますね。

―　多くの国際大会も県内各地で開催されていますが、第1回目中大会が最初になりますか。

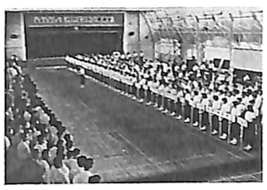
伊藤　いや、その前の昭和39年、日韓交歓会が名鉄体育館で行われた。これが第1回国際大会と言える。

青山　ナショナルチームが来て、今のような強さもなかった。トヨタ自動車の小宮や理事の清水善勝も出ていた。

伊藤　なぜ覚えているかと言うと、下関市で赤痢患者が出て、韓国選手の立ち回り先を保健所の人を案



第5回国民体育大会バドミントン選手団



第9回国民体育大会（北海道）の開会式



渡辺成雄副会長



青山敏郎副会長



伊藤鉱一理事長



山田順一郎副理事長

内した。結局、赤痢菌は出なかったけど…。

山田　その後、日中大会ですね。国交前でした？

伊藤　国交の橋渡しを後藤鉾二会長がやって、田中首相が中国へ行ったわけだ。名古屋へは女子が関西方面を回って新幹線で着いた。

青山　その時後藤会長に「団長は日本語がわかるから余分なことを言うなよ。」とくぎをさされたことを覚えている。

渡辺　各国の選手が参加した国際大会と言うと54年に刈谷市で行われた国際バドミントン大会が本当の意味では最初と言える。

伊藤　ジャパンオープンの前身がこの国際バドミントン大会だよ。刈谷市10周年記念で、選手を名古屋のキャッスルからバスで運んだり、コートマットを買っていただいたりして試合をさせた思い出がある。

―　忘れてはならないのは、昭和56年の女子世界選手権大会ユーバー杯ですね。

伊藤　ユーバー杯の準決勝で、イングランドとインドネシアの試合だった。親善試合の日中大会とまた違って、ＩＢＦの主催大会だから気を使った。

―　行燈やドーピング検査もありましたね。

伊藤　コート上に発光体があってはいけないので行燈をつけたし、東京までドーピング検査の講習会へ参加してもらった。試合は9試合で2日間に分けて行われた。

山田　今は国際大会というと簡単に開催されていますが、いろいろ苦労を重ねて来た成果が大いに発揮されているのですね。

―　国際大会ではないですが、昭和60年に全日本総合選手権大会が県体育館で開催されたのは記憶に新しいですね。

伊藤　ゲネックスグランプリ大会を愛知県で開催する予定だったのが、ＩＢＦから東京でやってほしいと要望があった。その肩代りとして、総合選手権大会を開催した。最近では東京以外の地方開催としては初めてだった。

山田　審判組織がしっかりしていればできる大会でも言えますけど。

渡辺　それも協会の組織のかかわりと大会についての姿勢の問題でもある。

青山　協会の組織が強化される。強化されると国際大会をやる。国際大会をやる審判員を養成するという良い循環が必要とも言える。

伊藤　愛知県では大きな大会をやれるという意欲があるうちは、審判技術を高めて大会の成果を問うことも大事ではないかな。

―　昭和63年度には大きな行事を予定しているのですか。

伊藤　1つは11月3日に第10回日本リーグの開会式、全チームが一同に集まって開催される。2つ目は8月に中国のスポーツ交流として、中南市、一宮町、春日井市で大会が行われる。未定ではあるが韓国のジュニアが来年1月東海ジュニアと交流試合を行いたいと韓国から打診が来ている。

―　昭和69年の国体にむけて大府市が開催地の内定を受けましたが？

伊藤　昨年の11月、国民体育大会準備委員会の総会で会場地の内定を決定した。12月には選手強化対策本部が発足した。65年の本申請によって内定から決定になる。もちろん68年にはリハーサル大会も行う。

渡辺　今年の9月から中央競技団体の下見が始まり、その結果を持ち帰り決定の手順を踏んでいく。協会として国体にむけて取り組むことはどんなことですか。

伊藤　競技運営、審判員養成、選手強化養成の一本柱で協会で取り組む。

渡辺　小学生女子で活躍できる中学校4・5年生に焦点をしぼることも必要かもね。



昭和39年　日韓親善交歓会（於　名鉄体育館）

伊藤　京都国体から2巡目に入るので、一部二部制を行う種目もある。要請もあるが、現時点では今までの競技方法でいく予定である。

―　最後になりますが、今後どう協会があるべきか伺いたいと思います。

山田　草創期のような地元生え抜きの選手がいないということがさびしいですね。1つにはジュニア強化の面に気になることですね。

伊藤　先ず、バドミントンが浸透して底辺が拡大され、選手強化対策も図っていかなければならない。愛知県の一般・ジュニアのナショナルチームを結成したらどうかという意見などもあるが……。また、4月から審判員制度も大幅に変更され、新制度に早く移行完了させる体制づくりをしていく必要がある。

―　副理事長から副会長の立場へ昨年変わられた青山さんいかがですか。

青山　69年の国体にむけて上層部も年老いてくるし、組織の若返りが急務だと思う。年代が若い程、組織にも活力がある。

渡辺　国体にむけては競技力の向上を高めていく必要があると思われる。やはり、世話する人を養成していかなければならない。一部の興味ある人に頼っていては、子供達も育っていかない。

―　国体の総合優勝にむけて、協会が最大の目標としていかなければならないと思いますが、役員選手一丸となって進んでいきたいですね。

伊藤　昭和29年以降、総合優勝から見離されているが、純粋な気持ちで選手強化に取り組み努力していきたい。

―　両用で参加できなかった野口勇副会長にもお話を伺いたかったですが…。若い世代の指導はもちろん、協会の発展のために今後も大いに活躍されることを祈念して座談会を終わりたいと思います。大変お忙しい中、ありがとうございました。

愛知県バドミントン協会の記録

年　月	な　　で　　き　　ご　　と
昭和25年10月	第5回国民体育大会本県にて開催
昭和26年10月	第6回国民体育大会（広島県）総合優勝
昭和29年6月	第4回全日本実業団バドミントン選手権大会
昭和29年8月	第9回国民体育大会（北海道）総合優勝
昭和35年5月	第10回全日本実業団バドミントン選手権大会
昭和38年12月	第14回全日本学生バドミントン選手権大会
昭和39年　月	日韓親善バドミントン交歓会
昭和43年11月	第19回全日本学生バドミントン選手権大会
昭和45年7月	第21回全国高等学校バドミントン選手権大会
昭和47年8月	第2回全国中学生バドミントン大会
昭和48年9月	第1回日中バドミントン競技名古屋大会
昭和50年11月	第4回日中バドミントン競技名古屋大会
昭和53年8月	第8回全国中学生バドミントン大会
昭和53年10月	第29回全日本学生バドミントン選手権大会
昭和54年1月	第8回国際バドミントン競技（ワールドカップ）愛知大会
昭和55年4月	第6回日中バドミントン競技名古屋大会
昭和55年11月	昭和55年度全日本学生東西対抗バドミントン競技大会
昭和56年12月	第2回バドミントン日本リーグ愛知大会
昭和56年5月	第2回世界バドミントン選手権ユーバー杯 名古屋大会
昭和56年9月	第31回全日本実業団バドミントン選手権大会
昭和56年11月	第3回バドミントン日本リーグ愛知大会
昭和57年6月	第1回日韓バドミントン競技大会
昭和57年7月	第8回日中バドミントン競技名古屋大会
昭和57年9月	第4回バドミントン日本リーグ刈谷大会
昭和58年8月	第34回全国高等学校総合体育大会バドミントン競技
昭和58年11月	第32回全日本学生東西対抗バドミントン競技大会
昭和59年9月	第10回日中バドミントン競技名古屋大会
昭和59年10月	第35回全日本学生バドミントン選手権大会
昭和60年11月	第7回バドミントン日本リーグ刈谷大会
昭和60年12月	昭和60年度第36回全日本総合バドミントン選手権大会
昭和61年11月	第8回バドミントン日本リーグ豊田大会
昭和62年6月	第37回全日本実業団バドミントン選手権大会
昭和62年8月	第31回全国選抜中学校大会バドミントン競技
昭和62年11月	第9回バドミントン日本リーグ名古屋大会

歴代協会会長

（敬称略）

初代	青井節郎
2代	多武良　武
3代	重富克美
4代	後藤鉾二
5代	後藤　淳

【編集後記】

今回は協会創立40周年記念の特集号を発行致しました。急ぎょ4人のかたに出席いただき、2時間近くの座談会を編集いたしました。初めての試みであり、話題が前後したことを御了承ください。

【連絡先】大府市吉田町一ツヤ
1番地の123
広報委員長　飯村順一
〒474　TEL 0562 48 5547

昭和63年度

・49国体選手強化対策本部を設置

県体育協会の基本計画にそって本年度、理事長を本部長とする49国体選手強化対策本部の設置を決定した。業務として国体関連の全般的窓口として総合企画、強化対策費の財源確保と資金活用計画の立案、強化選手の選考と強化策の推進とした。また、県体育協会全体の活動としていくために「ジュニア強化を早急に」を課題に各専門委員会が分担して取り組むことになった。

・地域組織の拡大をめざした調査の実施

地域組織の整備、拡大は50年代からの課題であったが、さらに49国体事業の一環としても取り組みが必要となり、県内市町村の活動状況の調査を普及委員会が行った。

調査は市町村単位でチームを編成する青年大会の主管、同じチーム編成で県内４地区で開催される県民大会への委員の派遣を通して行われた。63年度調査での出場市町村数は全88のうち、県民大会へは68、青年大会へは12、小学生大会へは14であった。

・審判資格新制度へ移行

この年、公認審判員資格登録規定が全面改訂になった。従来の１級、２級、３級の３段階に分かれていた審判資格が、第１種Ａ級・Ｂ級、第２種Ａ級・Ｂ級、第３種Ａ級・Ｂ級の６段階に変更になった。新制度への移行は３年を限度としており、審判委員会では手続きを開始した。なお、既資格取得者数は62年453名であったが、移行者数が229名に留まり、元の数に戻るには国体開催の６年までかかった。

また、同時に公認審判員資格認定委員の制度ができ、山田順一郎、鈴木勝美両氏が合格した。

・日本リーグ開幕戦を開催

協会創立40周年を記念して、日本リーグ開幕戦を名古屋大会として11月３日に開催した。場所は、前年に開館したばかりの名古屋市総合体育館レインボーホールで、男女12チームが集合した最大規模のものであった。

数々のイベントの実施とＰＲに努め、5,500人の観客に来てもらうことができた。



創立40周年記念の日本リーグ開会式

・日中友好競技会を開催

８月17～21日、愛知県との共催により、中国ナショナルチームメンバーを含む友好都市の江蘇省から選手団を迎え、東海市、春日井市、三好町で愛知県代表選手との日中友好競技会を開催した。



バスケットボール選手と合同の大会記念写真

・国体成年女子３位入賞

10月16日～19日京都府長岡京市で第43回大会が開催され、選手強化が進むなか本県から全種別に出場した。成年女子が３位に入る健闘をみせた。

平成元年度

・49国体選手強化対策本部活動を開始

前年度に設置された対策本部は活動計画について検討を重ね、本年度は次の事業に取り組んだ。

・指導者等養成事業
・手づくり選手の養成として少年の部、成年の部の強化事業
・中小学生に対する普及、強化、指導事業
・施設、競技備品等の充実
・安全確保等指導条件の整備
・広報活動の推進と調査研究等の充実

また、国体候補選手を特別強化するため海外遠征の増加が考えられるので、その対応策の一環として国際交流資金積立金を１人10円から100円に増額することが前年度総会で承認され、本年度より実施された。

なお、積立金の増額は、38年に制度が制定されて以来のことである。

・全日本シニアを開催、５種目に入賞

11月２～６日、第６回大会を49国体バドミントン競技開催地となった大府市で桜内日本協会会長を迎え「健康と豊かさ」を基調とした大会として開催した。49国体のムードづくりをスタートさせる場とすることをねらいとし、県協会、大府市連盟、大府市からのメンバーによる実行委員会を設置して取り組んだ。

37都道府県の他、台湾からの特別参加を含め選手560人という大きな大会で、会場も大府市民体育館、アイサンスポーツセンター、中京女子大サイエンスＳ・Ｃの合計60コートを使用して進められた。

本県からは158名が参加し、優勝はなかったものの30歳男子複、40歳男子単、50歳女子複の３種目で準優勝、30歳女子単、複２種目で３位と好成績をあげた。

・国体、無念の４位

９月18～21日、北海道登別市で第44回大会が開催され、本県からは成年男子、少年男女の３種別に出場した。成年男子は神奈川県との準決勝で無念の棄権負けを喫し、惜しくも４位となった。これは第２単のときのインターバルにおいて、テーピングのため全員がベンチを離れ、タイムオーバーをとられたためである。不注意でもあったが、もう少し配慮をと思われる場面でもあった。

・全国大会で健闘

・元年度全日本総合　　12月12～17日　東京
　男子複　３位　古賀勝志・須貝英徳組
　　（トヨタ自動車）
　　５位　川本英明・城木夢高組
　　（トヨタ自動車）
・第39回全日本実業団　６月14～18日岡山市
　男子　　３位　豊田工機
　　５位　トヨタ自動車
　女子　　５位　日本電装



３位入賞の豊田工機チーム

・第18回全国高校選抜　３月26～29日　東京
　女子単　３位　青木美代子（佐屋高）
・第７回全日本家庭婦人８月７～９日大阪市
　クラブ対抗　３位　岡崎フェニックス

・日本体育協会表彰

国体功労者　渡辺成雄氏、伊藤鑛一氏

平成２年度

・49国体に向けての活動

協会対策本部では日韓、日中ジュニアへの参加、国内各地への遠征の他、強化指定校（高校男女各２校）、中学も含めた推進校への支援および顧問との懇談会、京都、石川等他県の強化方法の調査を行った。

指導委員会では県体協とタイアップしての49国体選手強化指導者研修会を９月１、２日、中国元ナショナルチーム丁基慶氏を迎え、24名が参加し、刈谷市体育館で実施した。

審判委員会は前年の北海道に続き、福岡県で開催の国体へ２名の派遣を行った。また、国際審判員の安彦周宜氏（故人）を迎え上級審判員検定会を行った。

広報委員会は広報誌「バドミントン愛知」に「わかしゃちだより」のコーナーを開設し、国体気運の盛り上がりをはかった。

一方、選手も頑張りをみせ、全日本総合の男子複、全日本社会人の男子単、全日本実業団の男女でいずれも５位に入賞した。

・トマス杯・ユーバー杯を開催

５月25～27日、名古屋市総合体育館レインボーホールで第16回世界選手権大会（トマス杯）、第13回世界女子選手権大会（ユーバー杯）を開催した。世界最高権威の大会であるばかりでなく、男子は中国、マレーシア、スウェーデン、韓国、インドネシア、デンマーク、イングランド、日本、女子は中国、韓国、スウェーデン、オランダ、インドネシア、デンマーク、日本、イングランドと各８ヵ国が各地域ゾーンの予選会で出場権を得て（除開催国日本）参加したもので、56年度２ヵ国によるユーバー杯とは桁違いの大規模な大会であった。

準備期間については実行委員会が設立できたのが開催３ヵ月前の２月25日で、また日本協会からの情報が遅れがちで、実行計画がまとまったのは４月８日であった。

しかし、数々の国際大会、全国大会開催の経験を生かし、準備を急ピッチで進め、当日はIBFオナリーレフリーからおほめの言葉をいただき、観客も約12,000名と盛況のうちに開催できた。

また、日本協会からも感謝状を授与された。日本は、女子が（東京で開催される）決勝トーナメントに進んだが、男子は敗退した。



日の丸を先頭に入場する都ホテルで行った開会式風景

・日本リーグ三好大会を開催

11月18日、第12回大会の三好大会を三好公園総合体育館で開催した。この大会は三好町が優秀競技誘致事業として行ったもので三好町、三好町教育委員会が主催者に加わった。

試合は男子は地元のトヨタ自動車対トナミ運輸、女子は三洋電機対ＮＴＴ東京が行われた。

・全日本シニアで３種目に入賞

11月１～４日、京都市で開催された第７回大会において次の３種目に入賞を果たした。

30歳女子複　３位　門間由美子・太田礼子組
40歳女子単　３位　太田礼子
50歳女子複　３位　魚住栄子・田中登美子組

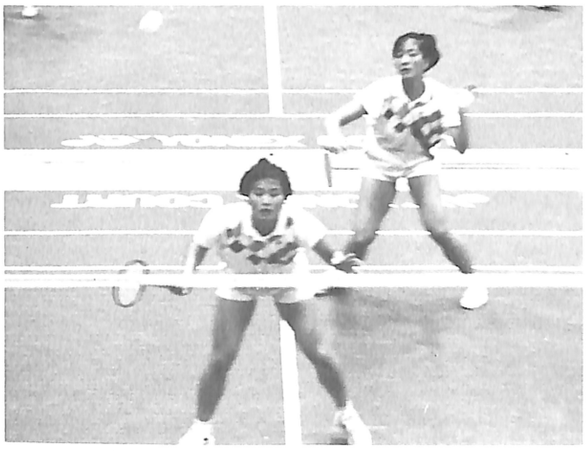
平成３年度

・49国体選手強化進む

本年度は国体選手強化対策本部、選手強化委員会、指導委員会が一体となった活動を展開した。

１つは強化体制固めで、総監督、総合コーチおよび成年男女、少年男女、中学男女それぞれに監督、コーチを決め、強化本部とコーチングスタッフが連携した活動を推進した。もう１つは成年、少年、中学それぞれのナショナルチームの編成を行い、技術力と自覚、意欲の向上を推進した。強化内容としては強化練習が５回、延206人、強化合宿が４回、延151人、県外遠征が４回、延55人、指導者招聘が３回であった。

成績は石川県美川町での第46回国体に成年男子、少年男女が出場し、少年女子が５位となった。成年男子の関係では全日本社会人の複で５位、全日本実業団でも５位に入賞した。



国体少年女子で健闘する二見・中水流組

・第１回県家庭婦人個人戦始まる

6月17～19日、愛知県体育館で開催し、ダブルス戦に、403組が参加し１部・２部（24ブロック）に分かれ熱気の中にも楽しい大会であった。

この年の家庭婦人連盟の事業をみると49年度から始まった団体戦と交歓会が２回、東海地区予選が２回あり、他に県下５地区で開催する連盟共催事業があって、東海・全国大会を含めるとハードスケジュールであるが、1,400人規模に発展した連盟にふさわしく組織的に活動が進められた。

なお、この年の全日本家庭婦人大会都道府県対抗の部で愛知県は準優勝を果たした。

・全日本教職員を開催

８月８～11日、第30回大会を豊橋総合体育館第１、第２競技場22コートを使い開催した。本県では初めての大会であり、前回から18種目にふえていたが、さらに今回は30回の記念大会となり参加制限もなく、各県から499人と多数が参加し、盛大な大会となった。本県も各種目に大会運営と選手の２足のわらじで多数参加して大会に花をそえる一方、女子団体、ＯＢ団体、一般女子複で５位に入賞した。

・日韓ジュニア交流競技会を開催

８月28・30日、大府市民体育館で開催した。この競技会は日本体育協会の主催事業で隔年に両国で行われている。

28日に日本代表、30日に本県代表が各２複３単で対戦したが、いずれも韓国パワーに屈し、韓国選手の基本プレーへの忠実さが印象に残った。

・全国スポレク祭でブロック優勝

第４回大会が11月８～12日、熊本県宇土市で開催された。この大会は生涯スポーツの一環として年齢別の複３試合による団体戦で、本県は63年度の第１回大会より参加している。

今回、予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち抜き見事ブロック優勝した。



第４回スポレク優勝の選手団

平成４年度

・49国体の強化活動を推進

本大会を２年後に控え、本年度も国体選手強化対策本部、選手強化委員会、指導委員会が一体となった取り組みを進めた。強化体制、県ナショナルチームの編成は前年度と同じ要領であったが、強化内容は合宿、県外遠征を重点におき、合宿は10回、延253名、遠征は６回、71名と前年の約２倍の回数を実施した。

こうした成果は次のように現れている。

・第47回国体　10月５～７日　山形県新庄市
　全４種別出場
　成年男子　４位
　少年女子　ベスト８
・４年度全日本総合12月９～13日大阪府守口市
　混合複　優勝　古賀勝志・藤本暢子組
・第２回全日本混合　７月23～26日　大府市
　準優勝　古賀勝志・藤本暢子組



大府市で開催した全日本混合大会での試合風景

・第43回全国高校総体　８月１～６日
　宮崎県高鍋町
　男子団体　ベスト８　岡崎城西高校

また、強化のための資金は県からの補助金や県協会の一般会計予算では不足し、Ｔシャツ、タオル、ソックス等協会グッズの販売を各連盟にお願いし、資金調達をした。これは国体開催の年まで続けられた。

・全日本学生を開催

10月25～31日、本県５回目となる第43回大会を露橋スポーツセンターと枇杷島スポーツセンターで開催した。本県からは男子は名城大、名古屋大、女子は中京女子大が出場したが全国に通じなかった。

この年、７月に全日本混合、８月にミニ国体、10月に全日本学生、11月に中部日本と東海以上の大会が連続し、準備運営に追われた。

・全日本家庭婦人、クラブ対抗の部で優勝

第10回大会が８月24から３日間、札幌市で行われた。「クラブ対抗の部」では岡崎フェニックスが見事優勝し、豊田クラブが３位に入賞した。また、「都道府県の部」では県代表が５位に入賞した。


優勝し、満面笑みの岡崎フェニックスチーム

・全日本シニア、60歳以上男子複で３位

10月31日～11月３日、宮城県石巻市で第９回大会が開催され、60歳以上男子複で豊田市協会の市川清・荒川司郎組が３位に入賞した。

・国際審判員誕生

この年、県協会初の国際審判員が誕生した。副理事長の山田順一郎氏が、日本で３人目、関東以外では初めての国際審判員に合格した。試験は、４月に熱帯猛暑のマレーシアのクアラルンプールで行われた。

平成５年度

・国体開催前年度の強化活動

本大会を来年に控えて候補選手を絞り込み、活動も国体選手強化対策本部一本で強化練習、合宿、遠征を前年度以上に実施した。しかし「５年度を振り返って」として総会で報告された内容は次のとおりである。

本年度の強化活動は愛知国体において各種目とも好成績を収めることができるまでに戦力を整えることを目標に掲げていた。現時点では強化合宿、遠征などにより戦力アップは図れているものの目標には達していない。

成年男子は三重県に敗れ、予選会突破はならず、また、各種大会でも好成績を収めることができず、東海総合での福田選手の優勝が目立つ成績だった。

成年女子は予選で強豪静岡に敗れたものの、藤本・松田組が全日本社会人で３位、東海総合で優勝し、また、両選手が所属するトヨタ自動車が全日本実業団ベスト８、日本リーグ２部で２位と活躍した。

フルエントリーの少年男子は本大会２回戦で優勝チームの茨城県に敗れたが鈴村選手が健闘した。ただ１、２年生はよく努力しているものの全国レベルにはもう一段の向上が必要である。

少年女子は東海予選では無敵で、本大会でも３年連続ベスト８をねらったが、不運にも初回戦で常勝茨城県と対戦し敗退した。なお、２年生の大山選手が東海総合の単複で優勝し、全日本ジュニアでも善戦しており、期待できる。

・国体リハーサル大会を開催

９月４～７日、大府市民体育館をメインに４日間にわたり第36回全日本社会人選手権大会を開催した。この大会は国体リハーサル大会として位置づけられているが、すでに大府市では国体開催を意識して市、県、東海の大会の他、元年に全日本シニア、４年に全日本混合大会を大府市、県協会、大府市連盟が１つになって取り組んできていた。

開会式当日は台風13号が中部地方の通過で暴風警報発令中であったが無事実施し、その後の競技運営も円滑に進めることができ、国体開催に大いに自信を深めた大会となった。

なお、この大会には役員は国体用公式ブレザーを仕立て着用した。



国体リハーサル大会の全日本社会人大会開会式

・全国高校選抜を開催

３月24～27日、国体を間近に控えた大府市民体育館において第22回大会を開催した。

・全日本総合、混合複連覇ならず

12月15～19日、東京で開催された大会において、前年優勝の古賀勝志・藤本暢子組が連覇を期待されたが、準決勝で敗れ、おしくも３位となった。

・全日本家庭婦人大会で３位

８月24～26日、東京で開催された第11回大会において、都道府県対抗の部で本県は３位を獲得した。

・小中学生強化練習会を実施

国体選手強化対策本部との合同での活動を離れた選手強化委員会では、小学生および中学生、そして小中合同による強化練習会を大府市民体育館で10回実施し、延368名が参加した。

この練習会は６年度以降も行われ、８年度に開催した全国中学校大会の強化につながった。

平成６年度

・わかしゃち国体開催

10月30日～11月２日の４日間、第49回国民体育大会を大府市民体育館において、３日目の11月１日には清子内親王殿下のご観戦を受け盛大に開催した。

62年11月に大府市が開催地として決定して以来、健康都市をキャッチフレーズにする大府市の積極的な取り組みに県協会も対応し、準備委員会、実行委員会に参画して進めた。この間、数々の全国、東海、県、市の大会を開催し、盛り上がりと役員の養成に努めた。

大会の始まる前の９月26、27日に組合せ抽選会がもたれた。10月28日に選手歓迎レセプション、29日には16時から審判会議、17時から監督会議、18時から全国理事長会議と続いた。

選手歓迎レセプションは18時から大府市勤労文化会館で行われ、歓迎の舞・三番叟で始まり、祝い太鼓、郷土芸能、お楽しみ抽選会と企画に富んだ内容で好評であった。また、審判会議、監督会議の資料は大会開催経験が豊富な県協会が解り易いように手を加えた。30日８時からの開始式には桜内日本協会会長を迎え、市内三中学校吹奏楽部の式典音楽等、深い感銘を与えるものだった。引き続き行われた一輪車の集団演技、金管バンド、カラーガードのマスゲームはいずれも素晴らしいできばえであった。

競技の運営については試合進行も円滑であったが、特に審判業務では全く問題なく高い評価を受けた。

今大会から全日本ナショナルチームメンバーの出場が可能となり、県勢には不利な状況となったが、８月８～20日、韓国へ遠征して最後の強化を行い大会に臨んだ。成年男子は４位、成年女子、少年男子は５位、フルエントリーの少年女子は３回戦で涙をのんだものの総合成績は５位と健闘した。

なお、今回各県の選手団380名は市内92戸に民泊し、大会中の応援も一層力が入ったものになっただけでなく、大府市がバドミントンの中核地となる良い機会となった。



健闘した選手団の会場入口での記念写真

・全日本家庭婦人大会を開催

７月29～31日、第12回大会を桜内日本協会会長を迎え、名古屋市総合体育館レインボーホールで開催した。「都道府県対抗の部」には愛知Ａ,愛知Ｂが、「クラブ対抗の部」には小牧クラブ,刈谷ぴくるす,名古屋わかしゃちが出場し、「都道府県対抗の部」の愛知Ａが準優勝に輝いた。

・第１回県教職員大会始まる

３月26日、大府市民体育館で待望の第１回大会を開催した。種目は選手権の部の他に少しでも多くの人が気軽に参加できるよう親睦の部を設け計９種目とし、また、敗者戦を行うようにした。選手権の部は第34回全日本教職員大会の選考を兼ねているため、７年度に教育機関勤務予定者へも出場枠を広げた。大会終了後、連盟総会を兼ねて懇親会がもたれた。

なお、第33回全日本教職員大会において30歳以上男子単で田中章裕選手が３位に入賞した。

・日本協会表彰

顕讃賞

鈴木勇氏、井沢宏氏、多賀純一氏

（わかしゃち国体開始式で桜内会長から表彰を受けた）

県体育協会体育功労者表彰

野口勇氏、伊藤鑛一氏

平成７年度

・上原新理事長誕生

長年理事長として尽力し、また、49国体を円滑に推進した伊藤鑛一氏が副会長に就任し、上原信彦氏が新理事長になった。同時に伊藤一夫氏が新副理事長となり新体制が発足した。



上原新理事長

早速組織検討会を設け、専門委員会活動の見直し、小学生の活発化、規定類の整備に取り組み、また、並行して50周年準備会を設け、全国規模の大会の招致、50年誌の編纂、記念式典の企画、以上に必要な資金調達を進めることになった。

なお、小学生への普及と強化を進めるため指導委員会、普及委員会を合体し、指導普及委員会とした。

・県小学生大会団体戦始まる

12月23日、第１回大会を大府市民体育館で男子８チーム、女子11チームの130余名が参加して開催した。個人戦はすでに13回を数えているが、熱心にチームを育てている指導者間の交流を深めたいという考えから実施した。また、全国的にも若葉カップ等、団体による大会、交流にも対応するためでもあった。なお、６年度の２月11日にＰＲのため、リーグ戦方式の団体戦を交流大会として実施、16チームが参加した。



第１回県小学生団体戦優勝の男・女チーム

・日本リーグ'95大府大会を開催

11月25・26日、大府市制25周年を記念して第17回日本リーグを大府市民体育館で開催した。初日、男子はＮＴＴ東京対ＹＫＫ九州、女子はサントリー対ＮＴＴ東京、２日目は男子ＮＴＴ関西対ＹＫＫ九州、女子ＮＴＴ東京対ＮＥＣ九州が熱戦をくり広げた。

昨年国体を開催したところだけあって、地元チームが出ていないにもかかわらず盛り上がりをみせた。



大府市制25周年記念日本リーグ'95

・全日本ジュニア３位入賞

11月11・12日、山梨県甲府市において第14回大会が開催され、中学新人の部で稲垣翔悟選手（石尾台中）が３位入賞を果たした。これは翌年度大府市での全国中学校大会開催に対し、選手強化委員会が県外遠征、合宿、特別練習会等、中学生選手の強化に取り組んだ成果である。また、この年の全国中学校大会では稲垣選手がベスト８に、女子単で柿田あゆみ選手（大府北中）がベスト16に進出した。

・日本体育協会表彰

公認スポーツ指導者表彰　伊藤鑛一氏

・県体育協会体育功労者表彰

田中章喜氏、伊藤芳樹氏

平成８年度

・県小学生連盟が発足

８年３月３日の設立総会で発足し、県協会の総会で加盟が承認され、活動を開始した。初代理事長には発起人として設立に努力した鈴木正一氏が就任した。

県協会では、小学生は選手強化の原点であり、また全国規模の大会参加、県外遠征等が行えるよう次の支援、協力をしていくことになった。

・普及、強化費の補助
・組織拡大への協力
・競技会の開催に際し、審判等運営上の協力
・指導者の養成と有力選手の強化

・普及委員会を廃止、全体の活動へ

小学生連盟設立により、これまで進めてきた普及活動、すなわち昭和30～40年代に一般への、40～50年代に家庭婦人への、そして50年代以降小学生への普及活動は一区切りついたといえる。したがって指導普及委員会では普及の名称をはずすことになった。これによって46年度に設置された普及委員会は無くなり、普及活動は各連盟で行うこととし、県協会はその支援、協力をしていくことになった。

なお、この年規約の全文を見直し、施行した。

・日本リーグ、２部リーグを開催

11月22～24日、稲永スポーツセンターにおいて２部リーグ全試合を実施した。これまで開催してきたはなやかさのある１部リーグと違い、まさに真剣勝負、審判もこれまで以上に緊張する大会であった。

県勢では男子にトヨタ自動車、豊田工機、女子にデンソーが出場した。

・全日本教職員男子40歳単で３位

８月８～11日、千葉市で開催された第35回大会の男子40歳以上単において、中口直人選手が３位に入賞した。

・全国中学校を開催、男子単で準優勝

８月20～23日、第26回大会を大府市民体育館で桜内日本協会会長と124校、433名の選手を迎え開催した。国体を開催したバドミントンの街での大会にふさわしく、多数の観客と熱心な応援で、大変な盛り上りがあった。

成績も男子単で稲垣翔悟選手（石尾台中）が堂々準優勝し、男子複でも山口寿希郎・早川悟組（大府中）がベスト８になった。



盛大に開催された全国中学校開会式風景



男子単準優勝の稲垣選手

・台湾モーニングカップへ参加

５月18・19日に中華民国（台湾）において開催された第25回モーニングカップ大会に、愛知県より伊藤鑛一県副会長を団長に選手８名が参加した。日本からは６県の参加があり、また米国・カナダ・韓国等からの参加者もあり、年齢別の国際色豊かな大会であった。

・県教育委員会表彰

体育功労者　　渡辺成雄氏

・県体育協会体育功労者表彰

清水善勝氏、鈴木勝美氏、細野節子氏

平成９年度

・50周年事業の推進

10年２月11日に創立50周年を迎えるに当たり、事業および資金調達計画について次のように８年度総会で承認された。

①記念式典の開催と賛助金の徴収
②記念誌の発行と賛助会員の募集
③記念行事の開催（全日本総合選手権大会）

これらの推進のために、専門委員会委員長、加盟団体理事長が加わった常務理事による実行委員会を編成した。

なお、記念式典の開催と記念誌の発行は10年度に持ち越されることになった。

・全日本総合を開催

創立50周年事業の３本柱の１つとして11月４～９日愛知県体育館で桜内日本協会会長を迎え、盛大に開催した。この大会を本県で開催するのは60年度に続き２度目で、前回同様ＮＨＫのテレビ放映や東京と同時の記者発表を行なった。県協会ではこの大会を機にインターネットにホームページを開設し、大会のＰＲ、試合結果を全国に発信したが、会期中には日に100件以上の検索があった。

県勢では女子単で野中亮子選手（デンソー）が本戦まで進んだが、力を出し切れなかった。

・県総合団体戦を県団体対抗戦に変更

51年度に県選抜対抗戦として開始し、53年度からは県総合団体戦として継続してきたが、実業団を中心に代表チームの日程調整が難しく、本年度より県団体対抗戦と名称を変更した。選手権大会ではなくなったが、参加対象は引き続き実業団、社会人、教職員、家庭婦人、大学、高校の代表チームとした。

・Ｃ級スポーツ指導員講習会を開催

日本体育協会公認の講習会を指導委員会の主管で開催した。

指導者の養成のため、数年来その開催を県体協へ申請し、実現したものである。21名が受講し７、８月に共通科目40時間をＮＨＫ通信教育で受講、11、12月に専門科目を実技を含め40時間実施し、全員がんばり資格を取得した。



Ｃ級指導員養成講習会の受講者

・小中学生の育成を強化

49国体終了後、特に小中学生の強化育成が痛感され、指導委員会、選手強化委員会も重点的に取り組んだ。小学生については全国大会が固まってきたこともあり、小学生連盟と指導委員会がタイアップして、強化練習会を前年の７日間に対し14日間実施した。全国へは今一歩であるが、東海地区では10月10日個人戦の６年男子単で田中陽一選手が、５年女子単で清水つかさ選手が、また、１月15日の第１回団体戦では男子で大府市の「くすの木」が優勝した。

中学生については、８年度に全国中学校を開催した大府市が、それを記念して東海４県のトップチームと大府市の中学校の男女８チームによる大会を、５月10日大府オープンとして開催した。

次年度以降も継続されることになり本県にとって大変有意義な強化の場ができた。

・日本協会表彰

顕讃賞

田中章喜氏、細野節子氏、鈴木勝美氏、中野正紀氏（全日本総合開会式で表彰を受けた）

名誉理事　伊藤鑛一氏

・県体育協会表彰

特別体育功労者　渡辺成雄氏

体育功労者　武田正雄氏、山本卓男氏

・中部日本連盟表彰

平成10年度

・10年度活動計画

10年３月29日の９年度総会において次の活動計画が承認された。



９年度総会風景

＜全体の事業計画＞

１．50周年記念事業の実施

（１）記念式典の開催

・期　日　平成10年11月14日（土）

・場　所　名古屋ガーデンパレス

（２）記念誌の発行

・10月末に完成し、記念式典に配布

（３）記念グッズの販売

・記念式典をメドに作成し、希望者に頒布

２．選手および指導に対する強化の実施

（１）中学生、小学生の指導体制の強化

（２）国体選手の強化

３．第48回全日本実業団選手権大会への協力

＜専門委員会の重点活動計画＞

◎広報委員会

・50周年特集号を入れ５回発行

・インターネットの拡大

◎競技委員会

・「平成10年度行事予定」（次ページ参照）

◎審判委員会

・上級資格者の拡大

・指定大会審判員の募集

◎指導委員会

・全国に通じる小・中学生選手の育成

◎選手強化委員会

・強化指定選手の決定と強化

・全日本実業団を開催

６月４～８日、第48回大会を桜内日本協会会長を迎え開催した。この大会の本県での開催は11年ぶり、５回目となるが、この回数は全国で最多となる。また、今回は本会副理事長油井秀男氏が日本実業団連盟理事長に就任しての大会であり、本会、県実業団連盟が総力をあげて準備、運営にあたった。会場は26コートの名古屋市総合体育館と比較的近い10コートの露橋スポーツセンターの２会場で、2000人規模の大きな大会で、移動による選手への負担を軽くしたものとなった。しかし、戦後最悪のマイナス成長という厳しい環境の影響を受けて、参加チーム数は男子150、女子56計206チームと、前回熊本県での合計数200チームを上まわったものの、女子は廃部等により10チーム減少した。

本県からは男子16、女子７、計23チームが参加したが、選手の補強が十分できず、東海興業男子がベスト16に進んだにとどまった。



5度目の開催となった第48回全日本実業団大会試合風景

（注）平成10年度は創立51年目の年であるが、50周年事業計画等の内容および最新実績を記載するため設けた。

平成10年度行事予定表

平成10年度　行　事　予　定　表

愛知県バドミントン協会

連盟等	県内開催行事			東海以上県外開催行事		
	行事名	名古屋市内	各市（その他）	行事名	期日	開催地
協会	第92回中日盾争奪春季県新人大会	県体 4/5,12		第22回全日本高等専門学校選手権大会	8/8~9	東京都・八王子市
	第2回愛知ジュニア大会 大府オープン		大府市体 5/9	第53回国民体育大会第19回東海大会	8/29~30	岐阜・岐阜市
	第50回県総合選手権大会(個人戦)	天白 7/12　北 7/19,26		第41回全日本社会人選手権大会	9/12~15	舘本・八代市
	第53回国民体育大会県予選会（少年の部）	露橋 6/13,14 7/11		第17回全日本ジュニア選手権大会	9/15~17	埼玉・上尾市
	第5回国民体育大会県予選会（成年の部）	北 6/28		平成10年度東海総合選手権大会	9/19~20	三重・伊勢市
	第50回県青年大会		大府市体 8/30	第11回全国スポーツレクレーション祭	10/3~6	岐阜・各務原市
	第93回中日盾争奪秋季県新人大会	天白 9/6　県体 9/13		第53回国民体育大会	10/24~29	神奈川・大和市
	愛知スポ・レクフェスティバル '98		大府運動公園体 10/18	平成10年度全日本総合選手権大会	11/3~8	東京都
	第34回県社会人選手権大会	名東 1/31　稲永 2/7		第51回中部日本選手権大会	11/14~15	新潟・長岡市
	第23回愛知県団体対抗戦	稲永 2/14		第16回全日本シニア選手権大会	11/21~23	石川・金沢市
				第20回日本リーグ	11/14~2/14	全国各地
実業団	第43回東海実業団選手権大会	露橋 4/18,19				
	第67回県実業団選手権大会（前期リーグ）	緑 5/10	企業体育館（場所日時未定）			
	第48回全日本実業団選手権大会	総合Ⅰ,Ⅱ 6/3~7　露橋 6/4~5				
	第68回県実業団選手権大会（後期リーグ）	天白 11/29　中村 12/6	企業体育館（場所日時未定）			
	第12回県実業団大会（個人戦）					
社会人	第45回県クラブ対抗選手権大会（前期リーグ）	稲永 5/10,17,24 緑 5/17,31,7/5　天白 5/10,6/7	志段味 5/10,17,24,31　瀬戸市体 5/24 7/5　岩倉市体 5/17			
	第18回県クラブ大会（個人戦）	北 9/27　名東 10/4	志段味 10/11			
	第46回県クラブ対抗選手権大会（後期リーグ）	県体 1/10,17　名東 1/10　緑 12/20,1/10,17,24 中村 12/20　北 12/6,13　稲永 12/13,20　千種 12/6				
家庭婦人	第16回全日本家庭婦人大会県予選会	総合Ⅱ 4/14		第16回東海家庭婦人大会（団体戦）	6/13	岐阜・岐阜市
	第16回東海家庭婦人大会（団体戦）県予選会	総合Ⅱ 4/22		第16回全日本家庭婦人大会	7/29~31	東京都・町田市
	第8回県家庭婦人大会（個人戦）	総合Ⅱ 5/25~29		第25回西日本家庭婦人大会（個人戦）	9/26~27	富山・高岡市
	第12回東海家庭婦人大会県予選会（個人戦）	総合Ⅱ 9/24~25		第12回東海家庭婦人大会（個人戦）	11/7	三重・四日市市
	第25回県家庭婦人大会（団体戦）	総合Ⅱ 10/5~7, 13~15, 22, 26, 28				
	第5回愛知オープン家庭婦人大会	総合Ⅱ 1/19~21				
教職	第5回愛知県教職員選手権大会			第37回全日本教職員選手権大会	8/8~11	愛媛・松山市
大学	第87回東海大学選手権大会（春季）	稲永 4/6~11		第46回中部学生第47回中部大学選手権大会	5/19~25	富山・富山市
	第46回東海学生選手権大会	県体 4/20~24		第38回西日本学生選手権大会	8/18~25	岡山・岡山市
	第46回県学生選手権大会	天白 6/22~26		第49回全日本学生選手権大会	10/11~17	神奈川・平塚市
	第18回県大学選手権大会 第43回県学生新人選手権大会	天白 10/2~9				
	第88回東海大学選手権大会（秋期）	名東 11/23~28				
	第20回東海学生新人大会	県体 11/30~12/5				
高校	第49回全国高校総合県予選会兼第45回東海高校総合県予選会兼第52回県高校総合体育大会 支部予選会	尾張	丹羽高校 4/29,5/3 新川高校 4/26,4/29,5/3	第49回全国高等学校総合体育大会	8/1~6	香川・高松市
		名北	枇杷島 4/29　北 4/26,5/4　露橋 5/5	春日井 5/5	第27回全国高等学校選抜大会東海予選会	1/23~24	三重・伊勢市
		名南		大府 4/25~26,29 東海 4/18~19	第27回全国高等学校選抜大会	3/26~29	岩手・高沢村
		三河		下五井地区 4/18,19,25,29　大清水地区 4/18,4/26 牛川地区 4/26　小坂井高校 4/19,25,26,29			
	第49回全国高校総合県予選会兼第45回東海高校総合県予選会兼第51回県高校総合体育大会 県大会	露橋 5/23,24,5/31				
	第45回東海高等学校総合体育大会		豊川市総合 6/20,21			
	平成10年度県高等学校新人大会支部 予選会	尾張		丹羽高校 9/23,27 新川高校 9/20,23,27		
		名北	天白 9/15　露橋 9/20　稲永 9/23 愛知啄徳高校 9/27　高蔵寺高校 10/4			
		名南		大府市体 8/24,25,26 大府市体 9/26　大府高校 9/27		
		三河		下五井地区 9/19,20,23,26　小坂井高校 9/20,26,27 草間地区 9/23　大清水地区 9/19,27　時習館高校 9/23		
	平成10年度県高等学校新人大会（県大会）	天白 11/1,3		下五井地区 11/8　小坂井高校 11/8		
	平成10年度県高等学校学年別大会	露橋 1/9,10,15　総合Ⅱ 1/9,10 枇杷島 1/17　天白 1/15,17		豊橋総合 1/9　草間地区 1/10 下五井地区 1/10　大府 1/15		
中学	第23回県中学生大会		大府 5/4~5	第20回東海中学校総合大会	8/9~10	三重・小俣町
	第52回県中学総合体育大会兼第32回県中学校大会		大府 7/31,8/1	第28回全国中学生大会	8/22~25	宮城・仙台市
	平成10年度ジュニア選抜予選会		大府 8/6			
	第22回県中学生新人大会		大府 11/1,3			
	第1回県中学校大会（団体戦）		大府 3/13			
小学生	第16回県小学生大会（個人戦）		大府 7/11,12	第10回東海小学生大会（個人戦）	10/10	静岡・富士宮市
	第4回県小学生大会（団体戦）		大府 11/28	第7回全国小学生大会（個人戦）	12/12,13	広島・広島市
	第3回県小学生大会（新人戦）		大府 2/27	第3回全国都道府県対抗小学生大会	2/13,14	神奈川・横浜
				第2回東海小学生大会（団体戦）	未定	静岡

専門委員会史

総務、競技関係活動の経過

本会創立時の規約には「県内バドミントン団体の中軸となって健全な普及発展を計る」ことを目的とし、その達成のため「競技の指導、県選手権大会その他各種競技大会の開催、その他普及に関する一切の事業」を行なうことを定めている。すなわち競技団体として愛好者が集まり、組織的な活動をしていくためにはもっとも基礎となるものが総務および競技の活動である。言い変えれば縁の下の力持ちの役目であり、また、毎年繰返しの活動であるため話題性に乏しく、50年の経過をまとめるのは難しい。しかし、愛好者数においても、国体等での競技成績においても、また、国際大会等の開催においても、全国有数の実績を誇るものがあり、その熱意と努力は計り知れないものがある。

総務、競技の活動が独立した組織としてのものとなったのは、創立から12年後の35年４月、規約の全面的改訂により、専門委員会の設置が定められたときからである。ただし、実際にそれが形になったのは、37年度総会資料の組織機構一覧表の中に総務部、財務部、競技部、広報指導部（43年度までは部の名称で進められた）として載せられたときからである。37年度役員名簿には、野口勇氏が競技部長、広報指導部長服部興治氏とあるが、総務関係は伊藤鑛一氏が庶務、日崎久男氏が会計のままで、全部長が決定したのは38年度になってからであった。（総務部長伊藤鑛一氏、財務部長小沢靖彦氏、競技部長野口勇氏、広報指導部長服部興治氏）

その後の歴代の総務委員長は47年度まで伊藤鑛一氏が務めた後、48、49年度加藤三郎氏、50、51年度後藤守氏、52年度から61年度まで10年間鈴木勇氏、わかしゃち国体の年、６年度まで８年間中野正紀氏が当り、７年度からは山口武満氏が6人目の委員長となった。なお、財務部長は43年度までで、44年度からは総務委員長が統括するようになったが、予算規模も大きくなり、財務は44年度から51年度まで尾関敏教氏が、52年度からは山口武満氏が専任した。

一方、競技委員長は47年度まで野口勇氏が務めたあと、上原信彦氏が61年度まで14年間、そして、62年度からは山本卓男氏が３人目の委員長についている。

なお、専門委員会活動の内容が具体的に示されるようになったのは、本会の組織が加盟団体により構成されるように変り、規約が全面的に改訂された55年４月、同時に制定された専門委員会規定においてである。この規定は８年４月に見直しが行なわれた。以下、規定の内容にしたがって経過の概要をみてみると次のとおりである。

1 総務委員会

実施事項は第８条で次のように定められている。
①本会機関（専門委員会を除く）の開催準備、議事録その他資料の整理保管等の事務局業務
②本会加盟団体との連絡
③外部団体との連絡及び接渉
④一般会計並びに特別会計の予算、決算及び経理業務
⑤本会規約及び関係規定について研究及び改廃業務
⑥被表彰者の選考並びに表彰資料の収集及び保管
⑦その他各委員会に属さない事項
それぞれの活動の概要は次のとおりである。

（1）機関について

機関を執行する役員は創立当初から理事長と理事で行なわれてきたが、46年度からは常務理事制、48年度からは副理事長制がひかれ現状の形となった。構成人員も名簿として記録がある35年度以降について、39年度までは20人前後であったが、40～45年度は30人前後、46～51年度は40人前後と増え、加盟団体設立前の52、53年度は48人、設立時の54、55年度は最高の55人なった。会の運営が円滑に行なわれるようになるとともに減少し、60年度以降は30～33人で効率的に活動が進められている。（資料編、歴代役員名簿、役員構成表、登録人員推移、専門委員会設立経過、参照）

なお、毎年、年度末に開催する総会への提出資料は1冊にまとめられており、それが36年度から残っていたため、この50年誌の作成にも大いに役立った。

(2) 加盟団体について

加盟団体との連絡業務として主要なものは、1つが登録関係であり、もう1つが行事等の連絡である。登録については54年度までは事業所あるいは学校といったチーム単位と直接団体、個人登録の手続きを行なっていたが、55年度からは各加盟団体の事務局の一括した手続きになった。

協会行事等の案内については、総会の評議員でもある各チームへ直接行なっている。その数は9年度422であった。

加盟団体は8年度に小学生連盟が加わり、現在は次のとおりである。

1．愛知県実業団バドミントン連盟
2．愛知県社会人バドミントン連盟
3．愛知県教職員バドミントン連盟
4．愛知県家庭婦人バドミントン連盟
5．愛知学生バドミントン連盟
6．愛知県高等学校体育連盟ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ専門部
7．愛知県中小学校体育連盟バドミントン部
8．愛知県小学生バドミントン連盟
9．愛知県内市町村バドミントン協会又は連盟

なお、市町村からの加盟は現在少数であり、その拡大が継続した課題となっている。

(3) 外部団体について

1つは㈶日本バドミントン協会であり、登録関係だけではなく、競技会、審判員養成、指導者養成、そして最近は広報活動とすべての窓口として連絡、接渉に当っている。

もう1つは県教育委員会、㈶県体育協会であり、国体関係、選手強化、指導者養成、功労者の表彰等について諸会議に出席するほか、窓口業務を担当している。

その他本県は中部日本バドミントン連盟（9県）および東海バドミントン連盟（4県）の事務局を担当しており、機関の開催の推進、会計業務を行なっている。

(4) 経理業務について

会の発展にそって予算規模も拡大し、36年度には40万円台であったが、40年度に100万円台となり、現在は2,000万円台となっている。これに対し早くから財務担当として専任者を総務委員会に置き、また、監事は業務に精通しているものが継続して就任しており、健全な経理を進めてきている。財源の中心は会費であるが、常にその効率活用をめざし、加盟団体分担金は国体後の立て直しのため8年度に増額したが、個人登録料は62年度から据え置いている。

また、協会主催大会参加料も60年度から改訂していない。

なお、9年度から経理事務をパソコン化するようにして合理化を進めている。

(資料編　協会登録料改訂経過、協会主催大会参加料改訂経過参照)

(5) 規約の改廃について

本則は創立時に制定以降35年4月、55年4月に全面改訂し、8年4月に全面的な見直しを行なってきている。また、その他にも登録料の改訂等に合わせ部分的な改訂を行なっている。

また、登録規定を51年4月に、専門委員会規定を55年4月に制定し、その後部分改訂を行ない現行のものとなっている。

(資料編　規則集参照)

(6) 表彰について

役員そして優秀な成績をあげた選手の努力に報いるには表彰制度は大切なものであり、日本協会、県体育協会等へ積極的に推薦を進めてきている。

(資料編　表彰者名簿参照)

(7) その他

上記以外に書類の印刷、発送、表彰状の作成等庶務事項を実施してきている。

2 競技委員会

実施事項は第10条に次のように定められている。

①競技大会の企画、準備及び開催運営
②ランキングの決定
③競技記録、ランキング記録、賞杯等の管理保存
④競技に関する規定類の研究及び周知

⑤用具の研究調査及び大会使用球等の決定
⑥その他競技に関する事項

(1) 大会の開催、運営について

県内大会は全体を対象とした県総合選手権、新人大会が創立翌年度から始まったが、20年代に高校、大学の大会、30年代に実業団の大会、40年代に中学校、家庭婦人の大会、50年代に社会人、小学生の大会、そして平成になって、教職員の大会へと拡大されていった。

一方、東海地区以上の大会については、東海、中部の関係は輪番制の当番県としての開催であった。国際大会、全国大会についても25年度の国体、38年度の日韓大会をはじめ、47年度までに開催した6大会は当番県であったといえる。しかし、日中大会や日本リーグが始まると立候補によるものがほとんどとなり、本県は積極的に誘致し、48年度以降、当番県の大会を含め、国際大会は11大会、全国大会は29大会と平均年2大会という大変なものだった。しかし、これにより、競技役員および審判員の養成には大いに役立った。

大会の計画という点では会場確保との戦いであった。参加人数が増え学校施設だけでは難しくなってきた40年代は、他の競技も屋内で実施するようになってきたときであり、名古屋の金山体育館のスケジュール調整会議はけんかの場のような雰囲気であった。55年度に加盟団体制になってからはさらに参加者が増え、県内各地の体育館をその地域の役員を通して依頼し、なんとかスケジュールを埋めることができた。その後は名古屋市で区単位にスポーツセンターが設けられるようになったことと、わかしゃち国体開催地の大府市のご理解により、対応することができている。

なお、県協会が全加盟団体をまとめ、一体となって会場確保を行っているやり方は大変評価を受けている。このようにしてまとめられたスケジュールは「○年度行事予定表」として43年度以来総会資料にとじこまれている。

大会の運営については役員確保との戦いであった。早くから年間の分担表を作成し進めてはきたが、実態は一部の役員によることが多かった。

50年度前後からは電話による事前確認を一所懸命やり、ほぼ協力体制ができた。58年度からは往復葉書により確認をとるようにして心配はなくなった。

また、50年度には「県大会運営要領」「大会開催チェック表」「大会開催報告書」を作成し、準備、運営を標準化し、きちんとした作業を行なうことができるようになって、競技委員会は役員養成の場ともなった。

(資料編　東海地区以上大会開催の経過、県大会開催の経過、県大会参加人数の推移参照)

(2) 競技記録について

37年度総会報告書に「大会別入賞者名簿一覧表」が記載されたのが、県協会でまとめた記録として残されている最初のものである。40年度以降は加盟団体を含めた全県内開催大会および県選手の国際大会、全国大会での記録を一冊にまとめた「成績表」が毎年作成され、残されている。

(資料編　国際大会出場者、全国大会3位以上入賞者、西日本、中部大会3位以上入賞者、東海大会優勝者、県大会優勝者参照)

広報活動の経過

広報委員会は48年度に発足以来、報道関係等への試合結果の連絡や資料収集に当たってきたが、資料に関してはその種類、分野が年々多様化し、その整理が困難になってきていた。そこで毎年蓄積されていく資料を整理していく必要性が生じ、その時々の出来事を忠実に遺していくことのできる愛知県バドミントン協会の広報誌の発刊が叫ばれるようになった。56年４月、委員長が大場直美氏から山田順一郎氏に引き継がれたとき、広報誌の発刊に向けて、スタートを切った。

そして、発刊までの準備期間を６ヵ月、56年秋発刊とする目標をたて、一丸となって準備に精を出した。その間に広報誌のタイトルは「バドミントン愛知」と決まり、タイトルのロゴや紙面中のロゴは発刊当時からの広報委員、細野節子氏の弟さんにお願いし、今でも使われている下記のものを決定した。

また、紙面の大きさや構成などは既に広報誌を発刊していた大阪バドミントン協会を大いに参考にさせて頂いた。

試行錯誤の結果、56年９月に委員会メンバーの手作りによる紙面４頁の「バドミントン愛知」を創刊することができた。創刊後も広報委員の有志は写真教室や新聞作りの文化教室へ通うなど、涙ぐましい努力を積み重ね、紙面は回を重ねるごとに良くなり、充実されたものになってきた。

58年４月より飯村順一氏が新しく委員長に就任してからは、今までの年２回の発行を年３回にし、さらに、63年４月より委員長を受け継いだ清水善勝氏は、年４回の発行にすると同時に、頁数も63年９月26号からは倍増の８頁にし、記事の量を増やすとともに、内容もより一層充実させてきた。時代のニーズに応えての連載ものでは「審判・正しいコールをしていますか」、国体開催にむけて「わかしゃちだより」（6年7月50号で完）、選手強化のための「スマッシュ」等執筆者の協力のもと、10年３月、63号を数えるに至っている。現在では、県協会の登録会員一人に１部配布できるように発行部数も9,000部となり、内容とともに国内有数のバドミントン広報誌となった。

また、９年11月に名古屋市で県協会創立50周年行事として開催された全日本総合選手権大会を機に、これからのマルチメディアにも対応してゆく開かれた広報活動をめざし、京都府についで全国２番目のインターネットの開設をし、その後も全国に情報を発信している。

創刊号からの「バドミントン愛知」を別冊としたいところであるが、膨大なものとなるため、各号のタイトル名を次ページ以下に掲載する。

「タイトルのロゴ」



「紙面中のロゴ」



コラム欄、短い評論



一言物申す



チーム紹介



質問コーナー

「バドミントン愛知」タイトル一覧

No.	発行月	内　　容
1	S56. 9	①発刊のことば（後藤淳会長） ②31回全日本実業団大会愛知開催ＰＲ。羽毛球（機関誌の発刊） フットワーク「実業団　日本電装（女子）」 ③協会だより。連盟ニュース。発言（58インターハイまであと２年） ④ラブオール（協会の組織）。速報（国体選手決定） ＊広報委員長　山田順一郎 ４Ｐ
2	11	①31回全日本実業団大会終る。３回日本リーグ愛知大会迫る。 ②東海総合県勢全種目１位。びわこ国体結果。フットワーク「名城大学」 羽毛球（財団法人名古屋市体育協会会長に後藤淳会長） ③協会だより。連盟ニュース ④ラブオール。発言（百練は一見にしかず）
3	57. 3	①育て若鯱ジュニア合宿。34回県実業団大会終る。 ②日本リーグを終えて。フットワーク「家庭婦人　春日井チェリー」 ③発言（審判）。連盟ニュース ④ラブオール。56年度総会案内
4	5	①56年度総会開催　新年度へ向けてスタート。行事予定 ②ヨーロッパ遠征に参加して。61回県新人戦結果。フットワーク「東海高校」 ③発言（ウェアーとネームプレート）。連盟ニュース ④ラブオール。速報（日韓大会ＰＲ　露橋）
5	9	①１回日韓競技会開催。鹿児島インターハイ終わる。 ②８回日中大会引き分ける。羽毛球（スポーツマンシップ） フットワーク「社会人　ＲＳノナカ」 ③協会だより（競技記録）。　④ラブオール。発言（大府市親子大会）
6	12	①58高校総体準備着々進行中（豊橋）。９回県家庭婦人大会開催 ②４回日本リーグ終わる（刈谷）。フットワーク「淑徳高校」 ③羽毛球（37国体に参加しての感想）。連盟ニュース ④ラブオール。37回国体結果
7	58. 2	①７回県総合個人戦（坂本・片山優勝） 団体戦結果（男子トヨタ７年、女子日本電装５年連続優勝） ②58総体だより。速報（高校選抜男女共東海を制す）。フットワーク「名鉄」 ③62回県新人戦結果。連盟ニュース ④ラブオール。57年度総会案内
8	5	①57年度総会開催　新年度に向けてスタート、新年度を迎えて（会長）、役員 ②58総体だより、速報（選手決定）。フットワーク「中京女子大学」 ③羽毛球（日本協会新マーク採用）。連盟ニュース ④協会だより（57総会案内）。62回県新人戦結果 ＊広報委員長　飯村順一に交替

No.	発行月	内　　容
9	S58. 9	①58高校総体を終えて「走れ、跳べ、競え、東海の空」豊橋市体、試合結果 ②結果と課題（今後のジュニア強化）。フットワーク「社会人　ＢＳモリタ」 ③１回東海家庭婦人大会結果（三重）。連盟ニュース（１回県小学生大会開催） ④協会だより（33回全日本実業団、全日本教職員、５回東海中学総体）
10	59. 3	①36回中部日本開催（豊田市）、県勢３種目を制覇 ②長谷川参三氏（県協会顧問）逝去。フットワーク「大府西中」 ③連盟ニュース ④全日本ジュニア服部ベスト８。ラブオール。あかぎ国体・８回県総合結果
11	5	①58年度総会開催　新たなる始動。59年度行事計画 ②委員会活動方針。フットワーク「愛知工業大学名電高校」 ③連盟ニュース ④協会だより、64回県新人戦結果。お知らせ（県協会事務局の変更）
12	10	①東海地区ジュニア韓国遠征を終えて。36回県総合個人戦結果 ②国体５回東海大会（全種目制覇ならず）。高校総体（秋田）観戦記 フットワーク「東海さつき」。　③連盟ニュース ④２回県小学生大会（露橋）開催、65回県新人戦結果
13	60. 2	①35回全日本学生選手権大会開催（名古屋）松野・松浦組優勝 ②39回若草国体終わる。審判講習会開催。フットワーク「ソニー一宮㈱」 ③全日本ジュニア（東京）観戦記。連盟ニュース ④協会だより（競技規則の改正）。10回日中大会開催（露橋）
14	6	①59年度総会開催　大いなる前進、新年度を迎えて（会長）新役員紹介 ②委員会活動。フットワーク「愛知工業大学」 ③３回全日本家庭婦人大会３位入賞。連盟ニュース ④協会だより　66回県新人戦結果。３回県小学生大会ＰＲ
15	9	①２回日韓ジュニア大会参加報告(三重・愛知で開催) ②観戦記（高校総体・全日本家婦）。フットワーク「社会人　中川シャトル」 ③連盟ニュース ④３回県小学生大会・37回県総合個人戦結果。初級審判講習会
16	61. 2	①39回全日本総合選手権大会開催（愛知県体）、地元選手出場 ②日本リーグ刈谷大会（トヨタ・電装活躍）。フットワーク「佐屋高校」 ③発言（親子ペアの汗）。連盟ニュース ④国体天皇杯３位・皇后杯２位。67回県新人戦結果。上級審判講習会
17	6	①60年度総会開催　大いなる新年度に、新年度を迎えて（伊藤理事長） ②委員会活動方針。フットワーク「天神山中学校」 ③連盟ニュース ④68回県新人戦・10回県総合団体戦結果。ラブオール
18	9	①全日本実業団開催予告。38回県総合個人戦結果 ②国体全種目出場選手紹介。４回全日本家庭婦人大会結果 フットワーク「家庭婦人　千種クラブ」　③連盟ニュース ④委員会だより（公認審判員規定）。４回県小学生大会結果

No.	発行月	内　　容
19	S62. 1	①日本リーグ豊田大会を開催して。監督談 ②39回中部日本（福井）結果。吉岡紹直氏（県協会顧問）永眠。 フットワーク「愛三工業（株)」 ③３回全日本シニア大会（松山）参加報告。連盟ニュース ④41かいじ国体・５回全日本Ｊ（上尾）参加報告。ラブオール
20	6	①61年度総会開催　新年度にむけて、69'国体にむけて ②協会役員、新副理事長（上原・山田）あいさつ、委員会活動方針 ③羽毛球（クラブ大会に外国人参加)。連盟ニュース ④フットワーク「名古屋大学」。70回県新人戦に親子ペア優勝
21	7	①全日本実業団盛会（県体）トヨタ男子決勝進出ならず ②試合結果 「臨時」２Ｐ
22	9	①17回全中（春日井大会）大府西中ベスト８進出 ②38回高校総体、５回全日本家庭婦人結果。フットワーク「黄金クラブ」 ③連盟ニュース ④39回県総合個人戦、５回県小学生大会結果。42国体選手決定
23	63. 2	①42沖縄国体総合４位。日本リーグ（名古屋大会） ②９回日本リーグ名古屋大会に沸く。フットワーク「岡崎城西高校」 ③連盟ニュース ④30回全日本社会人選手権・４回全日本シニア結果。初級審判講習会
24	3	①②③協会創立40周年座談会特集 渡辺成雄（県協会副会長）・青山敏郎（同副会長）・伊藤鑛一（同理事長） 山田順一郎（同副理事長）各氏　司会　飯村順一 ④協会の記録（主なできごと）
25	5	①62年度総会開催　協会創立40周年記念祝賀会盛大に開催、桜内日バ会長来名 ②委員会活動方針。フットワーク「富木島中学」。 ③連盟ニュース ④72回県新人戦・12回県総合団体戦結果。49愛知国体強化対策本部組織表 ＊広報委員長　清水善勝に交替
26	9	①京都国体へ全種目出場決める（大府市で） ②日中友好、愛知×江蘇省大会開催（三好町で） ③40回県総合個人戦・全日本社会人結果。１回Ｊ強化合宿（可能性に挑戦） ④公認審判員資格改訂・用語の一部変更 ⑤６回県小学生大会結果（めざせ69国体)。88高校総体・日韓親善報告 ⑥連盟ニュース。 ⑦フットワーク「豊田市家庭婦人連盟」 ⑧10回日本リーグ開催迫る。６回全日本家庭婦人大会名古屋チーム３位 ⑨日本リーグポスター（11/3 レインボーホール） ＊この号から８Ｐ

No.	発行月	内　　容
27	H 1. 2	①②10回日本リーグ名古屋大会盛大に開催、写真・記録 ③43回京都国体報告。１回スポレク大会で健闘 ④⑤連盟ニュース。フットワーク「ＮＴＴ東海」 ⑥ジュニア強化合宿（愛知国体めざして） ⑦競技規則全条改正（４月から）特に18条に注意を ⑧５大市交歓大会、73回県新人戦、審判資格移行手続き
28	5	①63年度総会開催　平成元年度愛知の幕開け、新年度を迎えて（会長） ②③新役員紹介（写真）、委員長抱負（写真）。63年度行事計画表 ④⑤連盟ニュース。フットワーク「南山大学」 ⑥13回県総合団体戦（トヨタ・日本電装）優勝。24回県社会人大会結果 ⑦競技規則全条改正　特に18条に注意を。 ⑧74回県新人戦結果。市町村だより（名古屋市）。台湾遠征へ中年パワー
29	9	①41回県総合個人戦（写真）記録、（古賀・大屋単複２連覇） ②39回全日本実業団大会に豊田工機堂々３位入賞 ③６回全日本シニア選手権大会（大府で）ＰＲポスター ④協会だより７回県小学生・１回東海小学生大会結果。 ⑤連盟ニュース ⑥44国体東海予選４種目制覇ならず。フットワーク「フライトスポーツ」 ⑦家庭婦人連盟10周年愛知オープン大会開催。49国体指導者研修会開催 ⑧16回世界選手権愛知開催決定。市町村だより
30	12	①②③６回全日本シニア大会開催（大府市）、シニア大会入賞のよろこび ④東海総合開催（枇杷島ＳＣ）、はまなす国体（棄権負け） ⑤⑥連盟ニュース。スポレク愛媛に参加して ⑦社会人連盟10周年記念大会・懇親会。フットワーク「中京女子大付属高校」 ⑧審判委員会だより。市町村だより（春日井市）。75回県新人戦結果
31	2. 3	①14回県総合団体戦結果（トヨタ・日本電装が優勝　写真・記録） ②25回県社会人大会結果（峰・間庭が優勝　写真・記録） ③世界選手権大会予告（5/24～6/3 レインボーホール） ④⑤連盟ニュース。フットワーク「松原中学校」　⑥実業団連盟10周年記念事業 ⑦上級審判講習会検定会。指導者講習会開催。　⑧市町村だより
32	5	①②元年度総会開催　平成２年度にむけて、事業目標、行事計画、委員会活動 ③羽毛球（青木選手の活躍）。社会人連盟が10周年記念誌を発行 ④⑤世界選手権ＰＲポスター。　⑥連盟ニュース ⑦ラブオール。「若しゃち」だより。フットワーク「大府市家庭婦人連盟」 ⑧76回県新人戦結果。市町村だより。
33	9	①トマス杯／ユーバー杯90世界選手権大会開催　②観戦記 ③世界選手権を終えて（伊藤理事長、上原・山田副理事長） ④42回県総合個人戦・８回県小学生大会結果 ⑤選手を派遣　45国体（少年女子）・中国研修合宿・６回東海地区Ｊ選抜韓国 ⑥フットワーク「トヨタ自動車」。　⑦連盟ニュース ⑧「若しゃち国体」だより。市町村だより。委員会だより

No.	発行月	内　　容
34	H 3. 1	①②12回日本リーグ三好大会、日本リーグ三好大会を観戦して（広報委員） ③39回全日本学生東西競技大会開催（天白ＳＣ）東軍に軍配。 77回県新人戦結果。７回全日本シニア大会結果 ④⑤連盟ニュース。フットワーク「愛知大学」 ⑥45回とびうめ国体を終えて、こぼれ話 ⑦委員会だより（審判、普及）。49国体指導者研修会。43回中部日本結果 ⑧「わかしゃち」だより。スポレクわかやま参加報告。市町村だより
35	3	①15回県総合団体戦（トヨタ自動車アベック優勝、佐屋高校大健闘） ②26回県社会人大会（古賀、藤本に栄冠） ③高校国体東海地区予選。「わかしゃち」だより。日バだより（伊藤理事長） ④競技委員会　３年度行事計画表 ⑤委員会だより（指導、審判、選手強化）。羽毛球（選手にインタビュー） ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「社会人　大門クラブ」。　⑧市町村だより
36	5	①２年度総会開催　「わかしゃち国体」に向けて新たなスタート、事業目標 ②３・４年度専門委員会委員きまる ③審判連載１。40回全国教職員大会開催迫る（８月豊橋市） 県協会歴史的資料提供願い。社会人連盟の連盟旗完成 ④東海大学春季リーグ（天白ＳＣ他）。36回東海実業団大会結果 ⑤78回県新人戦結果。「わかしゃち」だより。ラブオール ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「市邨学園高校」 ⑧市町村だより（名古屋市、春日井市、豊田市、知多市）
37	9	①46国体東海ブロック大会成績（３種目優勝） ②30回全日本教職員大会豊橋で開催（４種目ベスト８と健闘） ③43回県総合個人戦結果。家庭婦人全国大会銀メダルを獲得 ④91日韓ジュニア交流競技会開催（８／28大府）。香川一中　新健二氏談 ⑤県中学総体・東海中学総体大府で開催。９回県小学生大会開催 ⑥⑦連盟ニュース。審判連載２。フットワーク「守山北中学校」 ⑧市町村だより
38	4. 1	①46国体（石川）少年女子健闘し５位に入賞、 ②79回県新人戦結果。４回全国スポレクでブロック優勝 ③１回日本身体障害者バドミントン選手権大会（天白ＳＣ）11月 40回全国青年大会準優勝。審判連載３。日バだより（シンボルマーク他） ④委員会だより（審判、選手強化、指導）。各種大会記録 ⑤ラブオール。「わかしゃち」だより。フットワーク「家庭婦人弥富クラブ」 ⑥⑦連盟ニュース。　⑧市町村だより
39	3	①16回県総合団体戦（トヨタ自動車男子・女子が連覇） ②27回県社会人選手権大会（野呂・藤本が優勝） ③競技委員会　Ｈ４年度行事計画表 ④委員会だより（総務、広報、選手強化対策本部、審判）。審判連載４ ⑤⑥連盟ニュース。フットワーク「名古屋市役所」 ⑦「わかしゃち」だより。ラブオール。　⑧市町村だより

No.	発行月	内　　容
40	H 4. 7	①３年度総会開催　選手強化を柱に「わかしゃち」国体に照準、事業目標 ②44回県総合個人戦（古賀・鳥居単優勝）。80回県新人戦結果 ③10回県小学生大会・指導者講習会。37回東海実業団大会（トヨタ・ヤマハ） ④10回東海家庭婦人大会団体戦・全日本家庭婦人クラブ対抗東海予選 75回東海大学、40回東海学生選手権大会（名城大・東海女子大優勝） ⑤国際審判員誕生　山田順一郎氏。「わかしゃち」だより。 フットワーク「名古屋北クラブ」 ⑥⑦連盟ニュース。選手強化委員会だより。審判連載５　⑧市町村だより
41	11	①47回国体成績、善戦成年男子４位、少年女子５位 ②２回全日本混合大会　古賀・藤本組２位（大府）７月 ③「わかしゃち」だより。審判連載６。81回県新人戦結果 ④４回東海小学生大会、５年稲垣君優勝。ジュニア韓国親善試合に参加 44回県青年大会。各大会の記録 ⑤10回全日本家庭婦人大会クラブ対抗の部（岡崎が優勝、豊田は３位） 審判講習会・検定会大盛況。ラブオール ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「愛知淑徳大学」　⑧市町村だより
42	5. 2	①４年度全日本総合選手権大会（大阪）混合複優勝トヨタ古賀・藤本組 ②45回中部日本大会開催（名古屋市総合体育館）11月　県勢７種目に優勝 ③43回インカレ８年ぶり名古屋で開催 ④中村高久氏（県協会普及委員・大府市）ご逝去。審判連載７ ５回スポレクしまね参加報告優勝。ラブオール ⑤H４年度指導者研修会開催。フットワーク「大府高校」 ⑥⑦連盟ニュース。　⑧市町村だより（名古屋市、豊田市、知多市、大府市）
43	3	①17回県総合団体戦（トヨタ自動車アベック優勝） ②28回県社会人選手権（峰・藤本優勝） ③委員会だより（選手強化対策本部・審判）。審判連載８ ④⑤連盟ニュース。フットワーク「春日井市中部中学校」 ⑥⑦市町村だより。ラブオール　⑧５年度行事計画表
44	7	①４年度総会開催　皆で力を合わせて「わかしゃち国体」成功へ、事業目標 ②委員会委員決まる、「競技力向上」重点目標（理事長） ③委員会方針。82回県新人戦結果。 ④「わかしゃち」だより。審判連載９ ⑤38回東海実業団選手権開催。ラブオール。フットワーク「小牧市家庭婦人」 ⑥⑦連盟ニュース。　⑧市町村だより
45	10	①36回全日本社会人選手権開催（大府市）９月（わかしゃち国体リハーサル） ②試合結果（写真） ③45回県総合個人戦（福田・鳥居優勝）。10回東海選抜Ｊ交歓大会参加報告 ④33回西日本学生選手権開催（枇杷島ＳＣ）結果。11回県小学生大会結果 ⑤国体14回東海ブロック大会（少年女子優勝）。合同合宿実施 「わかしゃち」だより。審判連載10 ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「新日鉄名古屋」　⑧市町村だより

No.	発行月	内　　容
46	H 6. 1	①５年度東海総合選手権開催（枇杷島ＳＣ）県勢４種目制覇 ②48回国体（少年男女とも好成績残せず）。46回中部日本結果 ③「わかしゃち」だより。審判連載11。ラブオール ④６回スポレク祭・準優勝。各種大会記録 ⑤83回県新人戦結果。フットワーク「社会人　フレスカ」 ⑥⑦連盟ニュース。 ⑧市町村だより
47	3	①18回県総合団体戦（今年もトヨタが男女優勝） ②29回県社会人選手権（男子滝田・女子藤本優勝） ③「わかしゃち」だより。少年女子指定選手トヨタ選手と合同練習 ④ジャパンオープン94主審に原　賢一氏。審判連載12。フットワーク「中京大学」 ⑤⑥連盟ニュース。　⑦市町村だより ⑧６年度行事計画
48	7	①５年度総会開催、「わかしゃち国体」成功へ、協会一丸! 事業目標 ②22回全国高校選抜選手権開催（大府市）県勢奮わず ③日本協会だより（６年度より国体に学生参加承認） 「わかしゃち」だより。選手強化対策 ④84回県新人戦結果。 ⑤審判連載13。ラブオール。フットワーク「小坂井高校」 ⑥⑦12回全日本家庭婦人大会を愛知で開催ＰＲ（６年７月）。連盟ニュース。 ⑧市町村だより
49	10	①「わかしゃち国体」総合優勝へばく進、国体県代表決定 ②国体競技組合せ。46回県総合選手権個人戦（野呂・青木優勝） ③「わかしゃち」だより。審判連載14。85回県新人戦結果。 ④12回全日本家庭婦人大会開催（レインボーホール）愛知Ａチーム準優勝 12回全日本家庭婦人大会結果。12回県小学生大会結果 ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「阿久比中学校」 ⑧市町村だより
50	7. 1	①49回わかしゃち国体盛大に開催（大府市）、天皇杯愛知は５位 ②試合結果、成年男子ベスト４ ③④「わかしゃち国体」を終えて（理事長、国体事務局、審判委員長） ⑤大会写真　「わかしゃち」だより終 ⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「岡崎市家庭婦人連盟」 ⑧市町村だより
51	3	①19回県総合団体戦（トヨタ今年も男女優勝） ②30回県社会人選手権（男子滝田・女子中出優勝） ③山田順一郎国際審判員が上級資格を取得（日本で唯一人）。審判連載15 ④県小学生交流大会「団体戦」を開催（普及委員会） ⑤７回スポレクに参加して。連盟ニュース ⑥連盟ニュース。フットワーク「東海興業」　⑦市町村だより ８７年度行事計画

No.	発行月	内　　容
52	H 7. 6	①６年度総会開催、理事長に上原信彦氏、役員改選 ②③協会組織図、役員あいさつ ④86回中日楯新人戦。40回東海実業団開催（緑ＳＣ）トヨタ・電装が優勝 フットワーク「Ｃｕｃｋｏｏ愛知」 ⑤審判連載16。ラブオール。連盟ニュース ⑥⑦連盟ニュース。　⑧市町村だより
53	10	①50回国体16回東海ブロック大会（伊勢）結果（成年女子・少年女子優勝） ②47回県総合個人戦結果（滝田・野中優勝）。87回県新人戦結果 ③日本リーグ開催ポスター。８回スポレク愛知優勝等協会だより ④13回小学生大会（写真・記録） ⑤審判連載17。ラブオール。フットワーク「日本福祉大学」 ⑥⑦連盟ニュース。スマッシュ（選手強化記事）。 ⑧市町村だより
54	8. 1	①日本リーグ‘95大府大会開催、試合結果 ②１回小学生団体戦大会開催（大府）10月、理事長あいさつ ③44回全日本学生東西対抗大会（中村ＳＣ）開催、東軍が圧勝 ④スマッシュ。審判連載18。ラブオール ⑤⑥⑦連盟ニュース。フットワーク「愛知淑徳高校」　⑧市町村だより
55	3	①20回県総合団体戦（豊田工機〈男子〉・東海興業〈女子〉）初優勝 ②31回県社会人選手権（川島・加藤が初優勝） ③委員会だより（上級審判検定実施、県外遠征）。スマッシュ ④審判連載19。ラブオール。フットワーク「当知中学校」 ⑤⑥連盟ニュース　⑦市町村だより　⑧８年度行事計画
56	7	①７年度総会開催　より一層な選手強化を確認、小学生連盟加盟鈴木理事長 ②88回県新人戦結果。41回東海実業団選手権（露橋ＳＣ）日本電装優勝 ③25回モーニングカップ大会に参加して。スマッシュ 山田順一郎氏 日本バドミントン協会審判委員長に任命さる ④審判連載20。ラブオール。フットワーク「瀬戸市家庭婦人連盟」 ⑤⑥⑦連盟ニュース。　⑧市町村だより
57	10	①26回全国中学校大会開催（大府市）稲垣〈石尾台中〉県勢で初の準優勝 ②大会結果。国体東海ブロック予選会（大府市）県勢敗退 ③89回県新人戦結果。各種大会記録 ④指導委員会　藤上氏（比叡山高教諭）を招聘。スマッシュ ⑤審判連載21。ラブオール。フットワーク「豊田工機」 ⑥⑦連盟ニュース。 ⑧市町村だより（名古屋市、知多市、豊田市）
58	9. 1	①日本リーグ‘96（２部リーグ）名古屋市で開催 ②協会だより（50周年記念事業・表彰渡辺副会長・審判資格・行事計画） ③51回国体成年女子成績３回戦。スポレク３連覇（群馬）。中部日本大会結果 ④審判連載22。ラブオール。フットワーク「社会人・岩倉パラレル」 ⑤スマッシュ。　⑥⑦連盟ニュース　⑧市町村だより

No.	発行月	内　　容
59	H 9. 3	①21回県総合団体戦（男子紫電会初優勝・女子はトヨタ自動車） ②32回県社会人選手権（男子単馬場初優勝・女子単加藤連覇） ③審判連載23。ラブオール。フットワーク「石ヶ瀬スポーツ少年団」 ④スマッシュ。委員会だより。連盟ニュース ⑤⑥連盟ニュース ⑦市町村だより ⑧９年度行事計画
60	7	①８年度総会開催、創立50周年記念行事確認（９年度全日本総合選手権大会） ②専門委員会決まる。日バだより。特報（西日本学生・全日本総合ＰＲ） ③１回愛知ジュニア大会　大府オープン開催（東海４県より参加） ④審判連載24。ラブオール。フットワーク「愛知学院大学」 ⑤90回県新人戦結果。県体協功労賞。連盟ニュース ⑥⑦連盟ニュース ⑧市町村だより（５大都市大会名古屋で開催）
61	11	①国体東海ブロック大会（富士市）　県少年女子１位。 49回県総合「個人戦」結果（男子単馬場・女子単野中優勝） ②37回西日本学生大会名古屋で開催。91回県新人戦結果。ホームページ開設 ③審判連載25。ラブオール。フットワーク「県立天白高等学校」 ④指導委員会（小学生合宿）・審判資格認定員研修会。 ９年度東海総合選手権大会開催（大府市）混合複滝田・大串組優勝 ⑤⑥連盟ニュース ⑦市町村だより ⑧９年度全日本総合選手権大会ＰＲポスター
62	10. 2	①９年度全日本総合選手権大会開催（名古屋市） ②　〃　試合結果 ③52回国体少年女子堂々５位入賞（大阪）。東海総合県勢振るわず ④９回東海小学生「個人戦」（大府）田中〈石ヶ瀬〉優勝。 スポレクおきなわ‘97参加・青年大会参加報告 ⑤審判連載26。ラブオール。フットワーク「大府北中学校」 ⑥⑦連盟ニュース ⑧市町村だより（大府市、知多市、名古屋市、豊田市）
63	3	①22回県団体対抗戦（豊田工機〈男子〉・トヨタ自動車〈女子〉）が優勝 ②33回県社会人選手権大会（〈男子〉馬場＝２連覇・〈女子〉加藤＝３連覇） ③協会だより（指導員養成講習会）、委員会だより（上級審判検定会、応急処置講習会、インターネットホームページ開設） ④審判連載27。ラブオール。フットワーク「名古屋市西区家庭婦人クラブ」 ⑤⑥連盟ニュース ⑦市町村だより ⑧10年度行事計画

審判員養成活動の経過

どのようなスポーツでも同じようなことが言えるが、バドミントン競技においてもまずルールが確立され、その後に正式な競技として世界に広まっていった事実があるにもかかわらず、ルールを当該プレーヤーに公平につかさどる審判というものがヨーロッパを除いた、その他の地域で軽視されてきたのは世界のバドミントンの歴史を見ても明らかな事実である。とりわけ我が国においては、敗者審判制度というものが根強く残っており、審判業務自体が一種の罰ゲームであるかのようにとられ、それが審判軽視につながっていると思われる。しかし、バドミントンの用器具の発達、そして競技技術の向上などで、バドミントンのプレーそのものが非常に高度なテクニックを必要とするものになってきたと同時に、ルールに違反するかしないかのギリギリのプレーが要求されるようになり、最近になって我が国でも審判をすること、とりわけ審判員の立場そのものが大変重要視されるようになってきた。

そのような背景から、愛知県の審判養成活動の変遷を次の4つのステージでまとめた。

1．審判委員会が設立されるまで
2．新規登録制度への移行まで
3．わかしゃち国体の開催まで
4．わかしゃち国体以降

1．審判委員会が設立されるまで（～46年３月）

協会が設立された23、24年頃、当時の役員が若手を連れて県内各地および近県へ出向いて講習会を開催し、競技実技とともにルールの解説をしたという記録が残されており、当時はまだルールを浸透させることが精一杯の状態であった。しかし、当初からルールを大切に扱うという土壌が芽ばえ育てられていったことがうかがえる。

一方、日本協会でも27年度に公認審判員資格審査規定を制定、審判制度が確立され始め、38年４月１日の改正において申請料、公認料が次のように制定されてようやく公認審判員制度が本格的にスタートした。

	申請料	公認料
１級	100円	600円
２級	100円	400円
３級	100円	300円

県内においてはそれ以前でも25年度にバドミントンが初めて正式種目となった「愛知国体」、そして38年度には本県で初めてバドミントンの国際大会となった「日韓親善大会」等に県内で審判員を編成した。ただ、当時の審判員は有資格者というよりは競技歴の長いプレーヤーを審判業務に当たらせていた。

養成の記録としては、35年度の行事予定表に「公認審判員講習会」を4月17日に実施するとあるのが最初であり、また36年８月に「高蔵女高体育館で公認審判員検定試験を実施」との総会での事業報告があるが、これはこの年に開催の全日本学生大会に向けてのためと思われる。その後しばらくは全国レベルの大会は開催されていなかったが、総会の決算資料に審判登録費が載っていることから審判員養成活動は継続していたことがうかがわれる。また45年度の総会資料の中に「本年度はインターハイ開催のため審判関係の指導に努力した」と指導委員会から報告がなされていたことから、46年３月までは審判関係は指導委員会の中で扱われ、大きな大会が開催される時に養成活動が進められていたことが知られる。

2．新規登録制度への移行まで（46.4～63.3）

46年度になり、審判関係の仕事を指導委員会の中だけで対応していくには運営上の無理が生じてきたため、審判委員会が発足し、田中章喜氏が初代委員長になった。47年度には競技内容が明確に記録されるよう審判用紙の改訂がされた。また、競技規則などが登録会員全員に周知徹底できるよう、48年度には県協会作成の「審判実務必携」を発行した。53年度の県体育協会による有資格者の実態調査では、次のような集計がある。

１級　48名　２級　20名　３級　155名

また、養成事業としては、ほぼ毎年のように当

県で開催されるようになった全国レベルの大会に対処するために、57年度までに約12回の審判講習会、資格検定会を開催した。

特に、48年度の第１回日中大会、54年度の全日本学生大会、55年度の第８回国際大会、第6回日中大会、第２回日本リーグ、56年度のユーバー杯、57年度の第１回日韓競技会、58年度の全国高校総体などの開催準備段階には必ず審判養成事業を行なった。

また、ユーバー杯などの国際試合を目の当たりにし、そして実際に審判実務が経験できたことは非常に有意義なことであった。

52年度には日本協会の創立30周年事業として公認審判員特別昇級制度が実施され、１級資格者として36名、２級資格者として５名を一挙に養成することができた。また、日本協会の指導により、50年度には東海地区の審判委員会が発足し、東海4県の横の連絡も密なものになってきた。この間に2度の公認審判員資格審査規定の改訂が行われ、申請料、公認料も次のように改訂された。49年4月1日より

	申請料	公認料
１級	200円	1000円
２級	200円	700円
３級	200円	500円

となり、55年4月1日からは、

	申請料	公認料
１級	200円	2000円
２級	200円	1500円
３級	200円	800円

となった。

58年4月には委員長が山田順一郎氏に変わり、より詳しいデータを載せた公認審判員名簿を作成した。58年頃から愛知国体誘致の運動がはじまり、その影響もあって県協会も全国レベルの大会を毎年２～３回開催するようになっていた。それに伴い、これまで以上に審判員の養成が必要となり、年に２～３回の審判員資格検定会を開催するようになった。併せて上級の資格をもった審判員の養成も急務となり、県、そして市町村の支援もあり、60年度からは毎年、上級審判員資格検定会を開催するようになった。その結果、62年３月には次のように多くの資格者を有する日本で有数の審判県となった。

1級 56名　　2級 37名　　3級 360名

62年4月より鈴木勝美氏が委員長となり活動した。



審判講習会風景

3.「わかしゃち国体」開催まで（63年４月～７年３月）

63年４月には資格制度が新制度に移行し、公認審判員資格登録規程となって施行され、申請料なども次のように改訂された。

	申請料	公認料
１種 A	3500円	10000円
B	3000円	10000円
２種 A	2500円	7500円
B	2000円	7500円
３種 A	1500円	5000円
B	700円	無料

ルールの改訂と制度の変更に伴う移行講習会を63年4月より3年3月まで開催し、移行手続きを予定通り完了した。３年４月よりは更新のための講習会の開催を年２～３回行うことが必要となってきた。審判養成事業は６年の「わかしゃち国体」へ向けて拍車がかかると同時に資質の向上にも目が向けられ、元年度の「はまなす国体」から前年度の「東四国国体」まで、国体本番での審判実務の経験を積むために、毎年２～５名の上級審判員を派遣した。その間にも63年度には日本リーグのオープニング大会、2年にはトマス杯・ユーバー杯の開催など大きな大会を目自押しに開催したことにより、審判技術も向上し、全国大会は他県の援助なしで対処できるようになった。特にトマス杯・ユーバー杯を開催することにより、当初はIBFとの接触に多少とまどいもあったが、最後には国際審判員とも仲良くなり、国内大会では得られない経験

を積むことができた。その中には日本人の国際審判員も二人(阿彦周宜氏、高橋英夫氏)含まれていて、国際審判員というものが身近なものに思われ、本県の審判団に国際化の風を大いに吹き込んだ。その影響があってか山田順一郎氏に国際審判員資格試験受験許可の指名が日本協会よりあった。同氏は4年4月にマレーシアへ赴き受験し、4年5月に見事合格認定証を手中にし、日本で3番目の国際審判員が本県に誕生した。



世界各国からのトマス杯、ユーバー杯の審判団

63年4月より日本協会で公認審判員資格認定委員規定が採択され、鈴木勝美氏、山田順一郎氏が認定員試験に合格し、3種の試験が県協会の判断で開催できるようになった。次いで3年に原賢一氏が資格を取得した。

また、3年度より審判関係の広報活動の一環として、協会広報紙「バドミントン愛知」にルール解説の投稿を開始した。

5年4月より鈴木委員長から再び山田順一郎氏にバトンが渡され、「わかしゃち国体」を迎えることになった。国体開催2年前ともなると審判員の資質の向上に重点がおかれ、5年度のリハーサル大会である全日本社会人大会に目標を絞り、年間5回の資格検定会を開催した。

5年度より一部の大会の限られた試合だけであるが、指名を受けた審判員が審判業務を行うと、1試合につき1種は1000円、2種は800円、3種は600円の手当が支給されることになった。それをうけて県内の有資格者全員に審判実施希望のアンケートをとり審判員を選考した。

6年度には、国体へ向けての審判員養成事業も完了し、あとは初日を迎えるばかりとなった。「わかしゃち国体」では今までの努力の集大成を全国に示すことができ、愛知県の審判レベルの高さを広めることができた。



わかしゃち国体の審判団

4.「わかしゃち国体」以降（7年4月～）

7年4月には再び鈴木勝美氏が委員長になった。

「わかしゃち国体」で培った活動力はその後も引き継がれ、7年度には鈴木洋子氏、菅井孝氏が公認審判員認定委員の資格を取得し、これで認定員は5人となった。また、山田氏は8年4月より9年3月まで日本協会の審判委員会委員長に就任し、審判関係において中央との太いパイプ役となった。



9年度全日本総合試合の風景

これからも審判委員会は審判員の資質の向上と有資格者の拡大、併せて国際審判員の養成に力を入れていきたい。

審判員有資格者の推移（単位　人）

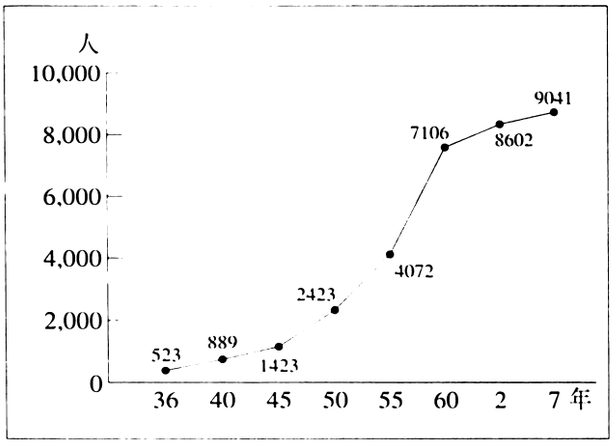
	1級	2級	3級	合計
41年	18	13	74	105
43年	27	15	67	109
46年	27	15	178	220
53年	48	20	155	223
56年	38	22	478	538
59年	41	15	300	356
62年	56	37	360	453

	1種		2種		3種		合計
	A	B	A	B	A	B	
元年	28	17	17	10	107	0	169
7年	32	3	26	25	453	0	539
9年	30	5	23	23	494	36	611

普及・指導活動の経過

1．はじめに

本県の普及活動の記録が残る36年度以降についてみると、下表のとおり熱心な努力の成果がうかがわれる。



県協会登録人員の推移

1,000人を越えた42年度頃から熱心な指導活動により、地域、同調者グループの場が盛んにもたれるようになり、既存の大会あるいは交流大会への参加を通して、その輪は県全体にまで広がった。そして、54年度には実業団、社会人、教職員および家庭婦人の各連盟が組織化され、これを機に協会組織は既に組織化されていた学生、高校、中学の各団体を含めた加盟団体で構成されたものとなり、以降急速に拡大が進んだ。

結果からみれば、活動の経過は普及のための指導活動、すなわち愛好者拡大の活動であったといえる。しかし、6年度のわかしゃち国体を節目に、選手強化のための指導を活動の重点として進めている。

2．組織の変遷とその活動

（1）指導委員会

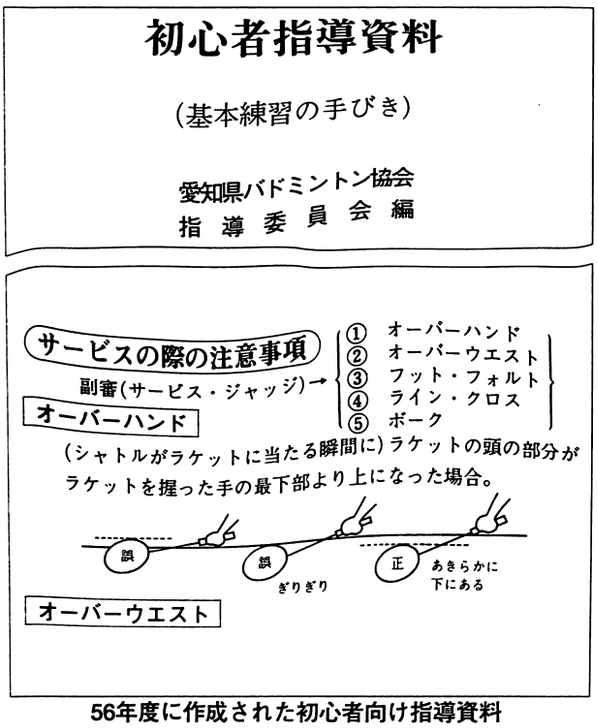
専門委員会としての活動は、37年度に広報指導部（43年度まで部）の名称で講習会を開催したのが最初であり、そのときは名古屋市中川区、東区、昭和区、江南市、小牧市、岩倉市、美浜町等で行なわれた　その後も委員会活動の中心は講習会の開催であり、特に41年度から始められた名古屋市教育委員会主催の勤労青少年レクリエーションセンター・スポーツ教室は、最初は年間2回であったが、市内各区単位に開催されるようになり、44年度には6区、46年度には12区となり、年2回の交歓大会も開催されるようになった。そして、50年度には全区で開催されるようになった他、地域スポーツセンターの講習会も行われるようになり、派遣される指導者の時間と努力は並み大抵のものではなかった。しかし、この努力はその後名古屋市ばかりでなく、県全体の発展に対しても大きく貢献した。

一方、39年度総会において40年度には指導部から中学生大会を開催したいとの提案があったが、40年度は計画できず、41年度は計画されたが流会となり、42年度の8月3日に第1回大会が6校の参加を得て実現できた。そして、以降は継続して開催されるようになった。当時の中学校の活動状況については、40年度の調査では公立のみで15校あり、私立をいれれば20校以上との報告があり、また、41年度ではクラブ、同好会として運営されている学校は23校で、うち名古屋市が10校である。ただし、同好会が多く試合出場が難しいとの報告もある。

当時、指導委員会では審判関係の指導もしており、45年度にはインターハイ開催のため審判講習会を開催し、養成をはかったことが報告されている。

その後は以前から続けられていた名古屋市青少年レクリエーションセンター、そして、新たに始められた名古屋市青年の家および社会教育センターへの指導者派遣が中心に進められたが、56年度に初心者指導資料として基本練習の手びきが作成、配布された以外は特記すべき活動は行われなかった。

元年頃からは、わかしゃち国体に向けた選手強化事業に合わせて、指導活動も選手強化が加味されたものになり、49国体選手強化指導者講習会、県指導者講習会、県スポーツ大学講座への派遣等が実施された。組織も3年度には国体選手強化対策本部に、選手強化委員会とともに



56年度に作成された初心者向け指導資料

統合された。国体前年の５年度には国体選手強化対策本部が単独となり、指導委員会、選手強化委員会は再び分離したが、両者は合同し活動した。国体が終った７年度には、強い愛知にするには小学生から育てる体制をつくらなければならないことと、既に小学生大会等を通してその拡大に普及委員会が取り組んでいたことを合わせ、指導普及委員会の名称で活動し、小学生連盟が設立するまで導くことができた。

８年度から指導委員会の名称にもどり、活動は国体での活躍をめざす選手強化委員会とタイアップして、ジュニア指導者の派遣と強化を重点として進めている。

（２）普及委員会

40年代に入ってからは、指導委員会による各地での講習会の成果が現れてきたことに合わせ、43年度の総会では、44年度事業目標に「バドミントンスポーツ少年団を結成しよう」「バドミントン教室を開催しよう」の２項目の新設と普及委員会の設置が決定した。

スポーツ少年団については、44年度に名古屋市で開催された日本体育協会、日本スポーツ少年団ブロック指導者研修会に県体育協会全体で５名中２名の参加が認められてスタートをきり、46年度には大府市に八ツ屋バドミントンスポーツ少年団の結成をみた。その団員数は中学生男子６名、小学生男子10名、女子11名合計27名であった。しかし、その後は委員会活動による拡大はみられず、小学生全体を対象として58年度に開始された県小学生大会以降に持ち越された。

一方、バドミントン教室の開催は家庭婦人を対象とした教室であり、44年９月に名古屋市教育委員会、中日新聞社の後援を得て愛知県体育館において女性バドミントン教室として始められた。また、48年５月からは県スポーツ会館において家庭婦人の楽しいスポーツ教室のバドミントンの部が始まり、これらがその後県家庭婦人大会の開始、県家庭婦人連盟の設立、そして2,000人に近い会員組織への基礎となった。両教室とも現在も引き続き開催されている。

以上のように普及委員会の活動経過は、前半の10年間は家庭婦人への普及活動であり、後半の15年間は小学生への普及活動であった。また、小学生への普及活動に対しては、大会への審判員の派遣等家庭婦人の大きな協力があった。

６年度のわかしゃち国体を機に小学生に対する活動も強い選手の育成が重点となり、７年度は指導普及委員会の名称での活動となり、同年小学生連盟の設立まで進めたことをもって、８年度から普及委員会は廃止された。なお、普及活動は総務、競技委員会および各加盟団体において進めることになった。

また、地域への普及については、県協会規約にも加盟団体組織として「愛知県内市町村バドミントン協会又は連盟」がうたわれており、その整備が課題であったが、その一環として62年度より市町村単位による大会である県青年大会を競技委員会から移管、主管するようにし、また、尾張西、東、三河西、東、の四地域別に開催されていた県民体育大会への派遣を行なうようにしたが、主旨にそった成果は上げることができなかった。（青年大会、県民大会、小学生大会への出場市町村の一覧表は別揚）

しかし、活動の成果の一つとして全国スポー

ツレクリエーション祭・年齢別バドミントンには元年度の第1回大会から参加しており、特に第3・4・7回大会ではブロック優勝を果たしている。



第7回大会スポレク大会(北九州市)でのブロック優勝メンバー

県民体育大会は「わかしゃち国体」翌年の7年度から愛知スポーツレクリエーション大会と変わり、内容は全国スポレクと同じ年齢別大会となった。そして、全国スポレクへの選考も県社会人大会での成績基準から愛知スポレクでの優勝地域へと変更した。この大会の担当は7年度は指導普及委員会であったが、8年度からは普及担当組織の廃止により、青年大会とともに競技委員会が当たるようになった。

3．指導者の養成

指導委員会活動の大きな柱である指導者の養成については次のものが記録されている。

・45年６月　静岡県御殿場市で開催の日体協スポーツトレーナー講習会で中溝誠氏（高体連）が３級取得

・46年11月　県体協主催スポーツ指導員養成講習会（江南市民体育館）に10名参加
　この講習会はその後、47、48年江南市、49年新川町、50年大府市、51年安城市、52年犬山市、53年以降は場所は不明であるが58年まで毎年継続して開催された。

・52年度日本バドミントン協会が30周年事業として公認指導員の特例昇級を実施、１級40名、２級４名、３級59名取得、別に３級に２名合格した

・56年度名古屋市でスポーツ指導員養成講習会を開催

・58年度知多地区（80名）と小牧市で指導者講習会を開催

・59年度碧南市（60名）と小牧市（20名）で指導者講習会を開催

・61年度日体協公認C級スポーツ指導員養成講習会を豊田市で開催

・元年度49国体選手強化指導者講習会を刈谷市で開催（16名）
　この講習会は翌２年度にも刈谷市で開催

・元年度愛知県スポーツ大学校講座へ２名派遣
　３、４年度にも各１名派遣

・元年度指導委員会主催の指導者講習会を名古屋市稲永スポーツセンターで開催（45名）
　この講習会は２年度に枇杷島スポーツセンター（50名）、３年度に中学生指導者を対象に枇杷島スポーツセンター（30名）、４年度に緑スポーツセンター（25名）で開催、また５年度には普及委員会が共催で小中学生指導者を対象に大府市で開催

・７年度日体協公認Ｃ級コーチ養成講習会を３名受講

・８年度小学生指導者講習会を豊明市で開催（20名）
　小学生強化練習会を大府市で７回実施

・９年度日体協公認Ｃ級スポーツ指導員養成講習会を開催、21名受講
　小学生強化練習会を大府市で14回実施
　事故発生時の応急処置講習会を開催

以上のように指導者養成の歴史は比較的新しいものであるが、幅広い地道な活動を通して、明日をめざす選手を育てる、情熱あふれる指導者が生まれることを期待したい。



元年度指導者講習会参加者

4．家庭婦人への普及

現在、2,000人に迫る愛好者で構成される家庭婦人連盟は、熱心な普及活動の成果として生まれたといっても過言ではない。特に、25年以上

にわたり、今も続けられている愛知県体育館での「女性教室」と愛知県スポーツ会館での「家庭婦人の楽しいスポーツ教室バドミントンの部」は、その大きな母体となっている。

43年度総会において44年度より普及委員会の設置と”バドミントン教室を開催しよう”との事業目標が決定された。44年９月には中日新聞社、名古屋市教育委員会後援の女性教室が開催され、講師を派遣した。これが愛知県体育館での教室のはじまりである。この教室は翌年３月まで毎月４回を単位に開催され、受講者は９月こそ29名だったが、その後は平均46名となり、特に２月は62名にもなった。このためアンケートに”定員オーバーはしないで下さい。おとなしい人はなかなかコートでプレーができないから”という苦情もでた。非常に好評で、また、強い要望もあり、継続して実施されることになった。45年度は体育館が使用できない７、８月を除く10カ月、月６回の単位で開催されることになった。定員は30名であったが、平均56人もの受講者となり、定員オーバー対策として、休みを予定していた７月に名古屋市体育館で特別に開催している。また、４月から受講者の内から希望者でクラブを結成し、別に月２回の練習を行なうようになった他、県実業団選手権大会（リーグ戦）の最下部の３部に３チームが参加した。46年度からは内容は同じであるが、運営が愛知県体育館スポーツ教室協会に引き継がれ、県協会でも普及委員会が指導を担当する形となった。この教室は毎年盛況のうちに開催されているが、各年度の受講者数は次のとおりである。

県体育館教室受講者数

昭和44年	304人	昭和54年	322人	平成元年	170人
45	608	55	299	2	153
46	248	56	305	3	180
47	235	57	309	4	77
48	293	58	290	5	130
49	362	59	265	6	217
50	374	60	267	7	267
51	373	61	297	8	214
52	439	62	238	9	236
53	308	63	182		



県体育館バドミントン教室の練習風景

次に47年３月に竣工し、47年８月には全国中学校バドミントン大会の会場としても使用された愛知県スポーツ会館においては、48年５月に会館主催による家庭婦人の楽しいスポーツ教室４種目の一つとして、女性バトミントン教室が始められた。ここでは修了者の再参加が認められなかったこともあり、愛知県体育館同様、有志による練習会が別にもたれたり、同好会として48年度に名翔クラブ、49年度に新翔クラブを結成し、各種大会にも積極的に参加した他、同教室の指導員補助としても活動した。この教室は月を単位としたものであったが、53年度より初心者コースを３ケ月単位で３回、経験者コースを１回に変更して行なわれるようになり、現在に至っている。年間の受講者数は次のとおりであるが、教室の他にも終了者を対象にした指導者養成講習会が49年度から53年度まで、同じく終了者を対象とした家庭婦人のスポーツ大会が52年度から始められた。この大会は62年度に家庭婦人教室終了者大会が新設されることにより家庭婦人選手権大会と名称を変更、ともに引き続き開催されている。

県スポーツ会館教室受講者数

昭和48年	67人	昭和57年	93人	平成3年	142人
49	37	58	105	4	141
50	31	59	103	5	164
51	61	60	104	6	166
52	46	61	112	7	164
53	65	62	130	8	140
54	56	63	156	9	149
55	60	平成元	137		
56	84	2	120		



県スポーツ会館バドミントン教室の練習風景

こうした動きに並行した形で、家庭婦人の輪は県内各地にも広がり、48年度当時把握されていた同好会、教室には次のものがある。

・豊田市家庭婦人同好会　104名
・東海市上野台ママさん教室　30名
・東海市北野山ママさん教室　30名
・刈谷市家庭婦人教室　30名
・犬山市婦人クラブ　30名
・守山婦人教室　35名

また、48年６月には普及委員会が企画した交歓大会が豊田市教育委員会の協力を得て、同市体育館で開催された。この試合には県体育館、県スポーツ会館、犬山市、豊田市の同好会、教室から50名が参加し、終了後には親睦会ももたれ、交流の輪が一気に広がった。

49年８月には第１回の県家庭婦人大会（現在の団体戦）を18チームが参加し、経験により春、夏、秋、冬の４ブロックに分けて開催した。その後は50年度は25チーム、51年度は61チームと大きく拡大していった。

一方、48年度に豊田市で開催した交歓大会は49年の刈谷市での開催が最後となったが、変わって50年度から家庭婦人を対象とした指導者講習会を開催した。当初は西三河、東三河、名古屋市等地区単位で行なっていたが、52年度から１本化され「初心者を指導するには」「指導者として」等のテーマを決め、58年度まで継続した。

こうした普及活動にあわせて組織化への手助けを進め、先ず、51年度に名古屋市家庭婦人バドミントン連絡協議会が240名の会員で発足し、第１回大会も開催された。同様、県内各地の連絡協議会の設立が進められたが、それが県の連絡協議会の設置までもっていけるよう多くの交流の場をもつようにした。そして、54年２月に各地の代表者へ連盟設立の主旨説明を行ない、３月から設立に向けての検討と準備の場がもたれ、54年10月10日県家庭婦人連盟が設立された。これにともない県家庭婦人大会の開催は家庭婦人連盟に移ったが、指導者講習会の開催と地域への指導者の派遣は、家庭婦人連盟と一体となって60年頃まで継続して実施した。

60年度を過ぎてからは家庭婦人の自主努力によって、拡大とレベルアップが進められるようになった。

５．小学生への普及

小学生への普及活動が始まったのは、家庭婦人と同様43年度総会において”バドミントンスポーツ少年団を結成しよう”との事業目標が決まったときからである。そして、46年度にその前からバドミントンを始めていた大府市に、八ツ屋スポーツ少年団が27名の団員で結成された。普及委員会の熱心な指導もあり、市主催の２つの大会に小学生の部が設けられた他、教育委員会等への働きかけにより、市内の中学校２校にバドミントン部の設置が実現したこともあって48年度の団員は51名まで拡大した。

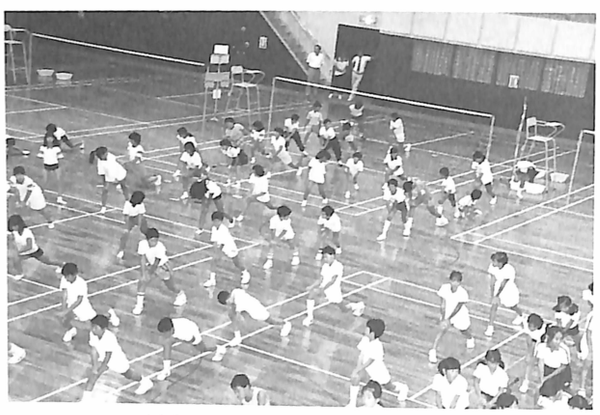
その後も指導は続けられたが、指導層を含め小学生に浸透する情勢になく、普及活動は家庭婦人中心で進められた。しかし、逆にこうした母親への普及が、指導委員会の各地での講習会で父親を主とした普及と相まって、小・中学生にも広がりをみせることになった。

57年度には日本協会においても将来を考え、小学生への普及、振興が大切であり、その一助として金、銀、銅メダルと賞状を授与していくことが決まり、これを受けて58年９月に名鉄熱田の森文化センターの竣工記念を兼ねた、第１回県小学生大会を107名の参加により開催した。

この大会は59、60年度は名古屋市露橋スポーツセンターで、61年度以降は地域ぐるみでバドミントンに取り組み、49国体の会場地となった

大府市で開催している。また、第１回から家庭婦人連盟の協力を得て着実に成長してきている。

元年度には同じ大府市で第１回東海小学生大会を開催したが、こうした他県と競い合うようになってからは強さも求められるようになり、学童指導者養成講習会、中学生との合同強化練習会、東海大会に向けての強化練習会がもたれた。



将来を担う小学生強化練習会

７年度には全国小学生選手権大会や、京都の長岡京市が全国各地の代表チームを招いて開いていた若葉カップにも出場するようになった。

以上の普及、強化活動の成果として、８年度に小学生連盟が設立され、さらなる強化、拡大をめざすこととなった。以降、小学生に対する活動は同連盟が受けもつことになり、普及委員会は廃止された。しかし、協会の発展はジュニアにかかっているといっても過言ではなく、常に全国レベルをめざす選手を育成するため指導委員会、選手強化委員会を中心とした各専門委員会、指導者としての実業団連盟・社会人連盟、運営協力者としての家庭婦人連盟等組織あげての協力、支援を続けている。

63年度県民大会・青年大会・
小学生大会出場市町村表

番号	市長村名	県民	青年	小学
1	名古屋市			出
2	豊橋市	出		
3	岡崎市	出	出	
4	一宮市	出	出	
5	瀬戸市	出	出	
6	半田市	出	出	
7	春日井市	出	出	出
8	豊川市	出		
9	津島市	出		
10	碧南市	出		
11	刈谷市	出		
12	豊田市	出	出	出
13	安城市	出	出	出
14	西尾市	出	出	出
15	蒲郡市	出		
16	犬山市	出		
17	常滑市	出	出	出
18	江南市	出		出
19	西尾市	出		
20	小牧市	出	出	出
21	稲沢市	出		出
22	東海市	出		出
23	大府市	出	出	出
24	知多市	出		出
25	知立市	出		
26	尾張旭市	出		
27	高浜市	出		
28	岩倉市	出		
29	豊明市	出		
30	新城市	出		
31	東郷町	出		
32	日進町	出		
33	長久手町	出		
34	西枇杷島	出		
35	豊山町			
36	師勝町	出		
37	西春町	出		
38	春日村	出		
39	清洲町			
40	新川町	出		
41	大口町	出		
42	扶桑町	出		
43	木曽川町	出	出	
44	祖父江町	出		
45	平和町	出		
46	七宝町	出		
47	美和町	出		
48	甚目寺町	出		
49	大治町	出		
50	蟹江町	出		
51	十四山村			
52	飛島村	出		
53	弥富町	出		
54	立田村	出		
55	八開村			
56	佐屋町	出		
57	佐織町	出		
58	阿久比町	出		出
59	東浦町	出		
60	南知多町	出		
61	美浜町	出		
62	武豊町	出		
63	一色町	出		
64	吉良町			
65	幡豆町			
66	幸田町			
67	額田町	出		
68	三好町	出		出
69	藤原町			
70	小原町			
71	足助町			
72	下山村			
73	旭　町			
74	設楽町			
75	東栄町	出		
76	豊根村			
77	富山村			
78	津具村			
79	稲武町			
80	鳳来村	出		
81	作手村			
82	音羽町	出		
83	一宮町			
84	小坂井町	出		
85	御津町	出		
86	田原町	出		
87	赤羽根町	出		
88	渥美町	出		

選手強化活動の経過

1．協会設立当初の活動

県協会設立以来、競技力の向上は競技愛好者の拡大とともに協会発展の一役を担ってきた。

県勢の活躍のスタートは、早くも設立翌年の23年に開催された、第1回全日本選手権大会の女子複において、川口・金森選手が3位に入賞したことに始まる。その後の20年代では、全日本選手権大会において数々の優勝、入賞を果たしたが、国民体育大会においても個人オープンとして開催された24年の第4回大会での入賞、バドミントン競技が初めて正式種目として採用され、25年に地元で開催した第5回大会での入賞、さらに26年の第6回と29年の第9回大会の総合優勝と続くことにより、愛知の名は一躍全国に知れ渡るようになった。

これは、一つには設立に努力した人達の熱心な指導と、それをしっかりと受け止めた若い力、もう一つは、23年には早くもクラブを設立し活動を開始していたトヨタ自動車工業によるもので、組織的ではなく、個人の情熱と努力によるものであった。

いずれにしても、練習場の確保が難しいだけでなく、終戦直後のものがないときであり、当時全国ですばらしい成績を達成した選手の努力は血のにじむものであったと思われる。ぜひ、今の選手も見習わなければならないものである

2．30年後半から50年前半の活動

30年後半から40年代にかけては、小宮・板垣・安沢・本間選手（トヨタ自動車工業）が日本代表としてトマス杯、アジア大会などで活躍し、トヨタ自動車工業（男子）も全日本実業団選手権大会7連覇の偉業を達成した。また、名鉄、豊田織機も全国で上位入賞を果たし、実業団における本県の競技力は全国トップレベルになった。当然、国体の一般の部においては常に上位にあった。

しかし、これらの活躍は企業の選手強化活動の努力で達成された結果であり、残念ながら協会として強くアピールできるものではなかった。逆に、この高い競技力を誇ったときに競技の普及に重点をおいたため、並行して若手を育てられなかったのがその後の強化活動の遅れにつながったとも考えられる。

3．選手強化委員会の発足

50年代に入ると全国各地でジュニア選手の競技力が目覚ましく向上するなか、協会として全国で活躍できる手作り選手の発掘育成が急務となり、55年度に選手強化委員会を発足させた。活動内容は中高校生を対象に全体的な底上げをねらいとした強化合宿を年1回実施し、58年からは国体代表選手（成年・少年）の強化練習会を実施するようになった。

4．わかしゃち国体の強化

62年に第49回国民体育大会が愛知県で6年に開催されることが決定し、「わかしゃち国体」として、その強化活動がスタートした。

63年にはわかしゃち国体に向けての強化活動に対する企画、推進を目的に選手強化対策本部が設置された。

強化の体制としては、活動が具体化した3、4年は、選手強化対策本部、選手強化委員会、指導委員会が一体となって活動した。

しかし、5、6年は、わかしゃち国体時に少年の部の選手となる中学生が高校進学となり、国体関係の強化は選手強化対策本部が担当し、選手強化委員会、指導委員会は小中学生を中心にした強化を担当した。

なお、わかしゃち国体が終わった次の年度から選手強化対策本部は解散し、強化については選手強化委員会と指導委員会が担当するようになった。

（1）　63～2年度

まず活動を進めていく中での大きな課題はジュニア選手の育成・強化策にあった。当時、協会とジュニア指導者とはコミュニケーションが

不足していた面があった。しかし、幾度の話し合いにより選手強化に対する共通の方向性を見い出した。また、この頃より実業団選手の協力を得てのインターハイ出場校の激励訪問、実業団・高校合同練習会等、実業団と高校との交流も活発になってきた。

一方では①指導者の養成　②強化推進校の選定　③他県選手強化方法の調査　④関係企業・学校への選手強化の依頼等、本格的活動に向けての準備を着々と進めていった。

（2）　3年度

向こう4年間の強化基本方針と強化スタッフの体制が決定した。方針は、徹底的な強化で各種別とも上位をねらえる戦力に整えることを掲げ、体制面では、県ナショナルチーム制度の導入により、指定選手が高い意識を持つことを期待した。

この年の強化活動は練習会を中心に合宿・遠征とコーチングスタッフの育成事業として新健二氏（香川一中）、梅野尾昌一氏（ヨネックス）による講習会を実施した。（梅野尾氏には、わかしゃち国体までアドバイザーコーチとしてお願いした）また、最初の合宿では、わかしゃち国体で少年の部の選手となる中学生の指定選手が実業団・高校生に混じり戸惑いを見せていた。しかし、すぐにとけ込み、練習に対する姿勢を学び活躍への足掛かりをつかんだ。



成年女子の強化練習風景

（3）　4年度

中学生指定選手はほとんどが有力校に進学し、国体に向けての保護者の理解も得られ、基礎体力の強化を中心に活動を実施した。

高校選手では、男子は岡崎城西高がインターハイでベスト8に、女子では国体でベスト8に入るなど強化の成果もしだいに現れてきた。

一方、実業団選手も全日本総合選手権大会の混合複で古賀・藤本組（トヨタ自動車）が優勝した他、国体では成年男子がベスト4に入賞する等各種目で活躍が目立った。

この古賀・藤本組の全日本制覇は協会をはじめ国体関係者には大きな励みとなった。



少年男子の県外遠征（富山）

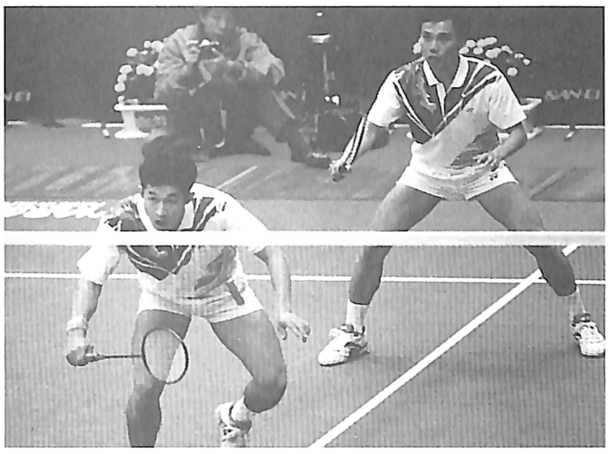
（5）　5年度

わかしゃち国体前年度となり、昨年以上の積極的な活動を進めたが、成年女子以外は思うような戦力アップが図れず、壁にぶつかる状態になった。特に、成年男子は第一線選手が年齢的に峠を越しつつあり、思い切って若返りを試みたが良好な結果は得られず、また、少年選手も努力はしているものの、全国レベルの試合では上位入賞を果たすことができなかった。その中で成年女子は全日本社会人大会の女子複で藤本・松田組（トヨタ自動車）が3位入賞、東海総合選手権大会でも強豪ヤマハ勢を破って優勝に輝いた。この結果は韓国遠征で得たスピードとスタミナアップによるものといえる。

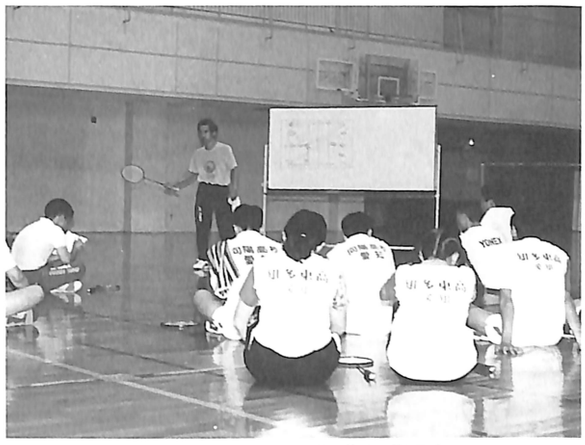
（6）　6年度

強化最終年となり、指導者・選手・スタッフがそれぞれの持ち場で全力を尽くし、悔いのない活動を行なうことを確認した。成年男子は古賀選手が復帰し、選手のリーダーとして全員を引っ張り、少年の強化は、基本練習の反復を継続させた。また大会前の韓国遠征では各選手が技術面（スピードアップ）、意識面のレベルアッ

プをはかり国体に臨んだ。しかし、残念ながら総合成績は５位となり、やや不満足な結果ではあったが、内容的には強化活動の成果は十分現れたと評価している。



対戦中の古賀(右)・滝田組



藤上良信氏による指導者講習会

５．わかしゃち国体以降の強化活動

７年度以降、わかしゃち国体で得た強化活動の継承と推進を図り、国体選手の育成強化と小中学生の強化活動を推進している。

前者は、県ナショナルチームを編成し、強化合宿、強化練習会、遠征を実施しており、８月のオール愛知合宿は、国体前の結束につながっている。

後者は、小学生の強化練習会と中学生の強化練習会、強化合宿、遠征を実施している。特に強化合宿は一般、高校生に混じることにより、将来への夢をもつ場になっている。

また、指導者の講習会も積極的に開催しており、８年度には、藤上良信氏（比叡山高教諭）を招聘し、テーマ「全国に勝つためには」について指導をうけた。しかし、成績面では８年度第25回全国中学校大会で稲垣選手（石尾台中）が県内ジュニア選手初のファイナリストとなったこと、男子複で山口・早川組がベスト8に入った以外は、目立った成績が収められていない。

６．今後に向けて

競技力の向上は当県が抱える最も大きな課題であり、選手、指導者、県協会が一体となって「競技力の愛知」を目指し頑張っていきたい。

加盟団体史

愛知県実業団バドミントン連盟

1．連盟発足の経緯

（1）26年度の第1回全日本実業団選手権大会への出場、29、35年度の同大会の本県開催、34年度の県実業団選手権大会の開始等、実業団としての動きはあったが、組織的には県協会としてのものであった。県実業団選手権大会は参加数が次第に増加し、さらに44年度から社会人を対象にしたクラブチームも加わり開催された。(51年度まで)

（2）54年度に入って、県協会では各層の会員の増加に沿うように組織を団体別にする見直しを行なうことになった。これに伴い実業団でも連盟組織を発足させるため、7月に設立準備委員会が設置された。

（3）設立準備委員会で約3ケ月間検討を重ねた結果54年10月28日設立総会で正式に承認され発足した。

同時に次の規約が承認された。

愛知県実業団バドミントン連盟規約
愛知県実業団バドミントン連盟細則
愛知県実業団バドミントン連盟登録規定

2．設立前を含めた主なできごと

22年度

・愛知県バドミントン協会設立（2月）

26年度

・第1回全日本実業団選手権大会にトヨタ自動車工業（男・女）が初出場（2月）
　男子準優勝、女子優勝



後列・左から　酒巻・蟹・小池・岩月・上羽
前列・左から　伊与田・保田・市川

28年度

・第3回全日本実業団選手権大会
　トヨタ自動車工業女子3連覇

29年度

・第4回全日本実業団選手権大会
　名古屋市にて県協会主管開催（2月）

34年度

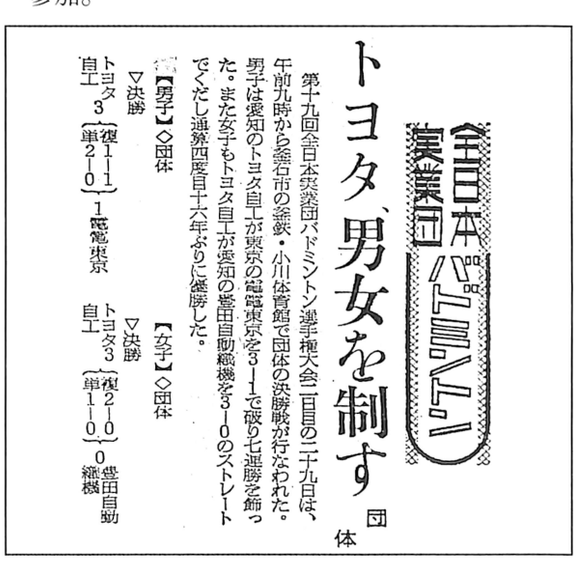
・第1回愛知県実業団選手権大会（県協会主催）
　参加チーム数、男子（21チーム）、女子（9チーム）、トーナメント方式で開始（2月）

35年度

・第10回全日本実業団選手権大会
　名古屋市にて県協会主管開催（1月）
・日本実業団バドミントン連盟設立（7月）

44年度

・トヨタ自動車工業（男子）全日本実業団選手権大会で7連覇達成（第13回～第19回大会）
・第11回県実業団選手権大会からクラブチーム参加。



全日本バドミントン実業団

トヨタ、男女を制す　団体

第十九回全日本実業団バドミントン選手権大会二日目の二十九日は、午前九時から釜石市の釜鉄・小川体育館で団体の決勝戦が行なわれた。男子は愛知のトヨタ自工が東京の電電東京を3―1で破り七連勝を飾った。また女子もトヨタ自工が愛知の豊田自動織機を3―0のストレートでくだし連覇四度目十六年ぶりに優勝した。

【男子】◇団体
▽決勝
トヨタ自工 3 {複1―1 単2―0} 1 電電東京

【女子】◇団体
▽決勝
トヨタ自工 3 {複2―0 単1―0} 0 豊田自動織機

第19回大会決勝戦の記事

46年度

・第13回県実業団選手権大会より前期、後期の年2回の開催となる。
　平日、夜間も開催

51年度

・第23回県実業団選手権大会より出場資格を変

更、クラブチームを分離
（参考）
第22回大会（50年度後期リーグ）の参加チーム数
男子73（内クラブ17）女子35（内クラブ8）

54年度

・県実業団連盟設立準備委員会発足（４月）
・県実業団連盟設立
　設立総会　10月28日
　加盟事業所数　48
　設立の趣旨
　　日本実業団連盟への登録事業所数も上位にあり、独立した県内組織をつくってほしいという県協会の要請による。
　初代役員
　　会　長　深津　豊（トヨタ自動車工業）
　　副会長　速水正昭（名古屋鉄道）
　　理事長　油井秀男（新日鉄名古屋）

55年度

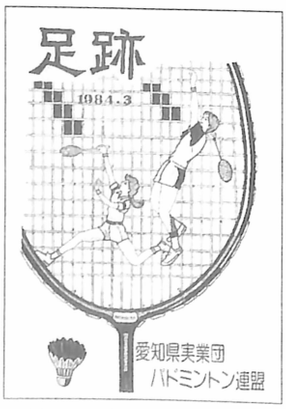
・第31回全日本実業団選手権大会
　開催実行準備委員会発足

56年度

・第31回全日本実業団選手権大会主管開催
　期日　９月10日（木）～９月15日（火）
　会場　愛知県体育館、名古屋市体育館
　知多市体育館、一宮市産業体育館

58年度

・連盟発足５周年記念誌「足跡」刊行（３月）
　連盟発足の経緯、各事業所チームの紹介、過去の県内及び県外大会の記録をまとめる。



創立5周年記念誌の表紙

・シンボルマークの作成
　県鳥のコノハズクとシャトルコックを一体化してデザインを依頼し作成した。現在も、名刺やＴシャツにも使っており、良いマスコットとなっている。



60年度

・第37回全日本実業団選手権大会
　開催実行準備委員会発足（４月）

62年度

・第37回全日本実業団選手権大会主管開催
　期日　６月３日（水）～６月７日（日）
　会場　愛知県体育館
　　名古屋市露橋スポーツセンター
　　名古屋市枇杷島スポーツセンター


37回大会表彰式・男子優勝NTT東京

元年度

・連盟発足10周年記念式典開催（１月）
　名古屋市総合体育館レインボーホール
　57年度以降の県内大会及び県外の記録集を刊行

７年度

・県実業団連盟役員改選
　油井秀男理事長が副会長に、新理事長に武田正雄氏がそれぞれ就任
・油井秀男副会長が日本実業団連盟理事長に就任

8年度

・第48回全日本実業団選手権大会（10年度開催）の本県開催が決定

・日本実業団連盟35周年記念年齢別ダブルス大会（第46回大会に並行して東京都で開催）に多数参加

9年度

・日本実業団連盟35周年記念誌を県内49事業所へ配布

・第47回全日本実業団選手権大会（熊本県）に速水会長以下10名の役員があいさつと視察（6月）

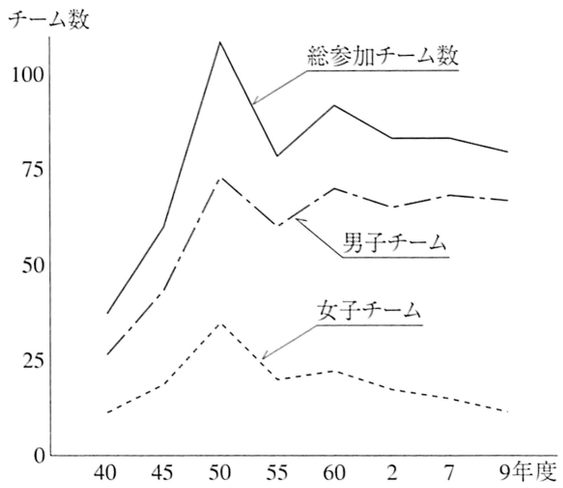
・第48回大会（名古屋）の実行委員会を設立、準備に入った

3．登録事業所数と登録人員

54年度連盟発足当時、登録事業所数は48であり個人登録数は640名であった。8年度に至っても事業所数、個人数ともに増減はほとんど無く、同レベルを維持している。また日本実業団連盟への登録事業所数も東京、大阪に次いで3位と実業団愛知の面目を保っている。

4．県実業団選手権大会のあゆみ

34年度に始まったが最初の頃はトーナメント方式で、参加チームも男子10、女子5，6チーム、年1回、1日で終了する程度の規模であった。現在のリーグ戦方式は、第6回大会（39年度）から同レベルによる試合を多く、さらに参加チームの拡大をねらって採用した。リーグ戦方式の採用が成功し、参加チームも毎年増加し、第22回大会（50年度）には男女108チームの最多参加チーム数を記録した。リーグ戦開催も年1回から年2回（46年度）となり、一時平日の夜間、土曜日開催も試みられた。



愛知県実業団選手権大会（リーグ戦）参加チームの推移

試合球については第1回～7回大会までは陸鳥（ニワトリ）であったが、第8回大会（41年度）より水鳥球が採用されることになった。

女子チームについては第26回大会（52年度）までは1複2単方式での試合であったが、全日本実業団大会の2複3単に合わせる形で第27回大会（53年度）より変更された。

5．東海実業団大会のあゆみ

31年度に第1回が開催され9年度に第42回を迎えた伝統ある大会である。東海4県が輪番制で開催を受け持ち運営されていたが、第36回大会（3年度）より毎年愛知県で開催していくことが決定された。理由の1つに愛知県の出場チームが圧倒的に多い、2つに地理的利便性が良いためであった。開催時期は秋（9、10月頃）であったが、全日本実業団大会（6、7月頃）の前が良いという事で第33回大会（63年度）より4月開催となった。



第1回東海実業団大会（昭和31年）男子優勝トヨタ自動車工業チーム

この大会は優勝しても上位大会にはつながらないが、東海４県の実業団チームが一堂に会して、土、日曜日の２日間を、当初はトーナメント方式であったが、リーグ戦方式に変更し、数多く対戦できる方式に移行した。

東海地区は、日本リーグ参加チームが多く、レベルの高い試合が展開され、全日本実業団大会の前哨戦として大変有意義な大会に位置付けられている。

６．全日本実業団大会の開催

実力の愛知を誇示するが如く、当大会の開催は第４回大会（29年度）、第10回大会（35年度）、第31回大会（56年度）、第37回大会（62年度）そして、10年６月に第48回大会を開催し、全国一の開催回数となった。



本県で開催した大会プログラムの表紙

７．全日本実業団大会での県勢の活躍

団体戦における輝かしい成績は別表「全日本実業団バドミントン選手権大会出場回数」のとおりであるが、その中で特筆すべきは、トヨタ自動車工業女子の第１回からの３連覇、トヨタ自動車工業男子の第13回からの７連覇である。

また、第19回大会（44年度）では女子決勝で県勢同士の対決（トヨタ自動車工業対豊田自動織機）であった。

また、男子では、名古屋鉄道、豊田工機、女子では、名古屋鉄道、豊田自動織機、日本電装などが、それぞれ時代とともに黄金時代を築いてきた。



15回大会男子優勝・女子準優勝のトヨタ自動車工業チーム

個人戦については、一般男子単では本間順次選手（トヨタ自動車工業）の４連覇を筆頭に小宮好雄選手、板垣善憲選手（いずれもトヨタ自動車工業）の各２連覇、一般女子単では太田節子選手（トヨタ自動車工業）、大橋美知子選手（豊田自動織機）が連続しての優勝、一般男子複では小宮・板垣組（トヨタ自動車工業）の３連覇、通算４勝と圧倒的な強さを誇った。また板垣・安沢組（トヨタ自動車工業）、長谷川・安沢組（トヨタ自動車工業）、本間・谷口組（トヨタ自動車工業）がそれぞれ１勝、一般女子複では上野・太田組（トヨタ自動車工業）が２連覇、混合複では小宮・板垣・安沢が絡んでトヨタ自動車工業の８連覇、その中で小宮・上野組（トヨタ自動車工業）は３連覇と優勝記録でさえも書き切れないくらいの輝かしい記録が実力の愛知を物語っている。



第12回全日本実業団混合複　初優勝
向う側：蔵本文子・小宮好雄選手（トヨタ自動車工業）

しかし、バブル崩壊後のきびしい経済状況になり、県下各企業の強化もままならず、男子トヨタ自動車の第42回大会（４年度）女子トヨタ自動車の第43回大会（５年度）以降、入賞（ベスト８）とは縁遠いものとなった

全日本実業団バドミントン選手権大会出場回数

| 回数 | 年度 | 開催年月 | 開催地 | 男子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 女子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

愛知県社会人バドミントン連盟

愛知県バドミントン協会は22年度に設立されて以来、実業団が中心となり各大会が開催されていた。

34年度には、県実業団選手権大会（団体戦）がスタートし、バドミントン競技は次第に普及していった。

44年度、当時愛知県はトヨタ自動車工業、名古屋鉄道の強豪２チームが君臨し全国一のレベルを誇り、競技人口も増加する中で、トヨタ自動車工業の同好会が実業団チームに混じり、第11回県実業団選手権大会にクラブチームとして初めて参加した。

トヨタ自動車工業同好会（現フライトスポーツ）は同社技術部内のメンバーで編成され、社内で実力No.１のチームであり、技術力アップを目的に実業団チームに挑戦した。同チームは48年度には、２部２位の好成績をあげている。

その後、時代の流れに伴う趣味の多様性から、手軽なスポーツであるバドミントンの愛好者は増加の一途をたどるとともに、試合へのクラブチームの参加も増え、50年度、第22回県実業団選手権大会には、参加チームの約四分の一を占めるようになった。

また、全参加チーム数も100チームを超え巨大化し、試合運営を円滑に図ることが難しい状況になってきた。

51年度、前述した問題に対して、県協会から実業団とクラブチームを分離する方針が打ち出され、県協会より青山敏郎氏（現会長）をはじめとした理事が社会人担当として任命された。

この年には、記念すべき第１回クラブチーム対抗選手権大会がリーグ戦として男子24チーム、女子10チームの参加により開催され新たなスタートを切った。

以降クラブチームをはじめとして、県内における県協会への登録人員の増加から、54年度県協会の組織見直しが実施され、全体で一本の組織から実業団、社会人、家庭婦人、教職員、学生、高校、中学、市町村の８連盟によって編成されるようになり、社会人連盟が発足した。

連盟結成までの主な経過は次のようであった。

54年６月24日（刈谷市体育館）、７月１日（名古屋市体育館会議室）

県協会の社会人担当理事（青山、清水、山岡、山田、大場）が集まり社会人連盟設立準備会開催に関する打ち合わせ会を開催した。

７月15日（県スポーツ会館第一会議室）

12チームの代表者と県協会から９名の役員の出席を得て連盟設立準備会を開催し、主旨説明、規約案の説明等が県協会の社会人担当理事によってなされ、質疑応答の後、発起人会設立の同意を得た。なお、発起人の選出に関しては県社会人担当理事に一任された。

10月10日（県体育館会議室）

第１回発起人会（青山、清水、山岡、山田、大場の各協会担当理事）の開催

10月25日（青山敏郎氏邸）

第２回発起人会を開催し設立総会の開催を10月28日と決定

10月28日（県スポーツ会館第１会議室）

クラブチームの代表８名、委任状９チーム、県協会役員11名の出席をもって、愛知県社会人バドミントン連盟設立総会が行われ、青山敏郎理事長以下15名の役員と団体数26、個人登録者数226名の愛知県社会人バドミントン連盟を設立した。

年代順にその歩みをたどっていく事にする。

55年度

51年度に行われた第１回愛知県クラブチーム対抗選手権大会（リーグ戦）もこの年第８回をむかえ、本年度より本連盟が主管として県協会より運営を任されることとなった。第９回の後期リーグ戦から各部優勝チーム用の持ち回りのカップが男子用７個、女子用３個を用意した。

また、年度末の総会において役員の改選があ

り常務理事１名、理事２名、監事２名の補充、交替があった。

56年度

結成以来の懸案であった個人戦大会の開催が実現した。この大会は多くの参加者に表彰のチャンスがおとずれるようにする主旨のもと男子のＡ、Ｂクラス単複、女子単複、とし、10月25日（愛知県体育館）、11月22日（豊田織機体育館）の2日間、200名の参加を得て第１回愛知県クラブチーム選手権大会（個人戦）として開催した。

57年度

４月18日に臨時評議員会を開催し空席となっていた会長と顧問の選出が承認され、会長に安部栄一郎氏、顧問には水野啓造氏が就任した。また、個人戦の種目を成年男子単複、混合複を加え、Ａ、Ｂのランクの呼び方を一般、新人とした。

安部会長より個人戦各クラスの優勝杯が寄贈された。

年度末の役員改選で常務理事２名、理事２名、監事１名の補充、交替が行われた。

58年度

発足当時に比べ団体数（38団体）で約５割の増となり、個人登録者数（458名）は倍増した。

第15回前期リーグ戦で男子１部のRSノナカが惜しくも10連覇を逃した。

59年度

年度末の役員改選前に安部会長の辞任があり会長の座が空席となった。また、役員の改選では、副理事長２名、常務理事５名、理事７名、監事１名の補充、交替があった。

60年度

上尾市で開催された第２回全日本シニア選手権大会に、当連盟より多数の選手が参加し遠征中毎晩楽しい懇親会が開かれ、連盟の一層の結束の原動力となった。



第2回全日本シニア大会に参加（上尾市）

61年度

前年に参加した全日本シニア選手権大会が好評であったため、この年も当連盟の選手が大挙して参加した。

第21回前期リーグ戦で女子１部のBSモリタが10連覇を達成した。

年度末の役員改選で会長に青山敏郎氏が就任し、理事長には清水善勝氏が就任した。また、常務理事１名、理事５名、の補充、交替があった。



左から、伊藤副理事長、青山会長、清水理事長、山田副理事長

62年度

本連盟も団体数59、個人登録者数759名をかかえる大所帯となり、リーグ戦も男子14部、女子４部となり、男子の場合１部へ上がるのに順調にいって７年かかること等種々の問題が生じ、リーグ戦の運営等に関して対策を協議することになった。



リーグ戦再編成案を説明する山田薫競技委員長

63年度

リーグ戦の男子各部の再編成を行ない、今まで各部６チームの編成であったものを１部、２部は６チーム、３部は12チーム、４部以下は24チームに再編し、第25回前期リーグ戦より実施した。

年度末の役員改選では常務理事２名、理事１名、監事１名の交替があった。



元・2年度連盟役員

元年度

連盟結成10年目にあたるこの年は10周年記念事業実行委員会を結成し、記念事業を企画した。そして、12月の第28回クラブチーム対抗選手権大会を記念大会として、その前日にはレセプションを盛大に催すこととなった。また、10周年記念誌を作成することを決定した。

12月２日には愛知会館において関係者100余名の参加による創立10周年記念懇親会を盛大に催し、クラブチーム選手権大会（個人戦）で８連覇の快挙を成し遂げた新田正喜氏、リーグ戦16回連続優勝の女子BSモリタをはじめ功労者、優秀団体に対し表彰等があり、賑やかな会であった。



左から、安部前会長、渡辺・伊藤県協会副会長

翌３日にはレインボーホールにおいて第28回クラブチーム対抗選手権大会を116チームの参加を得て記念大会として開催した。

その後、反省会において各団体との連絡を蜜にするため、各リーグ戦の前に代表者会議を開催する事を決定した。

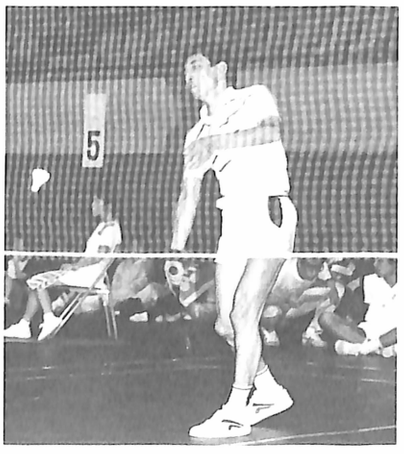




創立10周年記念大会開会式

2年度

第10回個人戦の一般男子単において新田正喜選手（BSモリタ）が９連覇を達成した。



9連覇した新田選手（BSモリタ）

４月28日枇杷島スポーツセンターにおいて初回の代表者会議を開催した。

11月27日臨時評議員会及び登録規定の改正を行

った。その内容は個人登録料を1,800円から2,000円に改正、また、試合の参加料についても会場等が増加し予算不足のため、１チーム15,000円から18,000円に改定し、いずれも3年度より実施することを決定した。

年度末の役員改選で常務理事１名、理事４名の補充、交替があった。

３年度

本連盟も大所帯となり大会の運営上特に審判関係では、県協会主管の大会への審判員の要請等により個々の審判技術が問われるようになってきた。そのため出場各チームには必ず審判資格者を１名必要とすることを決定し、本連盟主催の審判講習会を12月15日県スポーツ会館において実施し、以後毎年実施している。それに合わせて、会場も多くなり大変になったため、第31回リーグ戦より、本部席の運営を役員だけでなく各チームに分担し協力してもらうことになった。



連盟主催による審判講習会

この年個人戦に成年男子40歳の単複、壮年男子単複、成年女子単複、成年混合複の７種目を新たに加えた。

第31回前期リーグ戦で男子１部BSモリタが10連覇を逃した。

４年度

前年に引き続き審判のレベルアップの講習会を重ね、大府市で開催された第２回全日本混合選手権大会への審判員の派遣を行なった。役員改選で理事4名の補充、交替があった。

５年度

本連盟も登録者数が多くなり毎回行われる試合の組み合わせ、試合結果、個人登録の事務処理等に多くの時間を必要とするようになったため、パソコンの導入に関し理事会で討議した結果、理事数名によるパソコンソフト開発のメドが立ち、理事の武藤要介、山田薫両氏が中心となって翌年より実用化する事を決定した。

６年度

本連盟も団体76、個人登録者1,013名となり、連盟のよりよい活動をして行くため、従来からの総務、競技、審判担当からそれぞれの専門委員会組織とすることを総会にて決定した。また、競技者の審判技術を相互に向上させるため、男子１部、女子１部の試合において有資格者による審判を行うことを決定し、本年度の第36回後期リーグ戦より実施した。

役員改選において、常務理事１名、理事７名の補充、交替があり、さらに顧問として野口勇氏が就任した。そして、総務、競技、審判のそれぞれ委員長を決定した。



試合結果をパソコンに入力する役員

７年度

当連盟も団体80、個人登録者1,100余名を超えた。

前年度より組織強化による各専門委員会が本格的に活動した。

８年度

結成当時に比べ年々増大した個人登録者は５倍にもなり、試合運営上体育館の確保が問題となり、実業団の体育館をお願いして借りるまでになってきた。バドミントン人口が増える現在、社会人連盟は益々増大する傾向にあり、今後の体育館の確保、試合運営の見直しを考えなけれ

ばならない状態になってきた。その一つとしてリーグ戦女子各部の再編成を行い、１・２部６チーム、３部以下は12チームの編成として９年度より実施することを決定した。

なお、個人戦において、出場者が減少しているためひとりでも多く参加してもらえるよう、初回戦をリーグ戦方式に変更するとともに、トーナメント戦では大シード制を導入した。

役員改選において理事４名の補充、交替があった。

また、審判では有資格者を対象とした実技を伴うレベルアップの講座を開催した。

第41回前期リーグ戦で女子１部CUCKOO愛知が10連覇を達成し、第42回後期リーグ戦においても優勝し連覇を続けている。

9年度

前年度に決定した女子リーグ戦の再編成を実施し、１・２部は各６チーム、３部以下は各12チームで試合を行った。

リーグ戦への参加チームも増え、同一日に３、４会場で試合を行うこともあり、また大会初日に参加していないチームが多くなり、選手への注意事項等が伝達できないため、開催日ごとに開始式を行い、連盟からの注意事項を徹底した。また、毎回アキレス腱断裂等のケガ人が多くでるため、開会式後に５分程度のストレッチの時間を設けた。その結果、ケガ人がほとんど出なくなった。

右肩上がりで来た団体登録・個人登録も若干減り、今がピークかと思われる。しかし、県協会の要請もあり、来年度はより一層の会員獲得に頑張りたい。

以上が当連盟の発足から現在にいたるまでであるが、バドミントンがこれだけ普及してきたことを喜ばしく思い、県協会の加盟団体として他連盟と共に一層の飛躍ができることを望みます。

愛知県教職員バドミントン連盟

1.連盟発足の経緯

53年度総会において県協会の組織見直しが決定され、実業団、社会人、家庭婦人とともに教職員連盟が発足した。

連盟結成以前は協会の主導により各種大会等に参加したが、教職員のバドミントン経験者が非常に少ない状況であったことは、中・高校生の競技力向上が疎遠となる要因ともなった。

30年代後半より社会経済状況の進歩に伴い、学生生活等を通じてバドミントン競技を愛好するものが微少ではあったが、教職員として定着するようになってきた。

その過程の中で日本教職員連盟が発足し、37年8月には第1回全日本教職員選手権大会が東京で開催された。しかし、本県からの出場は46年度の第10回大会（岡山市）の個人戦に参加したのが初めてであった。また、48年度から54年度までは国民体育大会成年の部で教員男子の種別が設けられ次のように出場した。

・46年度　第26回国体（和歌山県湯浅町）
　平松孝孔　八神由一　清水勝正
・48年度　第28回国体（千葉県茂原市）
　平松孝孔　八神由一　清水勝正
・50年度　第30回国体（三重県松阪市）
　平松孝孔　八神由一　平岩友憲
・54年度　第34回国体（宮崎県西都市）
　平松孝孔　平岩友憲　山崎実興

55年度の第35回国体（栃木県真岡市）から教員男子の種別が廃止され、成年男子に教員が1名出場する形となり、57年度まで続いたが、本県からは55年度に平松孝孔選手が出場し4位に入賞した。

一方、日本教職員連盟への登録数は、43年度14名・44年度10名・45年度14名・46年度11名・47年度14名・48年度14名・49年度14名・50年度18名・51年度不明・52年度12名であった。

52年度になって県協会の事業分担の1つとして教職員担当が設けられ、組織づくりに向けてスタートをきった。この年はバドミントンにたずさわる教職員の人員調整等を実施した。こうした動きにより53年度には登録人数は20名に増加した。そして、全日本教職員大会のとき等に組織づくりの相談を進めたりしたが、登録者が一同に集まる機会は残念ながらとれなかった。もっと連盟設立の目的を知ってもらうことが必要であると、54年度県協会資料に「バドミントンは大学、高校、中学の教科体育に取り上げられ、また、小学校以上のクラブ活動や部活動としても年々発展しています。そこで正しい指導体系を確立するためと、指導者同士も大会を開き、身をもって体験するなどのためにぜひとも連盟が設立されることを願っているわけです」とのことばを入れた。

54年度、2度の連盟設立準備委員会を経て12月26日に知多市民体育館で設立総会を開催、役員および規約の承認を受け愛知県教職員バドミントン連盟が発足した。

新役員は次のとおりであったが、会長、副会長は空席となった。

理事長	田中章喜	県立時習館高校
常務理事	平松孝孔	名古屋市立中央高校
	平岩友憲	県立知多高校
	飯村順一	東海市立緑陽小学校
	杉浦順一	県立衣台高校
理事	伊澤忠男	東海学園東海中学校
	亀井勇	市邨学園高校
	水谷孝幸	名古屋市立荻山中学校
	長谷川泰子	春日井市立小野小学校
監事	中野正紀	名古屋電気高校
	各務通則	市邨学園高蔵高校

2.設立後のあゆみ

55年度

・第19回全日本教職員大会（石川県金沢市）
男子６名女子４名参加
個人戦30歳男子単　優勝　平松孝孔　中央高
30歳男子複　　３位　平松孝孔　中央高
平岩友憲　知多高
平松選手、日本教職員連盟機関誌
「JEF.NEWS」21号の表紙を飾る

・登録会員　23名

・毎月第３日曜日合同練習会を実施
会員相互の親睦と技術向上及び指導法の研究

・クラブ指導及び講習会を積極的に実施。

56年度

・第20回全日本教職員大会（福島県郡山市）
男子5名参加
個人戦30歳男子複　３位　平松孝孔　中央高
飯村順一　緑陽小

・国際的ジュニア選手の育成をめざし、中高校生それぞれ年齢に応じた適正強化を図るため、強化合宿を実施

57年度

・第21回全日本教職員大会（佐賀県嬉野町）
男子6名参加

・中高校生対象にジュニア強化練習会の実施

・社会人連盟と協議のうえ会員登録の一元化

58年度

・第22回全日本教職員大会（静岡県沼津市）
男子6名参加

60年度

・第24回全日本教職員大会（福井県福井市）
男子8名参加
個人戦30歳男子単3位　杉浦順一　愛知教育大附属高

61年度

・第25回全日本教職員大会（広島県広島市）
男子5名参加
個人戦30歳男子単2位　杉浦順一　愛知教育大附属高

62年度

・第26回全日本教職員大会（北海道苫小牧市）
男子1名、女子1名参加

63年度

・第27回全日本教職員大会（奈良県奈良市）
男子5名、女子4名参加
個人戦30歳男子単3位　杉浦順一　豊田西高



第27回大会出場選手

平成元年度

・第28回全日本教職員大会（香川県坂出市）
男子5名、女子4名参加

２年度

・第29回全日本教職員大会（岩手県盛岡市）
男女各４名参加

・県内各種の指導者研修会の実施

・ジュニア強化合宿等の実施

・中高校生各自の指導力の向上をはかり、ジュニア競技力向上のために積極的に協力

３年度

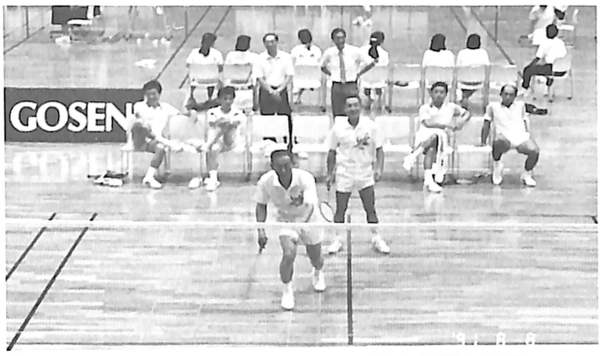
・第30回全日本教職員大会は８月８～11日本県担当で豊橋市総合体育館で開催した。
本大会は日本教職員連盟創設30周年記念大会として参加制限をせず、各県から多数の参加を見ることができた大会であった。



第30回全日本教職員大会開会式

県協会、豊橋市協会各位並びに東三河地区の高校生の大変な協力で成功させることができた。

本県は男子団体、成壮年男子団体、女子団体、個人戦の全種目に参加し、大会運営と選手の２足わらじで開催県として大会に花をそえることができた。



成壮年男子団体戦松永選手(左)と田中選手

４年度

・第31回全日本教職員大会（熊本県熊本市）
　男子３名参加
・教職関係者による指導者の増加への参加ＰＲ

５年度

・第32回全日本教職員大会（神奈川県平塚市）
　男女７種目参加
・５月～７月練習会実施
・小・中・高校のレベルアップにつながる指導者講習会、研修会の実施

６年度

・第33回全日本教職員大会（石川県金沢市）
　９種目参加
　個人戦30歳男子単　３位　田中章裕　豊川高
・第１回県教職員大会を３月26日大府市民体育館で実施した。経験、レベルを問わず少しでも県内在職教職員が自由にエントリーできるよう、種目も選手権の部（一般男女単複及び年齢別複）、親睦の部等９種目を設け選手権の部に74名、親睦の部に12名の参加を得た。

　特に、選手権の部では次年度の全日本教職員大会の選手選考を兼ねる関係上、次年度教育機関勤務予定者も出場を認めた。また、初戦敗退者には敗者戦を実施する等、新しい試みを導入し、記念すべき第１回大会を成功させた。



女子単優勝白井選手と男子単優勝田中選手

７年度

・第34回全日本教職員大会（鳥取県米子市）
　４種目６名参加
・第２回県教職員大会を２月24日大府市民体育館で開催。実施内容は昨年度同様とし、９種目に62名の参加を得た。

８年度

・第35回全日本教職員大会（千葉県千葉市）
　個人戦40歳男子単　３位　中口直人　知多東高
・会員登録数92名（男子67名女子25名）
・第３回県教職員大会を２月22日大府市民体育館で開催。９種目に76名の参加を得た。

９年度

・第36回全日本教職員大会（和歌山県新宮市）
　12種目19名参加
　個人戦40歳男子単　３位　中口直人　知多東高
・会員登録数77名（男子51名女子26名）
・第４回県教職員大会を２月14日大府市民体育館にて開催。８種目に74名の参加を得たが、30歳女子複についてはエントリー不足のため中止した。

愛知県家庭婦人バドミントン連盟

発足まで

54年10月10日、家庭婦人連盟設立総会を開催し、発足した。

「日頃スポーツを行う機会の少ない家庭婦人の方々に、バドミントンを通じ明るい家庭づくりに必要な健康づくり、相互の親睦、県民生活の向上に寄与するための機会を設け、家庭婦人バドミントンの育成に努めたい」という目的で、この組織が計画された。

ここに至るまでに県協会の普及活動の一環として、婦人教室、地域間の交歓会が各地で行われていた。

49年度にはすでに県協会主催で第1回愛知県家庭婦人大会「団体戦」が開催され、18チームが各地から参加していた。この時の組分けが春組、夏組、秋組、冬組という名称であったが、その後22年間にわたり使われることになった。

家庭婦人のバドミントン熱も年々高まり、参加者も4倍程に増加して、第4回には、会場も2日間必要になってきた。

54年5月、県協会の呼びかけで各地域の代表者8名が集まり、家庭婦人連盟設立準備委員会を開き、次のように準備した。

◇6月＊設立準備委員長（野中恵美子)、
副委員長（真野洋子)
今年中に発足めざす

◇8月＊協会の組織変更に対応する
＊連盟の事業と目的として、
(1) 地域間の交流
(2) 指導者の養成
(3) 大会等を主管運営、各種大会企画
＊登録料等の案作成
＊規約の作成
（助言者伊藤鑛 ·現県副会長)
＊趣意書、加盟勧誘書を各地へ送付、88通

◇10月2日　役員選出

◇10月10日　設立総会

大会一覧　（数字は大会回数）

年度	県内開催				備考
	県団体戦	県個人戦	東海団体戦	東海個人戦	
S49	1				県協会主催
〃					団体戦18チーム参加
52	4				2日間開催
53	5				
54	6				連盟発足
					団体戦113チーム参加
55	7				連盟主管
					団体戦150チーム参加
56	8				講習会・交歓会開催
57	9				支部制（共催事業）
58	10				1回東海「団体戦」
					1回全日本始まる
59	11		2		東海「団体戦」開催
					全日本1・2部制
60	12				3回全日本で3位
					都道府県対抗の部
					クラブ対抗の部と改称
61	13				団体戦216チーム参加
62	14			1	東海「個人戦」開始
63	15		6		シンボルマーク制定
H1	16				連盟発足10周年記念
					オープン大会開催
2	17				東海「団体戦」全種目優勝
3	18	1		5	県「個人戦」開始
4	19	2	10		全日本クラブ対抗優勝
5	20	3			団体戦第20回記念
					1回西日本個人戦
6	21	4			**12回全日本開催**
7	22	5		9	愛知オープン開始
8	23	6	14		ラブオールの会開始
9	24	7			団体戦248チーム参加

以下、年度順の歩みは次のとおり

54年度

10月10日、愛知県体育館において、第６回愛知県家庭婦人大会終了後、総会を開き、県内各地域の代表24名、設立準備委員が出席、まず規約の説明があり、承認された。

連盟の組織は既婚婦人を対象にし、組織の編成は市町村単位で構成されることになった。

同時に発足した他連盟と比べればこの点が特色といえよう。

役員の選出が続いて行われ、準備委員がそのまま役員に移行し、理事長（野中恵美子）、副理事長（真野洋子）、理事９名、監事２名を決定した。（注：会長は当分の間空席）。

事業は当初、大会を年１回、指導者講習会を数回各地で開催する。

登録料は一人200円、連絡費程度の額で市町村単位でとりまとめ登録する。

以上のことを決め、無事終了した。

発足後は自主運営をめざして仕事の分担、講習会開催、名簿の作成等、将来に向けてたどたどしく歩み始めた。

第６回県大会の試合方法は従来どおり３ダブルスの団体戦、11点ゲームで行ない、参加数は113チームであった。

なにごとも初めての経験ではあったが、県協会主催で４月開催の日中親善大会の有料入場券500枚の販売に協力した。また、56年３月までの県協会理事３名を選んだ。

55年度

４月、評議員会開催（県スポーツ会館）

行事計画の説明をし、評議員からの希望を聞き、より良い方向へ検討を重ねた。

この年、講習会３回、交歓会３回を各地で開催した。第７回県大会は３日間、愛知県体育館において開催、初日には入場行進を行なう。優勝者の表彰は賞品を取り止め協会の賞状、中日新聞社の賞状、楯だけにした。

運営面では、各地域の評議員にも大会役員を１日ずつ委嘱した。これにはスムーズに競技が運営できるように、役員側の立場を理解してもらおうという意図も含まれていた。

１月次年度の役員改選（選挙）

理事長（細野節子）副理事長（山内恭江）

56年度

４月　評議員会開催、新役員でスタート。

５月26・27日、第９回世界女子選手権大会（ユーバー杯）が愛知県体育館で開催され、有料入場券の配分を行った。世界のプレーヤーを目のあたりにできて感激した。

６月に連盟主催で県体育館において審判講習会（講師田中章喜氏）を実施、139名が受講。

これは９月に愛知県内で開催される第31回全日本実業団大会で、家庭婦人連盟も審判を受け持つことになったためである。おかげで受講者は審判技術の良い勉強になり、本番には自信を持って臨むことができた。本連盟から延べ311名が大会役員として参加した。

57年度

６月日韓大会、７月日中大会、９月日本リーグと有料大会が続き、入場券の配分に忙殺される中、６月の２日間、地区対抗親善大会を開催、市町村をこえたチーム編成で実施した。

この年から連盟共催事業（補助金）として各地域別（名古屋・西尾張・東尾張南・東尾張北・三河）にそれぞれ大会を持つことを取り決めた。試合方法は各地域の事情でそれぞれ自由とした。

11月　ヨネックスの選手による講習会実施。



技術講習会会場風景

58年度

４月　評議員会で連盟会長に長谷川参三氏（県協会副会長）を推載する。

三重県家庭婦人連盟の発案で東海大会の案内があり、四日市市において開催され、4県から各5チームが参加した。代表者会議の結果、4県で持ち回り開催すること、チーム編成方法、参加数等を取り決めた。

8月、時を同じくして、第1回全日本家庭婦人大会が東京都で開催されることになり、選考会を行い県代表を送った。

9月　第1回小学生大会（熱田の森文化センター）が行われ、連盟から審判員を派遣したが、負けて泣く子を励ましたり、慰めたりの1日だった。

10月、県大会は第10回を迎えた。

12月、今年会長にお迎えした長谷川参三会長がご病気で逝去された。

59年度

6月、第2回東海家庭婦人大会を愛知で開催（露橋スポーツセンター）＝朝日新聞社後援＝
競技方法は各県4チームのリーグ戦を行った。
ブロック名は（1）グリーン（2）レッド
（3）イエロー（4）ブルーとし、チーム編成は35歳未満・35歳以上・40歳以上とした。

また、全日本家庭婦人大会に2部（次回よりクラブ対抗と改称）の東海予選会も同時に行なうようにした。2部は全日本大会に今回から新設され、家庭婦人になってから始めた人のみ出場でき、東海ブロックの枠は2チームであった。本県からは弥富クラブが出場し、全国出場の代表権を得た。

9～11月の間に、第11回県大会を開催、今回から15点ゲームを採用したため、前年3日間で消化できた会場（愛知県体育館）が5日間必要になった。参加数200チーム、1299名。（春組・夏組・秋組各36チーム、冬組92チーム）

1月、2日間で年齢別交歓会を実施し、144組が参加した。この大会は健康的で好評であった。

60年度

役員改選　副理事長（野中恵美子）

年度の始まりは全日本家庭婦人大会の予選からスタート。5月に第3回全日本家庭婦人大会「都道府県対抗の部」が開催され、愛知県チームは3位に入賞した。会場は準々決勝から東京代々木第2体育館が使われ、当時、まだ私たちには珍しいコートマットでのプレーが体験でき、感激も二倍だった。

12月には当県で全日本総合選手権大会が開催され、入場券の販売、審判員（32名）等の役割を受け持った。

61年度

前年度決算が赤字となり、今年度から登録費が1人500円になった。

全日本家庭婦人大会「クラブ対抗の部」への参加枠が、30チーム以上の登録県は単独1チーム参加できることになった。

第13回県大会団体戦は参加者1,400名、216チームに増え、前年から6日間で開催されるようになった。

初日には例年の入場行進も華々しく行い、参加賞の「ソックス」も定着してきた。

62年度

地域別に開いている共催事業には登録者の割合で補助金を配分しているが、今年から増額（6万円から10万円）した。

6月に行われた第37回全日本実業団大会の審判員等に連盟から延べ100名を派遣した。

こうした経験は、連盟内の審判技術にも十分活かされてきた。

11月、第1回東海家庭婦人大会「個人戦」を名古屋市総合体育館第2競技場で開催した。個人戦の新設については、「団体戦」も東海4県を一巡し（輪番制）、出場可能チームも限られているので、より多数の人に参加してもらおうと計画したものである。「個人戦」も以降4県を輪番制とした。実施内容は次のとおり。

参加資格は「団体戦」出場者を除き、種目は35歳未満、35歳以上、40歳以上、45歳以上の4年齢別として参加枠は各種目4組とした

本県では予選会を実施し、代表選手が本戦に臨み４種目中、３種目に優勝した。

63年度

連盟のシンボルマークを募集し、右のマークを採用した。連盟旗はドラゴンズブルーの地色に白抜きとした。



シンボルマーク

６月、第６回東海家庭婦人大会「団体戦」と第６回全日本家庭婦人大会「クラブ対抗の部」東海予選会を名古屋市総合体育館第２競技場で開催。「東海団体戦」では４種目中、３種目に優勝し、「クラブ対抗」は名古屋チームが全日本出場権を得、７月に東京都立川市で開かれた本大会で見事３位に輝いた。

来年度は連盟発足10周年を迎えるので、愛知オープン家庭婦人大会を６月に開くことを取り決め、年賀状で全国に案内を出した。

１月、東京でのヨネックスジャパンオープン開催時に、日本家庭婦人連盟常任理事会が開かれ（細野節子）出席、次回全日本家庭婦人大会の要項等について検討した。

元年度

４月、台北市で開かれたモーニングカップに県協会の役員と家庭婦人の有志10名が遠征し、海外での交流を楽しんだ。

６月５～７日、連盟発足10周年記念愛知オープン家庭婦人大会を愛知県体育館で開催した。


10周年記念レセプション

大会前夜には、愛知会館において記念レセプションを関係者200名の出席を得て華々しく開催した。

５日からの競技は県外からの119名を含めて648名が参加、１部＝競技経験が豊かな人、２部は年令別で試合を行った。

８月、第７回全日本家庭婦人大会「クラブ対抗の部」に出場した岡崎チームは、レベルが上がってきている中、堂々３位の銅メダルを獲得した。

11月、第６回全日本シニア大会が大府市で開催され、本連盟から審判員延155名を派遣した。また会員からも３種目に入賞を果した。

連盟の共催事業である地域別大会は、年２回ずつ開催することにし、理事の担当地域も、よりきめ細かく掌握できるようになった。

２年度

５月25～27日、トマス杯・ユーバー杯が名古屋市総合体育館で開催され、本連盟からも運営、審判員で延べ86名が協力した。大会に先立ち開催された、国際審判員の阿彦周宜氏による研修会に参加し視野が拡がった。

6月、第8回東海家庭婦人大会「団体戦」、（岐阜市）では愛知県チームは4種目（グリーン豊田・レッド名古屋・イエロー岡崎・ブルー春日井）とも優勝という快挙を成し遂げた。

３年度

新役員　副理事長（池田藤代・佐藤靖）
理事９名　県協会登録者1,420名、42団体

６月、第９回東海家庭婦人大会「団体戦」、(四日市市）では昨年に続き全ブロックを制した。

６月17～19日の３日間、第１回県家庭婦人大会「個人戦」を愛知県体育館で開催。

競技方法は参加者に喜んでいただけるよう、ランク別ブロック別トーナメント戦とし、１部（競技経験豊かな方の部）には東海３県へも参加を勧誘し全参加者403組と盛大なものとなった。

この大会には参加賞、賞状、賞品を出したが経費節減を計るためもあって、プログラム15頁

のワープロは役員の手作りであった。ワープロの腕もかなり上がってきた。

7月、第9回全日本家庭婦人大会「都道府県の部」（東京都町田市）に出場した県代表チームは大健闘をし、準優勝の銀メダルを胸にした。



準優勝の愛知県チーム

なお、東京チームは9連勝中。

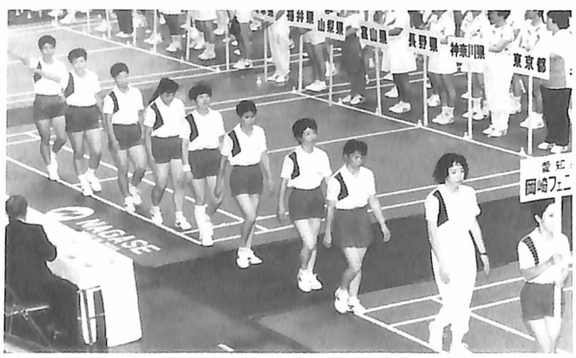
11月、第5回東海家庭婦人大会「個人戦」を名古屋市総合体育館第2競技場で実施。

今回より50歳以上（各県より2チーム）が追加され、5種目となる。当県の成績は1位3種目、2位4種目、3位5種目。

4年度

6月、第10回東海家庭婦人大会「団体戦」・第10回全日本家庭婦人大会「クラブ対抗の部」東海予選会を名古屋市総合体育館第2競技場で開催した。団体戦開催時には4県理事長会議を開催することにしている。

8月、札幌市で開かれた第10回全日本家庭婦人大会では、「クラブ対抗の部」に出場した岡崎フェニックスチームが見事優勝。3度目の出場で初栄冠を手にした。また、豊田クラブも4年連続出場、3位を獲得した。



優勝の岡崎フェニックスチーム

「都道府県対抗の部」もベスト8の5位となり、愛知強しの感を全国に印象づけることができた。

3月の日本家庭婦人連盟常任理事会において6年7月の第12回全日本家庭婦人大会を愛知県で開催の要請があり、検討のうえ引き受けることにした。（49国体開催の年ではあったが…）

一方、県協会も国体に向け、全日本混合大会の開催、強化対策、資金づくり等々に努力をしていた。

本連盟も資金補助グッズの購入、大会への役員派遣等を行った。



評議員会での役員一同

5年度

新役員　副理事長（大野敏子）理事9名

例年の事業と、県協会の国体準備に対応しながら、第12回全日本家庭婦人大会の地元開催の準備を進めた。

5月、審判講習会開催（県スポーツ会館）

6月、5日間第4回県「個人戦」開催（名古屋市総合第2競技場）。個人戦開催の時期と会場はこれで定着したい。

8月、第11回全日本家庭婦人大会（東京都）は10周年記念大会として開催され、功労者の表彰があり、また記念冊子が発行された。

本県からは次回開催に向けて役員による視察を行った。「都道府県対抗の部」に出場した県代表チームは、予選リーグを1位で勝ち上がり、準決勝で東京と対戦し2－1で惜敗し、3位を獲得した。

9月、県協会主管の全日本社会人大会が国体リハーサル大会として大府市で開催され、本連盟からも役員、審判員等を派遣した。国体対策資金グッズの販売を担当した。

10月、第20回を迎えた県団体戦（７日間、県体育館）は、記念大会として参加賞にオリジナルバッグを配布した。そして、お世話になった県協会の４氏　伊藤鑛一氏、鈴木勇氏、井沢宏氏、多賀純一氏へ感謝の記念品を贈り、また20年連続出場者４名の表彰を行なった。

年度末の評議員会では、かねてから空席だった連盟会長に、細野節子、副会長に池田藤代、理事長に大野敏子の各氏の就任が可決された。

全日本家庭婦人大会の準備は、年内に概ね書類の発送を済ませたが、懸案事項は山積みであった。

６年度

年度当初は全日本家庭婦人大会県予選と東海大会「団体戦」の県予選から始まり、７月には第12回全日本家庭婦人大会の開催、10月は「わかしゃち国体」と活気あふれた年であった。

６月、岐阜で行われた第12回東海「団体戦」では出場した４種目とも優勝を果した。

７月、第12回全日本家庭婦人競技大会「都道府県対抗の部・クラブ対抗の部」を名古屋市総合体育館（レインボーホール）で全国より76チーム、660余名が参加して開催した。まず、29日にサン笠寺において日本家庭婦人連盟総会、続いて監督会議（運命の組合せ抽選会）が行われた。

夕刻よりサン笠寺ホールにおいてレセプションを開き、日本協会桜内義雄会長をはじめ県協会、大府市からも出席を得て総数500名が楽しい交流のひとときを持った。



桜内会長を囲んでレセプションのひとこま

30日、レインボーホールにおいて開会式を行い愛知県警音楽隊のドリル演奏、選手の入場行進に続き、日本協会会長ならびに県協会後藤淳会長のあいさつをいただいた。

開会式終了後、ただちに第１・第２競技場を含め26コートを使用して予選リーグに入った。

本県からは都道府県対抗の部に「Ａ・Ｂ」２チーム、クラブ対抗の部に小牧、刈谷、名古屋の３チームが出場した。



優勝戦で健闘する愛知Aチーム対東京チーム

31日、愛知Ａチームは決勝トーナメントでも次々と勝ち進み、決勝戦で東京に惜敗したものの準優勝を獲得し、地元開催の意気をおおいに盛り上げた。なおＢチーム、クラブ対抗の部に出場した３チームもそれぞれ健闘した。

関係者の皆様のおかげで、大会も無事終了。



準優勝愛知県Aチーム

10月の「わかしゃち国体」バドミントン競技（大府市）には連盟役員および会員も全面的に協力した。

同じ10月、第21回西日本家庭婦人大会が大阪府立体育館で開催された。この大会は20回まで大阪府家庭婦人連盟主催で行われていたが、今回から日本家庭婦人連盟主催となり、各地を転戦することになった。試合方法は１部と合計年齢別の２部の個人戦で行われた。

２月には阪神大震災の義援金を会員に募ったところ、122万円をお寄せいただき、中日新聞社社会事業団を通じ、被災地に贈った。

７年度

11月、第９回東海家庭婦人大会「個人戦」が巡ってきた。名古屋市総合体育館第２競技場に東海４県から76組（年令別５種目）が参加した。本県の成績は１位＝２種目、２位＝４種目、３位＝３種目で、他県のレベルが上がってきたこともあり、やや入賞が少なかった。

新しい事業を二つ始めた。

一つはラブオールの会、「48歳以上男女を問わず」が特色で、県内各地で年６回開催した。

もう一つは愛知オープン家庭婦人大会で１月、３日間にわたり名古屋市総合体育館第２競技場で開催した。複の合計年齢別で390組（うち県外32組）が参加し試合と交流を楽しんだ。

８年度

６月、第14回東海家庭婦人大会「団体戦」ならびに第14回全日本家庭婦人大会「クラブ対抗の部」東海予選会を、名古屋市総合体育館第２競技場において開催した。

東海４県から４種目に各４チームが参加し、当県は４種目とも優勝。（グリーン豊田、レッド岡崎、イエロー名古屋、ブルー小牧）

年間７事業とも名古屋市総合体育館第２競技場（10面）を使用することになったが、12面使用を基本にしていた県「団体戦」は、組分けを変えなければならなくなった。春組、夏組、秋組、冬組の呼称は、第１回から使われていたので、たいへん愛着があったが１部～45部というように今年の第23回大会より変更した。この大会には、270チームが参加し、９日間にわたり開催した。

愛知オープンも前年に引き続き３日間開催した。県外74組を含む計492組が参加して和気あいあい試合を楽しんだ。２日目は前夜から雪が降り朝一番の試合はやや遅れたものの、何とか終了できた

９年度

本年度は会場をいずれも名古屋市総合体育館第２競技場を使い、次のような事業を行った。

◎連盟主催事業

４月、第15回全日本家庭婦人大会県予選
「都道府県対抗の部」３年齢別で代表選考
「クラブ対抗の部」成績①岡崎、②安城
同月、第15回東海家庭婦人大会「団体戦」県予選成績①豊田、②岡崎、③小牧、④東海
５月、第７回県家庭婦人大会「個人戦」
ランク別25ブロック、参加638組
９月、第11回東海家庭婦人大会「個人戦」県予選５年齢別、上位４組本大会へ　参加194組
10月、第24回県家庭婦人大会「団体戦」（３複）
リーグ戦、45部　参加284チーム
１月、第４回愛知オープン家庭婦人大会「個人戦」合計年齢別、参加417組（県内341　県外76）

◎県外大会（関係分）参加

６月、第15回東海家庭婦人大会「団体戦」（静岡）
兼第15回全日本家庭婦人大会「クラブ対抗」東海予選
成績１位３種目、クラブ対抗　安城３位
７月、第15回全日本家庭婦人大会（郡山）
成績都道府県対抗の部３位
９月、第24回西日本家庭婦人大会「個人戦」（広島）
１部、２部（合計年齢別）１組優勝
11月、第11回東海家庭婦人大会「個人戦」（岐阜）
５年齢別、成績１位１組、３位２組

◎連盟共催事業（補助金）

６・２月、名古屋市　２大会　参加計796名
６・11・２月、西尾張地区　３大会　672名
６・９月、　東尾張南地区　２大会　398名
７・11月、　東尾張北地区　２大会　442名
６・11月、　オール三河　２大会　729名

＊ラブオールの会（48歳以上男女問わず）
県内各地で５回開催　参加計535名

◎県協会協力事業

県小学生大会・東海総合選手権大会・東海小学生大会・全日本総合選手権大会等へ役員、審判員を派遣　延277名

愛知学生バドミントン連盟

愛知学生連盟は、愛知県内の各大学のバドミントン競技団体の総括団体として27年に設立された。その後、県協会に加盟し、協会を構成する主要連盟の一つとしてその地位を確立した。

本連盟は、現在の県協会を構成する多くの主要な役員を輩出しており、その意味でも本連盟は大きな役割を果たしてきているといえる。

本連盟はその名のとおり県内の各大学及び短期大学のバドミントン競技団体の総括団体として各種大会を開催し、愛知県内におけるバドミントンの競技力向上と競技の普及に貢献している。設立当時は加盟大学数の増減が激しかったが、現在では、新規大学の加盟、短期大学の同校の上位大学への統廃合などにより、30大学ほどになり、個人登録人数も約650人を平均的に維持している。

本連盟が主催する大会は、愛知学生選手権（県学生選手権）が28年度、愛知大学選手権が30年度、愛知学生新人選手権が31年度より開催されている。また、本県で開催される全国規模の学生選手権大会としては全日本学生選手権大会、西日本学生選手権大会、東西対抗競技大会などがあり、本連盟はこれらの大会について大々的にバックアップしてきた。



日大、初優勝を飾る

女子は日女体大が連勝

全日本学生バドミントン選手権 ＝第2日＝

第十九回全日本学生バドミントン選手権大会第二日は、五日午前九時から愛知県体育館で男女団体戦の準々決勝、準決勝、決勝を行なった。男子は準決勝で5連勝をねらう中大を破った日大が、決勝でも昨年二位の法大を接戦のすえ3―2でくだし初優勝した。女子は日女体大が青学院大を3―1で破り二年連続、六度目の優勝を飾った。

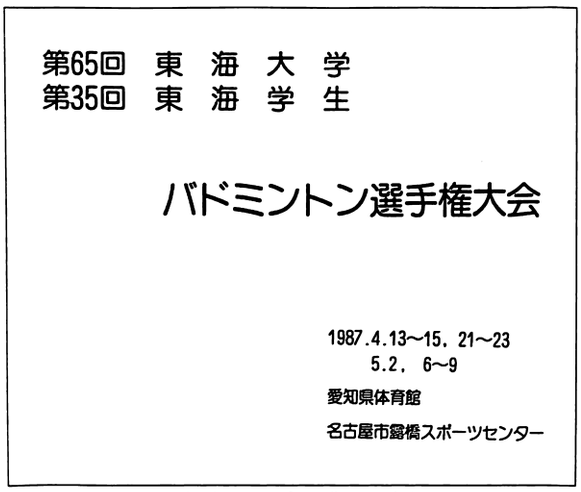
第19回全日本学生選手権の新聞記事
（43.11.6 中日スポーツ）

本連盟は会長（副会長）を除く委員長以下の役員のすべては各大学から選ばれた学生がその職務を担当しているが、委員長、副委員長、委員とも任期１年の１年交替であるところが、他の連盟とは違うところである。そのため、実際には県協会に深く関わる前に役員が変わってしまうということになり、また、その年によって記録や結果が残されたり、残されなかったりで、過去の歴史や実態がつかみにくくなっている。

ここで、現存する県協会総会資料をもとに本連盟の歩みを見ていく。

40年度から42年度にかけては、学生連盟の組織は、未だ未熟なものであったといえる。しかし、このころからすでに中部、東海、愛知の学生連盟の区分はでき上がっており、それぞれの職務を果していた。なお、43年度から45年度にかけては中部学生連盟が主体となって各大会を企画、実行していたと思われる（総会資料では愛知学生連盟としての報告は記載されていない）。45年度には、それまで春季、秋季に行われてきた愛知学生選手権大会、東海大学選手権大会を東海大学選手権大会に統合し、管轄を愛知学生連盟、愛知大学選手権大会参加大学を１・２部、他県の大学を３部とし、開催地を愛知県にすることを決定し、46年度から実施された。しかし、東海学生選手権大会（個人戦）は各県で行われていたようであるが、このころから中部、東海、愛知それぞれの連盟の管轄がはっきりしてくるようになった。

47年度には当時の体制に対応させるべく、愛知学生連盟、東海学生連盟の規約の大幅な見直しが行われることになり、48年度に完成、49年度に新規約が施行された。そして、52年度までは各管轄のもと、それぞれの大会をこなしてきている。



62年度大会プログラム表紙

54年度からは、それまで東海地区持ち回りで実施されてきた東海学生選手県大会を東海大学選手県大会春季リーグ戦に引き続き実施されるようになった。これに伴い、それまで本連盟の管轄であった東海大学選手権大会は、東海学生連盟の管轄となり、開催地については愛知県内ということで、本連盟が担当することとなった。また、この年にトーナメント制によるチーム対抗の愛知大学選手権大会を愛知学生新人選手権大会の前に、また、東海学生新人選手権大会を東海大学選手権秋季リーグ戦の後に開催したところ、両大会とも成功し、次年度から継続して実施することとなった。なお、愛知大学選手権大会は56、57年度は行われなかったが58年度より再び行われている。

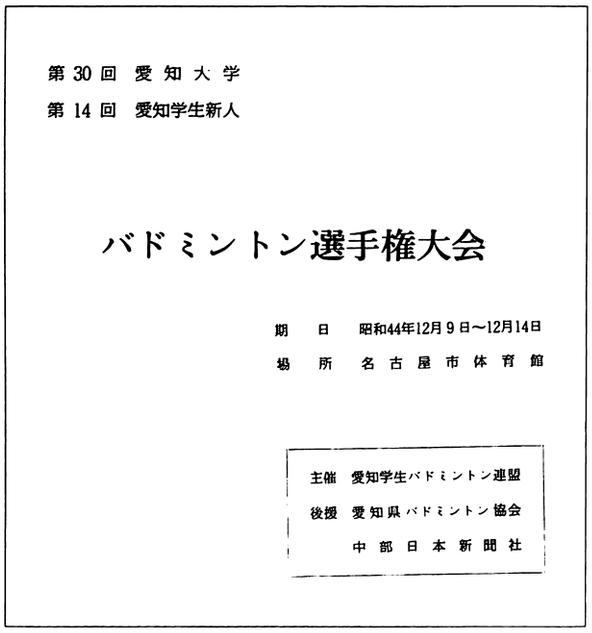
57年度には中部学生連盟の規約改正が行われ、同時に東海学生連盟も規約改正が行われることになり、ともに58年度に施行された。なお、本連盟の規約改正は行われていない。

58年度から63年度までは総会資料に学生連盟に関する記載がないが、各大会とも例年どおりに行われたと思われる。また、この前後に東海学生連盟は、中部学生連盟の東海地区支部になり、名称も中部学生連盟東海支部となっている。

年号が平成に変わった後も、各連盟の大会・事業は問題なく行われてきている。

8年度に入って本連盟は2度目の大幅な規約改正を行った。これは、7年度に行われれた県協会の規約改正を契機とするもので、それまでの規約に関し実情と違う箇所、あるいは時代に即さない表現、表記などを改めたもので9年度に施行された。

本連盟は中部、学生連盟および同東海支部と連携し、県内はもとより東海、中部地区の各大会、さらには県内で行われる全国規模の学生大会で積極的に活動してきた。(近年では7年度の東西対抗競技大会、9年度の西日本学生選手権大会がある)。また、県協会主催の各種大会にも積極的に参加し、その存在意義は大きいと言える。学生主体のため、役員改選が多く、組織体制の確立が他の連盟に比べ難しい面もあるが、今後も愛知県での学生バドミントン競技の普及発展と県協会への協力を惜しむことなく続けていきたい。



44年度大会プログラム表紙

愛知県高等学校体育連盟バドミントン部

昭和23年愛知県学校体育連盟は新しい学制に対応して、愛知県高等学校体育連盟（以下高体連）と愛知県中小学校体育連盟に分離し、組織がえをしてそれぞれ新発足した。

20年代は、名古屋市内を中心に約10校ほどで大会が実施されていたが、名古屋市内に「マルエム」の水谷製作所、「ナンバーワン」の都筑製作所の二ケ所のシャトル製造業があったことから順次クラブを持つ学校が増加していった。その中で松蔭、瑞陵の両校の選手が全国大会・国民体育大会でも上位入賞をしていた。

30年代になって、名古屋市外の学校にクラブを持つ学校が増加した。しかし、全国大会レベルで活躍する選手は出なかった。

40年代は、第16回大会より今まで各種目ごとに分散実施していたインターハイが総合体育大会として、一県もしくは隣接県でまとめて行うことになった。この頃になってクラブを持つ学校も70校を越えるものとなり、県高体連の公認の大会として県高校総体、新人大会、学年別大会の三大会を持つようになった。

50年代当初、大会参加校も100校を越えるようになり、今まで県一本で実施していた各大会を支部予選会を実施し、県大会へ出場している。

1．第21回全国高等学校総合体育大会

45年度の第21回インターハイは、本来、中地区の近畿ブロック、和歌山県で開催予定であったが、開催地の事情で、44年度途中で大会返上があったようで、年度途中に当時の愛知県高等学校体育連盟会長（全国高等学校体育連盟副会長）の藤野源次先生から連絡があり、愛知県スポーツ会館で「バドミントンの45年度大会が和歌山県で開催できないようなので何とか愛知県で代替開催をしてもらえないか。自分の立場としても中地区で開催しなければ」とのお話があった。44年度大会には個人戦だけではあったが、大会に出場させていたのでインターハイとはどのような大会であるかは若干ではあったが頭の中に残っていた。

藤野大先輩から膝を折るような姿勢で開催要請をされたのでは、若輩の身ではあるが、何とか開催できるように努力しなければならないと決意し、県協会に事情の説明要請をしたところ、藤野先生も県協会にお話をしてあったので、できるだけのことをしようと開催を受託することになった。しかし、それからが大変であった。

高体連事務局の中野巨子さん、青木恵さん（現池田さん）には並々ならぬご苦労をおかけすることになった。特に中野さんには数次にわたって主開催地の和歌山市まで諸会議に同行していただき、助言、指導をいただいた。

予定などしていない大きな大会で、会場、宿舎、練習会場の確保が難題であり、開催地特有の選手強化などは高体連としては何も援助、協力をすることができなかった。

選手の強化については、実業団、特に名古屋鉄道のチーム、中でも、伊村隆、樋口一春両選手が名古屋電気工業高校（現愛工大名電高校）のチーム強化に大変な協力をしていただいた。女子については高蔵女子商業高校（現高蔵高校）の各務通則先生、名古屋女子商業高校（現市邨学園高校）の亀井勇先生にそれぞれの学校で強化していただく形であった。

大会会場の確保は、８月上旬開催では手の打ちようがなく、大相撲の名古屋場所の終了後、会場撤収作業がなされる日程に合わせて、７月後半に愛知県体育館で開催することとなった。

しかし、練習会場は準備できないので全国高体連に打診し、やむを得ない事情だからと了解していただき、決定をみた。

大会の運営については、県協会の全面的な協力で実施でき、今でも感謝の気持ちで一杯である。練習会場のない大会で、全国有力校は、ほとんど県内企業の体育館の使用をお願いし、豊田市、刈谷市、大府市など遠方まで移動して調

整をされていた。当時の各顧問の先生、並びに体育館を開放していただいた各企業の方々に心から感謝している。

2．第34回全国高等学校総合体育大会

58年度全国高等学校総合体育大会第34回全国高等学校バドミントン選手権大会を58年８月２日から６日間の日程で豊橋市体育館、豊橋市北部地区体育館（現豊橋市牛川地区体育館）、県立時習館高等学校体育館、県立豊橋工業高等学校体育館を競技会場に、「走れ、跳べ、競え、東海の空」のスローガンのもとに、全国の精鋭1,000余名の参加を得て盛大に開催した。



第34回全国高等学校総合体育開会式

56年度に愛知県庁本庁舎に「58総体」準備委員会が設立され、翌57年度には実行委員会に発展し、各種目の代表者がよりよい大会開催に向けて、事務作業、競技役員の養成、選手強化、協賛各企業との打ち合せ、および宿舎の手配など日夜の努力がなされた。

開会式に先立って行われる監督会議が１時間有余、２時間におよぶのが通常であったが、本大会では会議の所要時間がわずか15分で終了するなど、幸先よいスタートを切ることができた。大会運営については、４会場間の連絡もうまくいき、速報なども手順良く作ることができた。

また、競技そのものは、例年行われていた敗者審判制ではなく、県協会、豊橋市協会、県実業団連盟、県社会人連盟、県家庭婦人連盟、および愛知学生連盟の多大なご協力のもとに行った。また、線審および大会補助員には、時習館、豊橋東、豊橋南、桜丘、豊川、宝陵、豊川工業の三河地区の各高等学校の部員諸君約300名に動いていただき、大きなトラブルや事故もなく、全日程を終えることができた。

3．県高体連の大会が予選を兼ねる全国大会

（１）全国高等学校総合体育大会（全国高等学校バドミントン選手権大会）

25年度より神奈川県の伊沢三郎先生の努力で第１回が横浜市で開催され、以後、第５回までは団体戦（学校対抗）のみで実施された。（各県２校が代表）

第６回の神戸市の大会より単・複の個人戦が導入された。第28回大会までは、前年度大会の団体戦優勝校は推薦で、都道府県の予選会なしで本大会に出場できた。以後は全種目の参加者の適正化が検討されて、優勝校の出場が制限された。

40年、第16回大会より今まで各種目ごとに分散実施していたインターハイが総合体育大会として、一県もしくは隣接県でまとめて行うこととなった。その地区割りは、全国を東、西、中の三地区に区分し、輪番で総合体育大会を開催し、東地区は北海道・東北・関東、西地区は中国・四国・九州、中地区は、東海・北信越・近畿とし、地区内での申し合わせによって、小地域となり、その中で各県の担当を決めていく形式で実施してきたが、当該開催地が事情により例外的に地域内で変更が生じる場合があった。

45年度の第21回大会は、中地区の近畿地区、和歌山県で開催予定であったが、本県が代替開催をした例があった。このことについては上述の通りである。

なお、団体戦の対抗方法が２度変更されてきた。当初は２複３単で対抗方法は複・複・単・単・単で選手は単複出場の制限はなかった。54年度第30回大会から２複１単で複・単・複で、選手は単・複を兼ねられないとなり、62年度第38回大会より、現行の２複３単となり単・複・複・単・単で第１単の選手は複を兼ねられないが、それ以降は単・複が兼ねてもよい形となった。こうした対抗方法の変更の理由は、１回目

は参加選手の適正化にともなうことと、１校で２名の良い（強い）選手を育てれば単・複で３ポイントを取ることができるので、教育的配慮から少なくとも３名の良い選手を育てなければ勝てないというほうが良いということであった。２回目の変更は、団体登録選手数の変化（増加）がなければ、２複３単で実施した方が、選手養成にはプラスになるのではないか、特に、日本協会の中で諸外国に通用する選手を育成する必要が第一であるとの方針で、シングルス主体の選手を育てる条件を検討した結果、第１単を専門化する方法となった。その良い例として、現在も活躍中の本山秀昭（トナミ運輸）と霜上和宏（YKK九州）があげられる。

（２）全国高等学校選抜バドミントン選手権大会

47年度より実施されるようになった。全国を北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の９ブロックに分け、地区で強化合宿（日本協会主催）を実施し、その中で代表を選出して、第１回、第２回は個人戦のみ実施した。そして、第３回大会から第７回大会までは団体戦（都道府県対抗）と個人戦が実施された。

第８回大会からは団体戦が学校対抗の現在の形に変更された。また、本大会には、同一ブロックから複数の代表が選出される場合、同一県から２校の出場を制限して実施されるようになった（同一県一校のみ）。その理由は、選抜大会の成績が、インターハイの組み合わせのシード校の決定に関して、第２基準となるためである（第１基準は前年のインターハイの成績）。

第18回大会は、東京で開催され、女子シングルスにおいて青木美代子（佐屋高）が、第３位に入る健闘をみせた。

女子

順位	選手名・学校名	
優勝	井田　貴子	（埼玉県・埼玉栄高等学校）
準優勝	松田　洋子	（大阪府・四條畷学園高等学校）
第三位	阪本　雅子	（熊本県・熊本信愛女学院高等学校）
	青木美代子	（愛知県・佐屋高等学校）

女子シングルス

松田　洋子 四條畷学園（大阪）	2	11－2 9－11 12－11	1	青木美代子 佐屋（愛知）

第18回全国高校選抜大会青木美代子選手の成績



第18回全国高校選抜大会プログラム表紙

なお、第20回大会および第25回大会は記念大会として各県代表の団体戦（学校対抗）のみで実施された。

本県では、第49回国民体育大会（わかしゃち国体）の強化策の一環として、第22回大会を、国体の開催地の大府市民体育館で開催した。

４．県高体連主催の各種大会

（１）愛知県高等学校総合体育大会

当初、県高等学校選手権大会（インターハイ予選）として実施されていた大会である。その後、県高等学校総合体育大会として実施されるようになり、現在に至っている。

現在は、４月を中心として各支部予選会が実施され、５月から６月にかけて県大会が実施されている。

なお、この大会は全国高等学校総合体育大会および東海高等学校総合体育大会の県予選会を兼ねている。

（２）県高等学校新人体育大会

43年度より現在のように、県高等学校新人体育大会として実施されるようになった。

前年度までは、県民体育大会の高校生の部として実施されてきたが、県民体育大会の変更にともなって新人体育大会として実施されるようになり、現在に至っている。

現在は、９月を中心として各支部予選会が実施され、10月から11月にかけて県大会が実施されている。

なお、この大会は全国高等学校選抜バドミントン大会の東海地区予選会の県予選会を兼ねている。

（３）県高等学校学年別大会

学年別大会を実施するようになった経緯は、インターハイ予選が４、５月に開催され、新人大会が９月開催の日程では、10月から３月までの６か月間、公式戦といえる試合が実施されず、生徒、特に普通科課程の生徒を継続して部活動に参加させることが大変困難だという意見が多数の顧問の先生から出されてきた。つまり、２年の新人大会が終わるとそこで春のインターハイ予選を待たずに引退（退部）してしまうということである。そうした意見にもとづいていろいろ検討した結果、この学年別大会を実施することとなったのである。

大会規模は、当初、会場の確保が思うようにならず、その年々によって参加者数を制限しなければならなかったが、近年は、県協会などの協力で会場の確保（確保コート数）が安定しているので、会場の心配をせずに大会を運営することができている。各校の参加制限も１年、２年それぞれ男女別、単・複別に８組（名）ずつと数多くの生徒が参加できる大会となっている。現在は、試合総数が2,900試合を超える大会となっている。

この大会の運営を円滑に実施できるのは、愛知県高体連専門部の各先生方の力のおかげである。また、この力が「58総体」や「全国選抜大会」が県協会や大府市、豊橋市の協力のもとにスムーズかつスリムに実施できた要因であると思われる。

なお、現在、この大会は１月に実施されている。

（４）各支部予選会の実施

当初は、上記の各種大会も県大会として行っていたが、参加校の増加などにより、51年度からは県を三つの地区に分け、支部予選会を実施した。三つの地区とは、名古屋北・尾張地区、名古屋南・知多地区、西三河・東三河地区の３地区である。それぞれ、各地区から団体戦は４校、個人戦は単・複ともにベスト16が県大会に出場した。

その後、名古屋北・尾張地区が、名古屋北地区、尾張地区に分かれ、現在は４地区で予選会を実施し、県大会には団体戦は各地区最高４校、単・複はそれぞれベスト16が出場している。

なお、学年別大会のみは、実施開始当初のまま、県一本の大会である。

愛知県中小学校体育連盟バドミントン部

1．40年代

42年度中学校専門部が発足し、初代の部長に東海中学校の伊沢忠男先生が就任した。その年に第１回中学校大会が開催し、男子３校、女子３校が参加した。まだ団体戦だけであった。

46年度日本協会主催の第１回全国中学校選抜バドミントン大会が東京都で開催され、男子は東海中学校が女子は淑徳中学校が参加した。全国大会は都道府県別の団体戦であったが、本県は県の優勝校が出場した。

47年度名古屋市で第２回全国中学校選抜バドミントン大会を開催したが、本県のレベルはあまり高い方ではなかった。その当時強かったのは男子は東海中学校・成岩中学校、女子では成岩中学校・藤山台中学校などであった。

2．50年代

51年度からは個人戦もおこなわれるようになった。また、51年からは、秋に新人大会（個人戦のみ）も行われるようになった。

53年度第８回全国中学校選抜大会を名古屋市で開催した。

54年度から、１県１チームであった全国大会への出場がブロック制となり、東海４県で１校（優勝校）に決められた。東海大会へは県の上位２校（２人・２組）が出場したが、当初は愛知県勢は１回戦で負けることが多く、全国大会への道は遠いものであった。

55年度第10回全国中学校選抜大会（熊本市）から全国中学校体育連盟主催の正式種目となり、それにともなって都道府県対抗から学校対抗戦となり、個人戦も行われるようになった。個人戦の出場枠は団体と同じ東海４県で１人（１組）であった。

57年度愛知県中小学校体育連盟主催の正式種目となった。第１回の優勝は男子亀崎中学校、女子大府西中学校であった。その年、東海中学校体育連盟主催のオープン競技となり、出場枠は各県団体２校、個人単２人、複２組であった。東海ブロック大会において愛知淑徳中学校は団体・個人単（佐々木道子）・複（六郷由香・伊藤千恵）の全種目に優勝した。そして、第12回全国中学校選抜大会（新潟市）において団体５位、個人複３位入賞という素晴らしい成績をあげた。

58年度東海ブロック大会において大府西中学校が女子団体、個人男子複（近藤　豊・石川英彦）、女子複（日野純子・藤川あけみ）に優勝し、第13回全国中学校選抜大会（山形県新庄市）に出場した。

59年度東海ブロック大会において大府西中学校の女子団体、個人複（恵木清子・大宅朋恵）と愛知淑徳中学校の個人単（稲熊康子）が優勝し、第14回全国中学校選抜大会（大阪市）に出場した。

3．60年代

60年度今まで県大会の参加はフリーであったが、女子の参加校数の増加に対処するため、女子のみ県大会出場をかけての地区予選会を実施することになった。

女子の地区大会選出数

	東名古屋	西名古屋	東三河	西三河	東尾張		私学
					知多	愛日	
団体戦	3	3	4	4	4	4	2
個人戦	3	3	4	4	4	4	2

※個人戦は１校単２名以内、複２組以内

その年の東海ブロック大会において、大府西中学校の男子団体・女子団体、甚目寺中学校の女子個人単（岩波寛子）、愛知淑徳中学校の女子個人複（福本佳子・中村由里）が優勝し、第15

回全国中学校選抜大会（北海道登別市）に出場した。

61年度より個人戦については東海大会２位まで全国大会へ出場できるようになった。

その年の東海ブロック大会は大府西中学校女子が団体優勝し、愛知淑徳中学校の女子個人複（小林真理・桜井恭子）が２位となり、第16回全国中学校選抜大会（栃木県真岡市）に出場した。

62年度春日井市において第17回全国中学校選抜大会を開催した。

60年度準備小委員会、61年度に準備委員会を設置し、62年度に鈴木義男春日井市長を会長、事務局長を鈴木正一（柏原小学校）とする実行委員会を発足させた。

選手強化は県協会選手強化委員会が中心となって、県大会上位選手の県ジュニア強化合宿に春日井市の開催地候補選手も参加して行われた。また、春日井市においては、市独自で開催地候補選手の強化練習会・強化合宿を大会会場を中心に行った。

全国大会へは、東海ブロック大会において大府西中学校が女子団体の優勝、個人女子複の優勝（原香織・近藤三葉）同じく２位（木下幸子・小島百合子)、男子複の優勝（日野克哉・坂野和久）により、また、春日井西部中学校の杉山まゆみが女子単で優勝し、出場権を獲得した。開催地代表については、男子は団体が県大会優勝の大府西中学校、単は同じく県大会優勝の名塚中学校の安井紳二、複は県大会２位の大府西中学校星野信人・渡辺淳に決まり、女子は春日井市に出場権が与えられ、団体は春日井西部中学校、個人単は松原中学校の山下新、複は春日井西部中学校の鈴木冬子・二見恭子となった。

会場の春日井市総合体育館では連日熱戦が繰り広げられ、本県の出場選手も活躍し、男子団体で大府西中学校が、個人男子複で大府西中学校の日野克哉・坂野和久が、そして、女子複では大府西中学校の原香織・近藤三葉がいずれも５位に見事入賞した。なお、大府西中学校の女子団体は、県大会・東海ブロック大会において５年連続優勝を達成した。

63年度東海ブロック大会において、男子では個人複で大府西中学校の花井謙吉・植田達朗が優勝、同じく間瀬竜也・坂野昌志が２位となり、また、女子では個人単で春日井西部中学校の二見恭子が優勝、愛知淑徳中学校の堀口玲奈が２位に、複で半田中学校の渡辺尚巳・賢生恵美子が２位となり、第18回全国中学校選抜大会（岩手県盛岡市）に出場した。

４．平成年代

元年度本県のバドミントン部のある学校は、男子29校、女子61校であった。この年の県大会から、個人戦は１校単２名以内、複２組以内から１校単４名以内、複４名以内と改められた。

この年の東海ブロック大会において男子では個人単で当知中学校の平松孝浩が優勝、複でも大府西中学校の井嶋寛興・渡辺進二が優勝した他、個人の単で春日井西部中学校の二見恭子が優勝、愛知淑徳中学校の堀川倫子が２位に、複で松原中学校の井上久美・中園文江が優勝、大府西中学校の間瀬亜希子・佐藤陽子が２位となり、第19回全国中学校選抜大会（山口県山口市）に出場した。そして、男子単で当知中学校の平松孝浩、男子複で大府西中学校の井嶋寛興・渡辺進二がいずれも５位に入賞した。

２年度より男子も県大会出場をかけての地区予選会を実施することになった。地区ごとの選出数は女子と同数であった。また、東海ブロックからの全国大会への団体出場枠が１校から２校となった。

この年の東海ブロック大会においては守山北中学校が男子団体で優勝し、個人では女子単で松原中学校の中出綾子が優勝、武豊中学校の森田紫帆里が２位となり、第20回全国中学校選抜大会（香川県坂出市）に出場した。

３年度東海ブロック大会において大府中学校が男子団体２位に、個人では男子単で同じく大府中学校の杉戸聡之が優勝、大府西中学校の竹内淳次・二反田貴幸が２位となり、第21回全国中学校選抜大会（熊本県熊本市）に出場した。

４年度東海ブロック大会において団体では男

子で大府西中学校が２位になり、女子では大府西中学校が２位になった。個人では、男子は単で藤山台中学校の三吉良平が２位、複で大府西中学校の愛甲貴・・榊原啓介が２位、女子は単で半田中学校の下川淳子が優勝、大府北中学校の山本綾香が２位となり、第22回全国中学校選抜大会（富山県高岡市）に出場した。

５年度各県の東海ブロック大会への個人戦の出場数は単が２人から４人に、複が２組から４組に変更となった。

この年の東海ブロック大会において男子では個人複で阿久比中学校の関俊博・関弘志が２位、女子では春日井中部中学校が団体２位に、個人複でも同じく春日井中部中学校の武田祐佳・岡部亜衣が２位となり、第23回全国中学校選抜大会（滋賀県大津市）に出場した。

６年度全国大会への東海ブロックの個人単の出場枠が、２名から３名となった。

この年の東海ブロック大会において個人男子単で大府中学校の久野元嗣が３位、女子単で春日井中部中学校の岡部亜衣が２位となり、第24回全国中学校選抜大会（北海道旭川市）に出場した。

７年度東海ブロック大会において個人男子単で石尾台中学校の稲垣翔悟が優勝、女子で大府北中学校が団体２位に、個人単で同じく大府北中学校の柿田鮎美が優勝し、第25回全国中学校選抜大会（神奈川県川崎市）に出場した。

８年度大府市において第26回全国中学校大会を開催した。

５年度に準備委員会、６年度に福島務大府市長を会長とする実行委員会を発足させた。委員長には沢田保彦（大府中学校長）、事務局長には６・７年度清水光夫（石ケ瀬小学校教頭）、８年度飯村順一（大府中学校）が就任した。

全国大会へは東海ブロック大会を勝ち抜いた代表と開催地代表が出場した。東海ブロックでは男子単３位の稲垣翔悟（石尾台中学校）、女子の個人戦単優勝の本田正恵（大府北中学校）が代表になった。開催地代表は「県大会上位の学校・個人とする」という県の運動部会の決定に従い、男子は団体優勝の大府中学校、個人単は２位の山田敏彦（石尾台中学校）、第３位の柿田和広（大府北中学校）、複は優勝の山口寿希郎・早川悟（大府中学校）、女子は団体優勝の大府北中学校、個人単は２位の川戸和子（大府北中学校）、３位の池田真弓（大府北中学校）、複は優勝の野田智津子・武部奈穂子（大府西中学校）となった。

会場となった大府市民体育館では連日熱戦が繰り広げられた。本県の出場選手の結果は男子単で稲垣翔悟（石尾台中学校）が準優勝、男子複で山口寿希郎・早川悟（大府中学校）が５位に入賞し、地元開催の大会を最終日まで盛り上げるとともに、これまでの最高の成績を挙げることができた。

９年度東海ブロック大会において個人の男子単で大府中学校の山口寿希郎が優勝、また、女子単で大府北中学校の川戸和子が３位となり、第27回全国中学校大会（愛媛県新居浜市）に出場した。



8年度第26回大会開会式



健闘する早川・山口組（大府中）

5．全国大会出場校一覧

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	
愛知	大府北	中													○			○	○	○	4
	石尾台	中																○	○		2
	中部	中														○	○				2
	大府西	中				○	○	○	○	○	○	○		○	○				○		10
	愛知淑徳	中			○		○	○	○		○	○									6
	西部	中								○	○	○									3
	甚目寺	中						○													1
	半田	中									○				○						2
	松原	中										○	○								2
	武豊	中											○								1
	当知	中										○									1
	阿久比	中									○					○					2
	守山北	中											○								1
	大府	中												○			○		○	○	4
	藤山台	中													○						1

愛知県小学生バドミントン連盟

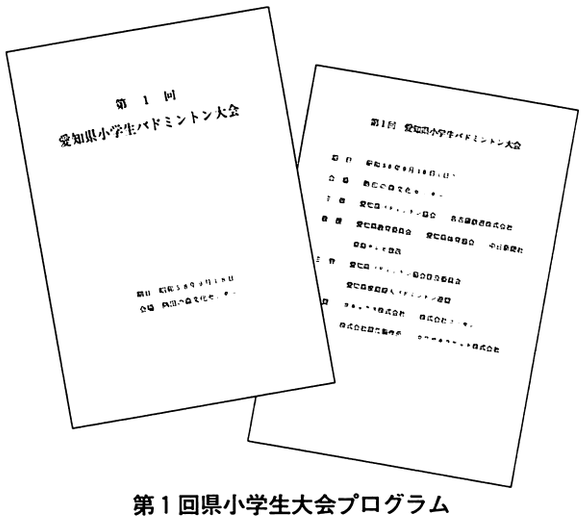
1．連盟設立まで

県協会では、35年頃から各地の市町村教育委員会、体育協会と協力してバドミントン講習会や指導者養成講習会、バドミントン教室を積極的に開催し、普及、発展に努めてきた。このような中で、東京オリンピックの結果の反省から、生涯スポーツと児童生徒の健全育成に向けてスポーツの生活化が提唱され、スポーツ少年団の結成と育成が叫ばれるようになった。県協会では、社会的な要望に答え「スポーツ少年団の結成と育成」を45年度の事業目標に上げ、普及委員会が中心となって各地で講習会や教室を開催し、少年団結成の土壌作りに努めた。

46年、中学生６名、小学生21名で大府市に八ツ屋バドミントンスポーツ少年団が結成され、毎日曜日、大府市公民館で活動が始まった。

翌47年には、少年団の体制も整い、年２回の団員大会の他に「大府市山口杯バドミントン大会」「大府市長杯バドミントン大会」の中に小学生の部が設置され、児童生徒の活動の場が広がった。また、長年の中学校バドミントンクラブ設立運動が実り、市内２中学校にクラブが設立され、４月から活動が始まり、少年団に大きな励みとなり、生涯スポーツへの道筋が整えられた。

大府市のバドミントン少年団誕生後も岡崎市で「児童の為の楽しいバドミントン教室」「稲沢市スポーツ少年団バドミントン講習会」「東郷町バドミントン教室」「小牧市バドミントン指導者講習会」と各地で地道な普及活動を続け、市町村の指導の下で幾つかのスポーツ少年団が誕生した。しかし、少年団の目標や理念によってバドミントンだけを活動主体に取り入れている団は数は少なかった。このような中で58年８月名鉄熱田の森文化センターにおいて記念すべき第１回県小学生バドミントン大会を男子12名、女子95名の参加を得て開催した。また、この年に春日井市や大府市で市内小学生大会が開催され、県協会を通して日本協会の賞状、賞碑が贈られた



第１回県小学生大会プログラム

60年には小牧市で、62年には西尾市や渥美郡田原町でも開催されている。元年に行われた小学生団体（スポ少、教室、ファミリー）の調査では、25団体1,936名（除、名古屋市）の児童がバドミントンに親しんでおり、その他に学校単位で大会に参加する児童もあり、多くの児童がバドミントンを楽しんでいることになる。

元年、東海４県の理事長会で東海小学生大会の開催が決まり、第１回大会が本県で開かれることになった。参加資格は、県大会各種目３位以上の入賞者に与えるようにした。これによって児童や指導者の大会に臨む態度にも変化が現れ、意欲的になった。また、全国では京都府長岡京市で若葉カップ全国小学生大会（団体戦）や東日本、西日本小学生大会等、全国を対象とした大会が開催されるようになり、参加者も年々多くなってきた。このような全国的な動きの中で、７年度の第７回東海小学生大会の入賞者から全国小学生選手権大会への出場権を与える形式になった。このように地区大会が全国大会の予選会的要素を帯びる傾向が現れるとともに、小学生団体の組織化が全国的に進められるようになり、東海地区では岐阜県が元年に、三重県が後を追って小学生連盟が結成された。本県では、５年から上原県副理事長（現、県理事長）を中心に普及委員会の小学生担当委員が県

内小学生団体の実態や要望、東海地区や全国の小学生団体の動向や組織・活動を調査すると同時に全国大会へ参加するなど、全国的な動きに同調する準備を進めた。

2．県小学生連盟の発足

７年度に入り、これまでの県小学生大会の参加選手や団体の増加状況や組織化要請等を基に検討の結果、連盟設立を決め、指導・普及委員会小学生担当委員で設立委員会を組織して準備に入った。準備委員会では、連盟設立の趣旨や目的について話し合い、委員全員が発起人となり趣意書を作成し、11月に開催した小学生団体戦で配布すると同時に県内小学生団体へも郵送し連盟参加を呼び掛けた。



設　立　総　会（8年3月3日）

８年３月３日、大府市民体育館視聴覚室において県協会副会長、正副理事長、県協会加盟団体の理事長を来賓に迎え、17団体の加盟を得て設立総会を開催した。総会では、発起人代表が設立の趣旨と総会までの経過を報告し、規約を提案した。審議の結果全会一致で設立が承認された。続いて役員、８年度事業計画案、同予算案等も承認され、愛知県小学生バドミントン連盟が誕生した。初代理事長は発起人代表であった鈴木正一氏が理事の推薦により就任した。会長は十分な根回しと依頼ができていなかったので当分空席とした。

総会後、直ちに県協会へ加盟申請を行った。県協会では理事会の審議をへて23日に開催した総会で承認を得て、小学生連盟は県協会の一員として活動を始めた。

3．設立後の活動

８年度の活動は基本的にはこれまでの事業を引き継いで行う事とした。大会としては第14回県小学生大会（個人戦）、第２回県小学生大会（団体戦）を開催した。また、選手強化は第８回東海小学生大会、第５回全国小学生選手権大会、第１回全国小学生都道府県対抗団体戦へ向け指導委員会の協力を得て行い、東海小学生大会では単複13に入賞し、全国小学生大会では５年男子単で５位に入賞、６年男子複でベスト16位に入る成果を挙げることができた。その他に、若葉カップへ大府ジュニアが男女とも参加した。



賞　状

第五回　全国小学生
バドミントン選手権大会

５年生　男子　シングルス
愛知県
第五位　田中陽一
栄誉をたたえます

平成７年12月27日

日本ジュニアバドミントン連盟
会長　五十棲辰男

第5回全国小学生大会入賞・田中陽一選手の賞状

９年度は、前年の事業に加えて、新たに選手の発掘と技術交流を狙いとして新人戦を開始した。さらに東海連盟主催の第９回東海小学生大会と本年度から開始の第１回東海小学生大会団体戦を主管開催した。

第９回東海小学生大会個人戦では、10の単複に入賞したが、特に６年生男子単では１、２、３位を独占する快挙をなしとげた。

１月に開催した東海小学生団体戦は、第１回の大会であったが男子16、女子29チームが参加する盛大な大会となり、本県からは、男子３、女子８チームが参加した。大会は４チームによる予選リーグの後、決勝トーナメントで雌雄を決した。男子では、決勝トーナメントへ本県の３チームが進出し同士打ちの感があったが、くすの木スポーツ少年団が記念すべき第１回大会優勝の栄誉を得、石ケ瀬スポーツ少年団、名古屋スポーツ少年団が３位に入賞した。

思い出集

[思い出] 寄稿者一覧表

1．協会創立当時の様子と思い出	愛知県社会人バドミントン連盟顧問	水野啓造
2．県協会の揺籃期を回顧して	松蔭・西陵高校ＯＢ	富田　武
3．バドミントンとの出合い	トヨタ自動車ＯＢ	酒巻和男
4．バドミントンとの出逢い	名古屋クラブＯＢ	杉山寿章
5．私のバドミントン懐古録	トヨタ自動車ＯＧ	保田久子
6．バドミントン競技と共に	愛知県バドミントン協会副会長	野口　勇
7．バドミントンの想い出	松蔭高校ＯＢ	立松健市
8．懐かしき青春	瑞陵高校ＯＢ	服部興治
9．私とバドミントン	金城大ＯＧ（旧姓小粥）	水野弘子
10．人生を決定づけたバドミントンとの出合い	瑞陵高校ＯＢ	大竹健司
11．第９回北海道国体の思い出	瑞陵高校ＯＢ	豊場　建
12．全日本実業団大会で７連勝	愛知県実業団バドミントン連盟名誉会長	深津　豊
13．第４回全日本実業団と第11回兵庫国体	トヨタ自動車ＯＢ	山城智徳
14．日本選手としてはじめて全英、全米に出場	トヨタ自動車ＯＢ	小宮好雄
15．全日本実業団初優勝までの思い出	愛知県実業団バドミントン連盟副会長	多賀純一
16．バドミントン今昔	愛知大学ＯＢ	稲熊文隆
17．日韓親善競技名古屋大会に参加して	愛知県社会人バドミントン連盟理事長	清水善勝
18．トマス杯、世界招待戦に参加して	トヨタ自動車ＯＢ	板垣善憲
19．シャトル、陸鳥球から水鳥球へ	愛知県バドミントン協会副会長	伊藤鑛一
20．半世紀の道のり	愛知県バドミントン協会副会長	青山敏郎
21．トマス杯出場と国体５年連続優勝	トヨタ自動車ＯＢ	安沢武司
22．体育館確保の思い出	愛知県バドミントン協会副会長	伊藤鑛一
23．第19回全日本実業団優勝までの思い出	トヨタ自動車ＯＧ（旧姓太田）	牛島節子
24．第19回全日本実業団女子準優勝	豊田織機ＯＧ　（旧姓大橋）岩切美知子、（旧姓辻田）	武田京子
25．後藤鉀二会長を偲んで	愛知県バドミントン協会副会長	渡辺成雄
26．選手、監督、そして指導者として	愛知県バドミントン協会選手強化委員長	松島　保
27．日中大会の思い出	愛知県バドミントン協会副会長	伊藤鑛一
28．第27回鹿児島国体の思い出	トヨタ自動車ＯＧ（旧姓池田）	中野静江
29．沖縄本土復帰特別国体の思い出	愛知県バドミントン協会副会長	伊藤鑛一
30．地域の指導者・父（故中村高久）の思い出	大府市教員	中村浩二
31．県中学校連盟の設立	東海中学校教諭	伊澤忠男
32．ヨーロッパ遠征に参加して	淑徳高校ＯＧ（旧姓近藤）	鈴木晃代
33．「エンジョイ・アンパイア」	愛知県バドミントン協会副理事長	山田順一郎
34．わかしゃち国体の思い出	愛知県バドミントン協会副理事長	油井秀男

協会創立当時の様子と思い出

愛知県社会人バドミントン連盟顧問　水野啓造

戦後、昭和22年の名古屋は現在では想像できない荒廃した町から、少し復興のきざしが見えて来た時代であった。その年、学校を卒業した私はこの混乱の中に近い将来かならず成長、発展、普及するであろう「スポーツ」を希望して東海スポーツへ入社した。

当時はスポーツ用の皮革製品、ゴム製品（グローブ、ボール）等は配給制度で学校等へ配布する会社としてのスタートであった。当時の青井会長、瀬尾社長は教員、体育行政に多年たずさわってこられた方々で戦後、昭和21年に転身して健全な体力、青少年育成をめざし「スポーツを通じて社会に貢献する」との方針で会社を創立した。

特に、新しいスポーツの競技育成も取り入れ普及したいと考えていた。その頃「西洋の羽根つき」か「子供の遊び」と思われたバドミントンが東海スポーツへ入って来た。この時期のことは記憶がうすれているが、市、県、日本バドミントン協会と話が進み、千種の車道近くの高校の講堂を借用して第１回の普及講習会を開催し、競技方法、ルールの説明を聞くことができた。当日の指導者として東京からきて頂いたのは宮沢さん、岡さんで、そのスマッシュの華麗なフォームは私がバドミントンの魅力にとりつかれた最初であった。



バドミントン協会草創期のメンバー（後列中央）

長谷川参三先生、水谷国広氏とは講習会の前から交流が始まっていたと思うが、ともかく愛知県バドミントン協会の設立がなにより急との考えで、昭和23年２月に完成まもない東海スポーツ（当時鉄砲町、現・栄３丁目）２階で青井節郎会長を迎え、長谷川先生、水谷氏、当社の会長、社長、そして県、市からも出席頂き、待望の協会を設立することが出来た。

当時、体育館で戦災をまぬがれたものは、かぞえる程しか各地になく、またあってもバドミントンに使用することが難しい状況であった。屋外では風があって満足にできない競技であり、長谷川先生在職の中村小学校の講堂をお借りできたのは本当に幸運であり、校長先生、長谷川先生に感謝しなければならないと思っている。



県協会創立40周年記念レセプションにて（62年度、右端）

日曜日には朝から夕方までバドミントン競技のルール講習、競技のレベルアップのための練習に励み、早速協会設立大会を準備し、３月に開催することができた。当時の大会は50名か60名の参加であったが、早朝から準備のため「チョーク」でのライン引き、ネットはり、競技の進行、審判、そして選手としてプレーに励み、終了すると長谷川先生の号令で掃除、雑巾掛けも行った。皆さんと楠橋から市電に乗り帰宅し

たことなど実になつかしい思い出である。

その時代、バドミントンに情熱をもやし努力した当時高校生のメンバーが、現在協会の要職で活躍されている渡辺成雄、野口勇、青山敏郎、伊藤鑛一の諸兄である。

しかし、練習するにも、シャトルコックの消耗がはげしく費用の捻出に大変な時代であった。

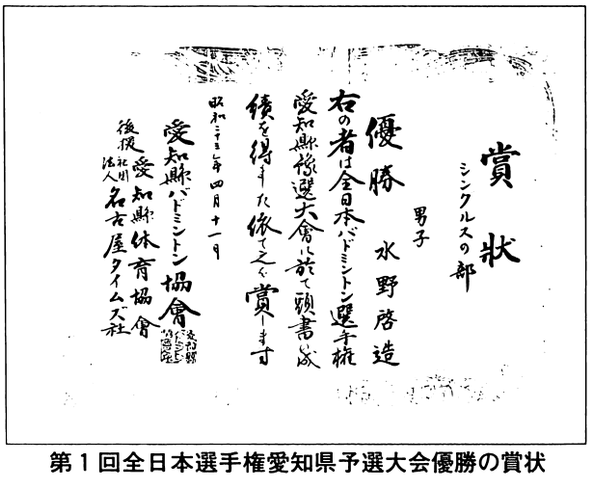
マルエムの水谷国広氏、No. 1 シャトルの都筑金助氏には大変協力を頂いた。

その頃、酒巻和男さん、保田久子さんと両氏が在籍するトヨタ自動車の皆さんも参加され、次第に競技としてのバドミントンの位置づけが出来た。

昭和23年 4 月以降、愛知県では選手権大会など各種大会を開催し、中部日本選手権、東京での全日本選手権にも参加するようになった。

また、国体参加のための体協加盟が急務となり長谷川先生、水谷氏、杉山敏昌氏に若輩ながら私も加わって岐阜県、三重県へ協会設立を呼び掛けたり、得意先より依頼を受け、県内を中心に各地で、ルール説明をはじめとする普及活動を行った。

バドミントンの普及を目指した、協会の創立当時の皆さんとのなつかしい思い出である。


賞状

シングルスの部

優勝 男子 水野啓造

右の者は全日本バドミントン選手権愛知県予選大会に於て頭書の成績を得ましたので之を賞します

昭和二十三年四月十一日

愛知県バドミントン協会

愛知県体育協会

後援 愛知県 名古屋タイムズ社

第 1 回全日本選手権愛知県予選大会優勝の賞状

県協会の揺籃期を回顧して

松蔭・西陵高校OB　富田　武

敗戦で日本中が打ちひしがれていた頃でした。まだ食べ物も不足していた貧しい頃に、バドミントン競技が愛知県に入ってきました。

当時私は県立中川中学（現・松蔭高校）の３年生で昭和21年の秋も深くなった頃と記憶しています。１年先輩の中野年弘さんや立松進さんがバドミントン部を設立してくれました。第２次世界大戦中は軍事教練ばかりで、スポーツなどをすることは許されなかったのですが、敗戦とともに手のひらを返すがごとく自由主義の波に乗って、それまで敵対視していた西欧の文化が怒濤のように日本へ押し寄せたのです。

野球、庭球、蹴球（サッカー）などとともにバドミントンが入ってきたのです。何しろまだお腹がペコペコでしたので、運動部で活躍できる生徒は経済的に恵まれた人だけでした。運動器具を買うことができ、競技会に参加できる人は極めて限られていました。



当時の松蔭高校バドミントン部

正直に告白しますが、私の父は外科病院の院長をしていましたので経済的にはいくらか余裕がありました。しかし、私の生年月日は３月31日でしたので体力的に同級生にかないませんでした。野球部や蹴球部に入っても選手に選ばれる可能性はないのです。そこで私はバドミントン部を選んだのです。ところが、これが私の誤算であったことは、バドミントンをやった人にはすぐに理解していただけることと思います。

当時、男がバドミントンをやっていると、「女の羽根つき」とからかわれました。ひどい場合には、バカミントンと侮辱されました。しかし、実際にバドミントンをやってみますと、これほど過酷で知能的なスポーツはほかにありません。何しろノーバウンドでシャトルコックを受けて返球しなければなりません。バレーボールのように大勢がコート内にいるわけではなく、前後左右に走り回らねばなりません。ボクシングなら３分に一度は鐘が鳴り、１分の休憩がありますが、バドミントンでは競技が続いている間は休むことができません。強烈なスマッシュが来たかと思うと、つぎにはネット際にポトリとシャトルを落とされたりします。私が心臓肥大でわずか19歳で引退したことも理解していただけるかと思います。

中村小学校の長谷川参三先生、水谷国広氏、杉山敏昌さんなどとともに、手探りで愛知県のバドミントンの揺籃期を過ごしました。当時は練習する体育館はほとんどありませんでした。最初は焼け残った中村小学校の講堂を使用させていただきましたが、その後は三菱重工の岩塚工場のご好意で工場の資材倉庫を県バドミントン協会の専属の練習場として開放してくださることになりました。三菱重工の部員とともに、練習や競技に励むことができるようになりました。

やがて、トヨタ自動車にもバドミントン部ができて、酒巻和男氏らが加わり、青井節郎氏を会長に戴く愛知県バドミントン協会が、昭和23年２月11日に結成されたのです。

半世紀振りに野口勇氏より電話があり、バド

ミントン協会50年史の原稿執筆の依頼に従い、古い記録と朧げな記憶を頼りにして、懐かしさに浸りながら記述させていただきます。

1）第1回県新人大会

昭和23年8月1日　於中村小学校

・県協会の最初の公式大会とも言えるでしょう。



愛知県新人大会、優勝（右側）

2）第2回全日本選手権大会

昭和24年2月6日　於横浜ＹＭＣＡ

・松蔭高生徒会の決議により、全生徒より一人20円の寄付により浄財総額15,000円で、富田、森、川瀬、駒田の4名が初めて全国大会に出場、ジュニアダブルスで、富田・森組が準優勝した。

3）第1回東海選手権大会

昭和24年5月8日　於三菱金属

・社会人と高校生の区別もないころであった。高校生は受験勉強などしないで体育に励むことができた良き時代であった。水谷さんが三菱金属のコーチとなり、選手の育成に努められたおかげで、女子選手の活躍が盛んになってきた。

4）県体育協会加盟記念大会

昭和24年6月26日　於三菱名機岩塚

・高校の学区制が変わり、男女共学となった。富田と駒田は西陵高校へ移った。新旧選手の実力が伯仲してきた。

5）第4回国民体育大会県予選会

昭和24年9月18日　於三菱名機岩塚

・バドミントンが初めて国体のオープン競技に参加できることになった。第5回愛知国体から正式種目となることが決まっていたので、熱い戦いとなった。





第4回国体に使用された電車優待乗車証

6）第1回県高等学校選手権大会

昭和24年11月6日　於三菱名機岩塚



第1回県高校選手権大会（24年度、左側）

・県では初めて高校の選手権大会が行われた記念すべき大会。

それでは、現役の皆様のご健闘をお祈りして拙文を終わります。

バドミントンとの出合い

トヨタ自動車OB　酒巻和男

私が、アメリカ駐在中に「日本の羽根つき」らしきものを見たのが、昭和19年頃。広い庭で軟式庭球のすこし小さめのラケットに細いガットが張ってあり、羽根は鳥の羽根が付いていた（シャトルコック）。13.4m、6.1mの長四角のコートに高さ1.5mのネットが張られ「バッシ・バッシ」と打ち合ってゲームを楽しんでいた。私も面白そうなので仲間に入れてもらいゲームを楽しんだ。これが「バドミントン」か。

終戦で帰国、トヨタ自動車に入社して、当時バドミントン部をつくりたいと計画中の市川千代子、保田久子の２人より「アメリカで経験があるならば」と誘いを受けて、卓球部の貝本氏を誘い４人のメンバーで厚生課の了解を得て発足した。私が初代監督となった。

当時のラケットは現在と比べると雲泥の差で、まるで材木そのままのようであった。練習場所も体育館もなく、終業後、社内の工場で道具等を片づけてコートの広さを取り、白墨でラインを引いて、柱と柱にネットを張り、当初は４人で毎晩、毎晩練習した。

そのうちに社内講習会を開くことになり、興味のある人、卓球、テニス等他部よりの参加者があって、なかなか盛大な会になった。そして、部員も２人、３人と増えてきた。



トヨタ自動車工業・バドミントン部、親睦旅行にて
（29年度、中央）

これが、トヨタ自動車バドミントン部創立であった。

その頃、名古屋市でも、バドミントンの普及活動が行われ、長谷川参三氏、水谷国広氏が主体で、社会人、高校生を集めて積極的に普及された。結果、昭和23年２月に、県バドミントン協会が設立されました。トヨタ自動車も協会に入会し、名古屋市の選手たちとの交流も多くなり、練習も名古屋の中村小学校、八田の三菱へ出かけました。

そして、社外試合に出るようになった。特に、保田久子・伊与田照子選手は一段とすばらしい活躍をいたしました。



第４回国体オープン戦選手団
（後列右端）

バドミントンとの出逢い

名古屋クラブOB　杉山寿章

戦時中、三井物産蘭貢支店に勤務していた頃に硬式テニスの手ほどきを受け、終戦で引き上げ横浜支店に転勤しましたが、当時は、テニスをしたくても殆どコートは進駐軍に接収されて練習する場所もなく無聊をかこっていた時に連れられて行った、横浜YMCAで初めてバドミントンと出逢いました。当時のYMCAには、慶応大学バドミントン部の広田、藤井君等大勢の部員が練習に来ており、その素早い動きとテクニックにすっかり魅了されました。幸いそこで指導を受ける様になりました。

昭和22年物産の解散で、名古屋に戻った後もバドミントンが忘れられず、続けたいと思い市の体育協会へ電話して、中村小学校内に協会があることを教えられて、同校を訪ね長谷川先生を紹介され、その足で設立間もない協会に加入させて頂いた様に記憶しています。

他にも同好の士が何人かおられて、中日本重工岩塚工場の体育館で同社のチームの方々と一緒に練習をさせて頂きました。

戦後50年を経過、当時の記憶も薄らぎましたが土曜日になるのが待ち遠しくて毎週いそいそとラケットを持って出かけた覚えがあります。床がコンクリートのため運動靴にすぐ穴があいてその補修には随分と苦労をしました。当初若干のざらつきがあったコンクリートの床も間もなくつるつるになり、滑り易くなってひっくり返ったりした事を思い出します。

その頃、トヨタ自動車では別行動で酒巻氏が中心になり練習が行われていた様です。

暫くして、進駐軍のCICにいたインドネシア２世の小口君と出逢い、毎週土曜日になるとジープで迎えに来てくれて、同乗して体育館に通ったものですが、同君と何時、どこでどうして知己になったかは記憶にありませんが、彼に依頼してアメリカのバドミントンの解説書を取り寄せてもらい、辞書と首っぴきで翻訳し、練習の手助けにしたり、又、彼とダブルスを組んで県大会に優勝したことがあったかと思います。

これは、記憶は定かではありませんが、第１回か、第２回の県大会でシングルに優勝、東海スポーツの水野さんと組んでダブルスにも優勝したことがあったかと思います。



県大会シングルス優勝当時

また、昭和24年第４回の国民体育大会が東京で開催され、バドミントンのエキシビション出場が認められたので長谷川、水谷、水野さんやトヨタ自動車の方々と共に県代表として参加しましたが成績は忘れました。

これより前、山梨県のチームが遠征して来て初めて県外試合を行い、その後に返礼と第１回の中部地区大会を兼ねてだった様に思いますが甲府に遠征し、１回戦で山梨チームに惨敗した記憶もあります。当時の我々のレベルは日が浅いこともあって未だ低く、西陵、松蔭、瑞陵などの高校生チームが擡頭してきてから大いに向上し最盛期を迎えたかと思います。

昭和29年、結婚を機にバドミントンは止めましたが、その後に黄金時代が到来したやに聞き及んでいます。

協会役員の皆様の日夜に亘るご苦労、ご努力に思いを馳せ、深甚の敬意を表すと共に、協会の益々のご発展とご盛栄を祈念致しております。

私のバドミントン懐古録

トヨタ自動車OG　保田久子

思いおこせば50数年も前のことです。

トヨタに入社して張り切っていた頃に社内の軟式テニス大会に市川さんとダブルスを組んで出場し優勝をしてしまいました。それから間もなく会社の厚生課体育係より「こんな競技の講習会が岡崎であるから２人で行ってみないか」との話がありました。出掛けて行きましたらこれがバドミントンと言う競技で私とバドミントンの出会いでした。

早速会社に道具を買ってくれとお願いして、コートの無いまま昼休みに屋外で市川さんと打ち合ってみましたが、風で羽根が飛んでしまいすこしも面白くなかったので、どこか屋内でと場所探しを始めました。

ちょうどその頃、人事課にアメリカで経験された酒巻さんが入社されましたのでお誘いしまして、他に卓球部にいた貝本さんも誘い込んで終業時間後に工場の片隅で道具を片づけて白墨でラインを引き、柱と柱にネットを張って天井の梁にぶつけながら練習を続けました。

そのうちに同好会的部も出来、参加人数も増えて参りました。何しろ終業後のことですからお腹も空いておりますので、サツマイモを昼間のうちに鋳物工場の炉の中に入れ焼きイモを作って練習に持って来てくれる部員がおり、皆で美味しく食べながら練習をしたものです。

昭和23年２月には県協会も設立され、トヨタ自動車も加入して社外試合にも参加する様になりました。昭和24年２月、横浜YMCAで全日本選手権大会が開催され、会社より出場させてもらい、酒巻、貝本、市川、保田の４人で参加しました。



競技を始めた頃の練習風景（23年度）

始めて１年にもならないのに全日本大会に出るなんて本当に盲蛇に怖じずでしたが、幸運にもシングルスで接戦の末３位に入賞出来ました。ランキング３位になりましたら、アジア大会の選抜選手の強化練習に参加する様、日本バドミントン協会より連絡があり、会社も許可をくれましたが、アジア大会の競技種目に承認されず立ち消えになりました。

昭和24年、第４回国体が東京にて開催されましたが、初めてバドミントンがオープン参加になりました。残念ですが予選で三菱勢に負けてトヨタは参加出来ませんでした。

昭和25年はトヨタの人員整理が行われ、試合どころではありませんでしたが、会社の好意で石川県の全日本選手権に参加させてもらいました。又、第５回国体が名古屋市でその年の秋に行われ出場することが出来ました。そして、その第１試合に故秩父宮妃殿下のご臨席で御前試合をしました。成績は、接戦の末2-1で準優勝でした。会社の人員整理で試合が終わって帰ったら席が無くなっているかも知れないと心配しましたが、どうやら無事首がつながっておりました。

昭和26年は、全日本選手権が東京で行われ、伊与田照子さんと組みダブルスで２位になりました。この大会でシングルス・ダブルスに優勝した神奈川の遠藤文子さんは23年に初参加の試合で３位決定戦をした相手でしたが、それ以来口もきかない、挨拶もしない間柄でした。しかし、この大会以来親しくなり、トヨタへ勤めたいとのことでトヨタの東京事務所にお世話しま

した。そして、今でも私が上京すると彼女の鎌倉のお宅にとめていただいたりして交流が続いております。この年の第６回国体は広島でしたが、漸く念願の優勝を手にすることが出来ました。そして、皇后杯の１位に愛知県がなることが出来、閉会式では皇后杯を高松宮様より代表として頂きました。

昭和27年度全日本選手権は、奈良の天理市で行われました。今回は、中日本重工の堀江さんと組んでダブルスに優勝しました。第７回国体のバドミントンは仙台で行われ、３位になりました。この年初めて全日本実業団が東京で行われ優勝することが出来ました。





第１回全日本実業団、優勝（27年度）

昭和28年度の全日本選手権は新潟市で開催され、ダブルスで伊与田さんと組んで２位でした。第８回国体は四国・善通寺で行われ、準々決勝で福島に敗れました。第２回実業団には前年に続き2連勝することが出来ました。

昭和29年度は、第３回全日本実業団が長崎市で行われ、日本コロンビアを相手に接戦の末、２－１で優勝。１回から3回まで連勝することが出来たのはパートナーの伊与田さんの援助大であると感謝しています。

そして、第９回国体は北海道札幌市で行われました。当時のトヨタは、増産体制に入ったところで監督に決まっていた小池さんを国体派遣するのは駄目だと言われ、伊与田さんと堀江さんの３人で監督なしのお互いが監督兼コーチ兼マネージャー兼キャプテンの気持ちで出掛けました。

宿舎のホテルの社長さんの家族が大変良い人で食事時間には奥様が選手の食べっぷりを後ろに立って眺めているので残すことが出来ず、困ってしまいました。そのおかげで、漸く3位に入ることが出来、その日の夕食はホテルでお赤飯でした。実を言うと私はお赤飯が嫌いなので困りましたが、今となれば楽しい思い出ばかりです。

この第9回国体を最後に、私は部を引退することを会社に申し出ました。

そして、バドミントンをしたおかげで大勢の人と出会い、本部の役員さん達に可愛がられ、全国の当時の選手の方々と今でも親しくお付き合いを出来ることは宝と思っています。

そして私は末っ子ですが、バドミントンをしたことで自立する力をつけることが出来ました。

以上、愛知県バドミントン協会50年誌発刊を祝し、私の拙い懐古録でございます。

パートナー　　伊与田 照子　談

バドミントンは、青春時代のよい思い出です。

トヨタ自動車に勤務しながらの練習や、大会への参加でしたが、後々の暮らしの中でも少しくらいのことではへこたれない精神が培われたと思っています。よい仲間に恵まれ、当時は競技人口が少なかったとはいえ、東海大会でも、中部日本大会でも勝つことが当たり前のようでしたね。全日本実業団大会３連勝がやはり一番の思い出です。

バドミントン競技と共に

愛知県バドミントン協会副会長　野口　勇

愛知県バドミントン協会50年の歴史は私がバドミントン競技にかかわった半世紀でもあります。全日本選手権、国民体育大会、中部日本選手権、東海選手権等に、こりもせず何回も挑戦し続けた時代から、県協会関係者として、現在に至るまでの50年でもあります。

今この50年を振り返ってみますと、やはり一番懐かしいのは選手として競技に情熱を燃やし続けた10年間（昭和25年～34年）です。多くの人に支えられ、励まし合い、競い合いながらの日々は戦後の暗い世相の中であったにもかかわらず、我ながらよくやったと思っています。

バドミントンに情熱をかたむけ始めたのは昭和25年金沢市で開催された、第３回全日本選手権に参加して、いきなりジュニアの部で、シングルス第３位、ダブルス第２位に入賞してからでした。当時の日本バドミントン界は神奈川、東京を筆頭に北海道、富山、石川県等のレベルが高い。このとき観たトップレベルの選手が繰り広げる、力と技の素晴らしさに驚嘆すると共に、自分なりに、ヤル気が芽生えた。その頃の愛知県は一般女子だけが全国レベルに達していただけでした。

愛知県の競技力が全国レベルに近づくきっかけは、第３回の全日本選手権に初参加した瑞陵、松蔭両校のメンバー達の頑張りがあったからだと思います。

特に大竹健司（現岐阜県バドミントン協会会長）、渡辺成雄、服部興治、立松健市氏らの仲間達の急成長が後年、一般男子、高校男女の競技力が全国レベルに近づいていく大きな礎となる。みんなの頑張りが実り出したのは第５回の愛知国体で高校男子が活躍したことで県全体のレベルを刺激したと思っています。その後、第５回から第９回国体までの５年間で、愛知県勢は各種全国大会でも上位争いを常にするまでになりました。これは、愛知県の全体レベルが確実に上がったことの証しであったと思っています。私自身も充実した時代で、国体の総合優勝に２度も貢献出来ましたことは何よりの思い出となっています。

昭和25年～29年国体で活躍された人達

◎昭和25年　第５回愛知国体２種目入賞

・一般女子

２位　保田　久子、伊与田　照子
水谷　鈴子、堀江　綾子

・高校男子

２位　大竹　健司、石川　光男
渡辺　成雄、野口　勇

◎昭和26年　第６回広島国体（全種目入賞）
（愛知県１回目の総合優勝）

・一般男子

３位　藤井　光男、渡辺　成雄
蟹　和男

・一般女子

１位　堀江　綾子、保田　久子
伊与田　照子

・高校男子

１位　服部　興治、野口　勇
立松　健市

◎昭和27年　第７回宮城国体

・一般女子

３位　堀江　綾子、保田　久子
伊与田　照子

◎昭和29年　第９回北海道国体（全種目入賞）
（愛知県２回目の総合優勝）

・一般男子

２位　野口　勇、服部　興治
稲熊　貞夫

・一般女子

1位　堀江　綾子、保田　久子
　　伊与田　照子

・高校男子

1位　豊場　健、御友　広正
　　伊藤　雅昭

・高校女子

3位　大沢　節子、大室　久美子
　　大竹　泰子



(第3種郵便物認可)

前回の愛知国体で愛知チームのメンバーだった野口さん（前列右）と大竹さん（後列右）

野口さんと大竹さんが敵、味方に分かれた北海道国体でのバドミントン決勝戦。手前が愛知、奥が岐阜チーム

歓喜ふたたび

国体がつなぐ44年

敵、味方

ペアで勝ち取った心の絆



背格好も戦法も対照的だった野口さん（左）と大竹さん＝岐阜市内で

あと59日

昭和二十五年十一月一日、愛知国体バドミントン競技の決勝会場だった名古屋市中区の栄小学校講堂に、白いシャトルを追う地元高校生ペアの姿があった。一人は高く、一人は低い身長差ジャンプで補い、力強いスマッシュを決めた。だが、試合は北海道チームにストレート負け。肩を落とすペアだったが、深い心の絆（きずな）を勝ち取った。その後、たとえ敵、味方に分かれようとも……。

愛知工業高校定時制三年の野口勇（ゆう）さん＝名古屋市中川区＝と瑞陵高校三年の大竹健司（たけし）さん＝岐阜市正木＝が、愛知国体へ向けペアを組んだのは同年春。野口は昼間働いていたため、練習はほとんど夜。熱田区内の小学校などで、二人きりの〝秘密練習〟が続いた。

身長一五九㌢の野口と一七二㌢の大竹とは〝凸凹コンビ〟。身長差を生かし、次々と違った高さからスマッシュを繰り出す戦法は、「力を使い果たしていたんだろう」。ダブルスは、二セットともダブルスコアで完敗。二人はシングルでも連敗し、愛知チームは準優勝に終わった。

「おれは岐阜に行く」。大竹が、野口に切り出したのは卒業間近の二十六年三月ごろ。大竹は、岐阜市の紡績会社に就職した。当時、岐阜のバドミントン界は、愛知国体で、異色ぶりを発揮した。ノーシードで準決勝に進出し、強豪の神奈川に完勝した。

決勝相手は、無敗を誇っていた北海道チーム。一試合目のダブルスで、野口らは、思い切ってぶつかった。打ちまくる愛知ペア。だが、試合巧者の北海道ペアは、あっさりと受け流した。気が付くと、シャトルは愛知コートの上に落ちている。そんな展開だった。

「相手が強いと思い込んでいた」と野口。大竹も「しまった」と野口は言う。

同セットは、愛知のネットタッチを機に、波に乗った岐阜が取り、試合を決めた。続いてのシングルも大竹が野口を破った。ここで岐阜チームの優勝が決まった。二試合合わせ二時間半の激戦だった。

ライバル永遠に

二十九年春の全日本選手権大会には岐阜チームは一般男子で準優勝に輝く。地方大会で対戦することも多かった。結果は、勝ったり負けたり。

現在、野口は愛知県バドミントン協会副会長。大竹も今年四月、岐阜県の協会長に就任した。年に二、三度、各大会で顔を合わせるが「おれ」「お前」の間柄は変わらない。「北海道にのまれていただろう」「タッチネットは微妙だったぞ」。そこで出る話は、決まって愛知、北海道両国体での試合選びだ。

わかしゃち国体のバドミントン会場となる大府市民体育館は、そんな二人の思い出が現実と重なる場。「夢は愛知との決勝対決」（大竹）「受けて立つ。岐阜には負けない」（野口）。火花を散らす二人の気迫が、若い選手の熱気とだぶる場でもある。

（本文敬称略）

（日比野　雅彦）

29年度北海道国体の思いで（平成6年７月７日 中日新聞記事）

バドミントンの想い出

松蔭高校OB　立松健市

昭和24年、私は松蔭高校に入学、何かクラブを選ばなければならないため、遊び半分でしかも歴史の浅いバドミントン部に入部しました。室内競技なのに現在の様な体育館もなく、他の運動部の様に授業が終わってから校内で練習は出来ず、バスで20分程行った所に三菱の岩塚工場があり、その体育館を私達バドミントン部に貸していただきました。その親切を無にしないよう私自身一生懸命練習に励みました。そのお蔭で２年生の時に、全国高校選手権大会に愛知県代表として我が校が選抜され、そのメンバーの一員として神奈川県に出場出来ました。

その時の成績は、準々決勝で敗れ悔しい思いをしました。無念さを来年度に向けねばと、一生懸命猛練習を重ね、翌年は代表の権利を獲得することが出来ました。

その時の興奮した喜びは今もって忘れません。しかし乍ら、学校に報告しました処、その開催地があまりにも遠い北海道であったため、学校側から予期せぬ返事でした。理由は公立高校のため、予算的に無理だから諦める様に言われその時の無念さは忘れることが出来ません。

その後、私は第６回広島国体がありますので高校生活最後の想い出として、是非代表に入りたいと思い練習に励みお蔭で３名の枠の中に選ばれ、嬉しかったことは私の人生の良き想い出として残っています。

その時のメンバーは、野口勇氏（現・県協会副会長）、服部興治氏と私の３名で、高校男子の代表選手として選ばれました。

戦後の昭和26年でしたので、原爆の生々しい広島を目のあたりにしたとき、戦争の恐ろしさを想い出すと同時に、今こうしてスポーツが出来る平和な日本がどんなに幸せに思えたことでしょう。現地では、バラックの様な旅館に宿を取り、現在の選手には想像もつかないことと思います。それでも競技の方はみんな一生懸命に県の代表として恥じない様、勝ち進む事が出来ました。それと言うのも、野口さん、服部さんのお蔭で高校男子の部で優勝する事が出来ました。

私にとって、一生の良い想い出をつくることが出来ました。これからも、バドミントン協会の益々の発展を心からお祈りしたいと思います。



第６回広島国体にて（26年度、中央）

懐かしき青春

瑞陵高校OB　服部興治

昭和20年代、物に恵まれなかったこと、体操服、運動靴、シャトルコックも、羽根を植え替えながら練習したのが一番印象に残っております。体育館の天井も低く照明もないに等しく、借りることの出来る体育館は、当時三菱岩塚工場の床でなくコンクリートでした。それでも真っ暗になっても、ただ一心に練習、練習と瑞陵高校時代の一番充実した思い出だったと思います。

練習の苦しみも感じなかった積み重ねが、「第６回広島国体、高校男子の優勝」に繋がったのだと思います。野口勇氏、立松健市氏と私、苦戦の末、決勝進出、優勝の栄冠を得ることが出来ました。



第６回広島国体高校男子選手（右端）

私が、バドミントンをするきっかけは瑞陵高校で大竹健司先輩（現・岐阜県バドミントン協会会長）との出会いで入部し、横田をみな先生の指導の下に、ただもくもくと練習に練習を重ね、第５回愛知国体の時、ラインズマンとして競技を目前にし、「次期国体に自分も必ず選手として出場してみせる」との目標が出来たので自信に繋がり、そのお陰で広島国体へ行けたのだと思います。

トヨタ自動車の酒巻氏、女子では保田さん他大勢の部員の方々のご指導をいただき、立派な



第５回全日本選手権、少年単に優勝

体育館で練習をする機会も得て、第９回の北海道国体では、一般男子で準優勝し、総合優勝の栄に寄与しました。

昭和27年４月、立教大学に進学し、中川体育部長、県内出身のOB鈴木氏、玉越先輩の指導下で、その年の５月にタイトルを得ることが出来ました。当協会に対して実績を残すことが出来、又、名誉を受けることが出来たことは、私にとって人生の喜びであります。

私とバドミントン

金城大OG（旧姓・小粥）　水野弘子

戦後の民主主義その他による教育改革のため、学校の統合、学区制導入により、瑞陵高校に入った時初めてバドミントンに出逢いました。当時普及度も低い時代でしたが、この競技に魅せられ、それからバドミントンとの生活が始まりました。

金城学院大学に入学した私はバドミントンを続けるにはクラブを作る以外に方法はないと思い学校側に設立を願い出ましたがなかなか許可がおりず、当時体育主任で恩師でもあった中野ふみ先生の大変なご尽力のおかげで許可がおりクラブの設立になりました。

昭和27年の事です。早速、部員集めに奔走し、５人のメンバーで出発にこぎつけました。幸いにして講堂兼礼拝堂の一部をコートにして使用許可もおり、カマボコ型をしたシンボル的な講堂は天井も高く良いコートに恵まれ練習できた嬉しさはいつも忘れる事が出来ません。

当時の条件としては良い環境にあったと学校に感謝の気持ちで一杯です。

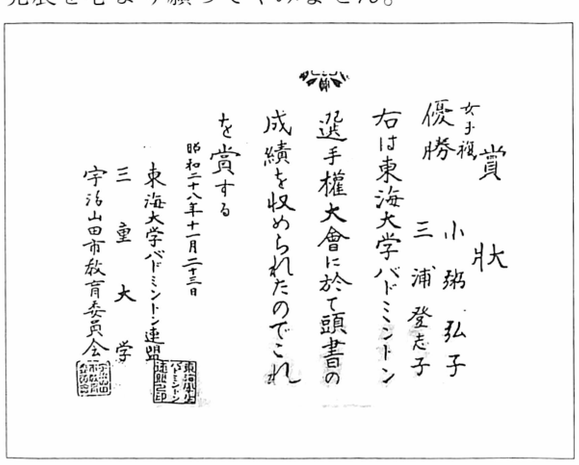


当時の仲間達と（後列右から３人目）

第1回岐阜県岐阜市、第2回三重県伊勢市にて行われた、東海大学選手権に出場し優勝出来たことは、学生時代のなつかしい想い出と誇りになっています。当時の記録、資料等は学校にも存在せず、私も伊勢湾台風の災害のためそれらしいものはなくし唯一あるのは昭和28年度の賞状だけです。

その後、第３回滋賀県、第４回愛知県と29年度からのプログラム及び「日本バドミントン新聞」等の記録は、教授になられました中野先生が現在も大切に保管されており、その熱意と努力に唯々頭の下がる思いです。

国際化されましたバドミントン協会の益々の発展を心より願ってやみません。


賞状

女子複 優勝 小粥弘子 三浦登志子

右は東海大学バドミントン選手権大會に於て頭書の成績を收められたのでこれを賞する

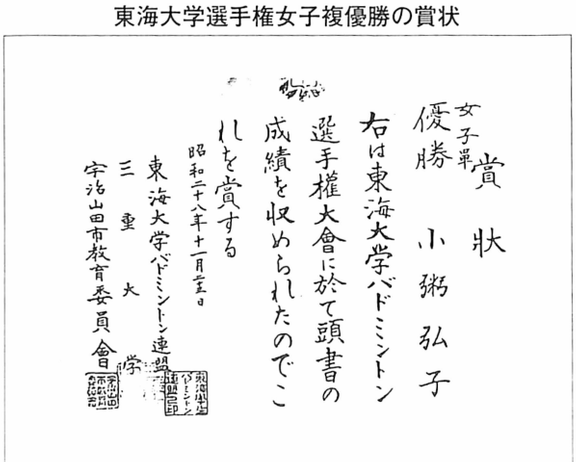
昭和二十八年十一月二十三日

東海大学バドミントン連盟

三重大学

宇治山田市教育委員会

東海大学選手権女子複優勝の賞状


賞状

女子単 優勝 小粥弘子

右は東海大学バドミントン選手権大會に於て頭書の成績を收められたのでこれを賞する

昭和二十八年十一月二十三日

東海大学バドミントン連盟

三重大学

宇治山田市教育委員會

東海大学選手権女子単優勝の賞状

人生を決定づけたバドミントンとの出会い

瑞陵高校OB　大竹健司

昭和22年４月に発足した６・３・３制を始めとし、学校統合やら学区制導入、男女共学実施等めまぐるしく動いた学制改革の嵐の中、我が青春真っ盛り瑞陵高１年の春が私とバドミントン競技との出合いであった。

小学校時代の刎頸の友、伊藤卓男君から対外試合のダブルスペアが急にいなくなったので助けてくれと懇願され、試しに打ち合ってみたらまあまあ打てる。名南女商から来た顧問横田をみな先生（現姓・岩堀、大府市柊町在住）から筋がよい、素質がある、と煽てられてその気になったのが、半世紀に亘るバドミントン界への関与になったとは…。

伊藤卓男君と組んだ最初の試合は散々なものだった。基本ルールも知らないので、負けても負けてもなかなか決着しない、その理由はサービスをしてラリーで負けても失点にならないことを知らなかったから。しかし、早々に敗れて会場の中村小学校から去るとき、何故かバドミントン競技が好きになって、猛然とやる気が沸いてきたのを今でも鮮明に記憶している。

その後は学業も放棄する位バドに熱中、続いて入部してきた畏友石川光男君も仲間に引き込んで、先達　日比野洌（きよし）君とともに練習に明け暮れの毎日、またたくうちに先輩諸公を抜いていった。

しかし、翌年金沢市で行われた全国大会に参加し、眼前で展開される全国トップレベルの選手の実力を見せつけられ、只々驚嘆、特に北海道の石田・野口組の洗練された技術と、その組を準決勝で敗って優勝した神奈川の岡・村松組の荒々しい攻撃型プレーがしっかりと自分の脳裏に刻みこまれた。

不思議なことに、帰校して即刻学校で練習し彼らの技術を真似てみると上手に自分にも出来るではないか。これが一つの契機となって、又一段と技術が飛躍したことも記憶に生々しい。

当時の愛知県高校界は先向組の松蔭高に森・川瀬、西陵高に富田と言う３先輩が群を抜いていて、私達後輩にとっては憧れの選手であった。

しかし、彼らも大学進学やらで練習量も次第に減っていく。それとは逆に、我々は愛知国体を目標にして猛練習の明け暮れ、高２の秋には完全に先輩陣を抜く技術までいったと思う。合同練習も、中村小学校から三菱重工体育館に移っていたが、そのとき彗星のごとく現れた注目の選手（野口勇、現・協会副会長）がいた。背は低く丸刈り頭で、ネットより低い打点でのプッシュは強力で、あれよあれよという間に強豪をなぎ倒し愛知県内では最強といわれるようになった。

昭和25年春の全日本ジュニア単で、大男の神奈川の松本、北海道の神山両君を向こうに一歩もゆずらず堂々３位に入賞し、愛知に野口ありと全国にその名を轟かした。彼の強烈な印象は、身の丈倍程もあるような相手に対して豪打で一歩も引けをとらず、堂々と正攻法で戦った全身バネのように鍛えられた肉体とその闘争心にあった。



北海道国体決勝後の愛知と岐阜の選手
（後列左より玉越忠治、大竹健司、松岡竜三、服部興治、前列左より、野口勇、稲熊貞夫）

そんな野口君と幸運にも共に練習できる機会が訪れてきた。愛知国体に高校代表選手として選ばれたのだ。他にも同僚のペア石川光男君、松蔭の渡辺成雄君（現・協会副会長）がいた。監督の愛知商高出身の先達杉山敏昌氏の指示によって、瑞陵ペアの大竹・石川組から、混成ペアの大竹・野口組となり猛特訓が始まった。

私と野口君は、決められた練習日程だけでは納まらず、私の母校旗屋小学校の講堂を恩師玉村文一先生に頼み込んで、夜間特別に開放してもらい、連日連夜へとへとになるまでやりまくった。勿論、杉山監督が適宜、全日本上位の選手を招いて指導してくれたが、伸び盛りというのか、恐れ知らずというのか、その当時の２人は誰とやっても負けないという自信があった様に思う。

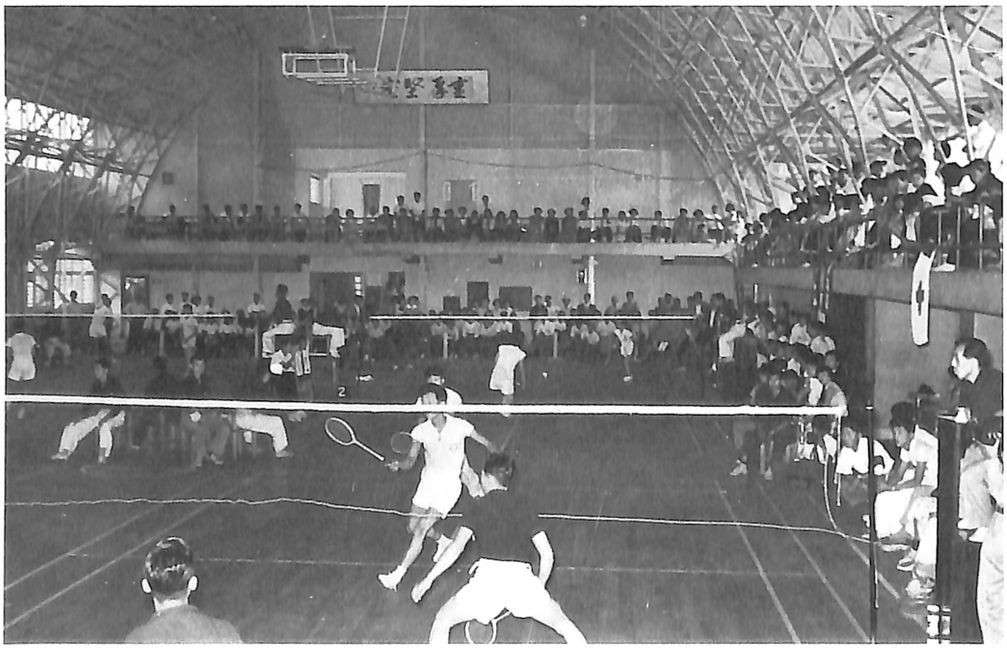
結果は決勝進出。北海道の石田・神山君に敗れはしたが、この半年間の経験は、野口君との友情を永久のものにしたのは勿論、その後の私の人生に決定的な影響を与えたものになった。私は進学より就職の道を選び、バドミントンを引っさげて隣県の岐阜へ行き、よき仲間に囲まれて自由奔放に大活躍をすることになるが、野口君はよく岐阜迄来てくれ共に練習もし、又、全日本選手権等にはダブルスを組んで出場もした。東海や中部選手権でも好敵手としてよく戦った。

圧巻は、昭和29年の北海道国体で決勝で相まみえたことであった。彼のコンビは瑞陵高の後輩、服部興治君であり、私の貫禄勝ちで優勝という第９回国体では岐阜にとって唯一の栄冠であった。

ついこの間、彼から1954年10月のＮＢＡ（日本バドミントン協会報）を送ってもらった。「第９回国民体育大会終わる愛知県総合に優勝」という見出しとともに当時の戦評が詳しく記載されており、40余年前を昨日のことのように懐かしく思い起こした。

今回、彼から愛知バドミントンの50周年記念誌発刊に際して、寄稿を依頼され、あれやこれやと考えてみたが、結局あの当時バドミントンに係わった由来や草創期の想い出の一端を記すことにした。今日の私があるのも、貴協会の一員であったればこそで、羽友伊藤卓男、石川光男両君も既に亡く、共に50年を祝えないのが残念ですが彼等も含め泰子、さゑ子、節子の妹３人と姪の美也ともども瑞陵バド部員として青春の血を燃やした思い出を残していただいたことを、心からお礼を申し上げます。

貴協会の益々のご発展を祈ります。



第９回北海道国体決勝戦（手前が愛知、奥が岐阜）

第9回北海道国体の思い出

瑞陵高校OB　豊場　建

昭和29年８月19日、午後２時、愛知県選手団を乗せた特別仕立の国体列車は、多くの人々に見送られて名古屋駅を出発しました。

終戦から10年にならんとしていたが、選手は２キロの米を持参しての出発でした。東海道線もまだ全線が電化されていない時代で途中駅で機関車を取り替えながらの旅行でした。深夜に東京を過ぎ、翌日の昼頃仙台に、夜青森に着き青函連絡船で翌21日の朝函館に、更に列車に乗り換えまばゆい朝の光の中、大沼公園あたりの大自然を眺めながら昼すぎにやっと札幌に到着、名古屋を出発してから45時間に及ぶ大行程でした。

旅館に着き持参した米を渡してひと休みしてから夕食でしたが、出てきた御飯はパサパサの北海道米の御飯でした。この御飯は最後まで同じで我々の持参した内地米はどうなったのかとあとで皆と話し合ったものです。

８月22日、晴れ渡る北海道の太陽の下、中之島陸上競技場で開会式が行われ、引き続き、伏見工業高校の体育館でバドミントン競技は開始されました。

当時、私達の課題は天井の高い体育館にていかに対応をするかでした。県下の練習場は天井が低く、全国大会ではとまどった事もありました。幸い高校女子の大室さんの努力により熱田区の白鳥小学校（第５回愛知国体会場）を１週間程借りる事が出来、大竹先輩、服部先輩などと練習にはげみました。

さて、高校男子は、御友広正、伊藤雅昭、両君とのチームワーク良く、奈良県、北海道を破り決勝で石川県に２対１で勝ち優勝する事が出来ました。

愛知県チームは、一般男子準優勝、一般女子第３位、高校男子優勝、高校女子第３位の見事な成績で総合優勝も得ました。

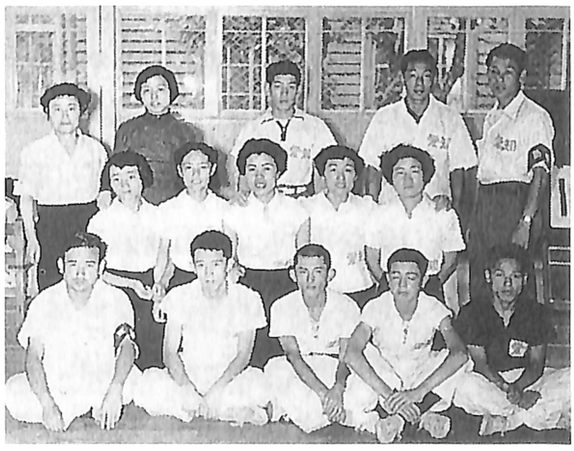
閉会式の翌日、杉浦祥治監督のいきなはからいで登別温泉に泊まる事となり、高校男女選手６名と監督２名の計８名で、札幌から登別に向かいました。途中の鉄道の線路や、それに沿った道路がどこまでも一直線に続いていたのはまさに北海道そのものでした。

登別の第一滝本ホテルの500坪以上はあったかと思われる大浴場、支笏湖、洞爺湖、昭和新山、もう一度行ってみたい所ばかりです。

名古屋へ帰って見た、優勝の新聞記事は３～４センチ程度の記事でしたが、９月に入って、映画館での中日ニュース「愛知県選手団の活躍」ではじめて自分のプレーを見たのもなつかしい思い出です。

40年以上も前の事ですが、当時、愛知は、神奈川、北海道と共にバドミントン王国と言われていました。

県バドミントン協会の益々の御発展と、選手諸君の御活躍を切望します。



第９回北海道国体で総合優勝（前列左より２人目）

全日本実業団大会で7連勝

愛知県実業団バドミントン連盟名誉会長　深津　豊

昭和22年頃に、「バドミントン」を知り、同僚の山城智徳さんと部に入れてもらい練習を始めたが、なかなか羽根に当たらない、また飛ばない、コートの奥までとどかない。「コツ」を知った！手首だ！練習また練習。

昭和28年６月に第９回県新人大会に山城と組んで複に優勝、初めての祝酒。昭和29年２月に全日本実業団大会の部内出場選手を選出する総当たりのリーグ戦に、山城と２人揃って出場しようとの合言葉で、若手部員達に負けず頑張り出場を決めた。これでバドミントンのとりこになった。

昭和30年には、東海、中部日本、全日本実業団大会等多くの県外試合に参加出来たことは自分に仕事とスポーツを両立させた「バドミントン」のお陰である、と同時に、会社、同僚の理解も忘れてはならないと思う。

昭和31年、第11回兵庫国体に県内高卒者２名を引き連れて、女子監督として初出場、男子も山城、多賀が我が社より初出場した。

第４回中部日本大会に山城と成年男子複で初優勝し、その後「全日本実業団女子３年連続優勝（酒巻監督）」の後を受け、「夢よもう一度」と県外からの選手補強に対する会社の理解を得、全国各地に出向いた。特に昭和36年頃に、全日本No.1でユーバー杯選手の高木紀子（静岡・掛川西高）選手を補強のために誘ったこともあった。週２度、１ケ月間通い続けたが残念ながら結果は「ＮＯ」であった。藤江先生にはご迷惑をかけたと思っている。

第５回全日本実業団（富山・高岡市）の準決勝で十条製紙（優勝チーム）と対戦、大雪で寒い体育館、四方八方に薪のストーブにて暖を取りながらの複の戦いで接戦中にスライディングしてポールに左足をぶつけ負傷（捻挫）、足をひきずって戦ったが残念ながら敗れ、宿へ帰り一風呂、これがいけなかった、「捻挫を冷やして」を知らなかった。足首がパンパンにふくれた。帰豊中、駅での停車中、若いメンバーが雪をかきあつめ冷やしてくれた。

昭和37年、補強のために男子選手が初めて入社。その小宮好雄選手（立教大卒）の実績が実り、毎年補強が出来た。小宮選手の人柄、仕事への意欲はすばらしい人物であったと今でも思っています。

その後は、「トヨタ自動車にバドミントン部あり」と全国に響かせ、「男子団体７連勝」の偉業を遂げた。

私のバドミントン部長兼監督生活も、会社の理解と同僚の援助、また、先輩及び部員達の努力によってささえられたお陰であると感謝いたしております。



第11回国体にて（後列左側）

第4回全日本実業団と第11回兵庫国体

トヨタ自動車OB　山城智徳

第４回大会が名古屋市にて開催されることが決まり、「打倒日産自動車」のスローガンのもと練習に励んだ。

県外試合全国大会の経験の浅い人ばかり、経験３年２名、１年３名、０年３名と高校、大学にてのバドミントンの経験もなく、会社に入ってから先輩の技術を見様見まねでおぼえた人達ばかりだが、練習あるのみと皆で頑張った。

第４回大会のドローを見ると両者が勝ち進むと、準決勝で日産自動車と対戦することになる。

その頃は、まだ今の様に車社会ではなかったがなぜか何かにつけ、日産自動車とは対抗意識があった。「自動車対自動車」の戦い、「何が何でも勝たねばならぬ」の合言葉で、日曜日も返上して練習を重ねて来た。

いよいよ、第４回全日本実業団選手権大会（昭和30年３月20～21日、名古屋市金山体育館）が始まり、熱戦の火蓋が切られた。両社とも順当に勝ち進み、とうとう男子団体戦の準決勝で両社が相まみえることになった。

結果は、「トヨタ自動車 ３：１ 日産自動車」で我が社が勝利した。

地元で勝った、それも日産に勝ったと言うことで皆抱き合って喜んだ。決勝は準決勝で気が抜けたか、０対３で日本鋼管（神奈川）に負けてしまった。

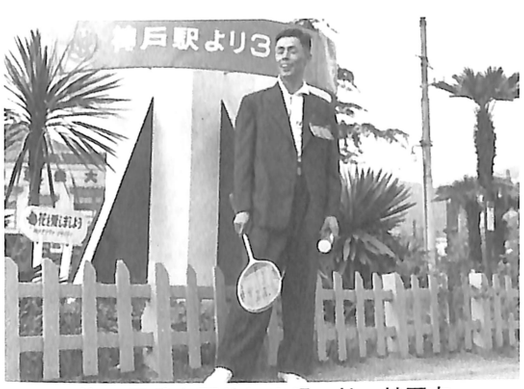
翌31年、第11回兵庫国体県予選会に出場して、４名のリーグ戦にて国体連続６回出場の県内No.1選手を敗り、出場枠３名の中に入り30歳代では初めてのバドミントン国体選手となった。「30歳代の国体バドミントン選手」と言うことで、 NHK名古屋局の人が早朝６時に来て取材放送された。

朝６時にトレーニング、電車に乗って８時までに出社、16時まで勤務、21時まで練習、電車にのって帰宅23時。寝るだけの毎日であったが、こんな生活の自分を支えてくれた家内に今でも感謝している。

県予選会の選考委員会では、国体選手の決定時にかなり討議がなされたと聞いている。

勝負の世界は厳しいもので、自分で、体力づくり技能の向上を考えながら、練習にはげみ、自分との戦いに打ち勝たねばならない。仕事にも、プレイにも全力投球し、良い結果を出し、バドミントンそして会社に応えられるのが私にとって楽しみの一つであった。

その後、全日本選手権、全日本社会人、全日本実業団とバドミントン競技に優勝、入賞が出来ました。会社の理解と併せて同僚の方々の援助があったことにお礼申し上げます。



第11回兵庫国体初出場、於　神戸市

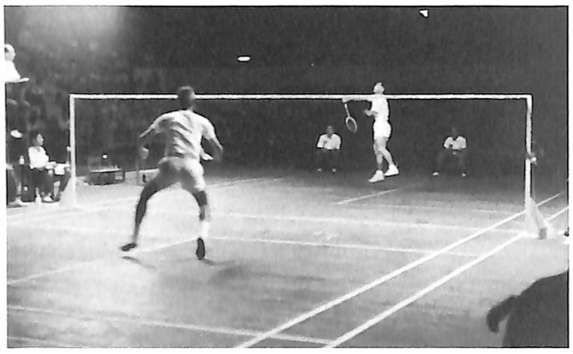

第13回富山国体、男子単出場

日本選手としてはじめて全英、全米に出場

トヨタ自動車OB　小宮好雄

昭和38年３月、ラケット５本とバックをかついで羽田を出発、前後40日をかけて全英選手権、全米選手権に出場した。成績は全英がベスト８、全米はベスト４であった。

昭和37年８月、ジャカルタで開かれた第４回アジア大会個人戦シングル３回戦でインドネシアの至宝Ｆ・ソネビル選手と対戦し、１時間30分に近い接戦の末残念ながら敗退した。



第４回アジア大会インドネシア戦（向う側）

ソネビル選手は、プレーヤーとしてだけでなく国際バドミントン連盟（Ｉ・Ｂ・Ｆ）の役員もかねており、彼の口から日本も強くなっているから、トマス杯のインターゾーンチャレンジラウンドを中立国の日本で開催したら、との提案がされたらしい。我々選手が知らないうちに昭和39年５月に日本でトマス杯を開催することが決まった。

開催国が出場できるならいざ知らず、４つのゾーン予選のいずれかに勝たねば出場出来ないわけだから、ずいぶん無茶な話である。

世界のランキングがどうなっているのか、皆目わからぬまま、アメリカゾーンなら勝てるらしいとのことで決まったようだ。敵状視察というと恰好がいいが、派遣者は小宮ひとりで、全英、全米に出場し各国の選手をさぐってこいとのご用命であった。ただし、協会に金がないから航空券は協会負担、滞在費はおまえが会社と話をつけてほしいとのこと。

試合に勝つ前にやることが増えた。協会から突然きた要請には、さすがに会社も驚いた。幸い有能な北田マネージャー（現・朝ケ丘運輸社長）が会社とかけ合い、何とか了解は得られた。

それにしてもこのことは、その後の会社生活で大変役に立った。ことを始めるには計画があり、実行するための根回しをはじめ、コンセンサスが必要であることを身をもって体験することができたからである。これは協会に感謝すべきか？　航空券、滞在費があっても不安である。予備費がない。これはオヤジに頼んだ。持ち出し外貨制限500ドルの時代で勝手に調達できず、ヤミドルを入手する以外に方法はなかった。レートは１ドル400円。すねかじりも、入社１年目ということで許してもらった。当時の初任給17,500円からすると大変な額であった。

次に困るのが、現地の事情である。相手に理解してもらえるほどの口はない、食べる口のみである。職場の先輩が記者を通じて中日新聞ロンドン支局長真野義人氏を紹介してくださり、ようやく出発にこぎつけるまでになった。かんじんの練習もままならず、不安だらけのロンドン行きとなった。

「番狂わせ、初出場日本選手がシード選手を破る」

これはロンドン・タイムスのスポーツ欄に掲載された記事の見出しである。

全英選手権は予選があり本選となるが、ソネビル選手からの情報で私の実力が認められ、予選なしで本選に登録され、３回戦で第２か第３シードのポーチ選手（デンマーク）と対戦した。彼は直前のデンマーク選手権で当時世界No. 1の評価のＥ・コプス選手を敗りチャンピオンとなっており、全英の優勝候補にあげられていた。

しかし、私はヨーロッパの選手名は、コプス、コベロ、ハンセンの３人しか知らなかった。

試合会場は、ロンドン郊外ウエンブレーのエンパイアープールで行われた。大きな体育館でメインスタンドの中央席は白布のかけられたテーブルがあり、食事をしながら試合を観戦するという趣向で、当時の日本では考えられない光景だった。

コートは初めて体験するコートマットで、多分ゴム製のイボがついたものであったと思う。このコートでスライディングキャッチを試みたところ、見事に薬指の皮がむけてしまい、血を流しながらのプレーとなってしまった。何とか３ゲームで勝ったものの相手が強い選手だったことを知ったのは、応援に来ていただいた真野さんから翌日のロンドン・タイムスの記事を教えてもらったからである。結果オーライ。知っていたら勝っていたかどうかわからない。

準々決勝では、インドネシアのチャンピオンタン・ヨー・ホクに負けてしまい、全英は終わった。

全米選手権は、東海岸ボルチモアで行なわれ、試合は全英に出場したアジア系の選手が出場しておりレベルは高かった。なんとか準決勝まで出たが残念ながら力が尽きてしまった。

しかし「やれやれ終わった」との感は深かった。

ロンドンでの練習時には、カナダチャンピオンのマクドーネルともゲームをしたし、アメリカ選手とは全米で対戦し、それなりに力を量ることができ、「うまくやればアメリカゾーンで勝てる」と実感した。

西も東もわからないまま、40日の遠征をこなせたのは、ボランティア精神の旺盛な方々に支えられたからだといっても過言ではない。

真野さんご一家には空港での出迎えから、試合の応援、カイロから転任されたばかりにもかかわらず、ご自宅で日本食をたびたびごちそうになり、ホームシックを乗り越えることができた。

真野さんは免許取得中とのことで、買ったばかりのボダゾール（英国GM車）で小生が運転したが、当時、国際免許は持っていなかったため、無免許だったわけである。英国が日本と同じ左側通行なので支障は無く、お子さんからは「運転がうまい」と誉められた。「自動車屋だからさ」とすまして答えた。

ウォン一家にも、練習会場のウィンブルドンに居を構え、練習が終わるとおいしい中国料理をごちそうしていただき、夜中にホテルにまで送りとどけていただいた。コンディションを整えられたのもこの方々のおかげである。

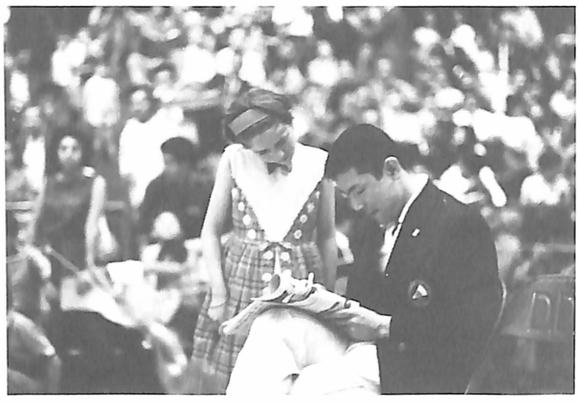
ボルチモア郊外に住んでいる、スチーブンソンさん夫妻は、バドミントン選手だった人。この人たちは典型的なヤンキーで、親切この上ない。最初の日の朝食で、生の牛ひき肉とタマネギのサンドウィッチが出され、うっかり「うまい」といったら毎日その献立となり、困ってしまった。

最後に、レストランに連れていっていただいた。大きなロブスターを注文し、腹いっぱい食べ堪能、毎朝のひき肉にくらべ何とうまかったことか。

全米大会は、毎日夕方６時頃から始まり、10時過ぎに終わる。招待選手は、その後のホームパーティに招かれるのはいいが、午前３時、４時まで続く。そして、夕方から試合である。豪傑もいた。Ｅ・コプス選手である。朝までビールを飲み女性と戯れ、それでも優勝してしまう。世界には、とんでもなく強い奴がいると、しみじみ自分の非力さを嘆いたものだ。しかし、ここでもスチーブンソン一家が熱烈に応援してくれ、全て面倒をみていただいた。

真野さん一家、ウォンさん一家、スチーブンソンさん一家、いろいろと有り難うございました。この40日にわたるひとり旅は、苦労といえば苦労だが、大変いい勉強になった。プレーのみならず多くの生きた社会勉強ができた。

行ってみればなんとかなるのだとくそ度胸がつき、たいていのことには驚かなくなった。



第６回トマス杯メキシコ・シティでの
アメリカゾーン予選のスナップ



〝日本スポーツ賞〟
バドミントン 小宮選手が受賞

さる十八日、東京の読売新聞社において、昨年度の日本スポーツ賞受賞式が行われ、各種のスポーツ優秀選手が表彰を受けたが、当社バドミントン部の小宮好雄選手（総務部）も、この名誉ある日本スポーツ賞を受賞した。
これは読売新聞社が毎年行っているもので、前年一年間、スポーツ界に多大な功績を残した各競技団体の最優秀選手またはチームに贈呈されるものである。

小宮選手

日本スポーツ賞受賞の記事

高校時代に旅の好きな先生から「ひとり旅は利口になる、２人旅は道化になる、３人以上はバカになる」ということばがあると教えていただいた。確か甲斐の武田家の指南役僧快川のことばだったと思う。まさにそのとおりの旅となった。しかし、これができたのも、１年のうち100日以上も職場を留守にするプレーヤーを励ましサポートしてくれた先輩、同僚がいたからこそのことであり、深く感謝する次第です。

小宮選手の全英でのエピソード

全英選手権大会は、今年で第68回を迎えた。日本からの参加は、小宮選手（トヨタ自動車工業）が最初で、その時は選手団などというものではなく、ただ一人の孤独の参加であった。小宮選手については、全英選手権の試合中、転倒して手を負傷、ところが全英選手権では、試合中に選手がコートから離れることが許されず、血を流しながらプレーを続けていると、審判が見かねて真っ白なハンカチを渡した。

全日本実業団初優勝までの思い出

愛知県実業団バドミントン連盟副会長　多賀純一

私が昭和23年にトヨタ自工（現・トヨタ自動車）に入社してから４年後、社内バドミントン大会（３ダブルス）があることを知り、職場の有志（20名）が集まり、工場内の通路で縄をネット代わりにして、朝昼晩と毎日練習した。その結果、昭和28年の第２回社内大会に優勝することができた。このきっかけで先輩部員の岩月真平氏（第１回全日本実業団出場）の誘いにより、同志４名（荒川司郎・現豊田市協会理事長、市川利治、谷沢径次と私）が入部した。当時のトヨタ自工には体育館はなく、旧トヨタ青年学校の校舎を利用したが、天井はハリがあるし（クリヤーがハリに当たるので間を通す技術も必要）、床はコンクリート面であり、シューズは月に１足は消耗した。雨天の日にはまた一仕事でコンクリート面に水がたまるため練習前に水のくみ出しと雑巾掛けに苦労した。自分たちの練習は先輩の休憩時と終わってから、羽根の少なくなったシャトルで練習また練習を積み重ねた。



第２回社内大会（後列、右から２人目）

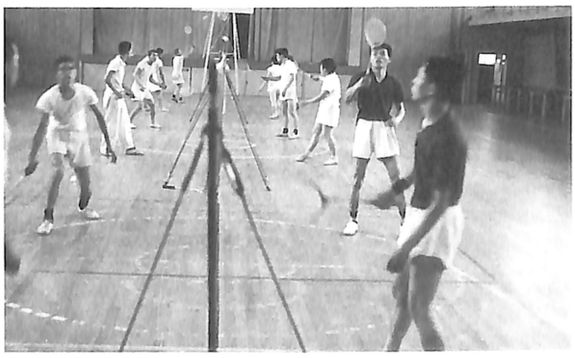
私も全日本実業団には第４回大会（名古屋市で開催）より参加し、準優勝することが出来、バドミントンの楽しさを知った。

女子チームは、全日本実業団で３連勝した保田久子、伊与田　照子の引退により、第４回大会には卓球選手の高木芳枝、新入社員鈴木、中根に入部してもらい、バドミントンを知らない彼女たちの指導に一苦労した。第５回大会（高松市で開催）には瑞陵高校卒の大沢節子（現・細野、県家庭婦人連盟会長）の入部によりベスト４に、第６回大会（高松市で開催）には松蔭高校卒の花井洋子（現姓・真野、豊田市家庭婦人連盟会長）の入部により準優勝した。この成果のお陰で県外からの入部が増加し、さらに強化でき、第19回大会（釜石市で開催）では16年振りの優勝ができた。

保田さんが退部したあと私が女子チームの指導者となったが、振り返ってみればその頃に指導法を修得したのかも知れない。

男子チームでは30代の深津・山城組が練習後のビールのうまさのためにプレーを続けていた。

一方、選手は経験者の補充ができず、トヨタ工業学園生を指導して卒業後毎年２名ほど入部させ、全日本実業団大会の出場時の観光めぐりを餌に練習に励まし、大会に参加した。しかし、練習量こそ多いが全日本実業団大会では１回戦負け、よくて３回戦どまりだった。そこで技術を得るために全日本大会、全日本学生大会などを見学しに行き、技能の修得に努めたが、試合には通じなかった。それでも仕事第一、バドミントン第二で試合にはいつも最少人員で参加していた。



当時の練習風景

昭和36年に佐藤忠史（名古屋大卒、現・ミド

リ安全顧問)、岩后隆昭（岐阜高卒)、北田寛一(大阪市立大卒、現・朝日ケ丘運輸社長）の入部によって１回戦負けはなくなった。しかし、優勝するには、全日本級の選手の補充がどうしても必要だった。

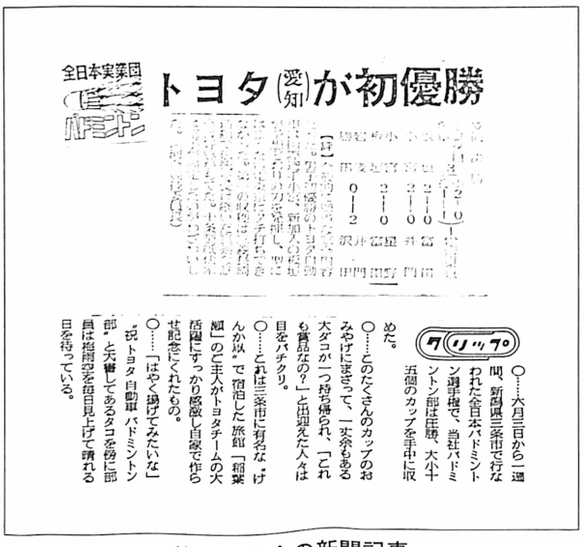
その頃私は県協会理事の他、全日本実業団連盟の理事を務めていた。また、国体の選手として、そして監督として何度も参加しているうちにバドミントンの「とりこ」になり、ぜひ全日本実業団で優勝をしたいと思うようになった。

昭和37年に小宮好雄（立教大卒、現・名古屋グランパスエイト専務）の入部により、練習内容が変わり、高度な技術を身につけるよう努力することにより、一段とレベルの向上ができた。しかしシャトル(陸鳥球)の使用量が多くなった。小宮のスマッシュは速い。３人掛かりで受けるが触れない。シャトルが「つぶれ」てしまう。そこで、名古屋市の都筑バドミントン工業所(私の亡義父)に依頼して１週間に20ダースを確保したことにより充分使うことができるようになった。

しかし、小宮の海外遠征が始まり、国産シャトル（陸鳥球）では通用しないのでＲＳＬシャトル(水鳥球、英国産)の購入を義父に依頼、購入して練習をさせた。国産品より長持ちした。

昭和37年の第12回大会（熊本市）には対電々東京の決勝戦で小宮のパートナーとしてダブルスを組むことができたことはバドミントン選手生活最高の栄誉であった。しかし、試合は小宮のところにはシャトルは行かず私のところばかり、汗だくだくの準優勝だった。

昭和38年の第13回大会（三条市）には、板垣善憲（立教大卒、現・愛知陸運常務）の入部したことにより初優勝できた。また、小宮の４冠王（団体、単、複、混合）出場種目11種目中５種目の優勝と、私も監督として最高の美酒を味わった。このときは旅館から優勝記念の凧を頂き、大事に持ち帰り、会社の祝賀会で揚げた事を覚えている。


全日本実業団
トヨタ(愛知)が初優勝
クリップ
第13回大会の新聞記事



旅館「稲葉瀬」よりの記念の凧

私もバドミントンを始めて40余年、バドミントンを愛し、今後も普及発展に微力ながら尽力を続けていきます。

バドミントン今昔

愛知大学OB　稲熊文隆

私は、今日まで40有余年、何らかの形でバドミントンに携わりつつ歩いてきました。数々あるバドミントンに関する思い出の中から昭和38年、愛知県が初めて国体一般男子で優勝したときのことを少し書かせて頂こうと思います。

第18回山口国体。この時の県代表は、小宮、板垣氏（トヨタ自動車）と、私の３人でした。両氏は今もご存知の方も多いかと思いますが、当時日本を代表する名プレーヤーとして立教大学からトヨタ自動車へ入社された方で板垣氏は私より１年下、小宮氏は私と同期でした。

愛知県は戦う前から優勝候補に挙げられていましたが、我々にはそのためのプレッシャーといったものは全然ありませんでした。監督も私もその実力を全面的に信頼していましたし、両氏、特に小宮氏の自信というか勝負に対する執念は大変なものでしたから敗けるなどとは夢にも思っていませんでした。その自信のためか、我々は宿舎に着くが早いか麻雀を始めたのです。それからというもの、暇さえあれば麻雀三昧、部屋の壁には特大の紙で各自の点数表まで貼り付ける始末。あれは確か準々決勝あたりの試合で、次の試合まで、３、４時間待ちがあった時のことです。「サアーやるぞ」とばかりタクシーに飛び乗って宿に取って返し、急いで雀卓を囲んだこともありました。

しかし、コートに立った時の２人は、全然別人でした。その集中力と闘争心、さらに驚く程の体力とメンタルスタミナは、麻雀に打ち興じていた時とは全く別次元のものだったのです。

あまりに見事な変わり身の早さに私は唖然とさせられたのを今でも覚えています。

ともすると華麗なテクニックとか、ファッション性に気を取られ過ぎ、カッコ良さばかりが目につき易い昨今のスポーツ界で、それ以前に必要としなければならないのは飽くなく闘争本能を原点に返って呼び醒ます努力をおこたらない事ではないでしょうか。

スポーツは元来陸上競技に見られるように戦争に勝つため、生き残るための鍛練から発祥したものだと私は思います。

レクスポーツは別として、脆弱な闘争心と見てくれの技術とスマートさだけを際立たせた競技スポーツなど、気の抜けたビールに等しいものです。

ちなみに、小宮氏はこの大会の開始式において、日本協会より技能賞を受賞されました。

真のテクニックは、強靱な肉体と、闘争本能に支えられてこそ花開くものだという事を私は改めて教えられた気がしました。

それにつけても、いつも懐かしく想い出されるのは、昔の大らかな野性の思い出です。

日韓親善競技名古屋大会に参加して

愛知県社会人バドミントン連盟理事長　清水善勝

昭和38年９月20日（金）、名鉄体育館に於いて、全韓国対全愛知のバドミントン選手団による国際大会が、この地方では初めて開催された。韓国からは、全東培団長、監督、コーチ、選手団15名で来日。全愛知は、野口勇監督以下19名が出場し、熱戦が繰り広げられた。



日韓競技大会選手団（右より７人目）

選手構成は、韓国は、男子教員２名、男子大学選抜２名、男子高校選抜２名、女子一般選抜２名、女子高校選抜３名、計11名。全愛知チームは、男子選抜３名、男子大学選抜４名、男子高校選抜３名、一般女子選抜４名、女子高校選抜３名、計17名で対戦した。

韓国チームの選手は、殆ど全国大会で優勝か準優勝の選手であった。全愛知チームの男子選抜では、当時の全日本選手、小宮好雄、板垣善憲（トヨタ自動車工業）の両氏以下が出場し、愛知県が全盛の時であった。

小生は、男子高校選抜の選手として出場し、１試合ではあったが、韓国の羅亨洙選手にストレートで勝ち、他の選手たちも、親善第一で余裕の戦いで男子が８勝１敗、女子が５勝１敗で、全愛知が快勝した。



日韓競技大会対戦（中央）

当時は、韓国のバドミントンは発展途上で実力不足であったのと、日本（下関）に着いた時に、コレラ騒ぎがあり体調が悪かったせいもあって、全愛知に完敗。しかし、親善試合としては有意義な大会であった。現在の韓国選手が、世界のトップレベルにいることは、当時としては誰一人想像がつかなかったろうと思う。

あれから35年の月日がたち、現在、協会の役員として微力を尽しているが、当時は、現在のような大きな組織ではなく、10人位の役員の方々が一生懸命運営していたと記憶している。又、選手達も、今のような軽いラケットではなく、120～130ｇのラケットを使用していた為、現在のようなスピードとラケット捌きには劣っていたと思う。そして、服装に関しては上下とも白一色で、各自バラバラ。現在の国際試合では考えられない大会であった。

しかし、振り返って見ると私の選手生活では、唯一の国際大会出場であり、現在でも当時の事が思い出され懐かしく、誇りに思っています。

トマス杯、世界招待戦に参加して

トヨタ自動車OB　板垣善憲

昭和39年５月、東京でトマス杯のインターゾーンが開催されることが決定された。しかし、何よりも開催国の日本チームが出場しないのでは興味が著しくそがれることになる。

そこで、予選通過の可能性の高いアメリカゾーンにエントリーし、ぜひとも勝たねばならない運命にあった。このため過去にない厳しい強化合宿を経てトマス・カップ出場日本チームが編成された。

日本バドミントン界の期待を担った出場日本選手団は、川端昇市監督、佐藤芳朗コーチ、永井栄一主将、前年の全英ベスト８の小宮好雄選手に私（ともにトヨタ自動車工業）、堺栄一選手（カワサキラケット）、宮永武司選手（明治生命）の７名であった。



トマス杯選手団（中央）

アメリカゾーン第１戦はメキシコで開催されることになった。メキシコは高地対策が必要ということで、試合の10日前に現地に入り練習、最初はすぐ呼吸困難となり、休みながらの練習であったが、４・５日で環境に順応していった。

試合は９対０の完勝であった。次にバンクーバーでカナダと準決勝、これも８対１の大差で勝ち決勝進出。決勝はカナダのビクトリアで、アメリカのNo.１巨漢のジンプールにシングルス２試合を失ったが、他の７試合を厳しい戦いであったが勝利した。

各ゲームとも内容は接戦の連続で一つ間違えばどうなったかわからない苦戦を強いられたが、監督、コーチ、選手が一丸となって戦うことが出来た。

第１日目の試合で、３対１でリード。この夜は全員が極度の緊張感と興奮のためほとんど眠れず、第２日目の試合となった。しかし、皆の勝利への執念と充実した気力により、勝利することが出来た。優勝の瞬間は嬉しさで飛びあがり、抱きあって喜んだ。そして日本チームは、執念で東京でのトマス杯、インターゾーン進出の資格を獲得した。

アメリカ地区・日本、アジア地区・タイ、ヨーロッパ地区・デンマーク、豪亜地区・マラヤと決まり、選手権国・インドネシアを迎えて世界の強豪が東京に集まった。

日本のインターゾーン第１戦はタイで、第１日目、シングルスを２試合失い苦しいスタートであったが、得意のダブルスを２試合勝ち、翌日へ望みをつないだ。しかし、結果は３対６で敗れた。初めて見る世界の強豪の見事なプレーに観衆は酔った。

また、次のようなハプニングもあった。チャレンジラウンド第１日のインドネシア対デンマーク戦で、外国人の観衆が騒ぎ、機動隊80名が東京体育館の周りを警備するという事件が起こった。当然、翌日新聞に、運動面と社会面で大きく報道され、バドミントンに関する大きな記事が一般の人の目にとまったのはこれが最初であると思われる。

世界バドミントンにとって、最も歴史と伝統を誇るこのトマス杯大会が東京で開催され、チャンピオン争奪戦が行われたことは、日本のバドミントンの向上に大きな財産となり、日本は世界への道を歩む栄光の第一歩を踏み出すことになった。

インターゾーン

日本　3　単 1－4 / 複 2－2　6　タイ

・男子複

小宮好雄 / 板垣善憲　2　15－9 / 15－11　0　サンゴブ / チャバレート

・男子単

板垣善憲　2　6－15 / 17－15 / 15－7　1　サンゴブ


世界選手権で善戦
バドミントン 小宮、板垣の両選手
写真はタイのサンコブと対戦して2－1と勝ち星をあげた板垣選手（正面）

世界選手権試合中の記事

日本にとってせめてもの救いは、シングルスでの予想外の善戦をした。特に、私自身のサンゴブとの試合であるが、第１ゲームを落とし第２ゲームに入ってもネット・プレイに勝るサンゴブに９対３と大きく突き放された。私は決定的な武器を持っていなかったが、前後にゆさぶる戦法で勝負をかけ、ドロップを効果的に決め、10対13と接戦、一度はサンゴブに14対13とゲームポイントを握られたが、粘り抜いて私がこのゲームをものにした。

ファイナルにはいるとサンゴブは精彩を欠きコースをねらい過ぎて打球にミスが多くなり、私は13対２とリードを奪い、完全に自分のペースで押し切り貴重な勝ち点をあげたことが、私の何よりの思い出として心に残っている。


世界個人
選手権を獲得
小宮・板垣組ダブルスで
「第六回トマス杯世界男子バドミントン選手権大会」は、五月十四日から東京都体育館で開催され、当社の小宮・板垣両選手を含む日本チームは善戦、惜敗したが、続いて五月二十五日から台東体育館で行われた世界招待個人バドミントン選手権大会では、ダブルスにおいて小宮・板垣組が大奮闘、日本バドミントン界初の偉業、世界選手権を獲得した。
小宮、板垣選手は初めからシングルスを捨て、ダブルス一本に全力を注いだ。持前のチームワークにより着々と勝ち進み、準決勝でマラヤを2－0と破り、決勝では同じくマラヤ・チームの疲労による棄権で不戦勝と決定、輝やく優勝を飾ったもの。これについて両選手は次のように語っていた。「地元で行われ
写真は優勝メダルを前に喜びの小宮さん（左）と板垣さん

世界選手権複優勝を伝える記事

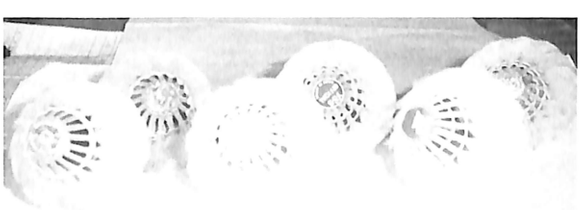
シャトルコック、陸鳥球から水鳥球へ

愛知県バドミントン協会副会長　伊藤鑛一

県協会では、昭和22年頃から使用球は陸鳥（ニワトリ）の羽根で出来たシャトルコックであった。これは県内で製造（マルエム、No.1の2社）されていたため県内選手はゆとりある練習が出来たと思う。

昭和35年頃、この時代になるとバドミントン技術が高度化され、海外で開催される国際試合で水鳥球の使用が始まり、特に、全英選手権ではRSL球（英国製）がIBF公認球として使用された。当時、国内では国際試合はなく、海外遠征した選手のなかから技術向上のためには水鳥球を国内で作る必要があるとの意見が出てきた。

併せて、国内の業者も前向きに研究され、ニワトリの羽根の選別を手作業から機械化に移行したため羽根の選別が難しく、また、ニワトリの原毛入手が困難となり、陸鳥球の国内流通に支障を来してきた。



当時のシャトルコック

国内業者は各方面の要望を受け、水鳥球生産に取り組みはじめたが、陸鳥球と違い製造工程の研究、採算性、国内で調達出来ない原毛の輸入等に時間を要した。そして、昭和38年度日本バドミントン協会検定会において、初めて5種の水鳥球が認定合格した。しかし、合格はしたものの実際の大会では耐久性、価格等に問題があり、使用されるまでには時間がかかった。そこで、昭和38年度全日本総合選手権大会から昭和45年頃までは、RSL球の使用が続いた。（昭和44年全国学生大会より、国内球が使用された）

これに並行して、日本協会は各県協会の会員数に応じて水鳥球の無償交付を昭和45年度まで実施して水鳥球の普及を図った。

本県の水鳥球への移行については、昭和39年度総会で昭和40年度の県内大会は費用の関係上、陸鳥球を中心とするが、できるだけ水鳥球にもっていきたい、と提案されている。そして、昭和40年度総会では、昭和41年度より日本協会主催の全国大会はすべて水鳥球になるので、本県でも移行することが決定されている。そのとき、陸鳥球との差異、大会運営費、購入ルート等について質問があり、また、使用済みのシャトルを安く購入させて欲しいとの要望も出されている。昭和40年度には、高校生の強化合宿で水鳥球を使い、その特徴を習得させるとともに、消耗度を調査したことが指導委員会から報告されている。

当時の水鳥球は1ダース検定球1,250円、試合球950円、練習球850円、陸鳥検定球は650円であった。



当時のシャトルケース

半世紀の道のり

愛知県バドミントン協会副会長　青山敏郎

50年、小生バドミントンに係わり合って半世期にもなるかと振りかえれば、当時の理事長は長谷川　参三氏であった。出会いは省略するとして、大会ごとに参加バッチをもらったことが思い出される。その大会と言っても体育館は当時は無く、小学校の講堂で天井は低く、正面に向かって下方に傾斜した構造もあり、ご想像頂ければ説明の必要はないと思う。昭和25年の愛知国体ですら、焼け残りの栄小学校を主とした講堂での大会であった。練習は、中日本重工（倉庫）のコンクリート床に白墨でラインを引いて練習をしたこともあり、その頃、トヨタ自動車の酒巻さんにも出会って一緒に練習したことがまだ最近の様に思い出される。

今日は、大会ともなれば役員が定刻より前に出掛けセットをし、水鳥球を使いたい放題である。当時は、陸鳥球でツブれてくるくる廻るシャトルでも「まだ充分使える」の一言で試合は続行される状態であった。

名古屋市でバドミントンが一早く始まったのは、南方帰りの水谷氏やシャトル製造の都筑氏の影響が大きかったと思う。又、両氏が在名であったことも幸いして、当時「No.１」「マルM」のメーカーとしても供給してもらい、半ダースが買えず２ケ、３ケとバラで買っていた。

それやこれやしている内に、協会を若い者にまかせると長谷川氏が言われ、社会人になっていた渡辺、野口、伊藤の各氏と共に協会の運営にたずさわったのが今日まで引き継がれて来たのである。当時は大会運営をする人達が少なく、我々は大会参加を棄権した者の穴うめとして出場することが出来た。

やがて、人材も揃いかけ、協会が組織化され始めたのが昭和30年代半ばかと思われる。その中で指導委員長であった頃、現在のジュニア強化までには至らず、底辺の拡大と称し中学校に目を向けたが、中学生大会は無論なく、いずれの学校が行っているか全く情報もなく考えた末に、公立学校の名簿を教育委員会でもらい、県下の全中学校に対しアンケートを出し、部員の有無を始め、同好会か部なのか、又、指導者はいるか、指導者を必要とするか、部費の年間予算等７～８項目であったと思うが、そのなかで一番多かったのは、指導者派遣依頼であった。結果として10数校に部又は同好会の有る事がわかり、これなら大会の開催は出来ると理事会で話題となったが、生まれて消えるあわの如く、実施は延期されたままで２年程経過した中で、当時の理事長であった渡辺氏と相談したがまとまりがつかず、「やってしまえ」の一言で小生が要項を作り、予定した学校に案内したが意外と参加が少なく、団体、男女別オープン戦をトーナメント方式で予定していたが、当日、団体は参加校が少なく、リーグ戦に変更した。

大会は、昭和42年８月３日開催し、男子４校、女子６校であった。それが今日の中学校大会の基礎となった。



33年当時の私（左）と水谷氏（YMCA体育館で）

又、普及事業として依頼のあった地域へ水野啓造氏（現・社会人顧問）と一緒に指導に出掛けたが、当時のことは全く空白である。

そして、月日が流れ昭和41年から市の教育委員会でスポーツセンターが暫時設置されると同時に、中学校の体育館が夜間に一般社会人に開放された。順番としては、前津中学（中区）、本城中学（南区）等拡大されていった。

当時の記録から、前津、本城の各中学校を青山敏郎、沢上中学校を粟田、港北を守随　尚の各氏が受け持ち、その後更に若水中学（千種）と順次各区に夜間開放が進み、指導者が不足し始めたため、その地域にバドミントン経験者を探し、協会に対しての協力経験の有無を問わず、指導者として派遣して行った。その後、社教センターも充実し移管され、いまではスポーツデーにその名残を見ることが出来る。

当時の名古屋市バドミントン協会は名目のみで、職務分担が明確でなく名古屋市主催の行事の全てが県協会を通じており、必要に応じ在名者で競技役員が編成され大会運営にあたっていた。

県協会の会員増加と大会数の多いことから、これを解消するため、実業団、社会人、家庭婦人、教職員、学生、高校、小中学生、市町村等に分割し県協会から独立し連盟単位とする動きがあり昭和54年に各連盟が誕生した。その後各連盟独自の行事が催され一段と活発な運営がなされるに至った。

ここで社会人バドミントン連盟会長の立場として一言触れておこう。設立は前述の通り昭和54年で発足時は26団体、226名が10年後の平成２年には、63団体、832名と躍進し大会が従来の前期リーグ、後期リーグに加え個人戦が昭和56年から追加された。時流れて平成10年３月には、80団体、1,140名に達していた。バドミントン人口は益々増加の傾向にあり、たのもしい限りである。

現在使用されている協会マークは、約15年程前に愛知県で全国規模の大会開催に愛知県協会旗が必要となり、伊藤理事長より依頼をうけた。

当時、他の競技団体からも大会参加賞のステッカーのデザインを依頼されていた折でもあり、引き受けて作成したマークが今日使用されている協会マークであることも付け加えておこう。

こうして原稿をかいていると、50周年記念誌と自分の歩んできたみちが同路線とは考えても見なかったが、バドミントンについては思い出が多過ぎるほど、人生の全部であったとつくづく感じる。

今日多くの愛好者が協会の運営、国際大会、全日本大会と定額旅費のみで連日職場を休み、協力して頂けることによって維持・発展して来たことは、誠に意義深いものを感じている今日この頃である。



社会人連盟10周年記念式典にて（元年度）

トマス杯出場と国体5年連続優勝

トヨタ自動車OB　安沢武司

【第７回世界団体男子選手権（トマス杯）出場】

昭和41年４月に立教大学を卒業し、諸先輩を慕ってトヨタ自動車工業㈱に入社した。その年がトマス杯の開催年度の前年で運良く選抜選手となった。トマス杯に出場するためには世界の各ゾーンの予選で各ゾーンの覇者が決まり、更に、各ゾーン予選で勝ち上がって来た国でトーナメント戦を行って前回のチャンピオン保持国であるインドネシアに挑戦し、初めて新チャンピオンが決まる仕組みである。

アジアゾーンではご存じのように強豪がひしめいているので日本はオーストラリアゾーンの予選から出場して予選突破することになった。日本代表団メンバーは内藤監督、村山コーチと選手は宮永、堺、板垣、秋山、安沢、小島、森が選抜された。まずはニュージーランドの最南の都市ダニージンで試合をしたが、８月と言っても気候が日本とは逆の冬、夏の日本から出かけて冬のニュージーランドの最南の降雪のダニージンであることから全員オーバーコートを持参して出かけた。



トマス杯日本選手団（後列左より２人目）

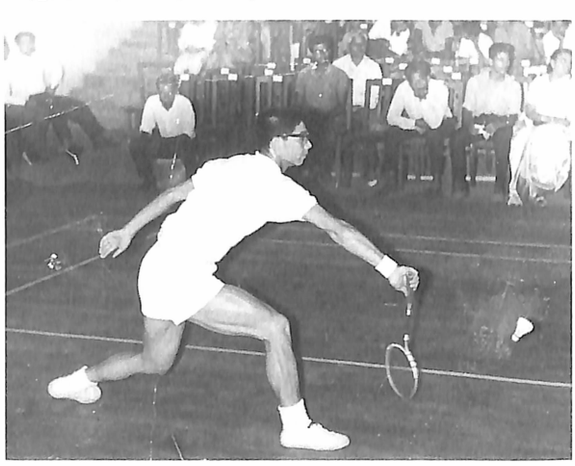
まず、８月25・26日にニュージーランドチームと対戦し、日本９（単５－０、複４－０）０ニュージーランドと日本が快勝した。

引き続き、９月15・16日にゾーン予選の決勝をオーストラリアのアデレードでオーストラリアチームと対戦し、日本９（単５－０、複４－０）０オーストラリアと日本が快勝した。

その結果、インドネシアで行なわれるインターゾーン大会の出場権を獲得した。

ニュージーランドもオーストラリアもラグビーやテニスが主流でバドミントンはマイナースポーツと感じた。ニュージーランドの国内大会に参加して感じたが、家族連れで旅行とスポーツを同時に楽しむ雰囲気が強かった。クラブ制のためもあるが子供も含めて観戦しており、家族ぐるみで楽しむ心の余裕がうらやましい気もした。

いよいよ、翌年42年５月に赤道直下の国、インドネシアのジャカルタでのインターゾーン出場となった。インドネシアはサッカーとバドミントンが国技なので、各国選手団は国賓並の待遇で空港の税関はフリーパス、選手の移動もパトカー先導で大変なこととなった。新聞でも選手の顔写真が大きく載り、試合でも自国の選手には観客全員が床を踏みならし応援する白熱ぶりである。こんな国には今後、当分勝てないなと感じる程であった。



インターゾーンでの対戦

インターゾーンの１回戦ではアメリカと対戦し、日本７（単３－２、複４－０）２アメリカ

と日本が勝ったが、準決勝ではマレーシアと対戦し、日本3（単2－3、複1－3）6マレーシアと日本は惨敗した。その結果、チャンピオン国のインドネシアへの挑戦権は逃してしまった。

学生時代にインドのラックノーで開催された第1回アジアバドミントン選手権大会出場以来の海外試合経験であるが、大学と会社の両方の先輩、板垣さんの良き指導、アドバイスを得て大会に参加でき有り難く思うと同時に各バドミントン協会にも大変お世話になり感謝しています。

【国体の愛知一般男子5年連続優勝】

私は41年、42年の5年連続優勝の最後の2年間の大分国体、埼玉国体に参加してこの栄誉に同席出来たが、諸先輩との共同作業で達成出来たものである。トヨタ自動車工業㈱を主体とする一般男子は小宮（4回出場）、板垣（5回）、安沢（2回）、岩后、長谷川、小林（各1回）で主力は小宮・板垣両選手の活躍で到達した記録である。

昭和41年には、日本協会より愛知県（国体一般男子チーム4連勝）とトヨタ自動車工業㈱チームが表彰を受け、チームの一員として誇りを持つと同時に大いに励みになった。

【5年間の実績】

		（優勝）	（準優勝）
昭和38年	山口国体	愛知	東京
昭和39年	新潟国体	愛知	東京
昭和40年	岐阜国体	愛知	東京
昭和41年	大分国体	愛知	山梨
昭和42年	埼玉国体	愛知	神奈川

また、総合選手権大会、全日本実業団大会、社会人大会等にも参加し、戦績を上げ得たことは会社の理解と諸先輩、同僚の支えがあって可能であったことと心より感謝申し上げます。

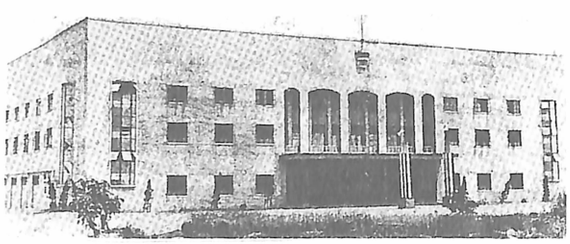
体育館確保の思い出

愛知県バドミントン協会副会長　伊藤鑛一

協会の創生期時代の試合会場は中村小学校（名古屋市中村区）及び、三菱重工・岩塚工場の体育館が中心でコート数は２と３面であった。

昭和30年代になると会員数が増大し、コート面数が多く利用出来る体育館が必要となった。

昭和25年愛知国体時に完成した金山体育館が使用出来ないか調査、使用料が高いため借用することがむずかしく、以後、再三再四にわたり体育館側と折衝し、利用料金を練習料金で利用できるようになった。しかし、金山体育館は国体でバスケットに使用されて以来、バスケット中心の体育館だったため、バドミントンのコート８面をつくるのに、大会前日の夜、水性ペンキにてラインを引くのは重労働であったが、選手に満足してもらうため努力した。



金山体育館

その後、室内競技団体の体育館使用が増し、多い日には８競技団体が重なり、毎年12月の調整会議では激しい争奪戦が繰り広げられ、ときには後日調整になるときもあった。まだ市町村に余り体育館がないときであり、調整会議では最前列に陣取り決死の気持ちで臨んだものだった。

昭和39年、12コートとサブに３コートをもつ愛知県体育館が完成し、利用は多少緩和されたものの、この体育館は多目的使用のためにラインはもとよりコーナーもなく、ライン引きはチョークを塗った長いひもを使っての大変な作業だった。



愛知県体育館

昭和43年、名古屋市は人口200万人突破を記念して、金山体育館を市民会館に建て替えることが決定し、金山体育館は取り壊された。その代替えとして現在の名古屋市体育館が建てられた。

以後、名古屋市では露橋スポーツセンターを最初として、各区で体育館の建設が進められた。これは、平成10年には10か所となり、いずれも10コートがとれ、中にはサブ体育室もあって大変使い易い施設となった。こうして調整会議での分捕り合戦は大幅に緩和された。

また、各市町村でも昭和50年代に入ると体育館の建設が進められたが、名古屋市内の利用状況が厳しかった頃は、刈谷市、知多市、岡崎市、瀬戸市、安城市の体育館をよく利用させていただいた。

最近は平成６年の「わかしゃち国体」の会場となった大府市民体育館をよく利用させていただいている。

第19回全日本実業団優勝までの思い出

トヨタ自動車OG（旧姓・太田）牛島節子

駅から出ると大きなビル「やっぱり、名古屋は都会だわ！」名古屋駅に着いた時の第一印象でした。しかし、私を乗せた車は都会からどんどん離れ、町並みや田畑を抜けて走り、豊田市に到着、名古屋との差に驚きました。社会人としての新しい生活も大都会でなかったため、さほど緊張もなく、仕事にもバドミントンにも早くとけ込めました。

高校生までのバドミントンは、精神的にも技術的にも殆んど厳しさだけの中にあったような気がします。またその厳しい基礎があったからこそ、目標があればどんな困難にも打ち勝とうとする凄いパワーが湧いてきたように思います。

「全日本実業団での優勝」これが、インターハイでも、国体でも優勝することが出来なかった私の目標でした。でもこの目標を言葉にしたときに先輩のひとりが「それは無理だよ」と。確かにその時点での私の技術ではそうだったかも知れません。「無理だよ」と言う言葉に、どうしても自分の力で優勝したいと言う気持ちが大きくなりました。しかし社会人一年生の実業団は夢のままで終わりました。

目標はいつも、「全日本実業団優勝」。しかし、夢が大きく膨らんでいる時は大きな声で目標と言えるのですが、故障している時などは目標がプレッシャーとなり苦しい時期もありました。そんな時は、健康な部位を強化することで乗り切りました。

毎日の練習は、山之手小学校の体育館を借りての練習でした。会社終業後、それぞれに集合し、コートに入る前のアップは各自でするため、小学校から土橋駅までを毎日ランニングしていました。現在の交通量ではとても危険ですし、30年前の交通量だから出来たトレーニングだと懐かしく思います。コース戦略法マル秘ノートを作ったり、１日の練習が終わるとカレンダーを1日ずつ×印で消し込んでいくのが日課でした。

練習の成果と運が良かったためか、２年目の第18回全日本実業団では団体戦では優勝を逃しましたが、個人戦のダブルスで優勝することが出来、嬉しくて恩師の遠井先生に電話したことを覚えています。ダブルス優勝で自信がつき、次は来年度の団体戦で優勝することが大きな目標となりました。



第十八回全日本実業団バドミントン選手権大会が六月二十二日から二十六日までの五日間、長崎県諫早市体育館、長崎県立諫早高校体育館の二会場で行なわれた。

過去に優秀な成績を修めている当社バドミントン部は、今大会も男子団体戦決勝で竜々東京を3―0のストレートで破って六連勝したのをはじめ、個人戦で

混合復でガンバル板垣・太田組

大会を伝える記事

３年目、第19回全日本実業団でやっと目標の団体戦と個人戦の単・複で優勝〔三冠王〕することが出来ました。団体・個人（単・複）・混合と一日に７試合を消化し、食事をする時間も思うように取れず、近くの病院で注射を受けながら試合に臨むといった事もあり、当時は大変ハードなタイムテーブルが組まれていた時代です。まさに、精神・技術・体力が必要な競技スポーツでした。

第19回全日本実業団女子準優勝

豊田織機OG（旧姓・大橋）岩切美知子、（旧姓・辻田）武田京子

豊田自動織機製作所の上原信彦監督に声をかけられ、親の反対を押し切って昭和43年４月に入社しました。ところが女子部員はいなく練習相手は男子部員、体育館はなく練習会場は中学校の体育館や隣の市の公民館、親元を離れ愛知県刈谷市に来てしまったことを後悔しながらもその年６月の第18回全日本実業団大会（長崎・諫早市）に出場し、単・複とも一回戦敗退という最悪の成績で申し訳が立たず、帰りたいとは言えなくなり、それ以来監督の指示に従うしかありませんでした。

「力をつけてもらって来い」とトヨタ自動車、名古屋鉄道、日本電装などの練習会場へ引率者もなく２人きりで電車やバスに乗ってお願いに行きました。体力的にも精神的にもたいへん辛い練習でしたが、インカレチャンピオン杉山選手（日本電装）が親切に指導してくださったことバドミントンの神様と言われていた小宮選手（トヨタ自動車）に駅まで送っていただいたことに感激したことを覚えています。愛知県内外のあらゆる大会に「トヨタ打倒」を掲げ出場し、大会成績が監督の気に入らなければ、次の大会まで毎日グランドを10周走らされ、男子部員相手にバドミントンに明け暮れました。



第19回全日本実業団選手権大会にて
（後列左より、２人目が武田、７人目が岩切）

翌年44年６月の第19回全日本実業団（岩手県釜石市）で、男女アベック優勝のトヨタ自動車とともに豊田自動織機は準優勝の表彰を受け、46年２月の第20回全日本実業団（香川県高松市）個人戦で大橋が女子単で優勝を勝ち取り、昭和45年度愛知県総合ランキング女子複１位、単１位と２位の記録を残す事が出来ました。

高校時代は名もない２人を、全国トップレベルの愛知県でここまで育ててくださった上原監督、そして愛知県バドミントン協会関係者の皆様にあらためて感謝し、今後ますますのご発展を期待いたします。



第19回全日本実業団選手権大会女子団体
準優勝のメンバー（前列左が岩切、後列右が武田）

後藤鉀二会長を偲んで

愛知県バドミントン協会副会長　渡辺成雄

第４代会長後藤鉀二先生には、昭和38年４月就任していただいた。

先生は、名古屋電気学園の理事長として学校経営にあたり、スポーツを教育の一環として取りいれ、既に卓球を始めフェンシングの県協会会長を務められるなどスポーツの育成強化に一方ならぬ関心と関わりを持ち、多方面に亘り活躍されていた。

先生が、スポーツ界を始め日中国交回復のきっかけをつくるなど多大なご功績を残し、突如他界されてから、はや四半世紀余が経過した。時が経つのは早いものである。先生のご遺徳を偲び、今日の愛知県バドミントンの普及・隆盛をみるに至った経緯の一端を拙い文章でここに纏めた。

〔バドミントンの草創期〕

バドミントンは、昭和23年青井節郎会長のもと水谷国広理事長を軸に産声を上げた。第５回国体（名古屋）をバネに県内への普及は著しく、競技力も誇示できるようになっていく。

そのような中、２代目理事長となった長谷川参三理事長は、県体協競技委員会などを通じ、先生から各般に亘り薫陶を受ける機会を多く得た。当時、競技委員長の先生にバドミントンにひたむきな長谷川理事長の話を時には聞いていただいた。第２代多武良哲三会長、第３代重富克美会長推挙に際してご心労をかけたり、関東大学のエースの受入企業の世話も然り。

先生には、バドミントンに直接関係がないにも関わらず、「スポーツに常に情熱を燃やすもの」をこよなく愛しまれた先生のお人柄が滲み出ていることが窺える。

〔ご指導の跡〕

バドミントンの競技人口は増加すれど、屋内競技のためその競技施設には恵まれなかった。戦火を免れた中村小学校講堂、中日本重工岩塚体育館…の時代から、金山体育館、企業施設（三菱電機、中部電力、トヨタ本社など）やＹＭＣＡ体育館…順次充実してきたものの、県協会は、会場確保の面で行事企画、選手強化に一方ならぬ苦労をしその連続であった。そこへ、名古屋電気学園に喬徳館が竣工し（昭和38年12月）、先生のお計らいにより、バドミントンは、この体育館を卓球に次いで各種大会や夜間の強化練習に大幅に利用できることとなった。選手役員は若水へ若水へと足を運んだことを懐かしく思う。

また、先生が多忙の中にも暇を見いだし、体育館の壇上にその姿をよく見受けた。若者が懸命に猛練習する様子をじっとご覧になり、悦にいる様子が今でも目に浮かぶ。しかし、剣道教士の先生の慧眼鋭く、急所をつく批評や貴重な示唆を頂戴した。

スポーツに精を出す者へ常日頃から、先生は諭した。「以一貫之」（一を以て之を貫け）いつもファイトを燃やして健康な身体で仕事に携わることが出来るのはスポーツのお蔭である。一本を通せ、と。

今ひとつは、東京オリンピックを目前に昭和38年８月、愛知のバドミントンでは最初の日韓親善交歓会を名鉄体育館で開催する運びとなった。役員一同すべて戸惑いの中、準備を進めた。ご就任早々、卓球で経験のある先生のご指導を賜ることが幾多にも及んだ。競技面のことはさておき、事前の関係団体・報道へのアプローチ、選手団の宿泊接待などで先生にお逢いすると、私どもが今日は何を相談にきたか、今何を悩んでいるか、その読みの早さは的確で先の先まで見通されるなど只々敬服するばかりであった。それればかりでなく、即断の上、細やかな情味あ

ふれる心遣いと共に多方面に亘るアドバイスを得て大事を乗り切ることが出来た。

〔日中スポーツ交流へ〕

国際交流の門戸を閉ざしていた世界最強を誇る中国を昭和46年４月世界卓球選手権大会（名古屋）へ参加の途を拓いた。

それは、先生が日本卓球協会の会長として同年１月訪中、幾多の難関を乗り越え、日中卓球交流の会談紀要に調印できたことによる。

先生は誠意を持って当たれば、こちらの意向が通じる。誠意を尽くして話し合うことだとスポーツにかける情熱と信念をもって臨まれたと伝えられている。



ありし日の後藤前会長

世界卓球は成功した。日中友好増進のための献身的努力は卓球にとどまらず、他のスポーツ交流への拡大を打ち出し、同年11月の訪中のあと、バドミントンの日中交流へ向け日本バドミントン協会の重い腰を上げさせることとなった。

先生の弛まざる熱意と信念により復活した日中卓球交流がパイオニアの役割を果たし、これが、米中接近の糸口となり、また、日中国交再開へと展開していったことは万人が知るところである。先生は、いわゆるピンポン外交の陰の主人公である。畏敬の念を抱かずにはおれない。

（平成10年１月27回忌法要を終えて　合掌）

選手、監督、そして指導者として

愛知県バドミントン協会選手強化委員長　　松島　保

昭和43年入社当時のトヨタ自工には日本を代表する小宮・板垣・安沢氏が活躍されており、憧れた選手と一緒にプレー出来る嬉しさと共に、諸先輩を大きな目標にして練習に打ち込むことを自分自身に誓ったことを思い出します。

また、昭和38年度からの全日本実業団選手権大会男子団体７連覇を達成し、日本バドミントン界を牽引していた時期にメンバーの一員であったことを幸福だったと思っています。

当時の印象的な試合を思い返すと、昭和46年夏に山梨県での全日本社会人大会で本間順次さんと組んだダブルス優勝です。この時のエピソードも混じえ紹介しますと、この年はインカレチャンピオンの本間さんとインターハイチャンピオンで実弟の松島信之（故人）が入社しダブルスを組んでおり、この大会へのエントリーもこの組み合わせでしたが、何故か、大会の組合せ表には本間さんのパートナーに私がなっていました。県協会を通じてアピールしましたが、受け入れられず、止む無く１週間の即席練習（毎日ドライブショット練習ばかり）で大会に臨みました。

ベスト８入りで杉田・坂本（神奈川県）組にファイナルゲームの厳しい試合を制したことで勢いに乗り、準々決勝・準決勝・決勝と一方的な試合運びで、気が付いたら優勝杯を手にしていました。

もう一つは昭和48年夏の石垣島での沖縄本土復帰記念の特別国体に、実弟の松島信之と本間さんの３人で出場し優勝したことです。



伊藤鑌一監督と（後列左）

試合終了後、沖縄県那覇市に戻ってからの異国情緒溢れる繁華街の散策は良い息抜きとなり、特別国体優勝と共に今も目に浮ぶメモリアルです。

今一つは、選手指導・育成の道を歩むきっかけとなった監督学です。

第32回青森国体や第35回栃木国体での国体監督等を経験し、その後トヨタ自動車女子チーム監督に就任し、昭和59年には日本リーグ１部入りを果しました。



青森国体にて（前列左端）

リーグ戦での戦績は、緒戦から選手共々舞い上がり、どんな試合だったかも思い出せず、終わってみれば全戦全敗。入れ替え戦にも敗れ、２部へ降格という貴重な経験をしました。

「この悔しさ」をバネに指導者としての企画・育成方法を他の監督やコーチ、諸先輩から学ぶことができました。

今は、トヨタ自動車の諸先輩、県協会の諸先輩方に感謝し、貴重な経験を得たことを土台に、誇りと勇気で選手強化事業に立ち向かっています。

今後は、選手強化の指導者の二代目に早くバトンタッチ出来るよう頑張ります。

日中大会の思い出

愛知県バドミントン協会副会長　伊藤鑛一

日中大会は昭和48年から両国が交互に隔年開催する形で61年まで13年間交流が続けられた。交流当初から途中中断を含め再開に際し、愛知県バドミントン協会はこの交流事業に大きな関わり合いを持っていたので、その経過を思い出としてまとめた。

いわゆる「ピンポン外交」によって中国とのスポーツ交流が芽生え、46年に前後藤鉾二本会会長（当時、日本卓球協会会長でもあった）が中国より帰国、羽田空港にて記者会見をし「バドミントンの交流は有望である」と情報を披露されたことからスタートした。

その後、国内で交流のための準備がすすめられ、48年９月来日が実現し、本県では９月13日愛知県体育館で開催することとなった。

第１回日中バドミントン競技名古屋大会（中日新聞社、東海テレビ放送等後援）は、午後５時から開会式に続き５試合が実施された。両国選手団（男女ともナショナルチーム）は、国旗を先頭に入場、両国国歌吹奏（愛知工業大学名電高等学校吹奏楽部）、後藤淳本会会長、中国選手団団長孫藍女史氏がそれぞれ挨拶、愛和学園あいわ幼稚園児の演技、花束贈呈（上原理事長の双子のお嬢ちゃん）、選手団紹介のあと本会及び中日新聞社から記念品が贈呈され開会式を終了、試合は５時40分から開始され、地元代表で池田静江（トヨタ自動車）、富居康子（豊田自動織機）が複で出場、試合の結果は中国４対１日本で一方的に中国が日本を下した。

この試合は、東海テレビ放送が全国各地へ放映し、解説を私が担当した。愛知県協会として初めてのテレビ放映であり、第１回大会に花を添えた記念すべきことであり記録として残された。



開会式での花束贈呈

尚、この大会の入場料は特別席2,000円、指定席Ａ1,500円、指定席Ｂ1,000円、自由席500円であった。

また、会場となった愛知県体育館第２体育館で中国選手団より練習したコートのラインが規格に合っていないと指摘され、測り直しをした結果、誤っていることが判明、中国選手のコート内における練習量がいかに豊富であるかあらためて驚嘆させられた。（後日、体育館側によってラインが修正された）

第２回の来日は50年11月23日、場所は愛知県体育館、中国選手団は「中国青年バドミントン代表団」と称し、役員選手15名で男女若手中心の編成、試合の結果は前回同様惨敗であった。こうして中国との交流は順調に進むかに見えたが、IBF・WBF問題（中国がIBF加盟出来なかったため、新しい組織を設立したことによる）で両国の交流が一時中断された。

中断されている期間に後藤淳現会長は、今後の対応について日中交流の原則を確認するとともに、出来るだけ早く交流を復活することを念願する書信を中国バドミントン協会会長に送られ、再開に向けて尽力された。そして、IBF・WBFが統一され中国がIBF加盟したことにより、両国の交流が55年に再開されることにな

た。李甦光団長とする15名の選手団が来日、4月26日愛知県体育館にて初戦が実施された。中国ナショナルチームは若手中心のフレッシュな編成、日本はナショナルチーム主力で編成、名古屋大会での開幕戦は空も青く晴れ上がり、雰囲気は最高であった。

観客の出足は早くも午後2時の試合開始には5,000人の入りでダフ屋まで出た位で超満員となった。館内には日中両国語で「手をつなごう世界の街と、めざそう1988年名古屋オリンピック」と書かれた看板がオリンピック名古屋誘致準備委員会によって設置され、中国チーム3度目の名古屋訪問を熱烈歓迎で迎えた。更に中部日本放送(CBC)が中国電視服務公司と共同で日中初めて第1戦の模様を中国全土にテレビ実況中継された。

1時間番組であったが、李甦光団長も後藤会長や関係者に対し最大級の言葉で感謝していたことが印象に残った。



テレビ放送の案内（中日新聞社提供）

こうして復活した日中大会は57年には日中交流正常化10周年記念として7月18日14時から名古屋市露橋スポーツセンターで名古屋大会を実施し試合後、中日ドラゴンズ球団の厚意によりナゴヤ球場で中日対ヤクルト戦を観戦、中国選手団は球場の広さ、満員の観客、試合の流れ等見るものすべてが初めてであり充分満足感を味わっていた。

5度目の来日は、その後の59年で名古屋大会は9月26日名古屋市露橋スポーツセンターで開催した。この試合に宮本美津子（デンソー）、坂本宏志（トヨタ自動車）がそれぞれ単に出場した。

このような経過をふまえて当初よりの交流が継続されて来たが、中国の国内事情による選手構成の変化等により、ナショナルチーム間の交流がむつかしくなり、60年を最後に発展的解消となり、その代り日中ジュニア交流へと移行されることになった。


ナゴヤ球場での記念写真

昭和48年から実施された日中大会は13年間（第1回から第11回まで、途中中断を含む）で終末を迎えたのである。



国内での5回の大会を全て開催

第27回鹿児島国体の思い出

トヨタ自動車OG（旧姓・池田）中野静江

トヨタ自動車工業に入社した私が実業団チームの一員となり、昭和47年国民大会鹿児島大会に愛知県代表として出場してから早くも20余年が過ぎました。記憶をたどってみると不思議なもので何一つ思い出せません。若かったなあとは思いますが、失う物を何も持たぬ無鉄砲さで、思いがけず善戦、チームが一つになって準優勝できたことは、私にとってとても良い思い出の一つになっています。

私の社会人としてのバドミントンの出発は昭和46年、トヨタ自動車工業への入社から始まりました。トヨタには同じ高校出身の先輩、上野明美さん、太田節子さん、橋本香代さんがみえたのも心強く思っていました。また、他の先輩方にもいつも大変親切にして頂き、学生時代の延長の様で実業団という意識は全く感じられませんでした。練習の後など、いつも皆で寮で食事を一緒にしたものです。そして、その年の和歌山国体予選では、偶然にも県代表の３人の中に入りとても感激しました。東海大会にも勝ち、東海代表の国体出場権を得ました。思いがけぬ喜びでしたが、結果は惨敗でした。しかし、次の国体にも出たいと思わせるきっかけを作ってくれました。

さて２年目の県予選で苦戦したものの、何とか３位入賞を果たしました。他の２名は先輩の富居さん（豊田織機）、日頃私のダブルスのパートナーをして下さっていた橋本香代さん（トヨタ自動車工業）でした。お２人共、後輩の私にとても仲良くして下さり、一緒に鹿児島に行こうと誓い合っていました。東海予選を勝ち進み、出場切符を手にできたことは嬉しいことでした。

さあ、鹿児島国体の始まりです。遠い鹿児島まで急行列車に揺られながら、今から考えると変ですが、長旅を寝台列車もなく、列車の中で一泊した覚えがあります。宿泊所は桜島のユースホステル、試合の行き帰りは船でした。それまで色々な所に試合に行きましたが、この移動方法は初めてで、びっくりしたものです。今となっては船酔いもせず、初めて参加した開会式に天皇陛下のお声も生で聞けよい経験となりました。

いよいよ試合です。１回戦は地元鹿児島県、２回戦は第１シードの北海道、準決勝は兵庫県と強敵ばかりでしたが、何とか勝ち進むことが出来ました。私自身もビックリ、何と試合を重ねる度に、普段の力以上のプレーが出来たのです。決勝は東京都、勝てるとは思いませんでしたが、３人で悔いのない試合をしようと話し合いました。結果は準優勝でしたが、私達としては誇れる準優勝。帰路は、当時人気の豪華客船「サンフラワー」に乗りました。名古屋までの旅は肩の荷も降り、皆で楽しく過ごし、今も心に残る思い出です。

皆さんも、バドミントンを通して楽しい思い出をたくさん作って下さい。



鹿児島国体メンバー（右端）

沖縄本土復帰特別国体の思い出

愛知県バドミントン協会副会長　伊藤鑛一

昭和48年５月に開催された沖縄の本土復帰を祝う「沖縄特別国体」は、番外の国体とあって参加者も通常の大会よりも抑えられ、バドミントンは一般男女の２種別、全国７ブロックから男女それぞれ１チームずつ延べ16都道府県、64人の選手団というミニ国体で、本県からは一般男子が参加した。

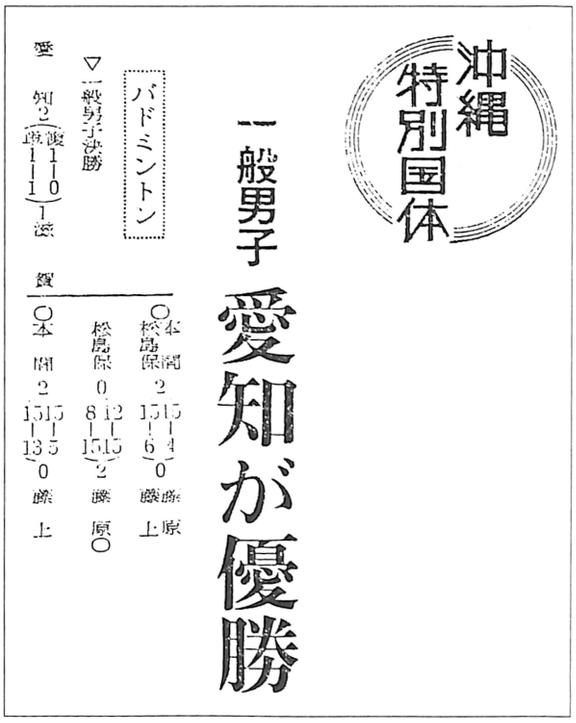
愛知県の選手団は、名古屋空港より初めての飛行機での遠征であった。

バドミントンは、石垣島の八重山高校体育館が会場であった。スタンドは、「バドミントンを生まれて初めて見る」人が多いせいか、連日満員の盛況だった。５月の沖縄は快適のはずだが会場内は、人の熱気も加わって37℃を越える暑さのため、高さ50cmの氷柱が20本位観客席に置かれたが、一向に涼しくならず、持参のウチワを盛んに動かしての観戦で、しかも１試合終了ごとに観客を入れ替える程の観客数だった。

「バドミントンは、見る人も鍛練されているんですね」と語った観客もあったと、こぼれ話を聞くほどの暑さとの戦いだった。

選手は、本間順次、松島　保、松島信之の３人で、試合は、１回戦の対福井を（２－１）、準決勝の対栃木戦を（２－０）、決勝戦では、滋賀を（２－１）で下して優勝した。

表彰式後、那覇にある愛知県本部宿舎へ集合した。帰路は、沖縄より3,000ｔ級の船であったが、道中台風に遭遇し、散々な思いをしながら大阪港へ着いた。初めての体験だったが、正に「行きは良い良い、帰りは恐い」の思い出となった。


沖縄特別国体

バドミントン

一般男子

愛知が優勝

▽一般男子決勝

愛知２（○本間　松島保　藤原○　藤原　上）１滋賀

滋賀１（松島保　本間○　藤原○　藤原　上）２愛知

愛知優勝を伝える新聞記事



一般男子選手団（前列右より２人目）

地域の指導者・父(故中村高久)の思い出

大府市教員　中村浩二

子供の頃、父親と遊んだ記憶はほとんどない。ましてや、家族全員で旅行したことなどまったくなかったと思う。いつも休みになると、父は一人でバドミントンの試合や指導に出かけていた。それでも、末っ子である私は他の兄弟に比べればかわいがられていたようだ。

小学生のとき、父が地域の人達とバドミントンのスポーツ少年団をつくったのがきっかけで私もバドミントンを始めた。自分の息子が自分と同じバドミントンをするようになったことが父にはうれしかったのか、スポーツに関しては目をかけてくれた。

中学校に入って、通う学校にバドミントン部がなかったので、私はテニス部に入ったが、3年生の郡大会のときに、父は仕事を休んで私の試合を見に来てくれた。

その後、私はずっとテニスを続けてきたが、スポーツの面では結局父を追い越せないまま父は他界してしまった。父は、現役の頃の自分の戦績を誇りに思っていたようだが、私は地域の指導者としての父を誇りに思っている。

私は、大学を出て体育の教師になったが、これも父の影響があったのかもしれない。

時代は、いろいろな面で学校体育から社会体育へ移行しようとしている。地域の体育が今ひとつ進展していかない中、父の熱心さは地域の指導者のひとつの在るべき姿を示していたと思う。



指導中の父

晩年、父は家族よりもバドミントンの仲間から愛されていた。がんの闘病生活で入院していた際に、いつも見舞ってくれたのはバドミントンの仲間であったし、69歳で他界したときに一番悲しんでくれたのは、地域の家庭婦人の方々であった。

家庭を顧みず、自分の好きなバドミントンのために生きていた父、そんな人生があってもいいが、そばでいつも苦労していたのは妻である私の母だった。亡くなる直前に、山形に住む私の姉宛に、妻への感謝の気持ちをこめた手紙を送っている。

最初で最後の妻への感謝の言葉だった。



バドミントンの仲間達と（前列右端）

〔参考〕

故・中村高久氏の活動歴

・戦　歴（全日本以上での優勝）

全日本社会人選手権大会

49年、第17回大会50歳以上男子単優勝

50年、第18回大会50歳以上男子単優勝

・役員歴

愛知県バドミントン協会

理事	46年4月～52年3月
	元年4月～3年3月
常務理事	52年4月～元年3月
普及委員長	58年4月～元年3月

県中学校連盟の設立

東海中学校教諭　伊澤忠男

私がバドミントン競技にかかわったきっかけは、私立東海中学校に奉職した昭和45年、当時のバドミントン部は創部５年目、顧問は現東海学園理事長の堀田岳成先生であった。「おい、バドミントン部の面倒をみてくれないか」との依頼で、先生が教務の仕事で忙しくされていたこともあり、新米の私は二つ返事で引き受けざるを得ない羽目になった。バドミントンの「バ」の字も知らない私は見よう見まねで生徒たちと取り組んだ。

当時中学バドミントンの公式試合と言えば、昭和42年から始まった県下学校対抗団体戦の１大会だけが、県協会の伊藤鑛一氏をはじめ、鈴木勇、野口勇、青山敏郎の各氏や、当時協会のリーダーと活躍しておられた役員の方々の運営で、県スポーツ会館の４面のコートで実施されていた。しかも参加校は男女ともにわずか３～４校だったと記憶している。

クラブ活動の顧問として、何とか生徒たちに対外試合を多く経験させてやりたいという願いから中学校大会をもっと増やして欲しいと、伊藤鑛一氏のもとに何度か足を運んだ。参加校の少ないことや、個人戦をやるには県スポの４面では会場が狭いということで断念せざるを得なかった。

そこで県下すべての中学校に手紙を出して大会への参加を呼びかけた。成岩、亀崎、萩山、守山西、淑徳、南山女子、東海の各常連中学校に加え、千種台、豊国、木曽川、応時等の各校が参加の意向を伝えてきた。昭和51年に第１回県中学生大会個人戦がいよいよスタートすることとなり、11月23日県体育館で開催された。これが県バドミントン協会中学校専門部の始まりであった。

その後、大会会場は新設なった東海中学校の体育館が確保され、昭和52年の秋には新人戦も始まり、藤山台、大府西、知立の各中学校が加わり、県中小体連バドミントン部会発足の地盤が整ってきた。

日本バドミントン協会サイドで開催されていた全国中学生大会の第２回（昭和47年）と第８回（昭和53年）が名古屋で開催されるなど様々な経験や刺激を経て県大会参加校も、男子が10校、女子が19校とようやく大会らしくなってきた。

昭和57年には県中小体連で正式種目となり、15年間協会サイドで運営されてきた県中学校大会が、その年の第36回県中学校総合体育大会の種目に加えられたのである。

ヨーロッパ遠征に参加して

淑徳高校OG（旧姓・近藤）鈴木晃代

一番残念だったことは、声を出せなかったことです。外国の選手は誰も声をださないのです。それに、大きい声を出すと見ている人がクスクス笑うのです。少しぐらい恥ずかしくても声を出せばよかったと今でも後悔しています。でも、いいこともたくさんありました。

特に、デンマークオープンに出場し、ユーバー杯に出場していたあのベラワティ・ダマヤンテー組と試合できたことが、印象に残っています。

最初に、ダマヤンテーのサービスに驚きました。スピンサーブでしたが、ネットすれすれに変化しながら飛んでくるのです。私たちは上げるしかなく、上げるとベラワティが重いスマッシュをボディめがけて打ってくるのです。サービスがどれほど大切かをあらためて知らされました。結局何もしないうちに終わってしまったという感じでした。

自分の試合をふり返ってみると、ミスが多くアウトの球までよく打っていたようです。勝てそうな試合にも負けてしまい、とても悔しかったです。でも、私にとってとてもよい経験になりました。



デンマーク遠征メンバー（右端）



'83ジャンプ

=⑧=

バドミントン
近藤　晃代
（淑徳高2年）

北欧遠征で成長

インタハイ『4強以上』めざす

156㌢、58㌔。ふだんはびコートに立つと、強いフは時速250㌔を超すが、なちょっと大めの体を気にするアイトをみせる。スマッシュプソーの女の子だが、ひとたの瞬間、シャトルのスピードストを使ったストローク。ジ

ャンプしながらクロス、カット。加えてテクニックも高校生としては一流だ。淑徳中ホ法部に二年生まで在籍。パタフライで鍛えたパワーと機敏性がいまに役立っている。

昨年二月の東海高校選抜大会で一年生ながら優大の中野和美と組んでダブルス優勝。三月中旬、全日本ジュニア代表で初の北欧遠征を経験し、帰国後の感想を聞いた。

（チームメートの杉浦清野さん）。

「この近藤も昨年九月、急性肝炎で二カ月の病院生活。「もうラケットを握れないかもしれない」。苦しみの毎日に、十七歳の乙女心は揺れ動いたが、体が回復に向かうと、「私からバドミントンを取ったら、何も残らない」と、すぐコートに立った。

だから、コートにいると、うれしくて体が自然に弾む。そんな近藤を、伊藤淑（淑高監督は「小さくまとまってしまったらおしまい。長所をできるだけ伸ばしてやりたい」と温かく見守る。近藤自身も地元のインタハイでは「ベスト4以上」と目標を決め、だれにも負けない心意気で練習に励んでいる。

雰囲気も乗り越え地元でのインタハイにかける近

歩と名古屋市の淑徳体育館で

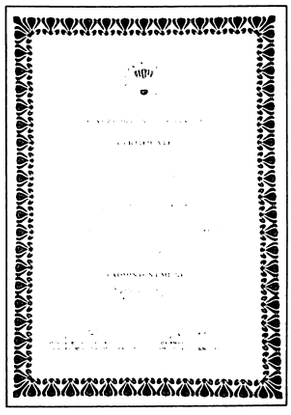
56年、中日新聞コラム

「エンジョイ・アンパイア」

愛知県バドミントン協会副理事長　山田順一郎

「国際審判員の認定試験を受験しよう」と決心したのは1992年１月頃でした。以前から、我が国で最初の国際審判員の資格を取得されていた阿彦周宜先生から再三にわたって受験を促されてきましたが、自分の語学力に自信がなく何度もお誘いをお断りしてきたのでした。さらに根底には日本人の受験者で既に不合格になった人を知っていたことも手伝って常に「試験に失敗したらどうしよう」という不安感が自分を受験から遠ざけていたのでした。しかし、IBF国際審判員の定年が55歳であることを知り自分の年齢（当時42歳）を考えたとき、初めて受験を決意したのでした。丁度その頃、２～３年に一回程度で行われる国際審判員試験がマレーシアで開催されることを知らされ、「受験してみよう」という気持ちが一層確固たるものになりました。だが、実際IBFの試験を受けるには自分の意思だけでは受験することが出来ず、それには所属する県協会の推薦、そして日本バドミントン協会の推薦が必要であるということで当時の県協会理事長、伊藤鑛一氏のお骨折りの結果、やっと日本代表の受験者として推薦していただきました。時に1992年２月でありました。試験は４月７日と決まっており、試験勉強の期間は２ケ月という短い期間であり、その間は大好きな酒も止め、大学の受験勉強以上の集中力で、必死になって勉強をしました。受験態勢に入った私の日課は次のようで、毎朝４時起床、８時まで勉強、仕事を終え早めに夕食を済ませ７時半頃から勉強を再開し11時頃まで勉強をし、12時までには就寝という日課で何とか２ケ月間続けることが出来、受験に旅立ったのでありました。

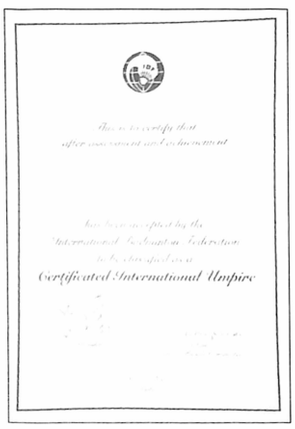
一口に国際審判員資格の取得といっても国際審判員の資格は４つの段階に分かれており、最初はアジア・バドミントン連盟（ABC）が認定するABCレベルのアクレティティッド、次にABCレベルのサーティフィケート、次にIBFのアクレティティッド、そして最後に国際審判員として最高資格のIBFサーティフィケートの資格があり、私が最初に目指したのはABCのアクレティティッドの資格の取得でありました。実技試験は同時期にマレーシアで開催されたアジア・バドミントン選手権大会を通じての審判実務の全てが実技試験であり、筆記試験は大会期間中の半日（３時間）を使って行われました。何といっても語学力の乏しい私は、先ず私以外にも受験に来ている外国人受験者の一人と友達になり、その人とマンツゥーマンで会話をして各種ミーティングの内容を聞き出したものでした。勿論これも阿彦先生から出発前にアドバイスを受けていたことの一つでした。



ABC認定証

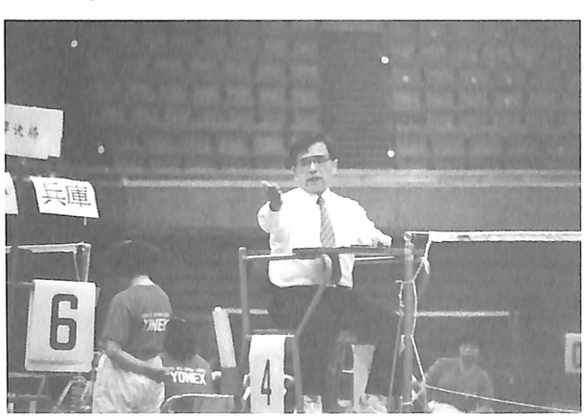
そして試験が終わり帰国し、結果を待つこと２ケ月、1992年６月に私の手元に合格証書が送付され晴れて国際審判員の一員に入れていただくことが出来ました。と同時に幸運なことに、当時はIBFの国際審判員の数が少なくABCに合格すればIBFにも合格したこととなり、一挙にIBFのアクレティティッドの資格を得ることが

出来ました。その時点で、我が国にはIBFサーティフィケートの阿彦周宜先生、IBFアクレティティッドの高橋英夫氏、さらに同じ試験を一緒に受験し合格した今井正男氏と私を入れて４人のIBF国際審判員が揃ったことになりました。そして２年後の1994年５月、今度はIBFより直接、私にサーティフィケートの受験をするよう招待状が送られて来ました。当時、我が恩師でありまた我が国で最初のIBFサーティフィケート国際審判員でいらっしゃった阿彦先生は、1993年７月に若くして既に他界され、日本の国際審判員の数は、IBFアクレティティッドが私を含め３名という現状でありました。そんなわけで日本人のサーティフィケートを養成するということで、IBFからの白羽の矢が私に当てられたと思い、たび重なる幸運にただ感謝するばかりでした。IBFサーティフィケートの試験は実技試験のみで、又、アジア地域のシンガポールで開催されたため、すんなり合格することができ当時としては日本で唯一人のIBFサーティフィケート国際審判員に晴れてなることができました。



IBFサーティフィケート認定証

今、思い起こせば私自身の審判との係わりは私が岡山で大学生活をしていた１回生の時に、審判養成のための講習会を受験し、かの湯木博江選手を育てた山陽女子高校の毛利清志先生が講師として指導に当たられ講習の最後に一つの問題提起をされて講習会を閉じられました。その問いかけは「試合に未登録の選手が出場し、その選手が優勝し大会を終了してしまった。その時あなたはどうしますか？」という問いでした。そのころ、自分自身、競技規則に対しては高校生の時から興味をもっており、それなりに規則書に精通していたつもりですが、やはり事例の書いていないことに関してはまだまだ答えが出ませんでした。そのとき自分の解釈度は低いと痛感し、それ以来、審判というものに対してプレーをすることと同じくらい興味をもつようになりました。学生時代を含め岡山で７年すごす間に、さらに上級の認定試験を、これも又ご縁で伊藤鑛一日本協会審判委員会委員長の元で受験させていただき、昔の資格でいう２級の資格を取得し、愛知に戻ることが出来ました。愛知に戻ってからも何とか地元のお役に立ちたいと思っていた矢先、県協会役員として迎えていただき、以来20余年、最初は審判委員会委員として配属され、次に広報委員長、審判委員長と務めさせて頂き現在に至っている訳ですが、いままでの自分の人生に大きな喜びと、楽しみを与えてくれたバドミントンに感謝するとともに、これからも地元のバドミントン界の発展を第一に考えつつ、日本バドミントン協会、国際バドミントン連盟（IBF）との関連をもち、日本のバドミントンの発展に尽力させて頂く所存です。今後共、よろしくご指導をお願い申し上げます。



６年度、全日本家庭婦人大会での審判

わかしゃち国体の思い出

愛知県バドミントン協会副理事長　油井秀男

国体開催から４年が経過し、薄れていく記憶のなか、第49回国民体育大会バドミントン競技会の当時の記録を整理し、県バドミントン協会の活動と大府市の行政の支援等を思い出して経緯を纏めました。昭和60年に開催が計画され、平成６年の大会開催､終了後４年経過しており、思い出すまま列記しました。

「わかしゃち国体バドミントン競技」は平成６年10月30日～11月２日にわたって大府市民体育館で開催され成功裡に終わりました。

特に、国体種目にバドミントン競技が採用されたのは、昭和25年に開催された第５回愛知国体からであり、二巡目の国体として意義のある大会でもありました。

始めに国体を大府市に開催する事に決定した背景には、大府市、大府市体育協会の積極的な誘致がありました｡市内のバドミントン愛好者、特にスポーツ少年団、ファミリークラブ、家庭婦人、実業団の皆さんの理解が得られたことが開催誘致が決定された大きな要因であると思います。次に国体の誘致にむけて、以下の取組みがなされました。

昭和61年６月　大府市として誘致種目
　　バドミントン希望内定
昭和62年11月　大府市として誘致種目
　　バドミントン決定
昭和63年６月　大府市議会において
　　誘致の決議を可決
昭和63年９月　大府市開催準備委員会設置

国体開催迄の運営の習得と併せ円滑な大会を推進するため全国規模の大会を誘致し、競技面における運営、審判技術の育成を基本に進めていきました。

一方、各大会に対しての大府市の行政側における支援は、各年次毎の大会においても微に入り細にわたる取組みの姿勢は計画的で、かつ実行面でも素晴らしかったと他県の協会の方々に評価されました。

以下、全日本選手権大会を開催した大会名をあげると

平成元年11月　第６回全日本シニア
　　バドミントン選手権大会
平成３年８月　国体開催記念日韓ジュニア
　　バドミントン大会
平成４年８月　第２回全日本混合バドミントン選手権大会
平成５年９月　第36回全日本社会人バドミントン選手権大会兼第48回国民体育大会リハーサル大会
平成６年３月　第22回全日本高校選抜
　　バドミントン選手権大会

以上の大会を開催しましたが、協会そして大府市の一丸となった協力で、成果は前述のとおりです。

また、大府市バドミントン連盟としても、大府市民総意での国体気運を盛り上げるために、次の大会を開催しました。

平成４年３月　国体開催1000日前大会
平成５年６月　国体開催500日前大会

老いも若きも、ラケットを持ってこの大会に参加し、盛大に開催されました。これもスポーツ少年団から実業団までの日頃の活発な活動が功を奏したものであり、このことがまた国体成功の原動力の一つにあげられます。

大府市においても市民運動、式典、宿泊、衛生、輸送交通、防災、観光、施設、通信、保健等、計画的に進められ、そして実行委員会が作成した競技記録写真「感動」は、競技を始め、市民運動、民泊の記録を今後に伝える貴重な資料だと思います。

我々協会が競技向上を主力としながらも、大会運営のマニュアル化、選手のコンディション重視の姿勢を貫いたことは、その成果が今も生きております。

中でも、審判部門の成果が上がったことが特筆されます。有資格者の養成拡大と審判技術の向上を推し進め、国体開催県への審判員派遣を実施し、実戦面での目と機敏な対応等を養ったため、愛知県審判員の優秀さは他県にも良い評価を得ています。これも国体開催の成果の一つであろうと思います。

選手強化では、少年男女は高校の先生方と強化本部員の努力には頭がさがりました。成年男女も企業採用難により補強がままならない中、それでも一致協力して技術のアップをはかり、総合優勝は逸したものの、総合５位の成績となりました。

国体と言う我が国の最高レベルの大会を終わってみて思い出しながら列記しましたが、わかしゃち国体から参加資格がナショナルチーム、大学生へと広がる中、今回の国体の開催の経験を大いに活かして愛知県バドミントン協会の飛躍を目指していきたいものです。



産業文化まつり会場での　わかしゃち展



香川県坂出市長より国体旗を引き継ぐ



わかしゃち国体開催100日前記念パレード

資料編

歴代役員

愛知県バドミントン協会

役員名簿

名誉会長

No.	氏　名	就任期間
1	後藤　卯二	昭和35年4月～昭和38年3月

会　長

No.	氏　名	就任期間
1	青井　節郎	昭和23年2月～昭和29年3月
2	多武良哲三	昭和29年4月～昭和35年3月
3	重富　克美	昭和35年4月～昭和38年3月
4	後藤　卯二	昭和38年4月～昭和47年1月
5	後藤　　淳	昭和47年4月～

昭和47年2・3月は長谷川参三副会長が会長代行

副会長

No.	氏　名	就任期間
1	清水　講一	昭和23年4月～昭和24年3月
2	秋月　一孝	昭和24年4月～昭和25年3月 昭和35年4月～昭和42年3月
3	斉藤　住吉	昭和25年4月～昭和26年3月
4	長谷川参三	昭和35年4月～昭和58年3月
5	吉岡　紹直	昭和48年4月～昭和58年3月
6	安部栄一郎	昭和58年4月～昭和60年3月
7	渡辺　成雄	昭和58年4月～
8	野口　　勇	昭和62年4月～
9	青山　敏郎	昭和62年4月～
10	伊藤　鐵一	平成7年4月～

顧　問

No.	氏　名	就任期間
1	青井　節郎	昭和37年4月～昭和50年3月 昭和52年4月～昭和56年3月
2	近藤富之丞	昭和37年4月～昭和50年3月 昭和52年4月～昭和58年3月
3	重富　克美	昭和38年4月～昭和50年3月 昭和52年4月～昭和62年3月
4	秋月　一孝	昭和42年4月～昭和50年3月
5	榎本　彦次	昭和52年4月～昭和58年3月
6	長谷川参三	昭和58年4月～昭和58年12月
7	吉岡　紹直	昭和58年4月～昭和60年3月

参　与

No.	氏　名	就任期間
1	都筑　金助	昭和48年4月～昭和50年3月 昭和52年4月～昭和54年3月 昭和56年4月～昭和58年3月
2	日崎　久男	平成元年4月～

理事長

No.	氏　名	就任期間
1	水谷　国広	昭和23年2月～昭和24年3月
2	長谷川参三	昭和24年4月～昭和35年3月
3	渡辺　成雄	昭和35年4月～昭和58年3月
4	伊藤　鐵一	昭和58年4月～平成7年3月
5	上原　信彦	平成7年4月～

副理事長

No.	氏　名	就任期間
1	野口　　勇	昭和48年4月～昭和62年3月
2	伊藤　鐵一	昭和48年4月～昭和58年3月
3	青山　敏郎	昭和56年4月～昭和62年3月
4	油井　秀男	昭和58年4月～
5	田中　章喜	昭和58年4月～昭和59年3月
6	上原　信彦	昭和62年4月～平成7年3月
7	山田順一郎	昭和62年4月～
8	伊藤　一夫	平成7年4月～

常務理事

No.	氏　名	就任期間
1	加藤　三郎	昭和46年4月～昭和58年3月
2	後藤　　守	昭和46年4月～昭和60年3月
3	野口　　勇	昭和46年4月～昭和48年3月
4	青山　敏郎	昭和46年4月～昭和56年3月
5	伊藤　鐵一	昭和46年4月～昭和48年3月
6	田中　章喜	昭和46年4月～昭和58年3月 昭和60年4月～平成9年3月
7	上原　信彦	昭和46年4月～昭和62年3月
8	中野　正紀	昭和46年4月～平成7年3月
9	尾関　敏教	昭和46年4月～昭和54年3月
10	小林　洋栄	昭和46年4月～昭和47年3月
11	野口　　譲	昭和46年4月～昭和48年3月
12	大場　直美	昭和47年4月～昭和56年3月
13	油井　秀男	昭和48年4月～昭和58年3月
14	多賀　純一	昭和48年4月～平成3年3月
15	岡本　哲男	昭和48年4月～昭和50年3月
16	鈴木　勝美	昭和48年4月～昭和58年3月 昭和60年4月～
17	飯村　順一	昭和48年4月～
18	服部　敏男	昭和50年4月～昭和52年3月
19	鈴木　　勇	昭和50年4月～平成元年3月
20	伊藤　雅昭	昭和50年4月～平成元年3月
21	清水　善勝	昭和50年4月～
22	山口　武満	昭和50年4月～昭和52年3月
23	井沢　　宏	昭和50年4月～昭和60年3月
24	平松　孝孔	昭和52年4月～昭和58年3月
25	伊澤　忠男	昭和52年4月～昭和60年3月
26	中村　高久	昭和52年4月～平成元年3月
27	山田順一郎	昭和54年4月～昭和62年3月
28	平岩　友憲	昭和54年4月～平成3年3月
29	武田　正雄	昭和54年4月～
30	竹下　輝雄	昭和54年4月～昭和58年3月
31	秦　　信昭	昭和60年4月～平成5年3月
32	山本　卓男	昭和62年4月～
33	伊藤　一夫	昭和62年4月～平成7年3月
34	松島　　保	平成元年4月～
35	細野　節子	平成元年4月～
36	佐藤　荘二	平成3年4月～

No.	氏　名	就任期間
37	児玉　康雄	平成3年4月～平成5年3月
38	原　賢一	平成3年4月～
39	樋口　寿男	平成5年4月～平成7年3月
40	清水　光夫	平成5年4月～平成9年3月
41	大谷　勇	平成7年4月～平成9年3月
42	下込　貞司	平成9年4月～
43	鈴木　正一	平成9年4月～
44	大野　敏子	平成9年4月～
45	杉浦　雅紀	平成9年4月～

理　事

No.	氏　名	就任期間
1	八木　菊部	昭和23年2月
2	中村　芳博	昭和23年2月
3	神谷　歌二	昭和23年2月
4	下谷　秀雄	昭和23年2月
5	立松　進	昭和23年2月
6	山内　三秋	昭和23年2月
7	中野　年弘	昭和23年2月
8	奥田　弘典	昭和23年2月
9	金森　幸子	昭和23年2月
10	水野　啓造	昭和23年2月
11	水野　弘	昭和23年2月
12	山城　智徳	昭和35年4月～昭和39年3月
13	野口　勇	昭和35年4月～昭和46年3月
14	青山　敏郎	昭和35年4月～昭和46年3月
15	伊藤　鑛一	昭和35年4月～昭和46年3月
16	永田　堯澄	昭和35年4月～昭和44年3月
17	渡辺　清	昭和35年4月～昭和44年3月
18	水谷　国広	昭和35年4月～昭和42年3月
19	梁瀬久太郎	昭和35年4月～昭和42年3月
20	都筑　金助	昭和35年4月～昭和48年3月
21	山本　英夫	昭和35年4月～昭和42年3月
22	目崎　久男	昭和35年4月～昭和50年3月
23	服部　興治	昭和35年4月～昭和40年3月 昭和42年4月～昭和48年3月 昭和50年4月～昭和52年3月
24	矢藤　紀之	昭和35年4月～昭和36年3月 昭和38年4月～昭和39年3月
25	二杁　幸夫	昭和35年4月～昭和38年3月
26	津坂　明彦	昭和35年4月～昭和38年3月
27	岩堀　武	昭和35年4月～昭和36年3月
28	笠井　康助	昭和35年4月～昭和37年3月
29	小澤　一郎	昭和35年4月～昭和37年3月
30	松岡　広康	昭和35年4月～昭和37年3月
31	加納　利彦	昭和35年4月～昭和37年3月
32	小沢　靖彦	昭和35年4月～昭和42年3月
33	水野　金弘	昭和37年4月～昭和39年3月
34	土屋　宏	昭和37年4月～昭和39年3月
35	伊藤　芳樹	昭和37年4月～昭和40年3月
36	丹羽　勝司	昭和38年4月～昭和40年3月
37	北田　寛一	昭和38年4月～昭和44年3月 昭和50年4月～昭和52年3月
38	山崎　一郎	昭和38年4月～昭和40年3月
39	入谷　誠也	昭和38年4月～昭和40年3月
40	小森　成二	昭和38年4月～昭和42年3月
41	清水　重秋	昭和39年4月～昭和40年3月
42	後藤　守	昭和39年4月～昭和46年3月
43	近藤　健二	昭和39年1月～昭和42年3月
44	大脇宏一郎	昭和39年1月～昭和42年3月
45	浅井　英雄	昭和39年1月～昭和42年3月
46	加藤　三郎	昭和40年4月～昭和46年3月 昭和58年4月～昭和60年3月
47	田中　章喜	昭和40年4月～昭和46年3月
48	上原　信彦	昭和40年4月～昭和46年3月
49	立松　健市	昭和40年4月～昭和48年3月
50	丹羽　忠司	昭和40年4月～昭和44年3月
51	勝野　宏	昭和40年4月～昭和44年3月
52	鈴木　英二	昭和40年4月～昭和48年3月
53	稲熊　文隆	昭和40年4月～昭和48年3月
54	栗田　迺	昭和40年4月～昭和48年3月
55	安達　桑勇	昭和40年4月～昭和42年3月
56	吉田　恵之	昭和40年4月～昭和42年3月
57	竹田　守	昭和40年4月～昭和42年3月
58	土井　孝夫	昭和40年4月～昭和42年3月
59	大竹　武	昭和40年4月～昭和42年3月
60	河合　義明	昭和40年4月～昭和42年3月
61	丹羽　重則	昭和40年4月～昭和42年3月
62	西野　淳造	昭和42年4月～昭和45年3月
63	伊藤　昭司	昭和42年4月～昭和46年3月
64	鈴木　勇	昭和38年4月～昭和50年3月 平成元年4月～平成3年3月
65	服部　直彰	昭和42年4月～昭和44年3月
66	新美　宜伸	昭和42年4月～昭和44年3月
67	小出　桑之	昭和42年4月～昭和44年3月
68	佐藤　雅彦	昭和42年4月～昭和44年3月
69	安楝　信雄	昭和42年4月～昭和44年3月
70	加納　和男	昭和42年4月～昭和44年3月
71	早川　松弘	昭和42年4月～昭和44年3月
72	岡野　巍	昭和42年4月～昭和44年3月
73	中野　正紀	昭和44年4月～昭和46年3月 平成7年4月～
74	尾関　敏教	昭和44年4月～昭和46年3月 昭和54年4月～昭和56年3月
75	各務　通則	昭和44年4月～昭和58年3月
76	油井　秀男	昭和44年4月～昭和48年3月
77	多賀　純一	昭和44年4月～昭和48年3月
78	小笠原桂市	昭和44年4月～昭和46年3月
79	鬼頭　英二	昭和44年4月～昭和46年3月
80	千田　真澄	昭和44年4月～昭和46年3月
81	今中　輝夫	昭和44年4月～昭和46年3月
82	横田　知立	昭和44年4月～昭和46年3月
83	大村　真司	昭和44年4月～昭和46年3月
84	岡垣戸　章	昭和44年4月～昭和46年3月
85	水野　桂市	昭和46年4月～昭和50年3月
86	清水　善勝	昭和46年4月～昭和50年3月
87	岡本　哲男	昭和46年4月～昭和48年3月
88	中村　高久	昭和46年4月～昭和52年3月 平成元年4月～平成3年3月
89	三浦　達夫	昭和46年4月～昭和48年3月
90	篠田　忠明	昭和46年4月～昭和50年3月
91	鈴木　勝美	昭和46年4月～昭和48年3月 昭和58年4月～昭和60年3月
92	土井　孝夫	昭和40年4月～昭和42年3月 昭和46年4月～昭和48年3月
93	亀井　勇	昭和46年4月～平成元年3月
94	中溝　誠	昭和46年4月～昭和56年3月
95	荻原　剛	昭和46年4月～昭和48年3月
96	松本　安司	昭和46年4月～昭和48年3月
97	山口　武満	昭和46年4月～昭和50年3月
98	飯村　順一	昭和46年4月～昭和48年3月
99	鈴木　孝昌	昭和46年4月～昭和50年3月

No.	氏　名	就任期間
100	井沢　宏	昭和46年4月～昭和50年3月 昭和60年4月～平成3年3月
101	居波　厚二	昭和47年4月～昭和50年3月
102	堀江　均	昭和47年4月～昭和50年3月
103	蟹江　利治	昭和47年4月～昭和50年3月
104	伊藤　雅昭	昭和48年4月～昭和50年3月 平成元年4月～平成5年3月
105	遠藤　長生	昭和48年4月～昭和50年3月
106	田辺　久人	昭和48年4月～昭和50年3月
107	服部　敏雄	昭和48年4月～昭和50年3月
108	小野　勝洋	昭和50年4月～昭和56年3月
109	松島　保	昭和50年4月～平成元年3月
110	平岩　友憲	昭和50年4月～昭和54年3月 平成3年4月～平成7年3月
111	山本　卓男	昭和50年4月～昭和62年3月
112	佐藤　桑理	昭和50年4月～
113	武田　正雄	昭和50年4月～昭和54年3月
114	吉川　園市	昭和50年4月～昭和52年3月
115	竹下　輝雄	昭和50年4月～昭和54年3月
116	長谷部　宏	昭和50年4月～昭和52年3月
117	大田　稔	昭和50年4月～昭和52年3月
118	八木　伸二	昭和50年4月～昭和52年3月
119	西原　紀鏘	昭和50年4月～昭和52年3月
120	福田　寿一	昭和50年4月～昭和52年3月
121	加納　義之	昭和50年4月～昭和52年3月
122	八神　由一	昭和52年4月～昭和54年3月
123	水谷　孝幸	昭和52年4月～昭和56年3月
124	山岡　雄一	昭和52年4月～昭和58年3月
125	水野　久雄	昭和52年4月～昭和56年3月
126	曽我　信重	昭和52年4月～昭和56年3月
127	清水　尚	昭和52年4月～昭和56年3月
128	堀　幸矩	昭和52年4月～平成元年3月
129	伊藤　俊彦	昭和52年4月～昭和56年3月
130	井上　良一	昭和52年4月～昭和56年3月
131	岩田　英嗣	昭和52年4月～昭和56年3月
132	杉山　清貴	昭和52年4月～昭和56年3月
133	志知　広康	昭和52年4月～昭和56年3月
134	武藤　要介	昭和52年4月～昭和56年3月 平成3年4月～
135	遠藤　俊哉	昭和52年4月～昭和56年3月
136	毛利　光一	昭和52年4月～昭和56年3月
137	山崎　実興	昭和54年4月～昭和60年3月
138	渡辺　幸男	昭和54年4月～昭和60年3月
139	金森　文雄	昭和54年4月～昭和58年3月
140	長谷川義男	昭和54年4月～昭和58年3月
141	松濤　一乗	昭和54年4月～昭和56年3月
142	岡本　誠	昭和54年4月～昭和56年3月
143	真野　一	昭和54年4月～昭和56年3月
144	藤江　至	昭和56年4月～平成元年3月
145	奥田　佳弘	昭和56年4月～昭和58年3月
146	森　大介	昭和56年4月～昭和60年3月 昭和62年4月～平成元年3月
147	田村　誠	昭和56年4月～昭和58年3月
148	伊藤　一夫	昭和56年4月～昭和62年3月
149	細野　節子	昭和56年4月～平成元年3月
150	野中恵美子	昭和56年4月～昭和58年3月
151	真野　洋子	昭和56年4月～昭和58年3月
152	小県美恵子	昭和56年4月～昭和58年3月
153	脇田　徹也	昭和56年4月～昭和58年3月
154	西尾　雅美	昭和56年4月～昭和58年3月
155	櫛田　康仁	昭和56年4月～昭和58年3月
156	祖父江茂雄	昭和56年4月～昭和58年3月
157	本田　道明	昭和56年4月～昭和58年3月
158	佐藤　荘二	昭和58年4月～平成3年3月
159	原　弘典	昭和58年4月～昭和60年3月
160	石田　義則	昭和58年4月～昭和60年3月
161	深谷　秀司	昭和58年4月～昭和60年3月
162	清水　光夫	昭和58年4月～平成元年3月 平成3年4月～平成5年3月
163	伊藤　司	昭和60年4月～昭和62年3月
164	武田　省司	昭和60年4月～昭和62年3月
165	柴田　正和	昭和60年4月～昭和62年3月
166	本城　幹康	昭和62年4月～平成元年3月
167	近藤　盛人	昭和62年4月～平成元年3月
168	鈴木　敏之	昭和62年4月～平成元年3月
169	岩田　崇	平成元年4月～平成5年3月 平成9年4月～
170	増田　博康	平成元年4月～平成7年3月
171	原　賢一	平成元年4月～平成3年3月
172	山田　薫	平成元年4月～
173	池田　藤代	平成元年4月～
174	長塩　訓章	平成元年4月～平成3年3月
175	堀井　隆	平成元年4月～平成3年3月
176	山村　幸一	平成元年4月～平成3年3月
177	佐藤　靖	平成3年4月～平成5年3月
178	曽羽　一博	平成3年4月～平成5年3月
179	樋口　寿雄	平成4年4月～平成6年3月
180	大野　敏子	平成5年4月～平成9年3月
181	沢田　正夫	平成5年4月～平成9年3月
182	安藤　健次	平成5年4月～
183	根塚　浩壮	平成5年4月～平成7年3月
184	井上　龍	平成5年4月～
185	大谷　勇	平成6年4月～平成7年3月
186	下込　貞司	平成7年4月～平成9年3月
187	朝倉　康善	平成7年4月～
188	天埜　良彦	平成7年4月～
189	石川　憲市	平成7年4月～
190	杉本　雅人	平成7年4月～平成9年3月
191	水谷　淳	平成9年4月～
192	恵木　康行	平成9年4月～
193	田立　昌人	平成9年4月～
194	中澤　誠	平成9年4月～

監　事

No.	氏　名	就任期間
1	深津　豊	昭和42年4月～昭和46年3月
2	小澤　靖彦	昭和42年4月～
3	北田　寛一	昭和46年4月～昭和50年3月
4	日崎　久男	昭和50年4月～昭和62年3月
5	池田　茂樹	昭和62年4月～

役員構成表

年度	名誉会長(氏名)	会長(氏名)	副会長	参　与	顧　問	理事長(氏名)	副理事長	常務理事	理　事	監　事
S22		青井　節郎	1			水谷　国広			11	
23		〃	1			〃				
24		〃	1			長谷川参三				
25		〃	1			〃				
26		〃				〃				
27		〃				〃				
28		〃				〃				
29		多武良哲三				〃				
30		〃				〃				
31		〃				〃				
32		〃				〃				
33		〃				〃				
34		〃				〃				
35	後藤　鉀二	重富　克美	2			渡辺　成雄			17	
36	〃	〃	2			〃			21	
37	〃	〃	2		2	〃			18	
38		後藤　鉀二	2		3	〃			22	
39		〃	2		3	〃			23	
40		〃	2		3	〃			33	
41		〃	2		3	〃			33	
42		〃	1		4	〃			30	2
43		〃	1		4	〃			30	2
44		〃	1		4	〃			29	2
45		〃	1		4	〃			29	2
46		〃	1		4	〃		11	26	2
47		後藤　　淳	1		4	〃		11	30	2
48		〃	2	1	4	〃	2	13	16	2
49		〃	2	1	4	〃	2	13	19	2
50		〃	2			〃	2	18	22	2
51		〃	2			〃	2	18	22	2
52		〃	2	1	4	〃	2	20	25	2
53		〃	2	1	4	〃	2	20	25	2
54		〃	2		4	〃	2	23	29	2
55		〃	2		4	〃	2	23	29	2
56		〃	2	1	3	〃	3	21	25	2
57		〃	2	1	3	〃	3	21	25	2
58		〃	2		3	伊藤　鏞一	4	15	18	2
59		〃	2		3	〃	3	15	18	2
60		〃	1		1	〃	3	15	14	2
61		〃	1		1	〃	3	15	14	2
62		〃	3			〃	3	15	13	2
63		〃	3			〃	3	15	13	2
H1		〃	3	1		〃	3	14	14	2
2		〃	3	1		〃	3	14	14	2
3		〃	3	1		〃	3	15	11	2
4		〃	3	1		〃	3	15	11	2
5		〃	3	1		〃	3	15	11	2
6		〃	3	1		〃	3	15	11	2
7		〃	4	1		上原　信彦	3	13	14	2
8		〃	4	1		〃	3	13	14	2
9		〃	4	1		〃	3	14	15	2
10		〃	4	1		〃	3	14	15	2

愛知県実業団バドミントン連盟

役員名簿

名誉会長

No.	氏　名	就任期間
1	深津　豊	平成9年4月～

会　長

No.	氏　名	就任期間
1	深津　豊	昭和56年4月～平成9年3月
2	速水　正昭	平成9年4月～

副会長

No.	氏　名	就任期間
1	速水　正昭	昭和56年4月～平成9年3月
2	油井　秀男	平成7年4月～
3	多賀　純一	平成9年4月～

参　与

No.	氏　名	就任期間
1	多賀　純一	平成3年4月～平成8年3月

理事長

No.	氏　名	就任期間
1	油井　秀男	昭和54年10月～平成7年3月
2	武田　正雄	平成7年4月～

副理事長

No.	氏　名	就任期間
1	多賀　純一	昭和54年10月～平成3年3月
2	武田　正雄	平成元年4月～平成7年3月
3	鈴木　勝美	平成3年4月～
4	山本　卓男	平成7年4月～

常務理事

No.	氏　名	就任期間
1	上原　信彦	昭和54年10月～
2	伊藤　雅昭	昭和54年10月～平成7年3月
3	堀　幸矩	昭和54年10月～平成7年3月
4	藤江　至	昭和54年10月～平成元年3月
5	井沢　宏	昭和54年10月～平成7年3月
6	武田　正雄	昭和54年10月～平成元年3月
7	鈴木　勝美	昭和54年10月～平成3年3月
8	中村　高久	昭和54年10月～昭和58年3月
9	加藤　三郎	昭和54年10月～昭和58年3月
10	鈴木　勇	昭和54年10月～昭和58年3月
11	山本　卓男	昭和56年4月～平成7年3月
12	佐藤　秦理	昭和56年4月～
13	松島　保	昭和56年4月～
14	後藤　守	昭和54年10月～昭和60年3月
15	渡辺　幸男	平成元年4月～平成3年3月
16	曽我　信重	平成7年4月～
17	山口　武満	昭和56年4月～
18	竹下　輝雄	昭和56年4月～昭和58年3月
19	井上　龍	平成3年4月～
20	岩田　崇	平成3年4月～平成5年3月
21	沢田　正夫	平成3年4月～
22	伊藤　正昭	平成7年4月～
23	朝倉　康善	平成9年4月～

理　事

No.	氏　名	就任期間
1	小野　勝洋	昭和54年10月～昭和58年3月
2	小野　修司	昭和54年10月～昭和58年3月
3	水野　久雄	昭和54年10月～昭和58年3月
4	金森　文雄	昭和54年10月～昭和58年3月
5	渡辺　幸男	昭和54年10月～平成元年3月 平成3年4月～平成5年3月
6	竹下　輝雄	昭和58年4月～
7	山岡　雄一	昭和56年4月～昭和60年3月
8	西園　英春	昭和58年4月～平成3年3月
9	鈴木　欣老	昭和58年4月～
10	岩田　崇	昭和58年4月～昭和60年3月 平成元年4月～平成3年3月 平成9年4月～
11	沢田　正夫	昭和60年4月～平成3年3月
12	井上　龍	平成元年4月～平成3年3月
13	亀谷　幸生	平成元年4月～平成3年3月
14	飯見　隆治	平成3年4月～
15	日比野伸昭	平成3年4月～
16	吉川　寿春	平成3年4月～
17	朝倉　康善	平成5年4月～平成9年3月
18	伊藤　正昭	平成5年4月～平成7年3月
19	磯野　雄二	平成7年4月～
20	峰　登志郎	平成7年4月～
21	早川　満志	平成7年4月～
22	井上　良一	昭和54年10月～昭和58年3月
23	清水　尚	昭和54年10月～
24	平野　博久	昭和54年10月～昭和58年3月
25	渡辺　俊治	昭和54年10月～昭和60年3月
26	曽我　信重	昭和54年10月～平成7年3月
27	天野　良彦	平成9年4月～
28	青山　忠雄	平成9年4月～

監　事

No.	氏　名	就任期間
1	大東　祥順	昭和54年10月～平成7年3月
2	小川雄一郎	昭和54年10月～
3	平野　博久	平成9年4月～

役員構成表

年度	名誉会長(氏名)	会長(氏名)	副会長	参　与	顧　問	理事長(氏名)	副理事長	常務理事	理　事	監　事
S54						油井　秀男	1	11	13	2
55						〃	1	11	13	2
56		深津　豊	1			〃	1	16	11	2
57		〃	1			〃	1	16	11	2
58		〃	1			〃	1	12	9	2
59		〃	1			〃	1	12	9	2
60		〃	1			〃	1	11	7	2
61		〃	1			〃	1	11	7	2
62		〃	1			〃	1	11	7	2
63		〃	1			〃	1	11	7	2
H1		〃	1			〃	2	10	9	2
2		〃	1			〃	2	11	9	2
3		〃	1	1		〃	2	11	8	2
4		〃	1	1		〃	2	11	8	2
5		〃	1	1		〃	2	10	9	2
6		〃	1	1		〃	2	10	8	2
7		〃	2	1		武田　正雄	2	8	10	1
8		〃	2	1		〃	2	8	10	1
9	深津　豊	速水　正昭	2			〃	2	9	12	2
10	〃	〃	2			〃	2	9	12	2

愛知県社会人バドミントン連盟

役員名簿

会　長

No.	氏　名	就任期間
1	安部栄一郎	昭和56年4月～昭和60年3月
2	青山　敏郎	昭和62年4月～

顧　問

No.	氏　名	就任期間
1	水野　啓造	昭和56年4月～
2	野口　勇	平成7年4月～

理事長

No.	氏　名	就任期間
1	青山　敏郎	昭和54年10月～昭和62年3月
2	清水　善勝	昭和62年4月～

副理事長

No.	氏　名	就任期間
1	清水　善勝	昭和60年4月～昭和62年3月
2	山田順一郎	昭和60年4月～
3	伊藤　一夫	昭和62年4月～

常務理事

No.	氏　名	就任期間
1	清水　善勝	昭和54年10月～昭和60年3月
2	山田順一郎	昭和54年10月～昭和60年3月
3	田村　誠	昭和56年4月～昭和60年3月
4	伊藤　一夫	昭和56年4月～昭和62年3月
5	鈴木　勇	昭和58年4月～昭和60年3月
6	森　大介	昭和56年4月～
7	大場　直美	昭和54年10月～昭和56年3月
8	山岡　雄一	昭和54年10月～昭和56年3月
9	中口　直人	昭和62年4月～平成7年3月
10	山田　薫	昭和62年4月～
11	原　賢一	平成元年4月～平成7年3月
12	武藤　要介	平成3年4月～
13	池田　茂樹	平成元年4月～
14	増田　博康	昭和58年4月～
15	天埜　良彦	平成7年4月～
16	野中　孝明	平成9年4月～

理　事

No.	氏　名	就任期間
1	伊藤　一夫	昭和54年10月～昭和56年3月
2	森　大介	昭和54年10月～昭和56年3月
3	中口　直人	昭和54年10月～昭和62年3月
4	平山　忠利	昭和54年10月～
5	山本　敏夫	昭和54年10月～昭和58年3月
6	菊地　寿美	昭和54年10月～平成9年3月
7	山田　薫	昭和54年10月～昭和62年3月
8	杉山恵美子	昭和54年10月～昭和56年3月
9	田村　誠	昭和54年10月～昭和58年3月
10	松影　和夫	昭和56年4月～昭和58年3月
11	百々　聡	昭和56年4月～昭和58年3月
12	増田　博康	昭和56年4月～昭和58年3月
13	中村伊佐夫	昭和56年4月～
14	鎌倉　淑子	昭和56年4月～昭和58年3月
15	佐藤　淑子	昭和58年4月～
16	小関　伝	昭和56年4月～昭和58年3月
17	竹重三八男	昭和58年4月～平成元年3月
18	江角　康広	昭和58年4月～昭和60年3月
19	杉江　誠	昭和58年4月～昭和60年3月
20	栗田　迪	昭和60年4月～昭和62年3月
21	加藤　貴敏	昭和60年4月～
22	毛利　光一	昭和60年4月～
23	鷲見　健司	昭和60年4月～昭和62年3月
24	武藤　要介	昭和60年4月～平成3年3月
25	池田　茂樹	昭和60年4月～平成元年3月
26	山内　宣樹	昭和60年4月～平成5年3月
27	鈴木　昌雄	昭和60年4月～昭和62年3月
28	原　賢一	昭和62年4月～平成元年3月
29	榊原不二夫	平成元年4月～
30	本城　幹康	平成元年4月～平成5年3月 平成7年4月　～
31	加藤　千晴	平成元年4月～平成3年3月
32	松浦　千晴	平成3年4月～平成7年3月
33	野中　孝明	平成3年4月～平成9年3月
34	松岡　保	平成3年4月～
35	井上　英人	平成3年4月～平成5年3月
36	高橋　久登	平成3年4月～
37	高田　太郎	平成3年4月～平成5年3月
38	石田　義則	平成5年4月～平成9年3月
39	中島　好恵	平成5年4月～平成7年3月
40	久田　吉孝	平成5年4月～
41	恵木　清子	平成5年4月～平成7年3月
42	鬼頭　輝雄	平成7年4月～平成10年3月
43	鈴木　明美	平成7年4月～
44	西尾　昌実	平成7年4月～
45	横野　公一	平成7年4月～
46	富田　義彦	平成7年4月～
47	伊藤　智子	平成7年4月～平成9年3月
48	中村　和代	平成7年4月～
49	土本真理子	平成10年4月～

監　事

No.	氏　名	就任期間
1	日崎　久男	昭和54年10月～平成56年3月
2	柴田　郁男	昭和56年4月～平成元年3月
3	志知　広康	昭和56年4月～昭和58年3月
4	栗田　迪	昭和58年4月～昭和60年3月
5	鈴木　勇	昭和60年4月～
6	勝村　寿男	平成元年4月～

役員構成表

年度	名誉会長(氏名)	会長(氏名)	副会長	参　与	顧　問	理事長(氏名)	副理事長	常務理事	理　事	監　事
S54						青山　敏郎		4	9	1
55						〃		4	9	1
56		安部栄一郎			1	〃		5	11	2
57		〃			1	〃		5	11	2
58		〃			1	〃		7	9	2
59		〃			1	〃		7	9	2
60					1	〃	2	3	16	2
61					1	〃	2	3	16	2
62		青山　敏郎			1	清水　善勝	2	4	11	2
63		〃			1	〃	2	4	11	2
H1		〃			1	〃	2	6	12	2
2		〃			1	〃	2	6	12	2
3		〃			1	〃	2	7	15	2
4		〃			1	〃	2	7	15	2
5		〃			1	〃	2	7	15	2
6		〃			1	〃	2	7	15	2
7		〃			2	〃	2	7	20	2
8		〃			2	〃	2	7	20	2
9		〃			2	〃	2	7	16	2
10		〃			2	〃	2	7	16	2

愛知県教職員バドミントン連盟

役員名簿

会　長

No.	氏　名	就任期間
1	松永　美成	平成3年4月～平成4年3月
2	田中　章喜	平成6年4月～

副会長

No.	氏　名	就任期間
1	清水　光夫	平成6年4月～

理事長

No.	氏　名	就任期間
1	田中　章喜	昭和54年12月～平成6年3月
2	原　賢一	平成6年4月～

副理事長

No.	氏　名	就任期間
1	清水　光夫	平成5年4月～平成6年3月
2	佐藤　荘二	平成6年4月～
3	飯村　順一	平成6年4月～

常務理事

No.	氏　名	就任期間
1	平岩　友憲	昭和54年12月～平成7年3月
2	杉浦　順一	昭和54年12月
3	飯村　順一	昭和54年12月～平成6年3月
4	佐藤　荘二	平成元年4月～平成6年3月
5	原　賢一	平成元年4月～平成6年3月
6	中野　正紀	平成5年4月
7	安藤　健次	平成5年4月～
8	下込　貞司	平成7年4月～
9	石川　憲市	平成7年4月～
10	鈴木　洋子	平成7年4月～
11	水谷　淳	平成7年4月～
12	加藤　大壱	平成7年4月～

理　事

No.	氏　名	就任期間
1	伊澤　忠男	昭和54年12月
2	亀井　勇	昭和54年12月
3	水谷　孝幸	昭和54年12月
4	長谷川泰子	昭和54年12月
5	深井　誠也	平成5年4月～平成7年3月
6	水野　俊彦	平成5年4月～平成7年3月
7	上島　昌之	平成5年4月～平成7年3月
8	下込　貞司	平成5年4月～平成7年3月
9	田立　昌人	平成5年4月～
10	岩田　英嗣	平成5年4月～
11	積光　高史	平成5年4月～平成7年3月
12	大川　和哉	平成5年4月～平成7年3月
13	平岩　友憲	平成7年4月～
14	鈴木　敏夫	平成7年4月～
15	向坂　健二	平成7年4月～
16	近藤　豊	平成7年4月～

監　事

No.	氏　名	就任期間
1	中野　正紀	昭和54年12月
2	各務　通則	昭和54年12月
3	上島　昌之	平成7年4月～
4	宮原　昭	平成7年4月～

愛知県家庭婦人バドミントン連盟

役員名簿

会　長

No.	氏　名	就任期間
1	長谷川参三	昭和58年4月～昭和58年12月
2	細野　節子	平成6年4月～

副会長

No.	氏　名	就任期間
1	池田　藤代	平成6年4月～

理事長

No.	氏　名	就任期間
1	野中恵美子	昭和54年10月～昭和55年3月
2	細野　節子	昭和55年4月～平成6年3月
3	大野　敏子	平成6年4月～

副理事長

No.	氏　名	就任期間
1	真野　洋子	昭和54年10月～昭和55年3月
2	山内　恭江	昭和55年4月～昭和58年3月
3	野中恵美子	昭和58年4月～平成元年3月
4	池田　藤代	平成元年4月～平成7年3月
5	佐藤　　靖	平成元年4月～平成5年3月
6	大野　敏子	平成5年4月～平成6年3月
7	大脇なほみ	平成6年4月～平成7年3月

理　事

No.	氏　名	就任期間
1	細野　節子	昭和54年10月～昭和55年3月
2	木下　玲子	昭和54年10月～昭和55年3月
3	山内　恭江	昭和54年10月～昭和55年3月
4	野中恵美子	昭和55年4月～昭和58年3月
5	真野　洋子	昭和55年4月～昭和58年3月
6	斉藤美智子	昭和54年4月～昭和62年3月
7	吉見千鶴子	昭和55年4月～昭和58年3月
8	水野　智子	昭和54年10月～昭和58年3月
9	吉川　京子	昭和55年4月～昭和58年3月
10	酒井千恵子	昭和54年10月～昭和60年3月
11	大野　敏子	昭和54年10月～昭和58年3月 平成元年4月～平成5年3月
12	小県美恵子	昭和54年10月～昭和60年3月
13	吉田　澄子	昭和55年4月～昭和58年3月
14	佐藤　千春	昭和54年10月～昭和58年3月
15	森　　久子	昭和58年4月～昭和62年3月
16	魚住　栄子	昭和58年4月～平成元年3月
17	鎌田　悦子	昭和58年4月～昭和62年3月
18	溝口　歌子	昭和58年4月～昭和62年3月
19	大畑　弘子	昭和58年4月～昭和60年3月
20	小野沢公子	昭和58年4月～昭和60年3月
21	大橋　潤子	昭和58年4月～昭和62年3月
22	池田　藤代	昭和60年4月～平成元年3月
23	六野きぬ江	昭和60年4月～昭和62年3月～
24	大森久仁子	昭和60年4月～平成7年3月
25	山口　敏子	昭和62年4月～平成元年3月
26	田中登美子	昭和62年4月～平成9年3月
27	前田　賞子	昭和62年4月～平成元年3月
28	飯田　博子	昭和62年4月～平成元年3月
29	桜井　京子	昭和62年4月～平成元年3月
30	野末　弘子	昭和62年4月～平成元年3月
31	井上　博子	平成元年4月～平成3年3月
32	青木　初代	平成元年4月～
33	小武内笑子	平成元年4月～平成7年3月
34	岡島　道子	平成元年4月～
35	石咲　正子	平成元年4月～平成5年3月
36	戸田　真澄	平成元年4月～平成5年3月 平成7年4月～
37	尾崎すなほ	平成3年4月～
38	大脇なほみ	平成5年4月～平成6年3月
39	細川　紀子	平成5年4月～平成7年3月
40	田中　陽子	平成5年4月～
41	堀尾恵美子	平成7年4月～
42	深見やす子	平成7年4月～
43	坂井　祥子	平成7年4月～
44	太田　礼子	平成9年4月～

監　事

No.	氏　名	就任期間
1	都竹　篤子	昭和54年10月～昭和55年3月
2	大畑　弘子	昭和54年10月～昭和55年3月
3	森　　久子	昭和55年4月～昭和58年3月
4	苅生　妙子	昭和55年4月～昭和58年3月
5	佐藤　　靖	昭和58年4月～昭和60年3月
6	六野きぬ江	昭和58年4月～昭和60年3月
7	寺野　順子	昭和60年4月～昭和62年3月
8	森　　晃子	昭和60年4月～昭和62年3月
9	徳田美代子	昭和62年4月～平成元年3月
10	黒田早知子	昭和62年4月～平成元年3月
11	尾崎すなほ	平成元年4月～平成3年3月
12	飯田　博子	平成元年4月～平成3年3月
13	田中ヒロミ	平成3年4月～平成5年3月
14	井上　博子	平成3年4月～平成5年3月
15	戸田　真澄	平成5年4月～平成7年3月
16	桜井　京子	平成5年4月～平成7年3月
17	大脇なほみ	平成7年4月～平成9年3月
18	中橋アツ子	平成7年4月～平成9年3月
19	溝口嘉代子	平成9年4月～
20	山口　博子	平成9年4月～

役員構成表

年度	名誉会長(氏名)	会長(氏名)	副会長	参　与	顧　問	理事長(氏名)	副理事長	常務理事	理　事	監　事
S54						野中恵美子	1		9	2
55						細野　節子	1		11	2
56						〃	1		11	2
57						〃	1		11	2
58		長谷川参三				〃	1		10	2
59		〃				〃	1		10	2
60						〃	1		9	2
61						〃	1		9	2
62						〃	1		9	2
63						〃	1		9	2
H1						〃	2		9	2
2						〃	2		9	2
3						〃	2		9	2
4						〃	2		9	2
5						〃	2		9	2
6		細野　節子	1			大野　敏子	1		8	2
7		〃	1			〃			9	2
8		〃	1			〃			9	2
9		〃	1			〃			9	2
10		〃	1			〃			9	2

愛知学生バドミントン連盟

役員名簿

年度	会長(氏名)	委員長(氏名)	副委員長(氏名)
S22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30	徳川　義親		
31	〃		
32	〃		
33	〃		
34	〃		
35	〃	岩堀　武	二杁　幸夫
36	〃	〃	〃
37	〃	二杁　幸夫	水野　金弘
38	〃	〃	〃
39	〃	清水　重秋	浅井　英雄
40	〃	浅井　英雄	河合　義明
41	〃		
42	〃		
43	〃		
44			
45			
46		野口　譲	飯村　順一
47		飯村　順一	居波　厚二
48	吉岡　紹直	居波　厚二	服部　敏男
49	〃	服部　敏男	
50	〃		
51	〃		
52	〃	岩田　英嗣	武藤　要介
53	〃	〃	
54	〃	武藤　要介	
55	〃	〃	
56	〃	西尾　雅美	本田　道明
57	〃	深谷　秀司	清水　雅彦
58	〃	〃	〃
59	〃	清水　雅彦	柴田　正和
60		柴田　正和	吉田　敬
61		吉田　敬	鈴木　敏之
62	野口　勇	鈴木　敏之	阪本　敏弘
63	〃	阪本　敏弘	山村　幸一
H1	〃	山村　幸一	石川　隆志
2	〃	石川　隆志	児玉　康雄
3	〃	児玉　康雄	曽羽　一博
4	〃	曽羽　一博	樋口　寿男
5	〃	樋口　寿男	根塚　浩壮
6	〃	根塚　浩壮	大谷　勇
7	〃	大谷　勇	杉本　雅人
8			
9		杉浦　雅紀	中澤　誠
10		中澤　誠	森　勝博

愛知県高等学校体育連盟バドミントン部

役員名簿

年度	部長(氏名)	副部長(氏名)					
S22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34	永田　堯澄						
35	〃						
36	〃						
37	〃	伊藤　芳樹					
38	〃	〃					
39	〃	〃					
40	〃	田中　章喜	勝野　宏				
41	〃	〃	〃				
42	田中　章喜	各務　通則	中野　正紀	鈴木　秀樹	斎藤　孝		
43	〃	〃	〃	〃	〃		
44	〃	〃	〃	〃	〃		
45	〃	〃	〃	〃	〃		
46	〃	〃	〃		中溝　誠		
47	〃	〃	〃	内藤　佳一	〃		
48	〃	〃	〃	〃	〃		
49	〃	〃	〃	高山　正勝	〃	三浦　治幸	
50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
51	〃	〃	〃	生島　誠	〃	〃	
52	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
53	〃	〃	〃	山田　孝一	上島　昌之	〃	
54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
55	〃	〃	〃	〃	〃	平岩　友憲	
56	田中　章喜	〃	各務　通則	中野　正紀	〃	〃	
57	〃	下込　貞司	〃	〃	〃	〃	
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
59	〃	〃	〃	〃	〃	阪野　素行	大河　一夫
60	〃	〃	〃	〃	〃	石川　憲市	〃
61	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
63	〃	〃	深井　誠也	〃		〃	〃
H1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
2	〃	〃	〃	〃		〃	〃
3	〃	〃	〃	〃	〃	水野　俊彦	
4	〃	〃	〃	〃		〃	
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
6	〃	〃	加藤　孝志	〃		〃	
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
8	下込　貞司	伊藤　芳樹	〃	上島　昌之	水野　俊彦	中林　博	
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
10	〃	三宅　吉児	佐藤　壮	〃	〃	夏目　英	

愛知県中小学校体育連盟バドミントン部

役員名簿

年度	部長(氏名)	副部長(氏名)
S40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56	若山　裕次	井沢　忠男
57	〃	〃
58	〃	〃
59	〃	〃
60	右高　　勉	秦　　信昭
61	〃	〃
62	〃	〃
63	〃	〃
H1	古田　　雄	〃
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	落合　善造	清水　光夫
6	〃	〃
7	古川	清水　光夫
8	〃	〃
9	後藤　　勉	飯村　順
10	〃	〃

愛知県小学生バドミントン連盟

役員名簿

理事長

No.	氏　名	就　任　期　間
1	鈴木　正一	平成8年4月～

副理事長

No.	氏　名	就　任　期　間
1	恵木　康行	平成8年4月～

理　事

No.	氏　名	就　任　期　間
1	宮原　　昭	平成8年4月～
2	権田　行和	平成8年4月～
3	田安　武男	平成8年4月～
4	湯浅　俊雄	平成8年4月～
5	森川三津夫	平成8年4月～
6	水田　重幸	平成8年4月～
7	渡辺　幸男	平成8年4月～
8	堀尾恵美子	平成9年4月～
9	荒木　満子	平成9年4月～
10	丸山　滝子	平成9年4月～
11	宮路すみ子	平成9年4月～
12	吉見千津子	平成9年4月～

監　事

No.	氏　名	就　任　期　間
1	井沢　　宏	平成8年4月～
2	青山　　勉	平成9年4月～

総務関係

表彰者名簿

年度	日本バドミントン協会			愛知県体育協会		その他
	功労賞	技能賞	その他	体育功労者	戦績優秀者	
S22						
23						
24						
25						
26					長谷川参三他（第6回国体） トヨタ自動車工業（第1回全日実業団） 堀江綾子・保田久子・伊与田照子（第4回全日本）	
27					トヨタ自動車工業（第2回全日実業団） 堀江綾子・保田久子・見本　暁・小池鉱市（第5回全日本）	
28					トヨタ自動車工業（第3回全日実業団）	
29					渡辺成雄他（第9回国体） 水谷国広・保田久子・伊与田照子・ 堀江綾子・野口　竜（第7回全日本）	
30					トヨタ自動車工業 男子・小池鉱市（第8回全日本）	
31					トヨタ自動車工業　男女・小池鉱市（第8回全日本）	
32					深津　豊・山城智徳（第9回全日本）	
33			（協会表彰制度発足第1回表彰） 県協会			
34				青井節郎		
35	長谷川参三	水谷国弘		野口　勇・渡辺成雄 伊藤鏡一		
36				酒巻和男・深津　豊 服部興治		
37	都筑金助・水谷国弘			山城智徳・都筑金助	トヨタ自動車工業（第12回全日実業団） 山城智徳（第14回全日本） 小宮好雄・歳本文子（第3回全日本社会人）	
38		小宮好雄		多賀純一・青山敏郎 日崎久男	トヨタ自動車工業（第13回全日本実業団） 小宮好雄（全米選手権） 小宮好雄・板垣善憲（第5回全日本社会人） 伊藤鏡一他（18回国体）	
39				山本英夫・渡辺　清 永田堯澄	トヨタ自動車工業（第14回全日本実業団） 小宮・板垣（全米・カナダ世界招待トマス） 北田寛一他（第19回国体）	
40					深津　豊他 トヨタ自動車工業（第20回国体） （第15回全日本実業団）	
41		小宮好雄 板垣善憲	トヨタ自動車工業 愛知県国体男子チーム		トヨタ自動車工業（第16回全日本実業団）	
42				加藤三郎・田中章喜 立松建市・鈴木　勇	伊藤鏡一他（第22回国体） 特別表彰国体5年連続優勝	
43		小宮好雄・上野明美	トヨタ自動車工業	後藤　守・上原信彦	トヨタ自動車工業（第18回全日本実業団）	
44			トヨタ自動車工業	各務通則・油井秀男	トヨタ自動車工業（第19回全日本実業団） 上野明美（第11回全日本社会人）	
45	渡辺成雄			鈴木　勇		
46	後藤紳二		野口　勇（国体10回以上）		トヨタ自動車工業（第21回全日本実業団） 後藤　守・井沢　宏（第21回全日本実業団）	
47				野口　勇・伊藤鏡一・ 渡辺成雄・中野正紀	本間順次（第22回全日本実業団）	
48	伊藤鏡一				伊藤鏡一他（沖縄特別国体） 本間順次（第23回全日本実業団）	
49					中村高久（第17回全日本社会人） 本間順次・谷口　寛（第24回全日本実業団）	
50						
51					中村高久（第18回全日本社会人）	
52						
53						
54						
55				吉岡紹直・長谷川参三 渡辺成雄・野口　勇		
56			（ユーバー杯開催感謝状） 県協会	青山敏郎・伊藤鏡一・ 鈴木　勇・田中章喜		
57				油井秀男・上原信彦		
58						
59	後藤　淳					
60				鈴木　勇		
61						
62			（創立40周年記念） 渡辺成雄 名誉理事・小宮好雄（名誉会員）			
63						
H1						日体協団体功労 渡辺成雄・伊藤鏡一
2			トマス・ユーバー杯開催感謝状（県協会）		伊藤鏡一・巣久子（第1回世界学生））	
3						
4					吉賀勝志・藤本暢子（全日本総合）	
5						
6			鈴木　勇　井沢　宏 多賀純一（顕諸賞）	伊藤鏡一・野口　勇		
7				田中章喜・伊藤芳樹		公認スポーツ指導者 伊藤鏡一
8				鈴木勝美・清水善勝・細野節子		県教育委員会 渡辺成雄
9			田中章喜・鈴木勝美 中野正紀・細野節子（顕諸賞） 伊藤鏡一名誉理事	（特別）渡辺成雄 武田正雄・山本卓男		中部日本 野口　勇

登録人員の推移

	実業団	社会人	教職員	家庭婦人	小計	学生	計	高校生	中学生	小学生	合計
S22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
31											
32											
33											
34											
35											
36							222	301			523
37							285	358			643
38	121					81	230	405			635
39							412	456			868
40							441	448			889
41							434	473			907
42							590	569			1,159
43							674	553			1,227
44							746	555			1,301
45							738	685			1,423
46							832	761	13		1,606
47							937	774	10		1,721
48							1,008	846	71		1,925
49							1,189	762	123		2,074
50							1,222	914	293		2,429
51							1,223	897	364		2,484
52							1,563	1,158	507		3,228
53							1,777	1,258	623		3,658
54							1,732	1,248	838		3,818
55	667	397					2,072	1,469	531		4,072
56		413		221	1,433	719	2,152	1,784	334		4,270
57	705	446	11	249	1,411	630	2,041	2,156	586		4,783
58	693	473	30	1,354	2,550	712	3,262	1,400	620		5,282
59	712	598	17	1,316	2,643	446	3,089	1,700	609		5,398
60	759	628	75	1,384	2,846	600	3,446	3,000	660		7,106
61	733	724	99	1,441	2,997	543	3,540	3,053	812		7,405
62	715	759	88	1,563	3,125	540	3,665	3,369	980		8,014
63	668	724	44	1,732	3,168	401	3,569	3,485	1,200		8,254
H1	647	832	61	1,431	2,971	489	3,460	3,402	949	210	8,021
2	637	774	41	1,420	2,872	624	3,496	3,961	971	174	8,602
3	665	863	54	1,385	2,967	556	3,523	3,971	957	202	8,653
4	664	900	53	1,240	2,857	666	3,523	4,182	963	209	8,877
5	657	989	77	1,224	2,947	704	3,651	3,813	835	211	8,510
6	632	1,013	66	1,387	3,098	698	3,796	3,945	802	277	8,820
7	660	1,104	93	1,430	3,278	663	3,950	4,032	830	227	9,039
8	610	1,190	92	1,481	3,373	658	4,031	3,664	957	257	8,909
9	600	1,107	77	1,793	3,577	601	4,178	3,031	877	323	8,409

協会登録料改訂経過

年度	団体									個人			
	実業団	社会人	教職員	家庭婦人	学生	高校	中学	小学	市町村	一般	高校	中学	小学
S22													
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
31													
32													
33													
34													
35	1団体1,500円（学生は1団体とする）									200円			
36													
37	1団体2,000円（学生は1団体とする）、高校通信費として500円												
38													
39													
40													
41	高校通信費として700円									高校100円			
42													
43													
44	3,000円（学生は1団体として10,000円）、高校通信費として1,500円												
45													
46	5,000円、大学2,000円、高校3,000円												
47										400円、高校200円			
48													
49													
50													
51										700円、高校350円			
52													
53													
54									1市町村	1,000円、高校500円、中学 200円			
55	150,000	60,000	10,000	60,000	50,000	150,000	10,000		10,000				
56													
57													
58													
59													
60	200,000	100,000	10,000	80,000	80,000	200,000	10,000		10,000				
61													
62										1,500	800	300	
63													
H1	300,000	200,000	20,000	100,000	150,000	300,000	30,000		10,000				
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8	100,000	100,000	30,000	300,000	200,000	400,000	50,000	30,000	10,000				200
9													

専門委員会設立経過

年度	
S22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	（専門委員会制度制定）
36	
37	総務部、財務部、競技部、広報指導部
38	
39	総務部、競技部、指導部
40	
41	
42	
43	
44	総務委員会、競技委員会、指導委員会、普及委員会新設
45	
46	審判委員会新設
47	
48	広報委員会新設
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	選手強化委員会新設
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
H1	選手強化対策本部を国体対策として設置
2	
3	
4	
5	
6	
7	国体の終了により選手強化対策本部を解散 指導、普及を合わせ指導普及委員会とした
8	小学生連盟の設立等により普及をとり指導委員会とした
9	

大会の経過

東海地区以上の大会開催の経過

年度	国際大会	全国大会	中部等大会	東海大会						
				協会	実業団	家庭婦人	大学	高校	中学	小学生
S22										
23										
24										
25										
26		5回国体								
27				3回選手権						
28										
29										
30		全日本実業団								
31										
32										
33										
34										
35		全日本実業団								
36		全日本学生、学生東西対抗								
37				国体予選	7回大会			総体		
38	日韓親善大会	学生東西対抗		選手権						
39				国体予選						
40			18回中部日本 13回中部学生	選手権	10回大会 54年まで連続					
41				1回総合						
42			中部学生							
43		全日本学生	西日本学生							
44										
45		全国高校総体		総合				総体		
46										
47		2回全国中学校								
48	1回日中大会		西日本学生					2回選抜		
49			中部日本	総合				総体		
50	日中大会									
51				国体予選						
52			中部学生					選抜		
53	ワールドカップ	全日本、学生　全国中学生	西日本学生	総合				総体		
54			中部学生							
55	日中大会	2回日本リーグ刈谷　学生東西対抗		国体予選						
56	ユーバー杯	全日本実業団　日本リーグ		総合						
57	日韓大会、日中大会	日本リーグ								
58		全国高校総体、学生東西対抗	中部日本		28回大会				14回総体	
59	日中大会	全日本、学生		国体予選		2回団体		選抜		
60		全日本総合、日本リーグ		2回日韓ジュニア総合						
61		日本リーグ						総体		
62		全日本実業団、全国中学校、日本リーグ			32回大会	1回個人		選抜	総体	
63		日本リーグ		国体予選		団体				
H1		全日本シニア	西日本学生	総合						1回個人
2	トマス・ユーバー杯	学生東西対抗、日本リーグ								
3	日韓ジュニア	全日本教職員			36回大会 以降連続	個人			総体	
4		全日本大学・学生、2回全日本混合	中部日本	国体予選		団体				
5		全国高校選抜、全日本社会人	西日本学生	日韓ジュニア総合						個人
6		49回国体、全日本家庭婦人						総体		
7		日本リーグ、学生東西対抗				個人			総体	
8		全国中学校　日本リーグ2部								
9		全日本総合								個人 1回団体
10		全日本実業団								

県大会開催の経過

年度	県協会	実業団	社会人	教職員	家庭婦人	大学	高校	中学	小学生
S22	協会結成記念大会								
23	第1回総合(個人) 第1回新人戦								
24	県体協加盟記念						第1回選手権		
25									
26									
27									
28						第1回学生			
29									
30						第1回大学リーグ戦 年2回			
31						第1回学生新人			
32									
33									
34		第1回大会							
35	新人大会年2回開催 3部対抗戦								
36									
37									
38									
39		リーグ戦方式に変更							
40	第1回社会人						学年別大会		
41	社会人に壮年複追加								
42								第1回中学校	
43									
44							新人大会		
45									
46	社会人に50才以上男子複追加	リーグ戦年2回開催				県大学リーグが東海 大学リーグとなる (回数は継続)			
47									
48									
49					第1回大会(団体)				
50									
51	第1回選抜大会(団体)		第1回クラブリーグ戦 (実業団から分離)					第1回中学生	
52	総合(個人)に混合複追加							第1回新人	
53	選抜大会を総合団体に変更								
54	第1回オープン大会 社会人に30才以上男子単、 30才以上女子複追加								
55									
56			第1回個人戦			第1回県大学			
57									
58					交歓会開始 東海団体予選開始 全日本予選開始				第1回個人
59									
60	オープン大会中止								
61	社会人に40才以上男子単、								
62	40才以上女子複追加				東海個人予選開始				
63									
H1	社会人に50才以上女子複追加								
2									
3					第1回大会(個人戦)				
4									
5	社会人に50才以上混合複追加								
6				第1回大会					
7									第1回団体
8									
9	総合団体を対抗戦に変更								第1回新人

県大会参加人員推移

(国際交流資金積立金制度からの実人員)

年度	協会							実業団		社会人			家庭婦人		学生		高校
	総合個人	総合団体	社会人	国体成年	国体少年	春季新人	秋季新人	前期	後期	前期	後期	個人戦	団体戦	個人戦	選手権	新人	総合
S38	369		219														
39	309		324	310		280	498										
40																	
41	227		97		167	208	285	222									
42	318		112		204	334	365	278									
43	328		132		114	352	398	307									213
44	277		120		237	316	449	314							383	260	272
45	362		130		240	244	470	351							233	361	300
46	317		123		142	419	408	286	317						360	420	300
47	334		121		219	441	543	318	376						361	427	300
48	422		113		223	450	741	435	496						277	468	300
49	434		139		258	409	748	527	582						300	536	500
50	343		160		310	620	762	543	630						428	330	
51	332	100	143		266	515	729	409	445	204	189					775	
52	133	107	115		422	502	740	458	453	188	193		463		341	808	
53	124	110	132	67	368	406	669	494	252	240	193		535		410	1268	
54	96	88	207	61	416	471	484	508	482	218	231		536		350	1142	
55	139	166	180	54	420	489	546	536	517	218	239		800		448	1912	
56	175	137	162	65	426	429	506	599	566	257	240	200	1053		1226	1283	
57	112	97	152	49	489	382	552	550	555	306	298	176	1087		1109	1360	
58	171	132	206	57	503	522	429	592	597	320	362	207	1150		1099	1364	
59	182	209	178	45	607	487	539	607	613	420	471	202	706		933	1107	
60	191	266	217	68	572	421	367	623	602	519	548	152	1323		366	412	
61	193	211	206	53	563	374	400	590	595	605	636	170	1384		408	420	
62	239	114	227	51	521	363	413	580	570	656	663	230	1380	全日本	415	432	
63	242	170	223	34	575	384	375	570	540	676	648	201	1452	250	420	460	
H1	221	140	229	44	653	300	318	506	483	718	732	176	1398		355	458	
2	227	125	248	46	504	387	440	543	537	723	754	180	1408		473	421	
3	276	201	252	35	538	432	443	528	547	760	780	217	1380		428	504	
4	298	215	309	46	645	420	545	580	573	774	800	200	1205		427	525	
5	300	222	303	58	602	486	533	559	550	881	912	271	1125		470	494	
6	260	191	278	62	482	445	561	565	558	931	999	243	1233	個人戦	497	497	
7	296	154	223	66	426	523	494	563	550	1051	1079	253	1036	500	449	583	
8	198	91	199	61	346	521	474	536	518	1100	1128	236	1320	500	425	559	
9	204	117	210	58	339	397	398	524	523	1073	1043	254	1793	1276	384	524	

参加料改訂経過

(協会主催大会)

年度	個人 シングルス
S22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	200円
44	
45	250円
46	
47	
48	300円
49	500円
50	
51	
52	
53	750円
54	
55	1,000円
56	
57	1,200円
58	
59	
60	1,500円
61	
62	
63	
H1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

大会成績

国際大会出場者

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S37	第4回アジア競技大会	男子団体単		小宮 好雄	トヨタ自工
38	第53回全英選手権	男子単	ベスト8	小宮 好雄	トヨタ自工
39	第6回トマス杯 アメリカゾーン	男子団体	優勝	小宮 好雄	トヨタ自工
	第6回トマス杯 インターゾーン		準決勝敗退	板垣 善憲	トヨタ自工
41	第7回トマス杯 オーストラリアゾーン	男子団体	優勝	板垣 善憲	トヨタ自工
				安沢 武司	トヨタ自工
45	第6回アジア大会	男子団体		谷口 寛	トヨタ自工
47	第9回トマス杯アジアゾーン(東地区)決勝大会	男子単		本間 順次	トヨタ自工
48	第1回日中競技大会	男子団体		本間 順次	トヨタ自工
				谷口 寛	トヨタ自工
		女子団体		富居 康子	豊田織機
				池田 静江	トヨタ自工
	第1回訪中親善大会	男子		本間 順次	トヨタ自工
				谷口 寛	トヨタ自工
49	第2回訪中親善大会	男子		谷口 寛	トヨタ自工
	第3回国際競技大会	男子		本間 順次	トヨタ自工
50	第10回トマス杯アジアゾーン(東地区)	男子		本間 順次	トヨタ自工
51	第10回トマス杯アジアゾーン決勝大会	男子		本間 順次	トヨタ自工

全国大会3位以上入賞者

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S23	第1回全日本選手権大会	女子複	3	川口 博子	中日本重工
				金森 幸子	中村小教員
24	第2回全日本選手権大会	ジュニア複	2	富田 武	松蔭高校
				森 廣次	
		女子単		保田 久子	トヨタ自工
25	第3回全日本選手権大会	ジュニア単	3	野口 勇	愛工高校
		ジュニア複	2	野口 勇	愛工高校
				川瀬 治美	松蔭高校
26	第4回全日本選手権大会	女子単	2	堀江 綾子	中日本重工
		女子複	2	保田 久子	トヨタ自工
				伊与田照子	
		男子30才以上複	2	酒巻 和男	トヨタ自工
				小池 鉱市	
27	第5回全日本選手権大会	女子複	1	堀江 綾子	新三菱重工
				保田 久子	トヨタ自工
		成年男子複	1	小池 鉱市	トヨタ自工
				貝本 暁	
		少年単	1	服部 興治	
		混合複	2	野口 勇	新三菱重工
				堀江 綾子	
28	第6回全日本選手権大会	壮年複	1	水谷 国広	愛知県
				伊村 勇	三重県
		成年女子複	2	保田 久子	トヨタ自工
				伊与田照子	
29	第7回全日本選手権大会	成年女子複	3	伊与田照子	トヨタ自工
				保田 久子	
		混合複	2	野口 勇	新三菱重工
				堀江 綾子	
S40	昭和40年度全日本総合選手権大会	男子単	2	板垣 善憲	トヨタ自工
		男子複	2	小宮 好雄	トヨタ自工
				板垣 善憲	
		混合複	2	板垣 善憲	トヨタ自工
				粂田 順子	
S41	昭和41年度全日本総合選手権大会	男子複	3	小宮 好雄	トヨタ自工
				板垣 善憲	
		混合複	1	小宮 好雄	トヨタ自工
				上野 明美	
			2	板垣 善憲	トヨタ自工
				粂田 順子	
42	昭和42年度全日本総合選手権大会	混合複	1	板垣 善憲	トヨタ自工
				太田 節子	
			3	伊村 隆	名古屋鉄道
				山際トモ子	
46	昭和46年度全日本総合選手権大会	男子単	3	本間 順次	トヨタ自工
47	昭和47年度全日本総合選手権大会	男子単	2	本間 順次	トヨタ自工
48	昭和48年度全日本総合選手権大会	男子複	3	谷口 寛	トヨタ自工
				田所 光男	電々東京
			3	本間 順次	トヨタ自工
				今泉 勉	高岡市役所
49	昭和49年度全日本総合選手権大会	男子単	3	本間 順次	トヨタ自工
		男子複	2	本間 順次	トヨタ自工
				谷口 寛	
50	昭和50年度全日本総合選手権大会	男子複	3	本間 順次	トヨタ自工
				谷口 寛	
51	昭和51年度全日本総合選手権大会	男子単	3	谷口 寛	トヨタ自工
52	昭和52年度全日本総合選手権大会	男子単	3	谷口 寛	トヨタ自工
H1	平成元年全日本総合選手権大会	男子複	3	須貝 英徳	トヨタ自工
				古賀 勝志	
4	平成4年度全日本総合選手権大会	混合複	1	古賀 勝志	トヨタ自工
				藤本 暢子	
5	平成5年度全日本総合選手権大会	混合複	3	古賀 勝志	トヨタ自工
				藤本 暢子	
S32	第3回全日本成壮年競技会	成年男子単	3	山城 智徳	トヨタ自工
		成年男子複	3	深津 豊	トヨタ自工
				山城 智徳	
37	第5回全日本社会人選手権大会	男子単	1	小宮 好雄	トヨタ自工
		混合複	1	小宮 好雄	トヨタ自工
				蔵本 文子	
38	第6回全日本社会人選手権大会	男子単	1	小宮 好雄	トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄	トヨタ自工
				板垣 善憲	
40	第6回全日本社会人選手権大会	男子単	2	板垣 善憲	トヨタ自工
		女子複	3	上井三枝子	トヨタ自工
				粂田 順子	
		混合複	1	板垣 善憲	トヨタ自工
				粂田 順子	
41	第9回全日本社会人選手権大会	男子単	2	安沢 武司	トヨタ自工
			3	板垣 善憲	トヨタ自工
		男子複	3	板垣 善憲	トヨタ自工
				安沢 武司	
		混合複	1	板垣 善憲	トヨタ自工
				粂田 順子	
42	第10回全日本社会人選手権大会	男子単	1	板垣 善憲	トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄	トヨタ自工
				板垣 善憲	
			2	長谷川敏彦	トヨタ自工
				吉良 悠一	神奈川県
		混合複	1	板垣 善憲	トヨタ自工
				太田 節子	
			2	小宮 好雄	トヨタ自工
				上野 明美	

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S44	第12回全日本社会人選手権大会	男子複	2	板垣 善憲 松島 保	トヨタ自工
			3	長谷川敏彦 安沢 武司	トヨタ自工
		女子単	3	太田 節子	トヨタ自工
		女子複	1	上野 明美 太田 節子	トヨタ自工
			2	深沢むつ子 金子美和子	トヨタ自工
		混合複	1	安沢 武司 金子美和子	トヨタ自工
45	第13回全日本社会人選手権大会	混合複	2	安沢 武司 金子美和子	トヨタ自工
46	第14回全日本社会人選手権大会	男子単	2	本間 順次	トヨタ自工
		男子複	1	本間 順次 松島 保	トヨタ自工
47	第15回全日本社会人選手権大会	男子単	3	本間 順次	トヨタ自工
		男子複	3	本間 順次 松島 保	トヨタ自工
48	第16回全日本社会人選手権大会	女子単	3	紺野 幾子	豊田織機
49	第17回全日本社会人選手権大会	男子単	3	谷口 寛	トヨタ自工
		50才以上男子単	1	中村 高久	豊田織機
50	第18回全日本社会人選手権大会	50才以上男子単	1	中村 高久	豊田織機
52	第20回全日本社会人選手権大会	50才以上男子単	2	山城 智徳	トヨタ自工
53	第21回全日本社会人選手権大会	40才以上男子単	3	伊藤 雅昭	電々東海
		50才以上男子単	3	中村 高久	豊田織機
		50才以上男子複	3	中村 高久 山城 智徳	豊田織機 トヨタ自工
63	第31回全日本社会人選手権大会	男子複	3	須貝 英徳 古賀 勝志	トヨタ自動車
H5	第36回全日本社会人選手権大会	女子複	3	藤本 暢子 松田 泰子	トヨタ自動車

H4	第2回全日本混合大会	一般	2	古賀 勝志 藤本 暢子	トヨタ自動車

H1	第6回全日本シニア選手権大会	30才男子複	2	岩淵 信司 菅原 敬二	豊田織機 トヨタ自動車
		40才男子単	2	平松 孝孔	瑞穂クラブ
		30才女子単	3	門間由美子	BSモリタ
		30才女子複	3	太田 礼子 門間由美子	豊田家婦連 BSモリタ
		50才女子複	2	魚住 栄子 田中登美子	豊田家婦連 安城家婦連
2	第7回全日本シニア選手権大会	30才女子複	3	門間由美子 太田 礼子	豊田家婦連 豊田家婦連
		40才女子単	3	太田 礼子	豊田家婦連
		50才女子複	3	魚住 栄子 田中登美子	豊田家婦連 安城家婦連
4	第9回全日本シニア選手権大会	60才以上男子複	3	市川 清 荒川 司郎	豊田市協会

S59	第3回全日本ジュニア選手権大会	女子複	3	佐々木道子 六郷 由香	愛知淑徳高校
H7	第14回全日本ジュニア選手権大会	中学新人男子	3	稲垣 翔悟	石尾台中学校

S26	第1回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自工
		女子団体	1		トヨタ自工
27	第2回全日本実業団選手権大会	女子団体	1		トヨタ自工
28	第3回全日本実業団選手権大会	女子団体	1		トヨタ自工

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S29	第4回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自工
30	第5回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自工
		女子団体	3		トヨタ自工
31	第6回全日本実業団選手権大会	女子団体	2		トヨタ自工
37	第12回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自工
38	第13回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		男子単	1	小宮 好雄	トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ自工
		混合複	1	小宮 好雄 蔵本 文子	トヨタ自工
		30才以上男子複	1	荒川 司郎 谷沢 径次	トヨタ自工
39	第14回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		女子団体	2		トヨタ自工
		男子単	1	小宮 好雄	トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ自工
40	第15回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		女子団体	2		トヨタ自工
		男子単	1	板垣 善憲	トヨタ自工
			3	小宮 好雄	トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ自工
		男子成年複	3	山城 智徳 多賀 純一	トヨタ自工
		混合複	1	板垣 善憲 粂田 順子	トヨタ自工
			2	小宮 好雄 土井三枝子	トヨタ自工
41	第16回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		男子単	1	板垣 善憲	トヨタ自工
			2	安沢 武司	トヨタ自工
		男子複	1	板垣 善憲 安沢 武司	トヨタ自工
			2	小宮 好雄 杉政 和男	トヨタ自工
		壮年単	3	山城 智徳	トヨタ自工
		壮年複	1	山城 智徳 深津 豊	トヨタ自工
		混合複	1	小宮 好雄 上野 明美	トヨタ自工
			3	板垣 善憲 粂田 順子	トヨタ自工
42	第17回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		男子単	2	板垣 善憲	トヨタ自工
			3	安沢 武司	トヨタ自工
		男子複	2	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ自工
			3	長谷川敏彦 安沢 武司	トヨタ自工
		40才男子複	1	山城 智徳 深津 豊	トヨタ自工
		混合複	1	小宮 好雄 上野 明美	トヨタ自工
			2	板垣 善憲 太田 節子	トヨタ自工
43	第18回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		男子複	1	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ自工
		女子複	1	上野 明美 太田 節子	トヨタ自工
		40才男子単	3	山城 智徳	トヨタ自工
		40才男子複	3	山城 智徳 深津 豊	トヨタ自工
44	第19回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		男子単	3	安沢 武司	トヨタ自工
		男子複	1	長谷川敏彦 安沢 武司	トヨタ自工

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S44	第19回全日本実業団選手権大会	男子複	2	伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道
		女子団体	1		トヨタ自工
			2		豊田織機
		女子単	1	太田　節子	トヨタ自工
			3	大橋美知子	豊田織機
		女子複	1	上野　明美 太田　節子	トヨタ自工
			2	深沢むつ子 金子美和子	トヨタ自工
		混合複	1	安沢　武司 金子美和子	トヨタ自工
			3	小宮　好雄 上野　明美	トヨタ自工
45	第20回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自工
		男子複	3	伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道
		40才男子複	2	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
		女子単	1	大橋美知子	豊田織機
		混合複	1	安沢　武司 竹中　礼子	トヨタ自工
46	第21回全日本実業団選手権大会	男子団体	1		トヨタ自工
		女子団体	3		トヨタ自工
		男子単	1	本間　順次	トヨタ自工
		男子複	3	伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道
		女子複	2	工藤美佐江 紺野　幾子	豊田織機
		40才男子複	1	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
47	第22回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自工
		男子単	1	本間　順次	トヨタ自工
		混合複	3	武田　正雄 辻田　京子	豊田織機
48	第23回全日本実業団選手権大会	男子単	1	本間　順次	トヨタ自工
		男子複	3	本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工
		40才男子複	3	井沢　宏 後藤　守	名古屋鉄道
49	第24回全日本実業団選手権大会	男子単	1	本間　順次	トヨタ自工
		男子複	1	本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工
50	第25回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自工
		男子単	2	本間　順次	トヨタ自工
		男子複	2	本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工
52	第27回全日本実業団選手権大会	40才男子複	2	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
53	第28回全日本実業団選手権大会	40才男子単	3	伊藤　雅昭	電々東海
		40才男子複	2	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
54	第29回全日本実業団選手権大会	40才男子複	3	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
55	第30回全日本実業団選手権大会	40才男子単	3	伊藤　雅昭	電々東海
56	第31回全日本実業団選手権大会	30才男子複	3	松波　譲 沢田　正夫	三菱重工 名古屋
		40才男子複	3	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
58	第33回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自動車
59	第34回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自動車
60	第35回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自動車
61	第36回全日本実業団選手権大会	男子団体	2		トヨタ自動車
62	第37回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自動車
63	第38回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		トヨタ自動車
H1	第39回全日本実業団選手権大会	男子団体	3		豊田工機
S48	第12回全日本教職員選手権大会	混合複	3	平松　孝孔 高村　恵子	港西小教員 鳴海中教員
49	第13回全日本教職員選手権大会	男子団体	3		愛知教職員
54	第19回全日本教職員選手権大会	30才男子複	3	平松　孝孔 平岩　友憲	中央高教員 知多高教員
55	第20回全日本教職員選手権大会	30才男子単	1	平松　孝孔	中央高教員
		30才男子複	3	平松　孝孔 飯村　順一	中央高教員 緑陽小教員
60	第24回全日本教職員選手権大会	30才男子単	3	杉浦　順一	愛教大附属高教員
61	第25回全日本教職員選手権大会	30才男子単	2	杉浦　順一	愛教大附属高教員
63	第27回全日本教職員選手権大会	30才男子単	3	杉浦　順一	豊田西高教員
H6	第33回全日本教職員選手権大会	30才男子単	3	田中　章裕	豊川高教員
8	第35回全日本教職員選手権大会	40才男子単	3	中口　直人	知多東高 非常勤講師
9	第36回全日本教職員選手権大会	40才男子単	3	中口　直人	知多東高 非常勤講師
S57	第12回全国選抜中学校大会	女子複	3	六郷　由香 伊藤　千恵	淑徳中学校
H8	第26回全国中学校大会	男子単	2	稲垣　翔悟	石尾台中学校
S59	第13回全国高等学校選抜大会	男子複	3	岡田　政朗 稲熊　滋訓	東海高
		女子複	3	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高
		女子単	3	佐々木道子	淑徳高
H1	第18回全国高等学校選抜大会	女子単	3	青木美代子	佐屋高
S60	第3回全日本家庭婦人大会	都道府県対抗	3		愛知県
63	第6回全日本家庭婦人大会	クラブ対抗	3		名古屋クラブ
H1	第7回全日本家庭婦人大会	クラブ対抗	3		岡崎フェニックス
3	第9回全日本家庭婦人大会	都道府県対抗	2		愛知県
4	第10回全日本家庭婦人大会	クラブ対抗	1		岡崎フェニックス
			3		豊田クラブ
5	第11回全日本家庭婦人大会	都道府県対抗	3		愛知県
6	第12回全日本家庭婦人大会	都道府県対抗	2		愛知県A
9	第15回全日本家庭婦人大会	都道府県対抗	3		愛知県
S62	第9回日本リーグ	男子団体	3		トヨタ自動車
63	第10回日本リーグ	男子団体	2		トヨタ自動車
H3	第13回日本リーグ	男子2部	2		豊田工機
		女子2部	3		トヨタ自動車
4	第14回日本リーグ	男子2部	3		豊田工機
5	第15回日本リーグ	女子2部	2		トヨタ自動車
6	第16回日本リーグ	男子2部	3		トヨタ自動車

国民体育大会4位以上入賞種別

年度	回	開催地	総合順位	種別	順位	監督名	選手名		
S24	4	東京都	(個人オープン)	女子単	2		吉沢　千里		
				女子複	3		吉沢　千里	後藤　範子	
25	5	愛知県		一般男子	4	酒巻　和男	貝本　暁 富田　武	小椋　勉	蟹　和男
				一般女子	2	水谷　国広	水谷　鈴子 伊与田照子	堀江　綾子	保田　久子
				高校男子	2	杉山　敏昌	石川　光男 野口　勇	渡辺　成雄	大竹　健司
26	6	広島県	1	一般男子	3	酒巻　和男	藤井　光男	渡辺　成雄	蟹　和男
				一般女子	1	水谷　国廣	堀江　綾子	保田　久子	伊与田照子
				高校男子	1	長谷川参三	服部　興治	野口　勇	立松　健市
27	7	宮城県		一般女子	3	酒巻　和男	堀江　綾子 水野美根子	保田　久子	伊与田照子
29	9	北海道	1	一般男子	2	渡辺　成雄	野口　勇	服部　興治	稲熊　貞夫
				一般女子	3	水谷　国廣	保田　久子	伊与田照子	堀江　綾子
				高校男子	1	杉浦　祥治	豊場　建	御友　昡正	伊藤　雅昭
				高校女子	3	野沢　ふさ	大沢　節子	大室久美子	大竹　泰子
37	17	岡山県		一般男子	3	渡辺　成雄	北島　克英	小宮　好雄	長谷川陽一
38	18	山口県		一般男子	1	伊藤　鑛一	小宮　好雄	板垣　善憲	稲熊　文隆
39	19	新潟県		一般男子	1	北田　寛一	小宮　好雄	板垣　善憲	岩后　隆昭
40	20	岐阜県		一般男子	1	深津　豊	小宮　好雄	板垣　善憲	長谷川敏彦
41	21	大分県		一般男子	1	伊藤　鑛一	長谷川敏彦	板垣　善憲	安沢　武司
42	22	埼玉県		一般男子	1	伊藤　鑛一	小林　一宏	板垣　善憲	安沢　武司
43	23	福井県		一般男子	4	北田　寛一	小宮　好雄	板垣　善憲	安沢　武司
46	26	和歌山県		一般男子	4	野口　勇	本間　順次	伊村　隆	樋口　一春
47	27	鹿児島県		一般男子	4	多賀　純一	本間　順次	樋口　一春	牛島　秀雄
				一般女子	2	上原　信彦	橋本　香代	富居　康子	池田　静江
48	28	千葉県		一般男子	3	多賀　純一	松島　保	本間　順次	谷口　寛
49	29	茨城県		一般男子	3	上原　信彦	松島　保	本間　順次	谷口　寛
50	30	三重県		成年男子	4	多賀　純一	本間　順次	谷口　寛	松島　信之
55	35	栃木県		成年男子	4	松島　保	山本　秀樹	坂本　宏志	平松　孝孔
				成年女子	3	多賀　純一	渡辺　喜美	小松　澄子	柳田智佳子
58	38	群馬県		成年男子	4	谷口　寛	山本　秀樹	坂本　宏志	坂本　昌嗣
59	39	奈良県		成年男子	4	谷口　寛	山本　秀樹	坂本　宏志	坂井外喜男
60	40	鳥取県	3	成年男子	3	谷口　寛	古賀　勝志	坂本　宏志	坂井外喜男
				成年女子	4	藤江　至	白川　由理	佐名　美幸	宮本美津子
				少年女子	4	伊藤　芳樹	佐々木道子	稲熊　康子	六郷　由香
61	41	山梨県	7	成年女子	4	藤江　至	宮本美津子	白川　由理	林　幸枝
62	42	沖縄県	4	成年男子	4	谷口　寛	坂本　宏志	野呂　徹	坂井外喜男
				成年女子	2	藤江　至	宮本美津子	松本　清美	大屋　幸恵
63	43	京都府		成年女子	3	亀谷　幸生	大屋　幸恵	甘田　明子	佐々　恵理
H1	44	北海道		成年男子	4	山本　秀樹	古賀　勝志	須貝　英徳	峰　登志郎
4	47	山形県		成年男子	4	山本　秀樹	古賀　勝志	福田　昭典	川本　英明
6	49	愛知県	5	成年男子	4	山本　秀樹	古賀　勝志	福田　昭典	滝田　智

西日本、中部日本大会3位以上入賞者

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S48	第13回西日本学生選手権大会	女子団体	2		市邨学園短大
H6	第21回西日本家庭婦人大会	2部Bブロック	1	堀尾恵美子 森川　慶子	名古屋市 西尾市
		2部Cブロック	1	億田　幸子 田村　早苗	一宮市 名古屋市
		2部Eブロック	3	山本しず子 田中　勝子	岡崎市 名古屋市
		2部Fブロック	2	細野　節子 魚住　栄子	豊田市
8	第23回西日本家庭婦人大会	2部Eブロック	3	山本しず子 竹原　芳子	岡崎市 名古屋市
		2部Fブロック	3	大脇なほみ 田中　勝子	名古屋市
9	第24回西日本家庭婦人大会	2部Cブロック	1	松本江里子 田中　陽子	岡崎市
S24	第2回中部日本選手権大会	男子単	2	貝本　暁	トヨタ自工
		男子複	3	貝本　暁 小椋　勉	トヨタ自工
		女子単	1	保田　久子	トヨタ自工
		女子複	1	保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工
25	第3回中部日本選手権大会	男子単	1	野口　勇	愛工高
			2	渡辺　成雄	松蔭高
		男子複	1	野口　勇 大竹　健司	愛工高 瑞陵高
			2	渡辺　成雄 石川　光男	松蔭高 瑞陵高
26	第4回中部日本選手権大会	男子複	2	渡辺　成雄 野口　勇	国税局 中日本重工
		女子単	2	保田　久子	トヨタ自工
			3	伊与田照子	トヨタ自工
		女子複	1	保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工
27	第5回中部日本選手権大会	女子単	2	保田　久子	トヨタ自工
		女子複	1	保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工
28	第6回中部日本選手権大会	男子複	1	渡辺　成雄 野口　勇	国税局 中日本重工
		女子単	3	伊与田照子	トヨタ自工
		女子複	1	保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工
29	第7回中部日本選手権大会	男子単	1	服部　興治	瑞陵OB
			2	野口　勇	愛工高
		男子複	1	服部　興治 野口　勇	瑞陵OB 新三菱重工
		女子単	1	堀江　綾子	新三菱重工
			2	保田　久子	トヨタ自工
			3	伊与田照子	トヨタ自工
		女子複	1	保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工
		成年複	1	小池　鉱市 中井　義行	トヨタ自工
		混合複	1	保田　久子 岩月　真平	トヨタ自工
			3	小池　鉱市 伊与田照子	トヨタ自工
30	第8回中部日本選手権大会	男子単	3	野口　勇	新三菱重工
		男子複	2	野口　勇 渡辺　成雄	新三菱重工 国税局

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S30	第8回中部日本選手権大会	男子複	3	上羽　家秀 岩月　真平	トヨタ自工
		女子単	1	大沢　節子	トヨタ自工
		女子複	3	大沢　節子 高木　芳枝	トヨタ自工
		壮年単	1	小池　鉱市	トヨタ自工
		壮年複	1	小池　鉱市 水谷　国広	トヨタ自工
		混合複	1	大沢　節子 岩月　真平	トヨタ自工
31	第9回中部日本選手権大会	女子単	1	大沢　節子	トヨタ自工
		混合複	3	森川　夏美 野口　勇	新三菱重工
39	第17回中部日本選手権大会	青年女子単	1	上井三枝子	トヨタ自工
		青年女子複	1	上井三枝子 粂田　順子	トヨタ自工
		成年男子単	1	多賀　純一	トヨタ自工
		混合	1	上井三枝子 岩后　隆昭	トヨタ自工
40	第18回中部日本選手権大会	少女複	1	加藤　裕子 各務いつ子	高蔵女商高
		青年男子単	1	小宮　好雄	トヨタ自工
			2	小野　勝洋	十条製紙
			3	長谷川敏彦	トヨタ自工
		青年男子複	1	長谷川敏彦 杉政　和男	トヨタ自工
		青年女子複	2	上井三枝子 粂田　順子	トヨタ自工
		成年男子単	3	多賀　純一	トヨタ自工
		壮年男子単	3	長谷川参三	円上中学
		混合複	3	小宮　好雄 上井三枝子	トヨタ自工
41	第19回中部日本選手権大会	男子単	1	伊村　隆	名古屋鉄道
		女子単	3	山際トモ子	名古屋鉄道
		女子複	3	山際トモ子 渡辺　幸子	名古屋鉄道
		壮年男子複	3	中村　高久 長谷川参三	豊田織機 円上中学
		混合複	1	伊村　隆 山際トモ子	名古屋鉄道
42	第20回中部日本選手権大会	青年男子単	1	板垣　善憲	トヨタ自工
			2	伊村　隆	名古屋鉄道
			3	安沢　武司	トヨタ自工
		青年男子複	1	長谷川敏彦 安沢　武司	トヨタ自工
		青年女子複	2	山際トモ子 渡辺　幸子	名古屋鉄道
			3	太田　節子 上野　明美	トヨタ自動車
		壮年男子単	3	中村　高久	豊田織機
		壮年男子複	2	中村　高久 西尾　義光	豊田織機
			3	鈴木　勇 余　良弥	裁判所
		混合複	1	板垣　善憲 太田　節子	トヨタ自工
			2	安沢　武司 深沢むつ子	トヨタ自工
43	第21回中部日本選手権大会	男子単	1	安沢　武司	トヨタ自工
			2	牛島　秀雄	トヨタ自工

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S43	第21回中部日本選手権大会	男子複	1	長谷川敏彦 安沢　武司	トヨタ自工
			2	小林　一宏 松島　保	トヨタ自工
			3	牛島　秀雄 伊藤　一夫	トヨタ自工
		女子単	3	深沢むつ子	トヨタ自工
		女子複	3	深沢むつ子 金子美和子	トヨタ自工
		混合複	1	上野　明美 安沢　武司	トヨタ自工
		混合複	3	深沢むつ子 小林　一宏	トヨタ自工
44	第22回中部日本選手権大会	一般男子単	1	牛島　秀雄	トヨタ自工
			2	樋口　一春	名古屋鉄道
		一般男子複	1	伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道
		一般女子単	1	太田　節子	トヨタ自工
			2	金子美和子	トヨタ自工
			3	大橋美知子	豊田織機
		一般女子複	1	上野　明美 太田　節子	トヨタ自工
			2	深沢むつ子 金子美和子	トヨタ自工
			3	大橋美知子 辻田　京子	豊田織機
		壮年男子単	3	中村　高久	豊田織機
		混合複	1	高橋　孝子 樋口　一春	名古屋鉄道
			2	大橋美知子 武田　正雄	豊田織機
			3	上野　明美 松島　保	トヨタ自工
		壮年男子複	2	中村　高久 西尾　義光	豊田織機
45	第23回中部日本選手権大会	少年単	3	加藤　保利	名電工
		青年男子単	2	牛島　秀雄	トヨタ自工
			3	樋口　一春	名古屋鉄道
		青年女子単	1	大橋美知子	豊田織機
			2	辻田　京子	豊田織機
			3	小沢八重子	トヨタ自工
		青年女子複	1	小沢八重子 橋本　香代	トヨタ自工
			2	工藤美佐江 紺野　幾子	豊田織機
			3	大橋美知子 辻田　京子	豊田織機
		壮年単	2	後藤　守	名古屋鉄道
			3	井沢　宏	名古屋鉄道
		壮年複	1	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
			2	西尾　義光 中村　高久	豊田織機
		混合	2	橋本　香代 牛島　秀雄	トヨタ自工
46	第24回中部日本選手権大会	青年女子複	2	橋本　香代 紅谷　島子	トヨタ自工
			3	工藤美佐江 紺野　幾子	豊田織機
		壮年複	1	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
		青年男子単	3	樋口　一春	名古屋鉄道

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S46	第24回中部日本選手権大会	青年男子複	2	松島　保	トヨタ自工
		青年女子単	3	富居　康子	豊田織機
		壮年単	3	中村　高久	豊田織機
			3	井沢　宏	名古屋鉄道
47	第25回中部日本選手権大会	青年女子単	1	池田　静江	トヨタ自工
			2	紺野　幾子	豊田織機
		青年女子単	3	工藤美佐江	豊田織機
		青年女子複	1	工藤美佐江 紺野　幾子	豊田織機
			2	池田　静江 村田　絹子	トヨタ自工
		壮年単	3	中村　高久	豊田織機
		壮年複	2	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
		混合	2	紺野　幾子 武田　正雄	豊田織機
48	第26回中部日本選手権大会	青年女子単	2	池田　静江	トヨタ自工
			3	富居　康子	豊田織機
		青年女子複	1	池田　静江 宮内すみ子	トヨタ自工
			2	西山恵美子 林　慶子	トヨタ自工
		壮年単	2	中村　高久	豊田織機
		壮年複	3	後藤　守 井沢　宏	名古屋鉄道
		混合複	1	池田　静江 松島　保	トヨタ自工
49	第27回中部日本選手権大会	青年男子単	1	本間　順次	トヨタ自工
			2	谷口　寛	トヨタ自工
		青年男子複	1	本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工
		青年女子単	2	池田　静江	トヨタ自工
			3	布上　茂美	トヨタ自工
		青年女子複	1	池田　静江 宮内すみ子	トヨタ自工
		成年男子複	2	深井　忠男 幸　克己	豊田織機
		壮年男子単	3	中村　高久	豊田織機
		壮年男子複	3	荒川　司郎 市川　清	トヨタ自工
50	第28回中部日本選手権大会	青年女子複	3	布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工
51	第29回中部日本選手権大会	青年女子単	1	布上　茂美	トヨタ自工
			3	浦田由美子	トヨタ自工
		青年女子複	2	布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工
			3	根本　栄子 二川　清美	トヨタ自工
52	第30回中部日本選手権大会	青年女子単	1	布上　茂美	トヨタ自工
		青年女子複	3	根本　栄子 二川　清美	トヨタ自工
			3	山西　百恵 瀧　晴恵	トヨタ自工
		成年男子単	3	武田　正雄	豊田織機
			3	深井　忠男	豊田織機
		壮年男子単	2	伊藤　雅昭	電々東海
		壮年男子複	3	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
54	第32回中部日本選手権大会	青年女子単	1	水谷　昌代	日本電装
		青年女子複	2	水谷　昌代 加塩　淳子	日本電装

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S54	第32回中部日本選手権大会	青年女子複	3	松原　香純 片山りつ子	日本電装
			3	二川　清美 加藤千恵子	トヨタ自工
		壮年男子単	3	伊藤　雅昭	電々東海
		壮年男子複	3	伊藤　雅昭 鬼頭　弘明	電々東海
55	第33回中部日本選手権大会	青年男子複	1	山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自工
		青年男子単	1	坂本　宏志	トヨタ自工
			1	小松　澄子 皆川　詔子	日本電装
			2	水谷　昌代 加塩　淳子	日本電装
			3	渡辺　喜美 山西　百恵	トヨタ自工
		青年女子単	1	渡辺　喜美	トヨタ自工
			2	山西　百恵	トヨタ自工
			3	皆川　詔子	日本電装
		少年女子複	3	奥村ひろみ 奥田　恭子	愛知淑徳高
		成年男子複	3	伊藤　正昭 中川　紀嗣	電々東海
		壮年男子複	2	伊藤　雅昭 佐藤　泰理	電々東海 三菱電機
		壮年男子単	2	伊藤　雅昭	電々東海
		成年女子複	3	稲川　詩子 片岡　マリ	春日井チェリー
56	第34回中部日本選手権大会	青年男子複	2	山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自工
		青年女子単	2	加塩　淳子	日本電装
			3	片山りつ子	日本電装
58	第36回中部日本選手権大会	青年男子複	1	山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自動車
			2	坂本　昌嗣 菅原　敬二	トヨタ自動車
		青年男子単	1	坂本　宏志	トヨタ自動車
			3	岩渕　信司	豊田織機
		青年女子複	1	柳田智佳子 笠松美智代	トヨタ自動車
			2	橋本真由美 田中美千代	トヨタ自動車
			3	太田　礼子 谷口　民子	BSモリタ
		青年女子単	2	笠松美智代	トヨタ自動車
			3	柳田智佳子 岸本奈緒美	トヨタ自動車
		少年女子複	1	佐々木道子 六郷　由香	愛知淑徳高
			2	奥村ひろみ 伊藤　千恵	愛知淑徳高
		少年女子単	2	六郷　由香	愛知淑徳高
			3	佐々木道子	愛知淑徳高
		成年男子複	3	松島　保 谷口　寛	トヨタ自動車
		成年男子単	3	大村　真司	ウィスタリア
		壮年男子複	2	佐藤　泰理 鈴木　勝美	三菱電機
		壮年男子単	2	佐藤　泰理	三菱電機
			3	伊藤　雅昭	NTT東海
		成年女子複	2	姫川　明美 牛島　節子	豊田家婦 BSモリタ

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S58	第36回中部日本選手権大会	ベテラン男子複	3	鈴木　勇 渡辺　幸男	裁判所 NTT東海
59	第37回中部日本選手権大会	少年女子単	3	六郷　由香	愛知淑徳高
		少年女子複	2	六郷　由香 佐々木道子	愛知淑徳高
		成年男子単	3	大村　真司	ウィスタリア
		成年男子複	3	大村　真司 伊藤　正昭	ウィスタリア NTT東海
		ベテラン男子複	1	多賀　純一 市川　清	トヨタ自動車
60	第38回中部日本選手権大会	ベテラン男子複	1	鬼頭　弘明 渡辺　幸男	NTT東海
		青年女子複	3	松本　清美 高田　美和	トヨタ自動車
			3	遠藤　真弓 林　幸枝	トヨタ自動車
		成年女子複	3	田中　勝子 野中恵美子	名古屋家婦連
		青年男子単	3	日比野伸昭	豊田工機
		壮年男子単	3	伊藤　雅昭	NTT東海
		青年女子単	3	高田　美和	トヨタ自動車
61	第39回中部日本選手権大会	青年男子単	2	日比野伸昭	豊田工機
			3	峰　登志郎	豊田工機
		青年男子複	3	峰　登志郎 東　正也	豊田工機
		成年女子複	2	阿知波幸子 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連
		壮年男子単	3	伊藤　雅昭	NTT東海
		壮年女子複	3	田中　勝子 野中恵美子	名古屋家婦連
		ベテラン男子複	3	鬼頭　弘明 渡辺　幸男	NTT東海
		少年女子単	3	稲熊　康子	愛知淑徳高
		少年女子複	3	稲熊　康子 森　ゆかり	愛知淑徳高
62	第40回中部日本選手権大会	青年男子複	3	峰　登志郎 東　正也	豊田工機
		青年女子単	3	林　幸枝	トヨタ自動車
		成年男子複	2	山田　清孝 菱田　修光	東海クラブ RHBT
			3	野村　博克 川島　章稔	RSノナカ
		少年女子単	3	林　矢須子	市郷学園高
		少年女子複	2	加藤　佳美 早川美奈子	佐屋高
			3	林　矢須子 彦坂　知美	市郷学園高
63	第41回中部日本選手権大会	青年女子単	2	佐藤　浩子	日本電装
		青年女子複	3	佐々　恵理 間庭　由美	日本電装
			3	井田　明子 佐藤　浩子	日本電装
		少年男子単	3	佐藤　崇裕	愛工大名電高
		ベテラン男子複	3	市川　清 尾崎　利夫	豊田市協会
H1	第42回中部日本選手権大会	青年男子単	3	峰　登志郎	豊田工機
		青年女子複	2	田村真理子 藤本　暢子	トヨタ自動車
		少年女子単	3	青木美代子	佐屋高
		少年女子複	3	青木美代子 砂田ひかり	佐屋高

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
H2	第43回中部日本選手権大会	青年女子単	3	間庭　由美	日本電装
		青年女子複	2	田中　裕子 松田　泰子	トヨタ自動車
			3	間庭　由美 河村　祐子	日本電装
		成年男子複	3	吉川　寿春 宮本　武久	愛知製鋼 知多市体協
		成年男子単	3	伊藤　正昭	NTT東海
			3	大村　真司	ウィスタリア
		壮年女子複	3	億田　幸子 野中恵美子	一宮家婦連 名古屋家婦連
		ベテラン男子複	3	佐藤　泰理 勝村　寿男	三菱電機 名北クラブ
3	第44回中部日本選手権大会	青年男子複	3	吉田　　努 大竹　達裕	東海興業 東海興業
		青年女子複	2	川村　順子 墨　　久子	豊田織機 豊田通商
		成年女子複	2	田中　陽子 松本江里子	岡崎家婦連
		壮年男子単	2	伊藤　正昭	NTT東海
			3	大村　真司	ウィスタリア
		壮年男子複	2	伊藤　正昭 大村　真司	NTT東海 ウィスタリア
		壮年女子複	1	億田　幸子 野中恵美子	一宮家婦連 名古屋家婦連
		ベテラン男子複	2	鈴木　勝美 佐藤　泰理	三菱電機稲沢 三菱電機名古屋
		少年男子単	3	井嶋　寛興	岡崎城西高
		少年女子単	3	二見　恭子	市邨学園高
4	第45回中部日本選手権大会	青年男子複	2	吉田　　努 大竹　達裕	東海興業
			3	岩渕　信司 大阪　哲嗣	豊田織機 豊田工機
		青年男子単	3	吉田　　努	東海興業
		青年女子複	3	墨　　久子 川村　順子	豊田通商 豊田織機
		青年女子単	3	川村　順子	豊田織機
		少年男子複	3	鈴村　雅弘 安藤　健一	岡崎城西高
		少年男子単	1	鈴村　雅弘	岡崎城西高
		少年女子複	1	中出　綾子 大村　　泉	市邨学園高
			3	清水　礼子 恒川　絹代	愛知淑徳高
		成年男子複	3	新田　正喜 横山　信一	BSモリタ
			3	吉川　寿春 宮本　武久	愛知製鋼 知多市体協
		壮年男子複	1	野村　博克 中川　創生	RSノナカ フライトスポーツ
			3	武田　正雄 松島　　保	豊田織機 トヨタ自動車
		壮年男子単	1	沢田　正夫	三菱重工エア製
			3	武田　正雄	豊田織機
		成年女子複	1	横山　深雪 門間由美子	豊田家婦連
			3	森本千恵子 石原あけみ	瑞穂クラブ RHBT
		壮年女子複	1	太田　礼子 服部美和子	豊田家婦連
			2	野村　洋子 野中恵美子	さおりBC 名古屋家婦連

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
H4	第45回中部日本選手権大会	ベテラン男子複	1	鈴木　勝美 佐藤　泰理	三菱電機
H5	第46回中部日本選手権大会	青年男子複	3	岩渕　信司 大阪　哲嗣	豊田織機 豊田工機
		青年女子複	3	川村　順子 墨　　久子	豊田織機 豊田通商
		成年女子複	2	田村　早苗 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連
		壮年男子単	2	沢田　正夫	三菱重工エア製
		壮年男子複	2	沢田　正夫 野村　博克	三菱重工エア製 RSノナカ
		壮年女子複	1	太田　礼子 服部美和子	豊田家婦連
			3	野中恵美子 野村　洋子	名古屋家婦連 さおりBC
		ベテラン男子複	2	鈴木　勝美 佐藤　泰理	三菱電機稲沢 三菱電機名古屋
		ベテラン女子複	1	山本しず子 道家　　幸	岡崎家婦連 一宮家婦連
			2	大脇なほみ 神農　浪子	名古屋家婦連
6	第47回中部日本選手権大会	成年女子複	2	田村　早苗 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連
		壮年男子複	2	沢田　正夫 野村　博克	三菱重工エア製 RSノナカ
			3	伊藤　正昭 大村　真司	NTT東海 ウィスタリア
		壮年女子複	3	野中恵美子 野村　洋子	名古屋家婦連
		ベテラン男子複	2	平岩　文雄 徳田　達雄	大門クラブ
			3	鈴木　勝美 佐藤　泰理	三菱電機
		ベテラン女子複	1	山本しず子 田中　勝子	岡崎家婦連 名古屋家婦連
7	第48回中部日本選手権大会	少年女子複	3	三宅　綾子 田島佳代子	愛知淑徳高
		青年男子単	3	吉田　　努	東海興業
		ベテラン男子複	1	平岩　文雄 佐野　茂夫	安城クラブ 安城クラブ
		ベテラン女子複	2	山本しず子 田中　勝子	岡崎家婦連 名古屋家婦連
8	第49回中部日本選手権大会	少年女子単	3	佐合　友麻	愛知淑徳高
		青年男子単	3	馬場　直樹	東海興業
		青年男子複	3	角藤　利明 平尾　昌也	東海興業
			3	馬場　直樹 柳田　順一	東海興業
		青年女子単	3	竹田津範子	トヨタ自動車
		青年女子複	1	原田いづみ 竹田津範子	トヨタ自動車
			3	前田久美子 大串　朱美	トヨタ自動車
		成年女子複	2	太田　礼子 門馬由美子	豊田家婦連
		壮年女子複	2	吉良　里子 辛　　康子	横須賀クラブ 豊田家婦連
		ベテラン男子複	2	平岩　文雄 佐野　茂夫	安城クラブ
9	第50回中部日本選手権大会	青年男子単	3	滝田　　智	トヨタ自動車
		青年女子単	3	竹田津範子	トヨタ自動車
			3	堀　絵里子	トヨタ自動車

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
H9	第50回中部日本選手権大会	青年女子複	2	藤本 暢子 大串 朱美	トヨタ自動車
		壮年男子単	1	青山 忠雄	三菱重工名航
			2	沢田 正夫	三菱重工エア製
		壮年男子複	1	沢田 正夫 青山 忠雄	三菱重工エア製 三菱重工名航
		ベテラン男子複	2	平岩 文雄 佐野 茂夫	安城市
S28	第1回中部学生 第2回中部大学 選手権大会	女子団体	3		金城学院大学
		女子単	1	小粥 弘子	金城学院大
		女子複	1	小粥 弘子 三浦登志子	金城学院大
30	第3回中部学生 第4回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		女子団体	3		金城学院大学
		女子複	1	山田 慧子 清田	金城学院大
31	第4回中部学生 第5回中部大学 選手権大会	男子単	1	武田 明信	名城大
33	第6回中部学生 第7回中部大学 選手権大会	女子団体	3		金城学院大学
36	第9回中部学生 第10回中部大学 選手権大会	女子団体	3		名古屋女子大学
37	第10回中部学生 第11回中部大学 選手権大会	男子団体	3		南山大学
		男子単	1	稲熊 文隆	愛知大
38	第11回中部学生 第12回中部大学 選手権大会	男子団体	2		南山大学
		女子団体	1		名古屋女子大学
39	第12回中部学生 第13回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名古屋大学
		女子団体	3		名古屋女子大学
		男子複	1	寺本 喜宥 本田 勝也	名古屋大
		女子複	1	松波千鶴子 森 春代	名古屋女子大
40	第13回中部学生 第14回中部大学 選手権大会	女子団体	3		名古屋女子大学
		男子単	2	安藤 義治	名古屋商科大
			3	伊藤 成光	南山大
		男子複	1	川瀬 信治 伊藤 成光	南山大
			2	安藤 義治 島岡 義和	名古屋商科大
		女子単	2	千賀 純子	金城学院大
		女子複	2	千賀 純子 小森 純子	金城学院大
			3	小木曽弘子 中沢 信子	金城学院大
41	第14回中部学生 第15回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名古屋商科大学
		女子団体	1		名古屋女子大学
		男子単	1	河田 満	名古屋商科大
		男子複	1	河田 満 山本 隆司	名古屋商科大
			2	安藤 義治 島岡 義和	名古屋商科大
		女子単	1	稲葉 良子	名古屋女子大
		女子複	1	稲葉 良子 坂田 敦子	名古屋女子大
42	第15回中部学生 第16回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名古屋商科大学
		女子団体	1		名古屋女子大学
		男子単	1	河田 満	名古屋商科大

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S42	第15回中部学生 第16回中部大学 選手権大会	男子複	1	河田 満 山本 隆治	名古屋商科大
		女子単	1	稲葉 良子	名古屋女子大
		女子複	1	稲葉 良子 石原やす子	名古屋女子大
43	第16回中部学生 第17回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名古屋商科大学
		女子団体	1		名古屋女子大学
		男子単	1	河田 満	名古屋商科大
			3	安藤 義治	名古屋商科大
		男子複	1	河田 満 山本 隆司	名古屋商科大
			2	安藤 義治 堀 真満	名古屋商科大
		女子単	2	大竹とも子	椙山女学園大
		女子複	1	小森くに子 石原やす子	名古屋女子大
			3	大竹とも子 八島 悦子	椙山女学園大
44	第17回中部学生 第18回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名古屋商科大学
			2		愛知工業大学
		女子団体	2		市邨学園短期大学
		男子単	1	河田 満	名古屋商科大
		男子複	1	堀 真満 後藤 路広	名古屋商科大
45	第18回中部学生 第19回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名古屋商科大学
			3		愛知教育大学
		男子単	2	平松 孝孔	愛知教育大
			3	後藤 路広	名古屋商科大
		男子複	1	堀 真満 後藤 路広	名古屋商科大
			2	二見 正夫 天野素義幸	名古屋商科大
46	第19回中部学生 第20回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名古屋商科大学
48	第21回中部学生 第22回中部大学 選手権大会	男子団体	2		南山大学
			3		中京大学
		女子団体	2		市邨学園短期大学
		男子単	3	山本 良雄	南山大
		男子複	1	井崎 雅弘 山田 清孝	愛知工業大
		女子単	2	波多野美代子	市邨大
		女子複	1	波多野美代子 内藤 愛子	市邨大
49	第22回中部学生 第23回中部大学 選手権大会	男子団体	1		中京大学
			3		名城大学
		女子団体	3		椙山女学園大学
		男子複	1	山田 清孝 井崎 雅弘	愛知工業大
			3	松井 智治 石川 啓	中京大
50	第23回中部学生 第24回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		男子単	3	石川 啓	中京大
		男子複	3	中口 直人 飯田 卓次	中京大
51	第24回中部学生 第25回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
			2		中京大学
		男子単	2	川島 章稔	名城大

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S52	第25回中部学生 第26回中部大学 選手権大会	男子団体	2		中京大学
		男子単	3	川島　章稔	名城大
54	第27回中部学生 第28回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
55	第28回中部学生 第29回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		男子単	3	近藤　祥夫	名城大
		男子複	3	近藤　祥夫 堀　弘之	名城大
57	第30回中部学生 第31回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		女子団体	3		中京女子大学
		女子単	3	津崎　孝子	中京女子大
58	第31回中部学生 第32回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		女子団体	3		中京大学
		男子単	2	疋田　博之	名城大
		男子複	2	中野　正己 疋田　博之	名城大
		女子単	1	津崎　孝子	中京女子大
		女子複	3	津崎　孝子 織平　節代	中京女子大
59	第32回中部学生 第33回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		女子団体	2		中京女子大学
			3		愛知淑徳大学
		男子単	1	疋田　博之	名城大
			3	神谷　道夫	名城大
		男子複	1	疋田　博之 森地　正一	名城大
		女子単	1	津崎　孝子	中京女子大
			2	佐藤真理子	愛知淑徳大
			3	近藤　晃代	愛知淑徳大
		女子複	1	津崎　孝子 織平　節代	中京女子大
			3	佐藤真理子 近藤　晃代	愛知淑徳大
60	第33回中部学生 第34回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		女子団体	3		中京女子大学
		男子単	1	森地　正一	名城大
			3	北里　憲之	名城大
		男子複	1	疋田　博之 森地　正一	名城大
			3	多和田英保 北里　憲之	名城大
		女子単	2	光嵜　裕子	愛知淑徳大
			3	近藤　晃代	愛知淑徳大
		女子複	3	三橋　結実 菊池　寿枝	中京大
61	第34回中部学生 第35回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		女子団体	2		中京大学
		男子単	1	北里　憲之	名城大
			2	森地　正一	名城大
		男子複	1	森地　正一 北里　憲之	名城大
			2	疋田　博之 山本　章生	名城大
62	第35回中部学生 第36回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		男子単	1	北里　憲之	名城大
		男子複	1	北里　憲之 松本　周	名城大
			3	玉田　智史 上島　一登	名城大

年度	大会名	種別	順位	選手名・所属・団体名	
S63	第36回中部学生 第37回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		男子単	1	北里　憲之	名城大
			2	足立　弘明	名古屋大
		男子単	3	松本　周	名城大
		男子複	1	北里　憲之 松本　周	名城大
			2	滝本　勝則 岩下　達也	名城大
H1	第37回中部学生 第38回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		女子団体	3		中京大学
		男子単	1	近藤　豊	名城大
			2	磯貝　隆	名城大
			3	北原　朋幸	名古屋大
		男子複	1	松本　周 滝本　勝則	名城大
2	第38回中部学生 第39回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		男子単	1	久湊　良成	名城大
			2	加藤　寿彦	名城大
			3	今野　淳	名城大
		男子複	1	松本　周 滝本　勝則	名城大
3	第39回中部学生 第40回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		男子単	2	加藤　寿彦	名城大
			3	久湊　良成	名城大
		男子複	3	北原　朋幸 宮田　泰彦	名古屋大
4	第40回中部学生 第41回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		女子団体	2		中京女子大学
		男子単	2	久湊　良成	名城大
		女子単	3	青木美代子	中京女子大
		男子複	3	北原　朋幸 宮田　泰彦	名古屋大
5	第41回中部学生 第42回中部大学 選手権大会	男子団体	2		名城大学
		女子団体	3		愛知大学
		男子単	2	花井　謙吉	名城大
		男子複	1	今野　淳 久湊　良成	名城大
6	第42回中部学生 第43回中部大学 選手権大会	男子団体	1		名城大学
		女子団体	3		愛知淑徳大学
		男子単	2	花井　謙吉	名城大
		男子複	1	花井　謙吉 松山　寛和	名城大
			3	中川　雅之 山本　信也	愛知大
7	第43回中部学生 第44回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		女子団体	3		愛知淑徳大学
		男子複	3	花井　謙吉 松山　寛和	名城大
		女子複	3	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大
8	第44回中部学生 第45回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		女子団体	2		愛知淑徳大学
			3		中京女子大学大
9	第45回中部学生 第46回中部大学 選手権大会	男子団体	3		名城大学
		女子団体	2		愛知淑徳大学
		男子単	3	松山　寛和	名城大

東海地区大会優勝者

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S24	第1回	男子単	杉山　敏昌	名古屋クラブ
	東海選手権大会	男子複	森　広次	松蔭高
			川瀬　治美	
		女子単	保田　久子	トヨタ自動車
		女子複	保田　久子	トヨタ自動車
			伊与田照子	
26	第3回	男子複	野口　勇	中日本重工
	東海選手権大会		渡辺　成雄	国税局
		少年男子複	服部　興治	瑞陵高
			神谷	
		女子複	後藤　範子	中日本重工
			堀江　綾子	
		少年男子単	渡辺	
		女子単	堀江　綾子	中日本重工
27	第4回	男子複	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会		石川　光男	瑞陵OB
30	第7回	男子単	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会	男子複	野口　勇	新三菱重工
			渡辺　成雄	国税局
31	第8回	男子単	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会	男子複	野口　勇	新三菱重工
			渡辺　成雄	国税局
32	第9回	混合複	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会		井出美弥子	静岡県
33	第10回	男子複	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会		渡辺　成雄	国税局
34	第11回	青年男子複	野口　勇	新三菱重工
	東海選手権大会		渡辺　成雄	国税局
36	第12回東海	青年男子単	北島　克英	愛知電機
	総合選手権大会	青年男子複	北島　克英	愛知電機
			稲垣　正二	名城大OB
		青年女子単	蔵本　文子	トヨタ自工
		青年女子複	蔵本　文子	トヨタ自工
			林　信子	
		成年男子単	荒川　司郎	トヨタ自工
		成年男子複	荒川　司郎	トヨタ自工
			谷沢　径次	
		混合	蔵本　文子	トヨタ自工
			多賀　純一	
38	第14回東海	少年複	小倉　良夫	向陽高
	総合選手権大会		清水　善勝	松陰高
		少年単	小倉　良夫	向陽高
		少女複	渡辺　幸子	高蔵商
			丹羽さよ子	
		少女単	渡辺　幸子	高蔵商
		青年男子単	稲熊　文隆	瑞陵OB
		青年男子複	野村　優	瑞陵OB
			吉田　恵之	
		青年女子複	松波千鶴子	名古屋女子大
			森　春代	
		青年女子単	松波千鶴子	名古屋女子大
		混合	多賀　純一	トヨタ自工
			横田　洋子	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S38	第14回	成年男子複	渡辺　成雄	国税局
	東海選手権大会		野口　勇	新三菱重工
		成年男子複	多賀　純一	トヨタ自工
39	第15回	青年男子複	稲熊　文隆	瑞陵OB
	東海選手権大会		吉田　恵之	
		青年女子単	上井三枝子	トヨタ自工
		青年女子複	上井三枝子	トヨタ自工
			粂田　順子	
		成年男子複	荒川　司郎	トヨタ自工
			谷沢　径次	
40	第16回東海	少年単	野村　博克	名電工高
	総合選手権大会	少年複	武田　正雄	豊田織機
			小山　勇	
		青年男子単	小野　勝洋	十条製紙
		青年女子単	粂田　順子	トヨタ自工
		青年女子複	粂田　順子	トヨタ自工
			和田　昌代	
		混合	北田　寛一	トヨタ自工
			粂田　順子	
41	第17回東海	男子単	板垣　善憲	トヨタ自工
	総合選手権大会	男子複	板垣　善憲	トヨタ自工
			安沢　武司	
		女子単	粂田　順子	トヨタ自工
		女子複	粂田　順子	トヨタ自工
			上野　明美	
42	昭和42年度	男子単	伊村　隆	名古屋鉄道
	東海総合選手権大会	女子複	太田　節子	トヨタ自工
			上野　明美	
43	昭和43年度	男子単	板垣　善憲	トヨタ自工
	東海総合選手権大会	男子複	伊村　隆	名古屋鉄道
			樋口　一春	
44	昭和44年度	男子単	安沢　武司	トヨタ自工
	東海総合選手権大会	男子複	樋口　一春	名古屋鉄道
			伊村　隆	
		女子単	工藤美佐江	豊田織機
		女子複	上野　明美	トヨタ自工
			太田　節子	
45	昭和45年度	男子単	安沢　武司	トヨタ自工
	東海総合選手権大会	女子単	大橋美知子	豊田織機
		女子複	大橋美知子	豊田織機
			辻田　京子	
46	昭和46年度	男子複	伊村　隆	名古屋鉄道
	東海総合選手権大会		樋口　一春	
		女子複	橋本　香代	トヨタ自工
			池田　静江	
47	昭和47年度	男子複	樋口　一春	名古屋鉄道
	東海総合選手権大会		伊村　隆	
		女子単	橋本　香代	トヨタ自工
		女子複	橋本　香代	トヨタ自工
			池田　静江	
48	昭和48年度	男子単	谷口　寛	トヨタ自工
	東海総合選手権大会	男子複	加藤　保利	名古屋鉄道
			菱田　修光	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S48	昭和48年度 東海総合選手権大会	女子複	宮内すみ子	トヨタ自工
			池田　静江	
		女子単	冨居　康子	豊田織機
49	昭和49年度 東海総合選手権大会	男子単	谷口　寛	トヨタ自工
51	昭和51年度 東海総合選手権大会	男子複	谷口　寛	トヨタ自工
			磯野　雄二	
		女子単	布上　茂美	トヨタ自工
52	昭和52年度 東海総合選手権大会	男子複	梶川　博之	トヨタ自工
			重山　成生	
		女子単	布上　茂美	トヨタ自工
		女子複	布上　茂美	トヨタ自工
			中川千恵子	
53	昭和53年度 東海総合選手権大会	男子複	谷口　寛	トヨタ自工
			山本　秀樹	
		女子複	根本　栄子	トヨタ自工
			二川　清美	
		男子単	山本　秀樹	トヨタ自工
		女子単	根本　栄子	トヨタ自工
54	昭和54年度 東海総合選手権大会	男子単	梶川　博之	トヨタ自工
		女子単	二川　清美	トヨタ自工
55	昭和55年度 東海総合選手権大会	女子単	山西　百恵	トヨタ自工
		女子複	渡辺　喜美	トヨタ自工
			山西　百恵	
56	昭和56年度 東海総合選手権大会	男子単	坂本　宏志	トヨタ自工
		男子複	山本　秀樹	トヨタ自工
			坂本　宏志	
		女子単	皆川　詔子	日本電装
		女子複	渡辺　喜美	トヨタ自工
			山西　百恵	
57	昭和57年度 東海総合選手権大会	男子単	坂本　宏志	トヨタ自動車
		男子複	山本　秀樹	トヨタ自動車
			坂本　宏志	
		女子複	柳田智佳子	トヨタ自動車
			岸本奈緒美	
58	昭和58年度 東海総合選手権大会	男子単	坂本　宏志	トヨタ自動車
		男子複	坂本　宏志	トヨタ自動車
			山本　秀樹	
		女子単	橋本真由美	トヨタ自動車
		女子複	柳田智佳子	トヨタ自動車
			笠松美智代	
		少年男子単	服部　慶一	愛工大名電高
		少年男子複	服部　慶一	愛工大名電高
			間瀬　敏秋	
		少年女子複	六郷　由香	愛知淑徳高
			伊藤　千恵	
59	昭和59年度 東海総合選手権大会	男子複	山本　秀樹	トヨタ自動車
			坂本　宏志	
		女子複	片山りつ子	日本電装
			関谷　亮子	
		ジュニア男子複	岡田　政朗	東海高
			稲熊　志訓	
		ジュニア女子複	伊藤　千恵	愛知淑徳高
			宿屋美佐子	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S59	昭和59年度 東海総合選手権大会	ジュニア女子単	六郷　由香	愛知淑徳高
60	昭和60年度 東海総合選手権大会	男子単	古賀　勝志	トヨタ自動車
		女子単	宮本美津子	日本電装
		女子複	白川　由里	日本電装
			元田　慶子	
		ジュニア男子単	田村　勝久	愛工大名電高
		ジュニア女子単	稲熊　康子	愛知淑徳高
61	昭和61年度 東海総合選手権大会	女子複	白川　由里	日本電装
			宮本美津子	
		男子単	峰　登志郎	豊田工機
		女子単	白川　由里	日本電装
		ジュニア女子単	稲熊　康子	愛知淑徳高
		ジュニア女子複	稲熊　康子	愛知淑徳高
			森　ゆかり	
62	昭和62年度 東海総合選手権大会	男子複	峰　登志郎	豊田工機
			東　正也	
		女子複	宮本美津子	日本電装
			大屋　幸恵	
		ジュニア男子単	加藤　寿彦	岡崎城西高
		ジュニア男子複	浅田　佳孝	岡崎城西高
			木下　和孝	
		ジュニア女子単	林　矢須子	市邨学園高
		ジュニア女子複	加藤　佳美	佐屋高校
			早川美奈子	
63	昭和63年度 東海総合選手権大会	男子単	福田　実	日本電装
H1	平成元年度 東海総合選手権大会	男子単	福田　昭典	トヨタ自動車
		ジュニア女子単	山下　新	市邨学園高
		ジュニア女子複	原　香織	愛知淑徳高
			木下　幸子	
2	平成2年度 東海総合選手権大会	男子単	古賀　勝志	トヨタ自動車
		男子複	古賀　勝志	トヨタ自動車
			福田　昭典	
		ジュニア男子単	井嶋　寛興	岡崎城西高
		ジュニア女子複	下川　雅美	市邨学園高
			二見　恭子	
3	平成3年度 東海総合選手権大会	男子単	古賀　勝志	トヨタ自動車
		男子複	川本　英明	トヨタ自動車
			福田　昭典	
		女子複	藤本　暢子	トヨタ自動車
			清水由紀子	
		ジュニア男子単	鈴村　雅弘	岡崎城西高
		ジュニア女子単	二見　恭子	市邨学園高
		ジュニア女子複	鈴木　冬子	愛知淑徳高
			小林ゆかり	
4	平成4年度 東海総合選手権大会	男子単	野呂　徹	豊田工機
		男子複	古賀　勝志	トヨタ自動車
			福田　昭典	
		混合複	北里　憲之	アイシン精機
			山地　裕美	
		ジュニア男子単	鈴村　雅弘	岡崎城西高
		ジュニア男子複	鈴村　雅弘	岡崎城西高
			安藤　健	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H4	平成4年度	ジュニア女子複	大村　泉	市邨学園高
	東海総合選手権大会		中出　綾子	
H5	平成5年度	男子単	福田　昭典	トヨタ自動車
	東海総合選手権大会	女子複	藤本　暢子	トヨタ自動車
			松田　泰子	
		少年女子単	大山登茂枝	愛知淑徳高
		少年女子複	大山登茂枝	愛知淑徳高
			下川　淳子	
6	平成6年度	ジュニア女子複	八木千寿恵	愛知淑徳高
	東海総合選手権大会		浅野布紗子	
8	平成8年度	男子単	滝田　智	トヨタ自動車
	東海総合選手権大会	女子単	野中　亮子	日本電装
		女子複	野中　亮子	日本電装
			吉武由加里	
		混合複	滝田　智	トヨタ自動車
			大串　朱美	
		ジュニア女子単	佐合　友麻	愛知淑徳高
		ジュニア男子複	久野　元嗣	岡崎城西高
			佐藤　潤一	
		ジュニア女子複	佐合　友麻	愛知淑徳高
			加藤　郁子	
9	平成9年度	混合複	滝田　智	トヨタ自動車
	東海総合選手権大会		大串　朱美	

S31	第1回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
32	第2回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
33	第3回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
37	第7回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
38	第8回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
40	第10回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		名古屋鉄道
41	第11回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		名古屋鉄道
42	第12回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
43	第13回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工B
44	第14回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工A
45	第15回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		豊田自動織機A
46	第16回東海実業団	男子団体		名古屋鉄道
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
47	第17回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
48	第18回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
49	第19回東海実業団	女子団体		トヨタ自工
	選手権大会			

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S50	第20回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
51	第21回東海実業団	女子団体		トヨタ自工
	選手権大会			
52	第22回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		トヨタ自工
54	第24回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		日本電装
55	第25回東海実業団	男子団体		トヨタ自工
	選手権大会	女子団体		日本電装
57	第27回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会			
58	第28回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会			
59	第29回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会	女子団体		日本電装
60	第30回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会	女子団体		日本電装
61	第31回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会	女子団体		日本電装
62	第32回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会	女子団体		日本電装
63	第33回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会			
H4	第37回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会			
7	第40回東海実業団	男子団体		トヨタ自動車
	選手権大会	女子団体		日本電装
8	第41回東海実業団	女子団体		日本電装
	選手権大会			

S28	第1回東海学生選手権大会	女子単	小粥　弘子	金城学院大
		女子複	小粥　弘子	金城学院大
			三浦登志子	
30	第3回東海学生選手権大会	男子単	武田　明信	名城大
		男子複	武田　明信	名城大
			渡辺　成雄	
		女子単	山田　慧子	金城学院大
31	第4回東海学生選手権大会	男子単	稲熊　貞夫	名城大
		男子複	武田　明信	名城大
			稲熊　貞夫	
		女子単	山田　慧子	金城学院大
33	第6回東海学生選手権大会	男子単	須藤　博	愛知大
		女子単	綱取　鈴子	愛知大
34	第7回東海学生選手権大会	男子単	稲垣　正二	名城大
35	第8回東海学生選手権大会	男子単	稲垣　正二	名城大
		男子複	犬飼　勝	南山大
			松岡　広康	
36	第9回東海学生選手権大会	男子単	稲熊　文隆	愛知大
		男子複	犬飼　勝	南山大
			松岡　広康	
37	第10回東海学生選手権大会	男子単	稲熊　文隆	愛知大
		男子複	稲熊　文隆	愛知大
			渡辺　鉱信	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S38	第11回東海学生選手権大会	女子単	片桐　宝子	名古屋商科大
		女子複	佐々木紘子	金城学院大
			加藤　昭実	
39	第12回東海学生選手権大会	男子複	木下　金司	南山大学
			伊藤　成光	
		女子単	足立寿美子	市邨学園短期大
		女子複	林　勝子	金城学院大
			入江　久子	
40	第13回東海学生選手権大会	男子複	安藤　義治	名古屋商科大
			島岡　義和	
		女子複	千賀　純子	金城学院大
			小森　純子	
41	第14回東海学生選手権大会	男子単	安藤　義治	名古屋商科大
		男子複	安藤　義治	名古屋商科大
			島岡　義和	
		女子単	稲葉　良子	名古屋女子大
		女子複	森　春代	名古屋女子大
			村田　道子	
42	第15回東海学生選手権大会	男子単	河田　満	名古屋商科大
		男子複	河田　満	名古屋商科大
			山本　隆司	
		女子単	稲葉　良子	名古屋女子大
		女子複	稲葉　良子	名古屋女子大
			石原やす子	
43	第16回東海学生選手権大会	男子単	河田　満	名古屋商科大
		男子複	河田　満	名古屋商科大
			山本　隆司	
		女子複	増田　初子	市邨学園短期大
			山田　陽子	
44	第17回東海学生選手権大会	男子単	河田　満	名古屋商科大
		男子複	河田　満	名古屋商科大
			山本　隆司	
		女子単	増田　初子	市邨学園短期大
45	第18回東海学生選手権大会	男子複	堀　真満	名古屋商科大
			後藤　路広	
46	第19回東海学生選手権大会	男子単	後藤　路広	名古屋商科大
		男子複	堀　真満	名古屋商科大
			後藤　路広	
47	第20回東海学生選手権大会	男子単	成瀬　英治	南山大
48	第21回東海学生選手権大会	男子単	山本　良雄	南山大
		男子複	山田　清孝	愛知工業大
			伊崎　雅弘	
		女子単	波多野美代子	市邨大
49	第22回東海学生選手権大会	男子単	三浦　治	名城大
		男子複	井崎　雅弘	愛知工業大
			山田　清孝	
50	第23回東海学生選手権大会	男子単	川合　甲祐	中京大
		男子複	井崎　雅弘	愛知工業大
			香村　司朗	
51	第24回東海学生選手権大会	男子単	川島　章稔	名城大
		男子複	水谷　登	名城大
			川島　章稔	
52	第25回東海学生選手権大会	男子単	浜名　利之	中京大
		男子複	川島　章稔	名城大
			黒田　良文	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S54	第27回東海学生選手権大会	男子単	西崎　佳行	愛知工業大
		男子複	宮原　誠	中京大
			名倉　康弘	
		女子単	中谷ゆかり	金城学院大
55	第28回東海学生選手権大会	男子単	近藤　祥夫	名城大
		男子複	近藤　祥夫	名城大
			堀　弘之	
56	第29回東海学生選手権大会	男子単	近藤　祥夫	名城大
		男子複	近藤　祥夫	名城大
			堀　弘之	
57	第30回東海学生選手権大会	男子単	堀　弘之	名城大
		男子複	松木　誠司	
			鈴木　哲嗣	
58	第31回東海学生選手権大会	男子単	神谷　道夫	名城大
		男子複	西山　生吾	名城大
			神谷　道夫	
		女子単	津崎　孝子	中京女子大
		女子複	西脇　睦子	中京女子大
			津崎　孝子	
59	第32回東海学生選手権大会	男子単	疋田　博之	名城大
		男子複	疋田　博之	名城大
			森地　正一	
		女子単	津崎　睦子	中京女子大
		女子複	佐藤真理子	愛知淑徳大
			近藤　晃代	
60	第33回東海学生選手権大会	男子単	森地　正一	名城大
		男子複	疋田　博之	名城大
			森地　正一	
		女子単	近藤　晃代	愛知淑徳大
		女子複	光嵜　祐子	愛知淑徳大
			近藤　晃代	
61	第34回東海学生選手権大会	男子単	森地　正一	名城大
		男子複	疋田　博之	名城大
			森地　正一	
62	第35回東海学生選手権大会	男子単	小松崎正幸	愛知大
		男子複	北里　憲之	名城大
			松本　周	
63	第36回東海学生選手権大会	男子単	北里　憲之	名城大
		男子複	北里　憲之	名城大
			松本　周	
H1	第37回東海学生選手権大会	男子単	松本　周	名城大
		男子複	松本　周	名城大
			滝本　勝則	
2	第38回東海学生選手権大会	男子単	近藤　豊	名城大
		男子複	松本　周	名城大
			滝本　勝則	
3	第39回東海学生選手権大会	男子単	今野　淳	名城大
		男子複	山口　龍作	名城大
			久湊　良成	
4	第40回東海学生選手権大会	男子単	石田　猛	名古屋商科大
		男子複	今野　淳	名城大
			久湊　良成	
5	第41回東海学生選手権大会	男子単	花井　謙吉	名城大
		男子複	久湊　良成	名城大
			今野　淳	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H6	第42回東海学生選手権大会	男子単	花井　謙吉	名城大
		男子複	花井　謙吉	名城大
			松山　寛和	
7	第43回東海学生選手権大会	男子複	花井　謙吉	名城大
			松山　寛和	
8	第44回東海学生選手権大会	男子単	神谷　仁士	愛知工業大
9	第45回東海学生選手権大会	男子単	神谷　仁士	愛知工業大

S27	第1回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		金城学院大学A
28	第2回東海大学選手権大会	男子団体		名城大学A
		女子団体		金城学院大学A
29	第3回東海大学選手権大会	男子団体		名城大学
		女子団体		金城学院大学
30	第4回東海大学選手権大会	男子団体		名城大学
		女子団体		金城学院大学
31	第5回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		椙山女学園大学
32	第6回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		金城学院大学
33	第8回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		金城学院大学
34	第9回東海大学選手権大会	男子団体		愛知大学
		女子団体		椙山女学園大学
	第10回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		椙山女学園大学
35	第11回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		椙山女学園大学
	第12回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		椙山女学園大学
36	第13回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		椙山女学園大学
	第14回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		名古屋女子短大
37	第15回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		名古屋市女短大
	第16回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋大学
		女子団体		名古屋女子短大
38	第17回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋大学
		女子団体		名古屋女子短大
	第18回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋大学
		女子団体		金城学院大学
39	第19回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		名古屋女子大学
	第20回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋大学
		女子団体		名古屋女子大学
40	第21回東海大学選手権大会	男子団体		南山大学
		女子団体		名古屋大学
	第22回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋大学
		女子団体		金城学院大学
41	第23回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		名古屋女子大学
	第24回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		名古屋女子大学
42	第25回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S42	第25回東海大学選手権大会	女子団体		名古屋女子大学
	第26回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		名古屋女子大学
43	第27回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		市邨学園短期大
	第28回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		市邨学園短期大
44	第29回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		市邨学園短期大
	第30回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		市邨学園短期大
45	第31回東海大学選手権大会	男子団体		名古屋商科大学
		女子団体		愛知教育大学
	第32回東海大学選手権大会	男子団体		愛知教育大学
		女子団体		南山大学
46	第33回東海大学選手権大会	男子1部		南山大学
		男子2部		愛知教育大学
		男子3部		日本福祉大学
		女子1部		名古屋女子大学
		女子2部		日本福祉大学
	第34回東海大学選手権大会	男子1部		南山大学
		男子2部		愛知工業大学
		男子3部		名古屋学院大学
		女子1部		市邨学園短期大
		女子2部		名城大学
		女子3部		愛知県立大学
47	第35回東海大学選手権大会	男子1部		名古屋商科大学
		男子3部		愛知大学
		女子2部		名古屋女子大学
		女子3部		南山短期大学
	第36回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子3部		名古屋学院大学
		女子1部		市邨学園短期大
		女子2部		日本福祉大学
		女子3部		愛知県立大学
48	第37回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		愛知教育大学
		男子3部		愛知大学
		女子2部		金城学院大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		中京大学
	第38回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		女子2部		市邨学園短期大
		女子4部		愛知大学
49	第39回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知教育大学
		男子3部		名古屋工業大学
		女子3部		愛知大学
		女子4部		名古屋大学
	第40回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		愛知工業大学
		男子3部		名古屋工業大学
		女子2部		椙山女学園大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		名古屋市女短大

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S50	第41回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子3部		名古屋市立大学
		女子2部		名古屋大学
		女子3部		中京大学
		女子4部		名古屋市立大学
	第42回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子3部		日本福祉大学
		女子2部		名古屋大学
		女子3部		市邨学園短期大
		女子4部		名古屋市女短大
51	第43回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		女子1部		愛知教育大学
		女子2部		中京大学
		女子4部		南山短期大学
	第44回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		名古屋大学
		女子2部		市邨学園大学
		女子3部		名古屋市立大学
52	第45回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		南山大学
		女子2部		名古屋大学
		女子4部		名古屋女子大学
	第46回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		名古屋大学
		男子3部		名古屋市立大学
		女子3部		日本福祉大学
53	第47回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		名古屋大学
		男子3部		愛知学院大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		名古屋女子大学
		女子4部		名古屋商科大学
	第48回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子3部		愛知学院大学
		女子2部		椙山女学園大学
		女子3部		名古屋商科大学
54	第49回東海大学選手権大会	男子1部		中京大学
		男子2部		名古屋工業大学
		男子3部		豊橋技科大学
		女子2部		椙山女学園大学
		女子4部		中京女子大学
	第50回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知工業大学
		男子3部		日本福祉大学
		女子2部		名古屋女子大学
		女子3部		中京女子大学
		女子4部		名城大学
55	第51回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		豊橋技科大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子2部		椙山女学園大学
	第52回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子2部		名古屋大学

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S55	第52回東海大学選手権大会	女子4部		愛知県立大学
56	第53回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋大学
		男子3部		名古屋商科大学
		女子2部		名古屋女子大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		名古屋商科大学
	第54回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		豊橋技科大学
		男子3部		愛知教育大学
		女子3部		南山大学
57	第55回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		中部工業大学
		男子3部		名古屋商科大学
		女子2部		椙山女学園大学
		女子3部		愛知淑徳短大学
		女子4部		愛知淑徳大学
	第56回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋商科大学
		女子2部		金城学院大学
		女子3部		南山大学
		女子4部		東海短期大学
58	第57回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子1部		中京女子大学
		女子2部		愛知教育大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		名古屋工業大学
	第58回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知工業大学
		男子3部		愛知学院大学
		女子4部		名古屋市女短大
59	第59回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知学院大学
		女子1部		中京女子大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		愛知淑徳大学
	第60回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		中部大学
		女子1部		中京大学
		女子2部		愛知淑徳大学
		女子3部		名古屋市女短大
60	第61回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋商科大学
		男子3部		愛知大学
		女子1部		中京女子大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		岡崎女子短期大
		女子4部		日本福祉大学
	第62回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子3部		名古屋学院大学
		女子2部		愛知大学
		女子3部		岡崎女子短期大
		女子4部		名古屋女子大学

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S61	第63回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		中京大学
		男子3部		中部大学
		女子3部		日本福祉大学
		女子4部		愛知県立大学
	第64回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子3部		愛知教育大学
		女子2部		愛知淑徳大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		名古屋市立大学
62	第65回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		南山大学
		男子3部		名古屋学院大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		名古屋大学
		女子4部		名古屋女子大学
	第66回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知大学
		男子3部		名古屋工業大学
		女子2部		日本福祉大学
		女子4部		名古屋市女短大
63	第67回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子2部		愛知教育大学
		女子3部		名古屋市立大学
		女子4部		名古屋市女短大
	第68回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		中京大学
		男子3部		日本福祉大学
		女子2部		名古屋大学
		女子3部		愛知大学
		女子4部		岡崎女子短期大
H1	第69回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		日本福祉大学
		女子2部		名古屋大学
		女子3部		名古屋市立大学
	第70回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		日本福祉大学
		男子3部B		中部大学
		女子2部		南山大学
		女子4部B		名古屋女子大学
2	第71回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知大学
		女子3部		日本福祉大学
		女子4部		椙山女学園大学
	第72回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		中部大学
		女子2部		愛知淑徳大学
		女子3部		愛知大学
		女子4部		名古屋商科大学
3	第73回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		南山大学
		女子2部		愛知大学

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H3	第73回東海大学選手権大会	女子3部		名古屋大学
		女子4部		愛知県立大学
	第74回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子3部		愛知教育大学
		女子2部		名古屋大学
		女子3部		南山大学
		女子4部		中部大学女短大
		女子5部		名古屋工業大学
4	第75回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		日本福祉大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子3部		椙山女学園大学
		女子4部		愛知工業大学
	第76回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		日本福祉大学
		男子3部		名古屋学院大学
		女子2部		愛知教育大学
		女子3部		愛知学院大学
		女子4部		中部大学
		女子5部		市邨学園短期大
5	第77回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋学院大学
		男子3部		愛知教育大学
		女子3部		南山大学
		女子4部		市邨学園短期大
	第78回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		名古屋学院大学
		男子3部		愛知教育大学
		男子4部		名古屋市立大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		愛知学院大学
6	第79回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		日本福祉大学
		男子3部		愛知工業大学
		女子2部		名古屋大学
		女子5部		岡崎女子短期大
	第80回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子4部		大同工業大学
		女子4部		名古屋学院大学
		女子5部		岡崎女子短期大
7	第81回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子2部		愛知工業大学
		女子2部		中京大学
	第82回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子3部		中京大学
		男子5部		名古屋外語大学
		女子2部		日本福祉大学
		女子3部		愛知学院大学
		女子4部		中部大学
		女子5部		名城大学
8	第83回東海大学選手権大会	男子1部		名城大学
		男子4部		愛知教育大学
		女子2部		愛知学院大学
		女子3部		岡崎女子短期大

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H8	第83回東海大学選手権大会	女子4部		名城大学
		女子5部		愛知工業大学
	第84回東海大学選手権大会	男子2部		日本福祉大学
		男子4部		愛知教育大学
		女子2部		南山大学
		女子3部		岡崎女子短期大
		女子5部		名古屋学院大学
9	第85回東海大学選手権大会	男子2部		愛知工業大学
		男子3部		名古屋工業大学
		男子4部		名古屋商科大学
		男子5部		愛知学泉大学
		女子2部		日本福祉大学
		女子4部		名古屋工業大学

S54	第1回東海学生新人大会	男子単	小栗　国男	愛知学院大
		男子複	深沢　正己	名城大
			田辺　明弘	
		女子単	鈴木須賀代	中京大
		女子複	鈴木須賀代	中京大
			伊藤みゆき	
55	第2回東海学生新人大会	男子単	小林　俊二	豊橋技科大
		男子複	黒川　哲夫	南山大
			森川　伸之	
56	第3回東海学生新人大会	男子複	西山　生吾	名城大
			神谷　道夫	
		女子単	奥田　恭子	愛知淑徳短大
		女子複	久保　直美	中京大
			西口　真吾	
57	第4回東海学生新人大会	女子単	津崎　孝子	中京女子大
58	第5回東海学生新人大会	男子単	疋田　博之	名城大
		男子複	下谷　哲司	名城大
			疋田　博之	
59	第6回東海学生新人大会	男子単	丸山　浩樹	愛知学院大
		男子複	丸山　浩樹	愛知学院大
			井上　優	
		女子単	土田　珠江	中京大
		女子複	土田　珠江	中京大
			三橋　結実	
60	第7回東海学生新人大会	男子単	小松崎政幸	愛知大
		男子複	北里　憲之	名城大
			北畠　英明	
		女子単	菊池　寿枝	中京大
61	第8回東海学生新人大会	男子単	玉田　智史	名城大
		女子単	安田美智子	中京女子大
		女子複	安田美智子	中京女子大
			宇佐美栄理	
62	第9回東海学生新人大会	男子単	近藤　豊	名城大
		男子複	仲尾　隆志	名城大
			近藤　豊	
63	第10回東海学生新人大会	男子単	加藤　充洋	愛知大
		男子複	山本　浩晃	名城大
			山口　龍作	
		女子単	彦坂　智子	愛知大
		女子複	恵木　清子	中京女子大
			米今真由美	

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H1	第11回東海学生新人大会	男子単	北原　朋幸	名古屋大
		男子複	松井　武則	中京大
			前田　宏幸	
2	第12回東海学生新人大会	男子単	今野　淳	名城大
		男子複	若原	名城大
			今野　淳	
3	第13回東海学生新人大会	男子単	米山　賢	愛知大
		男子複	天野　貴仁	愛知大
			松島　貴胤	
4	第14回東海学生新人大会	男子単	清水　淳	名城大
		女子複	小林　真理	愛知淑徳大
			太郎良和美	
5	第15回東海学生新人大会	男子単	中村　亮二	愛知大
		男子複	中川　雅之	愛知大
			山本　信也	
6	第16回東海学生新人大会	男子単	藤田　勝靖	名城大
		男子複	多田隈　尚	名古屋学院大
			冨田　篤史	
7	第17回東海学生新人大会	男子単	神谷　仁士	愛知工業大
8	第18回東海学生新人大会	男子単	土生川岳司	名城大
		男子複	鈴木　貞則	愛知大
			野村　耕平	
		女子複	伊藤　孝子	中京女子大
			石井留美子	

S58	第1回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		三河
		イエロー		東尾張南
		ブルー		西尾張
		ホワイト		東尾張北
59	第2回東海家庭婦人大会(団体戦)	レッド		春日井家婦連
		イエロー		名古屋家婦連
		ブルー		東海家婦連
60	第3回東海家庭婦人大会(団体戦)	イエロー		名古屋家婦連A
		ブルー		名古屋家婦連B
61	第4回東海家庭婦人大会(団体戦)	レッド		豊田家婦連
		ブルー		名古屋家婦連B
62	第5回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		名古屋家婦連A
		ブルー		名古屋家婦連B
63	第6回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		名古屋家婦連
		ブルー		弥富家婦連
H1	第7回東海家庭婦人大会(団体戦)	イエロー		春日井家婦連
		ブルー		弥富家婦連
2	第8回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		名古屋家婦連
		イエロー		春日井家婦連
		ブルー		岡崎家婦連
3	第9回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		岡崎家婦連
		イエロー		名古屋家婦連
		ブルー		春日井家婦連

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H4	第10回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		イエロー		岡崎家婦連
5	第11回東海家庭婦人大会(団体戦)	レッド		名古屋家婦連
6	第12回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		岡崎家婦連
		イエロー		名古屋家婦連
		ブルー		東海家婦連
7	第13回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
8	第14回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		岡崎家婦連
		イエロー		名古屋家婦連
		ブルー		小牧家婦連
9	第15回東海家庭婦人大会(団体戦)	グリーン		豊田家婦連
		レッド		岡崎家婦連
		ブルー		東海家婦連
S62	第1回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才未満	武田　京子	刈谷家婦連
			森川　慶子	西尾家婦連
		35才以上	浦川　礼子	豊橋家婦連
			中村　朝子	
		40才以上	松田　淑子	豊田家婦連
			西　節子	
63	第2回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才未満	松本江里子	岡崎家婦連
			田中　陽子	
		35才以上	億田　幸子	一宮家婦連
			貞池　敏子	江南家婦連
		40才以上	森本恵美子	名古屋家婦連
			土屋恵美子	
		45才以上	小山喜美子	東海家婦連
			下河原洋子	
H1	第3回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才以上	武田　京子	刈谷家婦連
			森川　慶子	西尾家婦連
		45才以上	小石　寿子	小牧家婦連
			坂井　祥子	
2	第4回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才以上	武田　京子	刈谷家婦連
			森川　慶子	西尾家婦連
		45才以上	鎌田　悦子	東海家婦連
			秋田　育子	
3	第5回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才以上	億田　幸子	一宮家婦連
			佐々木裕子	知立家婦連
		45才以上	石井　智子	小牧家婦連
			水野　洋子	
		50才以上	小山喜美子	東海家婦連
			東　陽子	
4	第6回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才未満	成田　久子	名古屋家婦連
			土田　典子	
		35才以上	武田　京子	刈谷家婦連
			森川　慶子	西尾家婦連
		40才以上	竹原　芳子	名古屋家婦連
			阪本由美子	春日家婦連
		45才以上	奥野　照代	西枇杷島家婦連
			鈴木　はる	弥富家婦連

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H5	第7回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才以上	田村　早苗	名古屋家婦連
			億田　幸子	一宮家婦連
		40才以上	武田　京子	刈谷家婦連
			森川　慶子	西尾家婦連
6	第8回東海家庭婦人大会(個人戦)	35才未満	土田　典子	名古屋家婦連
			霜　恭子	小牧家婦連
		45才以上	木田ゆき子	豊明家婦連
			加藤　直美	
7	第9回東海家庭婦人大会(個人戦)	40才以上	森川　慶子	西尾家婦連
			堀尾恵美子	名古屋家婦連
		45才以上	新町　恵子	名古屋家婦連
			井上　博子	
8	第10回東海家庭婦人大会(個人戦)	40才以上	森川　慶子	西尾家婦連
			堀尾恵美子	名古屋家婦連
		45才以上	三輪　明美	豊田家婦連
			杉山　牧子	
9	第11回東海家庭婦人大会(個人戦)	40才以上	西川　福美	名古屋家婦連
			山本　武子	
S59	第31回東海高等学校総合体育大会	男子団体		愛工大名電高
		男子複	服部　慶一	愛工大名電高
			間瀬　敏秋	
		女子複	佐々木道子	愛知淑徳高
			六郷　由香	
60	第32回東海高等学校総合体育大会	女子団体		愛知淑徳高
		男子複	岡田　政朗	東海高
			稲熊　滋訓	
		女子複	佐々木道子	愛知淑徳高
			六郷　由香	
61	第33回東海高等学校総合体育大会	女子団体		愛知淑徳高
63	第35回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		男子複	木下　和俊	岡崎城西高
			浅田　佳孝	
		女子複	加藤　佳美	佐屋高
			早川美奈子	
H1	第36回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		愛知淑徳高
		男子複	鬼頭　幸裕	愛工大名電高
			佐藤　崇裕	
		女子複	原　香織	愛知淑徳高
			木下　幸子	
2	第37回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		愛知淑徳高
		女子複	青木美代子	佐屋高
			砂田ひかり	
3	第38回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		佐屋高
		男子複	井嶋　寛興	岡崎城西高
			花井　謙吉	
		女子複	蒜生美穂子	愛知淑徳高
			太郎良和美	
4	第39回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		市邨学園高

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
H6	第41回東海高等学校総合体育大会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		愛知淑徳高
8	第43回東海高等学校総合体育大会	女子団体		愛知淑徳高
9	第44回東海高等学校総合体育大会	女子団体		愛知淑徳高
S58	第12回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子団体		愛工大名電高
		女子団体		愛知淑徳高
		男子複	服部　慶一 間瀬　敏秋	愛工大名電高
		女子複	六郷　由香 佐々木道子	愛知淑徳高
60	第14回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子単	田村　勝久	愛工大名電高
		女子単	稲熊　康子	愛知淑徳高
61	第15回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	女子団体		愛知淑徳高
		女子複	稲熊　康子 森　ゆかり	愛知淑徳高
		女子単	稲熊　康子	愛知淑徳高
62	第16回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		市邨学園高
		男子単	大竹　達裕	岡崎城西高
		男子複	浅田　佳孝 木下　和俊	岡崎城西高
		女子単	林　矢須子	市邨学園高
63	第17回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		愛知淑徳高
		男子複	平松　勝 今野　淳	岡崎城西高
		女子単	藤下　恭子	佐屋高
		女子複	原　香織 木下　幸子	愛知淑徳高
H1	第18回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	女子団体		愛知淑徳高
		女子単	青木美代子	佐屋高
		女子複	木下　幸子 原　香織	愛知淑徳高
2	第19回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		佐屋高
		男子単	井嶋　寛興	岡崎城西高
		女子単	二見　恭子	市邨学園高
		女子複	二見　恭子 下川　雅美	市邨学園高
3	第20回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子団体		岡崎城西高
		女子団体		市邨学園高
4	第21回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子単	鈴木　雅弘	岡崎城西高
		女子複	中出　綾子 大村　泉	市邨学園高
6	第23回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	女子団体		愛知淑徳高
		女子単	下川　淳子	愛知淑徳高
		女子複	八木千寿子 浅野希紗子	愛知淑徳高
7	第24回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	女子団体		愛知淑徳高
		女子単	佐合　友麻	愛知淑徳高
9	第26回全国高等学校選抜大会東海地区予選会	男子単	茶谷　一平	天白高

年度	大会名	種別	選手名・所属・団体名	
S58	第3回東海中学校総合体育大会	女子団体		大府西中
		男子単	田村　勝久	藤山台中
		男子複	近藤　豊 石川　英彦	大府西中
		女子複	日野　純子 藤川あけみ	大府西中
61	第8回東海中学校総合体育大会	女子団体		大府西中
62	第9回東海中学校総合体育大会	女子団体		大府西中
		男子複	日野　克哉 坂野　和久	大府西中
		女子単	杉山まゆみ	春日井西部中
		女子複	原　香織 近藤　三葉	大府西中
63	第10回東海中学校総合体育大会	男子複	花井　謙吉 植田　達郎	大府西中
		女子単	二見　恭子	春日井西部中
H1	第11回東海中学校総合体育大会	女子団体		松原中
		男子単	平松　孝浩	当地中
		男子複	井嶋　寛興 渡辺　進二	大府西中
		女子単	二見　恭子	春日井西部中
		女子複	井上　文江 中園　久美	松原中
2	第12回東海中学校総合体育大会	男子団体		守山北中
		女子単	中出　綾子	松原中
3	第13回東海中学校総合体育大会	男子単	杉戸　聡之	大府中
7	第17回東海中学校総合体育大会	男子単	稲垣　翔悟	春日井石尾台中
		女子単	柿田　鮎美	大府北中
8	第18回東海中学校総合体育大会	女子単	本田　正恵	大府北中
9	第19回東海中学校総合体育大会	男子単	山口寿季郎	大府中

H1	第1回東海小学生大会（個人戦）	3、4年男子複	清水　賢一 千賀　篤	名古屋八幡小
4	第4回東海小学生大会（個人戦）	5年男子単	稲垣　翔悟	春日井押沢台小
		6年女子複	柿田　鮎美 松名瀬久美	大府北山小
7	第7回東海小学生大会（個人戦）	3、4年男子単	田中　陽一	大府石ケ瀬小
		3、4年男子複	清水　智浩 中口　竜郎	名古屋八幡小 高針小
		5年男子複	三ツ岡一基 桑山　貴也	常滑大野小
		3、4年女子単	清水つかさ	大府吉田小
8	第8回東海小学生大会（個人戦）	5年男子単	田中　陽一	大府石ケ瀬小
		4年男子複	清水　智浩 中口　竜郎	名古屋八幡小 大府石ケ瀬小
		5年男子複	長屋　伸健 北野　恵太	大府吉田小
9	第9回東海小学生大会（個人戦）	6年男子単	田中　陽一	大府石ケ瀬小
		5年女子単	清水つかさ	大府石ケ瀬小

国民体育大会　東海地区予選会順位　（昭和55年まで）

年度	回	一般男子	一般女子	教　員	高校男子	高校女子
S42	22		2位	3位	4位	4位
43	23		2位	3位	2位	3位
50	30		1位	1位	1位	3位
51	31		3位	3位	3位	3位
52	32		1位	2位	4位	2位
53	33		1位	2位	2位	1位
54	34	1位	3位	——	2位	1位

国民体育大会 東海ブロック大会（東海地区予選会）順位

年度	回	一般男子	一般女子	少年男子	少年女子
S55	1	1位	1位	3位	1位
56	2	2位	2位	2位	3位
57	3	2位	2位	2位	1位
58	4	2位	2位	1位	1位
59	5	1位	1位	2位	1位
60	6	1位	1位	2位	1位
61	7	1位	1位	1位	2位
62	8	2位	1位	4位	1位
63	9	1位	2位	1位	2位
H1	10	1位	2位	2位	1位
2	11	2位	2位	4位	1位
3	12	1位	2位	1位	1位
4	13	1位	2位	1位	1位
5	14	2位	2位	1位	1位
6	15				
7	16		1位	4位	1位
8	17	3位		4位	4位
9	18	4位	2位		1位

協会主催大会優勝者

愛知県総合選手権大会　個人戦

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複			混合複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S25	4	大竹　健司	瑞陵高校		立松　健市 山田　照夫	松蔭高校		堀江　綾子	中日本重工		保田　久子 伊与田照子	トヨタ自工				
34	12	稲垣　正二	千代田生命		渡辺　清 稲垣　正二	ヤナセ自 千代田生命		大竹さえ子	トヨタ自工		大竹さえ子 永谷　初枝	トヨタ自工				
36	14	長谷川陽一	愛知電機	78	長谷川陽一 稲熊　文隆	愛知電機 愛知大	30	永井たけ子	高蔵	52	永井たけ子 森山	高蔵 愛知電機				
40	17	小野　勝洋	十条製紙		小野　勝洋 吉田　恵之	十条製紙 名倉産業		粂田　順子	トヨタ自工		山際トモ子 渡辺　幸子	名古屋鉄道				
41	18	伊村　隆	名古屋鉄道		小宮　好雄 板垣　善憲	トヨタ自工		上野　明美	トヨタ自工		上野　明美 武田　初代	トヨタ自工				
42	19	安沢　武司	トヨタ自工		安沢　武司 長谷川敏彦	トヨタ自工		上野　明美	トヨタ自工		上野　明美 太田　節子	トヨタ自工				
43	20	樋口　一春	名古屋鉄道		安沢　武司 長谷川敏彦	トヨタ自工		上野　明美	トヨタ自工		上野　明美 太田　節子	トヨタ自工				
44	21	安沢　武司	トヨタ自工		伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道		太田　節子	トヨタ自工		太田　節子 金子美和子	トヨタ自工				
45	22	松島　保	トヨタ自工		安沢　武司 松島　保	トヨタ自工		大橋美和子	豊田織機		竹中　礼子 紅谷しま子	トヨタ自工				
46	23	松島　保	トヨタ自工		伊村　隆 樋口　一春	名古屋鉄道		橋本　香代	トヨタ自工		橋本　香代 池田　静江	トヨタ自工				
47	24	本間　順次	トヨタ自工		本間　順次 松島　保	トヨタ自工		工藤美佐江	豊田織機		池田　静江 村田　絹子	トヨタ自工				
48	25	谷口　寛	トヨタ自工		加藤　保利 菱田　修光	名古屋鉄道		池田　静江	トヨタ自工		池田　静江 宮内すみ子	トヨタ自工				
49	26	谷口　寛	トヨタ自工		谷口　寛 松島　保	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		宮内すみ子 布上　茂美	トヨタ自工				
50	27	谷口　寛	トヨタ自工		谷口　寛 松島　信之	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工				
51	28	谷口　寛	トヨタ自工		谷口　寛 磯野　雄二	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工				
52	29	菅原　敬二	トヨタ自工		梶川　博之 重山　成生	トヨタ自工		中川千栄子	トヨタ自工		中川千栄子 山西　百恵	トヨタ自工		中川千栄子 磯野　雄二	トヨタ自工	
53	30	谷口　寛	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　昌嗣	トヨタ自工		山西　百恵	トヨタ自工		山西　百恵 根木　栄子	トヨタ自工		根木　栄子 谷口　寛	トヨタ自工	
54	31	坂本　昌嗣	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　昌嗣	トヨタ自工		二川　清美	トヨタ自工		柳田智佳子 安田　外美	トヨタ自工		根木　栄子 谷口　寛	トヨタ自工	
55	32	山本　秀樹	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　昌嗣	トヨタ自工		渡辺　喜美	トヨタ自工		小松　澄子 皆川　詔子	日本電装		中谷ゆかり 近藤　祥夫	金城学院大 名城大	
56	33	山本　秀樹	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自工		小松　澄子	日本電装		渡辺　喜美 山西　百恵	トヨタ自工		奥田　恭子 近藤　祥夫	名城大	
57	34	坂本　宏志	トヨタ自動車		磯野　雄二 坂本　昌嗣	トヨタ自動車		片山りつ子	日本電装		片山りつ子 宮本美津子	日本電装		神谷　道夫 津崎　孝子	名城大 中京女子大	
58	35	坂本　宏志	トヨタ自動車	60	山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自動車	40	片山りつ子	日本電装	36	笠松美智子 柳田智佳子	トヨタ自動車	35	牛島　節子 牛島　秀雄	ＢＳモリタ	6
59	36	坂井外喜男	トヨタ自動車	73	山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自動車	52	片山りつ子	日本電装	40	片山りつ子 宮本美津子	日本電装	33	石井　宏明 徳留　芳美	豊田織機	13
60	37	古賀　勝志	トヨタ自動車	72	古賀　勝志 川本　英明	トヨタ自動車	40	関矢　亮子	日本電装	56	大野真裕美 宮本美津子	日本電装	37	尾崎　弘 佐藤裕美子	豊田織機	16
61	38	峰　登志郎	豊田工機	82	須貝　英徳 坂本外喜男	トヨタ自動車	49	宮本美津子	日本電装	48	白川　由理 宮本美津子	日本電装	31	上村　務 奥村ひろみ	黄金クラブ 豊田通商	15
62	39	坂本　宏志	トヨタ自動車	73	須貝　英徳 坂本外喜男	トヨタ自動車	48	宮本美津子	日本電装	61	林　幸恵 松本　清美	トヨタ自動車	40	中根　千秋 岡田由美子	大門クラブ	22
63	40	古賀　勝志	トヨタ自動車	60	古賀　勝志 須貝　英徳	トヨタ自動車	44	大屋　幸恵	日本電装	81	大屋　幸恵 佐々　恵理	日本電装	52	笹　伸一 森　ゆかり	豊田織機	30
H1	41	古賀　勝志	トヨタ自動車	64	古賀　勝志 須貝　英徳	トヨタ自動車	43	大屋　幸恵	日本電装	70	大屋　幸恵 佐々　恵理	日本電装	46	北里　憲之 小俣　栄	アイシン精機 豊田通商	16
2	42	峰　登志郎	豊田工機	55	川本　英明 城木　夢高	トヨタ自動車	53	大屋　幸恵	日本電装	55	田村真理子 藤本　鴨子	トヨタ自動車	47	北里　憲之 小俣　栄	アイシン精機 豊田通商	20
3	43	古賀　勝志	トヨタ自動車	91	峰　登志郎 東　正也	豊田工機	72	鳥居　由恵	トヨタ自動車	72	藤本　鴨子 清水由紀子	トヨタ自動車	69	近藤　祥夫 吉木美代子	ひいらぎBC 中京女短大	16
4	44	古賀　勝志	トヨタ自動車	103	川本　英明 城木　夢高	トヨタ自動車	64	鳥居　由恵	トヨタ自動車	88	藤本　鴨子 清水由紀子	トヨタ自動車	68	北里　憲之 山地　裕美	アイシン精機	
5	45	福田　昭典	トヨタ自動車	126	古賀　勝志 滝田　智	トヨタ自動車	72	鳥居　由恵	トヨタ自動車	80	藤本　鴨子 松田　泰子	トヨタ自動車	57	松本　周 川村　順子	豊田織機	6
6	46	野呂　徹	豊田工機	102	東　正也 田村　勝久	豊田工機	51	吉木美代子	日本電装	81	畢　久子 川村　順子	豊田通商 豊田織機	51	田村　勝久 吉木美代子	豊田工機 日本電装	7

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複			混合複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
H7	47	滝田　智	トヨタ自動車	84	吉田　努 大竹　達裕	東海興業	59	野中　亮子	日本電装	79	野中　亮子 吉武由加里	日本電装	73	福田　実 青木美代子	日本電装	7
8	48	滝田　智	トヨタ自動車	102	城木　夢高 滝田　智	トヨタ自動車	53	野中　亮子	日本電装	42	野中　亮子 吉武由加里	日本電装	32	滝田　智 大串　朱美	トヨタ自動車	9
9	49	馬場　直樹	東海興業	96	福田　昭典 坂上　裕哉	トヨタ自動車	54	野中　亮子	デンソー	46	吉武由加里 福島　由佳	デンソー	33	滝田　智 大串　朱美	トヨタ自動車	15

愛知県選抜対抗戦

（参――参加団体数）

年度	回	男子			女子		
		Aグループ	Bグループ	参	Aグループ	Bグループ	参
S51	1	トヨタ自工	三菱重工		トヨタ自工	豊田織機	
52	2	トヨタ自工	新日本製鐵		トヨタ自工		

愛知県総合選手権大会　団体戦

（参――参加団体数）

年度	回	男子		女子	
		団体名	参	団体名	参
S53	3	トヨタ自工		日本電装	
54	4	トヨタ自工		日本電装	
55	5	トヨタ自工		日本電装	
56	6	トヨタ自工		日本電装	
57	7	トヨタ自動車		日本電装	
58	8	トヨタ自動車	10	日本電装	10
59	9	トヨタ自動車	15	日本電装	17
S60	10	トヨタ自動車	19	日本電装	25
61	11	トヨタ自動車	19	日本電装	13
62	12	トヨタ自動車	11	日本電装	10
63	13	トヨタ自動車	13	日本電装	13
H1	14	トヨタ自動車	11	日本電装	10
2	15	トヨタ自動車	8	トヨタ自動車	9
3	16	トヨタ自動車	18	トヨタ自動車	13
H4	17	トヨタ自動車	18	トヨタ自動車	14
5	18	トヨタ自動車	18	トヨタ自動車	14
6	19	トヨタ自動車	16	トヨタ自動車	12
7	20	豊田工機	12	東海興業	10
8	21	紫電会	7	トヨタ自動車	8

愛知県団体対抗戦

（参――参加団体数）

年度	回	男子		女子	
		団体名	参	団体名	参
H9	22	豊田工機	9	トヨタ自動車	8

愛知県社会人選手権大会

一般の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	一般男子単			一般男子複			一般女子単			一般女子複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
S40	1	岩后　隆昭	トヨタ自工		杉政　和男 小林　一宏	トヨタ自工		粂田　順子	トヨタ自工		武田　初代 大塚　弘子	トヨタ自工	
41	2	伊村　　隆	名古屋鉄道		伊村　　隆 高橋　勝巳	名古屋鉄道		渡辺　幸子	名古屋鉄道		山際トモ子 渡辺　幸子	名古屋鉄道	
42	3	板垣　善憲	トヨタ自工		長谷川敏彦 小林　一宏	トヨタ自工		太田　節子	トヨタ自工		上野　明美 太田　節子	トヨタ自工	
43	4	安沢　武司	トヨタ自工		小宮　好雄 板垣　善憲	トヨタ自工		吉倉　恵子	トヨタ自工		上野　明美 金子美和子	トヨタ自工	
44	5	安沢　武司	トヨタ自工		安沢　武司 長谷川敏彦	トヨタ自工		太田　節子	トヨタ自工		上野　明美 太田　節子	トヨタ自工	
45	6	安沢　武司	トヨタ自工		伊村　　隆 樋口　一春	名古屋鉄道		金子美和子	トヨタ自工		大橋美知子 辻田　京子	豊田織機	
46	7	伊村　　隆	名古屋鉄道		伊村　　隆 樋口　一春	名古屋鉄道		大橋美知子	豊田織機		橋本　香代 池田　静江	トヨタ自工	
47	8	牛島　秀雄	トヨタ自工		樋口　一春 菱田　修光	名古屋鉄道		冨居　康子	豊田織機		橋本　香代 池田　静江	トヨタ自工	
48	9	本間　順次	トヨタ自工		本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工		池田　静江	トヨタ自工		池田　静江 宮内すみ子	トヨタ自工	
49	10	本間　順次	トヨタ自工		本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工		池田　静江	トヨタ自工		池田　静江 宮内すみ子	トヨタ自工	
50	11	本間　順次	トヨタ自工		本間　順次 谷口　寛	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		宮内すみ子 布上　茂美	トヨタ自工	
51	12	谷口　　寛	トヨタ自工		谷口　　寛 磯野　雄二	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工	
52	13	谷口　　寛	トヨタ自工		谷口　　寛 磯野　雄二	トヨタ自工		布上　茂美	トヨタ自工		布上　茂美 浦田由美子	トヨタ自工	
53	14	梶川　博之	トヨタ自工		山本　秀樹 重山　成生	トヨタ自工		水谷　昌代	日本電装		根木　栄子 二川　清美	トヨタ自工	
54	15	坂本　昌嗣	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　昌嗣	トヨタ自工		柳田智佳子	トヨタ自工		柳田智佳子 安田　外美	トヨタ自工	
55	16	山本　秀樹	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自工		山西　百恵	トヨタ自工		渡辺　喜美 山西　百恵	トヨタ自工	
56	17	坂本　宏志	トヨタ自工		山本　秀樹 坂本　宏志	トヨタ自工		片山りつ子	日本電装		皆川　詔子 小松　澄子	日本電装	
57	18	坂本　宏志	トヨタ自動車		坂本　昌嗣 磯野　雄二	トヨタ自動車		片山りつ子	日本電装		片山りつ子 宮本美津子	日本電装	
58	19	坂本　宏志	トヨタ自動車	59	坂本　昌嗣 菅原　敬二	トヨタ自動車	37	片山りつ子	日本電装	28	片山りつ子 宮本美津子	日本電装	23
59	20	坂本　宏志	トヨタ自動車	43	坂本　昌嗣 坂井外喜男	トヨタ自動車	39	関矢　亮子	日本電装	29	関矢　亮子 佐名　美幸	日本電装	20
60	21	古賀　勝志	トヨタ自動車	51	古賀　勝志 川本　英明	トヨタ自動車	40	宮本美津子	日本電装	33	宮本美津子 白川　由理	日本電装	26
61	22	須貝　英徳	トヨタ自動車	53	坂井外喜男 須貝　英徳	トヨタ自動車	34	荘田　明子	日本電装	27	宮本美津子 高原　恵美	日本電装	16
62	23	古賀　勝志	トヨタ自動車	48	坂井外喜男 古賀　勝志	トヨタ自動車	29	荘田　明子	日本電装	41	大屋　幸恵 荘田　明子	日本電装	22
63	24	峰　登志郎	豊田工機	51	福田　昭典 小本　義久	トヨタ自動車	36	大屋　幸恵	日本電装	36	大屋　幸恵 佐々　恵理	日本電装	18
H1	25	峰　登志郎	豊田工機	56	峰　登志郎 東　正也	豊田工機	33	間庭　由美	日本電装	37	田村真理子 田中　裕子	トヨタ自動車	18
2	26	古賀　勝志	トヨタ自動車	36	福田　昭典 古賀　勝志	トヨタ自動車	33	藤本　暢子	トヨタ自動車	27	鳥居　由恵 藤本　暢子	トヨタ自動車	19
3	27	野呂　　徹	豊田工機	60	福田　昭典 古賀　勝志	トヨタ自動車	37	藤本　暢子	トヨタ自動車	34	藤本　暢子 清水由起子	トヨタ自動車	17
4	28	峰　登志郎	豊田工機	56	滝田　　智 福田　昭典	トヨタ自動車	38	藤本　暢子	トヨタ自動車	37	藤本　暢子 松田　泰子	トヨタ自動車	24
5	29	滝田　　智	トヨタ自動車	77	峰　登志郎 東　正也	豊田工機	38	藤本　暢子	トヨタ自動車	36	藤本　暢子 松島　貴子	トヨタ自動車	21
6	30	滝田　　智	トヨタ自動車	55	福田　昭典 滝田　　智	トヨタ自動車	35	中出　綾子	トヨタ自動車	23	中出　綾子 清水由起子	トヨタ自動車	22
7	31	川島　一剛	豊田工機	65	石田　　満 川島　一剛	豊田工機	31	加藤　千里	豊田通商	21	小林　真理 加藤　千里	豊田通商	12
8	32	馬場　直樹	東海興業	58	滝田　　智 福田　昭典	トヨタ自動車	31	加藤　千里	豊田通商	15	原田いづみ 竹田津範子	トヨタ自動車	13
9	33	馬場　直樹	東海興業	55	滝田　　智 坂上　裕哉	トヨタ自動車	32	加藤　千里	豊田通商	13	大串　朱美 堀　絵里子	トヨタ自動車	12

30才以上の部

（参―参加数、複は組数）

年度	回	成年男子複			壮年40才以上男子複			壮年50才以上男子複			30才以上男子単			30才以上女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S40	1	伊藤 鉱一 菅川 英雄	名古屋 市役所													
41	2	野口 勇 藤田 伸之	三菱重工		中村 高久 長谷川参三	豊田織機 円上中学										
42	3	後藤 守 伊藤 鉱一	名古屋鉄道 名古屋市役所		中村 高久 西尾 義光	豊田織機										
43	4	後藤 守 伊藤 鉱一	名古屋鉄道 名古屋市役所		長谷川参三 井沢 宏	円上中学 名古屋鉄道										
44	5	後藤 守 伊藤 鉱一	名古屋鉄道 名古屋市役所		中村 高久 西尾 義光	豊田織機										
45	6	後藤 守 伊藤 鉱一	名古屋鉄道 名古屋市役所		後藤 守 井沢 宏	名古屋鉄道										
46	7	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機		後藤 守 井沢 宏	名古屋鉄道		成田美喜雄 石川 博	豊田織機							
47	8	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		長谷川参三 鈴木 勇	名商大附高 名古屋裁判所							
48	9	小野 勝洋 滝原 昇	十条製紙		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		中村 高久 石川 博	豊田織機							
49	10	田中 章吾 深井 忠男	時習館高校 豊田織機		中村 高久 成田美喜夫	豊田織機		新宮 忠雄 村瀬 久一	愛教大職員							
50	11	深井 忠男 幸 克美	豊田織機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		中村 高久 成田美喜夫	豊田織機							
51	12	深井 忠男 幸 克美	豊田織機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		中村 高久 山城 智徳	豊田織機 トヨタ自工							
52	13	深井 忠男 武田 正雄	豊田織機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		中村 高久 山城 智徳	豊田織機 トヨタ自工							
53	14	野村 博克 山下 直二	ＲＳノナカ		伊藤 雅昭 鬼頭 弘明	電々東海		中村 高久 山城 智徳	豊田織機 トヨタ自工							
54	15	野村 博克 山下 直二	ＲＳノナカ		鬼頭 弘明 宍戸 一秀	ウィスタリア		中村 高久 山城 智徳	豊田織機 トヨタ自工		野村 博克	ＲＳノナカ		稲川 詩子 片岡 洋子	春日井チェリー	
55	16	松波 譲 沢田 正夫	三菱重工		伊藤 雅昭 佐藤 泰理	電々東海 三菱電機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		松波 譲	三菱重工		雉川 明美 牛島 節子	豊田家婦連	
56	17	松波 譲 沢田 正夫	三菱重工		鈴木 勝美 佐藤 泰理	三菱電機		井沢 宏 後藤 守	名古屋鉄道		松田 仁	三菱重工		雉川 明美 角屋むつ子	ＢＳモリタ	
57	18	牛島 秀雄 杉山 新治	ＢＳモリタ		鈴木 勝美 佐藤 泰理	三菱電機		鈴木 勇 原 静夫	名古屋裁判所	1	山田 薫	瑞穂クラブ		雉川 明美 牛島 節子	ＢＳモリタ	
58	19	牛島 秀雄 杉山 新治	ＢＳモリタ	9	伊藤 雅昭 宍戸 一秀	電々東海	8	鈴木 勇 尾崎 勝行	丸の内クラブ 名港クラブ		山田 薫	瑞穂クラブ	8	伊勢 真美 長谷川さつよ	ＢＳモリタ 豊田家婦連	15
59	20	野村 博克 佐々木 豊	ＲＳノナカ		佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機	7				杉浦 順一	ＢＳモリタ	10	伊勢 真美 長谷川さつよ	ＢＳモリタ 豊田家婦連	10
60	21	山田 清孝 川原 雅治	東海クラブ 名北クラブ	12	小野田 健 片岡 輝太	ＮＴＴ東海 ウィスタリア	5	渡辺 幸雄 鬼頭 弘明	ＮＴＴ東海		山田 薫	瑞穂クラブ	12	田中 勝子 野中 恵美子	名古屋 家婦連	15
61	22	野村 博克 川島 章稔	ＲＳノナカ	13	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機	7	渡辺 幸雄 鬼頭 弘明	ＮＴＴ東海	2	大村 真司	ウィスタリア	12	岡田 由美子 松村 絹子	岡崎クラブ	13
62	23	野村 博克 川島 章稔	ＲＳノナカ	16	山本 卓男 二瓶 清	新日本製鐵	11	市川 清 尾崎 利男	豊田市協会	3	上前 茂人	日本電装	16	岡田 由美子 松村 絹子	大門クラブ	13
63	24	上前 茂人 朝倉 利行	コックメイト 日本電装	11	平松 孝孔 野村 博克	瑞穂クラブ ＲＳノナカ	11	市川 清 尾崎 利男	豊田市協会	3	杉浦 順一	ＢＳモリタ	20	太田 礼子 谷口 民子	豊田家婦連	12
H1	25	上前 茂人 森川 伸之	コックメイト	13	平松 孝孔 野村 博克	瑞穂クラブ ＲＳノナカ	13	命苫 常雄 兵藤 康則	堤ＢＣ	7	上前 茂人	コックメイト	12	太田 礼子 門間 由美子	豊田家婦連 ＢＳモリタ	10
2	26	中口 直人 大阪 哲嗣	ＲＳノナカ 豊田工機	15	平松 孝孔 野村 博克	瑞穂クラブ ＲＳノナカ	13	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機	6	中口 直人	ＲＳノナカ	14	太田 礼子 門間 由美子	豊田家婦連	13
3	27	上前 茂人 森川 伸之	コックメイト	12	大村 真司 伊藤 正昭	ウィスタリア ＮＴＴ東海	13	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機	4	井上 龍	名古屋鉄道	10	太田 礼子 門間 由美子	豊田家婦連	13
4	28	上田 信也 岩渕 信司	豊田工機 豊田織機	10	平松 孝孔 野村 博克	瑞穂クラブ ＲＳノナカ	12	沼里 敬夫 栗須 昌三	新日本製鐵 東海シャトルズ	8	小出 寿朗	フライトスポーツ	15	森本 千恵子 石原 あけみ	瑞穂クラブ	17
5	29	朝所 久夫 坪井 英之	新日本製鐵	12	大村 真司 伊藤 正昭	ウィスタリア ＮＴＴ東海	13	佐藤 泰理 鈴木 勝美	三菱電機	9	田中 章裕	CucKoo愛知	13	田中 陽子 松本 江里子	岡崎家婦連	11
6	30	川原 雅治 森本 馗	名北クラブ	13	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	9	栗須 昌三 沼里 敬夫	東海シャトルズ 新日本製鐵	11	森本 順	名北クラブ	11	門間 由美子 横山 深雪	豊田家婦連	18
7	31	川原 雅治 森本 馗	名北クラブ	7	沢田 正夫 平野 博久	三菱重工 名古屋市役所	13	平岩 文雄 佐野 茂夫	安城クラブ	10	森本 順	名北クラブ	1	横山 深雪 門間 由美子	豊田家婦連	11
8	32	森本 馗 川原 雅治	名北クラブ	5	菱田 修光 大村 真司	ＲＨＢＴ ウィスタリア	10	平岩 文雄 佐野 茂夫	安城クラブ	7	森本 順	名北クラブ	6	横山 深雪 門間 由美子	豊田家婦連	7
9	33	森本 馗 吉本 啓祐	名北クラブ 名古屋市役所	5	山田 清孝 川原 雅治	東海クラブ 名北クラブ		平岩 文雄 古川 直仁	安城市	7	森本 順	名北クラブ	10	山西 智佳子 鈴木 晴美	岡崎家婦連	6

30才以上の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	40才以上男子単			40才以上女子複			50才以上女子複			50才以上混合複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
S61	22	佐藤　泰理	三菱電機	10	田中　勝子 野中恵美子	名古屋家婦連	5						
62	23	徳田　達雄	岡崎クラブ	11	佐々木裕子 野中恵美子	名古屋家婦連	10						
63	24	越前屋直行	地崎工業	14	野中恵美子 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連	3						
H1	25	越前屋直行	地崎工業	15	野中恵美子 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連	5	魚住　栄子 田中登美子	豊田家婦連 安城家婦連	4			
2	26	青山　伸幸	大門BC	14	野中恵美子 億田　幸子	名古屋家婦連 一宮家婦連	9	小山喜美子 東　陽子	東海家婦連	8			
3	27	平松　孝孔	瑞穂クラブ	16	松本江里子 田中　京子	岡崎家婦連	14	小山喜美子 東　陽子	東海家婦連	5			
4	28	沢田　正夫	三菱重工ｴｱ製	15	億田　幸子 佐々木裕子	一宮家婦連 知立家婦連	21	大脇なほみ 神農　浪子	名古屋家婦連	7			
5	29	平松　孝孔	瑞穂クラブ	13	太田　礼子 服部美和子	豊田家婦連	24	山本しず子 道家　幸	岡崎家婦連 一宮家婦連	5	平岩　文雄 田中登美子	安城クラブ 安城家婦連	10
6	30	平松　孝孔	瑞穂クラブ	14	太田　礼子 服部美和子	豊田家婦連	15	山本しず子 田中　勝子	岡崎家婦連 名古屋家婦連	5	沼里　敬夫 浅沼都紀子	新日本製鐵 東海家婦連	8
7	31	中尾　敏夫	名北クラブ	17	木田ゆき子 加藤　直美	豊明家婦連	7	道家　幸 神農　浪子	一宮家婦連 名古屋家婦連	4	沼里　敬夫 浅沼都紀子	新日本製鐵 東海家婦連	9
8	32	中尾　敏夫	名北クラブ	10	幸　康子 吉良　里子	豊田家婦連 横須賀クラブ	10	奥野　照代 道家　幸	西枇杷島家婦連 一宮家婦連	3			
9	33	中尾　敏夫	名北クラブ	13	田村　早苗 霜　恭子	名古屋家婦連 小牧家婦連	11	服部登美子 深見やす子	弥富家婦連 江南家婦連	7			

中日楯争奪愛知県新人大会

（参――参加数、複は組数） No.1

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S23	1				富田 武 森 広次								
26	5	立松 健市	松蔭高	40	上羽 家秀 岩月 真平	トヨタ自工	22	長谷川	名西	14	長谷川 水野	名西	6
	6	小池 鉱市	トヨタ自工	60	酒巻 和男 小池 鉱市	トヨタ自工	29	中西	名ク	17	山本 満子 吉永千代子	トヨタ自工	13
	7	貝本 暁	トヨタ自工	76	伊藤 鑛一 片桐 範	松蔭高	33	村手	名西	16	村手 渡辺	名西	13
34	15	須藤 博	愛知大	108	高橋 治清 深田	名城大学	39	高井	名女院	54	天野 高井	名女院	27
37	20	大石 勇	南山大学	52	大石 勇 鬼頭 輝夫	南山大学	23	丹羽	高蔵女商	45	村上 渡部	松蔭高	22
	21	勝田 照夫	トヨタ自工	123	多賀 靖之 勝田 照夫	トヨタ自工	50	西尾	名女院	76	高橋 永谷	端稜クラブ	
40	26	武田 正雄	豊田織機		小山 勇 武田 正雄	豊田織機		梶浦てる子	高蔵女子 商業高		梶浦てる子 田口美代子	高蔵女子 商業高	
	27	横山 智行	東海銀行		恒川 久雄 孕石 光華	南山大		松永 裕美	名女商高		吉田 和子 魚住 光子	金城大学	
41	28	水谷 峰夫	名電工高		水谷 峰夫 田中 伸治	名電工高		浅野寿美子	椙山高		渡辺てる子 増田 初子	高蔵女高	
	29	古川 直仁	豊田工機		平岩 文隆 市川 幸一	豊田工機		杉浦さち江	豊田東高		小川 礼子 徳原 道子	日本福祉大学	
42	30	井伊 恵治	豊田織機		井伊 恵治 清水 満夫	豊田織機		天野真理子	豊田東高		杉本 美則 牧 節子	高蔵女子 商業高	
	31	荒井 和夫	日本電装		平松 光雄 二瓶 清	富士製鐵		浜田美穂子	豊田紡績		名倉 玲 永田まり子	守山女商高	
43	32	浅野 人美	日本電装		野村 高義 二見 正夫	名商大学		辻田 京子	豊田織機		大橋美知子 辻田 京子	豊田織機	
	33	加藤 悟	名電工高		小野 耕作 正岡 洋二	豊田織機		庄司 絹子	名女商高		東 三智子 吉元ひとみ	時習館高	
44	34	新内 久	豊田織機		二川原勝義 新内 久	豊田織機		工藤美佐江	豊田織機		工藤美佐江 鈴木 葉子	豊田織機	
	35	小野 知洋	名古屋大学		菱田 修光 中村 悟	名電工高		大塚百合子	名女商高		大塚百合子 山田 和子	名女商高	
45	36	奥野 哲次	新日本製鐵		中橋 友行 小倉 和幸	三菱重工		鈴木美佐江	豊田東高		丸山 初江 丸山美由紀	時習館高	
	37												
46	38	宮本 正行	名古屋大学		宮本 正行 瀬古 幸久	名古屋大学		内田みつ子	名古屋鉄道		内田みつ子 河口 和子	名古屋鉄道	
	39	平野 博久	愛知県立大学		野口 譲 細川 敏之	名城大学		高村 恵子	愛教大学		高村 恵子 加藤由紀子	愛教大学	
47	40	浜中 千明	中京大学		浜中 千明 松井 智治	中京大学		林 慶子	日本電装		鈴木 伸枝 酒井 和江	豊田東高	
	41	竹田 勝彦	日本電装		山崎 実興 渡部 真生	名古屋大		広瀬 清子	愛知淑徳高		神谷 昌子 赤木 純子	名城大学	
48	42	石川 啓一	中京大学		飯村 順一 石川 啓一	中京大学		安藤 房子	名女大高		本田 浩子 安藤 房子	名女大高	
	43	城 保彦	日本電装		藤塚 正義 吉村 敏明	名城大学		安藤登美代	半田農高		鈴木ゆみ子 粕谷 典子	時習館高	
49	44	三浦 治	名城大学	198	三浦 治 水谷 登	名城大学	105	角 みどり	名古屋鉄道	158	角 みどり 小原 安子	名古屋鉄道	75
	45	横井 孝範	東海クラブ	299	桑原 由利 横井 孝範	東海クラブ	139	安田裕美子	名北クラブ	295	安田裕美子 片岡 マリ	名北クラブ	149
50	46	沢 昭夫	名古屋鉄道		宮津 邦晴 山田 敏勝	名北クラブ		貫薗妃美子	豊田織機		堀 房代 伊藤 多恵	愛知淑徳高	
	47	中口 直人	中京大学		高橋 英俊 西田 良彦	豊田工機		紅野 理栄	日立 旭		小森くに子 榊原さと子	インターバル	
51	48	川島 章稔	名城大学		天野 良彦 林 甚大	新日本製鐵		古瀬ミハル	名古屋鉄道		渡辺 栄子 古瀬ミハル	名古屋鉄道	
	49	山田 薫	瑞穂クラブ		田村 武満 岩井 正好	名古屋市役所		奥村真起子	瑞穂クラブ		浦部 享美 富田真由美	中村クラブ	

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S52	50	加藤　祐幸	中京大学		三原　清和 当山　哲司	中京大学		松原　香純	日本電装		梅村　直子 原田　樹子	名女大商高	
	51	榊原　健司	名古屋大学		杉山　純 後藤　信広	名古屋大学		加古　弘子	新日本製鐵		加古　弘子 安藤範理子	新日本製鐵	
53	52	西崎　佳行	愛工大学		佐野　利幸 西崎　佳行	愛工大学		水谷　昌代	日本電装		小田あさ子 加塩　淳子	日本電装	
	53	金今　郁彰	愛知製鋼		水谷　悦郎 大江喜久雄	電々東海		岡崎三生子	豊田紡織		伊藤みゆき 鈴木須賀代	中京大学	
54	54	北浦　重和	日本電装		毛利　光一 矢田　真悟	名城大学		片山りつ子	日本電装		片山りつ子 遠藤美枝子	日本電装	
	55	川合　弘之	名古屋大学		森川　勉 水越　修一	名古屋大学		吉田可奈子	新日本製鐵		山田　典子 佐々木弘子	中京女大学	
55	56	松田　仁	三菱重工		松田　仁 岩田　崇	三菱重工		野田　幸路	ソニー一宮		西村　優子 野田　幸路	ソニー一宮	
	57	門前　真紀	中村クラブ		上原　孝 星野　広志	瑞穂クラブ		大内山久美子	中村クラブ		位田　啓子 伊藤　伸子	YMCA	
56	58	神谷　道夫	名城大		西山　生悟 神谷　道夫	名城大		中村　真澄	山崎パン		中野 近藤	愛知淑徳高	
	59	南山　昌平	南山大		林　信宏 南山　昌平	南山大		松田由美子	三菱重工		松田由美子 濱　恵子	三菱重工	
57	60	内山　貞信	ソニー一宮		小島　浩義 竹重三八男	振甫クラブ		宮本美津子	日本電装		宮本美津子 佐名　美幸	日本電装	
	61	野村　俊夫	名古屋大		加藤　豪俊 大阪　哲嗣	豊田工機		佐々木道子	愛知淑徳高		佐々木道子 六郷　由香	愛知淑徳高	
58	62	疋田　博之	名城大	162	疋田　博之 大胡　満	名城大	103	元田　慶子	日本電装	84	宮本　忍 元田　慶子	日本電装	86
	63	東　正也	豊田工機		東　正也 小玉　匡伸	豊田工機		奥村　早苗	愛知淑徳高		金　綾子 桝家由加里	豊田紡績	
59	64	大谷部清二	電装安城	168	森地　正一 水谷　哲也	名城大	95	今井　貴子	ソニー一宮	84	今井　貴子 名和知江子	ソニー一宮	80
	65	永田　実	豊田工機	191	永田　実 内山　政典	豊田工機	105	花野　清美	愛知淑徳高	157	天野公予美 速水　一美	愛教大	95
60	66	福冨　達也	丸ノ内クラブ	168	今枝　靖典 上松　正和	名古屋大	100	倉田　靖子	ソニー一宮	83	西口　美鈴 倉田　靖子	ソニー一宮	81
	67	安藤　修	名古屋大	138	武藤　武敏 荻須　雅俊	貴船クラブ	87	木佐貫正子	CucKooB・F	83	田中　勝子 野中恵美子	名古屋家婦連	72
61	68	宮竹　靖	豊橋技科大	93	原　賢一 清水　弘幸	丸ノ内クラブ	75	後藤　和子	ソニー一宮	68			87
	69	友田　裕志	豊田工機	137	野村　幸信 平下　茂史	豊田合成	86	加藤　佳美	佐屋高	61	伴　由紀子 葛谷　実穂	愛知淑徳高	78
62	70	岡本哲哉	ACEクラブ	105	鈴木　敏之 植木　信秀	名古屋大	69	早川美奈子	佐屋高	83	菊地　寿美 菊地　利佳	横須賀クラブ	91
	71	古田　高	瑞穂クラブ	106	新井　直人 茂谷　誠	黄金クラブ	80	藤下　恭子	佐屋高	72	菊地　寿枝 新屋　智子	県スポーツ	94
63	72	菊池　勲	アイシン精機	106	白井　仁人 成瀬　幸宏	名古屋大	67	鈴木智恵子	アイシン精機	100	紀平あき子 鈴木智恵子	アイシン精機	102
	73	吉田　努	住友重機械	96	柳生　真康 波多野徳明	小牧BC	63	堀口　玲奈	愛知淑徳中学	69	松本江里子 田中　陽子	岡崎家婦連	73
H1	74	竹内　義和	中川シャトル	88	田住　曜理 永井　優	東海興業	59	水野　裕子	名古屋鉄道	64	大宅　友里 深谷　恵美	佐屋高	75
	75	北原　朋幸	名古屋大	117	宍戸　秀郎 中山　剛速	ウィスタリア	59	加藤　千里	愛教大	59	土本久美子 加藤　千里	愛教大	65
2	76	木下　耕一	NTT東海	80	後藤　吉広 角藤　利明	トヨタ車体	65	中水流由美	佐屋高	81	中水流由美 高松加代子	佐屋高	113
	77	荒島　基	堤BC	126	鈴木　章弘 森田　信二	東海興業	81	佐藤　陽子	佐屋高	93	土柿　清巳 三ツ石るみ子	東海シャトルズ	109
3	78	加藤　洋充	愛教大	82	木村　政則 星原　淳一	日本福祉大	53	野田　千鶴	名造形短大	92	野田　千鶴 稲垣　晴美	名造形短大 CucKoo愛知	153
	79	丸下　貴弘	名古屋大	130	前新　裕史 日野　克哉	南山大	78	大村　泉	市邨学園高	114	大村　泉 中出　綾子	市邨学園高	108

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S4	80	田上　富章	愛工大名電高	120	松浦　貴嘉 谷口　博昭	東海興業	79	鈴木　冬子	愛知淑徳高	80	清水　礼子 恒川　紺代	愛知淑徳高	100
	81	山下　陽道	中京大	122	上枝　伸 宮下　一紀	新日本製鐵	93	植田　智恵	大府高	137	小林　真理 太郎良和美	愛知淑徳高	139
5	82	町田　英之	東海クラブ	118	溝上　謙一 藤原　尚一	名北クラブ	86	下川　淳子	愛知淑徳高	124	島津　智恵 広瀬　晴恵	佐屋高	99
	83	賢生　和隆	阿久比高	162	小堂　照久 藤野　博和	ＲＨＢＴ	119	飯島　直美	大府高	136	近藤　恭子 井上　久美	中京女大	121
6	84	青木　啓祐	名古屋市役所	179	米本　勝如 島津江浩之	三菱自工岡崎	105	野地　香苗	愛知淑徳高	81	野地　香苗 伊藤　悠子	愛知淑徳高	89
	85	市井　爾郎	名工大	162	河合信一郎 中西　崇真	東海興業	125	玉田　恵美	大府高	115	奥村　昌子 武田　祐佳	市邨学園高	117
7	86	中村　亮二	愛知大学	156	中村　亮二 鈴木　貞則	愛知大学	107	佐合　友麻	愛知淑徳高	87	三宅　綾子 田島佳代子	愛知淑徳高	115
	87	稲垣　翔悟	石尾台中学	149	木村　拓哉 鍋割　英雄	トヨタ車体	101	杉山　有希	佐屋高	97	杉山　有希 松田　美紀	佐屋高	100
8	88	出久地健太	名工大	189	宮嶋　宣明 神谷　仁士	愛工大	116	加藤　邦子	淑徳高	49	水越　千春 池崎　聖子	大和撫子倶楽部 モンテカルロ	108
	89	篠原　　彰	名大	173	杉本　雅人 篠原　彰	名大	96	長坂　　文	大府高	108	長坂　　文 柿田　鮎美	大府高	107
9	90	川村　幸司	アラコ	148	川村　幸司 明利　貴	アラコ	89	田内真記子	愛知淑徳高	73	水野　良子 山田　節子	小牧家婦連	148
	91	茶谷　一平	天白高	160	平尾　昌也 柳田　順一	東海興業	92	本田　正恵	大府高	73	野田智津子 小田真由美	大府高	63

サンバタ杯争奪愛知県オープン競技大会

（参――参加数）

年度	回	男子			女子			年度	回	男子			女子		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参			選手名	所属	参	選手名	所属	参
S54	1	近藤　祥夫	名城大		片山りつ子	日本電装		S57	4	六川　和康	豊田工機		関矢　亮子	日本電装	
55	2	高橋　政勝	豊田織機		光崎　祐子	愛知淑徳高		58	5	芋塚　紳二	ファイヤーバード		稲熊　康子	愛知淑徳中学	
56	3	新田　正喜	ＢＳモリタ		西塚千恵子	豊田織機		59	6	東　　正也	豊田工機	24	伊藤　千恵	愛知淑徳高	39

愛知県実業団選手権大会

男子1部～8部

※各部入替戦後の最終決定の順位も含む　　（参――参加数）　No.1

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	7部	8部	
S36	3	ﾄﾖﾀ自工								
37	4	新三菱自								
39	6	トヨタ自工	名古屋鉄道	トヨタ技能養成所	国鉄豊橋機関区					21
40	7	トヨタ自工	豊田織機	家庭裁判所	中立電気					26
41	8	トヨタ自工	三菱電機名古屋	中部電力A	愛知製鋼	キリンビール名古屋				30
42	9	トヨタ自工	名古屋市役所A	トヨタ技能	名古屋国税局	大信紡績				32
43	10	名古屋鉄道	東海銀行	ブラザー工業	家庭裁判所	豊田紡績	大信紡績			39
44	11	名古屋鉄道	東洋レーヨン	名古屋市役所A	豊田織機B	愛知製鋼	豊田紡績	大信紡績		45
45	12	トヨタ自工	豊田工機A	東レ名古屋	豊田織機B	名古屋国税局	中部電力B	住友化学B		43
46	13	トヨタ自工	名古屋市役所A	ブラザー工業	八州商事	トヨタ同好会	電々東海			35
	14	日本電装	名古屋市役所A	八州商事	トヨタ同好会	三菱重工岩塚	名古屋市役所B	名工大職員		39
47	15	トヨタ自工	名古屋市役所A	トヨタ同好会	住友化学A	東海電気通信局A	三菱電機　稲沢	豊田通商		38
	16	トヨタ自工A	名古屋市役所A	新日鐵名古屋B	電々東海A	三菱電機　稲沢	岩倉市体協	シノブ	トヨタ自工B	48
48	17	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	電々東海A	豊田工機B	岩倉市体協	大同製鋼A	トヨタ自工B	南山クラブ	52
	18	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	三菱電機名古屋A	豊田織機B	大同製鋼A	桜山クラブ	南山クラブ	日本電装　西尾	50
49	19	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	三菱重工　岩塚	大同製鋼	桜山クラブ	トヨタ自工B	日本電装　西尾	熱田クラブ	62
	20	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	大同製鋼A	桜山クラブ	トヨタ自工B	アイシン精機	東海クラブ	試作同好会	69
50	21	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	桜山クラブ	トヨタ自工B	南山クラブ	日本電装　西尾	熱田クラブA	名北クラブ	62
	22	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	トヨタ自工B	小島プレス	アイシン精機	東海クラブ	名北クラブ	中部電力	73
51	23	トヨタ自工A	トヨタ自工B	豊田工機B	アイシン精機	電々東海B	豊田合成A	岡谷鋼機	日立　旭	48
	24	トヨタ自工A	トヨタ自工B	新日鐵名古屋B	日本電装西尾A	中部電力A	ユニチカ岡崎	トヨタ自販	日本電装西尾B	54
52	25	トヨタ自工A	トヨタ自工B	三菱重工岩塚A	中部電力A	電々東海B	トヨタ自販	三菱重工岩塚B	日本電装　安城	57
	26	トヨタ自工A	名古屋市役所A	大同特殊鋼A	ブラザー工業	トヨタ自販	岡谷鋼機	日本電装　安城	名工大職員	57
53	27	トヨタ自工A	日本電装	中部電力A	電々東海B	豊田織機B	愛知製鋼	住友重機械A	十条製紙	60
	28	トヨタ自工A	豊田織機A	大同特殊鋼A	トヨタ自販	愛知製鋼	住友重機械A	三菱自工	伊奈製陶	60
54	29	トヨタ自工A	日本電装	中部電力A	豊田織機B	日本電装　安城	名工大職員	日立　旭	中部電力B	58
	30	トヨタ自工A	三菱重工名古屋	豊田織機B	日本電装　安城	三菱重工　大幸	三菱自工名古屋	伊奈製陶	高丘工業	58
55	31	トヨタ自工A	日本電装	新日鐵名古屋B	三菱重工名古屋B	名工大職員	豊田合成A	名古屋市役所B	ソニー一宮	62
	32	トヨタ自工A	三菱重工名古屋A	豊田工機	日本電装西尾A	住友重機械A	三菱電機　稲沢	ソニー一宮	日本電装西尾B	59
56	33	トヨタ自工A	名古屋鉄道	三菱重工名古屋B	住友重機械A	名工大職員	ソニー一宮	日本電装西尾B	愛三工業	64
	34	トヨタ自工A	豊田工機A	大同特殊鋼A	中部電力A	ソニー一宮	住友アルミ	愛三工業	電々東海　40	66
57	35	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	住友重機械A	ソニー一宮	三菱自工名古屋(A)	愛三工業	電々東海　40	王子製紙A	64
	36	トヨタ自動車A	三菱重工名古屋A	大同特殊鋼A	愛知製鋼	三菱電機　稲沢	電々東海　40	王子製紙A	トヨタ車体	66
58	37	トヨタ自動車A	日本電装	住友重機械A	アイシン精機A	愛三工業A	電々東海B	トヨタ車体	三菱自工　岡崎	70
	38	トヨタ自動車A	名古屋鉄道	愛知製鋼	愛知県庁	ブラザー工業A	トヨタ車体	三菱自工　岡崎	豊田工機B	70
59	39	トヨタ自動車A	電々東海A	大同特殊鋼A	中部電力A	トヨタ車体	豊田工機B	豊田織機長草A	神鋼　豊橋	73
	40	トヨタ自動車A	日本電装A	ソニー一宮	名古屋市役所A	中部電力A	豊田合成A	豊田工機B	豊田織機　高浜	71
60	41	トヨタ自動車A	新日鐵名古屋A	日本電装西尾A	トヨタ車体	豊田工機B	三菱電機　名古屋	豊田織機　高浜	名鉄　住商	72
	42	トヨタ自動車A	名古屋鉄道	トヨタ車体	ブラザー工業	三菱電機　名古屋	豊田織機長草A	名鉄　住商	名古屋市役所B	70
61	43	トヨタ自動車	三菱重工名古屋A	豊田織機B	中部電力A	豊田合成A	豊田織機　高浜	神鋼　豊橋	日本電装B	71
	44	豊田工機A	名古屋鉄道	住友重機械A	豊田工機B	アイシン精機A	王子製紙春日井A	日本電装B	日本ユニバック	67
62	45	トヨタ自動車	豊田織機B	三菱重工名航A	豊田合成A	三菱自工名古屋A	日本電装B	大同特殊鋼B	豊田通商	67
	46	トヨタ自動車	NTT東海A	豊田工機B	愛知製鋼	日本電装B	三菱自工　岡崎	豊田織機長草A	東海理化	68
63	47	トヨタ自動車	豊田工機B	住友重機械A	大同特殊鋼A	三菱自工　岡崎	大同特殊鋼B	東海理化	日本電装西尾B	68
	48	トヨタ自動車	住友重機械A	名古屋市役所A	日本電装B	アイシン精機A	愛三工業	豊田通商	東海興業	66
H1	49	トヨタ自動車	NTT東海A	三菱重工名航A	アイシン精機A	王子製紙A	豊田通商	東海興業	東海郵政	66
	50	豊田工機A	トヨタ車体	アイシン精機A	愛知製鋼	豊田通商	東海興業	東海郵政	三菱レイヨン豊橋	65
2	51	トヨタ自動車	アイシン精機A	愛知製鋼	三菱自工　岡崎A	東海興業	東海郵政	三菱重工名機	住友重機械B	65
	52	トヨタ自動車	名古屋鉄道	名古屋市役所A	東海興業	中部電力A	三菱重工名機	三菱電機名古屋	名古屋市水道局	66

男子1部～8部

（参――参加数）NO.2

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	参
H3	53	トヨタ自動車	豊田織機	東海興業A	豊田合成A	三菱重工名機	豊田織機　高浜	NTT東海B	日本ユニシス中部	66
	54	トヨタ自動車	東海興業A	日本電装	日本電装西尾A	東海郵政	新日鐵名古屋B	名古屋市水道局	東海興業B	66
4	55	トヨタ自動車	新日鐵名古屋A	日本電装西尾A	ソニー一宮	大同特殊鋼	神鋼　豊橋	東海興業B	イナックス	66
	56	トヨタ自動車	名古屋鉄道	豊田合成A	三菱重工エア製A	愛知県庁	東海興業B	三菱レーヨン豊橋	三菱自工岡崎B	65
5	57	豊田工機A	アイシン精機	三菱自工岡崎A	東海郵政A	東海興業B	豊田織機　長草	三菱自工岡崎B	日立旭	63
	58	豊田工機A	トヨタ自動車	日本電装	東海興業B	豊田織機　長草A	愛三工業	NTT東海B	東海興業C	66
6	59	豊田工機A	新日鐵名古屋A	東海興業A	中部電力A	大同特殊鋼A	三菱自工岡崎B	日立旭	新王子製紙B	67
	60	トヨタ自動車	東海興業B	三菱自工岡崎A	三菱重工名航A	豊田織機　長草A	住友重機械	東海興業C	名鉄　住商	68
7	61	トヨタ自動車	トヨタ車体A	東海郵政A	大同特殊鋼A	愛知県庁	豊田通商	名古屋市役所B	名工大職員	66
	62	豊田工機	名古屋鉄道	名古屋市役所A	愛知県庁	愛知製鋼A	名古屋市役所B	トーメーテクノロジー	大同特殊鋼B	68
8	63	東海興業B	アイシン精機	中部電力A	豊田織機　長草A	三菱自工岡崎B	愛三工業	日立旭	中部電力	66
	64	東海興業B	トヨタ車体	東海郵政A	三菱重工名航A	愛三工業	三菱電機名古屋	大同特殊鋼B	中部電力B	66
9	65	東海興業A	名古屋鉄道	中部電力A	愛知製鋼A	王子製紙A	住友重機械	名工大職員	アラコ	66
	66	トヨタ自動車	豊田合成A	三菱自工岡崎A	NTT東海A	デンソー西尾	日立旭	アラコ	松下電工瀬戸	67

男子9部～12部

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	参
S48	18	試作同好会	名古屋観光ホテル			50
49	19	名古屋観光ホテル	名北クラブ			62
	20	名北クラブ	中部電力	瑞穂クラブ		69
50	21	中部電力	名大クラブ			62
	22	名大クラブ	トヨタ自販	岡谷鋼機	愛教大クラブ	73
51	23					48
	24	三菱自工				54
52	25	名工大職員				57
	26	十条製紙				57
53	27	伊奈製陶器	住友アルミB			60
	28	電々東海D	高丘工業			60
54	29	高丘工業	ソニー一宮			58
	30	ソニー一宮	愛三工業			58
55	31	王子製紙	三菱重工名古屋D			62
	32	愛三工業	電々東海40			59
56	33	電々東海40	神鋼　豊橋	三和化学		64
	34	出光　愛知	トヨタ車体	豊田工機B		66
57	35	トヨタ車体	三菱重工名古屋B	王子製紙B		64
	36	三菱自工岡崎	豊田工機B	豊和工業	瀧上工業	66
58	37	豊田工機B	豊和工業	アイシン化工	瀧上工業	70
	38	豊田織機　高浜	アイシン化工	日本ユニバック	住友商事	70
59	39	神鋼　豊橋	王子製紙B	住友商事	ブラザー工業B	73
	40	豊和工業	三菱自工名古屋B	日本電装B	三菱重工名航B	71
60	41	日本ユニバック名古屋	日本電装B	ブラザー工業B	東海理化	72
	42	日本電装B	瀧上工業	東海理化	東海郵政	70

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	参
S61	43	伊藤忠砂糖	中部電力B	東海郵政	アイシン精機B	71
	44	王子製紙春日井B	東海理化	アイシン精機B		67
62	45	東海理化	アイシン精機B	東海興業		67
	46	三菱重工名古屋B	東海興業	三菱レイヨン豊橋		68
63	47	東海興業	東海郵政	三菱重工名航B		68
	48	東海郵政	三菱レイヨン豊橋	豊田織機長草B		66
H1	49	三菱レイヨン豊橋	トーメー産業	名古屋市水道局		66
	50	住友重機械B	名古屋市水道局	三菱重工エア製B		65
2	51	名古屋市水道局	三菱重工名航B	東海興業B		65
	52	トーメー産業	東海興業B	三菱自工岡崎B		66
3	53	東海興業B	三菱自工岡崎B	中部電力C		66
	54	イナックス	中部火力	三菱重工名航C		66
4	55	三菱自工岡崎B	日立旭	東海興業C		66
	56	日立旭	東海興業C	三菱重工名機B		65
5	57	東海興業C	アイシン化工	豊田合成B		63
	58	トーメーテクノロジー	総　研	大同特殊鋼B		66
6	59	中電火力	大同特殊鋼B	トヨタ車体B		67
	60	名工大職員	トヨタ車体B	豊田織機長草C		68
7	61	トヨタ車体B	中部電力B	アラコ		66
	62	中部電力B	アイシン化工	松下電工瀬戸		68
8	63	アイシン化工	アラコ	豊田紡織		66
	64	アラコ	松下電工瀬戸	豊田織機長草B		66
9	65	松下電工瀬戸	東海郵政B	豊和工業		66
	66	王子製紙B	豊田織機長草C	三菱重工名航B		67

女子

（参——参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	参
S36	3	トヨタ自工					
37	4	三菱電機					
39	6	トヨタ自工	中部電力				9
40	7	トヨタ自工	愛知県庁				11
41	8	トヨタ自工	名古屋市役所				11
42	9	トヨタ自工	東海銀行				14
43	10	トヨタ自工	豊田紡織				15
44	11	トヨタ自工	名古屋国税局	中立電機			18
45	12	豊田織機	中部電力	豊田工機			18
46	13	豊田織機	アイシン精機	名古屋鉄道			15
	14	トヨタ自工	名古屋鉄道	豊田織機B			18
47	15	トヨタ自工	豊田紡織	豊田通商			16
	16	豊田織機	豊田通商	教室クラブ			18
48	17	日本電装	新日鉄名古屋	名古屋市役所			20
	18	トヨタ自工	名古屋市役所	桜山クラブ	日本電装西尾		26
49	19	トヨタ自工	新日鉄名古屋	日本電装西尾	熱田クラブ		28
	20	トヨタ自工	桜山クラブ	豊田紡織	名北クラブ	名古屋国税局	31
50	21	トヨタ自工	豊田織機	名北クラブ	三菱重工岩塚A	愛知製鋼	29
	22	トヨタ自工	豊田紡織	名古屋市役所	熱田クラブB	豊田合成	35
51	23	トヨタ自工	新日鉄名古屋	プラザー工業	豊田合成		26
	24	トヨタ自工	電々東海A	豊田合成	三菱自工		26
52	25	トヨタ自工	三菱重工岩塚A	大同特殊鋼	豊田紡織		27
	26	トヨタ自工	愛知製鋼	豊田紡織	三菱重工岩塚A		26
53	27	トヨタ自工	豊田通商	日本電装安城			19
	28	トヨタ自工	新日鉄名古屋	豊田工機			21
54	29	トヨタ自工	豊田工機	大同特殊鋼	トヨタ自販		22
	30	日本電装	豊田通商	トヨタ自販			17
55	31	日本電装	豊田紡織	ソニー一宮			24
	32	トヨタ自工	ソニー一宮	三菱重工名古屋	大同特殊鋼		19
56	33	日本電装	豊田通商	大同特殊鋼	日本電装西尾		20
	34	日本電装	三菱重工名古屋	日本電装西尾			20
57	35	日本電装	豊田紡織	三菱電機稲沢			20
	36	日本電装	ソニー一宮	豊田工機			22

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
S58	37	トヨタ自動車	豊田通商	トヨタ車体	豊田合成	21
	38	日本電装	新日鉄名古屋	豊田合成	豊田工機B	22
59	39	日本電装	ソニー一宮	愛知製鋼	天野製薬	23
	40	日本電装	名古屋鉄道	電々東海	住友重機	22
60	41	日本電装	トヨタ車体	豊田工機B	東海理化	25
	42	日本電装	名古屋鉄道	東海理化	名古屋市役所	22
61	43	日本電装	トヨタ車体	名古屋市役所	アイシン精機	22
	44	日本電装	豊田紡織	アイシン精機	愛知製鋼	22
62	45	日本電装	名古屋鉄道	愛知製鋼	日本電装西尾	21
	46	日本電装	豊田工機	名古屋市役所		20
63	47	日本電装	アイシン精機	東海理化		19
	48	日本電装	名古屋鉄道	新日鉄名古屋		18
H1	49	日本電装	豊田通商	東海興業		18
	50	トヨタ自動車	名古屋鉄道	住友重機械		17
2	51	トヨタ自動車	豊田工機	豊田織機長草		18
	52	日本電装	名古屋鉄道	中部電力		17
3	53	トヨタ自動車	豊田工機	愛知製鋼		15
	54	トヨタ自動車	名古屋鉄道	名古屋市役所		16
4	55	トヨタ自動車	トヨタ車体	愛知製鋼		18
	56	日本電装	名古屋鉄道	新日鉄名古屋		18
5	57	トヨタ自動車	豊田通商	NTT東海		18
	58	トヨタ自動車	豊田合成	愛知製鋼		16
6	59	トヨタ自動車	東海興業	大同特殊鋼		17
	60	豊田通商	豊田織機	名古屋市役所		15
7	61	日本電装	豊田合成	大同特殊鋼		16
	62	日本電装	東海興業	NTT東海		15
8	63	日本電装	名古屋鉄道			13
	64	デンソー	大同特殊鋼			13
9	65	デンソー	名古屋鉄道			13
	66	トヨタ自動車	松下電工瀬戸			12

愛知県クラブチーム対抗選手権大会　リーグ戦

男子1部～8部

（参 ― 参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	7部	8部	参
S51	1	豊田バド同好会	名北クラブ	名大クラブ	名城クラブ					21
	2	桜山クラブ	瑞穂クラブ	名城クラブ	蒲郡クラブ					24
52	3	モンテカルロクラブ	名城クラブ	中村クラブ	瀬戸クラブ					23
	4	RS NONAKA	東海クラブA	振甫クラブA	岡崎クラブ					24
53	5	名城クラブ	中村クラブA	TAVクラブA	豊田憩の家					27
	6	RSノナカ	岩倉市体協	YMCA B	ウィスタリアクラブ					23
54	7	RSノナカ	名北クラブA	ウィスタリアクラブ	東海クラブB	葵コックスA				25
	8	RSノナカ	東海クラブA	知多市体協	葵コックスA	振甫クラブ				27
55	9	RSノナカ	中村クラブA	葵コックスA	振甫クラブ	ハネツキ会				26
	10	RSノナカ	葵コックスA	フェニックスBC	ハネツキ会	TOMIY.B.C				28
56	11	RSノナカA	BSモリタ	ハネツキ会	TOMIY.B.C	南知多クラブ				31
	12	RSノナカA	名北クラブA	振甫クラブA	バイレーツクラブ	PHOENIXBC				28
57	13	RSノナカA	東海クラブA	コックメイトクラブ	ひいらぎクラブA	SPシャトル	第3日曜クラブ			36
	14	RSノナカA	中村クラブA	ハネツキ会	RSノナカB	第3日曜クラブ	中村クラブB			36
58	15	BSモリタ	東海クラブA	黄金クラブA	TOMIY.B.C	Fire Bird	丸の内クラブ	黄金クラブB		38
	16	RSノナカA	名北クラブA	ハネツキ会	Fire Bird	ラケットメイトクラブ	キフネクラブ	州原コスモス		43
59	17	BSモリタ	ハネツキ会	Fire Bird	Phoenix BC	貴船クラブA	中村クラブB	瑞穂クラブB	MUO BC	53
	18	RSノナカA	名城クラブ	中村クラブA	貴船クラブA	丸の内クラブ	瑞穂クラブB	貴船クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	51
60	19	BSモリタ	振甫クラブA	ヤマノウチクラブ	丸の内クラブ	RSノナカB	貴船クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	小牧BC A	67
	20	瑞穂クラブA	ヤマノウチクラブ	ウィスタリアクラブA	SPシャトル	瑞穂クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	MUO BC	コスモスBC	70
61	21	RSノナカA	BSモリタ	不老クラブ	愛知クラブ	R.H.B.T A	振甫クラブB	小牧BC A	ウィスタリアクラブB	74
	22	BSモリタ	名北クラブA	コックメイトクラブ	瑞穂クラブB	LASREクラブ	中川シャトルA	コスモスBC	小牧BC B	79
62	23	BSモリタ	東海クラブA	貴船クラブA	R.H.B.T A	ラケットメイトクラブA	岩倉パラレルA	横須賀クラブA	トヨタ田原BC	80
	24	BSモリタ	ACEスポーツ	ウィスタリアクラブA	LASREクラブ	中川シャトルA	コスモスBC	トヨタ田原BC	R.H.B.T B	81

男子9部～14部

（参―参加数）

年度	回	9部	10部	11部	12部	13部	14部	参
S59	17	西春クラブ						53
	18	小牧BCA	コスモスBC					51
60	19	コスモスBC	ウィスタリアクラブB	がれーじクラブ	トヨタ田原BC			67
	20	師勝BCA	がれーじクラブ	トヨタ田原BC	岡崎ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝｸﾗﾌﾞ			70
61	21	ガレージクラブ	トヨタ田原BC	岡崎BC	ワイルドキャッツ	BCスプリッツ		74
	22	トヨタ田原BC	岡崎BC	南BC A	BCスプリッツ	JOCK		79
62	23	グリーンクラブA	堤BC	BCスプリッツ	JOCK	中村クラブC	横須賀クラブB	80
	24	豊明BC	BCスプリッツ	JOCK	天白シャトルA	Wing	天白シャトルB	81

男子1部～4部D

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部 A	3 部 B	4 部 A	4 部 B	4 部 C	4 部 D	参
S63	25	BSモリタ	不老クラブ	瑞穂クラブB	ハネツキ会	横須賀クラブA	川鉄クラブ	ウィスタリアクラブB	貴船クラブB	82
	26	BSモリタ	ACEスポーツ	R.H.B.T A	中村クラブA	中川シャトルA	ラッケトメイトA	BCスピリッツ	大門BC	82
H1	27	BSモリタ	東海クラブA	振甫クラブA	大門BC	横須賀クラブA	貴船クラブB	小牧BC A	トヨタ田原BC	93
	28	BSモリタ	名北クラブA	ウィスタリアクラブA	BCスピリッツ	名北クラブB	LASREクラブ	丸の内CBF	Tomiy BC	91
2	29	BSモリタ	不老クラブ	大門BC	振甫BC A	ラケットメイトA	トヨタ田原BC	ひいらぎBC	黄金クラブA	91
	30	BSモリタ	東海クラブA	Cuc Koo 愛知	ひいらぎBC	LASREクラブ	豊明BC	横須賀クラブA	JOCk	91
3	31	東海クラブA	ひいらぎBC	ウィスタリアA	黄金クラブA	東海シャトルズA	岩倉パラレルA	瑞穂クラブB	貴船BC B	95
	32	東海クラブA	RSノナカ	貴船BC A	Fire Bird	名北クラブB	トヨタ田原BC	紫電会	生麦生米生卵	100
4	33	東海クラブA	名北クラブA	R.H.B.T A	紫電会	Cuc Koo 愛知	豊明BC	貴船BC B	シャトルまかせ	101
	34	東海クラブA	紫電会	生麦生米生卵	瑞穂クラブA	東海クラブB	横須賀クラブA	ハネツキ会	名北クラブB	102
5	35	東海クラブA	BSモリタ	貴船BC A	Fire Bird	岩倉パラレルA	シャトルメイツA	瑞穂クラブB	堤BC	105
	36	東海クラブA	名北クラブA	生麦生米生卵	コックメイト	貴船BC B	RSノナカA	パープルBP A	Cuc Koo 愛知	107
6	37	東海クラブA	ひいらぎBC	シャトルまかせA	東海クラブB	GOLD	はり-あっぷA	振甫BC A	パイレーツA	113
	38	紫電会	BSモリタ	はり-あっぷA	大門BC	Wing BC	横須賀クラブA	貴船BC B	Cuc Koo 愛知	116
7	39	東海クラブA	はり-あっぷA	Fire Bird	R.H.B.T A	アイシンAW	パープルBP A	ハネツキ会	生麦生米生卵	125
	40	はり-あっぷA	不老クラブ	パイレーツA	貴船BC A	Cuc Koo 愛知	PANIC A	LASREクラブ	岩倉パラレルA	128
8	41	はり-あっぷA	フライトスポーツ	ウィスタリアA	振甫BC A	横須賀クラブA	コックメイト	アイシンAW	はり-あっぷB	131
	42	紫電会	ひいらぎBC	ハネツキ会	シャトルまかせA	グリーンクラブA	RSノナカA	木曽川エース	PANIC A	133
9	43	紫電会	フライトスポーツ	R.H.B.T A	貴船BC A	東海シャトルズA	堤BC A	はり-あっぷB	呉越同舟クラブ	128
	44	紫電会	ひいらぎBC	はり-あっぷB	ウィスタリアA	大和撫子倶楽部	Fire Bird	ウィスタリアB	横須賀クラブA	123

男子5部A～6部D

（参――参加数）

年度	回	5 部 A	5 部 B	5 部 C	5 部 D	6 部 A	6 部 B	6 部 C	6 部 D	参
S63	25	大門BC	南BC A	BCスピリッツ	黄金クラブB	高蔵クラブ	ラケットメイトD			82
	26	矢田SC	西春クラブ	グリーンクラブA	JOCK	中村クラブC	呉越同舟クラブ			82
H1	27	がれ-じクラブ	名港クラブA	堤BC	東海クラブB	みちくさクラブ	小牧BC C	シャトルまかせ	上前津クラブ	93
	28	黄金クラブB	西春クラブA	小牧BC B	みちくさ	天白シャトルB	TEIHO A	振甫BC C	東海シャトルズA	91
2	29	シャトルメイツ	東海シャトルズ	シャトルまかせ	呉越同舟クラブ	貴船BC C	横須賀クラブB	JUPITER	TEIHO B	91
	30	上前津クラブ	Wing BC	TEIHO	小牧BC B	岩倉パラレルB	生麦生米生卵	紫電会	パイレーツクラブB	91
3	31	シャトルメイツ	パイレーツA	紫電会	生麦生米生卵	師勝BC B	テイスティモ	うつみ	名北クラブC	95
	32	貴船BC C	フリープレーBC	名港クラブA	JUPITER	シャトルまかせB	ブンブンズ	WESTWING	パープルBP	100
4	33	TOMIY BC	がれ-じクラブ	パープルBP	ハネツキ会	岩倉パラレルB	ラケットメイトC	R.H.B.T C	ウィスタリアC	101
	34	Wing BC	岩倉パラレルB	WESTWING	ウィスタリアC	ラケットメイトB	天白シャトルA	小牧BC B	黄金クラブC	102
5	35	名港クラブA	PANIC A	名北クラブC	愛大クラブ	ポリマーズ	GOLD	はり-あっぷA	笈瀬BC A	105
	36	パイレーツA	はり-あっぷA	東海シャトルズ	GOLD	高蔵クラブ	ラケットメイトD	JUPITER B	黄金クラブB	107
6	37	グリーンクラブA	横須賀クラブB	振甫BC B	天白シャトルA	岐大BC	笈瀬BC A	はり-あっぷB	スペースシャトル	113
	38	貴船BC C	フレスカA	岩倉パラレルB	はり-あっぷB	シャトルメイツB	小牧BC B	東海クラブC	ウィスタリアD	116
7	39	スペースシャトル	東海クラブC	愛大クラブ	ポリマーズA	小牧BC A	JUPITER B	BULLDOG	セトミントンA	125
	40	黄金クラブA	名北クラブC	JUPITER B	ウィスタリアD	振甫BC C	パイレーツB	大和撫子倶楽部	木曽川エース	128
8	41	シャトルメイツB	グリーンクラブA	セトミントンA	木曽川エース	東海クラブD	天白シャトルB	東海シャトルズB	セトミントンB	313
	42	東海シャトルズB	東海クラブD	大和撫子倶楽部	シャトルメイツA	BULLDOG	横須賀クラブB	岩倉パラレルB	岐大BC	133
9	43	上前津クラブ	ウィスタリアC	WESTWING A	ポリマーズA	東海シャトルズB	Oh My Gut A	ブッチャーズ	クリプト	128
	44	シャトルメイツB	天白シャトルA	名港クラブA	ブッチャーズ	パイレーツB	中川シャトルA	フレスカB	パイレーツC	123

男子7部A～8部D

（参－－ 参加数）

年度	回	7 部 A	7 部 B	7 部 C	7 部 D	8 部 A	8 部 B	8 部 C	参
H3	32	三井バドミントン							100
4	33	黄金クラブC							101
	34	はりーあっぷ							102
5	35	スペースシャトル	GUT BC						105
	36	東海クラブC	SETOMINTON						107
6	37	ウィスタリアD	Oh My Gut A	BULLDOG					113
	38	振甫BC C	シャトルまかせC	RSノナカB	クリプトC				116
7	39	大和撫子倶楽部	PANIC C	木曽川エース	パイレーツB	東海シャトルズB			125
	40	ブンブンズB	東海クラブD	セトミントンB	東海シャトルズB	堤BC B	供米田A		128
8	41	パープルBP B	Oh My Gut A	ESTWING B	供米田A	岩倉パラレルC	パイレーツC		131
	42	ラケットメイトC	RHBT B	岩倉パラレルC	黄金クラブC	南陽BC B	RSノナカB	豊橋トレセン	133
9	43	Oh My Gut B	グリーンクラブB	パイレーツC	RSノナカB	不老クラブB	49'S		128
	44	49'S	不老クラブB	ブンブンズB	アイシンエーアイ	豊橋トレセン			123

女子1部～4部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
S51	1	名北クラブ	熱田クラブB			10
	2	インターバルクラブ	椙山クラブ			8
52	3	インターバルクラブA	振甫クラブ			11
	4	インターバルクラブA	インターバルクラブC			12
53	5	振甫クラブ	中村クラブ			9
	6	中村クラブ	春日井チェリー			7
54	7	中村クラブ	RSノナカ			9
	8	中村クラブ	YMCA			9
55	9	中村クラブ				6
	10	中村クラブ				7
56	11	中村クラブ	BSモリタ			8
	12	BSモリタ	黄金クラブ			8
57	13	BSモリタ	振甫クラブ			10
	14	BSモリタ	椙山クラブ			9
58	15	BSモリタ	横須賀クラブ			10
	16	BSモリタ	ASモンテカルロ			13
59	17	BSモリタ	RHバドミントンチーム			11
	18	BSモリタ	CUCKOOBF	Fire Bird		18
60	19	BSモリタ	Fire Bird	岩倉パラレル		16
	20	BSモリタ	岩倉パラレル	バイレーツクラブ		8
61	21	BSモリタ	中村クラブ	ひいらぎクラブ	岡崎クラブ	22

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
	22	BSモリタ	ASモンテカルロ	岡崎BC	ウィスタリアクラブ	22
62	23	BSモリタ	大門BC	ウィスタリアクラブ	師勝BC	24
	24	BSモリタ	ウィスタリアクラブ	師勝BC	大和撫子倶楽部B	23
63	25	BSモリタ	R.H.B.T A	名北クラブ	瑞穂クラブ	27
	26	BSモリタ	大門BC	瑞穂クラブ	ひいらぎクラブ	25
H1	27	BSモリタ	黄金クラブ	師勝BC	天白シャトル	25
	28	BSモリタ	ウィスタリアクラブ	R.H.B.T A	東海シャトルズ	25
2	29	BSモリタ	瑞穂クラブ	大和撫子倶楽部	東海シャトルズB	24
	30	BSモリタ	横須賀クラブA	東海シャトルズA	貴船BC	28
3	31	BSモリタ	東海シャトルズA	バイレーツクラブ	ひいらぎBC	27
	32	Cuc Koo愛知A	ウィスタリアクラブ	貴船BC	Cuc Koo 愛知B	27
4	33	Cuc Koo 愛知	名北クラブA	中村クラブ	名北クラブB	27
	34	Cuc Koo 愛知	大和撫子倶楽部	天白シャトル	フレッシュ知多	29
5	35	Cuc Koo 愛知A	モンテカルロ	シャトルメイツA	JUPITER	38
	36	Cuc Koo 愛知A	貴船BC	中川シャトルA	黄金クラブ	43
6	37	Cuc Koo 愛知	瑞穂クラブ	黄金クラブ	岩倉パラレル	38
	38	Cuc Koo 愛知	黄金クラブ	岩倉パラレル	不老クラブA	43
7	39	Cuc Koo 愛知	岩倉パラレル	横須賀クラブA	さおりBC A	45
	40	Cuc Koo 愛知	瑞穂クラブ	シャトルメイツA	はりーあっぷ	45
8	41	Cuc Koo 愛知	ウィスタリア	RHBT	東海シャトルズB	45
	42	Cuc Koo 愛知	横須賀クラブA	中川シャトルA	名北クラブC	45

女子5部～8部

（参――参加数）

年度	回	5 部	6 部	7 部	8 部	参
S63	25	ひいらぎクラブ				27
	26	シャトルメイツ				25
H1	27	東海シャトルズ				25
	28	南BC				25
2	29					24
	30	ひいらぎBC				28
3	31	Cuc Koo B				27
	32	名北クラブB				27
4	33	木知郎倶楽部				27

年度	回	5 部	6 部	7 部	8 部	参
H4	34	JUPITER				29
5	35	黄金クラブ	岩倉パラレル	東海シャトルズB		38
	36	岩倉パラレル	さおりBC			43
6	37	不老クラブ	東海シャトルズB	豊橋トレセン		38
	38	さおりBC	豊橋トレセン	名北クラブC		43
7	39	はりーあっぷ	大和撫子B	大門BC	さおりBC B	45
	40	東海シャトルズB	名北クラブC	ラケットメイト	天白シャトルB	45
8	41	名北クラブC	GOLD	南陽BC	ACROSS	45
	42	豊橋トレセン	クリプト	ACROSS	紫電会	45

女子1部～5部B

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部 A	3 部 B	4 部 A	4 部 B	5 部 A	5 部 B	参
H9	43	ウィスタリア	RHBT	さおりBC	JUPITER	クリプト	大門BC	横須賀クラブC	紫電会	44
	44	Cuc Koo 愛知	横須賀クラブA	はりーあっぷ	名北クラブC	不老クラブB	横須賀クラブC	フレスカB	PANIC	44

愛知県クラブチーム対抗選手権大会　個人戦

年度	回	男子A単		男子A複		男子B単		男子B複		女子単		女子複	
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
S56	1	飯田　卓次	RSノナカ	牛島　秀雄	BSモリタ	藤原　成人	RSノナカ	城　　保彦	椙山クラブ	門間由美子	BSモリタ	河合ちか子	中村クラブ
				杉山　新治	〃			宇波　時彦	〃			大内山久美子	〃

一般の部

（参 …参加数、複は組数）

年度	回	男子単		参	男子複		参	女子単		参	女子複		参	混合		参
		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属	
S57	2	新田　正喜	BSモリタ		山田　　薫 山田　和寿	瑞穂クラブ		大内山久美子	中村クラブ		河合ちか子 大内山久美子	中村クラブ		河合ちか子 門前　直紀	中村クラブ	
58	3	新田　正喜	BSモリタ		菱田　修光 近藤　祥夫	ひいらぎクラブ		竹内ひろ子	川鉄		牛島　節子 横山　深雪	BSモリタ		牛島　節子 牛島　秀雄	BSモリタ	
59	4	新田　正喜	BSモリタ		飯田　卓次 近藤　祥夫	RSノナカ ひいらぎクラブ		竹内ひろ子	川鉄		宇矢美登里 井上ゆきよ	黄金クラブ		牛島　節子 牛島　秀雄	BSモリタ	
60	5	新田　正喜	BSモリタ	24人	中口　直人 飯田　卓次	RSノナカ	17組	木佐貫正子	Cuc Koo	15人	中野　静江 浦川　礼子	Fire Bird	15組	芋塚　紳二 赤堀ひろみ	Fire Bird	25組
61	6	新田　正喜	BSモリタ	27	牛島　秀雄 梶川　博之	BSモリタ	16	門間由美子	BSモリタ	31	谷口　民子 門間由美子	BSモリタ	21	大村　真司 片岡　洋子	ウィスタリア	27
62	7	新田　正喜	BSモリタ	32	中口　直人 近藤　祥夫	RSノナカ	20	岡田由美子	大門BC	34	松村　絹子 岡田由美子	大門BC	17	前田　浩一 岡田由美子	大門BC	35
63	8	新田　正喜	BSモリタ	31	松居　宏司 上田　啓夫	フライトクラブ	18	門間由美子	BSモリタ	21	松村　絹子 曽我　輝代	大門BC	22	大村　真司 片岡　洋子	ウィスタリア	30
H1	9	新田　正喜	BSモリタ	29	中口　直人 近藤　祥夫	RSノナカ	20	岡田由美子	大門BC	12	門間由美子 横山　深雪	BSモリタ	13	小出　寿朗 横山　深雪	フライトスポーツ BSモリタ	28
2	10	新田　正喜	BSモリタ	28	新美　俊蔵 近藤　祥夫	ひいらぎBC	19	六郷　由香	南BC	15	杉浦　美雪 横山　深雪	BSモリタ	13	小出　寿朗 松本　清美	フライトスポーツ BSモリタ	24
3	11	浜田　征明	不老クラブ	35	新田　正喜 横山　信一	BSモリタ	23	六郷　由香	南BC	8	森本千恵子 六郷　由香	瑞穂クラブ 南BC	12	新田　正喜 松本　清美	BSモリタ	19
4	12	新田　正喜	BSモリタ	34	富田　俊二 平松　　勝	紫電会	26	恵木　清子	Cuc Koo 愛知	5	森本千恵子 六郷　由香	瑞穂クラブ 南BC	14	岡本　哲哉 三上　明子	フライト スポーツ	12
5	13	岡田　政朗	東海クラブ	28	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	24	三浦美紀子	フライト スポーツ	16	三上　明子 三浦美紀子	フライト スポーツ	26	岡田　政朗 稲熊　康子	東海クラブ	18
6	14	浜田　征明	不老クラブ	33	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	22	佐藤　孝子	Cuc Koo 愛知	14	森本千恵子 石原あけみ	瑞穂クラブ R.H.B.T	24	新田　正喜 三上　明子	BSモリタ	15
7	15	浜田　征明	不老クラブ	32	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	21	佐藤　孝子	はり一あっぷ	16	森本千恵子 石原あけみ	瑞穂クラブ R.H.B.T	24	久湊　良成 佐藤　孝子	はり一あっぷ	13
8	16	浜田　征明	不老クラブ	33	曽根　大勝 磯貝謙太郎	紫電会	20	久湊　孝子	はり一あっぷ	16	久湊　孝子 小野　寿子	はり一あっぷ 東海シャトルズ	16	久湊　良成 久湊　孝子	はり一あっぷ	19
9	17	磯貝謙太郎	紫電会	30	富田　俊二 曽根　大勝	紫電会	19	鈴木　冬子	ウィスタリア	11	木戸　恭子 末永　美和	Cuc Koo 愛知	28	森本　　順 森本千恵子	名北クラブ RHBT	24

30才以上の部、新人の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上男子単			30才以上男子複			新人男子単			新人男子複			成年混合複		
		氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参
S57	2	大村 真司	ウィスタリア		牛島 秀雄 杉山 新治	ＢＳモリタ		川田 寛	中村クラブ		笹見 健司 岩田 利一	キフネクラブ				
58	3	大村 真司	ウィスタリア		平岩 友憲 山崎 実興	第3曜クラブ		神谷 礼行	ＲＳノナカ		中川 和雄 木村 真美	フェニックス				
59	4	杉浦 順一	ＢＳモリタ		牛島 秀雄 杉浦 順一	ＢＳモリタ		小出 寿郎	フェニックス		藤田 努 荻巣 雅俊	貴船クラブ				
60	5	杉浦 順一	ＢＳモリタ	7	大村 真司 仲 義和	ウィスタリア	6	吉田 保	中川シャトル	35	杉江 誠 磯本 朝雄	ヤマノウチクラブ	22			
61	6	杉浦 順一	ＢＳモリタ	10	大村 真司 仲 義和	ウィスタリア	6	伏屋 一郎	岡崎クラブ	36	村田 高人 木村 昭一	瑞穂クラブ	21			
62	7	川島 幸稔	ＲＳノナカ	13	川島 章稔 野村 博克	ＲＳノナカ	9	前田 浩一	大門ＢＣ	57	早瀬 弘親 松沢 伸一	振甫クラブ	32			
63	8	中尾 敏夫	名北クラブ	11	増田 博康 平岩 友憲	黄金クラブ 愛知クラブ	12	リュウセイショウ	天白シャトル	31	安田 満 井川 雅夫	トヨタ田原	28			
H1	9	中尾 敏夫	名北クラブ	6	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	11	鈴木 義弘	みちくさ	24	西尾 重光 鈴木 義弘	みちくさ	19			
2	10	木村 真美	フライトスポーツ	7	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	12	後藤 潤	紫電会	34	西村 幸司 浅井基司	ＰＡＮＩＣ	22			
3	11	越前屋直行	R.H.B.T	5	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	8	中山由紀雄	大門ＢＣ	35	仙田 弘志 山田 正典	うつみ	22	青山 伸幸 鈴木 明美	大門ＢＣ	8
4	12	小出 寿朗	フライトスポーツ	9	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	8	廉野 正治	JUPITER	23	廉野 正治 長谷川 潔	JUPITER	18	中尾 敏夫 山田三枝子	名北クラブ シャトルメイツ	8
5	13	中尾 敏夫	名北クラブ	9	鬼頭 尚見 笹田 峰男	ウィスタリア	12	橘 亮一	ウィスタリア	44	野中 大介 天野 孝則	ＲＳノナカ	28	中尾 敏夫 山田三枝子	名北クラブ シャトルメイツ	18
6	14	中尾 敏夫	名北クラブ	9	姥田 浩道 石原 幸雄	コックメイト	13	林 隆	岩倉パラレル	39	松浦 貴嘉 青木 眞	はり－あっぷ	29	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	8
7	15	川原 雅治	名北クラブ	12	森川 伸之 上前 茂人	コックメイト	14	水野 和広	ひいらぎＢＣ	32	水野 和広 石川 英彦	ひいらぎＢＣ	26	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	4
8	16	前田 浩一	大門ＢＣ	6	杉浦 順一 新田 正喜	ＢＳモリタ	9	青柳 智博	R. H. B. T	30	稲垣 亨 加藤 貴人	大和撫子 呉越同舟	27	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	30
9	17	中尾 敏夫	名北クラブ	10	川原 雅治 森本 順	名北クラブ	10	高柳 幸央	不老クラブ	28	鈴木勇一郎 水野 久司	呉越同舟 大和撫子	28	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	6

30才以上の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上女子単			30才以上女子複			40才以上男子単			40才以上男子複			50才以上男子単			50才以上男子複		
		氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参
H3	11	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	山田三枝子 宮崎美恵子	シャトルメイツ	3	青山 伸幸	大門ＢＣ	8	中川 創生 青山 伸幸	ﾌﾗｲﾄｽﾎﾟｰﾂ 大門ＢＣ	7	勝村 寿男	名北クラブ	2	勝村 寿男 酒井 精次	名北クラブ	5
4	12	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	山田三枝子 杉山かね子	シャトルメイツ 天白シャトル	8	青山 伸幸	大門ＢＣ	7	大村 真司 武田 龍也	ウィスタリア	6	勝村 寿男	名北クラブ	2	勝村 寿男 酒井 精次	名北クラブ	2
5	13	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	藤井みゆき ミツ石るみ子	東海シャトルズ	9	青山 伸幸	大門ＢＣ	5	越前屋直行 辻中 公人	ＲＨＢＴ	7	徳田 達雄	大門ＢＣ	3	酒井 精次 徳田 達雄	JUPITER 大門ＢＣ	4
6	14	浦川 礼子	豊橋トレセン	6	土柿 清巳 ミツ石るみ子	東海シャトルズ	2	青山 伸幸	大門ＢＣ	8	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	6	徳田 達雄	大門ＢＣ	2	長尾又兵衛 神田 明	小牧ＢＣ 愛犬クラブ	5
7	15	浦川 礼子	豊橋トレセン	5	浦川 礼子 近田 敬子	豊橋トレセン	6	青山 伸幸	大門ＢＣ	4	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	7	徳田 達雄	大門ＢＣ	2	勝村 寿男 富田 義彦	名北クラブ	5
8	16	浦川 礼子	豊橋トレセン	6	土柿 清巳 ミツ石るみ子	東海シャトルズ	12	越前屋直行	ＲＨＢＴ	5	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	6	杉浦 弘	大門ＢＣ	2	長尾又兵衛 神田 明	小牧ＢＣ 愛犬クラブ	4
9	17	喜多 令子	横須賀クラブ	8	野村 洋子 竹内ひろみ	さおりＢＣ	9	青山 伸幸	大門ＢＣ	7	菱田 修光 大村 真司	ＲＨＢＴ ウィスタリア	7	杉浦 弘	大門ＢＣ	3	西島 清 安田 博敏	ポリマーズ	5

愛知県教職員選手権大会

一般の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	一般男子単			一般男子複			一般女子単			一般女子複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
H6	1	田中　隆一	豊橋西高校	27	近藤　祥夫 近藤　豊	中京女子大 大府市教育委	10	白井　明子	東陽小学校	6	近藤　清子 白井　明子	東浦高校 東陽小学校	3
7	2	近藤　祥夫	中京女子大	14	清水　誠司 水野　和広	富田高校 天王小学校	5	近藤　清子	東浦高校	2	近藤　清子 白井　明子	東浦高校 東陽小学校	2
8	3	杉浦　順一	豊田高校	10	原　賢一 近藤　祥夫	同朋大 中京女子大	4	白井　明子	東陽小学校	4	白井　明子 原　知子	東陽小学校 名大OG	3
9	4	清水　誠司	若宮商業高校	12	清水　誠司 水野　和広	若宮商業高校 天王小学校	5	白井　明子	東郷東小学校	6	白井　明子 豊田美香子	東郷東小学校 長浦聖母幼稚園	5

30才以上の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上男子複			40才以上男子複			50才以上男子複			30才以上女子複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
H6	1	田中　章裕 加藤　大壱	豊川高校 愛知青少年公園	8	飯村　順一 佐藤　輝雄	大府中学校 美和中学校	2						
7	2	原　賢一 田中　章裕	同朋大 豊川高校	8	井村　仁美 菱田　肇	名古屋工業大	5	田中　章喜 中村　浩之	小坂井高校 鳴海高校	2	瀧塚公子美 原　知子	青海中学 名大OG	2
8	3	杉浦　順一 加藤　大壱	豊田高校 愛知青少年公園	4	井村　仁美 早瀬　弘親	名古屋工業大 名古屋市教委	3	菱田　肇 山内　修	名古屋工業大 名古屋大	2	瀧塚公子美 原　知子	青海中学 名大OG	3
9	4	原　賢一 加藤　大壱	同朋大 惟信高校	3	井村　仁美 早瀬　弘親	名古屋工業大 名古屋市教委	4	山内　修 山本　利夫	名古屋大	2			

愛知県家庭婦人大会　団体戦

各組1部

（参――参加数）

年度	回	春組		夏組		秋組		冬組		年度	回	春組		夏組		秋組		冬組	
		団体名	参	団体名	参	団体名	参	団体名	参			団体名	参	団体名	参	団体名	参	団体名	参
S49	1	豊田婦人同好会	4	県体女性教室クラブ	5	東海クラブ	4	刈谷クラブ	5	52	4	豊田東	4	春日井イエロー	4	守山ダッシュ	5	岡崎竜城	6
50	2	豊田婦人同好会	8	名城同好会	7	豊田ひまわり会	7	中村公園スポーツクラブ	7	53	5	豊田東	4	大堀団地	4	春日井チェリー	7	瑞穂青年の家	6
51	3	豊田同好会	8	大池団地羽根の会	8	知立市東チーム	8	春日井クラブ	8	54	6	豊田東	4	豊田レディース	4	豊田ちびっ子部隊	6	春日井東	7

春組1部～6部

（参――参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	参
S55	7	蒲郡カトレア	豊田スプリンター	名古屋ライオンズ	豊田レディース			16
56	8	豊田レディース	名古屋守山ダッシュ	知多えびねクラブ	名古屋千種光			24
57	9	豊田スプリンター	名古屋名東	名古屋千種光	豊田ハードトップ			24
58	10	豊田クレシーダー	名古屋千種光	安城アヤメ	弥富桜			24
59	11	豊田クレシーダー	安城アヤメ	弥富桜	名古屋瑞穂	名古屋ウィングス	春日井さくら	36
60	12	豊田クレシーダー	名古屋千種光	岡崎あやめ	名古屋中さかえ	名古屋緑	名古屋一社	36
61	13	豊田クレシーダー	名古屋瑞穂	名古屋中さかえ	名古屋天白	豊田クレスタ	大口フレンズ	36
62	14	豊田クレシーダー	豊田ハードトップ	春日井フラッシュ	豊田クレスタ	大口フレンズ	東海レディース	36
63	15	豊田クレシーダー	名古屋千種光	岡崎あやめ	春日井チェリー	東海レディース	江南紫	36
H1	16	豊田クレシーダー	春日井フラッシュ	小牧アップル	名古屋緑	犬山クラブ	知多えびね	36
2	17	豊田クレシーダー	名古屋瑞穂クラブ	春日井チェリー	名古屋城北	岡崎カシオペア	一宮レディースシャトル	36
3	18	岡崎フェニックス	刈谷ぴくるす	瀬戸あずさ	岡崎カシオペア	豊橋レモンスカッシュ	名古屋天白	36
4	19	豊田クレシーダー	名古屋千種光	名古屋中さかえ	豊橋レモンスカッシュ	名古屋守山ダッシュ	半田あじさい	36
5	20	豊田クレシーダー	安城アヤメ	小牧アップル	名古屋緑	豊明さくら	知立かきつばた	36
6	21	豊田クレシーダー	小牧アップル	名古屋緑	豊明さくら	知立かきつばた	名古屋天白	36
7	22	豊田クレシーダー	名古屋緑	岡崎カシオペア	知立かきつばた	名古屋天白	碧南GRACE	36

夏組1部～6部

（参――参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	参
S55	7	東海クラブ	城北クラブ	安城月	名古屋瑞穂			24
56	8	豊田ハードトップ	刈谷ぴくるす	豊明	碧南市ジャンプ			24
57	9	名古屋緑クラブ	弥富大藤	名古屋名東一社	小牧アップル			24
58	10	名古屋天白	名古屋ウィングス	豊明	豊田クレスタ	西枇杷島四ツ葉		30
59	11	豊明クレスタ	豊田東山	名古屋徳川	春日井小野バイオレット	名古屋クッキーズ	名古屋千種星	36
60	12	豊田東山	春日井小野バイオレット	西枇杷島四ツ葉クラブ	東海レディース	名古屋千種星	西春アイリス	36
61	13	春日井小野バイオレット	小牧グレープ	犬山古城	西春アイリス	名古屋新瑞穂	名古屋八事	36
62	14	一宮レディースシャトル	西春アイリス	大府シャトルコックス	名古屋南	豊田ソフィア	東浦うの花	36
63	15	西尾キャッツアイ	刈谷クラブ	岡崎のぎく	瀬戸ひかり	豊田タートル	豊橋7	36
H1	16	刈谷クラブ	岡崎さつき	安城サルビア	豊田ソアラ	豊橋レモンスカッシュ	蟹江ルビー	36
2	17	名古屋天白	豊橋レモンスカッシュ	小牧レモン	知立かきつばた	西尾サファイア	豊橋スウィング	36
3	18	半田あじさい	西尾サファイア	安城サルビア	豊橋スウィング	豊田コアラ	尾西ホワイトシャトルズ	36
4	19	西尾サファイア	豊橋スウィング	豊田コアラ	尾西ホワイトシャトルズ	犬山乾山	豊明ひまわり	38
5	20	刈谷ゆきわりそう	豊田コアラ	碧南GRACE	犬山乾山	豊田東山	安城サクラ	72
6	21	岡崎アンドロメダ	尾西ホワイトシャトルズ	小牧レモン	祖父江ウィング	稲沢ホワイト	大府すずらん	72
7	22	豊田コアラ	豊田東山	武豊レモンズ	豊田セラ	犬山乾山	名古屋中川シャトルフラワーズ	72

夏組7部～12部

（参――参加数）

年度	回	7 部	8 部	9 部	10 部	11 部	12 部	参
H5	20	祖父江ウイング	蒲郡ピュア	大府すずらん	豊田セラ	蒲郡キャッツ	岡崎ヘルクレス	72
6	21	名古屋中川シャトルフラワーズ	名古屋東徳川	はるひオンライン	しかつはくば	刈谷かきつばた	岩倉さくらこ	72
7	22	岡崎ヘルクレス	刈谷こすもす	東海ポピー	大府しらゆり	刈谷朝日	名古屋守山クリアーズ	36

秋組1部～8部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	参
S55	7	安城桜	小牧フィッグ	弥富大藤	犬山羽黒	尾張旭ファミリー				30
56	8	尾張旭エーデルワイス	小牧アップル	豊田クレスタ	豊田ホープ	名古屋中川コスモ	小牧ネーブル	刈谷とまと	蒲郡コスモス	48
57	9	安城サクラ	豊田ホープ	蒲郡コスモス	十四山クラブ	名古屋守山クリアーズ	瀬戸ひかり	名古屋千種海	蒲郡ひまわり	60
58	10	名古屋守山クリアーズ	岡崎サツキ	新川明星	岡崎モクレン	刈谷ぼてと	豊田あいづま	豊田大林クラブ	豊田東山	60
59	11	岡崎のぎく	名古屋新瑞穂	名古屋千種海	師勝白鳥	小牧パイナップル	小牧オリーブ			36
60	12	尾張旭フレンド	名古屋千種花	稲沢ホワイト	名古屋守山フラッシュ	豊田豊南	名古屋千種虹			36
61	13	大府シャトルコックス	知多マリーン	稲沢ホワイト	小牧プラム	岡崎さつき	西尾フレンズ			36
62	14	名古屋熱田ワラワーズ	豊橋セブン	西尾キャッツアイ	豊田豊南クラブ	蟹江ひまわり	豊田浄水	名古屋グリーン	小牧ピーチ	72
63	15	知立かきつばた	岡崎さつき	名古屋徳川	尾西ホワイトシャトルズ	名古屋守山ドリブン	大府くちなし	岡崎ふじ	豊田コアラ	72
H1	16	瀬戸こだま	岡崎ふじ	豊田フットワーク	豊田コアラ	小牧プラム	安城サクラ	小牧ピーチ	春日井小野グレース	72
2	17	豊田コアラ	知立しょうぶ	名古屋守山ドリブン	碧南グレース	七宝ルビー	豊田ホープ	西枇杷島四ツ葉	名古屋昭和つるまい	72
3	18	豊明ひまわり	名古屋ブルー瑞穂	大府くちなし	春日井小野グレース	師勝はくば	安城リンドウ	蒲郡フレンズ	春日井バード	78
4	19	安城サクラ	祖父江ウイング	春日井小野グレース	豊田東山	日進ミズの会花	名古屋中たちばな	蒲郡キャッツ	名古屋天白島田	84
5	20	安城リンドウ	刈谷こすもす	犬山木曽	東郷セピア	大口マミーズ	岩倉さくらこ	安城スズラン	蒲郡BBC	72
6	21	稲沢レッド	春日井小野グレース	大口マミーズ	東郷セピア	一宮アローシャトルズ	豊橋フェニックス	平和ピース	豊橋フレンズ	78
7	22	西尾エメラルド	平和ピース	知多マリーン	豊田MR2	刈谷なでしこ	碧南みなみ	安城スミレ	祖父江スウィング	78

秋組9部～14部

（参――参加数）

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	参
S57	9	刈谷こすもす	豊田大林クラブ					60
58	10	小牧パイナップル	豊田朝日クラブ					60
59	11							36
60	12							36
61	13							36
62	14	岡崎もくれん	豊田コアラ	安城スミレ	七宝ルビー			72
63	15	西尾サファイヤ	西尾エメラルド	春日井小野グレース	岡崎ひめこぶし			72
H1	16	東海ポピー	弥富白鳥	岡崎すみれ	小牧メロン			72
2	17	名古屋千種波	名古屋名北クラブ	蒲郡フレンズ	岡崎アルゴ			72
3	18	豊田朝日クラブ	小牧ピーチ	尾張旭フレンド	名古屋港ハートナーズ	稲沢レッド		78
4	19	豊橋鯱	東海ポピー	豊田カリーナ	名古屋中ちはや	碧南ポパイ	大口マミーズ	84
5	20	豊橋フェニックス	春日井フレンズ	長久手ブルーメ	碧南みなみ			72
6	21	大府しらゆり	西尾ガーネット	名古屋名東桂	犬山あすなろ	瀬戸ないす		78
7	22	一宮マザーグース	長久手ブルーメ	大口レディース	岡崎オリオン	名古屋瑞穂井戸田		78

冬組1部～9部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	9 部	参
S55	7	小牧アップル	安城星	名古屋栄生	尾張旭エーデルワイス	安城アイリス	尾張旭レインボー	名古屋中区フレンズ			43
56	8	瀬戸あずさ	尾張旭フレンド	春日井小野バイオレット	豊田あいづま	春日井ピーチBC	蒲郡ひまわり	刈谷こすもす	春日井小野クイーン	尾張旭シャトー	54
57	9	豊田朝日クラブ	新川新星	南知多フレッシュVBC	尾張旭ダッシュ	豊田豊南クラブ	豊田ランクル	藤岡ふじクラブ	名古屋みずとり	豊田コアラ	54
58	10	名古屋みずとり	小牧オリーブ	豊田豊南クラブ	西春アイリス	岡崎ヒメコブシ	刈谷こまくさ	蒲郡さくら	名古屋レインボー	刈谷チェリー	62
59	11	豊田豊南クラブ	名古屋千種翼	知多マリーン	名古屋熱田フラワーズ	名古屋港ゆり	江南ひまわり	小牧ピーチ	名古屋レインボー	岡崎サツキ	92
60	12	名古屋熱田フラワーズ	蒲郡さくら	尾張旭シャトー	名古屋昭和スカイ	名古屋ブルー瑞穂	名古屋千種風	大府シャトルコックス	安城さくら	西尾フレンズ	96
61	13	豊田フットワーク	瀬戸こだま	大府北山	岡崎モクレン	豊田浄水	稲沢レッド	豊田コアラ	安城サクラ	安城スミレ	108
62	14	大府すずらん	名古屋熱田レディース	大府ひいらぎ	名古屋中村睦会	豊田カリーナ	春日井パンジー	東海コスモス	東浦コスモス	春日井バード	82
63	15	豊橋スウィング	豊田カリーナ	小牧ストロベリー	小牧メロン	名古屋港パートナーズ	小牧マロン	名古屋中村友美	豊田リセ	岡崎すずらん	78
H1	16	蒲郡フレンズ	岡崎すずらん	名古屋中ちはや	一宮アローシャトル	尾張旭ダッシュ	尾張旭コスモス	豊田ホープ	大口マミーズ	小牧マロン	70
2	17	大治せんだん	名古屋千種山	安城りんどう	尾張旭コスモス	名古屋守山ルビーズ	日進ミズの会花	大口マミーズ	豊田リセ	犬山あすなろ	76
3	18	春日井パンジー	名古屋中ちはや	名古屋守山ジェッツ	大口マミーズ	岩倉さくらこ	尾西たんぽぽ	豊橋ラッキーズ	名古屋天白シャトルフレンズ	大府しらゆり	84
4	19	東郷セピア	名古屋瑞穂井戸田	豊橋ラッキーズ	瀬戸ないす	刈谷りんどう	大府しらゆり	豊田フレンズ	名古屋守山エース	半田ひまわり	96
5	20	平和ピース	豊橋フレンズ	刈谷かりがね	刈谷ききょう	安城キキョウ	知多クリアー	刈谷ひなげし	小牧メロン	大府ひいらぎ	75
6	21	祖父江スウィング	岡崎オリオン	一宮マザーグース	大府ひいらぎ	犬山花みずき	西尾アメジスト	大府すみれ	弥富弥生	安城ヒマワリ	78
7	22	大府ひいらぎ	名古屋グリーン新瑞穂	碧南オリーブ	名古屋港CARROTS	大府すみれ	名古屋天白シャトルフレンズ	知多エリカ	武豊サラダクラブ	碧南ひかり	82

冬組10部～18部

（参――参加数）

年度	回	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	15 部	16 部	17 部	18 部	参
S58	10	知多クラブ									62
59	11	大府シャトルコックス	知多レディース	大府くちなし	稲沢ピンク	名古屋昭和ポポ	春日井ホワイト				92
60	12	大府くちなし	大府北山	西尾オレンジ	大府すずらん	東浦うの花	祖父江クラブ	大府ひいらぎ			96
61	13	春日井フレンズ	小牧メロン	春日井ウィスタリヤ	江南藤	豊田カリーナ	刈谷ぽてと	東海コスモス	瀬戸るな	東浦コスモス	108
62	14	一宮コスモス	名古屋名東柊	東浦ひまわり	西尾ガーネット	名古屋港ポピーズ					82
63	15	一宮アローシャトルズ	犬山同好会	豊田ホープ	大口マミーズ						78
H1	16	春日井ホワイトキャッツ	西尾ガーネット	東海キャロル							70
2	17	名古屋港フレッシュ	扶桑マンデー	蒲郡コスモス	大府ひいらぎ						76
3	18	大口レディース	春日井ホワイトキャッツ	安城スズラン	名古屋名東柊	瀬戸つばさ					84
4	19	半田こすもす	長久手ブルーメ	大府ひいらぎ	名古屋守山フラッシュ	刈谷れもん	春日井サルビア	稲沢ブルー			96
5	20	西尾ムーンストン	大府なでしこ	半田すみれ							75
6	21	蒲郡ビクトリー	しかつエフォート	知多スマッシュ八幡	武豊サラダクラブ						78
7	22	西春クロッカス	江南椿	碧南リボン	武豊サラダフレンズ	大府なでしこ					82

1部～9部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	9 部	参
8	23	豊田クレシーダ	岡崎カシオペア	知立かきつばた	半田あじさい	豊橋レモンスカッシュ	岡崎アンドロメダ	武豊レモンズ	豊田セラ	尾張旭フットワーク	270
9	24	豊田クレシーダ	豊田スプリンター	西尾キャッツアイ	名古屋名東桜	岡崎アンドロメダ	碧南GRACE	尾西ホワイトシャトルズ	大府シャトルコックス	知多えびね	284

10部～18部

（参――参加数）

年度	回	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	15 部	16 部	17 部	18 部	参
8	23	犬山乾山	名古屋中川シャトルフラワーズ	刈谷こすもす	知立しょうぶ	名古屋東徳川	豊田カリーナ	大口マミーズ	名古屋名北	一宮アローシャトルズ	270
9	24	名古屋名西	刈谷こすもす	名古屋千種海	大口マミーズ	豊田カリーナ	西春クロッカス	知多つつじクラブ	岡崎アルゴ	豊田MR2	284

19部～27部

（参――参加数）

年度	回	19 部	20 部	21 部	22 部	23 部	24 部	25 部	26 部	27 部	参
8	23	刈谷なでしこ	名古屋中村NSC	小牧パパイヤ	豊明けやき	弥富白鳥	碧南オリーブ	一宮マザーグース	長久手ブルーメ	春日井サルビヤ	270
9	24	知多エリカ	知多クリアー	碧南オリーブ	豊田ホープ	知多ウィング	岡崎スバル	名古屋中川シャトルエース	名古屋瑞穂井戸田	春日井グース	284

28部～36部

（参――参加数）

年度	回	28 部	29 部	30 部	31 部	32 部	33 部	34 部	35 部	36 部	参
8	23	刈谷チェリー	名古屋瑞穂井戸田	名古屋守山フラッシュ	名古屋グリーン新瑞穂	知多エリカ	豊橋品	岡崎スバル	西尾アメジスト	岡崎シリウス	270
9	24	しかつあさひ	犬山あすなろ	名古屋グリーン新瑞穂	日進ミズの会つぼみ	名古屋港Carrots	春日井ハイビスカス	岡崎シリウス	蒲郡ビクトリー	江南椿	284

37部～45部

（参　参加数）

年度	回	37 部	38 部	39 部	40 部	41 部	42 部	43 部	44 部	45 部	参
8	23	刈谷すばらシャトルズ	稲沢イエロー	武豊サラダフレンズ	豊明リリィーズ	刈谷ひまわり	東郷スワン	刈谷らいむ	蒲郡ビクトリー	弥富ペパーミント	270
9	24	蒲郡ウイン	西尾アクアマリン	刈谷ききょう	東郷スワン	名古屋緑CLOVER	稲沢グリーン	岡崎プロキオン	名古屋名東楓	岡崎ベルセウス	284

愛知県家庭婦人大会　個人戦

1部、2部1ブロック～5ブロック

（参――参加組数）

年度	回	1部		2部1ブロック		2部2ブロック		2部3ブロック		2部4ブロック		2部5ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	門間由美子	豊田市	長谷川さつよ	豊田市	高木喜代子	名古屋市	安藤　久代	小牧市	杉田　和子	豊橋市	牧　真喜子	豊橋市	403
		太田　礼子		竹下　尚子		竹原　芳子		水野　良子		村上　純子		野田　庸子		
4	2	門間由美子	豊田市	幸　康子	豊田市	桜井　文子	名古屋市	加藤　悦子	刈谷市	磯部　悦子	名古屋市	加藤智恵子	刈谷市	451
		太田　礼子		中山　和美		福沢　京子		鈴木　絹子		村上　啓子	小牧市	神谷寿美子		
5	3	門間由美子	豊田市	田村　早苗	名古屋市	森本恵美子	名古屋市	池田　忍草	碧南市	森　厚子	名古屋市	大脇なほみ	名古屋市	536
		太田　礼子		成田　久子		奥野　照代	西枇杷島町	竹内　綾子		八木千代子		伊東美和子		
6	4	門間由美子	豊田市	三輪　明美	豊田市	森　厚子	名古屋市	坂柳　京子	豊橋市	山本　昌子	名古屋市	小川るみ子	岡崎市	555
		太田　礼子		杉山　牧子		八木千代子		安井ヤス子		西川　福美		牛田恵美子		

2部6ブロック～11ブロック

（参――参加組数）

年度	回	2部6ブロック		2部7ブロック		2部8ブロック		2部9ブロック		2部10ブロック		2部11ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	小崎　輝代	犬山市	大西　玲子	名古屋市	中橋アツ子	半田市	服部美栄子	岡崎市	荒川富士子	名古屋市	鵜飼　真弓	一宮市	403
		松村　晴美		光井　好美		都築　節子		成瀬　茂子		佐藤　敏子		道家　幸		
4	2	佐藤美智子	西尾市	吉見千津子	蒲郡市	春日部純子	豊明市	市川　葵	蒲郡市	梅田　伸枝	豊田市	長江　淑子	岩倉市	451
		小野内朱美		飯島よし子		加藤　直美		内田　裕子		末次美恵子		坪井　輝子		
5	3	浜　恵子	名古屋市	山口　妙子	大府市	鈴木　昌子	豊田市	瀬尾　陽子	名古屋市	辺見加代子	武豊町	有竹富美代	東海市	536
		安藤　清香		松林いずみ		岡田　貞代		佐々木光子		四井　玲子		渡辺　史子		
6	4	厚味美枝子	半田市	川端　京子	名古屋市	勝見みどり	名古屋市	金本　順子	名古屋市	岡島　薫	春日井市	古市　時代	名古屋市	555
		石川　信子		森部　愛子		浅井　京子		久保田佳子		落合七緒子		増川　千代		

2部12ブロック～17ブロック

（参――参加組数）

年度	回	2部12ブロック		2部13ブロック		2部14ブロック		2部15ブロック		2部16ブロック		2部17ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	浜　よし子	豊橋市	大松智恵子	豊田市	本城栄津子	名古屋市	安田　富子	祖父江町	長縄　美穂	大口町	林　悦子	名古屋市	403
		三浦　悟子		小野くみ子		今村　照代		黒川せい子		栢　元子		三輪　恵子		
4	2	沢　美恵子	日進町	夏目　芳子	大口町	鈴木　昌子	豊田市	末松美登利	春日町	中谷えみ子	尾張旭市	高村千代子	犬山市	451
		萩野百合子		岡田　洋子		岡田　貞代		中村　良子		寺内　妙子		井上　徳子		
5	3	塚本　徳子	江南市	中川　絹江	名古屋市	内木　絹代	知多市	伊藤ナチ子	西枇杷島町	畑佐　美輪	知立市	川本かよ子	長久手町	536
		山下　章子		久保田佳子		中園由美子		鬼塚　京子		中島くるみ		古田さち代	尾張旭市	
6	4	瀬尾　洋子	春日井市	沢　登恵子	名古屋市	山内　加代	名古屋市	清水　和枝	豊田市	関谷　美代	東海市	星井　律子	西尾市	555
		峰浦　清美		谷　智子		尾形　仁美		石京　美穂		前川　了子		石原万里子		

2部18ブロック～23ブロック

（参－　参加組数）

年度	回	2部18ブロック		2部19ブロック		2部20ブロック		2部21ブロック		2部22ブロック		2部23ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	岡田　洋子	大口町	白井　恵美	豊田市	長瀬富貴枝	豊田市	水間　真弓	名古屋市	吉田　照子	岩倉市	鈴木　昌子	豊田市	403
		夏目　芳子		須見　三枝子		菊池美和子		金本　順子		横山よし子		門田恵美子		
4	2	野村　陽子	刈谷市	吉川　博子	安城市	飯島　治子	安城市	小川るみ子	岡崎市	西川　美代	大府市	渡辺　和子	師勝町	451
		熊谷比呂美		松永　弘子		村井　洋子		赤塚　恵子		藤井きみ子		中川　洋子		
5	3	上野　順子	知多市	赤塚　恵子	岡崎市	杉山　久子	岡崎市	佐伯美智子	師勝町	雨宮　角枝	西尾市	日栄　雅美	岡崎市	536
		佐藤りつ子		川口　久子		辻井　愛子		阪野　博子		藤原聖乃子		島田美津子		
6	4	高柳八重子	名古屋市	亀井　年恵	名古屋市	荒木　郷子	豊田市	川村　敦子	名古屋市	坂本加代子	江南市	永井　幸子	知多市	555
		水野　麻里		只腰喜久枝		上野紀美子		山内久美子		片山　信枝		吉浜　恵子		

2部24ブロック～27ブロック

（参　参加組数）

年度	回	2部24ブロック		2部25ブロック		2部26ブロック		2部27ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	市川　益美	蒲郡市							403
		佐野由美子								
4	2	石京　美穂	豊田市	高木　光子	豊田市	渡辺　文子	一宮市	堀江香奈子	一宮市	451
		清水　和枝		前田佳代子		中川美代子		山田美穂子		
5	3	大石　輝子	師勝町							536
		山田　瑞代								
6	1	村瀬由利子	知多市							555
		小鶴　真弓								

1ブロック～7ブロック

（参――参加組数）

年度	回	1ブロック		2ブロック		3ブロック		4ブロック		5ブロック		6ブロック		7ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	服部美和子	豊田市	竹内　綾子	碧南市	中山十三子	知多市	神野　法子	豊田市	中橋アツ子	半田市	柿元　里美	豊田市			536
		門間由美子		池田　忍草		斉藤　美幸	東海市	鈴木　昌子		有馬　正子		水野千寿枝				
8	6	服部美和子	豊田市	八木千代子	名古屋市	大西　玲子	名古屋市	板木　智恵	半田市	脇　久美子	名古屋市	春日部純子	豊明市	見松由佳利	春日町	591
		門間由美子		西川　福美		勝見みどり		亀谷　康子		山本　武子		佐野由美子		津田　愛子		
9	7	門間由美子	豊田市	内藤ひとみ	祖父江町	服部こずえ	知立市	西本　民子	春日井市	武田美代子	春日井市	三澤　恵	尾西市	樋口　千里	刈谷市	638
		幸　康子		塚崎　良子		青能　美治		伊藤みゆき		森本百合子		前田　恵子		竹内こゆき		

8ブロック～14ブロック

（参――参加組数）

年度	回	8ブロック		9ブロック		10ブロック		11ブロック		12ブロック		13ブロック		14ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	長瀬富貴枝	豊田市	服部　文子	名古屋市	武田美代子	春日井市			夏目　芳子	大口町	前田　恵子	尾西市			536
		須見　三枝子		今西　美子		岡島　薫				窪田　文子		羽田みゆき				
8	6	深尾真由美	大府市	一野　博子	豊橋市	中園由美子	知多市	松林いづみ	大府市	出口　典子	知多市	近藤　節子	東郷町	野田みどり	尾西市	591
		佐藤　孝乃		岩崎　礼子		内木　絹代		清水ひとみ		永廣　裕子		奥山　信子		田中　五月		
9	7	石川真由美	名古屋市	厚味美枝子	半田市	峯浦　清美	春日井市	近藤まゆみ	東郷町	竹屋　直美	名古屋市	山田　博子	知多市	丸山ひろみ	名古屋市	638
		斉藤　悦子		浅野　充恵		瀬尾　洋子		野々山智恵子		岡本　明子		岡本　節子		亀山　年恵		

15ブロック～21ブロック

（参――参加組数）

年度	回	15ブロック		16ブロック		17ブロック		18ブロック		19ブロック		20ブロック		21ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	伊藤　文子	尾西市	谷　ひろみ	尾張旭市	小嶋　真弓	知多市	山本　優子	碧南市	藤生　郁子	碧南市	佐伯美智子	師勝町	浅野　千里	尾西市	536
		野田みどり		三輪　裕美		榊原　郁代		汲田　雅美		榊原　鈴子		葛城　祥江		田中　五月		
8	6	瀬尾　洋子	春日井市	鬼塚　京子	西枇杷島	杉村素美子	日進市	浅井　篤子	瀬戸市	伊東　直美	名古屋市	小船　さよ	岡崎市	妹尾　順子	豊田市	591
		峯浦　清美		丸本　幸子		杉本美佐子		上岡百合子		大野　明美		市川　正恵		島本　隆子		
9	7	辻　幸子	名古屋市	横山　英子	名古屋市	佐治　雅子	名古屋市	関谷　美代	東海市	松下　洋子	豊橋市	原田　敬子	岡崎市	小野　初美	蒲郡市	638
		山口　真子		小佐井加奈子		横地　厚美		岡田かな子		佐々木イサ子		稲吉　礼子		高柳美恵子		

22ブロック～25ブロック

（参――参加組数）

年度	回	22ブロック		23ブロック		24ブロック		25ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	大西しのぶ	豊田市	島本　隆子	豊田市	浅利真理枝	岡崎市	小船　さよ	岡崎市	536
		西永　秀子		柴田さゆり		肌附　美恵		市川　政恵		
8	6	辻本　貴子	豊田市	鈴木　和美	名古屋市	柴田さゆり	豊田市	川松富美子	稲沢市	591
		高橋　妙子		小佐井加奈子		西河八重子		住田三千代		
9	7	諸井さゆり	蒲郡市	水野　礼子	西尾市	神谷　朱美	名古屋市	間瀬恵美子	半田市	638
		小田　安子		長谷　啓子		井内しのぶ		杉浦　史恵		

愛知大学選手権大会　リーグ戦

年度	回	男子 1部	男子 2部	女子 1部	女子 2部
S40	21	南山大学		名古屋大学	
	22				
41	23	名古屋商科大学		名古屋女子大学	
	24	名古屋商科大学		名古屋女子大学	
42	25	名古屋商科大学	愛知工業大学	名古屋女子大学	
	26	名古屋商科大学	日本福祉大学	名古屋女子大学	

年度	回	男子 1部	男子 2部	女子 1部	女子 2部
S43	27	名古屋商科大学	中京大学	市邨学園短期大	日本福祉大学
	28	名古屋商科大学	日本福祉大学	市邨学園短期大	日本福祉大学
44	29	名古屋商科大学	愛知教育大学	市邨学園短期大	愛知教育大学
	30	名古屋商科大学	名城大学	市邨学園短期大	南山大学
45	31	名古屋商科大学	中京大学	愛知教育大学	名古屋女子大学
	32	愛知教育大学	名城大学	南山大学	名古屋女子大学

愛知大学選手権大会　トーナメント戦

（参――参加数）

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
S54	1	名城大学		中京大学	
55	2	名城大学		中京女子大学	
58	3	名城大学A	29	中京大学A	30
59	4	名城大学B	28	中京女子大学A	14
60	5	名城大学B	28	愛知淑徳大学A	16
61	6	名城大学B	26	中京大学A	19

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
S62	7	名城大学A	23	中京大学A	21
63	8	名城大学C	25	中京女子大学A	26
H1	9	名古屋学大A	26	中京大学A	25
2	10	名古屋大学A	24	中京大学A	24
3	11	名商科大学A	29	愛知淑徳大学A	21
4	12	名城大学A	34	愛知淑徳大学A	26

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
H5	13	名城大学A	33	愛知淑徳大学A	33
6	14	愛知大学B	34	愛知淑徳大学A	30
7	15	名城大学C	37	中京女子大学A	29
8	16	名城大学A	35	中京女子大学A	28

愛知学生選手権大会

年度	回	男子単 選手名	男子単 所属	参	男子複 選手名	男子複 所属	参	女子単 選手名	女子単 所属	参	女子複 選手名	女子複 所属	参
S38	11	加藤　賢雄	南山大		寺本　喜宥 本田　勝也	名古屋大		松波千鶴子	名古屋女子大		森　春代 松波千鶴子	名古屋女子大	
39	12	寺本　喜宥	名古屋大		寺本　喜宥 本田　勝也	名古屋大		片桐　宝子	名古屋商科大		森　春代 松波千鶴子	名古屋女子大	
40	13	安藤　義治	名古屋商科大		篠田　忠明 斉藤　満	愛知大		神野美智代	市邨学園短大		神野美智代 山田　和代	市邨学園短大	
41	14	山本　隆司	名古屋商科大		篠田　忠明 神田　明	愛知大		稲葉　良子	名古屋女子大		森　春代 村田　道子	名古屋女子大	
42	15	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		稲葉　良子	名古屋女子大		稲葉　良子 石原やす子	名古屋女子大	
43	16	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		増田　初子	市邨大		増田　初子 山田　陽子	市邨大	
44	17	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		柴田　明美	市邨学園短大		増田　初子 山田　陽子	市邨学園短大	
45	18	平松　孝孔	愛知教育大		堀　真満 後藤　路広	名古屋商科大		福田　明子	愛知教育大		小笠原伸枝 平松富美子	市邨大	
46	19	後藤　路広	名古屋商科大		堀　真満 後藤　路広	名古屋商科大		尾藤喜代子	名古屋女子大		竹中美代子 鈴木　清香	市邨大	
47	20	成瀬　英治	南山大		後藤　路広 河瀬さとし	名古屋商科大		波多野美代子	市邨大		波多野美代子 鈴木　清香	市邨大	
48	21	井崎　雅弘	愛知工業大		井崎　雅弘 山田　清孝	愛知工業大		川島みどり	愛知教育大		峰野美智子 安田　京子	椙山女学園大	
49	22	石川　啓一	中京大		井崎　雅弘 山田　清孝	愛知工業大		岡田恵美子	愛知県立大		石橲　美喜 堀田　和代	金城学院大	
50	23	石川　啓一	中京大		吉村　敏明 水谷　登	名城大		伴　隆子	椙山女学園大		野村　深雪 藤村　友江	南山大	
51	24	川島　章稔	名城大		川島　章稔 水谷　登	名城大		伴　隆子	椙山女学園大		伴　隆子 土本　陽子	椙山女学園大	
52	25	川島　章稔	名城大		中口　直人 浜名　利之	中京大		鈴木ゆみ子	南山大		岸家小夜子 斉藤千恵子	中京大	
53	26	西崎　佳行	愛知工業大		別枝　一成 越沢　直久	中京大		河原崎千恵子	中京大		河原崎千恵子 岡崎まき子	中京大	
54	27	近藤　祥夫	名城大		宮原　誠 名倉　康弘	中京大		鈴木須賀代	中京大		沢木　春美 鈴木須賀代	中京大	

（参——参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S55	28	近藤　祥夫	名城大		近藤　祥夫 堀　弘之	名城大		加藤麻利子	名古屋大		中谷ゆかり 伊藤ひとみ	金城学院大	
56	29	近藤　祥夫	名城大		近藤　祥夫 堀　弘之	名城大		山下千恵子	愛知大		佐々木弘子 河野　益美	中京女子大	
57	30	堀　弘之	名城大		堀　弘之 神谷　道夫	名城大		津崎　孝子	中京女子大		津崎　孝子 西脇　睦子	中京女子大	
58	31	神谷　道夫	名城大	222名	中野　正己 疋田　博之	名城大	103組	津崎　孝子	中京女子大	193名	津崎　孝子 織平　節代	中京女子大	93組
59	32	森地　正一	名城大	207	疋田　博之 森地　正一	名城大	97	津崎　孝子	中京女子大		佐藤真理子 近藤　晃代	愛知淑徳大	61
60	33	森地　正一	名城大	207	疋田　博之 森地　正一	名城大	97	近藤　晃代	愛知淑徳大	120	光嵜　祐子 近藤　晃代	愛知淑徳大	53
61	34	森地　正一	名城大	211	疋田　博之 森地　正一	名城大	93	菊池　寿枝	中京大	123	新屋　智子 説田　浩恵	愛知大	59
62	35	小松崎政幸	愛知大	198	北里　憲之 松本　周	名城大	88	説田　浩恵	愛知大	144	新井　雅子 大島　裕子	愛知淑徳大	73
63	36	小松崎政幸	愛知大	178	北里　憲之 松本　周	名城大	74	恵木　清子	中京女子大	110	安田美智子 恵木　清子	中京女子大	59
H1	37	近藤　豊	名城大	181	足立　弘明 北原　朋幸	名古屋大	93	恵木　清子	中京女子大	139	米今真由美 恵木　清子	中京女子大	71
2	38	近藤　豊	名城大	190	松本　周 滝本　勝則	名城大	85	宮村　和美	中京大	159	大川ますみ 宮村　和美	中京大	95
3	39	加藤　寿彦	名城大	217	今野　淳 久湊　良成	名城大	97	青木美代子	中京女子大	140	恵木　清子 青木美代子	中京女子大	86
4	40	石田　猛	名古屋商科大	227	北原　朋幸 宮田　康彦	名古屋大	110	青木美代子	中京女子大	146	青木美代子 鈴木　和泉	中京女子大	78
5	41	石田　猛	名古屋商科大	238	久湊　良成 今野　淳	名城大	114	宇留賀きよ	愛知淑徳大	199	小林　真理 太郎良和美	愛知淑徳大	98
6	42	中川　雅之	愛知大	272	刈谷　富嗣 青山　靖範	名古屋学院大	133	清水　礼子	愛知淑徳大	177	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	92
7	43	花井　謙吉	名城大	246	花井　謙吉 松山　寛和	名城大	116	堀絵　里子	中京女子大	178	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	88
8	44	神谷　仁士	愛知工業大	239	藤田　勝靖 松山　寛和	名城大	117	清水　礼子	愛知淑徳大	148	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	76
9	45	西脇　康彦	愛知大	214	佐々木貴一 中川　雅俊	名城大	104	西田　法子	愛知大	126	清水　礼子 浅沼布紗子	愛知淑徳大	68

愛知学生新人戦大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S31	1	稲熊　貞夫	名城大		加藤 伊藤	南山大		北野	金城学院大		北野 山川	金城学院大	
32	2	稲垣　正二	名城大		間瀬 中島	南山大		岡井	金城学院大		岡野 川島	金城学院大	
33	3	竹井	南山大		田中 楠原	南山大		平山	名古屋大		金丸 永田	金城学院大	
34	4	西崎	名古屋大		水野 岩堀	名古屋大		浜浦	椙山女学園大		浜浦 栗木　貴子	椙山女学園大	
35	5	青山	名古屋大		稲熊　文隆 若原	愛知教育大		中村　伸代	金城学院大		池田　幸 今井　純子	金城学院大	
36	6	加藤　賢雄	南山大		加藤　賢雄 長谷川雅樹	南山大		棚橋きよ子	名古屋女子大		棚橋きよ子 二村　朋子	名古屋女子大	
37	7	寺本　喜宥	名古屋大		竹内　邦嘉 鈴木　保	南山大		武田　宗子	金城学院大		武田　宗子 佐々木紘子	金城学院大	
38	8	木下　金司	南山大					近藤　順子	椙山女学園大		角田　和子 神田美和子	椙山女学園大	
39	9	篠田　忠明	愛知大		深尾　正勝 幸　克美	名古屋大		木達　昌子	名古屋大		岩井　寧子 高田登美子	名古屋大	
40	10	水谷　達也	愛知工業大		荒川 寺島	愛知教育大		岩井　寧子	椙山女学園大		魚住　光子 吉田　和子	金城学院大	
41	11	河合　義明	名古屋大		加藤 中島	名古屋大		稲垣　京子	名古屋市立大		小田切邦子 水野　淳子	椙山女学園大	
42	12	安井　孝守	南山大		安井　孝守 堀　正治	南山大		小森くに子	名古屋女子大		佐々木桂子 大脇とし子	椙山女学園大	
43	13	木村　真司	愛知工業大		二見　正夫 天野素義幸	名古屋商科大		石田みさ子	金城学院大		石田みさ子 栗本　幹子	金城学院大	
44	14	成瀬　英治	南山大		須崎　光久 稲垣　俊夫	南山大		田熊　和枝	日本福祉大		田熊　和枝 古川真知子	日本福祉大	
45	15	八神　由一	愛知教育大		竹内　章 竹内　幹仁	愛知工業大		中西　円美	南山大		中西　円美 渡辺　順子	南山大	
46	16	中畑　敏夫	名城大		広瀬　明 清水　秀二	南山大		渡辺　洋子	椙山女学園大		木村　澄江 西田　圭子	日本福祉大	
47	17	松井　智治	中京大		早川　秀敏 松本　正幸	中京大		川島みどり	愛知教育大		川島みどり 佐久間たかえ	愛知教育大	
48	18	野田　勝治	名古屋大		石川　啓一 岩田　甲司	中京大		内藤　愛子	市邨大		内藤　愛子 平松　初美	市邨大	
49	19	三浦　治	名城大		水谷　登 吉村　敏明	名城大		井沢　直子	中京大		井沢　直子 宇佐美町子	中京大	
50	20	中口　直人	中京大		中口　直人 飯田　賢次	中京大		西村恵以子	市邨学園短期大		西村恵以子 森本　敦子	市邨学園短期大	
51	21	宮原　誠	中京大		佐久間尚樹 加藤　憲治	南山大		植野美智子	愛知教育大		岸家小夜子 斉藤千恵美	中京大	
52	22	祖父江正昭	名城大		江角　義男 佐藤　秀俊	日本福祉大		赤井　玲子	日本福祉大		岡本　優子 赤井　玲子	日本福祉大	
53	23	近藤　祥夫	名城大		深沢　正己 近藤　祥夫	名城大		町田恵美子	名古屋女子大		道久　万理 鈴木須賀子	中京大	
54	24	川谷　弘文	名古屋大		黒川　哲夫 森川　伸之	南山大		山下千恵子	愛知大		南川　雅子 野々垣良江	椙山女学園大	
55	25	久田　利夫	愛知教育大		生田　弘幸 角谷　久幸	中京大		加藤　静代	愛知教育大		加藤　静代 伸井　淑乃	愛知教育大	
56	26	田名瀬克也	中京大		田名瀬克也 安達　幹夫	中京大		横山志津子	中京大		横山志津子 小島　恵子	中京大	
57	27	田村　豊	中部工業大		水野　隆治 中野　正己	名城大		浜田みゆき	中京女子大		浜田みゆき 後藤もと子	中京女子大	
58	28	山本　章生	名城大	239	林　保長 山田比呂志	名古屋商科大	118	佐藤真理子	愛知淑徳短大	219	鶴田　明子 三橋　結実	中京大	119

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S59	29	玉田　智史	名城大	217	丸井　浩樹 井上　優	愛知学院大	109	清水多美子	名古屋市女短大	129	田原利江子 速水　一美	愛知教育大	73
60	30	細　智映	南山大	214	近藤　篤俊 水谷　哲也	名城大	106	池崎　聖子	名古屋市女短大	140	池崎　聖子 松田　美恵	名古屋市女短大	80
61	31	浜田　征明	名古屋大	208	田住　曜理 入江　俊行	中京大	98	安田美智子	中京女子大	157	安田美智子 宇佐美栄理	中京女子大	91
62	32	近藤　豊	名城大	197	磯貝　隆 曽川　祐二	名城大	90	大須賀由美	日本福祉大	145	伊藤　真理 白井裕理子	南山大	80
63	33	若井　泉	南山大	187	山口　龍作 山本　浩晃	名城大	86	彦坂　智子	愛知大	137	郡　美奈子 伊藤　寛美	中京女子大	75
H1	34	矢野　辰幸	名古屋商科大	211	高田　豊文 安藤　敏晃	名古屋大	103	浅倉　幸代	愛知教育大	159	浅倉　幸代 加藤　千里	愛知教育大	95
2	35	石田　猛	名古屋商科大	180	天野　貴仁 松島　貴胤	愛知大	80	三徳　栄	名古屋商科大	173	桜井　恭子 小林　真理	愛知淑徳大	99
3	36	米山　賢	愛知大	261	吉田　昌司 中川　雅之	愛知大	119	宇留賀きよ	愛知淑徳大	177	宇留賀きよ 宇留賀さよ	愛知淑徳大	104
4	37	朝倉　貴光	日本福祉大	250	新井　敏生 日野　克哉	南山大	121	村田　佳苗	愛知学院大	184	太郎良和美 伊藤実和子	愛知淑徳大	113
5	38	山本　信也	愛知大	289	竹中　智之 万城目貴之	名城大	132	下條　和泉	中京女子大	221	長尾　優 佐野三枝子	中京女子大	122
6	39	藤田　勝靖	名城大	290	海瀬　武道 小林　洋介	日本福祉大	136	植田　智恵	愛知大	206	大草由美子 植田　智恵	愛知大	114
7	40	三宮　健司	名城大	281	三宮　健司 藤田　亮	名城大	141	北村美智代	日本福祉大	192	沢島　るみ 伊藤　孝子	中京女子大	108
8	41	高來　大介	名城大	281	中村　彰宏 野村　耕平	愛知大	136	高味　志帆	愛知淑徳大	202	高味　志帆 伊藤　悠子	愛知淑徳大	105
9													

愛知県高等学校総合体育大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子団体		女子団体		男子単			男子複			女子単			女子複		
		チーム名	参	チーム名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参
S42	21	名電工高		高蔵女商		大村　真司	名電工高		早崎　国・岸　道寺	名電工高		中川　淑子	高蔵女商		柴田　明美 中川　淑子	高蔵女商	
43	22	名電工高		高蔵女商		寺倉　道雄	名電工高		富田　清仁 森川三津夫	名電工高		牧　節子	高蔵女商		牧　節子 杉本　美則	高蔵女商	
44	23	名電工高		高蔵女商		森川三津夫	名電工高		加藤　悟 森川三津夫	名電工高		早川　幸子	高蔵女商		早川　幸子 石川ちづ子	高蔵女商	
45	24	名電工高		名女商		加藤　保利	名電工高		加藤　保利 菱田　修光	名電工高		堀　正子	高蔵女商		堀　正子 鈴木　清香	高蔵女商	
46	25	名電工高		高蔵女商		青山　忠雄	名電工高		鈴木　宏寿 小林　明則	東海高		波多野美代子	高蔵女商		岩田由美子 波多野美代子	高蔵女商	
47	26	名電工高		守山女商		福井　寿夫	時習館高		井上　竜 梶田　和也	東海高		宝力　京子	守山女商		宝力　京子 迫田真由美	守山女商	
48	27	東海高		守山女商		梶田　和也	東海高		梶田　和也 柴田　琢也	東海高		水森みち子	守山女商		名河　良子 斉藤　郁子	時習館高	
49	28	名電工高		市邨高		田村　隆典	名電工高		谷川　雅夫 角田　卓也	中村高		西村恵以子	市邨高		横井　恵子 磯野　信子	市邨高	
50	29	名電工高		市邨高		日比野伸昭	名電工高		日比野伸昭 松村　昌	名電工高		守矢美登里	市邨高		高木　聖子 守矢美登里	市邨高	
51	30	時習館高		市邨高		松村　昌	名電工高		中野　正晴 石田　卓朗	時習館高		伊藤　多恵	淑徳高		清水　美鈴 後藤　恭子	時習館高	
52	31	東海高		淑徳高		近藤　祥夫	半田農高		大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高		伊藤　多恵	淑徳高		伊藤　多恵 青山美智子	淑徳高	
53	32	名電高		名女大高		林　久男	名電高		林　久男 藤原　成仁	名電高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
54	33	東海高		淑徳高		校條　和久	東海高		校條　和久 藤田　哲康	東海高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
55	34	東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		富田　俊二 松岡　秀男	名電高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
56	35	東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		富田　俊二 中村　昌司	名電高		光崎　祐子	淑徳高		光崎　祐子 佐藤真理子	淑徳高	
57	36	東海高		淑徳高		中島　義仁	東海高		中島　義仁 本田　秀明	東海高		近藤　晃代	淑徳高		近藤　晃代 中野　和美	淑徳高	
58	37	愛工大名電高	15	淑徳高	16	本田　秀明	東海高	64	本田　秀明 多和田秀保	東海高	64	中野　和美	淑徳高	64	中野　和美 近藤　晃代	淑徳高	64
59	38	愛工大名電高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	32	服部　慶・間瀬　敏秋	愛工大名電高	64	佐々木道子	淑徳高	32	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
60	39	愛工大名電高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	64	岡田　政朗 稲熊　滋訓	東海高	64	佐々木道子	淑徳高	64	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
61	40	岡崎城西高	14	淑徳高	16	田村　勝久	愛工大名電高	64	近藤　豊 石川　英彦	大府東高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	白谷　鈴子 恵木　清子	名女大高	64
62	41	岡崎城西高	14	淑徳高	16	稲葉　正行	半田東高	64	新宅　秀成 角田　敏洋	東海高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	64
63	42	岡崎城西高	14	佐屋高	16	加藤　寿彦	岡崎城西高	64	加藤　寿彦 大竹　達裕	岡崎城西高	64	林　矢須子	市邨高	64	林　矢須子 彦坂　知美	市邨高	64
H1	43	岡崎城西高	14	淑徳高	16	今野　淳	岡崎城西高	64	神山　紀雄 松島　貴胤	岡崎城西高	64	藤下　恭子	佐屋高	64	小林　真理 岸田　早苗	淑徳高	64
2	44	岡崎城西高	14	淑徳高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	渡辺　淳 尾野　信人	岡崎城西高	64	青木美代子	佐屋高	64	青木美代子 砂田ひかり	佐屋高	64
3	45	岡崎城西高	14	市邨高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	井鶴　寛興 花井　謙吉	岡崎城西高	64	二見　恭子	市邨高	64	下川　雅美 二見　恭子	市邨高	64
4	46	岡崎城西高	14	市邨高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	井鶴　寛興 清水　孝・	岡崎城西高	64	二見　恭子	市邨高	64	二見　恭子 中出　綾子	市邨高	64
5	47	岡崎城西高	15	淑徳高	16	鈴村　雅弘	岡崎城西高	64	鈴村　雅弘 安藤　健・	岡崎城西高	64	清水　礼子	淑徳高	64	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
6	48	岡崎城西高	15	淑徳高	16	清水　昭博	岡崎城西高	64	二反田貴幸 竹内　淳次	岡崎城西高	64	大山登茂枝	淑徳高	64	大山登茂枝 仁田原美樹	淑徳高	64
7	49	岡崎城西高	14	淑徳高	16	大島　康則	阿久比高	64	大館　武弘 西脇　康彦	岡崎城西高	64	下川　淳子	淑徳高	64	下川　淳子 高味　志帆	淑徳高	64
8	50	岡崎城西高	14	淑徳高	16	西脇　康彦	岡崎城西高	64	西脇　康彦 佐藤　圭・	岡崎城西高	64	岡部　亜衣	高蔵高	64	三宅　綾子 田島佳代子	淑徳高	64
9	51	東海高	14	淑徳高	16	久野　元嗣	岡崎城西高	64	久野　元嗣 佐藤　潤・	岡崎城西高	64	佐合　友麻	淑徳高	64	佐合　友麻 加藤　郁子	淑徳高	64

愛知県高等学校新人体育大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子団体		女子団体		男子単			男子複			女子単			女子複		
		チーム名	参	チーム名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参
S43		名電工高		高蔵女商					森川三津夫 加藤　悟	名電工高					石川ちづ子 早川　幸子	高蔵女商	
44		名電工高		高蔵女商					山田　清孝 桑原　由利	東海高					堀　正子 鈴木　清香	高蔵女商	
45		名電工高		高蔵女商					奥村　裕英 横井　靖一	名電工高					岩田由美子 山川	高蔵女商	
46		時習館高		守山女商					伊藤　睦彦 香村　司朗	名電工高					水谷加津美 杉山　敬子	高蔵女商	
47		名電工高		守山女商					佐治　悟 伊藤　清治	名電工高					小林　玲子 水森みち代	守山女商	
48		時習館高		市邨高					田村　隆典 桑名　達雄	名電工高					柏谷　典子 鈴木ゆみ子	時習館高	
49		名電工高		市邨高					日比野伸昭 福岡　滋之	名電工高					金子　容子 加藤麻利子	時習館高	
50		時習館高		市邨高					中西　康雄 河合　一樹	時習館高					後藤　恭子 清水　美鈴	時習館高	
51		時習館高		淑徳高					大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高					伊藤　多恵 青山美智子	淑徳高	
52		名電工高		市邨高					川崎　有恒 竹本　直彦	時習館高					今井　京子 柴田　道子	名女大高	
53		東海高		淑徳高					藤田　哲康 校條　和久	東海高					奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
54		東海高		淑徳高					竹原　雅之 野々部康宏	東海高					桜井　由美 角田　純子	市邨高	
55		東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		浅井　淳 中島　義仁	東海高		光崎　祐子	淑徳高		光崎　祐子 佐藤真理子	淑徳高	
56		東海高		淑徳高		中島　義仁	東海高		中島　義仁 長谷川和生	東海高		佐藤真理子	淑徳高		中野　和美 近藤　晃代	淑徳高	
57		東海高		淑徳高		本多　秀明	東海高		熊谷　直彦 本多　秀明	東海高		中野　和美	淑徳高		中野　和美 杉浦　清野	淑徳高	
58		愛工大名電高	15	淑徳高	16	服部　慶一	愛工大名電高		服部　慶一 間瀬　敏秋	愛工大名電高	64	佐々木道子	淑徳高		佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
59		東海高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	103	岡田　政朗 稲熊　滋訓	東海高	64	佐々木道子	淑徳高	146	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
60		大府東高	14	淑徳高	16	近藤　豊	大府東高	64	石川　英彦 近藤　豊	大府東高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	柴田　佳世 稲熊　康子	淑徳高	64
61		東海高	13	淑徳高	16	木下　和俊	岡崎城西	64	稲垣　道弘 執行　真道	阿久比高	64	稲熊　康子	淑徳高	65	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	64
62		岡崎城西高	14	市邨高	16	加藤　寿彦	岡崎城西高	64	木下　和俊 浅田　佳孝	岡崎城西高	64	林　矢須子	市邨高	64	林　矢須子 彦坂　知美	市邨高	64
63		岡崎城西高	14	淑徳高	16	鬼頭　幸裕	愛工大名電高	64	今野　淳 平松　勝	岡崎城西高	65	藤下　恭子	佐屋高	64	木下　幸子 原　香織	淑徳高	64
H1		岡崎城西高	14	市邨高	16	安井　紳二	新川高	64	日野　克哉 福原　達雄	横須賀高	64	青木美代子	佐屋高	64	青木美代子 砂田ひかり	佐屋高	65
2		岡崎城西高	14	佐屋高	16	井鳩　寛興	岡崎城西高	63	井鳩　寛興 花井　謙吉	岡崎城西高	65	二見　恭子	市邨高	64	下川　雅美 二見　恭子	市邨高	63
3		岡崎城西高	14	市邨高	16	井鳩　寛興	岡崎城西高	64	井鳩　寛興 鈴村　雅弘	岡崎城西高	65	佐藤　陽子	佐屋高	64	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
4		岡崎城西高	15	淑徳高	16	杉戸　聡之	東海高	63	鈴村　雅弘 安藤　健一	岡崎城西高	65	中出　綾子	市邨高	63	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
5		岡崎城西高	14	淑徳高	16	清水　昭博	岡崎城西高	61	二反田貴幸 竹内　淳次	岡崎城西高	65	大山登茂枝	淑徳高	62	大山登茂枝 下川　淳子	淑徳高	65
6		岡崎城西高	14	淑徳高	16	大島　康則	阿久比高	67	大館　武弘 西脇　康彦	岡崎城西高	64	下川　淳子	淑徳高	65	下川　淳子 高味　志帆	淑徳高	64
7		岡崎城西高	14	淑徳高	16	西脇　康彦	岡崎城西	67	西脇　康彦 佐藤　圭一	岡崎城西高	66	佐合　友麻	淑徳高	66	武田　祐佳 寺田　綾	市邨高	65
8		岡崎城西高	14	淑徳高	16	山田　隆将	東海高	64	久野　元嗣 早川　晃	岡崎城西高	64	川島亜紀子	淑徳高	64	岡部　亜衣 吉田佳奈実	高蔵高	64
9		天白高	14	大府高	16	茶谷　一平	天白高	66	新海　宏哲 安形　聖	岡崎城西高	65	本田　正恵	大府高	65	本田　正恵 柿田　鮎美	大府高	64

中日楯争奪愛知県新人大会

（参――参加数、複は組数） No.1

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S23	1				富田 武 森 広次								
26	5	立松 健市	松蔭高	40	上羽 家秀 岩月 真平	トヨタ自工	22	長谷川	名西	14	長谷川 水野	名西	6
	6	小池 鉱市	トヨタ自工	60	酒巻 和男 小池 鉱市	トヨタ自工	29	中西	名ク	17	山本 満子 吉永千代子	トヨタ自工	13
	7	貝本 暁	トヨタ自工	76	伊藤 鑛一 片桐 範	松蔭高	33	村手	名西	16	村手 渡辺	名西	13
34	15	須藤 博	愛知大	108	高橋 治清 深田	名城大学	39	高井	名女院	54	天野 高井	名女院	27
37	20	大石 勇	南山大学	52	大石 勇 鬼頭 輝夫	南山大学	23	丹羽	高蔵女商	45	村上 渡部	松蔭高	22
	21	勝田 照夫	トヨタ自工	123	多賀 靖之 勝田 照夫	トヨタ自工	50	西尾	名女院	76	高橋 永谷	端稜クラブ	
40	26	武田 正雄	豊田織機		小山 勇 武田 正雄	豊田織機		梶浦てる子	高蔵女子 商業高		梶浦てる子 田口美代子	高蔵女子 商業高	
	27	横山 智行	東海銀行		恒川 久雄 孕石 光華	南山大		松永 裕美	名女商高		吉田 和子 魚住 光子	金城大学	
41	28	水谷 峰夫	名電工高		水谷 峰夫 田中 伸治	名電工高		浅野寿美子	椙山高		渡辺てる子 増田 初子	高蔵女高	
	29	古川 直仁	豊田工機		平岩 文隆 市川 幸一	豊田工機		杉浦さち江	豊田東高		小川 礼子 徳原 道子	日本福祉大学	
42	30	井伊 恵治	豊田織機		井伊 恵治 清水 満夫	豊田織機		天野真理子	豊田東高		杉本 美則 牧 節子	高蔵女子 商業高	
	31	荒井 和夫	日本電装		平松 光雄 二瓶 清	富士製鐵		浜田美穂子	豊田紡績		名倉 玲 永田まり子	守山女商高	
43	32	浅野 人美	日本電装		野村 高義 二見 正夫	名商大学		辻田 京子	豊田織機		大橋美知子 辻田 京子	豊田織機	
	33	加藤 悟	名電工高		小野 耕作 正岡 洋二	豊田織機		庄司 絹子	名女商高		東 三智子 吉元ひとみ	時習館高	
44	34	新内 久	豊田織機		二川原勝義 新内 久	豊田織機		工藤美佐江	豊田織機		工藤美佐江 鈴木 葉子	豊田織機	
	35	小野 知洋	名古屋大学		菱田 修光 中村 悟	名電工高		大塚百合子	名女商高		大塚百合子 山田 和子	名女商高	
45	36	奥野 哲次	新日本製鐵		中橋 友行 小倉 和幸	三菱重工		鈴木美佐江	豊田東高		丸山 初江 丸山美由紀	時習館高	
	37												
46	38	宮本 正行	名古屋大学		宮本 正行 瀬古 幸久	名古屋大学		内田みつ子	名古屋鉄道		内田みつ子 河口 和子	名古屋鉄道	
	39	平野 博久	愛知県立大学		野口 譲 細川 敏之	名城大学		高村 恵子	愛教大学		高村 恵子 加藤由紀子	愛教大学	
47	40	浜中 千明	中京大学		浜中 千明 松井 智治	中京大学		林 慶子	日本電装		鈴木 伸枝 酒井 和江	豊田東高	
	41	竹田 勝彦	日本電装		山崎 実興 渡部 真生	名古屋大		広瀬 清子	愛知淑徳高		神谷 昌子 赤木 純子	名城大学	
48	42	石川 啓一	中京大学		飯村 順一 石川 啓一	中京大学		安藤 房子	名女大高		本田 浩子 安藤 房子	名女大高	
	43	城 保彦	日本電装		藤塚 正義 吉村 敏明	名城大学		安藤登美代	半田農高		鈴木ゆみ子 粕谷 典子	時習館高	
49	44	三浦 治	名城大学	198	三浦 治 水谷 登	名城大学	105	角 みどり	名古屋鉄道	158	角 みどり 小原 安子	名古屋鉄道	75
	45	横井 孝範	東海クラブ	299	桑原 由利 横井 孝範	東海クラブ	139	安田裕美子	名北クラブ	295	安田裕美子 片岡 マリ	名北クラブ	149
50	46	沢 昭夫	名古屋鉄道		宮津 邦晴 山田 敏勝	名北クラブ		貫薗妃美子	豊田織機		堀 房代 伊藤 多恵	愛知淑徳高	
	47	中口 直人	中京大学		高橋 英俊 西田 良彦	豊田工機		紅野 理栄	日立 旭		小森くに子 榊原さと子	インターバル	
51	48	川島 章稔	名城大学		天野 良彦 林 甚大	新日本製鐵		古瀬ミハル	名古屋鉄道		渡辺 栄子 古瀬ミハル	名古屋鉄道	
	49	山田 薫	瑞穂クラブ		田村 武満 岩井 正好	名古屋市役所		奥村真起子	瑞穂クラブ		浦部 享美 富田真由美	中村クラブ	

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S52	50	加藤　祐幸	中京大学		三原　清和 当山　哲司	中京大学		松原　香純	日本電装		梅村　直子 原田　樹子	名女大商高	
	51	榊原　健司	名古屋大学		杉山　純 後藤　信広	名古屋大学		加古　弘子	新日本製鐵		加古　弘子 安藤範理子	新日本製鐵	
53	52	西崎　佳行	愛工大学		佐野　利幸 西崎　佳行	愛工大学		水谷　昌代	日本電装		小田あさ子 加塩　淳子	日本電装	
	53	金今　郁彰	愛知製鋼		水谷　悦郎 大江喜久雄	電々東海		岡崎三生子	豊田紡織		伊藤みゆき 鈴木須賀代	中京大学	
54	54	北浦　重和	日本電装		毛利　光一 矢田　真悟	名城大学		片山りつ子	日本電装		片山りつ子 遠藤美枝子	日本電装	
	55	川合　弘之	名古屋大学		森川　勉 水越　修一	名古屋大学		吉田可奈子	新日本製鐵		山田　典子 佐々木弘子	中京女大学	
55	56	松田　仁	三菱重工		松田　仁 岩田　崇	三菱重工		野田　幸路	ソニー一宮		西村　優子 野田　幸路	ソニー一宮	
	57	門前　真紀	中村クラブ		上原　孝 星野　広志	瑞穂クラブ		大内山久美子	中村クラブ		位田　啓子 伊藤　伸子	YMCA	
56	58	神谷　道夫	名城大		西山　生悟 神谷　道夫	名城大		中村　真澄	山崎パン		中野 近藤	愛知淑徳高	
	59	南山　昌平	南山大		林　信宏 南山　昌平	南山大		松田由美子	三菱重工		松田由美子 濱　恵子	三菱重工	
57	60	内山　貞信	ソニー一宮		小島　浩義 竹重三八男	振甫クラブ		宮本美津子	日本電装		宮本美津子 佐名　美幸	日本電装	
	61	野村　俊夫	名古屋大		加藤　豪俊 大阪　哲嗣	豊田工機		佐々木道子	愛知淑徳高		佐々木道子 六郷　由香	愛知淑徳高	
58	62	疋田　博之	名城大	162	疋田　博之 大胡　満	名城大	103	元田　慶子	日本電装	84	宮本　忍 元田　慶子	日本電装	86
	63	東　正也	豊田工機		東　正也 小玉　匡伸	豊田工機		奥村　早苗	愛知淑徳高		金　綾子 桝家由加里	豊田紡績	
59	64	大谷部清二	電装安城	168	森地　正一 水谷　哲也	名城大	95	今井　貴子	ソニー一宮	84	今井　貴子 名和知江子	ソニー一宮	80
	65	永田　実	豊田工機	191	永田　実 内山　政典	豊田工機	105	花野　清美	愛知淑徳高	157	天野公予美 速水　一美	愛教大	95
60	66	福冨　達也	丸ノ内クラブ	168	今枝　靖典 上松　正和	名古屋大	100	倉田　靖子	ソニー一宮	83	西口　美鈴 倉田　靖子	ソニー一宮	81
	67	安藤　修	名古屋大	138	武藤　武敏 荻須　雅俊	貴船クラブ	87	木佐貫正子	CucKooB・F	83	田中　勝子 野中恵美子	名古屋家婦連	72
61	68	宮竹　靖	豊橋技科大	93	原　賢一 清水　弘幸	丸ノ内クラブ	75	後藤　和子	ソニー一宮	68			87
	69	友田　裕志	豊田工機	137	野村　幸信 平下　茂史	豊田合成	86	加藤　佳美	佐屋高	61	伴　由紀子 葛谷　実穂	愛知淑徳高	78
62	70	岡本哲哉	ACEクラブ	105	鈴木　敏之 植木　信秀	名古屋大	69	早川美奈子	佐屋高	83	菊地　寿美 菊地　利佳	横須賀クラブ	91
	71	古田　高	瑞穂クラブ	106	新井　直人 茂谷　誠	黄金クラブ	80	藤下　恭子	佐屋高	72	菊地　寿枝 新屋　智子	県スポーツ	94
63	72	菊池　勲	アイシン精機	106	白井　仁人 成瀬　幸宏	名古屋大	67	鈴木智恵子	アイシン精機	100	紀平あき子 鈴木智恵子	アイシン精機	102
	73	吉田　努	住友重機械	96	柳生　真康 波多野徳明	小牧BC	63	堀口　玲奈	愛知淑徳中学	69	松本江里子 田中　陽子	岡崎家婦連	73
H1	74	竹内　義和	中川シャトル	88	田住　曜理 永井　優	東海興業	59	水野　裕子	名古屋鉄道	64	大宅　友里 深谷　恵美	佐屋高	75
	75	北原　朋幸	名古屋大	117	宍戸　秀郎 中山　剛速	ウィスタリア	59	加藤　千里	愛教大	59	土本久美子 加藤　千里	愛教大	65
2	76	木下　耕一	NTT東海	80	後藤　吉広 角藤　利明	トヨタ車体	65	中水流由美	佐屋高	81	中水流由美 高松加代子	佐屋高	113
	77	荒島　基	堤BC	126	鈴木　章弘 森田　信二	東海興業	81	佐藤　陽子	佐屋高	93	土柿　清巳 三ツ石るみ子	東海シャトルズ	109
3	78	加藤　洋充	愛教大	82	木村　政則 星原　淳一	日本福祉大	53	野田　千鶴	名造形短大	92	野田　千鶴 稲垣　晴美	名造形短大 CucKoo愛知	153
	79	丸下　貴弘	名古屋大	130	前新　裕史 日野　克哉	南山大	78	大村　泉	市邨学園高	114	大村　泉 中出　綾子	市邨学園高	108

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S4	80	田上　富章	愛工大名電高	120	松浦　貴嘉 谷口　博昭	東海興業	79	鈴木　冬子	愛知淑徳高	80	清水　礼子 恒川　紺代	愛知淑徳高	100
	81	山下　陽道	中京大	122	上枝　伸 宮下　一紀	新日本製鐵	93	植田　智恵	大府高	137	小林　真理 太郎良和美	愛知淑徳高	139
5	82	町田　英之	東海クラブ	118	溝上　謙一 藤原　尚一	名北クラブ	86	下川　淳子	愛知淑徳高	124	島津　智恵 広瀬　晴恵	佐屋高	99
	83	賢生　和隆	阿久比高	162	小堂　照久 藤野　博和	ＲＨＢＴ	119	飯島　直美	大府高	136	近藤　恭子 井上　久美	中京女大	121
6	84	青木　啓祐	名古屋市役所	179	米本　勝如 島津江浩之	三菱自工岡崎	105	野地　香苗	愛知淑徳高	81	野地　香苗 伊藤　悠子	愛知淑徳高	89
	85	市井　爾郎	名工大	162	河合信一郎 中西　崇真	東海興業	125	玉田　恵美	大府高	115	奥村　昌子 武田　祐佳	市邨学園高	117
7	86	中村　亮二	愛知大学	156	中村　亮二 鈴木　貞則	愛知大学	107	佐合　友麻	愛知淑徳高	87	三宅　綾子 田島佳代子	愛知淑徳高	115
	87	稲垣　翔悟	石尾台中学	149	木村　拓哉 鍋割　英雄	トヨタ車体	101	杉山　有希	佐屋高	97	杉山　有希 松田　美紀	佐屋高	100
8	88	出久地健太	名工大	189	宮嶋　宣明 神谷　仁士	愛工大	116	加藤　邦子	淑徳高	49	水越　千春 池崎　聖子	大和撫子倶楽部 モンテカルロ	108
	89	篠原　　彰	名大	173	杉本　雅人 篠原　彰	名大	96	長坂　　文	大府高	108	長坂　　文 柿田　鮎美	大府高	107
9	90	川村　幸司	アラコ	148	川村　幸司 明利　貴	アラコ	89	田内真記子	愛知淑徳高	73	水野　良子 山田　節子	小牧家婦連	148
	91	茶谷　一平	天白高	160	平尾　昌也 柳田　順一	東海興業	92	本田　正恵	大府高	73	野田智津子 小田真由美	大府高	63

サンバタ杯争奪愛知県オープン競技大会

（参――参加数）

年度	回	男子			女子			年度	回	男子			女子		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参			選手名	所属	参	選手名	所属	参
S54	1	近藤　祥夫	名城大		片山りつ子	日本電装		S57	4	六川　和康	豊田工機		関矢　亮子	日本電装	
55	2	高橋　政勝	豊田織機		光崎　祐子	愛知淑徳高		58	5	芋塚　紳二	ファイヤーバード		稲熊　康子	愛知淑徳中学	
56	3	新田　正喜	ＢＳモリタ		西塚千恵子	豊田織機		59	6	東　　正也	豊田工機	24	伊藤　千恵	愛知淑徳高	39

愛知県実業団選手権大会

男子1部～8部

※各部入替戦後の最終決定の順位も含む　　（参――参加数）　No.1

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	7部	8部	
S36	3	ﾄﾖﾀ自工								
37	4	新三菱自								
39	6	トヨタ自工	名古屋鉄道	トヨタ技能養成所	国鉄豊橋機関区					21
40	7	トヨタ自工	豊田織機	家庭裁判所	中立電気					26
41	8	トヨタ自工	三菱電機名古屋	中部電力A	愛知製鋼	キリンビール名古屋				30
42	9	トヨタ自工	名古屋市役所A	トヨタ技能	名古屋国税局	大信紡績				32
43	10	名古屋鉄道	東海銀行	ブラザー工業	家庭裁判所	豊田紡績	大信紡績			39
44	11	名古屋鉄道	東洋レーヨン	名古屋市役所A	豊田織機B	愛知製鋼	豊田紡績	大信紡績		45
45	12	トヨタ自工	豊田工機A	東レ名古屋	豊田織機B	名古屋国税局	中部電力B	住友化学B		43
46	13	トヨタ自工	名古屋市役所A	ブラザー工業	八州商事	トヨタ同好会	電々東海			35
	14	日本電装	名古屋市役所A	八州商事	トヨタ同好会	三菱重工岩塚	名古屋市役所B	名工大職員		39
47	15	トヨタ自工	名古屋市役所A	トヨタ同好会	住友化学A	東海電気通信局A	三菱電機　稲沢	豊田通商		38
	16	トヨタ自工A	名古屋市役所A	新日鐵名古屋B	電々東海A	三菱電機　稲沢	岩倉市体協	シノブ	トヨタ自工B	48
48	17	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	電々東海A	豊田工機B	岩倉市体協	大同製鋼A	トヨタ自工B	南山クラブ	52
	18	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	三菱電機名古屋A	豊田織機B	大同製鋼A	桜山クラブ	南山クラブ	日本電装　西尾	50
49	19	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	三菱重工　岩塚	大同製鋼	桜山クラブ	トヨタ自工B	日本電装　西尾	熱田クラブ	62
	20	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	大同製鋼A	桜山クラブ	トヨタ自工B	アイシン精機	東海クラブ	試作同好会	69
50	21	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	桜山クラブ	トヨタ自工B	南山クラブ	日本電装　西尾	熱田クラブA	名北クラブ	62
	22	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	トヨタ自工B	小島プレス	アイシン精機	東海クラブ	名北クラブ	中部電力	73
51	23	トヨタ自工A	トヨタ自工B	豊田工機B	アイシン精機	電々東海B	豊田合成A	岡谷鋼機	日立　旭	48
	24	トヨタ自工A	トヨタ自工B	新日鐵名古屋B	日本電装西尾A	中部電力A	ユニチカ岡崎	トヨタ自販	日本電装西尾B	54
52	25	トヨタ自工A	トヨタ自工B	三菱重工岩塚A	中部電力A	電々東海B	トヨタ自販	三菱重工岩塚B	日本電装　安城	57
	26	トヨタ自工A	名古屋市役所A	大同特殊鋼A	ブラザー工業	トヨタ自販	岡谷鋼機	日本電装　安城	名工大職員	57
53	27	トヨタ自工A	日本電装	中部電力A	電々東海B	豊田織機B	愛知製鋼	住友重機械A	十条製紙	60
	28	トヨタ自工A	豊田織機A	大同特殊鋼A	トヨタ自販	愛知製鋼	住友重機械A	三菱自工	伊奈製陶	60
54	29	トヨタ自工A	日本電装	中部電力A	豊田織機B	日本電装　安城	名工大職員	日立　旭	中部電力B	58
	30	トヨタ自工A	三菱重工名古屋	豊田織機B	日本電装　安城	三菱重工　大幸	三菱自工名古屋	伊奈製陶	高丘工業	58
55	31	トヨタ自工A	日本電装	新日鐵名古屋B	三菱重工名古屋B	名工大職員	豊田合成A	名古屋市役所B	ソニー一宮	62
	32	トヨタ自工A	三菱重工名古屋A	豊田工機	日本電装西尾A	住友重機械A	三菱電機　稲沢	ソニー一宮	日本電装西尾B	59
56	33	トヨタ自工A	名古屋鉄道	三菱重工名古屋B	住友重機械A	名工大職員	ソニー一宮	日本電装西尾B	愛三工業	64
	34	トヨタ自工A	豊田工機A	大同特殊鋼A	中部電力A	ソニー一宮	住友アルミ	愛三工業	電々東海　40	66
57	35	トヨタ自工A	新日鐵名古屋A	住友重機械A	ソニー一宮	三菱自工名古屋(A)	愛三工業	電々東海　40	王子製紙A	64
	36	トヨタ自動車A	三菱重工名古屋A	大同特殊鋼A	愛知製鋼	三菱電機　稲沢	電々東海　40	王子製紙A	トヨタ車体	66
58	37	トヨタ自動車A	日本電装	住友重機械A	アイシン精機A	愛三工業A	電々東海B	トヨタ車体	三菱自工　岡崎	70
	38	トヨタ自動車A	名古屋鉄道	愛知製鋼	愛知県庁	ブラザー工業A	トヨタ車体	三菱自工　岡崎	豊田工機B	70
59	39	トヨタ自動車A	電々東海A	大同特殊鋼A	中部電力A	トヨタ車体	豊田工機B	豊田織機長草A	神鋼　豊橋	73
	40	トヨタ自動車A	日本電装A	ソニー一宮	名古屋市役所A	中部電力A	豊田合成A	豊田工機B	豊田織機　高浜	71
60	41	トヨタ自動車A	新日鐵名古屋A	日本電装西尾A	トヨタ車体	豊田工機B	三菱電機　名古屋	豊田織機　高浜	名鉄　住商	72
	42	トヨタ自動車A	名古屋鉄道	トヨタ車体	ブラザー工業	三菱電機　名古屋	豊田織機長草A	名鉄　住商	名古屋市役所B	70
61	43	トヨタ自動車	三菱重工名古屋A	豊田織機B	中部電力A	豊田合成A	豊田織機　高浜	神鋼　豊橋	日本電装B	71
	44	豊田工機A	名古屋鉄道	住友重機械A	豊田工機B	アイシン精機A	王子製紙春日井A	日本電装B	日本ユニバック	67
62	45	トヨタ自動車	豊田織機B	三菱重工名航A	豊田合成A	三菱自工名古屋A	日本電装B	大同特殊鋼B	豊田通商	67
	46	トヨタ自動車	NTT東海A	豊田工機B	愛知製鋼	日本電装B	三菱自工　岡崎	豊田織機長草A	東海理化	68
63	47	トヨタ自動車	豊田工機B	住友重機械A	大同特殊鋼A	三菱自工　岡崎	大同特殊鋼B	東海理化	日本電装西尾B	68
	48	トヨタ自動車	住友重機械A	名古屋市役所A	日本電装B	アイシン精機A	愛三工業	豊田通商	東海興業	66
H1	49	トヨタ自動車	NTT東海A	三菱重工名航A	アイシン精機A	王子製紙A	豊田通商	東海興業	東海郵政	66
	50	豊田工機A	トヨタ車体	アイシン精機A	愛知製鋼	豊田通商	東海興業	東海郵政	三菱レイヨン豊橋	65
2	51	トヨタ自動車	アイシン精機A	愛知製鋼	三菱自工　岡崎A	東海興業	東海郵政	三菱重工名機	住友重機械B	65
	52	トヨタ自動車	名古屋鉄道	名古屋市役所A	東海興業	中部電力A	三菱重工名機	三菱電機名古屋	名古屋市水道局	66

男子1部～8部

（参――参加数）NO.2

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	参
H3	53	トヨタ自動車	豊田織機	東海興業A	豊田合成A	三菱重工名機	豊田織機　高浜	NTT東海B	日本ユニシス中部	66
	54	トヨタ自動車	東海興業A	日本電装	日本電装西尾A	東海郵政	新日鐵名古屋B	名古屋市水道局	東海興業B	66
4	55	トヨタ自動車	新日鐵名古屋A	日本電装西尾A	ソニー一宮	大同特殊鋼	神鋼　豊橋	東海興業B	イナックス	66
	56	トヨタ自動車	名古屋鉄道	豊田合成A	三菱重工エア製A	愛知県庁	東海興業B	三菱レーヨン豊橋	三菱自工岡崎B	65
5	57	豊田工機A	アイシン精機	三菱自工岡崎A	東海郵政A	東海興業B	豊田織機　長草	三菱自工岡崎B	日立旭	63
	58	豊田工機A	トヨタ自動車	日本電装	東海興業B	豊田織機　長草A	愛三工業	NTT東海B	東海興業C	66
6	59	豊田工機A	新日鐵名古屋A	東海興業A	中部電力A	大同特殊鋼A	三菱自工岡崎B	日立旭	新王子製紙B	67
	60	トヨタ自動車	東海興業B	三菱自工岡崎A	三菱重工名航A	豊田織機　長草A	住友重機械	東海興業C	名鉄　住商	68
7	61	トヨタ自動車	トヨタ車体A	東海郵政A	大同特殊鋼A	愛知県庁	豊田通商	名古屋市役所B	名工大職員	66
	62	豊田工機	名古屋鉄道	名古屋市役所A	愛知県庁	愛知製鋼A	名古屋市役所B	トーメーテクノロジー	大同特殊鋼B	68
8	63	東海興業B	アイシン精機	中部電力A	豊田織機　長草A	三菱自工岡崎B	愛三工業	日立旭	中部電力	66
	64	東海興業B	トヨタ車体	東海郵政A	三菱重工名航A	愛三工業	三菱電機名古屋	大同特殊鋼B	中部電力B	66
9	65	東海興業A	名古屋鉄道	中部電力A	愛知製鋼A	王子製紙A	住友重機械	名工大職員	アラコ	66
	66	トヨタ自動車	豊田合成A	三菱自工岡崎A	NTT東海A	デンソー西尾	日立旭	アラコ	松下電工瀬戸	67

男子9部～12部

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	参
S48	18	試作同好会	名古屋観光ホテル			50
49	19	名古屋観光ホテル	名北クラブ			62
	20	名北クラブ	中部電力	瑞穂クラブ		69
50	21	中部電力	名大クラブ			62
	22	名大クラブ	トヨタ自販	岡谷鋼機	愛教大クラブ	73
51	23					48
	24	三菱自工				54
52	25	名工大職員				57
	26	十条製紙				57
53	27	伊奈製陶器	住友アルミB			60
	28	電々東海D	高丘工業			60
54	29	高丘工業	ソニー一宮			58
	30	ソニー一宮	愛三工業			58
55	31	王子製紙	三菱重工名古屋D			62
	32	愛三工業	電々東海40			59
56	33	電々東海40	神鋼　豊橋	三和化学		64
	34	出光　愛知	トヨタ車体	豊田工機B		66
57	35	トヨタ車体	三菱重工名古屋B	王子製紙B		64
	36	三菱自工岡崎	豊田工機B	豊和工業	瀧上工業	66
58	37	豊田工機B	豊和工業	アイシン化工	瀧上工業	70
	38	豊田織機　高浜	アイシン化工	日本ユニバック	住友商事	70
59	39	神鋼　豊橋	王子製紙B	住友商事	ブラザー工業B	73
	40	豊和工業	三菱自工名古屋B	日本電装B	三菱重工名航B	71
60	41	日本ユニバック名古屋	日本電装B	ブラザー工業B	東海理化	72
	42	日本電装B	瀧上工業	東海理化	東海郵政	70

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	参
S61	43	伊藤忠砂糖	中部電力B	東海郵政	アイシン精機B	71
	44	王子製紙春日井B	東海理化	アイシン精機B		67
62	45	東海理化	アイシン精機B	東海興業		67
	46	三菱重工名古屋B	東海興業	三菱レイヨン豊橋		68
63	47	東海興業	東海郵政	三菱重工名航B		68
	48	東海郵政	三菱レイヨン豊橋	豊田織機長草B		66
H1	49	三菱レイヨン豊橋	トーメー産業	名古屋市水道局		66
	50	住友重機械B	名古屋市水道局	三菱重工エア製B		65
2	51	名古屋市水道局	三菱重工名航B	東海興業B		65
	52	トーメー産業	東海興業B	三菱自工岡崎B		66
3	53	東海興業B	三菱自工岡崎B	中部電力C		66
	54	イナックス	中部火力	三菱重工名航C		66
4	55	三菱自工岡崎B	日立旭	東海興業C		66
	56	日立旭	東海興業C	三菱重工名機B		65
5	57	東海興業C	アイシン化工	豊田合成B		63
	58	トーメーテクノロジー	総　研	大同特殊鋼B		66
6	59	中電火力	大同特殊鋼B	トヨタ車体B		67
	60	名工大職員	トヨタ車体B	豊田織機長草C		68
7	61	トヨタ車体B	中部電力B	アラコ		66
	62	中部電力B	アイシン化工	松下電工瀬戸		68
8	63	アイシン化工	アラコ	豊田紡織		66
	64	アラコ	松下電工瀬戸	豊田織機長草B		66
9	65	松下電工瀬戸	東海郵政B	豊和工業		66
	66	王子製紙B	豊田織機長草C	三菱重工名航B		67

女子

（参——参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	参
S36	3	トヨタ自工					
37	4	三菱電機					
39	6	トヨタ自工	中部電力				9
40	7	トヨタ自工	愛知県庁				11
41	8	トヨタ自工	名古屋市役所				11
42	9	トヨタ自工	東海銀行				14
43	10	トヨタ自工	豊田紡織				15
44	11	トヨタ自工	名古屋国税局	中立電機			18
45	12	豊田織機	中部電力	豊田工機			18
46	13	豊田織機	アイシン精機	名古屋鉄道			15
	14	トヨタ自工	名古屋鉄道	豊田織機B			18
47	15	トヨタ自工	豊田紡織	豊田通商			16
	16	豊田織機	豊田通商	教室クラブ			18
48	17	日本電装	新日鉄名古屋	名古屋市役所			20
	18	トヨタ自工	名古屋市役所	桜山クラブ	日本電装西尾		26
49	19	トヨタ自工	新日鉄名古屋	日本電装西尾	熱田クラブ		28
	20	トヨタ自工	桜山クラブ	豊田紡織	名北クラブ	名古屋国税局	31
50	21	トヨタ自工	豊田織機	名北クラブ	三菱重工岩塚A	愛知製鋼	29
	22	トヨタ自工	豊田紡織	名古屋市役所	熱田クラブB	豊田合成	35
51	23	トヨタ自工	新日鉄名古屋	プラザー工業	豊田合成		26
	24	トヨタ自工	電々東海A	豊田合成	三菱自工		26
52	25	トヨタ自工	三菱重工岩塚A	大同特殊鋼	豊田紡織		27
	26	トヨタ自工	愛知製鋼	豊田紡織	三菱重工岩塚A		26
53	27	トヨタ自工	豊田通商	日本電装安城			19
	28	トヨタ自工	新日鉄名古屋	豊田工機			21
54	29	トヨタ自工	豊田工機	大同特殊鋼	トヨタ自販		22
	30	日本電装	豊田通商	トヨタ自販			17
55	31	日本電装	豊田紡織	ソニー一宮			24
	32	トヨタ自工	ソニー一宮	三菱重工名古屋	大同特殊鋼		19
56	33	日本電装	豊田通商	大同特殊鋼	日本電装西尾		20
	34	日本電装	三菱重工名古屋	日本電装西尾			20
57	35	日本電装	豊田紡織	三菱電機稲沢			20
	36	日本電装	ソニー一宮	豊田工機			22

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
S58	37	トヨタ自動車	豊田通商	トヨタ車体	豊田合成	21
	38	日本電装	新日鉄名古屋	豊田合成	豊田工機B	22
59	39	日本電装	ソニー一宮	愛知製鋼	天野製薬	23
	40	日本電装	名古屋鉄道	電々東海	住友重機	22
60	41	日本電装	トヨタ車体	豊田工機B	東海理化	25
	42	日本電装	名古屋鉄道	東海理化	名古屋市役所	22
61	43	日本電装	トヨタ車体	名古屋市役所	アイシン精機	22
	44	日本電装	豊田紡織	アイシン精機	愛知製鋼	22
62	45	日本電装	名古屋鉄道	愛知製鋼	日本電装西尾	21
	46	日本電装	豊田工機	名古屋市役所		20
63	47	日本電装	アイシン精機	東海理化		19
	48	日本電装	名古屋鉄道	新日鉄名古屋		18
H1	49	日本電装	豊田通商	東海興業		18
	50	トヨタ自動車	名古屋鉄道	住友重機械		17
2	51	トヨタ自動車	豊田工機	豊田織機長草		18
	52	日本電装	名古屋鉄道	中部電力		17
3	53	トヨタ自動車	豊田工機	愛知製鋼		15
	54	トヨタ自動車	名古屋鉄道	名古屋市役所		16
4	55	トヨタ自動車	トヨタ車体	愛知製鋼		18
	56	日本電装	名古屋鉄道	新日鉄名古屋		18
5	57	トヨタ自動車	豊田通商	NTT東海		18
	58	トヨタ自動車	豊田合成	愛知製鋼		16
6	59	トヨタ自動車	東海興業	大同特殊鋼		17
	60	豊田通商	豊田織機	名古屋市役所		15
7	61	日本電装	豊田合成	大同特殊鋼		16
	62	日本電装	東海興業	NTT東海		15
8	63	日本電装	名古屋鉄道			13
	64	デンソー	大同特殊鋼			13
9	65	デンソー	名古屋鉄道			13
	66	トヨタ自動車	松下電工瀬戸			12

愛知県クラブチーム対抗選手権大会　リーグ戦

男子1部～8部

（参 ― 参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	7部	8部	参
S51	1	豊田バド同好会	名北クラブ	名大クラブ	名城クラブ					21
	2	桜山クラブ	瑞穂クラブ	名城クラブ	蒲郡クラブ					24
52	3	モンテカルロクラブ	名城クラブ	中村クラブ	瀬戸クラブ					23
	4	RS NONAKA	東海クラブA	振甫クラブA	岡崎クラブ					24
53	5	名城クラブ	中村クラブA	TAVクラブA	豊田憩の家					27
	6	RSノナカ	岩倉市体協	YMCA B	ウィスタリアクラブ					23
54	7	RSノナカ	名北クラブA	ウィスタリアクラブ	東海クラブB	葵コックスA				25
	8	RSノナカ	東海クラブA	知多市体協	葵コックスA	振甫クラブ				27
55	9	RSノナカ	中村クラブA	葵コックスA	振甫クラブ	ハネツキ会				26
	10	RSノナカ	葵コックスA	フェニックスBC	ハネツキ会	TOMIY.B.C				28
56	11	RSノナカA	BSモリタ	ハネツキ会	TOMIY.B.C	南知多クラブ				31
	12	RSノナカA	名北クラブA	振甫クラブA	バイレーツクラブ	PHOENIXBC				28
57	13	RSノナカA	東海クラブA	コックメイトクラブ	ひいらぎクラブA	SPシャトル	第3日曜クラブ			36
	14	RSノナカA	中村クラブA	ハネツキ会	RSノナカB	第3日曜クラブ	中村クラブB			36
58	15	BSモリタ	東海クラブA	黄金クラブA	TOMIY.B.C	Fire Bird	丸の内クラブ	黄金クラブB		38
	16	RSノナカA	名北クラブA	ハネツキ会	Fire Bird	ラケットメイトクラブ	キフネクラブ	州原コスモス		43
59	17	BSモリタ	ハネツキ会	Fire Bird	Phoenix BC	貴船クラブA	中村クラブB	瑞穂クラブB	MUO BC	53
	18	RSノナカA	名城クラブ	中村クラブA	貴船クラブA	丸の内クラブ	瑞穂クラブB	貴船クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	51
60	19	BSモリタ	振甫クラブA	ヤマノウチクラブ	丸の内クラブ	RSノナカB	貴船クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	小牧BC A	67
	20	瑞穂クラブA	ヤマノウチクラブ	ウィスタリアクラブA	SPシャトル	瑞穂クラブB	RHﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾁｰﾑA	MUO BC	コスモスBC	70
61	21	RSノナカA	BSモリタ	不老クラブ	愛知クラブ	R.H.B.T A	振甫クラブB	小牧BC A	ウィスタリアクラブB	74
	22	BSモリタ	名北クラブA	コックメイトクラブ	瑞穂クラブB	LASREクラブ	中川シャトルA	コスモスBC	小牧BC B	79
62	23	BSモリタ	東海クラブA	貴船クラブA	R.H.B.T A	ラケットメイトクラブA	岩倉パラレルA	横須賀クラブA	トヨタ田原BC	80
	24	BSモリタ	ACEスポーツ	ウィスタリアクラブA	LASREクラブ	中川シャトルA	コスモスBC	トヨタ田原BC	R.H.B.T B	81

男子9部～14部

（参―参加数）

年度	回	9部	10部	11部	12部	13部	14部	参
S59	17	西春クラブ						53
	18	小牧BCA	コスモスBC					51
60	19	コスモスBC	ウィスタリアクラブB	がれーじクラブ	トヨタ田原BC			67
	20	師勝BCA	がれーじクラブ	トヨタ田原BC	岡崎ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝｸﾗﾌﾞ			70
61	21	ガレージクラブ	トヨタ田原BC	岡崎BC	ワイルドキャッツ	BCスプリッツ		74
	22	トヨタ田原BC	岡崎BC	南BC A	BCスプリッツ	JOCK		79
62	23	グリーンクラブA	堤BC	BCスプリッツ	JOCK	中村クラブC	横須賀クラブB	80
	24	豊明BC	BCスプリッツ	JOCK	天白シャトルA	Wing	天白シャトルB	81

男子1部～4部D

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部 A	3 部 B	4 部 A	4 部 B	4 部 C	4 部 D	参
S63	25	BSモリタ	不老クラブ	瑞穂クラブB	ハネツキ会	横須賀クラブA	川鉄クラブ	ウィスタリアクラブB	貴船クラブB	82
	26	BSモリタ	ACEスポーツ	R.H.B.T A	中村クラブA	中川シャトルA	ラッケトメイトA	BCスピリッツ	大門BC	82
H1	27	BSモリタ	東海クラブA	振甫クラブA	大門BC	横須賀クラブA	貴船クラブB	小牧BC A	トヨタ田原BC	93
	28	BSモリタ	名北クラブA	ウィスタリアクラブA	BCスピリッツ	名北クラブB	LASREクラブ	丸の内CBF	Tomiy BC	91
2	29	BSモリタ	不老クラブ	大門BC	振甫BC A	ラケットメイトA	トヨタ田原BC	ひいらぎBC	黄金クラブA	91
	30	BSモリタ	東海クラブA	Cuc Koo 愛知	ひいらぎBC	LASREクラブ	豊明BC	横須賀クラブA	JOCk	91
3	31	東海クラブA	ひいらぎBC	ウィスタリアA	黄金クラブA	東海シャトルズA	岩倉パラレルA	瑞穂クラブB	貴船BC B	95
	32	東海クラブA	RSノナカ	貴船BC A	Fire Bird	名北クラブB	トヨタ田原BC	紫電会	生麦生米生卵	100
4	33	東海クラブA	名北クラブA	R.H.B.T A	紫電会	Cuc Koo 愛知	豊明BC	貴船BC B	シャトルまかせ	101
	34	東海クラブA	紫電会	生麦生米生卵	瑞穂クラブA	東海クラブB	横須賀クラブA	ハネツキ会	名北クラブB	102
5	35	東海クラブA	BSモリタ	貴船BC A	Fire Bird	岩倉パラレルA	シャトルメイツA	瑞穂クラブB	堤BC	105
	36	東海クラブA	名北クラブA	生麦生米生卵	コックメイト	貴船BC B	RSノナカA	パープルBP A	Cuc Koo 愛知	107
6	37	東海クラブA	ひいらぎBC	シャトルまかせA	東海クラブB	GOLD	はり-あっぷA	振甫BC A	パイレーツA	113
	38	紫電会	BSモリタ	はり-あっぷA	大門BC	Wing BC	横須賀クラブA	貴船BC B	Cuc Koo 愛知	116
7	39	東海クラブA	はり-あっぷA	Fire Bird	R.H.B.T A	アイシンAW	パープルBP A	ハネツキ会	生麦生米生卵	125
	40	はり-あっぷA	不老クラブ	パイレーツA	貴船BC A	Cuc Koo 愛知	PANIC A	LASREクラブ	岩倉パラレルA	128
8	41	はり-あっぷA	フライトスポーツ	ウィスタリアA	振甫BC A	横須賀クラブA	コックメイト	アイシンAW	はり-あっぷB	131
	42	紫電会	ひいらぎBC	ハネツキ会	シャトルまかせA	グリーンクラブA	RSノナカA	木曽川エース	PANIC A	133
9	43	紫電会	フライトスポーツ	R.H.B.T A	貴船BC A	東海シャトルズA	堤BC A	はり-あっぷB	呉越同舟クラブ	128
	44	紫電会	ひいらぎBC	はり-あっぷB	ウィスタリアA	大和撫子倶楽部	Fire Bird	ウィスタリアB	横須賀クラブA	123

男子5部A～6部D

（参――参加数）

年度	回	5 部 A	5 部 B	5 部 C	5 部 D	6 部 A	6 部 B	6 部 C	6 部 D	参
S63	25	大門BC	南BC A	BCスピリッツ	黄金クラブB	高蔵クラブ	ラケットメイトD			82
	26	矢田SC	西春クラブ	グリーンクラブA	JOCK	中村クラブC	呉越同舟クラブ			82
H1	27	がれ-じクラブ	名港クラブA	堤BC	東海クラブB	みちくさクラブ	小牧BC C	シャトルまかせ	上前津クラブ	93
	28	黄金クラブB	西春クラブA	小牧BC B	みちくさ	天白シャトルB	TEIHO A	振甫BC C	東海シャトルズA	91
2	29	シャトルメイツ	東海シャトルズ	シャトルまかせ	呉越同舟クラブ	貴船BC C	横須賀クラブB	JUPITER	TEIHO B	91
	30	上前津クラブ	Wing BC	TEIHO	小牧BC B	岩倉パラレルB	生麦生米生卵	紫電会	パイレーツクラブB	91
3	31	シャトルメイツ	パイレーツA	紫電会	生麦生米生卵	師勝BC B	テイスティモ	うつみ	名北クラブC	95
	32	貴船BC C	フリープレーBC	名港クラブA	JUPITER	シャトルまかせB	ブンブンズ	WESTWING	パープルBP	100
4	33	TOMIY BC	がれ-じクラブ	パープルBP	ハネツキ会	岩倉パラレルB	ラケットメイトC	R.H.B.T C	ウィスタリアC	101
	34	Wing BC	岩倉パラレルB	WESTWING	ウィスタリアC	ラケットメイトB	天白シャトルA	小牧BC B	黄金クラブC	102
5	35	名港クラブA	PANIC A	名北クラブC	愛大クラブ	ポリマーズ	GOLD	はり-あっぷA	笈瀬BC A	105
	36	パイレーツA	はり-あっぷA	東海シャトルズ	GOLD	高蔵クラブ	ラケットメイトD	JUPITER B	黄金クラブB	107
6	37	グリーンクラブA	横須賀クラブB	振甫BC B	天白シャトルA	岐大BC	笈瀬BC A	はり-あっぷB	スペースシャトル	113
	38	貴船BC C	フレスカA	岩倉パラレルB	はり-あっぷB	シャトルメイツB	小牧BC B	東海クラブC	ウィスタリアD	116
7	39	スペースシャトル	東海クラブC	愛大クラブ	ポリマーズA	小牧BC A	JUPITER B	BULLDOG	セトミントンA	125
	40	黄金クラブA	名北クラブC	JUPITER B	ウィスタリアD	振甫BC C	パイレーツB	大和撫子倶楽部	木曽川エース	128
8	41	シャトルメイツB	グリーンクラブA	セトミントンA	木曽川エース	東海クラブD	天白シャトルB	東海シャトルズB	セトミントンB	313
	42	東海シャトルズB	東海クラブD	大和撫子倶楽部	シャトルメイツA	BULLDOG	横須賀クラブB	岩倉パラレルB	岐大BC	133
9	43	上前津クラブ	ウィスタリアC	WESTWING A	ポリマーズA	東海シャトルズB	Oh My Gut A	ブッチャーズ	クリプト	128
	44	シャトルメイツB	天白シャトルA	名港クラブA	ブッチャーズ	パイレーツB	中川シャトルA	フレスカB	パイレーツC	123

男子7部A～8部D

（参－－ 参加数）

年度	回	7 部 A	7 部 B	7 部 C	7 部 D	8 部 A	8 部 B	8 部 C	参
H3	32	三井バドミントン							100
4	33	黄金クラブC							101
	34	はりーあっぷ							102
5	35	スペースシャトル	GUT BC						105
	36	東海クラブC	SETOMINTON						107
6	37	ウィスタリアD	Oh My Gut A	BULLDOG					113
	38	振甫BC C	シャトルまかせC	RSノナカB	クリプトC				116
7	39	大和撫子倶楽部	PANIC C	木曽川エース	パイレーツB	東海シャトルズB			125
	40	ブンブンズB	東海クラブD	セトミントンB	東海シャトルズB	堤BC B	供米田A		128
8	41	パープルBP B	Oh My Gut A	ESTWING B	供米田A	岩倉パラレルC	パイレーツC		131
	42	ラケットメイトC	RHBT B	岩倉パラレルC	黄金クラブC	南陽BC B	RSノナカB	豊橋トレセン	133
9	43	Oh My Gut B	グリーンクラブB	パイレーツC	RSノナカB	不老クラブB	49'S		128
	44	49'S	不老クラブB	ブンブンズB	アイシンエーアイ	豊橋トレセン			123

女子1部～4部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
S51	1	名北クラブ	熱田クラブB			10
	2	インターバルクラブ	椙山クラブ			8
52	3	インターバルクラブA	振甫クラブ			11
	4	インターバルクラブA	インターバルクラブC			12
53	5	振甫クラブ	中村クラブ			9
	6	中村クラブ	春日井チェリー			7
54	7	中村クラブ	RSノナカ			9
	8	中村クラブ	YMCA			9
55	9	中村クラブ				6
	10	中村クラブ				7
56	11	中村クラブ	BSモリタ			8
	12	BSモリタ	黄金クラブ			8
57	13	BSモリタ	振甫クラブ			10
	14	BSモリタ	椙山クラブ			9
58	15	BSモリタ	横須賀クラブ			10
	16	BSモリタ	ASモンテカルロ			13
59	17	BSモリタ	RHバドミントンチーム			11
	18	BSモリタ	CUCKOOBF	Fire Bird		18
60	19	BSモリタ	Fire Bird	岩倉パラレル		16
	20	BSモリタ	岩倉パラレル	バイレーツクラブ		8
61	21	BSモリタ	中村クラブ	ひいらぎクラブ	岡崎クラブ	22

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	参
	22	BSモリタ	ASモンテカルロ	岡崎BC	ウィスタリアクラブ	22
62	23	BSモリタ	大門BC	ウィスタリアクラブ	師勝BC	24
	24	BSモリタ	ウィスタリアクラブ	師勝BC	大和撫子倶楽部B	23
63	25	BSモリタ	R.H.B.T A	名北クラブ	瑞穂クラブ	27
	26	BSモリタ	大門BC	瑞穂クラブ	ひいらぎクラブ	25
H1	27	BSモリタ	黄金クラブ	師勝BC	天白シャトル	25
	28	BSモリタ	ウィスタリアクラブ	R.H.B.T A	東海シャトルズ	25
2	29	BSモリタ	瑞穂クラブ	大和撫子倶楽部	東海シャトルズB	24
	30	BSモリタ	横須賀クラブA	東海シャトルズA	貴船BC	28
3	31	BSモリタ	東海シャトルズA	バイレーツクラブ	ひいらぎBC	27
	32	Cuc Koo愛知A	ウィスタリアクラブ	貴船BC	Cuc Koo 愛知B	27
4	33	Cuc Koo 愛知	名北クラブA	中村クラブ	名北クラブB	27
	34	Cuc Koo 愛知	大和撫子倶楽部	天白シャトル	フレッシュ知多	29
5	35	Cuc Koo 愛知A	モンテカルロ	シャトルメイツA	JUPITER	38
	36	Cuc Koo 愛知A	貴船BC	中川シャトルA	黄金クラブ	43
6	37	Cuc Koo 愛知	瑞穂クラブ	黄金クラブ	岩倉パラレル	38
	38	Cuc Koo 愛知	黄金クラブ	岩倉パラレル	不老クラブA	43
7	39	Cuc Koo 愛知	岩倉パラレル	横須賀クラブA	さおりBC A	45
	40	Cuc Koo 愛知	瑞穂クラブ	シャトルメイツA	はりーあっぷ	45
8	41	Cuc Koo 愛知	ウィスタリア	RHBT	東海シャトルズB	45
	42	Cuc Koo 愛知	横須賀クラブA	中川シャトルA	名北クラブC	45

女子5部～8部

（参――参加数）

年度	回	5 部	6 部	7 部	8 部	参
S63	25	ひいらぎクラブ				27
	26	シャトルメイツ				25
H1	27	東海シャトルズ				25
	28	南BC				25
2	29					24
	30	ひいらぎBC				28
3	31	Cuc Koo B				27
	32	名北クラブB				27
4	33	木知郎倶楽部				27

年度	回	5 部	6 部	7 部	8 部	参
H4	34	JUPITER				29
5	35	黄金クラブ	岩倉パラレル	東海シャトルズB		38
	36	岩倉パラレル	さおりBC			43
6	37	不老クラブ	東海シャトルズB	豊橋トレセン		38
	38	さおりBC	豊橋トレセン	名北クラブC		43
7	39	はりーあっぷ	大和撫子B	大門BC	さおりBC B	45
	40	東海シャトルズB	名北クラブC	ラケットメイト	天白シャトルB	45
8	41	名北クラブC	GOLD	南陽BC	ACROSS	45
	42	豊橋トレセン	クリプト	ACROSS	紫電会	45

女子1部～5部B

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部 A	3 部 B	4 部 A	4 部 B	5 部 A	5 部 B	参
H9	43	ウィスタリア	RHBT	さおりBC	JUPITER	クリプト	大門BC	横須賀クラブC	紫電会	44
	44	Cuc Koo 愛知	横須賀クラブA	はりーあっぷ	名北クラブC	不老クラブB	横須賀クラブC	フレスカB	PANIC	44

愛知県クラブチーム対抗選手権大会　個人戦

年度	回	男子A単		男子A複		男子B単		男子B複		女子単		女子複	
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
S56	1	飯田　卓次	RSノナカ	牛島　秀雄	BSモリタ	藤原　成人	RSノナカ	城　　保彦	椙山クラブ	門間由美子	BSモリタ	河合ちか子	中村クラブ
				杉山　新治	〃			宇波　時彦	〃			大内山久美子	〃

一般の部

（参 …参加数、複は組数）

年度	回	男子単		参	男子複		参	女子単		参	女子複		参	混合		参
		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属	
S57	2	新田　正喜	BSモリタ		山田　　薫 山田　和寿	瑞穂クラブ		大内山久美子	中村クラブ		河合ちか子 大内山久美子	中村クラブ		河合ちか子 門前　直紀	中村クラブ	
58	3	新田　正喜	BSモリタ		菱田　修光 近藤　祥夫	ひいらぎクラブ		竹内ひろ子	川鉄		牛島　節子 横山　深雪	BSモリタ		牛島　節子 牛島　秀雄	BSモリタ	
59	4	新田　正喜	BSモリタ		飯田　卓次 近藤　祥夫	RSノナカ ひいらぎクラブ		竹内ひろ子	川鉄		宇矢美登里 井上ゆきよ	黄金クラブ		牛島　節子 牛島　秀雄	BSモリタ	
60	5	新田　正喜	BSモリタ	24人	中口　直人 飯田　卓次	RSノナカ	17組	木佐貫正子	Cuc Koo	15人	中野　静江 浦川　礼子	Fire Bird	15組	芋塚　紳二 赤堀ひろみ	Fire Bird	25組
61	6	新田　正喜	BSモリタ	27	牛島　秀雄 梶川　博之	BSモリタ	16	門間由美子	BSモリタ	31	谷口　民子 門間由美子	BSモリタ	21	大村　真司 片岡　洋子	ウィスタリア	27
62	7	新田　正喜	BSモリタ	32	中口　直人 近藤　祥夫	RSノナカ	20	岡田由美子	大門BC	34	松村　絹子 岡田由美子	大門BC	17	前田　浩一 岡田由美子	大門BC	35
63	8	新田　正喜	BSモリタ	31	松居　宏司 上田　啓夫	フライトクラブ	18	門間由美子	BSモリタ	21	松村　絹子 曽我　輝代	大門BC	22	大村　真司 片岡　洋子	ウィスタリア	30
H1	9	新田　正喜	BSモリタ	29	中口　直人 近藤　祥夫	RSノナカ	20	岡田由美子	大門BC	12	門間由美子 横山　深雪	BSモリタ	13	小出　寿朗 横山　深雪	フライトスポーツ BSモリタ	28
2	10	新田　正喜	BSモリタ	28	新美　俊蔵 近藤　祥夫	ひいらぎBC	19	六郷　由香	南BC	15	杉浦　美雪 横山　深雪	BSモリタ	13	小出　寿朗 松本　清美	フライトスポーツ BSモリタ	24
3	11	浜田　征明	不老クラブ	35	新田　正喜 横山　信一	BSモリタ	23	六郷　由香	南BC	8	森本千恵子 六郷　由香	瑞穂クラブ 南BC	12	新田　正喜 松本　清美	BSモリタ	19
4	12	新田　正喜	BSモリタ	34	富田　俊二 平松　　勝	紫電会	26	恵木　清子	Cuc Koo 愛知	5	森本千恵子 六郷　由香	瑞穂クラブ 南BC	14	岡本　哲哉 三上　明子	フライト スポーツ	12
5	13	岡田　政朗	東海クラブ	28	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	24	三浦美紀子	フライト スポーツ	16	三上　明子 三浦美紀子	フライト スポーツ	26	岡田　政朗 稲熊　康子	東海クラブ	18
6	14	浜田　征明	不老クラブ	33	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	22	佐藤　孝子	Cuc Koo 愛知	14	森本千恵子 石原あけみ	瑞穂クラブ R.H.B.T	24	新田　正喜 三上　明子	BSモリタ	15
7	15	浜田　征明	不老クラブ	32	大阪　哲嗣 富田　俊二	紫電会	21	佐藤　孝子	はり一あっぷ	16	森本千恵子 石原あけみ	瑞穂クラブ R.H.B.T	24	久湊　良成 佐藤　孝子	はり一あっぷ	13
8	16	浜田　征明	不老クラブ	33	曽根　大勝 磯貝謙太郎	紫電会	20	久湊　孝子	はり一あっぷ	16	久湊　孝子 小野　寿子	はり一あっぷ 東海シャトルズ	16	久湊　良成 久湊　孝子	はり一あっぷ	19
9	17	磯貝謙太郎	紫電会	30	富田　俊二 曽根　大勝	紫電会	19	鈴木　冬子	ウィスタリア	11	木戸　恭子 末永　美和	Cuc Koo 愛知	28	森本　　順 森本千恵子	名北クラブ RHBT	24

30才以上の部、新人の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上男子単			30才以上男子複			新人男子単			新人男子複			成年混合複		
		氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参
S57	2	大村 真司	ウィスタリア		牛島 秀雄 杉山 新治	ＢＳモリタ		川田 寛	中村クラブ		笹見 健司 岩田 利一	キフネクラブ				
58	3	大村 真司	ウィスタリア		平岩 友憲 山崎 実興	第3曜クラブ		神谷 礼行	ＲＳノナカ		中川 和雄 木村 真美	フェニックス				
59	4	杉浦 順一	ＢＳモリタ		牛島 秀雄 杉浦 順一	ＢＳモリタ		小出 寿郎	フェニックス		藤田 努 荻巣 雅俊	貴船クラブ				
60	5	杉浦 順一	ＢＳモリタ	7	大村 真司 仲 義和	ウィスタリア	6	吉田 保	中川シャトル	35	杉江 誠 磯本 朝雄	ヤマノウチクラブ	22			
61	6	杉浦 順一	ＢＳモリタ	10	大村 真司 仲 義和	ウィスタリア	6	伏屋 一郎	岡崎クラブ	36	村田 高人 木村 昭一	瑞穂クラブ	21			
62	7	川島 幸稔	ＲＳノナカ	13	川島 章稔 野村 博克	ＲＳノナカ	9	前田 浩一	大門ＢＣ	57	早瀬 弘親 松沢 伸一	振甫クラブ	32			
63	8	中尾 敏夫	名北クラブ	11	増田 博康 平岩 友憲	黄金クラブ 愛知クラブ	12	リュウセイショウ	天白シャトル	31	安田 満 井川 雅夫	トヨタ田原	28			
H1	9	中尾 敏夫	名北クラブ	6	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	11	鈴木 義弘	みちくさ	24	西尾 重光 鈴木 義弘	みちくさ	19			
2	10	木村 真美	フライトスポーツ	7	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	12	後藤 潤	紫電会	34	西村 幸司 浅井基司	ＰＡＮＩＣ	22			
3	11	越前屋直行	R.H.B.T	5	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	8	中山由紀雄	大門ＢＣ	35	仙田 弘志 山田 正典	うつみ	22	青山 伸幸 鈴木 明美	大門ＢＣ	8
4	12	小出 寿朗	フライトスポーツ	9	石原 幸雄 姥田 浩道	コックメイト	8	廉野 正治	JUPITER	23	廉野 正治 長谷川 潔	JUPITER	18	中尾 敏夫 山田三枝子	名北クラブ シャトルメイツ	8
5	13	中尾 敏夫	名北クラブ	9	鬼頭 尚見 笹田 峰男	ウィスタリア	12	橘 亮一	ウィスタリア	44	野中 大介 天野 孝則	ＲＳノナカ	28	中尾 敏夫 山田三枝子	名北クラブ シャトルメイツ	18
6	14	中尾 敏夫	名北クラブ	9	姥田 浩道 石原 幸雄	コックメイト	13	林 隆	岩倉パラレル	39	松浦 貴嘉 青木 眞	はり－あっぷ	29	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	8
7	15	川原 雅治	名北クラブ	12	森川 伸之 上前 茂人	コックメイト	14	水野 和広	ひいらぎＢＣ	32	水野 和広 石川 英彦	ひいらぎＢＣ	26	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	4
8	16	前田 浩一	大門ＢＣ	6	杉浦 順一 新田 正喜	ＢＳモリタ	9	青柳 智博	R. H. B. T	30	稲垣 亨 加藤 貴人	大和撫子 呉越同舟	27	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	30
9	17	中尾 敏夫	名北クラブ	10	川原 雅治 森本 順	名北クラブ	10	高柳 幸央	不老クラブ	28	鈴木勇一郎 水野 久司	呉越同舟 大和撫子	28	野村 博克 野村 洋子	ＲＳノナカ さおりＢＣ	6

30才以上の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上女子単			30才以上女子複			40才以上男子単			40才以上男子複			50才以上男子単			50才以上男子複		
		氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参	氏名	所属	参
H3	11	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	山田三枝子 宮崎美恵子	シャトルメイツ	3	青山 伸幸	大門ＢＣ	8	中川 創生 青山 伸幸	ﾌﾗｲﾄｽﾎﾟｰﾂ 大門ＢＣ	7	勝村 寿男	名北クラブ	2	勝村 寿男 酒井 精次	名北クラブ	5
4	12	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	山田三枝子 杉山かね子	シャトルメイツ 天白シャトル	8	青山 伸幸	大門ＢＣ	7	大村 真司 武田 龍也	ウィスタリア	6	勝村 寿男	名北クラブ	2	勝村 寿男 酒井 精次	名北クラブ	2
5	13	竹内ひろ子	川鉄クラブ	2	藤井みゆき ミツ石るみ子	東海シャトルズ	9	青山 伸幸	大門ＢＣ	5	越前屋直行 辻中 公人	ＲＨＢＴ	7	徳田 達雄	大門ＢＣ	3	酒井 精次 徳田 達雄	JUPITER 大門ＢＣ	4
6	14	浦川 礼子	豊橋トレセン	6	土柿 清巳 ミツ石るみ子	東海シャトルズ	2	青山 伸幸	大門ＢＣ	8	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	6	徳田 達雄	大門ＢＣ	2	長尾又兵衛 神田 明	小牧ＢＣ 愛犬クラブ	5
7	15	浦川 礼子	豊橋トレセン	5	浦川 礼子 近田 敬子	豊橋トレセン	6	青山 伸幸	大門ＢＣ	4	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	7	徳田 達雄	大門ＢＣ	2	勝村 寿男 富田 義彦	名北クラブ	5
8	16	浦川 礼子	豊橋トレセン	6	土柿 清巳 ミツ石るみ子	東海シャトルズ	12	越前屋直行	ＲＨＢＴ	5	山田 薫 山田 和寿	瑞穂クラブ	6	杉浦 弘	大門ＢＣ	2	長尾又兵衛 神田 明	小牧ＢＣ 愛犬クラブ	4
9	17	喜多 令子	横須賀クラブ	8	野村 洋子 竹内ひろみ	さおりＢＣ	9	青山 伸幸	大門ＢＣ	7	菱田 修光 大村 真司	ＲＨＢＴ ウィスタリア	7	杉浦 弘	大門ＢＣ	3	西島 清 安田 博敏	ポリマーズ	5

愛知県教職員選手権大会

一般の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	一般男子単			一般男子複			一般女子単			一般女子複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
H6	1	田中　隆一	豊橋西高校	27	近藤　祥夫 近藤　豊	中京女子大 大府市教育委	10	白井　明子	東陽小学校	6	近藤　清子 白井　明子	東浦高校 東陽小学校	3
7	2	近藤　祥夫	中京女子大	14	清水　誠司 水野　和広	富田高校 天王小学校	5	近藤　清子	東浦高校	2	近藤　清子 白井　明子	東浦高校 東陽小学校	2
8	3	杉浦　順一	豊田高校	10	原　賢一 近藤　祥夫	同朋大 中京女子大	4	白井　明子	東陽小学校	4	白井　明子 原　知子	東陽小学校 名大OG	3
9	4	清水　誠司	若宮商業高校	12	清水　誠司 水野　和広	若宮商業高校 天王小学校	5	白井　明子	東郷東小学校	6	白井　明子 豊田美香子	東郷東小学校 長浦聖母幼稚園	5

30才以上の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	30才以上男子複			40才以上男子複			50才以上男子複			30才以上女子複		
		選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参	選手名	所　属	参
H6	1	田中　章裕 加藤　大壱	豊川高校 愛知青少年公園	8	飯村　順一 佐藤　輝雄	大府中学校 美和中学校	2						
7	2	原　賢一 田中　章裕	同朋大 豊川高校	8	井村　仁美 菱田　肇	名古屋工業大	5	田中　章喜 中村　浩之	小坂井高校 鳴海高校	2	瀧塚公子美 原　知子	青海中学 名大OG	2
8	3	杉浦　順一 加藤　大壱	豊田高校 愛知青少年公園	4	井村　仁美 早瀬　弘親	名古屋工業大 名古屋市教委	3	菱田　肇 山内　修	名古屋工業大 名古屋大	2	瀧塚公子美 原　知子	青海中学 名大OG	3
9	4	原　賢一 加藤　大壱	同朋大 惟信高校	3	井村　仁美 早瀬　弘親	名古屋工業大 名古屋市教委	4	山内　修 山本　利夫	名古屋大	2			

愛知県家庭婦人大会　団体戦

各組1部

（参――参加数）

年度	回	春組		夏組		秋組		冬組		年度	回	春組		夏組		秋組		冬組	
		団体名	参	団体名	参	団体名	参	団体名	参			団体名	参	団体名	参	団体名	参	団体名	参
S49	1	豊田婦人同好会	4	県体女性教室クラブ	5	東海クラブ	4	刈谷クラブ	5	52	4	豊田東	4	春日井イエロー	4	守山ダッシュ	5	岡崎竜城	6
50	2	豊田婦人同好会	8	名城同好会	7	豊田ひまわり会	7	中村公園スポーツクラブ	7	53	5	豊田東	4	大堀団地	4	春日井チェリー	7	瑞穂青年の家	6
51	3	豊田同好会	8	大池団地羽根の会	8	知立市東チーム	8	春日井クラブ	8	54	6	豊田東	4	豊田レディース	4	豊田ちびっ子部隊	6	春日井東	7

春組1部～6部

（参――参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	参
S55	7	蒲郡カトレア	豊田スプリンター	名古屋ライオンズ	豊田レディース			16
56	8	豊田レディース	名古屋守山ダッシュ	知多えびねクラブ	名古屋千種光			24
57	9	豊田スプリンター	名古屋名東	名古屋千種光	豊田ハードトップ			24
58	10	豊田クレシーダー	名古屋千種光	安城アヤメ	弥富桜			24
59	11	豊田クレシーダー	安城アヤメ	弥富桜	名古屋瑞穂	名古屋ウィングス	春日井さくら	36
60	12	豊田クレシーダー	名古屋千種光	岡崎あやめ	名古屋中さかえ	名古屋緑	名古屋一社	36
61	13	豊田クレシーダー	名古屋瑞穂	名古屋中さかえ	名古屋天白	豊田クレスタ	大口フレンズ	36
62	14	豊田クレシーダー	豊田ハードトップ	春日井フラッシュ	豊田クレスタ	大口フレンズ	東海レディース	36
63	15	豊田クレシーダー	名古屋千種光	岡崎あやめ	春日井チェリー	東海レディース	江南紫	36
H1	16	豊田クレシーダー	春日井フラッシュ	小牧アップル	名古屋緑	犬山クラブ	知多えびね	36
2	17	豊田クレシーダー	名古屋瑞穂クラブ	春日井チェリー	名古屋城北	岡崎カシオペア	一宮レディースシャトル	36
3	18	岡崎フェニックス	刈谷ぴくるす	瀬戸あずさ	岡崎カシオペア	豊橋レモンスカッシュ	名古屋天白	36
4	19	豊田クレシーダー	名古屋千種光	名古屋中さかえ	豊橋レモンスカッシュ	名古屋守山ダッシュ	半田あじさい	36
5	20	豊田クレシーダー	安城アヤメ	小牧アップル	名古屋緑	豊明さくら	知立かきつばた	36
6	21	豊田クレシーダー	小牧アップル	名古屋緑	豊明さくら	知立かきつばた	名古屋天白	36
7	22	豊田クレシーダー	名古屋緑	岡崎カシオペア	知立かきつばた	名古屋天白	碧南GRACE	36

夏組1部～6部

（参――参加数）

年度	回	1部	2部	3部	4部	5部	6部	参
S55	7	東海クラブ	城北クラブ	安城月	名古屋瑞穂			24
56	8	豊田ハードトップ	刈谷ぴくるす	豊明	碧南市ジャンプ			24
57	9	名古屋緑クラブ	弥富大藤	名古屋名東一社	小牧アップル			24
58	10	名古屋天白	名古屋ウィングス	豊明	豊田クレスタ	西枇杷島四ツ葉		30
59	11	豊明クレスタ	豊田東山	名古屋徳川	春日井小野バイオレット	名古屋クッキーズ	名古屋千種星	36
60	12	豊田東山	春日井小野バイオレット	西枇杷島四ツ葉クラブ	東海レディース	名古屋千種星	西春アイリス	36
61	13	春日井小野バイオレット	小牧グレープ	犬山古城	西春アイリス	名古屋新瑞穂	名古屋八事	36
62	14	一宮レディースシャトル	西春アイリス	大府シャトルコックス	名古屋南	豊田ソフィア	東浦うの花	36
63	15	西尾キャッツアイ	刈谷クラブ	岡崎のぎく	瀬戸ひかり	豊田タートル	豊橋7	36
H1	16	刈谷クラブ	岡崎さつき	安城サルビア	豊田ソアラ	豊橋レモンスカッシュ	蟹江ルビー	36
2	17	名古屋天白	豊橋レモンスカッシュ	小牧レモン	知立かきつばた	西尾サファイア	豊橋スウィング	36
3	18	半田あじさい	西尾サファイア	安城サルビア	豊橋スウィング	豊田コアラ	尾西ホワイトシャトルズ	36
4	19	西尾サファイア	豊橋スウィング	豊田コアラ	尾西ホワイトシャトルズ	犬山乾山	豊明ひまわり	38
5	20	刈谷ゆきわりそう	豊田コアラ	碧南GRACE	犬山乾山	豊田東山	安城サクラ	72
6	21	岡崎アンドロメダ	尾西ホワイトシャトルズ	小牧レモン	祖父江ウィング	稲沢ホワイト	大府すずらん	72
7	22	豊田コアラ	豊田東山	武豊レモンズ	豊田セラ	犬山乾山	名古屋中川シャトルフラワーズ	72

夏組7部～12部

（参――参加数）

年度	回	7 部	8 部	9 部	10 部	11 部	12 部	参
H5	20	祖父江ウイング	蒲郡ピュア	大府すずらん	豊田セラ	蒲郡キャッツ	岡崎ヘルクレス	72
6	21	名古屋中川シャトルフラワーズ	名古屋東徳川	はるひオンライン	しかつはくば	刈谷かきつばた	岩倉さくらこ	72
7	22	岡崎ヘルクレス	刈谷こすもす	東海ポピー	大府しらゆり	刈谷朝日	名古屋守山クリアーズ	36

秋組1部～8部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	参
S55	7	安城桜	小牧フィッグ	弥富大藤	犬山羽黒	尾張旭ファミリー				30
56	8	尾張旭エーデルワイス	小牧アップル	豊田クレスタ	豊田ホープ	名古屋中川コスモ	小牧ネーブル	刈谷とまと	蒲郡コスモス	48
57	9	安城サクラ	豊田ホープ	蒲郡コスモス	十四山クラブ	名古屋守山クリアーズ	瀬戸ひかり	名古屋千種海	蒲郡ひまわり	60
58	10	名古屋守山クリアーズ	岡崎サツキ	新川明星	岡崎モクレン	刈谷ぼてと	豊田あいづま	豊田大林クラブ	豊田東山	60
59	11	岡崎のぎく	名古屋新瑞穂	名古屋千種海	師勝白鳥	小牧パイナップル	小牧オリーブ			36
60	12	尾張旭フレンド	名古屋千種花	稲沢ホワイト	名古屋守山フラッシュ	豊田豊南	名古屋千種虹			36
61	13	大府シャトルコックス	知多マリーン	稲沢ホワイト	小牧プラム	岡崎さつき	西尾フレンズ			36
62	14	名古屋熱田ワラワーズ	豊橋セブン	西尾キャッツアイ	豊田豊南クラブ	蟹江ひまわり	豊田浄水	名古屋グリーン	小牧ピーチ	72
63	15	知立かきつばた	岡崎さつき	名古屋徳川	尾西ホワイトシャトルズ	名古屋守山ドリブン	大府くちなし	岡崎ふじ	豊田コアラ	72
H1	16	瀬戸こだま	岡崎ふじ	豊田フットワーク	豊田コアラ	小牧プラム	安城サクラ	小牧ピーチ	春日井小野グレース	72
2	17	豊田コアラ	知立しょうぶ	名古屋守山ドリブン	碧南グレース	七宝ルビー	豊田ホープ	西枇杷島四ツ葉	名古屋昭和つるまい	72
3	18	豊明ひまわり	名古屋ブルー瑞穂	大府くちなし	春日井小野グレース	師勝はくば	安城リンドウ	蒲郡フレンズ	春日井バード	78
4	19	安城サクラ	祖父江ウイング	春日井小野グレース	豊田東山	日進ミズの会花	名古屋中たちばな	蒲郡キャッツ	名古屋天白島田	84
5	20	安城リンドウ	刈谷こすもす	犬山木曽	東郷セピア	大口マミーズ	岩倉さくらこ	安城スズラン	蒲郡BBC	72
6	21	稲沢レッド	春日井小野グレース	大口マミーズ	東郷セピア	一宮アローシャトルズ	豊橋フェニックス	平和ピース	豊橋フレンズ	78
7	22	西尾エメラルド	平和ピース	知多マリーン	豊田MR2	刈谷なでしこ	碧南みなみ	安城スミレ	祖父江スウィング	78

秋組9部～14部

（参――参加数）

年度	回	9 部	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	参
S57	9	刈谷こすもす	豊田大林クラブ					60
58	10	小牧パイナップル	豊田朝日クラブ					60
59	11							36
60	12							36
61	13							36
62	14	岡崎もくれん	豊田コアラ	安城スミレ	七宝ルビー			72
63	15	西尾サファイヤ	西尾エメラルド	春日井小野グレース	岡崎ひめこぶし			72
H1	16	東海ポピー	弥富白鳥	岡崎すみれ	小牧メロン			72
2	17	名古屋千種波	名古屋名北クラブ	蒲郡フレンズ	岡崎アルゴ			72
3	18	豊田朝日クラブ	小牧ピーチ	尾張旭フレンド	名古屋港ハートナーズ	稲沢レッド		78
4	19	豊橋鯱	東海ポピー	豊田カリーナ	名古屋中ちはや	碧南ポパイ	大口マミーズ	84
5	20	豊橋フェニックス	春日井フレンズ	長久手ブルーメ	碧南みなみ			72
6	21	大府しらゆり	西尾ガーネット	名古屋名東桂	犬山あすなろ	瀬戸ないす		78
7	22	一宮マザーグース	長久手ブルーメ	大口レディース	岡崎オリオン	名古屋瑞穂井戸田		78

冬組1部～9部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	9 部	参
S55	7	小牧アップル	安城星	名古屋栄生	尾張旭エーデルワイス	安城アイリス	尾張旭レインボー	名古屋中区フレンズ			43
56	8	瀬戸あずさ	尾張旭フレンド	春日井小野バイオレット	豊田あいづま	春日井ピーチBC	蒲郡ひまわり	刈谷こすもす	春日井小野クイーン	尾張旭シャトー	54
57	9	豊田朝日クラブ	新川新星	南知多フレッシュVBC	尾張旭ダッシュ	豊田豊南クラブ	豊田ランクル	藤岡ふじクラブ	名古屋みずとり	豊田コアラ	54
58	10	名古屋みずとり	小牧オリーブ	豊田豊南クラブ	西春アイリス	岡崎ヒメコブシ	刈谷こまくさ	蒲郡さくら	名古屋レインボー	刈谷チェリー	62
59	11	豊田豊南クラブ	名古屋千種翼	知多マリーン	名古屋熱田フラワーズ	名古屋港ゆり	江南ひまわり	小牧ピーチ	名古屋レインボー	岡崎サツキ	92
60	12	名古屋熱田フラワーズ	蒲郡さくら	尾張旭シャトー	名古屋昭和スカイ	名古屋ブルー瑞穂	名古屋千種風	大府シャトルコックス	安城さくら	西尾フレンズ	96
61	13	豊田フットワーク	瀬戸こだま	大府北山	岡崎モクレン	豊田浄水	稲沢レッド	豊田コアラ	安城サクラ	安城スミレ	108
62	14	大府すずらん	名古屋熱田レディース	大府ひいらぎ	名古屋中村睦会	豊田カリーナ	春日井パンジー	東海コスモス	東浦コスモス	春日井バード	82
63	15	豊橋スウィング	豊田カリーナ	小牧ストロベリー	小牧メロン	名古屋港パートナーズ	小牧マロン	名古屋中村友美	豊田リセ	岡崎すずらん	78
H1	16	蒲郡フレンズ	岡崎すずらん	名古屋中ちはや	一宮アローシャトル	尾張旭ダッシュ	尾張旭コスモス	豊田ホープ	大口マミーズ	小牧マロン	70
2	17	大治せんだん	名古屋千種山	安城りんどう	尾張旭コスモス	名古屋守山ルビーズ	日進ミズの会花	大口マミーズ	豊田リセ	犬山あすなろ	76
3	18	春日井パンジー	名古屋中ちはや	名古屋守山ジェッツ	大口マミーズ	岩倉さくらこ	尾西たんぽぽ	豊橋ラッキーズ	名古屋天白シャトルフレンズ	大府しらゆり	84
4	19	東郷セピア	名古屋瑞穂井戸田	豊橋ラッキーズ	瀬戸ないす	刈谷りんどう	大府しらゆり	豊田フレンズ	名古屋守山エース	半田ひまわり	96
5	20	平和ピース	豊橋フレンズ	刈谷かりがね	刈谷ききょう	安城キキョウ	知多クリアー	刈谷ひなげし	小牧メロン	大府ひいらぎ	75
6	21	祖父江スウィング	岡崎オリオン	一宮マザーグース	大府ひいらぎ	犬山花みずき	西尾アメジスト	大府すみれ	弥富弥生	安城ヒマワリ	78
7	22	大府ひいらぎ	名古屋グリーン新瑞穂	碧南オリーブ	名古屋港CARROTS	大府すみれ	名古屋天白シャトルフレンズ	知多エリカ	武豊サラダクラブ	碧南ひかり	82

冬組10部～18部

（参――参加数）

年度	回	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	15 部	16 部	17 部	18 部	参
S58	10	知多クラブ									62
59	11	大府シャトルコックス	知多レディース	大府くちなし	稲沢ピンク	名古屋昭和ポポ	春日井ホワイト				92
60	12	大府くちなし	大府北山	西尾オレンジ	大府すずらん	東浦うの花	祖父江クラブ	大府ひいらぎ			96
61	13	春日井フレンズ	小牧メロン	春日井ウィスタリヤ	江南藤	豊田カリーナ	刈谷ぽてと	東海コスモス	瀬戸るな	東浦コスモス	108
62	14	一宮コスモス	名古屋名東柊	東浦ひまわり	西尾ガーネット	名古屋港ポピーズ					82
63	15	一宮アローシャトルズ	犬山同好会	豊田ホープ	大口マミーズ						78
H1	16	春日井ホワイトキャッツ	西尾ガーネット	東海キャロル							70
2	17	名古屋港フレッシュ	扶桑マンデー	蒲郡コスモス	大府ひいらぎ						76
3	18	大口レディース	春日井ホワイトキャッツ	安城スズラン	名古屋名東柊	瀬戸つばさ					84
4	19	半田こすもす	長久手ブルーメ	大府ひいらぎ	名古屋守山フラッシュ	刈谷れもん	春日井サルビア	稲沢ブルー			96
5	20	西尾ムーンストン	大府なでしこ	半田すみれ							75
6	21	蒲郡ビクトリー	しかつエフォート	知多スマッシュ八幡	武豊サラダクラブ						78
7	22	西春クロッカス	江南椿	碧南リボン	武豊サラダフレンズ	大府なでしこ					82

1部～9部

（参――参加数）

年度	回	1 部	2 部	3 部	4 部	5 部	6 部	7 部	8 部	9 部	参
8	23	豊田クレシーダ	岡崎カシオペア	知立かきつばた	半田あじさい	豊橋レモンスカッシュ	岡崎アンドロメダ	武豊レモンズ	豊田セラ	尾張旭フットワーク	270
9	24	豊田クレシーダ	豊田スプリンター	西尾キャッツアイ	名古屋名東桜	岡崎アンドロメダ	碧南GRACE	尾西ホワイトシャトルズ	大府シャトルコックス	知多えびね	284

10部～18部

（参――参加数）

年度	回	10 部	11 部	12 部	13 部	14 部	15 部	16 部	17 部	18 部	参
8	23	犬山乾山	名古屋中川シャトルフラワーズ	刈谷こすもす	知立しょうぶ	名古屋東徳川	豊田カリーナ	大口マミーズ	名古屋名北	一宮アローシャトルズ	270
9	24	名古屋名西	刈谷こすもす	名古屋千種海	大口マミーズ	豊田カリーナ	西春クロッカス	知多つつじクラブ	岡崎アルゴ	豊田MR2	284

19部～27部

（参――参加数）

年度	回	19 部	20 部	21 部	22 部	23 部	24 部	25 部	26 部	27 部	参
8	23	刈谷なでしこ	名古屋中村NSC	小牧パパイヤ	豊明けやき	弥富白鳥	碧南オリーブ	一宮マザーグース	長久手ブルーメ	春日井サルビヤ	270
9	24	知多エリカ	知多クリアー	碧南オリーブ	豊田ホープ	知多ウィング	岡崎スバル	名古屋中川シャトルエース	名古屋瑞穂井戸田	春日井グース	284

28部～36部

（参――参加数）

年度	回	28 部	29 部	30 部	31 部	32 部	33 部	34 部	35 部	36 部	参
8	23	刈谷チェリー	名古屋瑞穂井戸田	名古屋守山フラッシュ	名古屋グリーン新瑞穂	知多エリカ	豊橋品	岡崎スバル	西尾アメジスト	岡崎シリウス	270
9	24	しかつあさひ	犬山あすなろ	名古屋グリーン新瑞穂	日進ミズの会つぼみ	名古屋港Carrots	春日井ハイビスカス	岡崎シリウス	蒲郡ビクトリー	江南椿	284

37部～45部

（参　参加数）

年度	回	37 部	38 部	39 部	40 部	41 部	42 部	43 部	44 部	45 部	参
8	23	刈谷すばらシャトルズ	稲沢イエロー	武豊サラダフレンズ	豊明リリィーズ	刈谷ひまわり	東郷スワン	刈谷らいむ	蒲郡ビクトリー	弥富ペパーミント	270
9	24	蒲郡ウイン	西尾アクアマリン	刈谷ききょう	東郷スワン	名古屋緑CLOVER	稲沢グリーン	岡崎プロキオン	名古屋名東楓	岡崎ベルセウス	284

愛知県家庭婦人大会　個人戦

1部、2部1ブロック～5ブロック

（参――参加組数）

年度	回	1部		2部1ブロック		2部2ブロック		2部3ブロック		2部4ブロック		2部5ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	門間由美子	豊田市	長谷川さつよ	豊田市	高木喜代子	名古屋市	安藤　久代	小牧市	杉田　和子	豊橋市	牧　真喜子	豊橋市	403
		太田　礼子		竹下　尚子		竹原　芳子		水野　良子		村上　純子		野田　庸子		
4	2	門間由美子	豊田市	幸　康子	豊田市	桜井　文子	名古屋市	加藤　悦子	刈谷市	磯部　悦子	名古屋市	加藤智恵子	刈谷市	451
		太田　礼子		中山　和美		福沢　京子		鈴木　絹子		村上　啓子	小牧市	神谷寿美子		
5	3	門間由美子	豊田市	田村　早苗	名古屋市	森本恵美子	名古屋市	池田　忍草	碧南市	森　厚子	名古屋市	大脇なほみ	名古屋市	536
		太田　礼子		成田　久子		奥野　照代	西枇杷島町	竹内　綾子		八木千代子		伊東美和子		
6	4	門間由美子	豊田市	三輪　明美	豊田市	森　厚子	名古屋市	坂柳　京子	豊橋市	山本　昌子	名古屋市	小川るみ子	岡崎市	555
		太田　礼子		杉山　牧子		八木千代子		安井ヤス子		西川　福美		牛田恵美子		

2部6ブロック～11ブロック

（参――参加組数）

年度	回	2部6ブロック		2部7ブロック		2部8ブロック		2部9ブロック		2部10ブロック		2部11ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	小崎　輝代	犬山市	大西　玲子	名古屋市	中橋アツ子	半田市	服部美栄子	岡崎市	荒川富士子	名古屋市	鵜飼　真弓	一宮市	403
		松村　晴美		光井　好美		都築　節子		成瀬　茂子		佐藤　敏子		道家　幸		
4	2	佐藤美智子	西尾市	吉見千津子	蒲郡市	春日部純子	豊明市	市川　葵	蒲郡市	梅田　伸枝	豊田市	長江　淑子	岩倉市	451
		小野内朱美		飯島よし子		加藤　直美		内田　裕子		末次美恵子		坪井　輝子		
5	3	浜　恵子	名古屋市	山口　妙子	大府市	鈴木　昌子	豊田市	瀬尾　陽子	名古屋市	辺見加代子	武豊町	有竹富美代	東海市	536
		安藤　清香		松林いずみ		岡田　貞代		佐々木光子		四井　玲子		渡辺　史子		
6	4	厚味美枝子	半田市	川端　京子	名古屋市	勝見みどり	名古屋市	金本　順子	名古屋市	岡島　薫	春日井市	古市　時代	名古屋市	555
		石川　信子		森部　愛子		浅井　京子		久保田佳子		落合七緒子		増川　千代		

2部12ブロック～17ブロック

（参――参加組数）

年度	回	2部12ブロック		2部13ブロック		2部14ブロック		2部15ブロック		2部16ブロック		2部17ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	浜　よし子	豊橋市	大松智恵子	豊田市	本城栄津子	名古屋市	安田　富子	祖父江町	長縄　美穂	大口町	林　悦子	名古屋市	403
		三浦　悟子		小野くみ子		今村　照代		黒川せい子		栢　元子		三輪　恵子		
4	2	沢　美恵子	日進町	夏目　芳子	大口町	鈴木　昌子	豊田市	末松美登利	春日町	中谷えみ子	尾張旭市	高村千代子	犬山市	451
		萩野百合子		岡田　洋子		岡田　貞代		中村　良子		寺内　妙子		井上　徳子		
5	3	塚本　徳子	江南市	中川　絹江	名古屋市	内木　絹代	知多市	伊藤ナチ子	西枇杷島町	畑佐　美輪	知立市	川本かよ子	長久手町	536
		山下　章子		久保田佳子		中園由美子		鬼塚　京子		中島くるみ		古田さち代	尾張旭市	
6	4	瀬尾　洋子	春日井市	沢　登恵子	名古屋市	山内　加代	名古屋市	清水　和枝	豊田市	関谷　美代	東海市	星井　律子	西尾市	555
		峰浦　清美		谷　智子		尾形　仁美		石京　美穂		前川　了子		石原万里子		

2部18ブロック～23ブロック

（参－　参加組数）

年度	回	2部18ブロック		2部19ブロック		2部20ブロック		2部21ブロック		2部22ブロック		2部23ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	岡田　洋子	大口町	白井　恵美	豊田市	長瀬富貴枝	豊田市	水間　真弓	名古屋市	吉田　照子	岩倉市	鈴木　昌子	豊田市	403
		夏目　芳子		須見　三枝子		菊池美和子		金本　順子		横山よし子		門田恵美子		
4	2	野村　陽子	刈谷市	吉川　博子	安城市	飯島　治子	安城市	小川るみ子	岡崎市	西川　美代	大府市	渡辺　和子	師勝町	451
		熊谷比呂美		松永　弘子		村井　洋子		赤塚　恵子		藤井きみ子		中川　洋子		
5	3	上野　順子	知多市	赤塚　恵子	岡崎市	杉山　久子	岡崎市	佐伯美智子	師勝町	雨宮　角枝	西尾市	日栄　雅美	岡崎市	536
		佐藤りつ子		川口　久子		辻井　愛子		阪野　博子		藤原聖乃子		島田美津子		
6	4	高柳八重子	名古屋市	亀井　年恵	名古屋市	荒木　郷子	豊田市	川村　敦子	名古屋市	坂本加代子	江南市	永井　幸子	知多市	555
		水野　麻里		只腰喜久枝		上野紀美子		山内久美子		片山　信枝		吉浜　恵子		

2部24ブロック～27ブロック

（参　参加組数）

年度	回	2部24ブロック		2部25ブロック		2部26ブロック		2部27ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H3	1	市川　益美	蒲郡市							403
		佐野由美子								
4	2	石京　美穂	豊田市	高木　光子	豊田市	渡辺　文子	一宮市	堀江香奈子	一宮市	451
		清水　和枝		前田佳代子		中川美代子		山田美穂子		
5	3	大石　輝子	師勝町							536
		山田　瑞代								
6	1	村瀬由利子	知多市							555
		小鶴　真弓								

1ブロック～7ブロック

（参――参加組数）

年度	回	1ブロック		2ブロック		3ブロック		4ブロック		5ブロック		6ブロック		7ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	服部美和子	豊田市	竹内　綾子	碧南市	中山十三子	知多市	神野　法子	豊田市	中橋アツ子	半田市	柿元　里美	豊田市			536
		門間由美子		池田　忍草		斉藤　美幸	東海市	鈴木　昌子		有馬　正子		水野千寿枝				
8	6	服部美和子	豊田市	八木千代子	名古屋市	大西　玲子	名古屋市	板木　智恵	半田市	脇　久美子	名古屋市	春日部純子	豊明市	見松由佳利	春日町	591
		門間由美子		西川　福美		勝見みどり		亀谷　康子		山本　武子		佐野由美子		津田　愛子		
9	7	門間由美子	豊田市	内藤ひとみ	祖父江町	服部こずえ	知立市	西本　民子	春日井市	武田美代子	春日井市	三澤　恵	尾西市	樋口　千里	刈谷市	638
		幸　康子		塚崎　良子		青能　美治		伊藤みゆき		森本百合子		前田　恵子		竹内こゆき		

8ブロック～14ブロック

（参――参加組数）

年度	回	8ブロック		9ブロック		10ブロック		11ブロック		12ブロック		13ブロック		14ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	長瀬富貴枝	豊田市	服部　文子	名古屋市	武田美代子	春日井市			夏目　芳子	大口町	前田　恵子	尾西市			536
		須見　三枝子		今西　美子		岡島　薫				窪田　文子		羽田みゆき				
8	6	深尾真由美	大府市	一野　博子	豊橋市	中園由美子	知多市	松林いづみ	大府市	出口　典子	知多市	近藤　節子	東郷町	野田みどり	尾西市	591
		佐藤　孝乃		岩崎　礼子		内木　絹代		清水ひとみ		永廣　裕子		奥山　信子		田中　五月		
9	7	石川真由美	名古屋市	厚味美枝子	半田市	峯浦　清美	春日井市	近藤まゆみ	東郷町	竹屋　直美	名古屋市	山田　博子	知多市	丸山ひろみ	名古屋市	638
		斉藤　悦子		浅野　充恵		瀬尾　洋子		野々山智恵子		岡本　明子		岡本　節子		亀山　年恵		

15ブロック～21ブロック

（参――参加組数）

年度	回	15ブロック		16ブロック		17ブロック		18ブロック		19ブロック		20ブロック		21ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	伊藤　文子	尾西市	谷　ひろみ	尾張旭市	小嶋　真弓	知多市	山本　優子	碧南市	藤生　郁子	碧南市	佐伯美智子	師勝町	浅野　千里	尾西市	536
		野田みどり		三輪　裕美		榊原　郁代		汲田　雅美		榊原　鈴子		葛城　祥江		田中　五月		
8	6	瀬尾　洋子	春日井市	鬼塚　京子	西枇杷島	杉村素美子	日進市	浅井　篤子	瀬戸市	伊東　直美	名古屋市	小船　さよ	岡崎市	妹尾　順子	豊田市	591
		峯浦　清美		丸本　幸子		杉本美佐子		上岡百合子		大野　明美		市川　正恵		島本　隆子		
9	7	辻　幸子	名古屋市	横山　英子	名古屋市	佐治　雅子	名古屋市	関谷　美代	東海市	松下　洋子	豊橋市	原田　敬子	岡崎市	小野　初美	蒲郡市	638
		山口　真子		小佐井加奈子		横地　厚美		岡田かな子		佐々木イサ子		稲吉　礼子		高柳美恵子		

22ブロック～25ブロック

（参――参加組数）

年度	回	22ブロック		23ブロック		24ブロック		25ブロック		参
		選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	選手名	所　属	
H7	5	大西しのぶ	豊田市	島本　隆子	豊田市	浅利真理枝	岡崎市	小船　さよ	岡崎市	536
		西永　秀子		柴田さゆり		肌附　美恵		市川　政恵		
8	6	辻本　貴子	豊田市	鈴木　和美	名古屋市	柴田さゆり	豊田市	川松富美子	稲沢市	591
		高橋　妙子		小佐井加奈子		西河八重子		住田三千代		
9	7	諸井さゆり	蒲郡市	水野　礼子	西尾市	神谷　朱美	名古屋市	間瀬恵美子	半田市	638
		小田　安子		長谷　啓子		井内しのぶ		杉浦　史恵		

愛知大学選手権大会　リーグ戦

年度	回	男子 1部	男子 2部	女子 1部	女子 2部
S40	21	南山大学		名古屋大学	
	22				
41	23	名古屋商科大学		名古屋女子大学	
	24	名古屋商科大学		名古屋女子大学	
42	25	名古屋商科大学	愛知工業大学	名古屋女子大学	
	26	名古屋商科大学	日本福祉大学	名古屋女子大学	

年度	回	男子 1部	男子 2部	女子 1部	女子 2部
S43	27	名古屋商科大学	中京大学	市邨学園短期大	日本福祉大学
	28	名古屋商科大学	日本福祉大学	市邨学園短期大	日本福祉大学
44	29	名古屋商科大学	愛知教育大学	市邨学園短期大	愛知教育大学
	30	名古屋商科大学	名城大学	市邨学園短期大	南山大学
45	31	名古屋商科大学	中京大学	愛知教育大学	名古屋女子大学
	32	愛知教育大学	名城大学	南山大学	名古屋女子大学

愛知大学選手権大会　トーナメント戦

（参――参加数）

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
S54	1	名城大学		中京大学	
55	2	名城大学		中京女子大学	
58	3	名城大学A	29	中京大学A	30
59	4	名城大学B	28	中京女子大学A	14
60	5	名城大学B	28	愛知淑徳大学A	16
61	6	名城大学B	26	中京大学A	19

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
S62	7	名城大学A	23	中京大学A	21
63	8	名城大学C	25	中京女子大学A	26
H1	9	名古屋学大A	26	中京大学A	25
2	10	名古屋大学A	24	中京大学A	24
3	11	名商科大学A	29	愛知淑徳大学A	21
4	12	名城大学A	34	愛知淑徳大学A	26

年度	回	男子 団体名	参	女子 団体名	参
H5	13	名城大学A	33	愛知淑徳大学A	33
6	14	愛知大学B	34	愛知淑徳大学A	30
7	15	名城大学C	37	中京女子大学A	29
8	16	名城大学A	35	中京女子大学A	28

愛知学生選手権大会

年度	回	男子単 選手名	男子単 所属	参	男子複 選手名	男子複 所属	参	女子単 選手名	女子単 所属	参	女子複 選手名	女子複 所属	参
S38	11	加藤　賢雄	南山大		寺本　喜宥 本田　勝也	名古屋大		松波千鶴子	名古屋女子大		森　春代 松波千鶴子	名古屋女子大	
39	12	寺本　喜宥	名古屋大		寺本　喜宥 本田　勝也	名古屋大		片桐　宝子	名古屋商科大		森　春代 松波千鶴子	名古屋女子大	
40	13	安藤　義治	名古屋商科大		篠田　忠明 斉藤　満	愛知大		神野美智代	市邨学園短大		神野美智代 山田　和代	市邨学園短大	
41	14	山本　隆司	名古屋商科大		篠田　忠明 神田　明	愛知大		稲葉　良子	名古屋女子大		森　春代 村田　道子	名古屋女子大	
42	15	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		稲葉　良子	名古屋女子大		稲葉　良子 石原やす子	名古屋女子大	
43	16	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		増田　初子	市邨大		増田　初子 山田　陽子	市邨大	
44	17	河田　満	名古屋商科大		河田　満 山本　隆司	名古屋商科大		柴田　明美	市邨学園短大		増田　初子 山田　陽子	市邨学園短大	
45	18	平松　孝孔	愛知教育大		堀　真満 後藤　路広	名古屋商科大		福田　明子	愛知教育大		小笠原伸枝 平松富美子	市邨大	
46	19	後藤　路広	名古屋商科大		堀　真満 後藤　路広	名古屋商科大		尾藤喜代子	名古屋女子大		竹中美代子 鈴木　清香	市邨大	
47	20	成瀬　英治	南山大		後藤　路広 河瀬さとし	名古屋商科大		波多野美代子	市邨大		波多野美代子 鈴木　清香	市邨大	
48	21	井崎　雅弘	愛知工業大		井崎　雅弘 山田　清孝	愛知工業大		川島みどり	愛知教育大		峰野美智子 安田　京子	椙山女学園大	
49	22	石川　啓一	中京大		井崎　雅弘 山田　清孝	愛知工業大		岡田恵美子	愛知県立大		石橲　美喜 堀田　和代	金城学院大	
50	23	石川　啓一	中京大		吉村　敏明 水谷　登	名城大		伴　隆子	椙山女学園大		野村　深雪 藤村　友江	南山大	
51	24	川島　章稔	名城大		川島　章稔 水谷　登	名城大		伴　隆子	椙山女学園大		伴　隆子 土本　陽子	椙山女学園大	
52	25	川島　章稔	名城大		中口　直人 浜名　利之	中京大		鈴木ゆみ子	南山大		岸家小夜子 斉藤千恵子	中京大	
53	26	西崎　佳行	愛知工業大		別枝　一成 越沢　直久	中京大		河原崎千恵子	中京大		河原崎千恵子 岡崎まき子	中京大	
54	27	近藤　祥夫	名城大		宮原　誠 名倉　康弘	中京大		鈴木須賀代	中京大		沢木　春美 鈴木須賀代	中京大	

（参——参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S55	28	近藤　祥夫	名城大		近藤　祥夫 堀　弘之	名城大		加藤麻利子	名古屋大		中谷ゆかり 伊藤ひとみ	金城学院大	
56	29	近藤　祥夫	名城大		近藤　祥夫 堀　弘之	名城大		山下千恵子	愛知大		佐々木弘子 河野　益美	中京女子大	
57	30	堀　弘之	名城大		堀　弘之 神谷　道夫	名城大		津崎　孝子	中京女子大		津崎　孝子 西脇　睦子	中京女子大	
58	31	神谷　道夫	名城大	222名	中野　正己 疋田　博之	名城大	103組	津崎　孝子	中京女子大	193名	津崎　孝子 織平　節代	中京女子大	93組
59	32	森地　正一	名城大	207	疋田　博之 森地　正一	名城大	97	津崎　孝子	中京女子大		佐藤真理子 近藤　晃代	愛知淑徳大	61
60	33	森地　正一	名城大	207	疋田　博之 森地　正一	名城大	97	近藤　晃代	愛知淑徳大	120	光嵜　祐子 近藤　晃代	愛知淑徳大	53
61	34	森地　正一	名城大	211	疋田　博之 森地　正一	名城大	93	菊池　寿枝	中京大	123	新屋　智子 説田　浩恵	愛知大	59
62	35	小松崎政幸	愛知大	198	北里　憲之 松本　周	名城大	88	説田　浩恵	愛知大	144	新井　雅子 大島　裕子	愛知淑徳大	73
63	36	小松崎政幸	愛知大	178	北里　憲之 松本　周	名城大	74	恵木　清子	中京女子大	110	安田美智子 恵木　清子	中京女子大	59
H1	37	近藤　豊	名城大	181	足立　弘明 北原　朋幸	名古屋大	93	恵木　清子	中京女子大	139	米今真由美 恵木　清子	中京女子大	71
2	38	近藤　豊	名城大	190	松本　周 滝本　勝則	名城大	85	宮村　和美	中京大	159	大川ますみ 宮村　和美	中京大	95
3	39	加藤　寿彦	名城大	217	今野　淳 久湊　良成	名城大	97	青木美代子	中京女子大	140	恵木　清子 青木美代子	中京女子大	86
4	40	石田　猛	名古屋商科大	227	北原　朋幸 宮田　康彦	名古屋大	110	青木美代子	中京女子大	146	青木美代子 鈴木　和泉	中京女子大	78
5	41	石田　猛	名古屋商科大	238	久湊　良成 今野　淳	名城大	114	宇留賀きよ	愛知淑徳大	199	小林　真理 太郎良和美	愛知淑徳大	98
6	42	中川　雅之	愛知大	272	刈谷　富嗣 青山　靖範	名古屋学院大	133	清水　礼子	愛知淑徳大	177	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	92
7	43	花井　謙吉	名城大	246	花井　謙吉 松山　寛和	名城大	116	堀絵　里子	中京女子大	178	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	88
8	44	神谷　仁士	愛知工業大	239	藤田　勝靖 松山　寛和	名城大	117	清水　礼子	愛知淑徳大	148	清水　礼子 池田　洋美	愛知淑徳大	76
9	45	西脇　康彦	愛知大	214	佐々木貴一 中川　雅俊	名城大	104	西田　法子	愛知大	126	清水　礼子 浅沼布紗子	愛知淑徳大	68

愛知学生新人戦大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S31	1	稲熊　貞夫	名城大		加藤 伊藤	南山大		北野	金城学院大		北野 山川	金城学院大	
32	2	稲垣　正二	名城大		間瀬 中島	南山大		岡井	金城学院大		岡野 川島	金城学院大	
33	3	竹井	南山大		田中 楠原	南山大		平山	名古屋大		金丸 永田	金城学院大	
34	4	西崎	名古屋大		水野 岩堀	名古屋大		浜浦	椙山女学園大		浜浦 栗木　貴子	椙山女学園大	
35	5	青山	名古屋大		稲熊　文隆 若原	愛知教育大		中村　伸代	金城学院大		池田　幸 今井　純子	金城学院大	
36	6	加藤　賢雄	南山大		加藤　賢雄 長谷川雅樹	南山大		棚橋きよ子	名古屋女子大		棚橋きよ子 二村　朋子	名古屋女子大	
37	7	寺本　喜宥	名古屋大		竹内　邦嘉 鈴木　保	南山大		武田　宗子	金城学院大		武田　宗子 佐々木紘子	金城学院大	
38	8	木下　金司	南山大					近藤　順子	椙山女学園大		角田　和子 神田美和子	椙山女学園大	
39	9	篠田　忠明	愛知大		深尾　正勝 幸　克美	名古屋大		木達　昌子	名古屋大		岩井　寧子 高田登美子	名古屋大	
40	10	水谷　達也	愛知工業大		荒川 寺島	愛知教育大		岩井　寧子	椙山女学園大		魚住　光子 吉田　和子	金城学院大	
41	11	河合　義明	名古屋大		加藤 中島	名古屋大		稲垣　京子	名古屋市立大		小田切邦子 水野　淳子	椙山女学園大	
42	12	安井　孝守	南山大		安井　孝守 堀　正治	南山大		小森くに子	名古屋女子大		佐々木桂子 大脇とし子	椙山女学園大	
43	13	木村　真司	愛知工業大		二見　正夫 天野素義幸	名古屋商科大		石田みさ子	金城学院大		石田みさ子 栗本　幹子	金城学院大	
44	14	成瀬　英治	南山大		須崎　光久 稲垣　俊夫	南山大		田熊　和枝	日本福祉大		田熊　和枝 古川真知子	日本福祉大	
45	15	八神　由一	愛知教育大		竹内　章 竹内　幹仁	愛知工業大		中西　円美	南山大		中西　円美 渡辺　順子	南山大	
46	16	中畑　敏夫	名城大		広瀬　明 清水　秀二	南山大		渡辺　洋子	椙山女学園大		木村　澄江 西田　圭子	日本福祉大	
47	17	松井　智治	中京大		早川　秀敏 松本　正幸	中京大		川島みどり	愛知教育大		川島みどり 佐久間たかえ	愛知教育大	
48	18	野田　勝治	名古屋大		石川　啓一 岩田　甲司	中京大		内藤　愛子	市邨大		内藤　愛子 平松　初美	市邨大	
49	19	三浦　治	名城大		水谷　登 吉村　敏明	名城大		井沢　直子	中京大		井沢　直子 宇佐美町子	中京大	
50	20	中口　直人	中京大		中口　直人 飯田　賢次	中京大		西村恵以子	市邨学園短期大		西村恵以子 森本　敦子	市邨学園短期大	
51	21	宮原　誠	中京大		佐久間尚樹 加藤　憲治	南山大		植野美智子	愛知教育大		岸家小夜子 斉藤千恵美	中京大	
52	22	祖父江正昭	名城大		江角　義男 佐藤　秀俊	日本福祉大		赤井　玲子	日本福祉大		岡本　優子 赤井　玲子	日本福祉大	
53	23	近藤　祥夫	名城大		深沢　正己 近藤　祥夫	名城大		町田恵美子	名古屋女子大		道久　万理 鈴木須賀子	中京大	
54	24	川谷　弘文	名古屋大		黒川　哲夫 森川　伸之	南山大		山下千恵子	愛知大		南川　雅子 野々垣良江	椙山女学園大	
55	25	久田　利夫	愛知教育大		生田　弘幸 角谷　久幸	中京大		加藤　静代	愛知教育大		加藤　静代 伸井　淑乃	愛知教育大	
56	26	田名瀬克也	中京大		田名瀬克也 安達　幹夫	中京大		横山志津子	中京大		横山志津子 小島　恵子	中京大	
57	27	田村　豊	中部工業大		水野　隆治 中野　正己	名城大		浜田みゆき	中京女子大		浜田みゆき 後藤もと子	中京女子大	
58	28	山本　章生	名城大	239	林　保長 山田比呂志	名古屋商科大	118	佐藤真理子	愛知淑徳短大	219	鶴田　明子 三橋　結実	中京大	119

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S59	29	玉田　智史	名城大	217	丸井　浩樹 井上　優	愛知学院大	109	清水多美子	名古屋市女短大	129	田原利江子 速水　一美	愛知教育大	73
60	30	細　智映	南山大	214	近藤　篤俊 水谷　哲也	名城大	106	池崎　聖子	名古屋市女短大	140	池崎　聖子 松田　美恵	名古屋市女短大	80
61	31	浜田　征明	名古屋大	208	田住　曜理 入江　俊行	中京大	98	安田美智子	中京女子大	157	安田美智子 宇佐美栄理	中京女子大	91
62	32	近藤　豊	名城大	197	磯貝　隆 曽川　祐二	名城大	90	大須賀由美	日本福祉大	145	伊藤　真理 白井裕理子	南山大	80
63	33	若井　泉	南山大	187	山口　龍作 山本　浩晃	名城大	86	彦坂　智子	愛知大	137	郡　美奈子 伊藤　寛美	中京女子大	75
H1	34	矢野　辰幸	名古屋商科大	211	高田　豊文 安藤　敏晃	名古屋大	103	浅倉　幸代	愛知教育大	159	浅倉　幸代 加藤　千里	愛知教育大	95
2	35	石田　猛	名古屋商科大	180	天野　貴仁 松島　貴胤	愛知大	80	三徳　栄	名古屋商科大	173	桜井　恭子 小林　真理	愛知淑徳大	99
3	36	米山　賢	愛知大	261	吉田　昌司 中川　雅之	愛知大	119	宇留賀きよ	愛知淑徳大	177	宇留賀きよ 宇留賀さよ	愛知淑徳大	104
4	37	朝倉　貴光	日本福祉大	250	新井　敏生 日野　克哉	南山大	121	村田　佳苗	愛知学院大	184	太郎良和美 伊藤実和子	愛知淑徳大	113
5	38	山本　信也	愛知大	289	竹中　智之 万城目貴之	名城大	132	下條　和泉	中京女子大	221	長尾　優 佐野三枝子	中京女子大	122
6	39	藤田　勝靖	名城大	290	海瀬　武道 小林　洋介	日本福祉大	136	植田　智恵	愛知大	206	大草由美子 植田　智恵	愛知大	114
7	40	三宮　健司	名城大	281	三宮　健司 藤田　亮	名城大	141	北村美智代	日本福祉大	192	沢島　るみ 伊藤　孝子	中京女子大	108
8	41	高來　大介	名城大	281	中村　彰宏 野村　耕平	愛知大	136	高味　志帆	愛知淑徳大	202	高味　志帆 伊藤　悠子	愛知淑徳大	105
9													

愛知県高等学校総合体育大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子団体		女子団体		男子単			男子複			女子単			女子複		
		チーム名	参	チーム名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参
S42	21	名電工高		高蔵女商		大村　真司	名電工高		早崎　国・岸　道寺	名電工高		中川　淑子	高蔵女商		柴田　明美 中川　淑子	高蔵女商	
43	22	名電工高		高蔵女商		寺倉　道雄	名電工高		富田　清仁 森川三津夫	名電工高		牧　節子	高蔵女商		牧　節子 杉本　美則	高蔵女商	
44	23	名電工高		高蔵女商		森川三津夫	名電工高		加藤　悟 森川三津夫	名電工高		早川　幸子	高蔵女商		早川　幸子 石川ちづ子	高蔵女商	
45	24	名電工高		名女商		加藤　保利	名電工高		加藤　保利 菱田　修光	名電工高		堀　正子	高蔵女商		堀　正子 鈴木　清香	高蔵女商	
46	25	名電工高		高蔵女商		青山　忠雄	名電工高		鈴木　宏寿 小林　明則	東海高		波多野美代子	高蔵女商		岩田由美子 波多野美代子	高蔵女商	
47	26	名電工高		守山女商		福井　寿夫	時習館高		井上　竜 梶田　和也	東海高		宝力　京子	守山女商		宝力　京子 迫田真由美	守山女商	
48	27	東海高		守山女商		梶田　和也	東海高		梶田　和也 柴田　琢也	東海高		水森みち子	守山女商		名河　良子 斉藤　郁子	時習館高	
49	28	名電工高		市邨高		田村　隆典	名電工高		谷川　雅夫 角田　卓也	中村高		西村恵以子	市邨高		横井　恵子 磯野　信子	市邨高	
50	29	名電工高		市邨高		日比野伸昭	名電工高		日比野伸昭 松村　昌	名電工高		守矢美登里	市邨高		高木　聖子 守矢美登里	市邨高	
51	30	時習館高		市邨高		松村　昌	名電工高		中野　正晴 石田　卓朗	時習館高		伊藤　多恵	淑徳高		清水　美鈴 後藤　恭子	時習館高	
52	31	東海高		淑徳高		近藤　祥夫	半田農高		大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高		伊藤　多恵	淑徳高		伊藤　多恵 青山美智子	淑徳高	
53	32	名電高		名女大高		林　久男	名電高		林　久男 藤原　成仁	名電高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
54	33	東海高		淑徳高		校條　和久	東海高		校條　和久 藤田　哲康	東海高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
55	34	東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		富田　俊二 松岡　秀男	名電高		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
56	35	東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		富田　俊二 中村　昌司	名電高		光崎　祐子	淑徳高		光崎　祐子 佐藤真理子	淑徳高	
57	36	東海高		淑徳高		中島　義仁	東海高		中島　義仁 本田　秀明	東海高		近藤　晃代	淑徳高		近藤　晃代 中野　和美	淑徳高	
58	37	愛工大名電高	15	淑徳高	16	本田　秀明	東海高	64	本田　秀明 多和田秀保	東海高	64	中野　和美	淑徳高	64	中野　和美 近藤　晃代	淑徳高	64
59	38	愛工大名電高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	32	服部　慶・間瀬　敏秋	愛工大名電高	64	佐々木道子	淑徳高	32	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
60	39	愛工大名電高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	64	岡田　政朗 稲熊　滋訓	東海高	64	佐々木道子	淑徳高	64	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
61	40	岡崎城西高	14	淑徳高	16	田村　勝久	愛工大名電高	64	近藤　豊 石川　英彦	大府東高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	白谷　鈴子 恵木　清子	名女大高	64
62	41	岡崎城西高	14	淑徳高	16	稲葉　正行	半田東高	64	新宅　秀成 角田　敏洋	東海高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	64
63	42	岡崎城西高	14	佐屋高	16	加藤　寿彦	岡崎城西高	64	加藤　寿彦 大竹　達裕	岡崎城西高	64	林　矢須子	市邨高	64	林　矢須子 彦坂　知美	市邨高	64
H1	43	岡崎城西高	14	淑徳高	16	今野　淳	岡崎城西高	64	神山　紀雄 松島　貴胤	岡崎城西高	64	藤下　恭子	佐屋高	64	小林　真理 岸田　早苗	淑徳高	64
2	44	岡崎城西高	14	淑徳高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	渡辺　淳 尾野　信人	岡崎城西高	64	青木美代子	佐屋高	64	青木美代子 砂田ひかり	佐屋高	64
3	45	岡崎城西高	14	市邨高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	井鶴　寛興 花井　謙吉	岡崎城西高	64	二見　恭子	市邨高	64	下川　雅美 二見　恭子	市邨高	64
4	46	岡崎城西高	14	市邨高	16	井鶴　寛興	岡崎城西高	64	井鶴　寛興 清水　孝・	岡崎城西高	64	二見　恭子	市邨高	64	二見　恭子 中出　綾子	市邨高	64
5	47	岡崎城西高	15	淑徳高	16	鈴村　雅弘	岡崎城西高	64	鈴村　雅弘 安藤　健・	岡崎城西高	64	清水　礼子	淑徳高	64	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
6	48	岡崎城西高	15	淑徳高	16	清水　昭博	岡崎城西高	64	二反田貴幸 竹内　淳次	岡崎城西高	64	大山登茂枝	淑徳高	64	大山登茂枝 仁田原美樹	淑徳高	64
7	49	岡崎城西高	14	淑徳高	16	大島　康則	阿久比高	64	大館　武弘 西脇　康彦	岡崎城西高	64	下川　淳子	淑徳高	64	下川　淳子 高味　志帆	淑徳高	64
8	50	岡崎城西高	14	淑徳高	16	西脇　康彦	岡崎城西高	64	西脇　康彦 佐藤　圭・	岡崎城西高	64	岡部　亜衣	高蔵高	64	三宅　綾子 田島佳代子	淑徳高	64
9	51	東海高	14	淑徳高	16	久野　元嗣	岡崎城西高	64	久野　元嗣 佐藤　潤・	岡崎城西高	64	佐合　友麻	淑徳高	64	佐合　友麻 加藤　郁子	淑徳高	64

愛知県高等学校新人体育大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子団体		女子団体		男子単			男子複			女子単			女子複		
		チーム名	参	チーム名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参	選手名	所属名	参
S43		名電工高		高蔵女商					森川三津夫 加藤　悟	名電工高					石川ちづ子 早川　幸子	高蔵女商	
44		名電工高		高蔵女商					山田　清孝 桑原　由利	東海高					堀　正子 鈴木　清香	高蔵女商	
45		名電工高		高蔵女商					奥村　裕英 横井　靖一	名電工高					岩田由美子 山川	高蔵女商	
46		時習館高		守山女商					伊藤　睦彦 香村　司朗	名電工高					水谷加津美 杉山　敬子	高蔵女商	
47		名電工高		守山女商					佐治　悟 伊藤　清治	名電工高					小林　玲子 水森みち代	守山女商	
48		時習館高		市邨高					田村　隆典 桑名　達雄	名電工高					柏谷　典子 鈴木ゆみ子	時習館高	
49		名電工高		市邨高					日比野伸昭 福岡　滋之	名電工高					金子　容子 加藤麻利子	時習館高	
50		時習館高		市邨高					中西　康雄 河合　一樹	時習館高					後藤　恭子 清水　美鈴	時習館高	
51		時習館高		淑徳高					大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高					伊藤　多恵 青山美智子	淑徳高	
52		名電工高		市邨高					川崎　有恒 竹本　直彦	時習館高					今井　京子 柴田　道子	名女大高	
53		東海高		淑徳高					藤田　哲康 校條　和久	東海高					奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高	
54		東海高		淑徳高					竹原　雅之 野々部康宏	東海高					桜井　由美 角田　純子	市邨高	
55		東海高		淑徳高		富田　俊二	名電高		浅井　淳 中島　義仁	東海高		光崎　祐子	淑徳高		光崎　祐子 佐藤真理子	淑徳高	
56		東海高		淑徳高		中島　義仁	東海高		中島　義仁 長谷川和生	東海高		佐藤真理子	淑徳高		中野　和美 近藤　晃代	淑徳高	
57		東海高		淑徳高		本多　秀明	東海高		熊谷　直彦 本多　秀明	東海高		中野　和美	淑徳高		中野　和美 杉浦　清野	淑徳高	
58		愛工大名電高	15	淑徳高	16	服部　慶一	愛工大名電高		服部　慶一 間瀬　敏秋	愛工大名電高	64	佐々木道子	淑徳高		佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
59		東海高	14	淑徳高	16	岡田　政朗	東海高	103	岡田　政朗 稲熊　滋訓	東海高	64	佐々木道子	淑徳高	146	佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	64
60		大府東高	14	淑徳高	16	近藤　豊	大府東高	64	石川　英彦 近藤　豊	大府東高	64	稲熊　康子	淑徳高	64	柴田　佳世 稲熊　康子	淑徳高	64
61		東海高	13	淑徳高	16	木下　和俊	岡崎城西	64	稲垣　道弘 執行　真道	阿久比高	64	稲熊　康子	淑徳高	65	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	64
62		岡崎城西高	14	市邨高	16	加藤　寿彦	岡崎城西高	64	木下　和俊 浅田　佳孝	岡崎城西高	64	林　矢須子	市邨高	64	林　矢須子 彦坂　知美	市邨高	64
63		岡崎城西高	14	淑徳高	16	鬼頭　幸裕	愛工大名電高	64	今野　淳 平松　勝	岡崎城西高	65	藤下　恭子	佐屋高	64	木下　幸子 原　香織	淑徳高	64
H1		岡崎城西高	14	市邨高	16	安井　紳二	新川高	64	日野　克哉 福原　達雄	横須賀高	64	青木美代子	佐屋高	64	青木美代子 砂田ひかり	佐屋高	65
2		岡崎城西高	14	佐屋高	16	井鳩　寛興	岡崎城西高	63	井鳩　寛興 花井　謙吉	岡崎城西高	65	二見　恭子	市邨高	64	下川　雅美 二見　恭子	市邨高	63
3		岡崎城西高	14	市邨高	16	井鳩　寛興	岡崎城西高	64	井鳩　寛興 鈴村　雅弘	岡崎城西高	65	佐藤　陽子	佐屋高	64	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
4		岡崎城西高	15	淑徳高	16	杉戸　聡之	東海高	63	鈴村　雅弘 安藤　健一	岡崎城西高	65	中出　綾子	市邨高	63	中出　綾子 大村　泉	市邨高	64
5		岡崎城西高	14	淑徳高	16	清水　昭博	岡崎城西高	61	二反田貴幸 竹内　淳次	岡崎城西高	65	大山登茂枝	淑徳高	62	大山登茂枝 下川　淳子	淑徳高	65
6		岡崎城西高	14	淑徳高	16	大島　康則	阿久比高	67	大館　武弘 西脇　康彦	岡崎城西高	64	下川　淳子	淑徳高	65	下川　淳子 高味　志帆	淑徳高	64
7		岡崎城西高	14	淑徳高	16	西脇　康彦	岡崎城西	67	西脇　康彦 佐藤　圭一	岡崎城西高	66	佐合　友麻	淑徳高	66	武田　祐佳 寺田　綾	市邨高	65
8		岡崎城西高	14	淑徳高	16	山田　隆将	東海高	64	久野　元嗣 早川　晃	岡崎城西高	64	川島亜紀子	淑徳高	64	岡部　亜衣 吉田佳奈実	高蔵高	64
9		天白高	14	大府高	16	茶谷　一平	天白高	66	新海　宏哲 安形　聖	岡崎城西高	65	本田　正恵	大府高	65	本田　正恵 柿田　鮎美	大府高	64

愛知県高等学校学年別大会

男子の部

（参 ― 参加数、複は組数）

年度	回	1年単 選手名	1年単 所属	参	1年複 選手名	1年複 所属	参	2年単 選手名	2年単 所属	参	2年複 選手名	2年複 所属	参
S43		中村　悟	名電工高		加藤　保利 中村　悟	名電工高		森川三津夫	名電工高		加藤　悟 森川三津夫	名電工高	
44		奥村　裕英	名電工高		奥村　裕英 横井　靖・	名電工高		菱田　修光	名電工高		中村　悟 阿部　博	名電工高	
45		榊原　輝次	半田農高		榊原　輝次 青木　一夫	半田農高		奥村　裕英	名電工高		奥村　裕英 横井　靖・	名電工高	
46		梶田　和也	東海高		梶田　和也 河原　克己	東海高		香村　司朗	名電工高		青木　一夫 榊原　和夫	半田農高	
47		牧　弘元	東海高		後藤　尚志 鶴田　昌三	東海高		梶田　和也	東海高		河原　克己 柴田　琢也	東海高	
48		日比野伸昭	名電工高		三島　雅人 天埜　良彦	東海高		田村　隆典	名電工高		田村　隆典 桑名　達雄	名電工高	
49		松村　昌	名電工高		宮村　敏広 上梨　英雄	科技工高		日比野伸昭	名電工高		日比野伸昭 福岡　滋之	名電工高	
50		近藤　祥夫	半田農高		大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高		松村　昌	名電工高		佐々木秀紀 栖原　泰介	時習館高	
51		竹本　直彦	時習館高		竹本　直彦 川崎　有恒	時習館高		近藤　祥夫	半田農高		大西　紀幸 鈴木　勝男	東海高	
52		藤田　哲康	東海高		校条　和久 藤田　哲康	東海高		林　久男	名電高		川崎　有恒 竹本　直彦	時習館高	
53		竹原　雅之	東海高		小川　鉄男 野々部康宏	東海高		藤田　哲康	東海高		藤田　哲康 校条　和久	東海高	
54		富田　俊二	名電高		富田　俊二 中村　昌司	名電高		竹原　雅之	東海高		竹原　雅之 野々部康宏	東海高	
55		中島　義仁	東海高		長谷川和生 林　茂充	東海高		富田　俊二	名電高		富田　俊二 中村　昌司	名電高	
56		本多　秀明	東海高		本多　秀明 足立　弘明	東海高		中島　義仁	東海高		中島　義仁 長谷川和生	東海高	
57					間瀬　敏秋 服部　慶・	名電高					熊谷　直彦 本多　秀明	東海高	
58		木村　進	愛工大名電高	89	岡田　政朗 河野　智徳	東海高	144	服部　慶・	愛工大名電高	86	間瀬　敏秋 小島　厚志	愛工大名電高	127
59					田村　勝久 花井　寿光	愛工大名電高	171				稲熊　滋訓 高山　幸治	東海高	118
60		新宅　秀成	東海高	217	加古　利幸 神谷　佳宏	大府東高	246	近藤　豊	大府東高	177	石川　英彦 近藤　豊	大府東高	138
61		浅田　佳孝	岡崎城西高	215	浅田　佳孝 木下　和俊	岡崎城西高	246	角田　敏洋	東海高	198	稲垣　道弘 執行　真道	阿久比高	177
62		鬼頭　幸裕	愛工大名電高	215	平松　勝 今野　淳	岡崎城西高	246	大竹　達裕	岡崎城西高	198	木下　和俊 浅田　佳孝	岡崎城西高	177
63		日野　克哉	横須賀高	225	星野　信人 渡辺　淳	岡崎城西高	247	鬼頭　幸裕	愛工大名電高	178	平松　勝 今野　淳	岡崎城西高	135
H1		花井　謙吉	岡崎城西高	228	花井　謙吉 間瀬　竜也	岡崎城西高	270	星野　信人	岡崎城西高	236	星野　信人 渡辺　淳	岡崎城西高	185
2		井嶋　寛興	岡崎城西高	223	井嶋　寛興 割石　知幸	岡崎城西高	278	花井　謙吉	岡崎城西高	205	間瀬　竜也 田中　正博	岡崎城西高	183
3		鈴村　雅弘	岡崎城西高	331	黒木　誠 西脇　弘行	愛工大名電高	251	井嶋　寛興	岡崎城西高	325	井嶋　寛興 伸内　一雄	岡崎城西高	220
4		杉戸　聡之	東海高	354	小林　正博 二反田貴幸	岡崎城西高	264	鈴村　雅弘	岡崎城西高	317	鈴村　雅弘 安藤　健・	岡崎城西高	204
5		浜島　弐孝	大府東高	419	野々山進・ 古田　純	阿久比高	257	清水　昭博	岡崎城西高	243	二反田貴幸 竹内　淳次	岡崎城西高	190
6		西脇　康彦	岡崎城西高	421	西脇　康彦 佐々木直樹	岡崎城西高	253	三吉　良平	東海工高	376	愛甲　眞・ 大館　武弘	岡崎城西高	202
7		久野　元嗣	岡崎城西高	415	久野　元嗣 早川　晃	岡崎城西高	272	西脇　康彦	岡崎城西高	342	西脇　康彦 佐藤　圭・	岡崎城西高	181
8		新海　宏哲	岡崎城西高	355	満永　拡貴 山田　英樹	愛工大名電高	203	佐藤　潤・	岡崎城西高	332	加藤　大策 山田　隆将	東海高	178
9		柿田　和広	岡崎城西高	370	柿田　和広 河井　雄二	岡崎城西高	211	満永　拡貴	愛工大名電高	307	満永　拡貴 山田　英樹	愛工大名電高	157

女子の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	1年単 選手名	所属	参	1年複 選手名	所属	参	2年単 選手名	所属	参	2年複 選手名	所属	参
S43		堀　正子	高蔵女商高		大塚百合子 中野　伸美	名女商高		石川ちづ子	高蔵女商高		早川　幸子 石川ちづ子	高蔵女商高	
44		波多野美代子	高蔵女商高		波多野美代子 吉田由美子	高蔵女商高		堀　正子	高蔵女商高		堀　正子 鈴木　清香	高蔵女商高	
45		水谷加津美	高蔵女商高		水谷加津美 尾崎　早苗	高蔵女商高		波多野美代子	高蔵女商高		波多野美代子 岩田由美子	高蔵女商高	
46		水森みち代	守山女商高		本田　洋子 田岡　明美	名女大高		宝力　京子	守山女商高		宝力　京子 迫田真由美	守山女商高	
47		広瀬　清子	淑徳高		安藤登美代 磯部千賀子	半田農高		本田　浩子	名女大高		石河　良子 斉藤　郁子	時習館高	
48		笹森るり子	市邨高		笹森るり子 寺田　明子	市邨高		磯野　信子	市邨高		磯野　信子 横井　恵子	市邨高	
49		堀　房代	淑徳高		堀　房代 竹内　陽子	淑徳高		守矢美登里	市邨高		高木　聖子 守矢美登里	市邨高	
50		伊藤　多恵	淑徳高		伊藤　多恵 伊藤久美子	淑徳高		加藤　典子	市邨高		清水　美鈴 後藤　恭子	時習館高	
51		加藤　佳子	豊田東高		柴田　道子 今井　京子	名女大高		山下千恵子	知多高		朝倉　広子 柴田多津子	時習館高	
52		丸井ひとみ	一宮西高		丸井ひとみ 光嵩　雅子	一宮西高		中谷ゆかり	金城高		今井　京子 柴田　道子	名女大高	
53		奥村ひろみ	淑徳高		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳高		梅村　由美	市邨高		梅村　由美 石村　律子	市邨高	
54		光崎　祐子	淑徳高		河合　宏美 岸　真弓己	市邨高		奥田ひろみ	淑徳高		奥田ひろみ 奥村　恭子	淑徳高	
55		佐藤真理子	淑徳高		石川　昭子 加藤　富貴	市邨高		光崎　祐子	淑徳高		光崎　祐子 吉田　由美	淑徳高	
56		近藤　晃代	淑徳高		近藤　晃代 中野　和美	淑徳高		石川　昭子	市邨高		石川　昭子 加藤　富貴	市邨高	
57					稲川　晴美 上島由美子	春日井東高					近藤　晃代 間宮　弘恵	淑徳高	
58		宿屋美佐子	淑徳高	122	佐々木道子 宿屋美佐子	淑徳高	220	鈴木　昇子	市邨高	104	林　美和 小俣　栄	丹羽高	158
59					椎葉　好美 白谷　鈴子	名女大高	249				佐々木道子 六郷　由香	淑徳高	195
60		稲熊　康子	淑徳高	264	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	325	墨　久子	市邨高	219	白谷　鈴子 椎葉　好美	名女大高	201
61		林　矢須子	市邨高	284	加藤　佳美 早川美奈子	佐屋高	332	稲熊　康子	淑徳高	231	稲熊　康子 森　ゆかり	淑徳高	234
62		佐藤　孝子	市邨高	392	安藤　充子 大宅　友里	佐屋高	325	加藤　佳美	佐屋高	319	加藤　佳美 早川美奈子	佐屋高	234
63		山下　新	市邨高	258	清田　直美 伊藤実和子	淑徳高	319	佐藤　孝子	市邨高	198	小林　真理 桜井　恭子	淑徳高	166
H1		下川　雅美	市邨高	268	渡辺　尚己 都築真由美	市邨高	354	山下　新	市邨高	233	青木美代子 鈴木　和泉	佐屋高	217
2		二見　恭子	市邨高	276	鈴木　冬子 小林ゆかり	淑徳高	369	中水流由美	佐屋高	239	渡辺　尚己 都築真由美	市邨高	259
3		清水　礼子	淑徳高	422	中出　綾子 大村　泉	市邨学園高	368	二見　恭子	市邨学園高	373	鈴木　冬子 小林ゆかり	淑徳高	300
4		林　栄美	佐屋高	430	堀　絵理子 林　栄美	佐屋高	363	芳金　裕美	佐屋高	415	芳金　裕美 四方　希	佐屋高	316
5		下川　淳子	淑徳高	507	飯島　直美 長坂　朋	大府高	361	仁田原美樹	淑徳高	499	大山登茂枝 仁田原美樹	淑徳高	318
6		田島佳代子	淑徳高	556	武田　祐佳 伊藤　由子	市邨高	419	山本　彩香	高蔵高	465	飯島　直美 長坂　朋	大府高	280
7		岡部　亜衣	高蔵高	508	岡部　亜衣 吉田佳奈実	高蔵高	390	武田　祐佳	市邨学園高	490	武田　祐佳 寺田　綾	市邨学園高	314
8		水野　香里	淑徳高	475	水野　香里 丸田　薫	淑徳高	331	岡部　亜衣	高蔵高	398	岡部　亜衣 吉田佳奈実	高蔵高	251
9		岸　奈々代	淑徳高	401	小田真由美 野田智津子	大府高	321	水野　香里	淑徳高	401	水野　香里 丸田　薫	淑徳高	253

愛知県高等学校選手権大会

（参　参加数、複は組数）

年度	回	男子単 選手名	所属	参	男子複 選手名	所属	参	女子単 選手名	所属	参	女子複 選手名	所属	参
S24		富田　武	西陵高		富田　武 金久	西陵高		小粥　弘子	瑞陵高		小粥　弘子 豊場	瑞陵高	

愛知県中学校大会

（参――参加数）

年度	回	男子		女子	
		団体名	参	団体名	参
S42	1	東海中		淑徳中	
43	2				
44	3				
45	4	成岩中		成岩中	
46	5	成岩中		亀崎中	

年度	回	男子		女子	
		団体名	参	団体名	参
S47	6	成岩中		高蔵中	
48	7	東海中		藤山台中	
49	8	東海中	5	藤山台中	11
50	9	成岩中		知立中A	
51	10	東海中A		藤山台中	

年度	回	男子		女子	
		団体名	参	団体名	参
S52	11	東海中A		藤山台中	
53	12	亀崎中		成岩中A	
54	13	東海中A		藤山台中	
55	14	東海中A		淑徳中A	
56	15	亀崎中		大府西中	

愛知県中学校総合体育大会 兼 愛知県中学校大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子		女子		男子単			男子複			女子単			女子複		
		団体名	参	団体名	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S57	36	東海中		淑徳中		稲熊　滋訓	東海中		岡田　政朗 河野　智徳	東海中		佐々木道子	淑徳中		六郷　由香 伊藤　千恵	淑徳中	
58	37	大府西中		大府西中		田村　勝久	藤山台中		近藤　豊 石川　英彦	大府西中		松山　康子	大府西中		日野　純子 藤川あけみ	大府西中	
59	38	大府西中	13	大府西中	25	角田　敏洋	東海中	28	加古　利幸 神谷　佳宏	大府西中	24	稲熊　康子	淑徳中	51	大宅　朋恵 恵木　清子	大府西中	51
60	39	大府西中	14	大府西中	25	篠原　貴浩	大府西中	31	木下　和俊 浅田　佳孝	大府西中	29	岩波　寛子	萬日寺中	28	伴　由紀子 伊相　直美	大府西中	28
61	40	天神山中	13	大府西中	23	今野　淳	大府西中	28	吉田　忠幸 平松　勝	天神山中	26	藤下　恭子	木曽川中	26	上村　知絵 大宅　友里	大府西中	26
62	41	大府西中	15	大府西中	24	安井　紳二	名塚中	32	日野　克哉 坂野　和久	大府西中	32	青木美代子	大府北中	26	原　香織 近藤　三葉	大府西中	36
63	42	大府西中	20	半田中	20	青木　紳也	阿久比中	41	花井　謙吉 植田　達郎	大府西中	38	二見　恭子	都井西部中	28	渡辺　尚己 賢生恵美子	半田中	28
H1	43	大府西中	19	松原中	22	平松　孝浩	当地中	38	井嶋　寛興 渡辺　進二	大府西中	38	二見　恭子	都井西部中	24	井上　文江 中園　久美	松原中	24
2	44	守山北中	17	松原中	25	鈴村　雅弘	阿久比中	26	深谷　基樹 安藤　健一	守山北中	26	森田紫帆里	武豊中	24	芳金　裕美 小田　花江	阿久比中	26
3	45	大府中	17	大府西中	25	杉戸　聡之	大府中	26	竹内　淳次 二反田貴幸	大府西中	26	池田　瑞穂	半田中	26	野地　奈苗 野地　香苗	武豊中	26
4	46	大府西中	17	大府西中	25	三吉　良平	藤山台中	26	愛甲　眞一 榊原　啓介	大府西中	26	下川　淳子	半田中	27	長坂　朋 飯島　直美	大府西中	26
5	47	大府中	17	都井中部中	25	早川　裕之	大府中	46	関　俊博 関　弘志	阿久比中	44	鈴木　悦子	大府北中	52	武田　祐佳 岡部　亜衣	都井中部中	52
6	48	大府中	17	都井中部中	24	久野　元嗣	大府中	45	早川　晃 佐野　稔文	大府中	44	岡部　亜衣	都井中部中	52	黒木久美子 蟹江　寛子	阿久比中	54
7	49	阿久比中	17	大府北中	24	稲垣　翔悟	石尾台中	40	成田　清二 久野　俊哉	大府中	40	柿田　鮎美	大府北中	52	水野　香里 本田　正恵	大府北中	52
8	50	大府中	17	大府北中	24	稲垣　翔悟	石尾台中	39	山口寿希郎 早川　悟	大府中	40	本田　正恵	大府北中	52	野田智津子 武部奈穂子	大府西中	52
9	51	大府中	17	大府北中	24	山口寿希郎	大府中	44	浜島　静士 古澤　純	大府中	44	川戸　和子	大府北中	52	西村　直美 水野　奈保	大府北中	

愛知県中学生大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S51	1	竹原　雅之	東海中		桜井　孝二 三宅　利秀	成岩中		丸井ひとみ	一宮北部中		榊原恵美子 上坂　妙子	成岩中	
52	2	竹原　雅之	東海中		石田　基至 武田　豊	千種台中		奥村ひろみ	淑徳中		奥村ひろみ 奥田　恭子	淑徳中	
53	3	武田　豊	千種台中		間瀬　直人 竹内　崇文	亀崎中		渡部百合子	成岩中		渡部百合子 市野みづほ	成岩中	
54	4	中島　義仁	東海中		林　茂充 長谷川和生	東海中		石川　昭子	藤山台中		石川　昭子 佐藤真理子	藤山台中	
55	5	堀口　桂介	東海中		多和田英保 堀口　桂介	東海中		中野　和美	淑徳中		中野　和美 鬼頭　文子	淑徳中	
56	6	稲熊　滋訓	東海中		間瀬　敏秋 久米　宏和	亀崎中		森　真紀子	大府西中		佐橋　園子 大井　潤美	小牧中	
57	7	稲熊　滋訓	東海中		岡田　政朗 中元　克治	東海中		佐々木道子	淑徳中		佐々木道子 六郷　由香	淑徳中	
58	8	近藤　豊	大府西中		近藤　豊 石川　英彦	大府西中		稲熊　康子	淑徳中		日野　純子 藤川あけみ	大府西中	
59	9	加古　利幸	大府西中	45	加古　利幸 神谷　佳宏	大府西中	29	稲熊　康子	淑徳中	133	大宅　朋美 恵木　清子	大府西中	
60	10	篠原　貴治	大府西中	76	木下　和俊 浅田　佳孝	大府西中	35	和田　景子	武豊中	158	伴　由起子 伊相　直美	大府西中	96
61	11	高桑　敏郎	天神山中	85	今野　淳 松島　貴胤	大府西中	44	渡辺　桂子	名塚中	183	竹本　直子 大宅　友里	大府西中	94
62	12	日野　克哉	大府西中	100	日野　克哉 坂野　和久	大府西中	51	原　香織	大府西中	295	原　香織 近藤　三葉	大府西中	162
63	13	植田　達郎	大府西中	114	間瀬　竜也 坂野　昌志	大府西中	55	堀口　玲奈	淑徳中	285	堀口　玲奈 堀川　倫子	淑徳中	144
H1	14	平松　孝浩	当地中	129	渡辺　進二 小笠原　弘	大府西中	61	二見　恭子	春日井西部中	313	二見　恭子 鈴木　冬子	春日井西部中	170
2	15	安藤　健一	守山北中	131	深谷　基樹 安藤　健一	守山北中	67	大村　泉	松原中	325	池田　洋美 大村　泉	松原中	174
3	16	杉戸　聡之	大府中	139	小林　政博 落合　亮平	守山北中	69	大山登茂枝	淑徳中	312	野地　香苗 野地　奈苗	武豊中	166
4	17	愛甲　眞市	大府西中	147	愛甲　眞市 榊原　啓介	大府西中	74	下川　淳子	半田中	311	松田　美紀 長坂　朋	大府西中	166
5	18	佐藤　圭一	大府北中	123	早川　裕之 筒井　範行	大府中	61	武田　祐佳	春日井中部中	287	武田　祐佳 岡部　亜衣	春日井中部中	140
6	19	久野　元嗣	大府中	118	久野　元嗣 早川　晃	大府中	62	岡部　亜衣	春日井中部中	263	岡部　亜衣 田佳　奈実	春日井中部中	140
7	20	稲垣　翔悟	石尾台中	125	稲垣　翔悟 山田　敏彦	石尾台中	61	岩下　夕子	阿久比中	257	柿田　鮎美 水野　香里	大府北中	128
8	21	山田　敏彦	石尾台中	145	山口寿希郎 早川　悟	大府中	69	本田　正恵	大府北中	258	本田　正恵 川戸　和子	大府北中	129
9	22	加藤　康太	大府北中	146	古澤　純 浜島　静士	大府中	70	川戸　和子	大府北中	255	川戸　和子 道家　奈緒	大府北中	134

愛知県中学生新人大会

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S52	1	富田	千種台中		竹内 崇文 間瀬 直人	亀崎中		渡部百合子	成岩中		渡部百合子 石川	成岩中	
53	2	中島 義仁	東海中		林茂 充 長谷川和生	東海中		今井 孝子	木曽川中		吉江 智代 尾崎 佳子	亀崎中	
54	3	多和田英保	東海中		堀口 桂介 多和田英保	東海中		杉浦 清野	大府中		杉浦 清野 荒川 結花	大府中	
55	4	稲熊 滋訓	東海中		岩本 剛彦 服部 慶一	亀崎中		浜島 里美	大府中		佐橋 園子 大井 潤美	小牧中	
56	5	岡田 政朗	東海中		稲熊 滋訓 岡田 政朗	東海中		佐々木道子	淑徳中		佐々木道子 六郷 由香	淑徳中	
57	6	田村 勝久	藤山台中		田村 勝久 宍戸 秀郎	藤山台中		藤川あけみ	大府西中		日野 純子 藤川あけみ	大府西中	
58	7	加古 憲	大府西中		加古 憲 加古 利幸	大府西中		稲熊 康子	淑徳中		大宅 朋恵 恵木 清子	大府西中	
59	8	浅田 佳孝	大府西中	60	木下 和俊 浅田 佳孝	大府西中	39	和田 景子	武豊中	124	伴 由起子 花井 規恵	大府西中	88
60	9	今野 淳	大府西中		生田 純也 清水 誠司	天神山中		竹本 直子	大府西中		竹本 直子 上村 知絵	大府西中	
61	10	安井 紳二	名塚中	92	日野 克哉 坂野 和久	大府西中	38	青木美代子	大府北中		原 香織 近藤 三葉	大府西中	
62	11	花井 憲吉	大府西中	99	花井 憲吉 植田 達郎	大府西中	51	二見 恭子	春日井西部中	288	太郎良和美 金山 弥樹	大府西中	151
63	12	井嶋 寛興	大府西中	108	井嶋 寛興 渡辺 進二	大府西中	58	二見 恭子	春日井西部中	261	二見 恭子 鈴木 冬子	春日井西部中	153
H1	13	深谷 基樹	守山北中	74	深谷 基樹 安藤 健一	守山北中	65	中出 綾子	松原中	212	大村 泉 池田 洋美	松原中	147
2	14	杉戸 聡之	大府中	89	杉戸 聡之 萬道 祐介	大府中	62	長田美保子	春日井中部中	196	伊香賀華枝 寺島 順子	大府北中	144
3	15	三吉 良平	藤山台中	81	榊原 啓介 愛甲 眞一	大府西中	53	下川 淳子	半田中	212	長坂 朋 松田 美紀	大府西中	147
4	16	早川 裕之	大府中	91	早川 裕之 筒井 範行	大府中	58	武田 祐佳	春日井中部中	185	伊藤 由子 三宅 綾子	春日井中部中	133
5	17	久野 元嗣	大府中	74	久野 元嗣 早川 晃	大府中	51	岡部 亜衣	春日井中部中	170	岡部 亜衣 吉田佳奈実	春日井中部中	122
6	18	水谷亜徒夢	田光中	69	稲垣 翔悟 山田 敏彦	石尾台中	51	柿田 鮎美	大府北中	143	柿田 鮎美 水野 香里	大府北中	102
7	19	稲垣 翔悟	石尾台中	101	稲垣 翔悟 山田 敏彦	石尾台中	54	本田 正恵	大府北中	212	本田 正恵 川戸 和子	大府北中	116
8	20	山口寿希郎	大府中	125	山口寿希郎 深谷 茂央	大府中	64	川戸 和子	大府北中	225	川戸 和子 西村 直美	大府北中	115
9	21	清水 健介	大府南中	124	野村 享平 千葉 信輔	津賀田中	62	濱田美久恵	大府南中	225	鈴木麻衣子 本田 民子	大府北中	118

1年生の部

※7年度より1年生も2年単に参加できる

（参　参加数）

年度	回	男子			女子		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参
S63	12	鈴村 雅弘	阿久比中	57	中出 綾子	松原中	138
H1	13	杉戸 聡之	大府中	60	長田美保子	春日井中部中	138
2	14	田之 端豊	大府西中	30	長坂 朋	大府西中	65
3	15	西脇 康彦	大高中	32	愛甲 美幸	大府西中	67
4	16	久野 元嗣	大府中	26	岡部 亜衣	春日井中部中	51

年度	回	男子			女子		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参
H5	17	大久保直樹	守山北中	23	柿田 鮎美	大府北中	51
6	18	稲垣 翔悟	石尾台中	29	本田 正恵	大府北中	50
7	19	加藤 康太	大府北中	28	西村 直美	大府北中	58
8	20	清水 健介	大府南中	32	奥田 紀子	大府北中	59
9	21	山田 尚幸	津賀田中	35	奥田 敦子	大府北中	59

愛知県小学生大会　個人戦

（参――参加数）

年度	回	男子 選手名	男子 所属	参	女子 選手名	女子 所属	参
S58	1	久世　英之	春日井市立東野小		田中　聖華	春日井市立上条小	
59	2	久世　英之	春日井市立東野小	8	青木美代子	大府市立北山小	74
S60	3	伊藤　太郎	春日井市立上条小	15	瓜生美穂子	春日井市立坂下小	104
61	4	深谷　隆司	大府市立石ケ瀬小	24	二見　恭子	春日井市立上条小	132

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単 選手名	男子単 所属	参	女子単 選手名	女子単 所属	参	女子複 選手名	女子複 所属	参
S62	5	西脇　弘行	名古屋市立大高北小	15	中出　綾子	春日井市立上条小	106	坂野　裕子 横山　俊恵	大府市立吉田小	14

4年生以下の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単 選手名	男子単 所属	参	男子複 選手名	男子複 所属	参	女子単 選手名	女子単 所属	参	女子複 選手名	女子複 所属	参
S63	6	西脇　康彦	名古屋市立大高北小	9				武田　祐佳	春日井市立上条小	24			
H1	7	石川　将史	常滑市立大野小	10				吉田佳奈実	春日井市立小野小	21	伊藤歌奈子 山田　晴加	名古屋市立大須小	2
2	8	松井　　潮	大府市立石ケ瀬小	8				松名瀬久美	大府市立北山小	23			
3	9	稲垣　翔悟	春日井市立押沢台小	9				武部奈穂子	大府市立石ケ瀬小	29			
4	10	桑山　紀久	常滑市立大野小	7				川戸　和子	大府市立北山小	25	西村　直美 川戸　和子	大府市立北山小	4
5	11	清水　健介	大府市立吉田小	9	三ツ岡・基 桑山　貴也	常滑市立大野小	4	奥村　悠子	犬山市立城東小	16	奥村　悠子 大澤　真里	犬山市立城東小	11
6	12	三ツ岡・基	常滑市立大野小	20	三ツ岡一基 桑山　　也	常滑市立大野小	3	小田　　薫	大府市立石ケ瀬小	30	小田　　薫 大内　　幸	大府市立石ケ瀬小	20
7	13	田中　陽・	大府市立石ケ瀬小	14	田中　陽・ 浜島　寿彰	大府市立石ケ瀬小 大府市立神田小	4	清水つかさ	大府市立吉田小	25	清水つかさ 浜江　麻美	大府市立吉田小	9
8	14	植木　寛巳	名古屋市立長須賀小	9	中口　竜郎 清水　智浩	大府市立石ケ瀬小 名古屋市立八幡小	3	清水つかさ	大府市立吉田小	24	道家　亜希 道家　友紀	大府市立東山小	22
9	15	千葉　俊輔	名古屋BSB	19	加茂　亮佑 宮地　皓大	岡崎JBC	3	濱島　未来	石ケ瀬SB	40	浦壁　莉沙 水野　留里	北山東山FBC	28

5年生以下の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単 選手名	男子単 所属	参	男子複 選手名	男子複 所属	参	女子単 選手名	女子単 所属	参	女子複 選手名	女子複 所属	参
S63	6	佐藤　裕樹	知多市立旭東小	14				松田　美紀	大府市立石ケ瀬小	52			
H1	7	西脇　康彦	名古屋市立大高北小	8	西之園和樹 浜島　郷志	大府市立神田小	3	武田　祐佳	春日井市立上条小	37	永田　佳子 伊藤　中子	春日井市立上条小	6
2	8	清水　賢・	名古屋市立八幡小	9				長坂　　文	大府市立石ケ瀬小	30	前川　信子 松葉　聡子	大府市立石ケ瀬小	6
3	9	青木　周平	常滑市立大野小	12				松名瀬久美	大府市立北山小	28	安藤　美和 岩下　夕子	阿久比町立英比小	10
4	10	稲垣　翔悟	春日井市立押沢台小	15	光田　　翼 野村　征司	名古屋市立宝南小 名古屋市立井戸田小	4	武部奈穂子	大府市立石ケ瀬小	37	武部奈穂子 野田智津子	大府市立石ケ瀬小	16
5	11	山口寿希郎	大府市立大府小	12	山口寿希郎 日比野善成	大府市立大府小 大府市立石ケ瀬小	6	川戸　和子	大府市立北山小	31	水野　奈保 西村　直美	大府市立北山小	22
6	12	清水　健介	大府市立吉田小	13	清水　健介 伴　　量平	大府市立吉田小	4	濱田美久恵	大府市立吉田小	38	河合　夏美 打樋亜由美	田原町立童浦小	24
7	13	三ツ岡・基	常滑市立大野小	20	三ツ岡・基 桑山　貴也	常滑市立大野小	5	小田　　薫	大府市立石ケ瀬小	43	小田　　薫 北尾　美保	大府市立石ケ瀬小	26
8	14	田中　陽・	大府市立石ケ瀬小	18	田中　陽・ 浜島　寿彰	大府市立石ケ瀬小 大府市立神田小	7	長井　暁子	大府市立北山小	27	廣瀬　暗 太地　鮎美	大府市立北山小	28
9	15	清水　智浩	名古屋BSB	11	清水　智浩 安川　洋平	名古屋BSB	3	清水つかさ	石ケ瀬SB	58	道家　亜希 道家　友紀	北山東山FBC	28

6年生以下の部

（参――参加数、複は組数）

年度	回	男子単			男子複			女子単			女子複		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
S63	6	木段野博之	春日井市立上条小	11				青木 英子	常滑市立大野小	83			
H1	7	石川 澄	長久手町立長久手南小	23	原口 和正 浜島 武孝	大府市立神田小	3	山口 裕子	常滑市立大野小	55	石川 仁美 桑山 昌美	常滑市立大野小	14
2	8	西脇 康彦	名古屋市立大高北小	12				武田 祐佳	春日井市立上条小	56	永田 佳子 伊藤 由子	春日井市立上条小	12
3	9	清水 賢一	名古屋市立八幡小	10				長坂 文	大府市立石ケ瀬小	45	渡辺みのり 松葉 聡子	大府市立石ケ瀬小	24
4	10	石川 恭平	大府市立石ケ瀬小	6	松井 潮 石川 恭平	大府市立石ケ瀬小	8	富房 悦子	大府市立石ケ瀬小	36	柿田 鮎美 松名瀬久美	大府市立北山小	30
5	11	稲垣 翔悟	春日井市立押沢台小	13	杉浦 貴彦 稲垣 翔悟	豊田市立衣ケ丘小 春日井市立押沢台小	7	本田 正恵	大府市立北山小	46	武部奈穂子 野田智津子	大府市立石ケ瀬小	39
6	12	山口寿希郎	大府市立大府小	23	山口寿希郎 日比野善成	大府市立大府小 大府市立石ケ瀬小	8	川戸 和子	大府市立北山小	53	水野 奈保 西村 直美	大府市立北山小	41
7	13	清水 健介	大府市立吉田小	20	光田 資 野村 享平	名古屋市立宝南小 名古屋市立井戸田小	10	奥田 紀子	大府市立北山小	43	奥田 紀子 鈴木麻衣子	大府市立北山小	27
8	14	山田 尚幸	名古屋市立井戸田小	23	三ツ岡 一基 桑山 貴也	常滑市立大野小	11	北尾 美保	大府市立石ケ瀬小	60	北尾 美保 小田 薫	大府市立石ケ瀬小	31
9	15	田中 陽一	石ケ瀬SB	20	田中 陽一 浜島 寿彰	石ケ瀬SB	9	長井 暁子	北山東山FBC	35	廣瀬 暸 太地 鮎美	北山東山FBC	29

愛知県小学生大会　団体戦

（参――参加数）

年度	回	男子		女子		年度	回	男子		女子		年度	回	男子		女子	
		チーム名	参	チーム名	参			チーム名	参	チーム名	参			チーム名	参	チーム名	参
H7	1	名古屋BSB（A）	8	北山FBC	11	H8	2	大府石ケ瀬SB	10	北山FBC	16	H9	3	石ケ瀬SB	7	北山東山FBC	12

愛知県小学生新人大会

男子の部

（参――参加数）

年度	回	3年生単			4年生単			5年生単			6年生単		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
H9	1							安川 洋平	名古屋BSB		田中 陽一	石ケ瀬SB	
	2	深尾 淳	石ケ瀬SB	9	千葉 俊輔	名古屋BSB	12	深尾 直哉	石ケ瀬SB	8			

女子の部

年度	回	3年生単			4年生単			5年生単			6年生単		
		選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参	選手名	所属	参
H9	1							清水つかさ	石ケ瀬SB		長井 暁子	北山東山FBC	
	2	野口 佑梨	大野SB	19	濱島 未花	石ケ瀬SB	19	妹尾 友希	石ケ瀬SB	45			

規　定　集

愛知県バドミントン協会関係

愛知県バドミントン協会規約

（名称及び所在地）

第１条　本会は、愛知県バドミントン協会と称し、外国に対しては THE AICHI BADMINTON ASSOCIATION（略称A.B.A）とする。

第２条　本会の事務所は愛知県内に置く。

（目的及び事業）

第３条　本会は財団法人日本バドミントン協会の支部として、愛知県内におけるバドミントン界を統括し、代表する団体としてバドミントンの健全なる普及を図り併せて県民の体位向上並びに社会体育振興に寄与することを目的とする。

第４条　本会は前条の目的を達成するため下記の事業を行う。

1．競技の指導、普及及び強化に関すること。
2．競技大会の開催に関すること。
3．全国大会及び国際大会等の開催に関すること。
4．技術の研究及び指導に関すること。
5．財団法人日本バドミントン協会と連絡を緊密に図ること。
6．バドミントンに関する調査、研究資料の収集、印刷物及び機関誌の発行に関すること。
7．その他本会の目的を達成するに必要な事項に関すること。

（組織）

第５条　本会はアマチュア・スポーツ競技団体の性格を有し、本会の趣旨に賛同する下記の加盟団体をもって組織する。

1．愛知県実業団バドミントン連盟
2．愛知県社会人バドミントン連盟
3．愛知県教職員バドミントン連盟
4．愛知県家庭婦人バドミントン連盟
5．愛知県学生バドミントン連盟
6．愛知県高等学校体育連盟バドミントン専門部
7．愛知県中小学校体育連盟バドミントン部
8．愛知県小学生バドミントン連盟
9．愛知県内市町村バドミントン協会又は連盟

（加盟及び登録）

第６条　加盟団体は分担金を納入する。加盟団体に属するものは登録規定により登録しなければならない。登録規定は別に定める。

（機関）

第７条　本会の機関は総会、理事会及び常務理事会とし、必要に応じ専門委員会を置く。

第８条　総会は、会長、副会長、理事、監事、評議員で構成し次の事項を審議する。

1．事業及び収支決算の報告並びに承認
2．予算の編成及び事業計画
3．規約の改廃
4．役員の選任
5．加盟及び脱退の承認
6．加盟分担金及び登録料の決定
7．その他の重要事項

第９条　理事会は、会長、副会長、理事をもって構成し、総会の委任事項の審議及びその執行を分掌する。

第10条　常務理事会は常務理事をもって構成し、理事会の委任事項を執行する。

第11条　専門委員会は専門委員をもって構成し、専門事項を協議し意見を理事会に提出する。また、理事会の委任事項につき執行する　専門委員会の規定は理事会決議により別に定める。

第12条　総会は毎年１回会長が招集し、また必要に応じ臨時総会を招集することができる。

第13条　理事会は必要に応じ会長が、専門委員会は委員長が招集する。

第14条　総会又は理事会の議長は会長が、専門委員会の議長は委員長がそれぞれあたる。

第15条　本会の機関は構成人員の２分の１以上の出席をもって成立し、その決議は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。
ただし、構成員が出席できないときは、他に議決権を委任することができる。
この場合、委任した構成員は出席したものとみなす。

（役員）

第16条　本会に次の役員を置く。

会　長　１名
副会長　若干名
理　事　若干名
（理事長１名、副理事長若干名、常務理事若干名）
評議員加盟団体の評議員数は次のとおりとする。

1．実業団連盟に加盟する団体	各１名
2．社会人連盟に加盟する団体	各１名
3．教職員連盟	１名
4．家庭婦人連盟に加盟する団体	各１名
5．学生連盟に加盟する団体	各１名
6．高等学校体育連盟専門部に加盟する団体	各１名
7．中小学校体育連盟に加盟する団体	各１名
8．小学生連盟に加盟する団体	各１名
9．市町村協会又は連盟	各１名

評議員の確定数は、総会開催日より90日前とする。

第17条　会長、副会長は総会において推せんする。
会長は本会を代表し、会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
理事は加盟団体より選出したもの及び総会の推せんにより会長が委嘱したものとし、理事長、副理事長、常務理事は理事の互選により会長が委嘱する。
理事長は会長の指示を受け、会務を掌理し、常務理事、理事は会務を分掌する。
理事長事故あるときは、副理事長がその職務を代理する。
評議員は加盟団体を代表し、総会において重要事項の審議にあたる。
監事は総会の議を経て会長が委嘱する。監事は本会の会計を監査する。
専門委員は理事会の議を経て会長が委嘱する。

第18条　本会は必要に応じ、総会の議を経て、名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。顧問及び参与は会長の諮問に応じる。

第19条　役員の任期は２年とし、再任をさまたげない。補充役員の任期は前任者の残任の期間とする。

（経費及び会計）

第20条　本会の経費は、加盟団体の分担金、登録料、寄附金及び補助金その他の収入をもってあてる。

第21条本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日をもって終わる。

（細則）

第22条　本規約施行に必要な細則は別に定める。

附　則　１．この規約は、昭和55年４月１日より施行する。
２．昭和35年４月１日施行の愛知県バドミントン協会規約は、この規約の施行に伴い廃止する。

附　則　この規約は、平成８年４月１日より施行する。

愛知県バドミントン協会専門委員会規定

第１条　愛知県バドミントン協会（以下「本会」という。）規約第11条により本規定を定める。

第２条　本会に総務委員会、広報委員会、競技委員会、審判委員会、指導委員会及び選手強化委員会を置く。

第３条　各委員会の構成は次のとおりとする。

１．総務委員会	委員長１名	副委員長２名	委員若干名
２．広報委員会	委員長１名	副委員長２名	委員若干名
３．競技委員会	委員長１名	副委員長３名	委員若干名
４．審判委員会	委員長１名	副委員長２名	委員若干名
５．指導委員会	委員長１名	副委員長２名	委員若干名
６．選手強化委員会	委員長１名	副委員長２名	委員若干名

第４条　各委員会の委員長は、原則として常務理事があたる。

第５条　委員長は各委員会を代表してその職務を遂行する。

第６条　各委員会は理事会の委任事項及び第８条から第13条までの事項を執行する。

第７条　理事長は各委員長による専門委員長会議を開催し、相互の意見を交換して各委員会の円滑な運営を図る。
専門委員長会議の議長は理事長があたる。

第８条　総務委員会は次の事項を執行する。
１．本会機関（専門委員会を除く。）の開催準備、議事録その他資料の整理保管等の事務局業務
２．本会加盟団体との連絡
３．外部団体との連絡及び接渉
４．一般会計並びに特別会計の予算、決算及び経理業務
５．本会規約及び関係規定についての研究及び改廃業務
６．被表彰者の選考並びに表彰資料の収集及び保管
７．その他各委員会に属さない事項

第９条　広報委員会は次の事項を執行する。
１．機関誌の編集及び発行
２．バドミントンに関する刊行物等情報の収集及び保管
３．報道・出版機関等へのＰＲ及び報告
４．バドミントンに関する取材及び撮影
５．その他広報に関する事項

第10条　競技委員会は次の事項を執行する。
１．競技大会の企画、準備及び開催運営
２．ランキングの決定
３．競技記録、ランキング記録、賞杯等の管理保存
４．競技に関する規定類の研究及び周知
５．用具の研究調査及び大会使用球等の決定
６．その他競技に関する事項

第11条　審判委員会は次の事項を執行する。
１．審判員組織の強化並びに審判員の養成及び技術の向上
２．審判員検定会の企画及び開催運営
３．審判に関する規定類及び諸資料の研究並びに周知
４．その他審判に関する事項

第12条　指導委員会は次の事項を執行する。
１．指導者の育成及び組織の強化
２．コーチ、トレーナー及び公認指導員の養成
３．指導用資料等の作成及び管理
４．指導に関する調査研究及び資料の収集
５．その他指導に関する事項

第13条　選手強化委員会は次の事項を執行する
１．強化選手の指定
２．強化指定選手に対する合宿、遠征、練習会等の強化活動の企画及び開催運営
３．選手強化に関する調査研究
４．その他選手強化に関する事項

第14条　委員長及び委員の任期は２年とし再任をさまたげない

第15条　本規定の改廃は理事会において定めるものとする

第16条　各委員会の運用にあたる細則は別に定める

附則　この規定は、昭和55年１月１日から施行する
附則　この規定は、平成８年１月１日から施行する

愛知県バドミントン協会登録規定

第１条　愛知県バドミントン協会（以下「本会」という。）規約第６条により本規定を定める。

第２条　各加盟団体に所属するものはその出身地、勤務先、通学先又は居住地より各加盟団体を通じて登録しなければならない。

第３条　登録は所定の書式（様式１）により登録料を添えて申し込む。

第４条　登録料は次のとおりとする
１．加盟団体分担金

愛知県実業団バドミントン連盟	400,000円
愛知県社会人バドミントン連盟	400,000円
愛知県教職員バドミントン連盟	30,000円
愛知県家庭婦人バドミントン連盟	300,000円
愛知学生バドミントン連盟	200,000円
愛知県高等学校体育連盟バドミントン専門部	400,000円
愛知県中小学校体育連盟バドミントン部	50,000円
愛知県小学生バドミントン連盟	30,000円
愛知県内市町村バドミントン協会又は連盟	10,000円

２．個人登録料

一般及び学生	（１名につき）	1,500円
高校生	（１名につき）	800円
中学生	（１名につき）	300円
小学生	（１名につき）	200円

第５条　登録は毎年これを更新するものとし、同時に二つ以上の加盟団体から登録することはできない。

第６条　登録が第２条に係る所属を変更しようとする場合は、直ちに所定の様式（様式２）に従って届出なければならない。

第７条　登録書類と登録料が本会に届けられた時をもって登録又は変更登録手続完了とみなす。

第８条　加盟団体を通じて本会へ登録したものは、その年度（４月１日から翌年３月31日まで）は本会の会員であるから、後に第６条の規定による変更する場合の登録番号は従前のままとして変更しない。

附則　この規定は昭和５５年４月１日より施行する
附則　この規定は平成８年４月１日より施行する

様式１　愛知県バドミントン協会登録申込書（略）
様式２　愛知県バドミントン協会会員所属変更届

会員名	印	登録番号	
前所属団体名 会長名	印		
新所属団体名 会長名	印		
変更理由 （具体的に記入）			
上記の理由により所属の変更をお届けします。			
平成　年　月　日	※受付　平成　年　月　日		

愛知県実業団バドミントン連盟関係

愛知県実業団バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は愛知県実業団バドミントン連盟と称し、事務所を名古屋市におく。

（組織）
第２条　本連盟は、アマチュアスポーツ競技団体の性格を有し愛知県内の官公庁及び事業所を代表するチーム（以下「加盟団体」という）をもって組織する。

第３条　本連盟は、愛知県内実業団バドミントン競技の総括団体として、愛知県バドミントントン協会及び日本実業団バドミントン連盟に加盟する。

（目的）
第４条　本連盟は、加盟団体の体位向上と相互の親睦を図り、併せてバドミントン競技の育成及び社会体育振興に寄与することを目的とする。

第５条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
１．競技の指導及び普及に関すること。
２．競技大会に関すること。
３．技術（審判技術等の研究を含む）の研究及び指導に関すること。
４．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項に関すること。

（役員）
第６条　本連盟は下記の役員をおく。
１．会長１名、副会長２名、理事長１名、副理事長２名、常務理事若干名、理事若干名、監事２名、評議員加盟団体１名
２．本連盟は必要に応じ、評議員会の議を経て、顧問及び参与をおくことができる。

（役員の任務）
第７条　会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第８条　副会長は評議員会の決議により会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第９条　理事長は理事の互選により、会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。

第10条　常務理事は理事の互選により会長が委嘱する。常務理事は常務理事会を構成し、評議員会及び理事会の委任事項を執行する。

第11条　理事は評議員会において加盟団体及び評議員会の推薦により選出し、会長が委嘱する。理事は理事会を構成し本連盟の会務を執行する。

第12条　監事は評議員会の決議を経て、会長が委嘱する。監事は会計を監査する。

第13条　評議員は加盟団体を代表し、評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する。

（任期）
第14条　役員の任期は２年とする。但し再任を妨げない。補充役員の任期は前任者の残任期間年、増員による役員についても同様とし、任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行する。

（評議員会）
第15条　評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する。評議員会は毎年１回開催する。但し会長は必要に応じ随時開催することが出来る。
評議員会は、会長、副会長、理事、監事、及び評議員で構成し、その決議は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は会長がこれを定める。

（専門委員会の設置）
第16条　本連盟は評議員会の議を経て専門委員会を設けることが出来る。専門委員会に関する規定は別に定める。

（専門委員の任務）
第17条　専門委員は本連盟の会員から会長が委嘱し、委員長は常務理事及び理事のうち会長が選出する。
委員会は招集し、それぞれの専門の事項に関し審議する。

（会計年度）
第18条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日をもって終わる。

（会計）
第19条　本連盟の経費は下記に掲げるもので至弁する。
会費、補助金、寄付金、その他の収入

（会費）
第20条　本連盟の会費は次の通りとする。
１．加盟金及び団体登録料、個人登録料
２．前項に規定する加盟金及び団体登録料、個人登録料は、別に定める登録規定によるものとする。

（規約の改訂）
第21条　この規定の改訂は、評議員会において審議し、出席者の過半数をもって改廃することが出来る。

（細則）
第22条　この規定に定めない事項及び施行に関する必要事項は理事会の議を経て細則を定めることが出来る。

（附則）
第23条　この規定は昭和54年10月28日より施行する。
平成７年４月１日より施行する。

愛知県実業団バドミントン連盟登録規定

第１条　愛知県実業団バドミントン連盟（以下「本連盟」という。）規約第20条の規定に基づき本規定に定める。

第２条　加盟手続きは本連盟が定めた様式により、加盟金及び団体登録料、個人登録料をもって本連盟に登録しなければならない。

第３条　加盟金は新たに団体加盟する１事業所につき　10,000円
団体登録料は１事業所につき　15,000円
個人登録料は１名につき　2,300円
とする。但し団体登録料及び個人登録料は毎年度更新するものとする。

第４条　加盟団体の登録は、同時に２つの都道府県実業団バドミントン連盟から登録することは出来ない。

第５条　加盟団体は第２条及び第３条の規定による手続きは、本連盟に届けられた時をもって登録手続完了とみなす。

第６条　加盟団体は、登録完了後所属を変更しようとする会員は本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない。

第７条　加盟団体は第２条及び第３条の規定のうち、追加登録に関する事項については、随時本連盟が受け付けるものとする。

第８条　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数をもって改廃する。

第９条　本規定は昭和54年10月28日より施行する。
平成４年４月１日より施行する。

愛知県実業団バドミントン連盟規約細則

第１条　愛知県実業団バドミントン連盟（以下「本連盟」という。）規約第２２条の規定に基づき本細則を定める。

第２条　本連盟に加盟団体より登録完了した後、本連盟登録規定第６条による所属の変更（選手の移籍）をする場合は、その相互事業所の代表者の承認を必要とし、その選手は本連盟が主催または主管する大会には、本連盟に選手変更届が提出され、受理された日から２年間出場停止とする。
但し相手事業所の承認が得られた場合は２年未満でも次年度からの出場は可能とする。
承認が得られた場合でも同年度は出場不可とする。

第３条　次の各項に該当するものは本連盟が主催または主管する競技会に出場することが出来ない。
１．本連盟の加盟団体のうち愛知県バドミントン協会会員登録が未完了のもの。
２．愛知県バドミントン協会に加盟支部として承認を受けた支部のうち本連盟以外の加盟支部。
３．臨時職（雇）員（アルバイト等）。
４．学生、生徒（夜間学生、生徒は除く）。
但し夜間学生については第１項及び第２項に該当する会員は除く。

第４条　本細則は昭和54年10月28日より施行する。
平成３年４月１日より施行する。

愛知県社会人バドミントン連盟関係

愛知県社会人バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は、愛知県社会人バドミントン連盟と称し、事務所を名古屋市におく。

（組織）
第２条　本連盟は、アマチュアスポーツ競技団体の主旨を遵守し、愛知県内の社会人バドミントン愛好者のチーム（以下「団体」という）及び団体を構成しない社会人である個人会員（以下「会員」という）を以って組織する。

第３条　本連盟は､県内社会人バドミントン競技の総括団体として、愛知県バドミントントン協会に加盟する。

（目的）
第４条　本連盟は、社会人の体位向上と相互の親睦を図り、併せてバドミントン競技の育成及び社会体育振興に寄与することを目的とする。

（事業）
第５条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
１．競技の指導及び普及に関すること。
２．競技大会の開催に関すること。
３．技術（審判技術等の研究を含む）の研究及び指導に関すること。
４．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項に関すること。

（役員）
第６条　本連盟は下記の役員をおく。
１．会長１名、副会長１名、理事長１名、副理事長若干名、常務理事若干名、理事若干名、監事２名、評議員加盟団体１名
２．本連盟は必要に応じ、評議員会の議決を経て、顧問及び参与を置くことができる。

（役員の任務）
第７条　会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第８条　副会長は評議員会の決議により会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

第９条　理事長・副理事長は理事の互選により、会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。理事長事故ある時は、副理事長がその職務を代理する。

第10条　常務理事は理事の互選により、会長が委嘱する。常務理事は常務理事会を構成し、評議員会及び理事会の委任事項等を審議し会務を執行する。

第11条　理事は評議員会において「団体」及び「会員」より会長が委嘱する。理事は理事会を構成し、本連盟の会務を執行する。

第12条　監事は評議員会の決議を経て会長が委嘱する。監事は会計を監査する。

第13条　評議員は団体を代表し評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する。

（任期）
第14条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。補充役員の任期は前任者の残任期間とし、増員による役員についても同様とし、任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行するものとする。

（評議員会）
第15条　評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する。
評議員会は毎年１回開催する。ただし会長は必要と認めた時は随時開催することが出来る。
評議員会は、会長、副会長、理事、監事、及び評議員で構成し、議長は会長がこれにあたる。評議員会は構成員の過半数の出席を以って成立し、決議は出席者の過半数を以って決定する。可否同数の場合は議長がこれを定める。

（専門委員会の設置）
第16条　本連盟は評議員会の議決を得て、専門委員会を設けることが出来る。専門委員会に関する規定は別に定める。

（専門委員の任務）
第17条　専門委員は本連盟の会員から会長が委嘱し、委員長は常務理事及び理事のうち会長が選出する。
委員会は委員長が招集し、それぞれ専門の事項に関し審議する。

（会計年度）
第18条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日をもって終わる。

（会計）
第19条　本連盟の経費は下記に掲げるもので支弁する。
会費、補助金、寄付金、その他の収入

（会費）
第20条　本連盟の会費は次の通りとする。
１．加盟金、「団体」登録料及び「会員」登録料
２．前項に規定する加盟金及び登録料は、別に定める登録規定によるものとする。

（規約の改定）
第21条　この規約の改正は、評議員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

（細則）
第22条　この規約に定めのない事項及び施行に関する必要な事項は、理事会の議を経て細則を定めるものとする。

（附則）
第23条　この規約は昭和54年10月28日より施行する。
この規約は昭和62年３月15日に改正し（第６条）昭和62年３月15日から施行する。
この規約は平成２年11月17日に改正（第10条、第15条）し、平成２年11月17日から施行する。

愛知県社会人バドミントン連盟登録規定

第１条　愛知県社会人バドミントン連盟（以下「本連盟」という）規約第20条の規定に基づき本規定を定める。

第２条　加盟手続きは本連盟が定めた様式により、加盟金、団体登録料及び団体を構成しない社会人である個人会員（以下「会員」という。）の登録料を以って本連盟に登録しなければならない。

第３条　加盟金は新たに団体加盟する１クラブチームにつき　2,000円
団体登録料は１クラブチーム　8,000円
会員登録料は１名につき　2,000円
とする。ただし、団体登録料及び会員登録料は毎年度更新するものとする。

第４条　加盟団体及び会員の登録は、同時に二つ以上の愛知県バドミントン協会支部加盟団体から登録することは出来ない。

第５条　登録手続は、第２条及び第３条の規定による手続きが、本連盟に届けられたときを以って登録手続完了とみなす。

第６条　加盟団体は、登録完了後所属を変更しようとする会員は、本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない。

第７条　第２条及び第３条の規定のうち、追加登録に関する事項については、随時本連盟が受け付けるものとする。

第８条　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

第９条　本規定は昭和54年10月28日より施行する。
この規定は昭和62年３月15日に改正し（第３条）昭和62年３月15日より施行する。
この規定は平成２年11月17日に改正し（第３条）平成３年４月１日から施行する。

愛知県社会人バドミントン連盟規約細則

第１条　愛知県社会人バドミントン連盟（以下「本連盟」という。）規約第22条の規定に基づき本細則を定める。

第２条　本連盟に加盟団体より登録完了した後、本連盟登録規定第６条による所属を変更（選手の移籍）する場合は、その相互の団体代表者の承認を必要とし、いづれの代表者の承認が得られない場合は、その選手は本連盟が主催又は主管する競技会は１年間出場停止とする。

第３条　次の各号に該当するものは本連盟が主催または主管する競技会に出場することが出来ない。
１．本連盟登録規定第５条により、登録完了者のうち愛知県バドミントン協会会員登録が未完了のもの
２．愛知県バドミントン協会に加盟支部として承認を受けた支部のうち本連盟以外の加盟支部及び会員
３．学生、生徒（夜間学生、生徒を除く）。ただし夜間学生については第１号及び第２号に該当する会員を除く。

第４条　本細則の改正は、本連盟理事会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

第５条　本細則は昭和54年10月28日より施行する。

愛知県教職員バドミントン連盟関係

愛知県教職員バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は、愛知県教職員バドミントン連盟と称し、事務局を連盟理事長在職教育機関若しくは居住宅におく。

（組織）
第２条　本連盟は、アマチュアスポーツ競技団体の性格を有し、愛知県内の各種教育機関関係バドミントン愛好者を以って組織する。

第３条　本連盟は、県内教職員バドミントン競技の統括団体として、愛知県バドミントン協会及び日本教職員バドミントン連盟に加盟する。

（目的）
第４条　本連盟は、会員相互の親睦を図り、特に教育指導者間におけるバドミントンの普及に努めると共に、社会体育振興に寄与することを目的とする。

第５条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
１．競技の指導及び普及に関すること。
２．競技大会の開催に関すること。
３．技術（審判技術等の研究を含む）の研究及び指導に関すること。
４．学生・生徒などに対する指導法の研究に関すること。
５．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項に関すること。

（役員）
第６条　本連盟に下記の役員を置く。
１．会長１名、副会長若干名、理事長１名、副理事長2名、常務理事若干名、理事若干名、監事２名、評議員若干名
２．本連盟は必要に応じ、評議員会の議決を経て、顧問及び参与を置くことが出来る。

（役員の任務）
第７条　会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第８条　副会長は評議員会の決定により会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

第９条　理事長は理事の互選により、会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け、本連盟の会務を執行する。

第10条　常務理事は理事の互選により会長が委嘱する。常務理事は常務理事会を構成し、評議員会及び理事会の委任事項を執行する。

第11条　理事は評議員会において互選し会長が委嘱する。理事は理事会を構成し、本連盟の会務を執行する。

第12条　監事は評議員会の決議を経て会長が委嘱する。監事は会計を監査する。

第13条　評議員は、評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する。

（任期）
第14条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。補充役員の任期は前任者の残任期間とし、増員による役員についても同様とし、任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行するものとする。

（評議員会）
第15条　評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する。評議員会は毎年１回開催する。ただし会長は必要に応じ随時開催することが出来る。
評議員会は、会長、副会長、理事、監事及び評議員で構成し、その決議は出席者の過半数を以って決し、可否同数の場合は議長がこれを定める。

（専門委員会の設置）
第16条　本連盟は評議員会の議決を得て、専門委員会を設けることが出来る。専門委員会に関する規定は別に定める。

（専門委員の任務）
第17条　専門委員は本連盟の会員から会長が委嘱し、委員長は常務理事及び理事のうち会長が選出する。委員会は委員長が招集し、それぞれ専門の事項に関し審議する。

（会計年度）
第18条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日をもって終わる。

（会計）
第19条　本連盟の経費は下記に掲げるもので至弁する。
会費、補助金、寄付金、その他の収入

（会費）
第20条　本連盟の会費は次の通りとする。
１．個人登録料　　3,000円
２．前項に規定する個人登録料は、別に定める登録規定によるものとする。

（規約の改定）
第21条　この規約の改正は、評議員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

（細則）
第22条　この規約に定めのない事項及び施行に関する必要な事項は、理事会の議を経て細則を定めるものとする

（附則）
第23条　この規約は昭和55年４月１日より施行する。
この規約は平成6年４月１日より施工する。
この規約は平成9年４月１日より施工する。

愛知県教職員バドミントン連盟登録規定

第１条　愛知県教職員バドミントン連盟（以下「本連盟」という。）規約第20条の規定に基づき本規定を定める。

第２条　登録手続きは本連盟が定めた様式により、個人登録料をもって本連盟に登録しなければならない。

第３条　個人登録料は下記のとおりとする。
１．本連盟個人登録料は会員１名につき　　3,000円
２．日本教職員バドミントン連盟個人登録料１名につき　2,000円とする。ただし前各号に規定する登録は毎年度更新するものとする。

第４条　第２条による会員の登録は、同時に二つ以上の愛知県バドミントン協会支部加盟団体から登録することは出来ない。

第５条　登録手続は、第２条及び第３条の規定による手続きが、本連盟に届けられた時を以って登録手続完了とみなす。

第６条　本連盟の登録手続完了後、愛知県バドミントン協会支部加盟団体の所属を変更しようとする会員は、本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない。

第７条　第２条及び第３条の規定のうち、追加登録に関する事項については、随時本連盟が受け付けるものとする。

第８条　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

第９条　本規定は昭和55年４月１日より施行する。
本規定は平成9年４月１日より施工する。

愛知県教職員バドミントン連盟規約細則

第１条　愛知県教職員バドミントン連盟（以下「本連盟」という。）規約第22条の規定に基づき本細則を定める。

第２条　本連盟に会員登録完了した後、本連盟登録規定第６条による所属を変更しようとする場合、その相互の支部加盟団体代表者の承認を必要とし、いづれの代表者の承認が得られない場合は、その選手は本連盟が主催又は主管する競技会は１年間出場停止とする。

第３条　次の各項に該当するものは本連盟が主催または主管する競技会に出場することが出来ない。
１．本連盟登録規定第５条により、登録完了者のうち愛知県バドミントン協会会員登録が未完了のもの
２．愛知県バドミントン協会に加盟支部として承認を受けた支部のうち本連盟以外の加盟支部及び会員

第４条　本細則の改正は、本連盟理事会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る。

第５条　本細則は昭和55年４月１日より施行する。

愛知県家庭婦人バドミントン連盟関係

愛知県家庭婦人バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は、愛知県家庭婦人バドミントン連盟（以下「本連盟」という）と称し、事務所を理事長宅に置く。

（組織）
第２条　本連盟は、アマチュア・スポーツ競技団体の性格を有し、愛知県内家庭婦人バドミントン愛好者によって構成された市町村単位による団体（以下団体という）を以って組織する。

第３条　本連盟は、県内家庭婦人バドミントン競技の統括団体として、愛知県バドミントン協会に加盟する。

（目的）
第４条　本連盟は、バドミントンを通じて明るい家庭づくりに必要な健康と身体づくりと相互の親睦から生み出される豊かな心づくりを推し、県民生活の向上及び社会体育に寄与することを目的とする。

（事業）
第５条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
1．競技大会の開催に関すること。
2．競技の指導及び普及に関すること。
3．技術（審判技術等の研究を含む）の研究及び指導に関すること。
4．地域間の交流及び地域の組織育成に関すること。
5．その他本連盟目的を達成するに必要な事項に関すること。

（役員）
第６条　本連盟に下記の役員を置く。
1．会長１名副会長１名理事長１名副理事長若干名理事若干名監事２名評議員団体１名
2．本連盟は必要に応じ、評議員会の議を経て、顧問及び参与を置くことができる。

（役員の任務）
第７条　会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第８条　副会長は評議員の決議により会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第９条　理事長は理事の互選により会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。

第10条　副理事長は理事の互選により会長が委嘱する。副理事長は理事長を補佐し、理事長事故ある時はその職務を代行する。

第11条　理事は評議員会において団体より選出し会長が委嘱する。理事は理事会を構成し、本連盟の会務を執行する。

第12条　監事は評議員の議決を経て会長が委嘱する。監事は会計を監査する

第13条　評議員は本連盟の会員であり団体を代表し評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する

（任期）
第14条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。補充役員に任期は前任者の残任期間とし、増員による役員についても同様とし、任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行するものとする

（評議員会）
第15条　評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する。評議員会は毎年１回開催する。ただし会長は必要に応じ随時開催することができる
評議員会は、会長、副会長、理事、監事及び評議員で構成し、その決議は出席者の過半数を以って決し、可否同数の場合は会長がこれを定める

（専門部の設置）
第16条　本連盟は、評議員会の議を得て専門部を設けることができる。専門部に関する規定は別に定める

（専門委員の任務）
第17条　専門委員は、本連盟の会員から会長が委嘱し、部長は理事のうち会長が選出する。専門部は部長が招集し、それぞれの事項に関し審議する

（会計年度）
第18条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日をもって終わる。

（会計）
第19条　本連盟の経費は下記に掲げるもので支弁する
１会費２補助金３寄付金４その他の収入

（会費）
第20条本連盟の会費は下記のとおりとする。
1．個人登録料
2．前項に規定する個人登録料は、別に定める登録規定によるものとする。

（規約の改正）
第21条　この規約の改正は、評議員会において審議し出席者の過半数を以って改廃することができる。

（細則）
第22条　この規約に定めのない事項及び施行に関する必要な事項は、役員会の議を経て細則を定めるものとする。

（附則）
第23条　この規約は昭和54年10月10日より施行する

愛知県家庭婦人バドミントン連盟登録規定

第１条　愛知県家庭婦人バドミントン連盟（以下「本連盟」という）規約第20条の規定に基づき本規定を定める

第２条　登録手続きは、県内市町村単位によって構成された団体の会員を対象とし、本連盟が定めた様式により、個人登録料を以って本連盟に登録しなければならない

第３条　個人登録料は、団体に所属する会員１名につき500円とする。ただし、個人登録料は毎年度更新するものとする

第４条　第２条に規定する団体の会員の登録は、同時に二つ以上の団体から登録することは出来ない

第５条　団体は、第２条及び第３条の規定による手続きが、本連盟に届けられたときを以って登録手続完了とみなす

第６条　団体は、登録完了後所属を変更しようとする会員があれば、本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない

第７条　第２条及び第３条の規定のうち、追加登録に関する事項については、随時本連盟が受け付けるものとする

第８条　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することが出来る

第９条　本規定は昭和54年10月10日より施行する

愛知県家庭婦人バドミントン連盟規約細則

第１条　愛知県家庭婦人バドミントン連盟（以下「本連盟」という）規約第22条の規定に基づき細則を定める

第２条　本連盟に加盟する団体の会員の資格（家庭婦人の定義）は、年齢を問わず既婚している婦人を対象とする

第３条　本連盟に団体より登録完了した後、本連盟登録規定第６条による、所属の変更（会員の移籍）する場合、その相互の団体の代表者の承諾を必要とし、いづれの代表者の承認が得られない場合は、その会員は本連盟が主催または主管する競技会に１年間出場停止とする

第４条　登録した会員が、本連盟の活動に反する行動を行ったと役員会が判断した場合、大会出場停止、あるいは除名とする

第５条　本連盟に加盟する団体の会員は、原則として愛知県バドミントン協会会員登録するものとする

第６条　本連盟登録規定に定められた以外の団体及び団体を構成しない会員は、本連盟が主催または主管する競技会に参加することができない

第７条　本細則の改正は、本連盟役員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することができる

第８条　本細則は昭和54年10月10日から施行する

第９条　本細則は平成７年１月１日一部改正する

愛知学生バドミントン連盟関係

中部学生バドミントン連盟規約

第１章　名称組織及び本部

第１条　本連盟は、中部学生バドミントン連盟と称する。

第２条　本連盟は、中部学生バドミントン連盟（以下中部学連と称する）全加盟校を以って組織する。

第３条　本連盟は、本部を中部学連委員長宅に置く。

第４条　本連盟は、全日本学生バドミントン競技団体として、財団法人日本バドミントン協会に加盟する。

第２章　目的

第５条　本連盟は、中部地区に於ける学生バドミントン競技を総括代表し、それを通じて学生体位の向上を図り、運動精神の培養を期し、学生相互の連絡融和を図り、以って日本学生のバドミントン競技を向上発展せしめることを目的とする。

第３章　中部学連の組織及び資格

第６条　中部学連は、必要に応じて地区学連支部を設けることが出来、その名称は地名を挟んで中部学生バドミントン連盟何々支部とする。但しこの設置については、当該地区学連の承認を必要とし、地区学連はその旨を直ちに本部へ届け出ねばならないこととする。

第７条　本連盟は、各支部学生バドミントン連盟競技総括代表として学連の名称は、冒頭に地区名を冠して中部学生バドミントン連盟東海支部、中部学生バドミントン連盟北信越支部とする。

第８条　本学連及び本学連支部の規約に関しては、各地区学連に於いてこれを定め、本部の承認を必要とする

第９条　各地区学連の地区割は、次の県別とする。
北海道地区学連＝北海道全域
東北地区学連＝青森、岩手、宮城、山形、秋田、福島
関東地区学連＝東京、神奈川、茨城、群馬、埼玉、千葉、栃木、山梨
中部地区学連＝新潟、長野、富山、石川、福井、静岡、愛知、岐阜、三重
北信越支部＝新潟、長野、富山、石川、福井
東海支部＝静岡、愛知、岐阜、三重
関西地区学連＝京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、滋賀
中・四国地区学連＝鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州地区学連＝福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

第10条　各地区学連に加入出来得る団体は、文部省令による大学及び短期大学（以下大学と称する）、但し通信課程の学生を除くものとする。

第４章　役員

第11条　本連盟には、次の役員を置く。

１．会	長	１名
２．副 会	長	３名以内
３．委 員	長	１名
４．副委員長		２名
５．常任委員		若干名
６．委	員	若干名
７．会	計	１名
８．会計監査		１名

第12条　会長は、役員総会に於いて推薦し、本連盟を代表して、会務を総理する

第13条　副会長は、役員総会の推薦により会長がこれを委嘱する。

第14条　委員長は、常任委員が互選し、役員総会の承認を得て本連盟を総括する

第15条　副委員長は、委員長の決定後に常任委員が互選し、委員長を補佐する　委員長事故ある時は、副委員長がこれを代行する　但し委員長の所属する大学より副委員長を選出することはできない

第16条　副委員長事故ある時は、当該者所属地区の常任委員が、常任委員会の承認を得ればその職務を代行することができる。

第17条　本連盟の会計及び会計監査は、本部所在地学連より常任委員が互選する。

第18条　常任委員は、次の如く置く。

本学連委員長	１名
本部所在地	若干名
その他地区	若干名

常任委員は、本連盟の常務を掌握し、本部と本学連の連務にあたる。本部常任委員は、委員長を補佐し本部の諸務を担当する。次期大会開催地区の常任委員は、次期大会に関する諸務及び常任委員会を担当する。

第19条　委員は、各加盟大学において１名推薦する。

第20条　委員長及び副委員長の選出された大学は、直ちに欠員を補充する。

第21条　財団法人日本バドミントン協会の理事、代議員及び専門委員となる代表は、常任委員会において委員長・副委員長・常任委員及び委員の中から推薦する。委員が推薦された場合は、常任委員としての資格が与えられるものとする。

第22条　役員の任期満了に於いては、その後任者の就任するまで、前任者においてその職務を行うものとする。

第23条　役員の任期は、１年とする。但し再選を妨げない。

第24条　本連盟は必要に応じて常任委員会の議を経て、名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。

第５章　会議

第25条　本連盟には、次の機関を置く。
１．役員総会
２．常任委員会
３．各地区委員長会議

第26条　役員総会は、会長・副会長・委員長・副委員長・常任委員・委員を以って構成し、次の事項を審議し、加盟大学相互の親睦を図る。
１．事業並収支決算報告
２．予算編成並事業計画
３．規約の変更
４．その他

第27条　役員総会（定例及び臨時）は、会長がこれを招集する。

第28条　役員総会は、議決権を有する役員の３分の１をもって成立する。

第29条　役員総会は、本連盟の最高議決機関であり、役員の３分の１以上の要求ある時開かねばならない。

第30条　常任委員会は、委員長・副委員長・会計・会計監査を以って構成し、本連盟の事業運営の任にあたる。

第31条　各地区委員長会議は、委員長・副委員長・会計・会計監査及びそれに準ずるものを以って構成する。

第32条　各地区委員長会議は、本部または各支部の養成に基づいて委員長がこれを招集し、第26条の第１項より第４項に該当する諸要件を審議する。当会議の決議事項（規約改正を除く）葉、当連盟の目的達成の最高指針とする。

第33条　総べて議決は、過半数の同意を要する。

第34条　総べての会議に於ける委員の代理は、これを認める。この場合は、該当委員の委任状を要する。

第６章　行事

第35条　本連盟は、第５条の目的を達成する為、次の行事を行う。
１．全日本学生バドミントン選手権大会
２．全日本学生バドミントン東西対抗競技会
３．西日本学生バドミントン選手権大会
４．中部学生バドミントン選手権大会
５．その他本連盟の目的達成に必要な行事

第36条　各地区学連内の行事に関しては、当該支部学連の責任者が、直ちにその結果を本部に連絡せねばならない。

第７章　登録

第37条　本学連は、毎年年度頭初に、本部の定めるところの用紙にて、本学連加盟各大学名簿及び学連加盟申請書を調製し、本部に連絡しなければならない。名簿には、大学名・所在地・委員住所・氏名・性別・年齢・学年・入学年度等が記入されていなければならない。

第38条　登録単位に於いては、大学の独立した部活動を１単位とする。

第39条　登録後に異動がある場合、当該地区学連は、遅滞なく本部に届け出ねばならない。

第40条　但し男女ある場合は、別個の登録単位とする。

第41条　本学連に登録した大学及び個人は、必ず全日本学生バドミントン連盟に登録せねばならない。

第42条　本連盟への登録年数は、加盟校に入学した入学年度から継続した４年間（短大は２年間、医学部は６年間）とする。

第43条　但し一旦大学を中退し同大学へ再入学、又は他大学へ編入、入学した場合は、常任委員会・委員長会議に於いて当該登録選手を調査審議の上、これを決定する

第44条　本連盟の主催及び主管する大会は、日本国で出生し引き続き国内に居住している者とする。

第45条　次の各項に該当する登録選手は、学生選手の資格に則り本連盟主催の競技に出場することができない。
１．本連盟登録選手にして、一旦大学及び短大を卒業した者。但し短大より同校上級大学へ編入する者に限り卒業として取り扱わない（残り年数は２年とする）。
２．いかなる理由によらず停学謹慎中の者。
３．聴講生・研究生・通信生・大学院生・インターン

第46条　本連盟主催大会においては、留学生の出場について次のように規定する。
１．個人戦に関しては、規制を設けない。
２．団体戦に関しては、一試合につき一人のみ認める。（メンバー登録の人数制限はしない。）

第８章　経費及び会計

第47条　本連盟の経費は、連盟寄付金、その他適当な収入を持って支弁する。

第48条　本連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり３月31日を以って終了する。

第49条　本連盟の連盟会費は、１加盟単位につき年額8,000円とする。

第50条　連盟費は、各支部学連が一括して、登録と同時にこれを納めねばならない。

第９章　罰則

第51条　本連盟の定めたところの事項に反したる時は、本連盟及び該当支部学連に対する一切の権利を失う。但し罰則を適応される時期は、登録年数からこの期間を差し引くものとする

第52条　本連盟員で学生としての本文に反したるものは、役員総会の審議により処罰する。

第10章　規約変更

第53条　規約変更は、常任委員会・委員長会議に於いて審議し、総会においてこれを承認する。但し常任員会・委員長会議に於ける決定事項に関しては、総会までの間暫定的に効力を持つこととする

第11章　附則

第54条　１．この規約は、昭和４１年４月１日より発効する
２．この規約の一部改正は、平成２年４月１日より施行する
３．この規約は、平成２年６月１日より施行する
４．この規約の一部改正は平成９年４月１日より施行する

中部学生バドミントン連盟東海支部規約

第１章　名称組織及び本部

第１条　本連盟は中部学生バドミントン連盟東海支部と称す。

第２条　中部学生バドミントン連盟東海支部（東海支部と称する）は中部学生バドミントン連盟加盟校（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）を以って組織する。

第３条　本連盟は、本部を愛知県内（東海支部委員長宅）に置く。

第４条　本連盟は全日本学生バドミントン競技の団体として、財団法人日本バドミントン協会に加盟する。

第２章　目的及び事業

第５条　本連盟は東海学生団体の中枢機関となりバドミントンの健全なる普及発展を図り、併せて学生体位の向上並びに運動精神の培養を期し学生間の親善に寄与するを目的としている。

第６条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
１．東海大学バドミントン選手権大会
２．東海学生バドミントン選手権大会
３．東海学生新人バドミントン選手権大会
４．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項

第３章　経費及び会計

第７条　本連盟の経費は登録費、寄付金、補助金その他の収入をもってこれに充つ（登録の額については別に定める）

第８条　本連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり３月31日を以って終了する。

第４章　役員

第９条　本連盟は下記の役員を置く。
１．会長１名　　４．会計委員１名ないし２名
２．委員長１名　　５．委員各校１名ないし２名
３．副委員長２名　　６．監事１名

第10条　会長は委員会において推薦する。

第11条　会長は本連盟を統括する。

第12条　委員長は委員会に於いて互選し、会長はこれを任命する。

第13条　副委員長２名は委員会に於いて互選し、会長はこれを任命する

第14条　委員は各加盟大学に於いて１名ないし２名推薦してその任務に当たる。

第15条　委員長は本連盟を代表し、事務を司る。

第16条　副委員長は委員長を補佐し、委員長の事故ある時はその職務を代行する。

第17条　会計委員、監事は会長が任命する。

第18条　役員の任期は１年とする。但し再任を妨げない。

第19条　本連盟は必要に応じて委員会の議決を経て顧問及び参与をおくことができる。

第５章　機関

第20条　委員会は会長、委員長、副委員長、各委員、会計委員、監事、顧問及び参与をもって構成し、最高議決機関とする。

第21条　委員会は下の職務を遂行する。
１．事務並びに収支決算報告　　３．規約の改正
２．予算編成並びに事業計画　　４．その他

第22条　委員会は必要により会長又は委員長が招集する。

第23条　本連盟の機関は構成員の３分の１以上の出席をもって構成し、その決議は出席者の３分の１以上の賛成を必要とし、可否同数の場合は議長がこれを決する

第６章　加盟及び登録

第24条　本連盟に加盟せんとするものは所属団体別に所属者の登録を要する。登録名簿には大学所在地、主将、住所、氏名、年齢、学年度、生年月日が記入されていなければならない

第25条　登録は毎年始めに行い、変更のある時は追時届出を要する。

第26条　登録単位は各大学を１単位とし男女それぞれ別個の登録名簿を作成する。

第27条　本連盟に登録し正規の在学年度にある者（医学部は６年以内）は本連盟の主催する競技会に参加することができる。

第７章　記録

第28条　本連盟は次の書類並びに記録を作成する。
1．委員会に関する議事録
2．予算及び決算書
3．毎年度における登録団体名簿、役員名簿及び会員名簿
4．本連盟主催の各種大会の競技記録
5．その他本連盟に必要な記録

第８章　附則

第29条　1．この規約は昭和49年４月１日より施行されたものを一部改正し昭和55年４月１日より有効とする。
2．この規約は平成９年４月１日に改正し、平成９年４月１日より有効とする。

愛知学生バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は愛知学生バドミントン連盟と称し、事務所を愛知県内に置くものとする。

（組織）
第２条　本連盟は愛知県内の大学及び短期大学の学生バドミントン団体を以って組織する。

（目的）
第３条　本連盟は加盟団体の学生相互の理解と親睦を深め、併せてバドミントンの普及ならびに発展と技術向上を目的とする。

（事業）
第４条　本連盟は前条の目的を達成するため、以下の事業を行う。
1．競技大会に関すること。
2．愛知県バドミントン協会への加盟。
3．その他本連盟の目的を達成するために必要な事業。

（役員）
第５条　本連盟は下記の役員を置く。
1．会　長　　１　名
2．委員長　　１　名
3．副委員長　若干名
4．委　員　　若干名
5．会　計　　１　名
上記役員以外に委員会の議を経て顧問・参与を置くことができる。

（役員の任務）
第６条　会長は委員会の議を経て決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第７条　委員長、副委員長は委員の互選により会長が委嘱する。委員長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。委員長事故ある時は、副委員長がその職務を代理する。

第８条　委員は加盟団体より選出した者及び委員会の推薦により会長が委嘱した者とする。委員は委員会を構成し本連盟の運営を行うものとする。

第９条　会計は委員の互選により会長が委嘱する者とし、本連盟の会計を司る。

（委員会）
第10条　本連盟の運営を円滑にするため委員会を置く。委員会は委員長・副委員長・委員・会計を以って構成し、必要に応じて委員長がこれを召集する。委員会の議長は委員長があたり、委員の３分の２以上の出席を以って成立し、議決は出席者の過半数によるものとする。

第11条　委員会は以下の事項を審議決定する。
1．事業の企画・運営・実施
2．予算・決算
3．その他本連盟に必要な事項

（記録）
第12条　本連盟において以下の書類ならびに記録を作成する。
1．委員会に関する議事録
2．役員名簿
3．予算及び決算書
4．加盟大学名簿及び競技記録
5．その他本連盟に必要な記録

（任期）
第13条　役員の任期は１年とする。但し再任を妨げない。補充役員の任期は前任者の残任期間とし、任期が終了しても後任者が就任するまでは職務を遂行するものとする。

（加盟・登録・脱退）
第14条　本連盟に加盟または脱退しようとする団体は、委員会において承認をうけるものとする。本連盟に加盟する団体は、所定の手続きに従い申し込むものとする。

第15条　本連盟に加盟した団体は、加盟手続き及び会員登録を毎年４月末日までに完了しなければならない。

第16条　本連盟の登録年数は、入学した年度から継続した４年間（短大は２年間、医学部は６年間）とする。但し短期大学より同校の上位大学への編入となる場合に限り、登録年数を２年間延長できるものとする。

（会計）
第17条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日を以って終わる。

（会費）
第18条　本連盟の経費は、個人登録料、その他正当な収入を以って支弁する。

第19条　本連盟の会費は以下の通りとする。
会　費　　個人登録料　　1,500円

（規約の改正）
第20条　本連盟の規約の改正は、委員会において審議し、出席者の過半数を以って改廃することができる。

（細則）
第21条　規約の施行に関する必要な事項の細則は、委員会の議を経て会長がこれを定める。

（附則）
第22条　1．この規約は、昭和55年４月１日より施行する。昭和49年４月１日施行の愛知学生バドミントン連盟規約は、この規約の施行に伴い廃止する。
2．この規約は、平成９年４月１日に改正し、平成９年４月１日より施行する。

愛知小学生バドミントン連盟関係

愛知県小学生バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は、愛知県小学生バドミントン連盟と称し、事務所を愛知県に置く。

（組織）
第２条　１．本連盟は、県内小学生バドミントン競技団体及び個人をもって組織する。
運営は指導者があたる。
２．指導者とは、団体の指導者及び本連盟の理事会で認めたものとする。

第３条　本連盟は、県内小学生バドミントン競技の総括団体として、愛知県バドミントントン協会に加盟する。

（目的）
第４条　本連盟は、県内小学生バドミントンの中枢期間となりバドミントンの健全な普及と振興を図り、小学生の健康増進及び体力向上とスポーツ精神の高揚を目指すと共に相互の親睦に寄与することを目的とする。

（事業）
第５条　本連盟は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。
１．競技の指導及び普及に関する事。
２．競技大会の開催に関する事。
３．技術（審判技術等の研究を含む）の研究及び指導に関する事。
４．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項に関する事。

（役員）
第６条　本連盟に下記の役員をおく。
１．会長１名。副会長若干名。理事長１名。副理事長若干名。理事若干名。監事２名。評議員各加盟団体１名。
２．本連盟は、必要に応じ評議員会の議を経て、顧問及び参与を置くことができる。

（役員の任務）
第７条　会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統括する。

第８条　副会長は評議員会の決議により会長が委嘱する。副会長は、会長を補佐し会長事故あるときはその職務を代理する。

第９条　理事長、副理事長は、理事の互選により会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。理事長事故あるときは、副理事長がその職務を代理する。

第10条　理事は、評議員会に於いて加盟団体より選出し会長が委嘱する。理事は理事会を構成し本連盟の会務を執行する。

第11条　監事は、評議員会の決議を経て会長が委嘱する。監事は会計を監査する。

第12条　評議員は、加盟団体を代表し評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する

（任期）
第13条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。補充役員の任期は、前任者の残任期間とし、増員による役員についても同様とする。任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行するものとする

（評議員会）
第14条　１．評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する
２．評議員会は毎年１回開催する。ただし会長は必要に応じ随時開催することが出来る
３．評議員会は、会長、副会長、理事、監事、及び評議員で構成し、その決議は出席者の過半数を以って決し、可否同数の場合は議長がこれを定める

（専門委員会の設置）
第15条　１．本連盟は、評議員会の議を経て、専門委員会を設けることが出来る
２．専門委員会に関する規定は別に定める

（専門委員の任務）
第16条　１．専門委員は、本連盟の会員から会長が委嘱し、委員長は理事のうちから会長が選出する。
２．委員会は、委員長が招集し、それぞれ専門の事項に関し審議する。

（会計年度）
第17条　本連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日をもって終わる。

（会計）
第18条　本連盟の経費は下記に掲げるもので至弁する。
会費、補助金、寄付金、その他の収入

（会費）
第19条　本連盟の会費は、次の通りとする。
１．団体登録料及び個人登録料
２．前項に規定する団体登録料及び個人登録料は、別に定める登録規定によるものとする。

（規約の改定）
第20条　この規約の改正は、評議員会において審議し、出席者の過半数をもって改廃することが出来る。

（細則）
第21条　この規約に定めのない事項及び施行に関する必要な事項は、理事会の議を経て細則を定めるものとする

（附則）
１．　この規約は平成９年４月１日より施行する。

愛知県小学生バドミントン連盟登録規定

第１条　愛知県小学生バドミントン連盟（以下「本連盟」という）規約第19条の規定に基づき本規定を定める。

第２条　加盟手続きは本連盟が定めた様式により、団体登録料又は個人登録料をもって登録しなければならない。

第３条　団体登録料は、１団体につき　2,000円
個人登録料は、１人　200円
とする。ただし、各登録料は、毎年度更新するものとする。

第４条　団体、個人の登録は、同時に二つ以上の都道府県又は二つ以上の団体から登録することは出来ない。

第５条　団体及び個人は、第２条及び第３条の規定に従って本連盟に届けられた時をもって登録手続完了とみなす。

第６条　登録完了後、所属を変更しようとする会員は、本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない

第７条　追加登録については、第２条及び第３条の規定に従って手続きすれば随時本連盟が受け付けるものとする。

第８条　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数をもって改廃することが出来る

附　則　１．本規定は平成９年４月１日より施行する。

50年誌賛助会員芳名録

愛知県バドミントン協会関係

後藤 淳	渡辺成雄	野口 勇	青山敏郎	伊藤鑛一	目崎久男
上原信彦	油井秀男	山田順一郎	伊藤一夫	山口武満	山本卓男
鈴木勝美	清水善勝	武田正雄	松島 保	原 賢一	下込貞司
佐藤荘二	飯村順一	鈴木正一	細野節子	大野敏子	中澤 誠
佐藤泰理	井上 龍	朝倉康善	岩田 崇	山田 薫	天埜良彦
武藤要介	水谷 淳	石川憲市	恵木康行	安藤健次	田立昌人
池田藤代	森 勝博	中野正紀	小澤靖彦	池田茂樹	

愛知県実業団バドミントン連盟関係

深津 豊	速水正昭	多賀純一	伊藤正昭	沢田正夫	曽我信重
鈴木欣老	清水 尚	飯見隆治	吉川寿春	竹下輝雄	日比野伸昭
磯野雄二	峰 登志郎	早川満志	天野良彦	青山忠雄	小川雄一郎
平野博久					

愛三工業(株)
アイシン精機(株)
愛知製鋼(株)
(株)ＩＮＡＸ
王子製紙(株)春日井工場
神鋼電機(株)豊橋事業所
住友重機械(株)名古屋製造所
大同特殊鋼(株)
中部電力(株)武豊火力発電所
東海興業(株)
豊田工機(株)
トヨタ自動車(株)
(株)豊田自動織機製作所
豊田通商(株)
名古屋市水道局
名古屋鉄道(株)
(株)デンソー西尾製作所
ブラザー工業(株)
松下電工(株)瀬戸工場
三菱自動車工業(株)名古屋自動車製作所岡崎工場
三菱重工業(株)名古屋機器製作所
三菱電機(株)稲沢製作所
三菱レイヨン(株)豊橋事業所
名鉄住商工業(株)

アイシン化工(株)
愛知県庁
アラコ(株)
日本電信電話(株)東海支社
(株)沖テック
新日本製鐵(株)名古屋製鐵所
(株)日本自動車部品総合研究所
瀧上工業(株)
中部電力(株)
東海郵政局
豊田合成(株)
トヨタ車体(株)
(株)豊田自動織機製作所長草工場
豊田紡織(株)
名古屋市役所
(株)デンソー
(株)日立製作所情報機器事業部
豊和工業(株)
三菱自動車工業(株)名古屋自動車製作所
三菱重工業(株)エアコン製作所
三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所
三菱電機(株)名古屋製作所
名古屋工業大学

愛知県社会人バドミントン連盟関係

水野啓造	森 大介	増田博康	野中孝明	本城幹康	高橋久登
平山忠利	佐藤淑子	中村伊佐夫	榊原不二夫	加藤貴敏	毛利光一

松岡 保　久田吉孝　鈴木明美　西尾昌実　横野公一　富田義彦
中村和代　土本真理子　鈴木 勇　勝村寿男　荒川司郎

ACROSS　BSモリタ　BULL DOG
Cuckoo愛知B.F.　Fire Bird　GOLD
JUPITER　LASREクラブ　Oh My Gut
PANICクラブ　R.H.B.T.　RSノナカ
SETOMINTON　WEST WING　Wing BC
アイシン・エーアイ　アイシンAW　愛大クラブ
アンデンB.C.　岩倉パラレル　ウィスタリアB･C･
笈瀬B.C.　上前津クラブ　川鉄クラブ
木曽川エースBC　貴船B.C.　岐大B.C.
グリーンクラブ　クリプト　呉越同舟クラブ
黄金クラブ　コックメイト　小牧BC
さおりB.C　師勝B.C.　紫電会
シャトルまかせ　シャトルメイツ　振甫B.C.
49'S　スペースシャトル　大成いきいきクラブ
大門B.C　高蔵クラブ　堤B.C.
天白シャトル　東海クラブ　東海シャトルズ
豊明B･C　豊橋トレセン　中川シャトル
名古屋北クラブ　パイレーツ　パープルB.P.
ハネツキ会　原山クラブ　はりー・あっぷ
ひいらぎB.C.　フェニックス　フライト
フレスカ　ブッチャーズ　不老クラブ
ブンブンズ　ポリマーズ　瑞穂クラブ
南陽BC　南B.C.　名港クラブ
モンテカルロ　矢田スポーツクラブ　大和撫子
ヤングシルバー　横須賀クラブ　ラケットメイトクラブ

愛知県教職員バドミントン連盟
愛知県高等学校体育連盟バドミントン部
愛知県中小学校体育連盟バドミントン部関係

伊藤芳樹　樫本祥二　亀井 勇　上島昌之　平岩友憲　本道和正
横田徹也　田中章裕　鈴木敏夫　向坂健二　鈴木洋子　都築信義
岩田英嗣　森下 一義　大川利哉　浅井真司　田村高浩　加藤良一
服部 豊　木村 寿　青井廣光　秦 信昭

愛知県家庭婦人バドミントン連盟関係

尾崎すなほ　堀尾恵美子　戸田真澄　深見やす子　青木初代　岡島道子
坂井祥子　田中陽子　太田礼子　真野洋子　野中恵美子　斉藤美智子
大森久仁子　道家 幸　大畑弘子　秋田育子　鎌田悦子　浅沼都紀子
小山喜美子　下河原洋子　伊与田照子　億田幸子

名古屋市家庭婦人バドミントン連絡協議会　一宮市家庭婦人バドミントン連盟
犬山家庭婦人バドミントン連盟　江南市家庭婦人バドミントン連盟
岩倉市バドミントン協会　尾西市バドミントン協会 家庭婦人の部

稲沢市バドミントン協会
大口町家庭婦人バドミントンクラブ
七宝バドミントンクラブ
弥富町バドミントンクラブ
祖父江バドミントンクラブ
東海市バドミントン協会家庭婦人の部
知多市バドミントン協会家庭婦人の部
半田市レディースバドミントン同好会
東浦レデースバドミントン同好会
瀬戸市バドミントン連盟家庭婦人の部
小牧市バドミントン協会家庭婦人の部
日進市家庭婦人バドミントン連盟
師勝バドミントン協会
東郷町家庭婦人バドミントン連盟
豊橋市バドミントンクラブ
蒲郡家庭婦人バドミントン連盟
豊田市家庭婦人バドミントン連盟
碧南市バドミントン協会家庭婦人クラブ
知立市体育協会バドミントン部
名古屋市熱田バドミントンレディース
名古屋市天白バドミントンクラブ
津島市家庭婦人バドミントンクラブ
扶桑町体育協会バドミントン部
甚目寺町バドミントン協会
大治町バドミントンクラブ
木曽川ユーバークラブ
大府市バドミントン連盟家庭婦人の部
豊明市家庭婦人バドミントン同好会
武豊バドミントンクラブ
美浜町グリーンシャトル
春日井市バドミントン連盟家庭婦人の部
尾張旭市バドミントン連盟婦人の部
西枇杷島町婦人バドミントンクラブ
西春町体育協会バドミントン部
長久手町体育協会バドミントン部
岡崎市家庭婦人バドミントン連盟
刈谷市バドミントン連盟家庭婦人の部
西尾市家庭婦人バドミントンクラブ
安城市家庭婦人バドミントン連絡協議会
名古屋市ＮＳＣバドミントンクラブ
名古屋市守山バドミントンクラブ
春日町家庭婦人バドミントンクラブ

愛知学生バドミントン連盟関係

清水勇貴　井沢智　小木猛志　寺崎龍典　神園和博　大塚智子
野地香苗　長谷川容子　愛知大学　愛知学院大学　愛知学泉大学　愛知教育大学
愛知県立大学　愛知工業大学　愛知産業大学　愛知淑徳大学　愛知女子短期大学　愛知みずほ大学
市邨学園大学　岡崎女子短期大学　金城学院大学　椙山女学園大学　大同工業大学　中京大学
中京女子大学　中部大学　東海学園大学　東海学園女子短期大学　同朋大学　豊橋創造大学
名古屋大学　名古屋外国語大学　名古屋学院大学　名古屋経済大学　名古屋工業大学　名古屋商科大学
名古屋市立大学　南山大学　日本福祉大学　名城大学

メーカー・スポーツ店・その他の関係(アイウエオ順)

イノコ㈱　㈱ゴーセン　㈱大洋プリント　中日本印刷㈱
ノナカスポーツ㈱　はりーあっぷ　ヒロウンスポーツ　フライトスポーツ
ブリヂストンスポーツ㈱　ミズノスポーツ㈱　モリタスポーツ　ヨネックス㈱
ラケットハウスヒシダ

あ と が き

50年という長い期間について、そのときそのときの選手、役員の情熱と努力をなんとかまとめることができ、また、過去、20周年、30周年では編纂委員会まで設けながら発行にいたらなかった記念誌を完成させることができて本当に良かったと思っております。しかし、反面、資料はまだまだ眠っているものが多いのではないか、構成の仕方にもっと工夫があったのでは、内容的に突っ込み不足ではないか、統一した表現になっていないのではないか等々、これで良かったかという気持もあり複雑な心境にあるのが実感です。

振り返ってみますと、この50年誌に取り組んでから発行にいたるまで３年余りかかりました。平成６年度に大事業の「わかしゃち国体」を成功裡に開催できたことを区切りとして、７年度から役員も変わり、新体制により事業計画を検討したとき、創立50周年に当たる平成10年２月11日までには期間としては３年弱あるものの、年度でみれば７年度中に予算措置を含め構想を決定する必要に迫られました。そして、その年の10月に50周年準備委員会を設置し、今度こそは記念誌を発行することを３月の総会で決定しました。資料の収集、整理に入ったのは５月からで、６月の理事会で編纂委員会の発足、仕様、日程等を決定しました。その後、土日、夏季連休等の度に集まり作業を進めましたが、メンバーが協会の現役ばかりで、また仕事をもっている人も多く、思ったように進まず、挫折を考えたことも度々ありました。しかし、記念式典が10年11月14日に決まり、当初予定より９か月遅くなったこともあり、執念で進め、やっと、間に合わせることができました。50年とは実に長いものだとつくづく感じました。

構成は協会の活動を１年ずつ掴むことを中心にし、次に組織として縦横の関係にある専門委員会と加盟団体の活動をみるようにしました。そして、トピックス的なことは「思い出」として寄稿していただきました。ただ、資料編として設けた役員名簿、競技記録は50年すべてを集めることはできませんでした。

本県の50年の歴史では、昭和20年代と30年代後半～40年代と２度にわたり強さで、そして、50年代以降には愛好者の数で全国のトップクラスになっていますが、いずれも協会、あるいは関係団体が年月をかけての努力により成しえたものであることが痛感できました。昨今、社会情勢も大きく変化をしてきており、また、経済情勢も非常に厳しいものがありますが、本県は先輩が築いた数の上に立っての強さを実現すべく役員、そして会員が情熱をもって一歩一歩進んでいかなければと思っております。

こうした意味においてこの50年誌が本県のバドミントン競技のますますの発展に寄与することができましたら、編纂委員会メンバーの苦労は一気に喜びに変わると思っております。

最後にご多忙のなか資料を提供いただいた方々、「思い出」を寄稿していただいた方々、校正に協力していただいた方々、協賛をいただいた方々、そして、無理な日程、度々の追加、修正にも対応していただいた中日本印刷㈱に厚くお礼申し上げます。

50年誌編纂委員会　委員長　上原信彦
副委員長　鈴木正
委　員　油井秀男　山田順一郎　伊藤一夫
清水善勝　細野節子　大野敏子
多賀純一　高橋久登

資料・写真等ご提供一覧（協会関係者は除く、順不同、敬称略）

愛知県
名古屋市
大府市
刈谷市
㈶日本バドミントン協会
朝日新聞社
中日新聞社
ベースボールマガジン社
日本スポーツ新聞社
トヨタ自動車株式会社

50年誌

平成10年10月10日発行
発行／愛知県バドミントン協会
制作／株式会社中日本デザイン
印刷／中日本印刷株式会社